

三ツ木皿沼遺跡

一般国道17号(上武道路尾島境立体)改築
工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

第1分冊
《本文編》

2000

建 設 省

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

三ツ木皿沼遺跡

一般国道17号(上武道路尾島境立体)改築
工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

第1分冊
《本文編》

2000

建 設 省

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団



南東上空から見た三ツ木血沼遺跡
(ほぼ中央の道路交差点付近)



A4区1号土器埋設土坑出土の称名寺式深鉢



A6区平安時代畠の土層断面
洪水砂で埋まった畠の黒色の耕作土を掘り上げて、新しい畠の畝をつくっていた。(白線は被災した畠の畝間)



A4区107号住居状遺構出土の銅製片口鍋



2号炉 炉壁上半部(内面から)



62号住居出土羽口



2号炉 底部(内面横から)



2号炉 羽口の付着した炉壁



2号炉 底部(上から)



2号炉 椀形滓



20号住居 送風口の細い羽口



60号住居上層遺構 椀形滓

三ツ木皿沼遺跡A6区では10～11世紀に操業したとみられる鉄生産関連の炉と、廃棄物が多量に出土した。これらの遺物の観察分類や金属学的調査結果から鋼精錬操作が行われていたと推定された。

序

一般国道17号と一般国道354号バイパスが交差する上武道路尾島境立体の工事が行われることになった平成5年度に、工事区域内に埋蔵文化財が包蔵されていることが確認され、発掘調査の実施について種々協議がなされました。調査対象地域が佐波郡境町、新田郡尾島町、同新田町の三町にまたがる関係で当事業団に発掘調査が委託されました。

当事業団では、工事計画に従って平成5年度、7年度、9年度の3か年発掘調査を行いました。縄文時代から平安時代にかけての集落、古墳時代の方形周溝墓、平安時代の畠、鉄生産関連遺構等が調査され、本県東毛地域の歴史を明らかにする上で、貴重な資料を得ることができました。

発掘調査した資料は、平成10年度、今年度の2か年、報告書刊行のための整理作業を行い、この度それが終了し「三ツ木皿沼遺跡」と命名した発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

発掘調査着手から報告書刊行に至るまで、調査委託者である建設省関東地方建設局、同高崎工事事務所には大変お世話になりました。また、群馬県教育委員会文化財保護課、境町教育委員会、新田町教育委員会、尾島町教育委員会、地元関係者等にも終始御指導を賜りました。これら関係者の皆様に衷心より感謝を申し上げ、併せて本報告書が多くの方に利用、活用されることを願い、序とします。

平成12年3月24日

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長 小野 宇三郎

例 言

1. 本書は、一般国道17号（上武道路尾島境立体）改築工事に伴う三ツ木皿沼遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書の第1分冊《本文編》である。
2. 三ツ木皿沼遺跡は、新田郡新田町・尾島町、佐波郡境町の三町が接する位置にあり、新田町大字小角田287・288番地他、新田町大字下田中20・21・23番地他、尾島町大字世良田2839・2840・2841番地他、境町大字三ツ木72・74・75・76・77番地他に所在する。遺跡名は、発掘した調査区が最も広い境町大字三ツ木字皿沼の地名をとって付けた。
3. 発掘調査は、建設省・群馬県教育委員会の委託により、平成5・7・9年度の三か年次にわたって(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団が実施した。発掘調査の期間・体制は次の通りである。

	第1年次	第2年次	第3年次
期 間	平成5年4月1日～ 平成5年8月31日	平成7年12月1日～ 平成8年3月29日	平成9年4月1日～ 平成10年3月31日
常 務 理 事	中村英一	中村英一	菅野 清
事 務 局 長	近藤 功	近藤 功	原田恒弘
副 事 務 局 長			赤山容造
管 理 部 長	佐藤 勉	蜂巢 実	渡辺 健
調 査 研 究 部 長	神保侑史	神保侑史	神保侑史
庶 務 課 長	斎藤俊一	小淵 淳	小淵 淳
調 査 研 究 課 長	能登 健(第2課)	中束耕志(第4課)	能登 健(第2課)
事 務 担 当	井上 剛(経理係長) 笠原秀樹(総務係長) 国定 均(係長代理) 須田朋子(主任) 吉田有光(主任) 柳岡良宏(主任) 船津 茂 高橋定義 宮崎忠司 岡島伸昌(主事) 大沢友治(非常勤嘱託)		
事 務 補 助	並木 綾子 吉田恵子 今井もと子 松井美智代 塩浦ひろみ 内山佳子 角田みづほ 星野美智子 羽鳥京子 菅原 淑子 若田 誠 佐藤美佐子 本間久美子 狩野真子 北原かおり 安藤友美		
調 査 担 当	小島敦子(主任調査研究員) 岩崎泰一(主任調査研究員) 高島英之(調査研究員) 深沢敦仁(調査研究員) 平方篤行(調査研究員) 津島秀章(調査研究員)	洞口正史(専門員) 斎藤利昭(主任調査研究員) 廣津英一(主任調査研究員)	友廣哲也(専門員) 立澤綾子(主任調査研究員)

4. 調査資料の整理事業および報告書作成は、建設省の委託により、平成10年・11年の二か年にわたって(財)

群馬県埋蔵文化財調査事業団が実施した。整理事業・報告書作成の期間・体制は次の通りである。

	第1年次	第2年次
期 間	平成10年4月1日～ 平成11年3月31日	平成11年4月1日～ 平成11年11月30日
常 務 理 事	菅野 清	菅野 清 小野宇三郎
事 務 局 長	赤山容造	赤山容造
管 理 部 長	渡辺 健	住谷 進
調査研究部長	神保侑史(第1部)	神保侑史(第1部)
庶 務 課 長	坂本敏夫	坂本敏夫
調査研究課長	平野進一(第1課)	真下高幸(第2課)
事 務 担 当	小山建夫 笠原秀樹 須田朋子 吉田有光 大沢友治(非常勤嘱託)	柳岡良宏 岡島伸昌
	宮崎忠司	片岡徳雄
事 務 補 助	並木綾子 吉田恵子 今井もと子 若田 誠 北原かおり 狩野真子 本地友美	内山佳子 佐藤美佐子 本間久美子
整 理 担 当	洞口正史 小島敦子	小島敦子
整 理 補 助 員	小淵トモ子 金子加代 新井雅子 池田和子 新谷さか江 宇佐美征子 吉澤照恵 狩野なつ子 岸 弘子 田村恭子 田中富美子	中曾根貞子 阿久津久子

5. 本書の作成分担は次の通りである。

- 編 集 小島敦子(群馬県埋蔵文化財調査事業団主幹兼専門員)
- 本文執筆 能登 健(同 課長*第1章-1、第6章-1) 洞口正史(同 主幹兼専門員*第3章住居)
桜岡正信(同 主幹兼専門員*第6章-6) 深沢敦仁(同 主任調査研究員*第6章-4)
小島敦子(*上記他)
- 遺構写真 小島敦子 岩崎泰一(同 主幹兼専門員) 洞口正史 友廣哲也(同 主幹兼専門員)
斎藤利昭(同 主幹兼専門員) 深沢敦仁(同 調査研究員)
津島秀章(同 主任調査研究員) 立澤綾子(同 左)
高島英之(現群馬県教育委員会文化財保護課主任)
平方篤行(現藤岡市立西中学校教諭)
廣津英一(現境町立妥女小学校教諭)
- 遺物写真 佐藤元彦(群馬県埋蔵文化財調査事業団 係長代理)
- 遺物観察 縄文土器：原 雅信(同 主幹兼専門員) 縄文石器：津島秀章
中近世土器：木津博明(同 主幹兼専門員) 施釉陶器：神谷佳明(同 主幹兼専門員)
埴輪：南雲芳昭(甘楽町立福島小学校教諭) その他の遺物：小島敦子
- 金属器保存処理 関邦一(群馬県埋蔵文化財調査事業団 係長代理) 土橋まり子(同 非常勤嘱託)

小材浩一 高橋初美(同 整理補助員)

遺物実測・版下作成 左記整理補助員

6. 石材同定については、飯島静雄氏（群馬県地質研究会会員）の手を煩わせた。
土壌調査およびテフラ同定、花粉分析、¹⁴C年代測定は(株)古環境研究所に委託した。
黒曜石・胎土分析は(株)第四紀地質研究所に委託した。
鉄生産関連遺物および銅の金属学的調査は(財)岩手県文化振興事業団に委託した。
7. 発掘調査および本書の作成にあたり、下記の機関ならびに諸氏よりご助言、ご協力を得た。記して感謝の意を表したい。
(敬称略・五十音順)
建設省高崎工事事務所、群馬県教育委員会、境町教育委員会、新田町教育委員会、尾島町教育委員会
赤沼英男、新井喜昭、飯島静男、井上 巖、内山敏行、大川 清、亀田修一、河野一也、河野真理子、
菊池貴広、木下 実、小宮俊久、酒井清治、坂爪久純、杉山真二、須永光一、早田 勉、中村直美、
南雲芳昭、宮崎重雄
8. 出土遺物は一括して群馬県埋蔵文化財調査センターに保管している。









凡 例

1. 調査区域には、国家座標に基づいて4m間隔のグリッドを設定した。グリッドの原点A-0は日本平面直角座標第IV系のX=30.496km、Y=-49.580kmである。南北方向には数字、東西方向にはアルファベットを付して、南東隅の交点をそのグリッドの呼称とした。東西方向のアルファベットは、AからYまでの100mで区切り、さらに西のグリッドは2A・・・2Y、3A・・・3Y、4A・・・4Yと繰り返すようにした。南北方向の数字は1から50までの200mで区切り、1・・・50、1・・・50と繰り返した。
2. 発掘区は上武道路本線の両側に並行し、既存の道路や水路によって分断されている。発掘区の呼称は上武道路に立ち、尾島町の方を向いて左側を尾島町側からA1、A2・・・A7区、右側をB1、B2・・・B4区とした。
3. 本書における遺構番号は、整理作業時に付け替えたものがある。その対照は第4章遺構一覧表に拠られたい。
なお、発掘資料の保管にあたっては、報告書掲載遺物は報告書の名称・番号で、掲載外の遺物は調査時の遺構番号でおこなっている。
4. 遺構図中の北方位は座標北を示す。
5. 本書で使用した地図は、建設省国土地理院発行の2.5万分の1地形図「伊勢崎」「上野境」、尾島町全図(1/10000)、尾島町都市計画図(1/2500)、明治18年測量陸軍迅速測図「境町」「深谷驛」である。
6. 遺構図・遺物図の縮尺は、各図中に表示してある。また、挿図中の「L=○○m」は、断面図の水糸標高を示す。

7. 遺構図で使用したスクリーントーンは以下のとおりである。部分的に異なる場合があるが、その際はその旨凡例を示した。

 地山  焼土  灰  壁体粘土

8. 遺物実測図で使用したスクリーントーンは以下のとおりである。

土器  灰釉陶器  緑釉陶器  羽口発泡部分  羽口珪化部分
 羽口還元部分  羽口鉄滓附着部分
石器  磨り面  炭化物附着部分

9. 遺物写真図版の倍率は、土器は原則として破片は1/3、小型品は1/4、大型品は1/8に近づけるようにした。土錘は1/2とした。石器は原則として、礫は1/4、剥片石器は1/4、石鏃などの小型のものは1/1に近づけるようにした。また、部分的に特徴のある遺物については、近接写真を撮影した。

10. 第3章は以下のような点に留意して記述した。

住居は、個々の遺構ごとに記述した。位置は、その遺構が含まれるグリッドをすべて記載した。形状は、方形・長方形・隅丸方形・隅丸長方形にほぼ分類して記載した。規模は、遺構確認面での上場で長辺・短辺の長さを1/20実測原図から計測した。なお、この規模には竈の部分を含んでいない。面積は、床の面積と考え、住居の下場でプランメーター3回平均値を計測した。方位は、北方向に最も近い壁の方向を計測した。柱穴・周溝・貯蔵穴については検出できた住居のみ検出された位置・規模・遺存状態を記述した。埋没土は、埋没土の全体的傾向や特徴的な埋没土について記述した。確認最大壁高および壁の状況は確認できた壁のうち最も深いところの壁高を計測し、断面形状等の特徴を記述した。床面の状況及び床下施設等は、床面の傾斜や凹凸の有無、硬化面の残存状況を記述し、床面下層の施設があった場合はその位置・規模・遺存状態を記述した。竈は、それぞれの位置と規模を記載し、遺存状態を述べた。重複は、その有無と、重複する場合はその新旧関係を述べた。遺物と出土状況は、住居全体の遺物の出土状態と、特徴的な遺物について記述した。その他では、各住居の調査から考えられることがらがあれば記述した。また、出土遺物・重複関係等から見た遺構の時期を記載した。

土器埋設土坑、古墳や周溝墓、土器溜まり、鉄生産関連遺構は住居に準じて記述した。但し、鉄生産関連遺構は遺構全体の様相を個別遺構の記述の前に述べている。また鉄生産関連遺物の一覧表は本文と関連するので第3章に詳しく掲載した。第4章の遺物観察表には重複している。

畠は発掘区ごと・確認面ごとに平面図をつくり、付図とした。本文には検出された畠の位置や層位・畠の規模や走向・上下層との関連を記述した。

土坑は円形・楕円形・隅丸方形・長方形・不定形の5種に形態分類し、各形態ごとに発掘区順に平面図を編集した。各土坑の位置(グリッド)・形態・規模・方位等のデータは第4章の遺構一覧にまとめた。

溝は発掘区順に番号を付し、平面図を編集した。各溝の位置(グリッド)・形態・規模・走向等のデータは第4章の遺構一覧にまとめた。

目 次

第1分冊 本文編

口絵

序

例言

凡例

第1章 三ツ木皿沼遺跡の概要	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 遺跡の位置と地形	2
第3節 周辺の遺跡	4
第2章 発掘調査の概要	10
第1節 発掘調査の方法と経過	10
第2節 遺跡の基本土層	13
第3節 発掘区の概要	15
第3章 検出された遺構と遺物	23
第1節 縄文時代の遺構と遺物	23
1. 住居	23
2. 土器埋設土坑	31
3. 土坑	34
4. 遺物集中出土地点	39
第2節 古墳時代の遺構と遺物	45
1. 住居	46
2. 土器溜まり	79
3. 土坑	81
4. 墓	82
第3節 古代の遺構と遺物	92
1. 住居	93
2. 土坑	261
3. 祭祀址	286
4. 鉄生産関連遺構	288
5. 畠	306
第4節 近世と時期不明の遺構	322
1. 竪穴状遺構及びその周辺	322
2. 土坑	324
3. 溝	326

第5節 遺構外の遺物	340
第4章 遺構・遺物の一覧表	345
第5章 科学分析報告	398
1. 三ツ木皿沼遺跡の土層とテフラ分析	398
2. 三ツ木皿沼遺跡出土の出土材樹種同定	409
3. 三ツ木皿沼遺跡の出土炭化材の 放射性炭素年代測定結果	410
4. 三ツ木皿沼遺跡における花粉分析	410
5. 三ツ木皿沼遺跡出土黒曜石の理化学分析	412
6. 三ツ木皿沼遺跡の植物珪酸体分析	419
7. 三ツ木皿沼遺跡の土器胎土分析(1)	432
8. 三ツ木皿沼遺跡の土器胎土分析(2)	439
9. 三ツ木皿沼遺跡出土鉄関連遺物の 金属考古学的調査結果	446
10. 三ツ木皿沼遺跡出土銅製片口鍋・ 銅合金塊の金属考古学的調査結果	481
11. 三ツ木皿沼遺跡出土の炭化物	483
第6章 三ツ木皿沼遺跡調査の成果と課題	495
1. 三ツ木皿沼遺跡の地形と遺構分布の変遷	495
2. 三ツ木皿沼遺跡の黒曜石分析について	502
3. コンパス文施文の須恵器について	503
4. 竪穴住居出土の炭化物について	508
5. 三ツ木皿沼遺跡の洪水被災畠とその復旧	511
6. 平安時代の埴輪利用と小角田古墳群	520
7. 三ツ木皿沼遺跡出土の 酸化焙焼成土器の胎土分析	522
8. 三ツ木皿沼遺跡における鉄生産関連遺物	523
報告書抄録	

第2分冊 写真図版編

付図

挿図目次

第 1 図	三ツ木皿沼遺跡の位置	1	第 65 図	101号住居	73
第 2 図	大間々扇状地と三ツ木皿沼遺跡	2	第 66 図	101号住居竈と出土遺物	74
第 3 図	三ツ木皿沼遺跡周辺の地形変化	3	第 67 図	103号住居と出土遺物	75
第 4 図	周辺の遺跡分布図	5	第 68 図	104号住居竈	76
第 5 図	発掘された周辺の遺跡	8	第 69 図	104号住居	77
第 6 図	発掘区の設定	10	第 70 図	104号住居の出土遺物	78
第 7 図	遺跡の基本土層	14	第 71 図	A 2 区土器溜まりと土坑出土遺物	79
第 8 図	A 2 区の遺構	15	第 72 図	A 2 区土器溜まりの出土遺物 (1)	80
第 9 図	A 3 区の遺構	16	第 73 図	A 2 区土器溜まりの出土遺物 (2)	81
第 10 図	A 4 区の遺構	17	第 74 図	145号土坑と出土遺物	81
第 11 図	A 5 区の遺構	17	第 75 図	1号方形周溝墓の出土遺物	82
第 12 図	A 6 区の遺構	19・20	第 76 図	1号方形周溝墓(折り込み)	83・84
第 13 図	A 7 区の遺構	19・20	第 77 図	2号方形周溝墓	85
第 14 図	B 2 区の遺構	21	第 78 図	1号古墳	86
第 15 図	B 3 区の遺構	22	第 79 図	2号古墳	88
第 16 図	108号住居と遺物分布	22	第 80 図	3号古墳と出土遺物	89
第 17 図	108号住居の炉と土坑	25	第 81 図	A 2 区凹地	90
第 18 図	108号住居出土遺物(1)	26	第 82 図	A 2 区1号・2号凹地の出土遺物	91
第 19 図	108号住居出土遺物(2)	27	第 83 図	109号住居	93
第 20 図	108号住居出土遺物(3)	28	第 84 図	109号住居竈と出土遺物(1)	94
第 21 図	108号住居出土遺物(4)	29	第 85 図	109号住居の出土遺物(2)	95
第 22 図	108号住居出土遺物(5)	30	第 86 図	107号住居状遺構	96
第 23 図	1号土器埋設土坑	31	第 87 図	107号住居状遺構の出土遺物(1)	97
第 24 図	1号土器埋設土坑の埋設土器	32	第 88 図	107号住居状遺構の出土遺物(2)	98
第 25 図	2号土器埋設土坑と埋設土器	33	第 89 図	1号住居の出土遺物	99
第 26 図	147号・148号土坑と出土遺物	34	第 90 図	1号住居	100
第 27 図	149号・150号・151号・156号土坑と出土遺物	35	第 91 図	2号住居の出土遺物	101
第 28 図	152号・153号土坑と出土遺物	36	第 92 図	2号住居	102
第 29 図	120号・123号・124号・157号・163号土坑と出土遺物	37	第 93 図	2号住居竈	103
第 30 図	8号・10号・115号土坑と出土遺物	38	第 94 図	3号住居と出土遺物	104
第 31 図	A 3 区の包含層出土遺物	39	第 95 図	4号住居と出土遺物	105
第 32 図	B 2・B 3 区の包含層出土遺物	40	第 96 図	5号住居	106
第 33 図	A 4 区・A 6 区の包含層出土遺物	41	第 97 図	5号住居竈と出土遺物	107
第 34 図	A 6 区北部の縄文時代の調査	42	第 98 図	5号住居の炭化材出土状況	108
第 35 図	A 6 区ローム台地周辺の出土遺物	43	第 99 図	6号住居と出土遺物	109
第 36 図	A 6 区低地部の出土遺物	44	第100 図	7号住居の出土遺物	110
第 37 図	低地部出土の土師器・須恵器	45	第101 図	7号住居	111
第 38 図	110号住居竈	46	第102 図	8号住居	112
第 39 図	110号住居	47	第103 図	8号住居竈と出土遺物	113
第 40 図	110号住居の出土遺物(1)	48	第104 図	9号住居と出土遺物	114
第 41 図	110号住居の出土遺物(2)	49	第105 図	10号住居の出土遺物	115
第 42 図	111号住居	50	第106 図	10号住居	116
第 43 図	111号住居竈と出土遺物	51	第107 図	11号住居の出土遺物(1)	117
第 44 図	112号住居の出土遺物分布	52	第108 図	11号住居の出土遺物(2)	118
第 45 図	112号住居	53	第109 図	11号住居	119
第 46 図	112号住居の出土遺物	54	第110 図	11号住居竈	120
第 47 図	113号住居の遺物出土状態	55	第111 図	12号住居と出土遺物(1)	121
第 48 図	113号住居	56	第112 図	12号住居の出土遺物(2)	122
第 49 図	113号住居の出土遺物(1)	57	第113 図	14号住居の出土遺物	123
第 50 図	113号住居の出土遺物(2)	58	第114 図	14号住居	124
第 51 図	114号住居	59	第115 図	15号住居と出土遺物	125
第 52 図	114号住居竈と出土遺物(1)	60	第116 図	16号住居	126
第 53 図	114号住居の出土遺物(2)	61	第117 図	16号住居の出土遺物	127
第 54 図	115号住居の出土遺物	62	第118 図	17号住居と出土遺物	128
第 55 図	115号住居	63	第119 図	18号住居と出土遺物	129
第 56 図	115号住居竈	64	第120 図	19号住居	130
第 57 図	116号住居	65	第121 図	19号住居竈と出土遺物	131
第 58 図	116号住居の出土遺物	66	第122 図	20号住居	132
第 59 図	117号住居竈	67	第123 図	20号住居竈と出土遺物	133
第 60 図	117号住居と出土遺物	68	第124 図	21号住居と出土遺物	134
第 61 図	95号住居	69	第125 図	22号住居	135
第 62 図	95号住居竈と出土遺物	70	第126 図	22号住居の出土遺物	136
第 63 図	100号住居	71	第127 図	23号住居と出土遺物	137
第 64 図	100号住居の出土遺物	72	第128 図	24号住居	138

第129図	24号住居の出土遺物	139
第130図	24号住居竈	140
第131図	25号住居と出土遺物	141
第132図	27号住居と出土遺物	142
第133図	27号住居竈	143
第134図	28号住居と出土遺物	144
第135図	29号住居と出土遺物	145
第136図	29号住居竈	146
第137図	30号住居と出土遺物	147
第138図	31号住居	148
第139図	31号住居竈と出土遺物	149
第140図	32号住居	150
第141図	33号住居	151
第142図	33号住居竈と出土遺物	152
第143図	34号住居	153
第144図	35号住居と出土遺物	153
第145図	36号住居	154
第146図	36号住居竈と出土遺物	155
第147図	37号住居と出土遺物	156
第148図	38号住居と出土遺物	157
第149図	39号住居	158
第150図	39号住居の出土遺物	159
第151図	40号住居と出土遺物	160
第152図	41号住居と出土遺物	161
第153図	42号住居と出土遺物	162
第154図	43号住居の出土遺物	162
第155図	43号住居	163
第156図	44号住居	164
第157図	45号住居と出土遺物	164
第158図	46号住居と出土遺物	165
第159図	47号住居	166
第160図	47号住居の出土遺物	167
第161図	48号住居	167
第162図	49号住居	168
第163図	50号住居	169
第164図	50号住居竈と出土遺物(1)	170
第165図	50号住居の出土遺物(2)	171
第166図	51号住居	173
第167図	51号住居竈	174
第168図	51号住居の出土遺物	175
第169図	52号住居	176
第170図	52号住居竈と出土遺物(1)	177
第171図	52号住居の出土遺物(2)	178
第172図	53号住居	179
第173図	53号住居竈	180
第174図	53号住居の出土遺物	181
第175図	54号住居	182
第176図	54号住居の出土遺物	183
第177図	83号住居と出土遺物	184
第178図	55号住居と出土遺物	185
第179図	56号住居	186
第180図	56号住居竈と出土遺物(1)	187
第181図	56号住居の出土遺物(2)	188
第182図	57号住居	189
第183図	57号住居竈と出土遺物	190
第184図	58号住居	191
第185図	58号住居の出土遺物	192
第186図	60号住居と出土遺物	193
第187図	61号住居	194
第188図	61号住居の出土遺物	195
第189図	62号住居	196
第190図	62号住居の出土遺物(1)	197
第191図	62号住居の出土遺物(2)	198
第192図	64号住居の出土遺物(1)	199
第193図	64号住居と出土遺物(2)	200
第194図	64号住居竈	201
第195図	65号住居	202
第196図	65号住居の出土遺物	203

第197図	66号住居と出土遺物	204
第198図	67号住居	205
第199図	68号住居	206
第200図	68号住居の出土遺物	207
第201図	69号住居	208
第202図	69号住居竈	209
第203図	69号住居の出土遺物(1)	210
第204図	69号住居の出土遺物(2)	211
第205図	69号住居の出土遺物(3)	212
第206図	69号住居の出土遺物(4)	213
第207図	70号住居	214
第208図	70号住居の出土遺物	215
第209図	71号住居と出土遺物	216
第210図	72号住居	217
第211図	72号住居の出土遺物	218
第212図	73号住居と出土遺物(1)	219
第213図	73号住居の出土遺物(2)	220
第214図	74号住居	221
第215図	74号住居竈と出土遺物(1)	222
第216図	74号住居の出土遺物(2)	223
第217図	75号住居	224
第218図	75号住居竈と出土遺物	225
第219図	76号住居	226
第220図	76号住居竈と出土遺物	227
第221図	77号住居	228
第222図	77号住居竈と出土遺物(1)	229
第223図	77号住居の出土遺物(2)	230
第224図	77号住居の出土遺物(3)	231
第225図	78号住居と出土遺物	232
第226図	78号住居竈	233
第227図	79号住居	234
第228図	79号住居の出土遺物	235
第229図	80号住居	236
第230図	80号住居の出土遺物	237
第231図	81号住居	238
第232図	81号住居の出土遺物	239
第233図	82号住居の出土遺物	239
第234図	82号住居	240
第235図	84号住居	241
第236図	85号住居	241
第237図	86号住居	242
第238図	86号住居の出土遺物(1)	243
第239図	86号住居の出土遺物(2)	244
第240図	86号住居の出土遺物(3)	245
第241図	86号住居の出土遺物(4)	246
第242図	87号住居	247
第243図	88号住居と出土遺物	248
第244図	89号住居と出土遺物	249
第245図	90号住居と出土遺物	250
第246図	92号住居と出土遺物	251
第247図	94号住居と出土遺物	251
第248図	98号住居	252
第249図	98号住居の出土遺物(1)	253
第250図	98号住居の出土遺物(2)	254
第251図	105号住居	254
第252図	106号住居と出土遺物	255
第253図	99号住居と出土遺物	256
第254図	102号住居と出土遺物	256
第255図	96号住居	257
第256図	96号住居竈と出土遺物(1)	258
第257図	96号住居の出土遺物(2)	259
第258図	97号住居	260
第259図	97号住居の出土遺物	261
第260図	A 2区の円形土坑	261
第261図	A 4区・A 6区の円形土坑(1)	262
第262図	A 6区の円形土坑(2)	263
第263図	A 6区の円形土坑(3)	264
第264図	A 6区の円形土坑(4)	265

第265図	A 6 区の円形土坑 (5)	266
第266図	A 6 区・B 2 区の円形土坑 (6)	267
第267図	A 4 区・A 6 区の楕円形土坑 (1)	267
第268図	A 6 区の楕円形土坑 (2)	268
第269図	A 6 区の楕円形土坑 (3)	269
第270図	A 6 区の楕円形土坑 (4)	270
第271図	A 6 区の楕円形土坑 (5)	271
第272図	A 6 区の楕円形土坑 (6)	272
第273図	A 6 区の楕円形土坑 (7)	273
第274図	A 6 区の楕円形土坑 (8)	274
第275図	A 6 区・B 2 区の楕円形土坑	275
第276図	B 2 区の楕円形土坑 (2)	276
第277図	A 6 区の隅丸方形土坑 (1)	276
第278図	A 6 区の隅丸方形土坑 (2)	277
第279図	A 6 区の隅丸方形土坑 (3)	278
第280図	A 6 区の隅丸方形土坑 (4)	279
第281図	A 6 区の隅丸長方形土坑 (1)	279
第282図	A 6 区の隅丸長方形土坑 (2)	280
第283図	A 2 区の長方形土坑	280
第284図	A 6 区の長方形土坑 (1)	281
第285図	A 6 区の長方形土坑 (2)	282
第286図	A 6 区・B 2 区・B 3 区の長方形土坑 (3)	283
第287図	A 3 区・A 6 区の不整形土坑 (1)	284
第288図	A 6 区・B 2 区の不整形土坑	285
第289図	A 6 区祭祀址	286
第290図	A 6 区祭祀址の出土遺物	287
第291図	A 6 区鉄関連遺構の分布	289
第292図	1 号炉	290
第293図	1 号炉の出土遺物	291
第294図	2 号炉と出土遺物 (1)	292
第295図	2 号炉の出土遺物 (2)	293
第296図	2 号炉の出土遺物 (3)	294
第297図	60号住居上層遺構と出土遺物	296
第298図	83号土坑と出土遺物	298
第299図	84号・85号・97号土坑と出土遺物	299
第300図	畠検出発掘区の位置	306
第301図	畠の畝と計測値	307
第302図	A 6 区北区西壁の畠土層断面(付図2 A-A'部分)	308
第303図	A 6 区北区の畠土層断面(付図3 C-C'部分)	309
第304図	A 6 区北区北壁の畠土層断面(付図3 B-B'部分)	311
第305図	A 6 区北区畠の出土遺物	312
第306図	A 6 区中央区の畠土層断面(付図5 G-G'部分)	314
第307図	6号溝	317
第308図	A 6 区中央区畠の出土遺物	318
第309図	A 6 区南区畠の出土遺物	319
第310図	B 3 区北区の畠土層断面(付図10 N-N'部分)	320
第311図	竪穴状遺構と出土遺物	322
第312図	竪穴状遺構周辺の出土遺物 (1)	323
第313図	竪穴状遺構周辺の出土遺物 (2)	324
第314図	162号土坑	324
第315図	162号土坑と出土遺物	325
第316図	14号・15号・16号・17号溝	327
第317図	12号・13号・18号溝	328
第318図	7号・8号溝	329
第319図	9号溝と出土遺物	330
第320図	10号・11号溝	331
第321図	1号溝と出土遺物	333
第322図	2号・3号溝と出土遺物	335
第323図	5号・20号溝	336
第324図	19号溝と出土遺物	337
第325図	21号・22号溝と出土遺物	338
第326図	23号溝	339
第327図	旧河道の出土遺物 (1)	340
第328図	旧河道の出土遺物 (2)	341
第329図	グリッド出土遺物 (1)	342
第330図	グリッド出土遺物 (2)	343
第331図	表面採集の出土遺物	344

第5章 分析報告

1. 三ツ木皿沼遺跡の土層とテフラ分析

第1図	各地点の土層柱状図(1)	407
第2図	各地点の土層柱状図(2)	408

5. 三ツ木皿沼遺跡出土黒曜石の理化学分析

図-1	SiO ₂ -Al ₂ O ₃ 図(原産地)	416
図-2	Na ₂ O-Fe ₂ O ₃ 図(原産地)	416
図-3	K ₂ O-CaO図(原産地)	417
図-3-2	K ₂ O-CaO図(原産地)	417
図-4	Rb-Sr図(原産地)	418
第1図	SiO ₂ -Al ₂ O ₃ 図(総合図)	416
第2図	Na ₂ O-Fe ₂ O ₃ 図(総合図)	416
第3図	K ₂ O-CaO図(総合図)	417
第4図	Rb-Sr図(総合図)	418

7. 三ツ木皿沼遺跡出土土器の胎土分析(1)

第1図	Mo-Mi-Hb三角ダイヤグラム	437
第2図	Mo-Ch, Mi-Hb菱形ダイヤグラム	437
第3図	Qt-Pl図	437
第4図	SiO ₂ -Al ₂ O ₃ 図	438
第5図	Fe ₂ O ₃ -MgO図	438
第6図	K ₂ O-CaO図	438

8. 三ツ木皿沼遺跡出土土器の胎土分析(2)

第1図	Mo-Mi-Hb三角ダイヤグラム	444
第2図	Mo-Ch, Mi-Hb菱形ダイヤグラム	444
第3図	Qt-Pl図	444
第4図	SiO ₂ -Al ₂ O ₃ 図	445
第5図	Fe ₂ O ₃ -MgO図	445
第6図	K ₂ O-CaO図	445

9. 三ツ木皿沼遺跡出土鉄関連

遺物の金属考古学的調査結果

図1	Na203 不明鉄器の外観と組織観察結果	462
図2	Na401 不明鉄器の外観と摘出した試料片の組織観察結果	463
図3	金属考古学的調査を行った資料の外観と摘出した試料片の組織観察結果(その1)	463
図3	金属考古学的調査を行った資料の外観と摘出した試料片の組織観察結果(その2)	464
図4	金属考古学的調査を行った資料の外観と摘出した試料片のマクロ組織(その1)	465
図4	金属考古学的調査を行った資料の外観と摘出した試料片のマクロ組織(その2)	466
図5	Na117・Na402 不明鉄器の外観と摘出した試料片の組織観察結果	466
図6	Na14・Na8・Na33 鉄滓の外観と摘出した試料片の組織観察結果	467
図7	鉄滓の外観とマクロ・ミクロ組織(その1)	468
図7	鉄滓の外観とマクロ・ミクロ組織(その2)	469
図7	鉄滓の外観とマクロ・ミクロ組織(その3)	470
図8	Na17 椀形滓の外観と摘出した試料片の組織観察結果	471
図9	Na4 塊状滓・Na202 椀形滓の外観と摘出した試料片の組織観察結果	472
図10	Na26 粘土状物質の外観と摘出した試料片の組織観察結果	473
図11	粘土状物質の外観と組織観察結果(その1)	474
図11	粘土状物質の外観と組織観察結果(その2)	475
図11	粘土状物質の外観と組織観察結果(その3)	476
図12	Na201 羽口の外観と摘出した試料片の組織観察結果	477
図13	Na1・Na403 羽口の外観と摘出した試料片の組織観察結果	478
図14	推定される鋼の製造法	479
図15	出土鉄器のCu, Ni, Co3成分比	479
図16	日本列島・中国・朝鮮半島に分布する主な鉄鉱山	480

10. 三ツ木皿沼遺跡出土銅製片口鍋・銅合金塊の 金属考古学的調査結果	
図1 分析した資料の外観	482
11. 三ツ木皿沼遺跡出土の炭化物	
図1 材組織とその名称	483
図2 1号住居の炭化材出土状況とその樹種	488
図3 5号住居の炭化材出土状況とその樹種	489
図版1 三ツ木皿沼遺跡出土炭化材の電子顕微鏡写真	490
図版2 三ツ木皿沼遺跡出土炭化材の電子顕微鏡写真	491
図版3 三ツ木皿沼遺跡出土炭化材の電子顕微鏡写真	492
図版4 三ツ木皿沼遺跡出土炭化物の灰像	493
図版5 三ツ木皿沼遺跡出土炭化物の灰像	494
第6章 三ツ木皿沼遺跡調査の成果と課題	
1. 三ツ木皿沼遺跡の地形と遺構分布の変遷	

第1図 三ツ木皿沼遺跡と周辺の地形	496
3. コンパス文施文の須恵器について	
第1図 群馬県出土の長頸頸瓶と全国の波状文・コンパス文	507
5. 三ツ木皿沼遺跡の洪水被災島とその復旧	
第1図 三ツ木皿沼遺跡平安時代遺構の埋積模式図	511
第2図 三ツ木皿沼遺跡島の土層断面模式図	513
第3図 三ツ木皿沼遺跡周辺遺跡の洪水層模式図	516
第4図 三ツ木皿沼遺跡周辺の平安時代の島作耕地	519
6. 平安時代の埴輪利用と小角田古墳群	
第6図 埴輪利用の住居と周辺の古墳	521
7. 三ツ木皿沼遺跡出土の酸化焰焼成土器の胎土分析	
第1図 三ツ木皿沼遺跡胎土分析試料のグループ	523

付図目次

付図1 三ツ木皿沼遺跡の遺構分布の変遷
付図2 三ツ木皿沼遺跡A 6区北区上面島
付図3 三ツ木皿沼遺跡A 6区北区下面島
付図4 三ツ木皿沼遺跡A 6区北区最下面島
付図5 三ツ木皿沼遺跡A 6区中央区1・2面島
付図6 三ツ木皿沼遺跡A 6区中央区3面島

付図7 三ツ木皿沼遺跡A 6区中央区4面島・5面島
付図8 三ツ木皿沼遺跡A 6区南区I面島
付図9 三ツ木皿沼遺跡A 6区南区II面島
付図10 三ツ木皿沼遺跡A 7区島
付図11 三ツ木皿沼遺跡B 3区島

表目次

第1表 三ツ木皿沼遺跡周辺の遺跡	6
第2表 鉄生産関連遺物出土遺構一覧表	288
第3表 鉄生産関連遺物一覧表	300
第4表 島計測表	321
第5表 三ツ木皿沼遺跡住居一覧表	347
第6表 三ツ木皿沼遺跡土坑一覧表	349
第7表 三ツ木皿沼遺跡溝一覧表	351
第8表 三ツ木皿沼遺跡土器埋設土坑一覧表	352
第9表 三ツ木皿沼遺跡墓関連遺構一覧表	352
第10表 三ツ木皿沼遺跡鉄生産関連遺構一覧表	352
第11表 三ツ木皿沼遺跡島一覧表	352
第12表 三ツ木皿沼遺跡その他の遺構一覧表	352
第13表 三ツ木皿沼遺跡出土遺物観察表	353
第5章 分析報告	
1. 三ツ木皿沼遺跡の土層とテフラ分析	
表1 三ツ木皿沼遺跡における重鉱物組成分析結果	405
表2 三ツ木皿沼遺跡における屈折率測定結果	406
表3 三ツ木皿沼遺跡におけるテフラ検出分析結果	406
2. 三ツ木皿沼遺跡出土炭化材の放射線炭素年代測定結果	
表 三ツ木皿沼遺跡出土試料の放射性炭素年代測定結果	410
5. 三ツ木皿沼遺跡出土黒曜石の理化学分析	
第1表 化学分析表	414
6. 三ツ木皿沼遺跡における植物珪酸体分析	
表1 三ツ木皿沼遺跡におけるイネ科栽培植物関係の 植物珪酸体の検出状況	420
表2 三ツ木皿沼遺跡A 6区中央区の植物珪酸体分析結果	424
表3～5 三ツ木皿沼遺跡A 6区北区の植物珪酸体分析結果	425
表6 三ツ木皿沼遺跡B 3区の植物珪酸体分析結果	428

7. 三ツ木皿沼遺跡出土土器の胎土分析(1)	
第1表 胎土性状表	435
第2表 化学分析表	436
第3表 タイプ分類一覧表	436
第4表 成分分類表	436
8. 三ツ木皿沼遺跡出土土器の胎土分析(2)	
第1表 胎土性状表	442
第2表 化学分析表	442
第3表 タイプ分類一覧表	443
第4表 成分分類表	443
9. 三ツ木皿沼遺跡出土鉄関連遺物の金属考古学的調査	
表1 分析資料	458
表2 鋼製鉄器の分析結果	460
表3 鉄滓の分析結果	460
表4 粘土状物質の化学成分分析結果	461
表5 羽口の分析結果	461
表6 北海道・東北北部出土鉄器の分析結果	461
10. 三ツ木皿沼遺跡出土銅製片口鍋・銅合金塊の金属考古学的調査 結果	
表1 銅製片口鍋・銅錫合金塊の化学組成	482
11. 三ツ木皿沼遺跡出土の炭化物	
表1 三ツ木皿沼遺跡住居跡から出土する炭化物	487
第6章 三ツ木皿沼遺跡調査の成果と課題	
4. 竪穴住居出土の炭化物について	
表1 群馬県の平安時代竪穴住居出土の炭化物樹種の傾向	510
8. 三ツ木皿沼遺跡における鉄生産関連遺物	
第1表 三ツ木皿沼遺跡出土羽口と関連遺物一覧表	526

写真図版目次

- PL 1. 1. 三ツ木皿沼遺跡空中写真(南から)
2. 大間々扇状地空中写真(南から)
- PL 2. 1. A 6区4K-50グリッドローム層断面(西から)
2. A 3区2N-5グリッド土層断面(北から)
3. A 6区4A-6グリッド旧河道土層断面(南西から)
4. A 6区4I-2ライン畠下土層断面(東から)
5. A 6区4K-8グリッド砂礫層内材出土(南から)
6. A 6区4K-6グリッド礫層土層断面(北から)
- PL 3. 1. A 2区南東部全景(北西から)
2. A 2区北西部全景(南から)
3. A 3区南東部全景(北東から)
4. A 3区北西部全景(東から)
5. A 4区全景(北東から)
6. A 5区全景(南から)
7. A 6区北部平安時代住居群全景(北東から)
- PL 4. 1. A 6区中央部平安時代住居群遠景(東から)
2. 同 全景(北西から)
3. A 6区南部全景(北西から)
4. A 7区南東部全景(南東から)
5. A 7区北西部全景(北西から)
6. A 7区旧河道検出状況(南東から)
- PL 5. 1. B 2区全景(南東から)
2. B 3区南東部全景(南東から)
3. B 3区畠跡(東から)
4. B 4区トレンチ土層断面(南西から)
5. 同 土層断面(南西から)
- PL 6. 1. A 6区108号住居全景(北から)
2. 同 上層遺物出土状態(北から)
3. 同 上層遺物出土状態(北から)
4. 同 炉跡遺物出土状態(南から)
5. 同 炉跡遺物出土状態(南から)
- PL 7. 1. A 6区108号住居炉全景(東から)
2. 同 炉掘り方全景(東から)
3. 同 ピット1(南西から)
4. A 4区2号土器埋設土坑(北西から)
5. A 4区1号土器埋設土坑検出状態(南西から)
6. 同 土層断面B-B'(南西から)
7. 同 土器内側土層断面B-B'(南西から)
8. 同 土器下面(南西から)
- PL 8. 1. A 2区163号土坑全景(東から)
2. 同 土層断面(西から)
3. A 3区147号土坑全景(南から)
4. 同 土層断面(西から)
5. A 3区148号土坑全景(東から)
6. 同 土層断面(北から)
7. A 3区150号土坑全景(北東から)
8. 同 土層断面(北西から)
- PL 9. 1. A 3区151号土坑全景(北東から)
2. 同 土層断面(北西から)
3. A 3区156号土坑土層断面(南東から)
4. A 3区152号土坑遺物出土状態(南から)
5. 同 土層断面(西から)
6. A 3区153号土坑土層断面(北東から)
7. A 3区157号土坑全景(南西から)
8. 同 土層断面(南西から)
- PL 10. 1. A 6区8号土坑遺物出土状態(南東から)
2. 同 土層断面(東から)
3. A 6区8号土坑出土のチャート
4. 同 黒曜石と黒色安山岩
5. A 4区123号土坑土層断面A-A'(南東から)
6. 同 土層断面B-B'(北東から)
7. A 4区124号土坑全景(北西から)
8. 同 土層断面(南東から)
- PL 11. 1. A 6区10号土坑遺物出土状態(南から)
2. 同 土層断面(北東から)
3. A 6区115号土坑全景(南東から)
4. 同 遺物出土状態(西から)
5. A 3区南西隅ローム台地の落ち込み(東から)
6. B 2区2号古墳遺物出土状態(北西から)
7. 同 遺物出土状態(北東から)
8. 同 遺物出土状態
- PL 12. 1. A 6区4I-2ライン土層断面(東から)
2. A 6区4K-49・50グリッド東壁(北西から)
3. A 6区低地部トレンチ調査区全景(南から)
4. A 6区ローム台地部トレンチ調査区全景(南から)
5. A 6区4O-9グリッド遺物出土状態(南から)
6. 同 遺物出土状態
7. A 6区4K・4H-11グリッド填砂土層断面(西から)
8. A 6区4I-2ライン土層断面(北東から)
- PL 13. 1. A 2区110号住居遺物出土状態(南西から)
2. 同 全景(南西から)
3. 同 竈全景(南西から)
4. 同 竈土層断面H-H'(南西から)
5. 同 竈掘り方土層断面H-H'(南西から)
6. A 2区111号住居全景(南東から)
7. 同 土層断面B-B'(南東から)
8. 同 竈遺物出土状態(南東から)
- PL 14. 1. A 2区111号住居竈土層断面D-D'(南から)
2. 同 南東部遺物出土状態(南東から)
3. 同 掘り方全景(南西から)
4. A 2区112号住居全景(南から)
5. 同 遺物出土状態(西から)
6. 同 ピット1土層断面F-F'(南西から)
7. 同 ピット2土層断面G-G'(南西から)
8. 同 ピット3土層断面H-H'(南西から)
- PL 15. 1. A 2区112号住居掘り方全景(南西から)
2. A 2区113号・114号住居全景(南西から)
3. A 2区113号住居遺物出土状態(南西から)
4. 同 掘り方全景(南西から)
5. 同 竈土層断面H-H'(南から)
6. 同 貯蔵穴土層断面M-M'(東から)
7. 同 ピット1全景(南から)
8. 同 ピット2土層断面J-J'(南から)
- PL 16. 1. A 2区113号住居ピット3土層断面K-K'(南から)
2. 同 ピット4土層断面L-L'(南から)
3. A 2区114号住居全景(南東から)
4. 同 竈全景(南東から)
5. 同 竈土層断面B-B'(北東から)
6. 同 竈土層断面C-C'(南東から)
7. 同 貯蔵穴全景(南東から)
8. 同 掘り方全景(南東から)
- PL 17. 1. A 2区115号住居全景(南西から)
2. 同 竈全景(南東から)
3. 同 竈土層断面E-E'(北東から)
4. 同 竈土層断面F-F'(南東から)
5. 同 紡錘車(第54図-9)出土状態(東から)
6. 同 貯蔵穴全景(南東から)
7. 同 掘り方全景(南東から)
8. 同 竈掘り方全景(南東から)
- PL 18. 1. A 2区116号住居全景(西から)
2. 同 遺物出土状態(北東から)
3. 同 ピット1土層断面E-E'(南から)
4. 同 ピット2土層断面F-F'(南西から)
5. 同 掘り方全景(西から)
6. A 2区117号住居全景(南西から)
7. 同 竈全景(南西から)
8. 同 土師器坏(第60図-1)出土状態(南から)
- PL 19. 1. A 2区117号住居貯蔵穴遺物出土状態(北西から)
2. B 2区95号住居全景(南東から)
3. 同 竈全景(南東から)

4. 同 竈周辺(北から)
5. 同 貯蔵穴全景(東から)
6. A 7区100号住居全景(南東から)
7. 同 竈全景(南西から)
8. 同 土層断面B-B'(北から)
- P L 20. 1. A 7区100号住居竈支脚(南東から)
2. 同 竈遺物出土状態(南東から)
3. 同 掘り方全景(南東から)
4. A 7区101号住居全景(北西から)
5. 同 竈全景(北から)
6. 同 竈土層断面D-D'(北から)
7. 同 掘り方全景(北東から)
8. 同 竈掘り方土層断面C-C'(東から)
- P L 21. 1. A 7区103号住居全景(南から)
2. 同 掘り方土層断面A-A'(東から)
3. A 7区104号住居全景(南西から)
4. 同 竈全景(南西から)
5. 同 竈土層断面(南から)
6. 同 ビット1全景(南から)
7. 同 ビット2全景(西から)
8. 同 竈掘り方土層断面D-D'(南西から)
- P L 22. 1. A 2区土器溜まり全景(南から)
2. 同 遺物出土状態(東から)
3. 同 遺物出土状態(南東から)
4. 同 遺物出土状態(南から)
5. 同 遺物出土状態(北東から)
6. A 2区141号土坑全景(北から)
7. A 7区145号土坑全景(南西から)
8. 同 土層断面(東から)
- P L 23. 1. A 3区1号周溝基全景(北東から)
2. 同 全景(南から)
3. 同 西周溝(南東から)
4. 同 西周溝の遺物出土状態(北西から)
5. 同 西周溝の遺物出土状態(西から)
- P L 24. 1. A 3区1号周溝基南周溝(北東から)
2. 同 周溝土層断面D-D'(西から)
3. 同 周溝土層断面B-B'(南西から)
4. 同 周溝土層断面B-B'(南西から)
5. 同 周溝土層断面(西から)
6. 同 周溝底面(北西から)
7. A 3区2号周溝基全景(南東から)
8. 同 土層断面A-A'(南東から)
- P L 25. 1. A 4区1号古墳全景(北東から)
2. 同 全景(北から)
3. 同 土層断面A-A'(北東から)
4. 同 土層断面B-B'(南東から)
5. 同 土層断面C-C'(南西から)
- P L 26. 1. B 2区2号古墳全景(東から)
2. 同 土層断面A-A'(南西から)
3. 同 土層断面B-B'(北東から)
4. 同 土層断面C-C'(北東から)
5. B 3区3号古墳全景(北西から)
6. 同 顔料出土状態
7. 同 土層断面A-A'(北東から)
8. 同 遺物出土状態(南西から)
- P L 27. 1. A 2区1号凹地北半部全景(南から)
2. 同 南半部全景(北東から)
3. 同 南半部全景(南東から)
4. 同 南半部土層断面(北東から)
5. A 2区2号凹地全景(南から)
6. 同 土層断面B-B'(南から)
- P L 28. 1. A 3区109号住居全景(西から)
2. 同 竈全景(南から)
3. 同 竈土層断面C-C'(北から)
4. A 4区107号住居状遺構土層断面A-A'(北東から)
5. 同 全景(南東から)
6. 同 銅製片口鍋出土状態(東から)
7. 同 礫出土状態(北東から)
8. 同 焼土周辺竈前遺物出土状態(北東から)
- P L 29. 1. A 6区1号住居全景(北から)
2. 同 遺物出土状態(南東から)
3. 同 竈遺物出土状態(西から)
4. 同 竈土層断面C-C'(南東から)
5. 同 掘り方全景(北から)
6. A 6区2号住居全景(西から)
7. 同 全景(西から)
8. 同 竈土層断面D-D'(西から)
- P L 30. 1. A 6区2号住居竈土層断面C-C'(南から)
2. 同 竈遺物出土状態(西から)
3. 同 貯蔵穴土層断面E-E'(南から)
4. 同 竈掘り方全景(西から)
5. A 6区3号住居土層断面A-A'(北東から)
6. 同 竈全景(西から)
7. 同 竈土層断面(西から)
8. 同 竈土層断面(南から)
- P L 31. 1. A 6区3号住居掘り方全景(北西から)
2. A 6区4号住居全景(西から)
3. 同 竈全景(西から)
4. 同 竈土層断面(南から)
5. 同 竈土層断面(西から)
6. A 6区5号住居全景(西から)
7. 同 竈全景(西から)
8. 同 竈煙道部土層断面C-C'(南から)
- P L 32. 1. A 6区5号住居炭化材・焼土検出状態(南から)
2. 同 炭化材・焼土検出状態(北から)
3. 同 炭化材・焼土検出状態(北から)
4. 同 種子及び布出土状態
5. 同 掘り方全景(西から)
6. 同 竈掘り方全景(西から)
7. 同 竈掘り方土層断面D-D'(西から)
8. 同 床下土坑土層断面B-B'(東から)
- P L 33. 1. A 6区6号住居全景(西から)
2. 同 竈全景(西から)
3. 同 竈土層断面D-D'(西から)
4. 同 竈土層断面C-C'(南西から)
5. A 6区7号住居全景(西から)
6. 同 土層断面B-B'(西から)
7. 同 竈全景(西から)
8. 同 竈土層断面C-C'(南から)
- P L 34. 1. A 6区7号住居竈土層断面D-D'(西から)
2. A 6区8号住居全景(西から)
3. 同 竈全景(西から)
4. 同 竈土層断面D-D'(西から)
5. 同 掘り方全景(西から)
6. A 6区9号住居全景(西から)
7. 同 竈全景(西から)
8. 同 竈土層断面D-D'(西から)
- P L 35. 1. A 6区10号住居全景(西から)
2. 同 土層断面A・B(南から)
3. 同 竈全景(西から)
4. 同 竈土層断面D-D'(西から)
5. A 6区11号住居全景(西から)
6. 同 土層断面A・B(南から)
7. 同 竈全景(西から)
8. 同 竈袖部埴輪出土状態(西から)
- P L 36. 1. A 6区11号住居竈土層断面D-D'(南西から)
2. 同 南西隅貯蔵穴土層断面G-G'(東から)
3. 同 貯蔵穴全景(北から)
4. 同 ビット1土層断面F-F'(西から)
5. 同 ビット2土層断面G-G'(西から)
6. 同 ビット3土層断面G-G'(西から)
7. 同 ビット4土層断面F-F'(西から)
8. 同 竈掘り方全景(西から)
- P L 37. 1. A 6区12号住居全景(南から)
2. 同 遺物出土状態(北から)
3. 同 遺物出土状態(南から)

4. 同 竈掘り方土層断面A-A'(南から)
5. A6区14号住居全景(西から)
6. 同 竈全景(西から)
7. 同 竈土層断面C-C'(南から)
8. 同 竈土層断面D-D'(西から)
- P L 38. 1. A6区15号住居全景(南から)
2. 同 土層断面B-B'(南から)
3. 同 竈全景(南から)
4. A6区16号住居全景(西から)
5. 同 竈全景(西から)
6. 同 竈土層断面B-B'(南から)
7. A6区17号住居全景(西から)
8. 同 竈全景(西から)
- P L 39. 1. A6区17号住居竈掘り方土層断面C-C'(南から)
2. A6区18号住居全景(西から)
3. 同 竈全景(西から)
4. 同 竈土層断面D-D'(西から)
5. A6区19号住居全景(南から)
6. 同 竈全景(南西から)
7. 同 竈土層断面D-D'(南西から)
8. 同 竈土層断面C-C'(南東から)
- P L 40. 1. A6区20号住居全景(南から)
2. 同 竈1全景(西から)
3. 同 竈1土層断面C-C'(南から)
4. 同 竈1掘り方全景(西から)
5. 同 竈2全景(南から)
6. 同 竈2土層断面E-E'(東から)
7. 同 竈2掘り方全景(南から)
8. A6区21号住居全景(西から)
- P L 41. 1. A6区21号住居土層断面A-A'(南から)
2. 同 竈土層断面C-C'(南から)
3. A6区22号住居全景(西から)
4. 同 土層断面B-B'(西から)
5. 同 竈全景(西から)
6. 同 竈土層断面D-D'(西から)
7. 同 竈土層断面C-C'(北から)
8. A6区23号住居全景(西から)
- P L 42. 1. A6区23号住居土層断面A-A'(南から)
2. 同 竈土層断面(南東から)
3. 同 遺物出土状態(北から)
4. A6区24号住居全景(西から)
5. 同 全景(拡張後西から)
6. A6区24号・25号住居土層断面B-B'(西から)
7. A6区24号住居竈煙道部(西から)
8. 同 竈煙道掘り方全景(西から)
- P L 43. 1. A6区25号住居竈土層断面C-C'(北から)
2. 同 掘り方全景(西から)
3. A6区27号住居全景(南から)
4. 同 竈1土層断面D-D'(南東から)
5. 同 竈1掘り方全景(南西から)
6. 同 竈2全景(南から)
7. 同 竈2土層断面B-B'(西から)
8. 同 竈2掘り方全景(南から)
- P L 44. 1. A6区28号住居全景(西から)
2. 同 竈全景(西から)
3. 同 竈土層断面A-A'(南から)
4. 同 竈掘り方全景(西から)
5. 同 床下土坑全景(東から)
6. A6区29号住居全景(西から)
7. 同 竈全景(西から)
8. 同 竈土層断面C-C'(西から)
- P L 45. 1. A6区29号住居貯蔵穴全景(南から)
2. A6区30号住居全景(西から)
3. 同 竈全景(西から)
4. 同 竈土層断面C-C'(西から)
5. 同 竈掘り方全景(西から)
6. 同 竈掘り方土層断面C-C'(西から)
7. A6区31号住居全景(南から)
8. 同 竈全景(南から)
- P L 46. 1. A6区31号住居竈土層断面D-D'(南から)
2. 同 竈支脚土層断面C-C'(西から)
3. 同 貯蔵穴全景(東から)
4. 同 貯蔵穴土層断面(西から)
5. 同 竈掘り方土層断面E-E'(南から)
6. A6区32号住居全景(北から)
7. 同 土層断面B-B'(南から)
8. A6区33号住居全景(南から)
- P L 47. 1. A6区33号住居竈全景(南から)
2. 同 貯蔵穴土層断面B-B'(南から)
3. 同 竈掘り方全景(南から)
4. A6区34号住居全景(東から)
5. A6区35号住居全景(南東から)
6. 同 土層断面A-A'(西から)
7. A6区36号住居全景(南から)
8. 同 竈全景(南から)
- P L 48. 1. A6区36号住居遺物出土状態(北から)
2. 同 竈掘り方全景(南から)
3. A6区38号住居全景(西から)
4. 同 竈全景(西から)
5. 同 竈土層断面B-B'(南から)
6. 同 竈掘り方全景(西から)
7. A6区39号住居全景(西から)
8. 同 竈全景(西から)
- P L 49. 1. A6区39号住居竈土層断面A-A'(南から)
2. 同 竈掘り方全景(西から)
3. 同 床下土坑土層断面(東から)
4. A6区40号住居全景(西から)
5. 同 竈全景(西から)
6. 同 竈土層断面B-B'(南から)
7. A6区41号住居全景(西から)
8. 同 土層断面A-A'(南から)
- P L 50. 1. A6区42号住居全景(南から)
2. A6区43号住居全景(西から)
3. 同 竈土層断面C-C'(南から)
4. A6区44号住居全景(東から)
5. A6区45号住居全景(西から)
6. A6区46号住居全景(西から)
7. 同 土層断面A-A'(南東から)
8. 同 竈全景(南西から)
- P L 51. 1. A6区46号住居竈土層断面C-C'(南から)
2. A6区47号住居全景(北西から)
3. 同 土層断面B-B'(北西から)
4. 同 竈全景(北西から)
5. 同 竈土層断面D-D'(北西から)
6. A6区48号住居全景(西から)
7. A6区49号住居全景(西から)
8. 同 土層断面A-A'(南から)
- P L 52. 1. A6区49号住居土層断面A-A'(南から)
2. 同 竈全景(西から)
3. A6区50号住居全景(西から)
4. 同 土層断面A-A'(南から)
5. 同 竈全景(西から)
6. 同 床下土坑土層断面(南から)
7. A6区51号住居全景(西から)
8. 同 竈2全景(南西から)
- P L 53. 1. A6区51号住居竈1全景(南から)
2. 同 竈1土層断面C-C'(南から)
3. 同 竈1土層断面E-E'(西から)
4. 同 竈1袖部土層断面(西から)
5. 同 竈1煙道部土層断面D-D'(西から)
6. 同 竈1袖部土層断面(西から)
7. 同 北東隅貯蔵穴全景(南西から)
8. 同 北東隅貯蔵穴土層断面H-H'(南から)
- P L 54. 1. A6区51号住居床下土坑1土層断面(南東から)
2. 同 床下土坑3土層断面(南東から)
3. 同 掘り方全景(西から)

4. A 6区52号住居全景(西から)
 5. 同 竈全景(西から)
 6. 同 竈煙道部土層断面C-C'(東から)
 7. 同 竈内支脚土層断面D-D'(南から)
 8. 同 遺物出土状態(西から)
- P L 55. 1. A 6区53号住居全景(南西から)
 2. 同 竈全景(南西から)
 3. 同 竈土層断面D-D'(西から)
 4. 同 竈遺物出土状態(西から)
 5. A 6区54号住居全景(西から)
 6. 同 竈全景(西から)
 7. 同 竈土層断面B-B'(西から)
 8. A 6区83号住居竈全景(南から)
- P L 56. 1. A 6区83号住居竈煙道部土層断面C-C'(南東から)
 2. 同 竈土層断面D-D'(南から)
 3. A 6区55号住居全景(北西から)
 4. 同 土層断面A・B(北東から)
 5. 同 竈全景(北西から)
 6. 同 竈土層断面D-D'(北西から)
 7. A 6区56号住居全景(西から)
 8. 同 土層断面A・B(南東から)
- P L 57. 1. A 6区56号住居竈全景(西から)
 2. 同 竈土層断面E-E'(西から)
 3. A 6区57号住居全景(西から)
 4. 同 竈全景(西から)
 5. 同 竈袖部土層断面E-E'(西から)
 6. 同 遺物出土状態(北西から)
 7. A 6区58号住居全景(北から)
 8. 同 竈全景(西から)
- P L 58. 1. A 6区58号住居竈土層断面D-D'(西から)
 2. A 6区60号住居全景(西から)
 3. 同 竈土層断面C-C'(南から)
 4. 同 南東隅焼土検出状況(南から)
 5. 同 南東隅焼土検出状況(西から)
 6. 同 炭化材検出状態(西から)
 7. 同 炭化材検出状態(西から)
 8. 同 鉄滓・炉壁検出状態(西から)
- P L 59. 1. A 6区60号住居掘り方全景(西から)
 2. A 6区61号住居全景(西から)
 3. 同 竈全景(西から)
 4. 同 竈土層断面D-D'(西から)
 5. 同 遺物出土状態(西から)
 6. A 6区62号住居全景(西から)
 7. 同 全景(西から)
 8. 同 竈前遺物出土状態(西から)
- P L 60. 1. A 6区62号住居竈確認状況(西から)
 2. 同 竈土層断面C-C'(南から)
 3. 同 竈土層断面D-D'(西から)
 4. A 6区64号住居全景(西から)
 5. 同 土層断面A-A'(南から)
 6. 同 竈全景(西から)
 7. 同 竈土層断面C-C'(南東から)
 8. 同 竈土層断面D-D'(西から)
- P L 61. 1. A 6区64号住居床下土坑土層断面(南西から)
 2. 同 掘り方全景(西から)
 3. A 6区65号住居全景(西から)
 4. 同 全景(西から)
 5. 同 竈全景(西から)
 6. 同 竈土層断面D-D'(西から)
 7. 同 床面炭化材検出状態(西から)
 8. A 6区66号住居全景(西から)
- P L 62. 1. A 6区66号住居全景(西から)
 2. 同 竈全景(西から)
 3. 同 竈土層断面D-D'(西から)
 4. 同 竈・貯蔵穴全景(西から)
 5. A 6区67号住居灰面確認状況(南西から)
 6. A 6区68号住居全景(西から)
 7. 同 竈全景(西から)
8. 同 竈前ピット(北西から)
- P L 63. 1. A 6区68号住居竈前ピット土層断面C-C'(南から)
 2. 同 貯蔵穴土層断面E-E'(西から)
 3. A 6区69号住居遺物出土状態(西から)
 4. 同 全景(西から)
 5. 同 竈土層断面D-D'(西から)
 6. 同 竈遺物出土状態(西から)
 7. 同 貯蔵穴土層断面F-F'(南西から)
 8. 同 掘り方全景(西から)
- P L 64. 1. A 6区69号住居竈掘り方及び貯蔵穴全景
 2. 同 床下土坑土坑断面E-E'(南から)
 3. A 6区70号住居全景(南西から)
 4. 同 竈全景(南西から)
 5. 同 竈土層断面D-D'(南西から)
 6. 同 南隅壁際露出土状態(北西から)
 7. A 6区71号住居土層断面B-B'(西から)
 8. 同 土層断面B-B'(西から)
- P L 65. 1. A 6区71号住居竈全景(西から)
 2. 同 竈土層断面C-C'(南から)
 3. A 6区72号住居全景(西から)
 4. 同 竈全景(西から)
 5. 同 遺物出土状態(西から)
 6. A 6区73号住居全景(西から)
 7. 同 竈全景(西から)
 8. 同 竈土層断面C-C'(北西から)
- P L 66. 1. A 6区106号住居遺物出土状態(東から)
 2. A 6区74号住居全景(西から)
 3. 同 土層断面A・B(南東から)
 4. 同 竈全景(西から)
 5. 同 竈土層断面D-D'(西から)
 6. A 6区75号住居全景(西から)
 7. 同 土層断面A・B(東から)
 8. 同 竈全景(西から)
- P L 67. 1. A 6区75号住居竈土層断面E-E'(西から)
 2. 同 竈土層断面D-D'(西から)
 3. A 6区76号住居全景(西から)
 4. 同 竈全景(西から)
 5. 同 竈土層断面C-C'(北から)
 6. A 6区77号住居全景(北西から)
 7. 同 全景(北西から)
 8. 同 竈全景(北西から)
- P L 68. 1. A 6区77号住居竈土層断面C-C'(西から)
 2. 同 土層断面E-E'(北西から)
 3. 同 竈埴輪埋設状態(南西から)
 4. A 6区78号住居全景(西から)
 5. 同 竈全景(西から)
 6. 同 遺物出土状態(西から)
 7. A 6区79号住居全景(西から)
 8. 同 竈全景(西から)
- P L 69. 1. A 6区79号住居竈土層断面B-B'(西から)
 2. 同 竈遺物出土状態(北西から)
 3. A 6区80号住居全景(東から)
 4. 同 全景(北から)
 5. 同 遺物出土状態(東から)
 6. 同 緑釉陶器稜塊(第230図-5)出土状態(北東から)
 7. A 6区81号住居全景(西から)
 8. 同 竈全景(西から)
- P L 70. 1. A 6区81号住居竈右前遺物出土状態(西から)
 2. 同 須恵器坏(第232図-1)出土状態(南から)
 3. A 6区82号住居全景(南西から)
 4. 同 竈全景(南西から)
 5. 同 竈土層断面C-C'(南東から)
 6. A 6区84号住居全景(北から)
 7. A 6区85号住居・110号・111号土坑全景(北西から)
 8. A 6区85号住居土層断面(西から)
- P L 71. 1. A 6区86号住居遺物出土状態(北西から)
 2. 同 竈全景(南東から)
 3. 同 竈土層断面B-B'(北西から)

4. A 6 区87号住居全景(北西から)
5. 同 竈土層断面A-A'(南から)
6. 同 掘り方全景(北西から)
7. A 6 区88号住居全景(西から)
8. 同 竈掘り方全景(西から)
- PL 72. 1. A 6 区88号住居竈掘り方土層断面B-B'(西から)
2. A 6 区89号住居全景(北西から)
3. 同 竈全景(北西から)
4. 同 竈土層断面A-A'(南西から)
5. A 6 区90号住居全景(北西から)
6. 同 床面遺物出土状態(北から)
7. 同 床面遺物出土状態(南から)
8. A 6 区92号住居全景(北西から)
- PL 73. 1. A 6 区92号住居竈全景(北西から)
2. A 6 区94号住居全景(西から)
3. 同 竈全景(西から)
4. 同 竈土層断面(南から)
5. A 6 区98号住居全景(西から)
6. 同 竈全景(西から)
7. 同 竈掘り方全景(西から)
8. 同 竈掘り方土層断面A・C(南西から)
- PL 74. 1. A 6 区105号住居竈全景(北西から)
2. 同 竈土層断面A-A'(南西から)
3. A 7 区99号住居全景(西から)
4. 同 竈全景(西から)
5. 同 灰釉陶器皿(第253図-1)出土状態(西から)
6. A 7 区102号住居全景(西から)
7. 同 土層断面(西から)
8. 同 遺物出土状態(北東から)
- PL 75. 1. B 3 区96号住居全景(北西から)
2. 同 竈確認面全景(北西から)
3. 同 竈全景(北西から)
4. 同 掘り方全景(北西から)
5. B 3 区97号住居確認面(南から)
6. 同 遺物出土状態(南東から)
7. 同 掘り方全景(南西から)
8. 同 竈掘り方全景(北西から)
- PL 76. 1. A 2 区164号土坑全景(西から)
2. 同 土層断面(南から)
3. A 4 区122号土坑全景(南東から)
4. 同 土層断面(南から)
5. A 6 区1号土坑全景(西から)
6. 同 土層断面(東から)
7. A 6 区4号土坑遺物出土状態(南東から)
8. 同 土層断面(東から)
- PL 77. 1. A 6 区11号土坑遺物出土状態(南から)
2. 同 土層断面(西から)
3. A 6 区13号土坑全景(東から)
4. 同 土層断面(南東から)
5. A 6 区14号・15号土坑土層断面(南東から)
6. A 6 区16号・17号・18号土坑全景(西から)
7. A 6 区25号土坑全景(北から)
8. 同 土層断面(南西から)
- PL 78. 1. A 6 区29号土坑全景(西から)
2. 同 土層断面(東から)
3. A 6 区32号土坑全景(東から)
4. 同 土層断面(東から)
5. A 6 区36号土坑全景(北から)
6. 同 土層断面(北東から)
7. A 6 区38号土坑全景(東から)
8. A 6 区42号土坑全景(南から)
- PL 79. 1. A 6 区42号土坑土層断面(南から)
2. A 6 区43号土坑全景(南から)
3. 同 土層断面(南から)
4. A 6 区44号土坑全景(南から)
5. 同 土層断面(南から)
6. A 6 区45号土坑全景(北西から)
7. 同 土層断面(南西から)
8. A 6 区52号土坑全景(西から)
- PL 80. 1. A 6 区52号土坑土層断面(東から)
2. A 6 区53号土坑全景(西から)
3. 同 土層断面(東から)
4. A 6 区62号・63号土坑全景(東から)
5. 同 土層断面(北東から)
6. A 6 区64号土坑土層断面(南東から)
7. A 6 区68号土坑全景(南東から)
8. 同 土層断面(南西から)
- PL 81. 1. A 6 区70号土坑全景(北東から)
2. 同 土層断面(南西から)
3. A 6 区73号土坑全景(南から)
4. 同 土層断面(南から)
5. A 6 区78号土坑全景(西から)
6. 同 土層断面(北東から)
7. A 6 区81号・82号土坑全景(南から)
8. 同 土層断面(南から)
- PL 82. 1. A 6 区94号土坑遺物出土状態(北から)
2. 同 土層断面(北東から)
3. A 6 区92号・96号土坑全景(南東から)
4. A 6 区100号・101号土坑全景(北西から)
5. B 2 区138号土坑全景(東から)
6. A 6 区9号土坑全景(西から)
7. 同 土層断面(南から)
8. A 6 区22号土坑全景(南から)
- PL 83. 1. A 6 区22号土坑土層断面(南から)
2. A 6 区24号土坑全景(北から)
3. 同 土層断面(南から)
4. A 6 区26号土坑全景(南から)
5. A 6 区27号土坑全景(南から)
6. 同 土層断面(西から)
7. A 6 区28号土坑全景(南西から)
8. 同 土層断面(南西から)
- PL 84. 1. A 6 区30号土坑全景(南から)
2. 同 土層断面(南西から)
3. A 6 区33号土坑全景(南から)
4. 同 土層断面(西から)
5. A 6 区35号土坑全景(西から)
6. 同 土層断面(西から)
7. A 6 区47号土坑全景(南から)
8. 同 土層断面(東から)
- PL 85. 1. A 6 区49号土坑全景(東から)
2. 同 土層断面(東から)
3. A 6 区50号土坑全景(南から)
4. 同 土層断面(南から)
5. A 6 区51号土坑全景(南東から)
6. 同 土層断面(北西から)
7. A 6 区55号土坑全景(南から)
8. 同 土層断面(南から)
- PL 86. 1. A 6 区55号土坑と島の土層断面(西から)
2. A 6 区57号土坑全景(北から)
3. 同 土層断面(南から)
4. A 6 区58号土坑全景(東から)
5. 同 土層断面(北から)
6. A 6 区59号土坑全景(北から)
7. 同 土層断面(南から)
8. A 6 区66号土坑全景(南西から)
- PL 87. 1. A 6 区66号土坑土層断面(南西から)
2. A 6 区69号土坑全景(西から)
3. 同 土層断面(南西から)
4. A 6 区72号土坑土層断面(南西から)
5. A 6 区76号土坑全景(北西から)
6. 同 土層断面B-B'(南西から)
7. A 6 区77号土坑全景(西から)
8. A 6 区87号・89号・90号土坑全景(東から)
- PL 88. 1. A 6 区88号土坑土層断面(南西から)
2. A 6 区91号土坑土層断面(南から)
3. A 6 区93号土坑全景(東から)

4. A 6 区98号土坑全景(北西から)
5. 同 土層断面(北西から)
6. A 6 区101号土坑土層断面(北西から)
7. A 6 区105号・106号土坑全景(北西から)
8. A 6 区107号・108号土坑土層断面(西から)
- P L 89. 1. A 6 区109号土坑全景(西から)
2. A 6 区110号・111号土坑全景(南西から)
3. A 6 区110号土坑土層断面(西から)
4. A 6 区112号土坑全景(北西から)
5. 同 土層断面(北東から)
6. A 6 区113号・114号土坑全景(北から)
7. A 6 区118号土坑全景(南から)
8. 同 土層断面(南から)
- P L 90. 1. A 6 区127号土坑緑釉陶器稜塊出土状態(南東から)
2. 同 土層断面(北東から)
3. A 6 区128号土坑全景(北東から)
4. A 6 区131号土坑全景(南東から)
5. A 6 区144号土坑全景(北西から)
6. 同 土層断面(南東から)
7. B 2 区137号土坑全景(北東から)
- P L 91. 1. B 2 区137号土坑土層断面(北東から)
2. B 2 区139号土坑土層断面(南から)
3. B 2 区146号土坑全景(北から)
4. A 6 区39号土坑全景(南から)
5. A 6 区40号土坑全景(南から)
6. A 6 区46号土坑全景(西から)
7. 同 土層断面(西から)
8. A 6 区48号土坑全景(西から)
- P L 92. 1. A 6 区48号土坑土層断面(西から)
2. A 6 区56号土坑全景(西から)
3. 同 土層断面(西から)
4. A 6 区60号土坑全景(北から)
5. 同 土層断面(北西から)
6. A 6 区61号土坑全景(北西から)
7. 同 土層断面(北西から)
8. A 6 区71号土坑全景(南から)
- P L 93. 1. A 6 区79号土坑全景(南から)
2. 同 土層断面(南西から)
3. A 6 区87号土坑土層断面(南東から)
4. A 6 区89号土坑土層断面(東から)
5. A 6 区99号土坑全景(西から)
6. A 6 区102号土坑全景(西から)
7. 同 土層断面(北東から)
8. A 6 区103号土坑全景(南東から)
- P L 94. 1. A 6 区103号土坑土層断面(南東から)
2. A 6 区31号土坑全景(西から)
3. 同 土層断面(西から)
4. A 6 区75号土坑全景(南から)
5. A 6 区80号土坑全景(南から)
6. 同 土層断面(南西から)
7. A 6 区92号土坑土層断面(南から)
8. A 2 区159号・160号・161号土坑全景(南から)
- P L 95. 1. A 2 区159号・160号・161号土坑土層断面(南から)
2. A 6 区2号土坑全景(北西から)
3. 同 土層断面(北西から)
4. A 6 区20号土坑全景(南から)
5. 同 土層断面(西から)
6. A 6 区54号土坑全景(南から)
7. 同 土層断面(西から)
- P L 96. 1. A 6 区86号土坑全景(北東から)
2. A 6 区90号土坑土層断面(北東から)
3. A 6 区125号土坑全景(南西から)
4. 同 土層断面(南西から)
5. A 6 区126号土坑全景(南東から)
6. 同 土層断面(北西から)
7. B 2 区132号土坑全景(北東から)
8. B 2 区134号土坑全景(東から)
- P L 97. 1. B 2 区135号土坑全景(北から)
2. B 3 区142号土坑全景(南西から)
3. 同 土層断面(南西から)
4. B 3 区143号土坑全景(北西から)
5. 同 土層断面(南西から)
6. A 3 区158号土坑全景(南西から)
- P L 98. 1. A 3 区158号土坑土層断面(南東から)
2. A 6 区3号土坑土層断面(北西から)
3. A 6 区12号土坑全景(西から)
4. 同 土層断面(南から)
5. A 6 区41号土坑全景(南から)
6. A 6 区67号土坑全景(北東から)
7. A 6 区116号土坑全景(南西から)
8. 同 土層断面(南西から)
- P L 99. 1. A 6 区129号土坑全景(南西から)
2. A 6 区130号土坑全景(北東から)
3. 同 土層断面(北東から)
4. B 2 区133号土坑土層断面(北東から)
5. B 2 区136号土坑土層断面(南西から)
6. A 6 区祭祀址上層遺物出土状態(東から)
7. 同 土層断面(南から)
8. 同 下層遺物出土状態(北から)
- P L 100. 1. A 6 区1号炉確認状態全景(西から)
2. 同 土層断面B-B'(北から)
3. 同 土層断面A-A'(東から)
4. 同 底面全景(東から)
5. 同 遺物出土状態(東から)
- P L 101. 1. A 6 区2号炉全景(西から)
2. 同 土層断面A-A'(西から)
3. 同 遺物出土状態(南から)
4. 同 土層断面A-A'(東から)
5. 同 底断面(南から)
- P L 102. 1. A 6 区60号住居上層遺構確認状態(北西から)
2. 同 確認状況(北から)
3. 同 上層遺物出土状態(南から)
4. 同 土層断面A-A'(南西から)
5. 同 土層断面D-D'(南から)
- P L 103. 1. A 6 区60号住居上層遺構全景(南西から)
2. 同 焼土部土層断面A-A'(南から)
3. 同 掘り方全景(西から)
4. A 6 区83号土坑土層断面B-B'(北から)
5. 同 土層断面A-A'(西から)
- P L 104. 1. A 6 区83号土坑全景(北から)
2. 同 全景(北西から)
3. A 6 区84号土坑全景(西から)
4. 同 土層断面(南東から)
5. A 6 区85号土坑全景(北西から)
6. 同 土層断面(南西から)
7. A 6 区97号土坑全景(西から)
8. 同 土層断面(南東から)
- P L 105. 1. A 6 区北区周辺空中写真(南東から)
2. 同 上面畠西壁土層断面A-A'(東から)
3. 同 最上面畠全景(南西から)
4. 同 下面畠土層断面C-C'(東から)
5. 同 土層断面C-C'(東から)
- P L 106. 1. A 6 区北区上面畠全景空中写真(北東から)
2. 同 畝間の小道・二股畝(西から)
3. 同 畝間の小道・二股畝(西から)
- P L 107. 1. A 6 区北区上面畠畝(西から)
2. 同 畠から台地を臨む
3. 同 並行する畝列(北から)
4. 同 湾曲する畝列(西から)
5. 同 二股畝
6. 同 畝と畝間
7. 同 畠を横切る小道
8. 同 畝間を掘り残した小道
- P L 108. 1. A 6 区北区上面畠礫出土状態(北から)
2. 同 畝の列(北西から)
3. 同 畝の列(南西から)
4. 同 据石部分裁ち割土層断面(西から)

5. 同 北壁土層断面B-B'(南から)
6. 同 拡張区上面島の畝(南から)
7. 同 拡張区北面壁土層断面B-B'(南から)
- PL109. 1. A6区北区下面島(南東から)遠くに早川が見える
2. 同 全景(東から)
- PL110. 1. A6区北区下面島全景(西から)
2. 同 西壁土層断面A-A'(東から)
3. 同 上面島と同じように曲がる畝(東から)
4. 同 二股畝(PL107-5の下層)
5. 同 斜面の畝間
6. 同 北壁土層断面B-B'と畝の空白部(南から)
7. 同 斜面の畝間・拡張区上面島(南から)
8. 同 拡張区最下面島(南から)
- PL111. 1. A6区北区最下面島
- PL112. 1. A6区中央区南半1・2面島全景(南東から)
2. 同 全景(南東から)
3. 同 全景(北から)
4. 同 土層断面G-G'(南から)
5. 同 土層断面G-G'の畝の重複(南から)
- PL113. 1. A6区中央区南半3面島全景(南東から)
2. 同 北半3面島全景(北西から)
- PL114. 1. A6区中央区南半3面島全景(北東から)
2. 同 全景(北西から)
3. A6区中央区南半4面島全景(南東から)
4. 同 全景(北西から)
5. 同 畝間溝の列(北から)
- PL115. 1. A6区中央区北半4面島全景(南東から)
2. 同 全景(北東から)
3. 同 土層断面K-K'(東から)
4. 同 調査風景
5. A6区中央区5面島と土層断面G-G(南から)
- PL116. 1. A6区南区II面島全景(北東から)
2. 同 土層断面M-M'(東から)
3. B3区北半島全景(西から)
4. B3区南半島畝(南西から)
5. 同 畝土層断面P-P'(北東から)
6. A7区島全景(南西から)
- PL117. 1. A4区竪穴状遺構全景(北西から)
2. 同 土層断面A-A'(西から)
3. 同 土層断面B-B'(北東から)
4. A2区162号土坑全景(南西から)
5. 同 遺物出土状態(南西から)
- PL118. 1. A2区14号溝全景(西から)
2. 同 土層断面(西から)
3. A2区16号溝全景(南西から)
4. A2区17号溝全景(南西から)
5. A2区12号溝全景(西から)
6. A2区13号溝全景(北から)
7. A3区7号・8号溝全景(北西から)
8. 同 全景(南東から)
- PL119. 1. A3区7号溝土層断面(西から)
2. A3区8号溝土層断面(西から)
3. A3区9号・10号溝全景(南東から)
4. A3区9号溝土層断面A-A'(東から)
5. A3区9号・10号溝土層断面B-B'(南から)
6. A3区10号溝土層断面A-A'(東から)
7. A3区11号溝全景(南東から)
8. 同 土層断面B-B'(南から)
- PL120. 1. A3区11号溝土層断面A-A'(北西から)
2. A4区18号溝全景(北から)
3. A6区1号溝全景(南東から)
4. 同 全景(北西から)
5. 同 土層断面A-A'(西から)
- PL121. 1. A6区1号溝土層断面E-E'(北西から)
2. A6区2号溝土層断面A-A'(南西から)
3. A6区3号溝全景(南西から)
4. 同 土層断面A-A'(南西から)
5. A6区5号溝全景(東から)
6. 同 土層断面A-A'(東から)
7. 同 土層断面C-C'(西から)
8. A6区6号溝全景(東から)
- PL122. 1. A6区19号溝全景(北西から)
2. B2区22号溝全景(東から)
3. 同 土層断面(南西から)
4. 同 土層断面A-A'(北東から)
5. B2区23号溝全景(南東から)
6. 同 土層断面(東から)
- PL123. 縄文時代の出土遺物
PL124. 縄文時代の出土遺物
PL125. 縄文時代の出土遺物
PL126. 縄文時代の出土遺物
PL127. 縄文時代の出土遺物
PL128. 縄文時代の出土遺物
PL129. 縄文時代・古墳時代の出土遺物
PL130. 古墳時代の出土遺物
PL131. 古墳時代の出土遺物
PL132. 古墳時代の出土遺物
PL133. 古墳時代の出土遺物
PL134. 古墳時代の出土遺物
PL135. 古墳時代の出土遺物
PL136. 古墳時代の出土遺物
PL137. 古墳時代の出土遺物
PL138. 古代の出土遺物
PL139. 古代の出土遺物
PL140. 古代の出土遺物
PL141. 古代の出土遺物
PL142. 古代の出土遺物
PL143. 古代の出土遺物
PL144. 古代の出土遺物
PL145. 古代の出土遺物
PL146. 古代の出土遺物
PL147. 古代の出土遺物
PL148. 古代の出土遺物
PL149. 古代の出土遺物
PL150. 古代の出土遺物
PL151. 古代の出土遺物
PL152. 古代の出土遺物
PL153. 古代の出土遺物
PL154. 古代の出土遺物
PL155. 古代の出土遺物
PL156. 古代の出土遺物
PL157. 古代の出土遺物
PL158. 古代の出土遺物
PL159. 古代の出土遺物
PL160. 古代の出土遺物
PL161. 古代の出土遺物
PL162. 古代の出土遺物
PL163. 古代の出土遺物
PL164. 古代の出土遺物
PL165. 古代の出土遺物
PL166. 古代の出土遺物
PL167. 古代の出土遺物
PL168. 古代の出土遺物
PL169. 古代の出土遺物
PL170. 古代の出土遺物
PL171. 古代の出土遺物
PL172. 古代・近世の出土遺物
PL173. 近世の出土遺物
PL174. 近世の出土遺物
PL175. 旧河道・遺構外の出土遺物
PL176. 遺構外の出土遺物
PL177. 表採の出土遺物

第1章 三ツ木皿沼遺跡の概要

第1節 調査に至る経緯

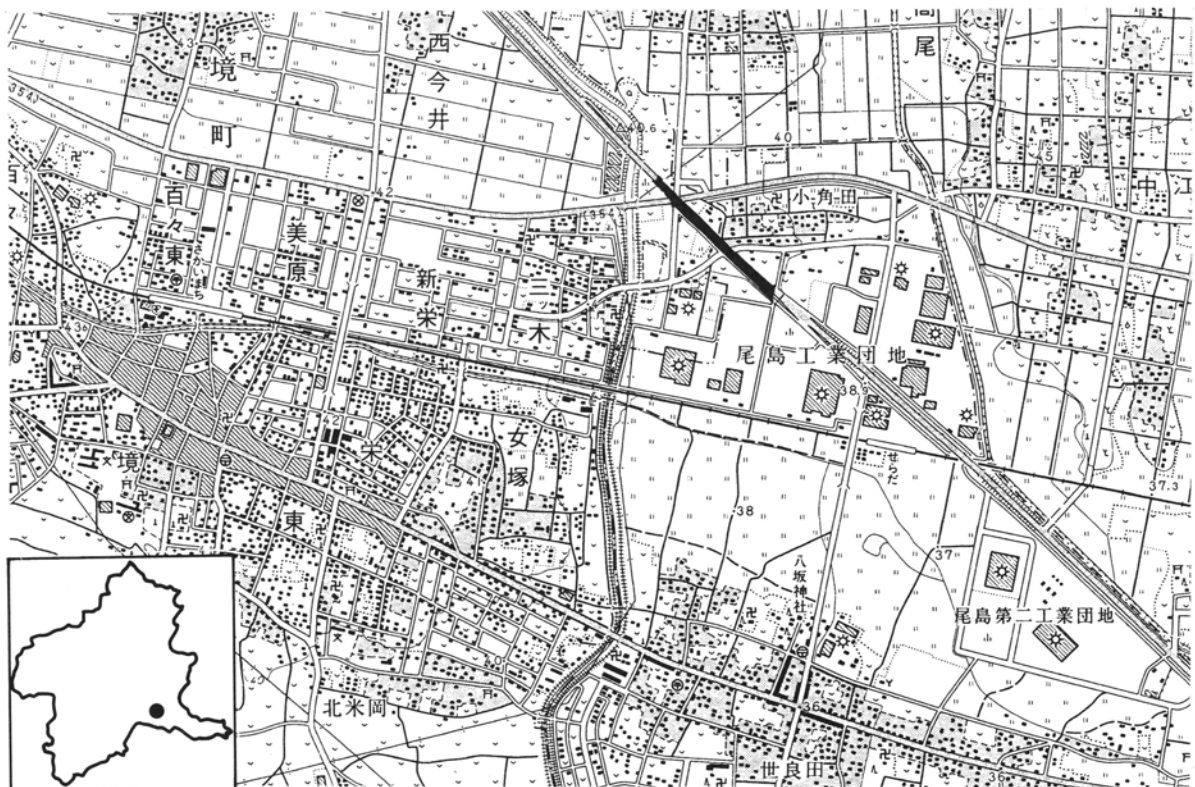
尾島・境立体橋の事業は上武道路と交差する広域幹線道路(国道354号線)の整備に伴って計画されたもので、上武道路の沿線での交通混乱の解消と道路交通の安全を確保する目的で進められた。工事対象地域は、新田郡尾島町世良田地先から佐波郡境町三ツ木地先に至る延長2.2kmの上武道路連続立体橋の建設地域であった。

この地域は、かつて上武道路の建設に伴って遺跡の発掘が行われたところでもあったため、群馬県教育委員会は試掘調査を実施した。その結果、工事対象地域である上武国道の拡幅に伴う両側の帯状の範囲に遺物包含層が確認され、発掘調査の対象であることとなった。

尾島・境立体橋事業は平成2年度から用地買収が始められ、平成5年度から工事に着手した。発掘調査は平成5年度に開始された。しかし、用地買収の進捗がはかばかしくなかったために、調査は用地買収の完了した地籍から逐次進められることになり、平成7年度と9年度にもまたがったものになっていた。

そのために、年次を替えて数多くの発掘担当者が投入されることになり、統一した調査方針がとれなかった。さらに、各年次の発掘区が狭小であったことも相まって、発掘方法や地層名の統一性に欠けたものになっているところもある。

なお、一般国道354号線の工事に伴って発掘調査が実施された下田中中道遺跡は、本事業で調査された三ツ木皿沼遺跡A6区に隣接した遺跡である。



第1図 三ツ木皿沼遺跡の位置 (1:25000)

第2節 遺跡の位置と地形

三ツ木皿沼遺跡は、群馬県平野部の中央、佐波郡境町と新田郡新田町・尾島町の三町が接する位置にある。発掘調査対象地は国道17号線(上武道路)が国道354号線のバイパスと交差する地点から南東方向に広がっていた。

この地域は、足尾山地と赤城山の間から南流する渡良瀬川が形成した大間々扇状地の南西の一角にあたる。大間々扇状地は、大間々町を扇頂とし、伊勢崎市と太田市を結んだ線を扇端とする、南北17km、東西13kmの、日本で3番目に大きな扇状地である。大量の砂礫を山麓から運んできた渡良瀬川は、扇状地を形成した後、今は扇状地の東側にある八王子丘陵の東側に流路を変更している。河川のなくなった扇状地地域は台地化し、乏水性の地域となっている。しかし、扇端部には湧水池が並び、原始古代から人々の生活に大きく影響を与えてきた。

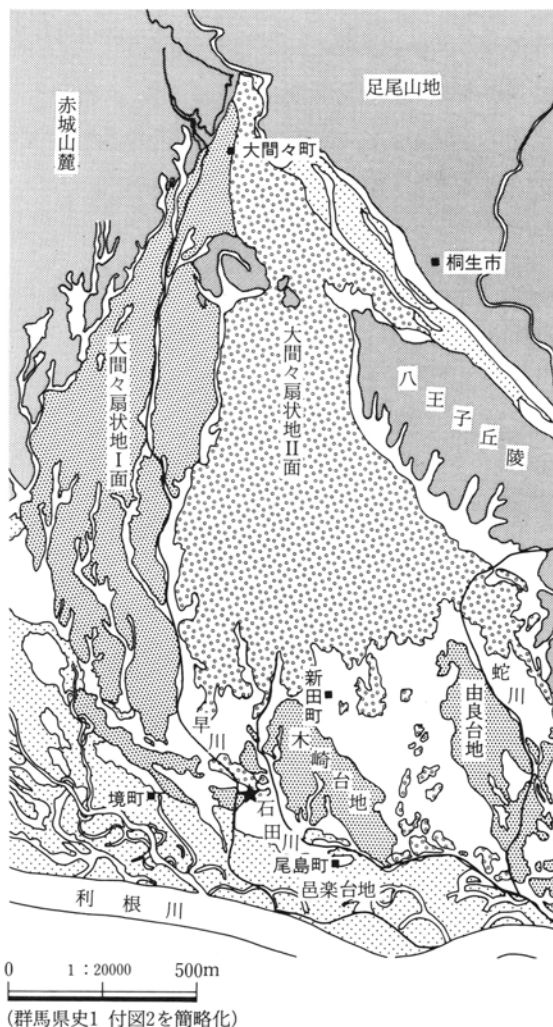
大間々扇状地は、大きくI面とII面に分けられている。I面は赤城山南麓地域と早川で区切られる地域で、桐原面とも呼ばれている。この扇状地I面には湯ノ口軽石以上のテフラが堆積しており、5万年ほど前に形成された段丘と考えられている。現在では、開析がすすんで樹枝状に多くの谷地が入り組んでいる。

大間々扇状地II面は、早川と八王子丘陵に区切られた低位段丘である。段丘化した時期の順に岩宿面(鹿沼軽石以上のテフラ・約3万年前)・藪塚面(始良Tn火山灰以上・約2万数千年前)・大間々面(板鼻褐色軽石群以上・約2万年前)の3つにさらに分けられている。ローム層直下に堆積する扇状地礫層の厚さは扇央で約20m、扇端で約10~15mに及ぶといわれている。地下水はこの礫層下を流れているために、扇状地地表面は欠水性の乾燥地となっている。

I・II面ともに、伏流する地下水が湧き出し、扇端部には数多くの湧水池が点在している。そこから流出する湧水が小河川となり、扇端低地のなかを南

流している。扇端低地内には、渡良瀬川の侵食をまぬがれた木崎台地・由良台地がある。これらの台地はローム層が堆積している洪積台地で、旧石器時代からの遺跡が分布している。台地の周辺には広大な扇端低地が広がっており、小さな低い台地が低地内に点在している。

三ツ木皿沼遺跡は、このような大間々扇状地扇端低地内にある低台地とその周辺に立地する(第2図★印)。遺跡周辺は一見平坦に見受けられるが、微高地状にやや高くなっている。現在は小角田の集落がある。ここには砂質の土壌が堆積しており、乾燥した畑地となっていた。この低台地にはAs-YP:板鼻黄色軽石以上のローム層が堆積しているが、水性堆



第2図 大間々扇状地と三ツ木皿沼遺跡

積の様相が顕著である。

遺跡の西方を流れる早川は赤城山から流下する小
河川である。この河川は赤堀町より南側では、大間
々扇状地の新旧2面の段丘の境になっている。早川
の西側が古期扇状地のI面、東側が新时期扇状地のII
面である。

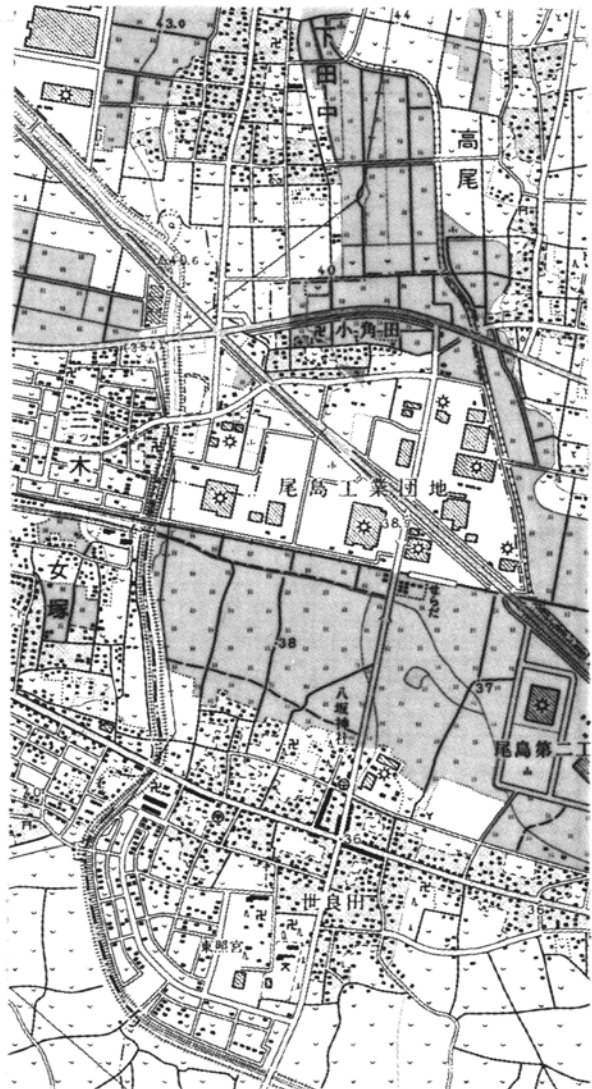
扇状地I面の東縁を南流した早川は、新田町・尾
島町内に入ると、現在は上武道路に沿った南東方向
の直線的な流路となり、遺跡の北側で急に南へ流路
を変えている。明治18年陸軍が測量した迅速測図を
見ると、すでにこのときには三ツ木の北で流路が大

きく南に変わっている。しかし河道は蛇行が著しく、
曲流していたことがわかる。

後述するように、三ツ木皿沼遺跡の調査では、平
安時代の遺構を削平する旧河道をいくつかの地点で
検出した。各地点で検出された旧河道をつなぐと曲
流する河道を復元できる。さらに南側の尾島工業団
地遺跡でも、早川の旧河道が検出されている。した
がって平安時代以降のある時期には、早川は明治18
年の河道より東を蛇行しながら南東方向に流れてい
たのであろう。小角田の集落周辺の低台地に堆積し
ているのは砂およびシルトである。これは早川の洪



明治18年陸軍迅速測図「境町」「深谷驛」



国土地理院1/2.5万地形図「上野境」

第3図 三ツ木皿沼遺跡周辺の地形変化

水による堆積物と考えられる。以上のような旧河道の検出状況や洪水堆積物の状況から、早川は洪水と蛇行を繰り返しながら流路を東から西へ変えていったと推定される。

また、小角田の集落のある低台地の東側には、北方の扇端にある湧水池から石田川が南流している。石田川の水源となっている矢太神沼湧水池の周囲には縄文時代の遺跡があり、古くから湧水池が人間生活にかかわってきたことを示している。湧水池から流れ出る河川は、狭いながらも帯状の低地を付随しており、小規模ながら安定した水田生産域となりうる地形を呈している。

このような地形環境のなかで、三ツ木皿沼遺跡の調査では、大間々扇状地や早川の動向と大きく関わった遺構が検出された。隣接するいくつかの発掘調査成果や遺跡分布調査と考え合わせると、乏水性の扇状地地域内における人間活動を明らかにすることができる地域である。

第3節 周辺の遺跡

三ツ木皿沼遺跡では、縄文時代の住居・土坑、古墳時代の住居・墓、平安時代の畠・住居・土坑・鉄生産関連遺構・祭祀跡等が検出されている。ここでは三ツ木皿沼遺跡を理解するために、三ツ木皿沼遺跡のおかれている歴史的環境について、周辺の遺跡のあり方から述べる。なお、周辺の各遺跡の位置は第4図に番号で示し、遺跡の個別内容については第1表にまとめた。

1. 旧石器時代

大間々扇状地地域には、日本の旧石器研究の先駆けとなった岩宿遺跡がある。岩宿遺跡は扇状地扇頂部の岩宿面にある残丘上にあり、板鼻褐色軽石層下、始良 Tn 火山灰層下の2枚の文化層が確認されている。

三ツ木皿沼遺跡周辺では、扇状地端部や木崎台地・由良台地といった洪積台地上に旧石器時代の遺跡が分布する。これらはほとんど終末期の遺跡で、尖頭器の出土が目立っている。

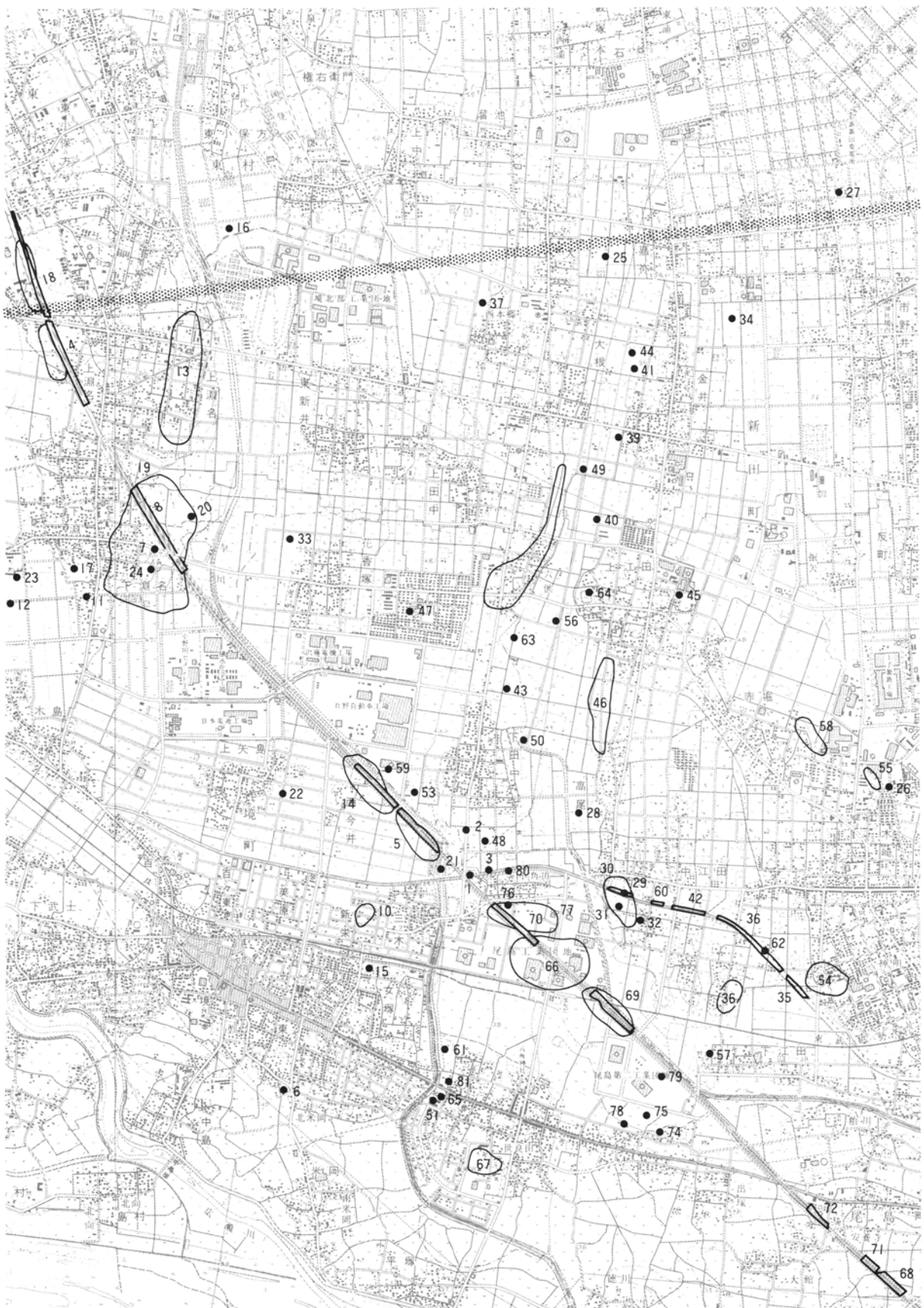
2. 縄文時代

大間々扇状地地域に縄文時代の遺跡は数多く分布する。縄文時代の全時期を通じて250遺跡ほどの遺跡がある。これらの遺跡は、乏水性の高い扇状地II面内部には分布しない。開析された帯状低地あるいは扇端部の湧水池の周辺に分布している。このような遺跡分布は、集落が狩猟・採集社会の居住域が飲料水を得るための水場の近くにあることを示している。このような自然地形に依拠した縄文時代の遺跡分布から、逆にその地域の自然環境の本来の姿を知ることができる。

三ツ木皿沼遺跡周辺では、隣接する尾島町小角田前遺跡で堀ノ内II式の円形住居を調査している。また三ツ木皿沼遺跡から北方4kmにある扇端湧水池「矢太神沼」の周囲に立地する新田町矢太神沼遺跡では後期堀ノ内I式の円形住居を調査している。新田町一丁田遺跡では中期加曾利E4式の柄鏡形住居を検出している。

3. 弥生時代

東毛地域には、弥生時代の遺跡が少ないと言われている。しかし、遺物が出土したり、遺構が検出されている遺跡は確実に存在する。三ツ木皿沼遺跡周辺では弥生時代前期終末と考えられている条痕文土器が出土した阿久津宮内遺跡、中期前半の須和田式土器が出土した長楽寺遺跡、中期の土器が出土した歌舞伎遺跡がある。これらの前期末から中期前半の遺跡の分布は、大間々扇状地南部の扇端低地内の微高地や利根川自然堤防にやや偏って見える。また中期後半の遺跡は検出されていない。しかし、今後の調査の進展によっては、台地部の遺跡や中期後半の遺跡が発見される可能性は残されている。



第4図 周辺の遺跡分布図

第1章 三ツ木皿沼遺跡の概要

第1表 三ツ木皿沼遺跡周辺の遺跡 ○は遺構検出 △は遺物出土

No	遺跡名	市町村	旧石器時代	縄文時代						弥生時代		古墳時代						奈良時代	平安時代		中世	備考			
				草創期	早期	前期	中期	後期	晩期	前期	後期	前期			中期				後期				住居	生産	
												住居	墓	生産	住居	墓	生産		住居	墓					生産
1	三ツ木皿沼遺跡	境町・新田町・尾島町						○						○				○	○	島					
2	下田中川久保遺跡	境町・新田町・尾島町																							
3	下田中道遺跡	境町・新田町・尾島町									○														
4	上瀬名裏神谷遺跡	境町		△							○						○	○			水田	時期不明島			
5	三ツ木遺跡	境町				△		△			△		○					○	○						
6	北米岡遺跡	境町						○					○												
7	明神遺跡	境町									△							○	○						
8	下瀬名塚越遺跡	境町									△	○			○	○		○	○						
9	伊勢崎工業団地遺跡	佐波郡東村										○	○	○			○	○	○			製鉄炉			
10	西林遺跡	境町										○					○								
11	出口遺跡	境町										○	○		○			○	○			祭祀			
12	島海戸遺跡	境町										△							○						
13	上瀬名古墳群	境町										△								○	△				
14	西今井遺跡	境町・新田町											△				○	○							
15	女塚遺跡	境町															○								
16	鶴巻古墳	佐波郡東村															○					角閃石安山岩使用の横穴式石室			
17	土橋遺跡第3地点	境町																							
18	三室間ノ谷遺跡	境町															○				水田	橋・木製品出土			
19	下瀬名遺跡	境町														○									
20	寺家前遺跡	境町																		○					
21	三ツ木越戸遺跡	境町																		△					
22	上矢島遺跡	境町																		○					
23	土橋・三ツ古屋遺跡	境町																			B下溝				
24	大國神社	境町																				延喜式内社			
25	東原遺跡	新田町	○																						
26	大通寺東遺跡	新田町	○																						
27	愛宕遺跡	新田町	○																						
28	台遺跡	新田町	○					○										○	○						
29	中江田A I 地点遺跡	新田町		○	○	○					○樽														
30	中江田A II 地点遺跡	新田町			○	○																			
31	中江田B 地点遺跡	新田町	○	○	○	○																			
32	中江田C 地点遺跡	新田町	○	○																					
33	梨子木遺跡	新田町	○		○	○		○			○樽・赤											瓦			
34	重殿遺跡	新田町	○			○	○	○				○				○			○	○					
35	花園遺跡	新田町	○								△					○			○						
36	中江田原遺跡	新田町	○		○	○	○				△								○	○					
37	団藏坊遺跡	新田町			○			○																	
38	長命寺裏遺跡	新田町			○			○																	
39	新屋敷遺跡	新田町			○	○	○	○				△													
40	一丁田遺跡	新田町					○																		
41	矢太神遺跡	新田町					○	○			○赤														
42	中江田本郷遺跡	新田町					○									○			○	○		○			
43	瀬六塚遺跡	新田町					○	○											瓦						
44	矢太神沼遺跡	新田町						○																	
45	東田遺跡	新田町									○樽・灰				○							○			
46	谷津遺跡	新田町									○	○								○					
47	下田中遺跡	新田町									○			○						○					
48	中道遺跡	新田町									○									○					
49	大根南遺跡群	新田町									△														
50	谷津遺跡	新田町									△										△				
51	今井遺跡	新田町									△										△				
52	下田遺跡	新田町									△										△	○			
53	諏訪下遺跡	新田町													○										
54	木崎中学校校庭遺跡	新田町													○										
55	大通寺後遺跡	新田町																							
56	西田遺跡	新田町																		○		年代不明の長方形土坑・住居から樽出土			
57	矢抜神社古墳(二ツ塚)	新田町																		○		前方後円墳、角閃石安山岩使用の横穴式石室			



第5図 発掘された周辺の遺跡

谷遺跡、新田町西田遺跡等のように古墳時代後期から始まる遺跡もある。これらの遺跡は耕地拡大に伴った新しい集落の可能性がある。

尾島工業団地遺跡の発掘成果からは、6世紀代に竪穴住居数の激増があり、この背景には農耕地の飛躍的な拡大があると指摘されている。この傾向は周辺の歌舞伎遺跡や小角田前遺跡、世良田諏訪下遺跡等の集落動向と連動し、古墳時代の地域構造を考える上で重要である。

古墳群は境町の淵名や、尾島町の小角田等に確認されている。古墳群は6世紀以降の小円墳による形成が知られているが、境町下淵名塚越遺跡では古墳群の始まりが5世紀後半に遡ることが確認されている。これらの古墳群には数10m規模の前方後円墳も含まれている。

三ツ木皿沼遺跡のある低台地上には小角田古墳群があり、現存しないが前方後円墳が発掘区に隣接して存在したことが『上毛古墳総覧』の記述にある。それによれば世良田36号墳は72.0m、世良田37号墳は90.0mの規模であり、豊富な形象埴輪や副葬品の出土が知られている。

南に隣接する尾島工業団地遺跡では低地に埋まった全長50mの前方後円墳鼠塚古墳が調査されている。また、尾島工業団地遺跡内の水窪遺跡では5世紀後半および6世紀初頭の豪族居館が調査されている。また世良田諏訪下遺跡では72基の古墳が調査され、5世紀後半から7世紀代の古墳群と判明している。

4. 古代

三ツ木皿沼遺跡の周辺は古代の佐位郡・新田郡に当たる。概ね扇状地Ⅰ面が佐位郡、Ⅱ面が新田郡と考えられる。扇状地の先端部には新田町東部や境町十三宝塚遺跡で調査された8世紀の東山道と推定される道跡をつなぐルートが推定されている。その周辺には郡衙、駅家、あるいは寺院と考えられている十三宝塚遺跡や新田町入谷遺跡・天良七堂遺跡等があり、大間々扇状地扇端地域が奈良時代の中心的地域のひとつであったことが推察される。

奈良・平安時代の集落遺跡は、点在していた古墳時代の遺跡が拡大している場合と、周辺の開発されていなかった地点の耕地開発を背景にして新しく集落がつくられた場合の両方があり、さらに遺跡の数は増加している。東村の伊勢崎東流通団地遺跡や尾島町の尾島工業団地遺跡では数100軒におよぶ奈良・平安時代の住居が調査されている。

これらの集落の生産基盤であった水田や畠も調査されている。尾島町世良田諏訪下遺跡では弘仁九(818)年の地震災害に伴う洪水で埋まった水田とそれを復旧した水田が見ついている。尾島町小角田遺跡群では台地縁辺で洪水層下の畠、低地では浅間B軽石下の水田が検出されている。この洪水層下の畠は下田中川久保遺跡・下田中中道遺跡でも検出されている。尾島工業団地遺跡で検出されている畠も洪水砂で埋まっており、三ツ木皿沼遺跡を含む周辺遺跡に畠作耕地が広がっていたことが発掘調査で判明しつつある。

5. 中世

本地域は12世紀にはいると、古代佐位郡は淵名荘へ、新田郡は新田荘に継起していく。淵名荘は文献が少なく成立の過程は明らかになっていないが、1130(大治5)年に仁和寺の法金剛院領の荘園として成立したと推定されている。新田荘は1157(保元2)年の文献によって、この年新田義重の寄進によって成立したとされている。群馬県地域は1108(天仁元)年の浅間山噴火によって甚大な火山災害を受ける。三ツ木皿沼遺跡周辺は、1172(仁安3)年の『新田義貞譲状』に「空閑の郷々」と記された郷にあたる。「空閑の郷々」は浅間山の火山災害を受けて荒廃した土地で、その再開発によって荘園化が進められたと推定されている。

新田町には中世館の地割りを残す館跡が点在し、発掘調査でも新田町東田遺跡等で有力農民の屋敷跡が調査されている。中世村落の発掘例はないが、平安時代の遺跡分布は中世郷の分布と重複しており、一般農耕集落は継続していたものと推定される。

第2章 発掘調査の概要

第1節 発掘調査の方法と経過

1. 発掘区の設定

今回の発掘調査は、上武道路と国道354号線との立体橋建設工事に伴って実施されたので、発掘対象地域は上武道路本線の両側に沿う細長い地域で、さらに既存の道路や水路で分断されていた。また、用地買収状況も一様でなかった。そこで既存道水路での区画が最も今後の調整および調査の単位となることが予想されたため、発掘調査区もこの既存の道水路の区画によることとした。第2図に示したような発掘区を設定し、調査・記録した。

各発掘区の名称は、平成5年度の調査当初に、次のように付けた。まず上武道路の前橋方面を向き、右側をA区、左側をB区とした。さらに尾島町方面からそれぞれA1区、A2区・・・A7区、B1区・・・B4区とした。

A1区およびB1区は最も南東隅の発掘区であるが、端部が鋭角な三角形で細く狭くなっている。平成9年度に調査可能地域となったが、発掘調査は困難と判断され、調査は断念された。したがってA1区・B1区の調査記録はない。

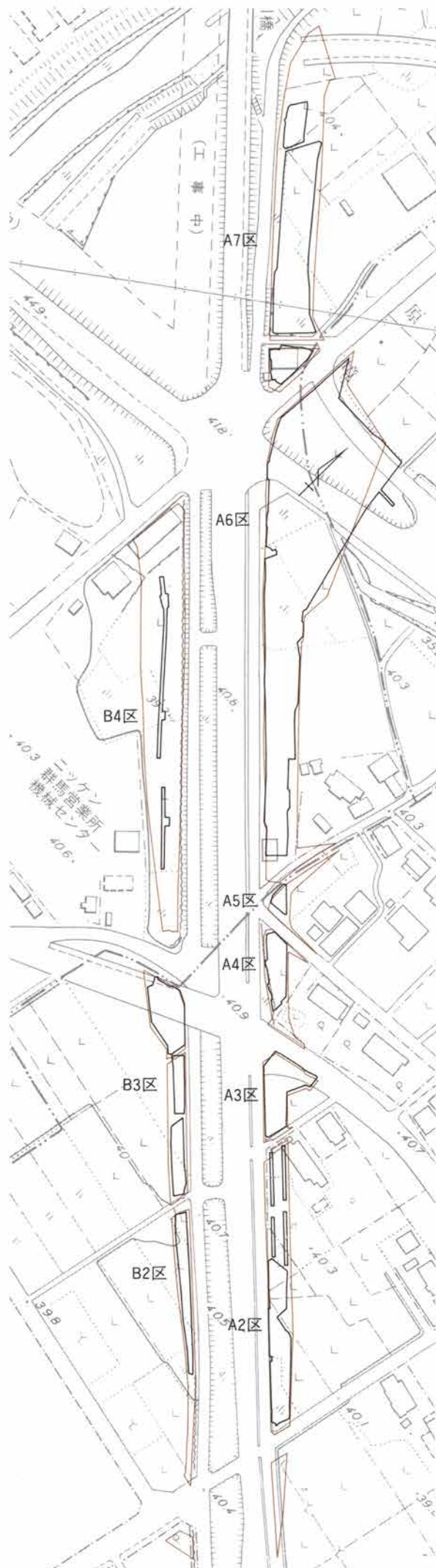
以下に調査年度・調査区別に発掘調査の方法と経過を述べる。

2. 調査の方法と経過

(1) 平成5年度

平成5年度は本事業の当初年度にあたり、まず調査対象地域を明確にするために道路巾杭の確認をおこなった。当初は上物が撤去されていない地点や買取契約の済んでいない地点があり、平成5年度の調査は、A6区の一部、A3区、A2区の一部、B3区の一部と分断されることになった。

A6区 まず、重機によりA6区の北部の表土を剥



第6図 発掘区の設定

いで調査に入った。表土下の面ではローム台地部分に平安時代の住居や縄文時代の土坑を確認した。砂やシルトが堆積した低地部では溝数条を確認したが、その時期を明確にすることはできなかった。このうち2号溝や3号溝は下層で検出される旧河道が埋まってから掘り込まれていた。低地部のこの面では、平安時代の住居は確認できなかった。

最初の遺構面調査終了後、低地部の下層の遺構を確認するために、重機で試掘溝を設けた。その結果砂質土層中に平安時代の遺構確認面と、それらの遺構に切られる2面の畠が存在することが明らかとなった。

平安時代の遺構確認面まで重機で掘り下げ、平安時代の住居や土坑の調査を実施した。住居や土坑の平面図・断面図は1/20で、竈等の部分図は1/10で記録した。写真は、6×7および35mmカメラでモノクロとりバーサルを撮影した。遺構の記録の方法は、3次にわたる調査でほぼ同様である。平安時代遺構の調査終了後、全景空中写真を撮影した。

次に畠の調査にはいった。畠の調査にあたってはグリッドにそって、畠にほぼ直交する土層観察用のベルトを残した。その後、手掘りで洪水砂を剥がして遺構面の精査をおこなった。畠は空中写真を撮影し、航空測量で畠および畠溝の上場・下場と等高線を記録した。下層の畠の存在は確認済みであったので、同じ位置に土層観察用のベルトを残して、手掘りで掘り下げた。下層の畠も空中写真を撮影し、航空測量で畠および畠溝の上場・下場と上層の畠の痕跡溝そして等高線を記録した。また、発掘区の壁の土層を観察して畠の重複や、住居等の遺構との関係に留意した。土層は1/20で断面図を記録した。

畠調査が進んだ段階で、4D～4F-6～13グリッドの一部が委託者の理解を得て発掘対象地になった。ここは国道354号線の改良工事に伴う調査の時に未買収で調査できなかった地点である。平安時代の住居の調査は同一に実施できなかったため、写真や図面の記録が分断されたものもある。報告書ではそれらを合成して図面とした。畠は、最上面が新しい

発掘区で確認できるなど成果があった。この新たに発掘区に加わった部分は畠の確認面では地形が大きく下がっているところで、面のつながりの確認が困難であった。

下層の畠の直下には畠の存在は確認されていなかったため、次に堆積している土層の色調が大きく変わる高さまで重機で掘り下げた。やや黒色のシルト質土上面で平安時代の住居3軒と、3群の畠間の溝群を検出した。この面では東半分には古い旧河道の砂が堆積していた。住居は個々に調査・記録をおこない、畠は空中写真を撮影し、航空測量で畠間の溝の上場・下場と等高線を記録した。

黒色シルト質土層の下位は、2m×2mの試掘溝を8か所設定し、黒色シルト質土および下部の灰褐色砂層を掘り抜いた(第34図)。4K-10グリッドで縄文土器が出土したが、遺構は検出されなかった。南東部のローム台地裾部には古墳時代土器および縄文土器の包含層があり、グリッドごとに取り上げた。また、ローム台地の試掘を実施し、旧石器の出土が無いことを確認した。

A3区 A3区はA6区と同様に表土下の面で、東西方向の溝を数条確認した。また中央部では1軒だけ平安時代の住居を検出した。A3区は北西隅がやや削られたローム台地で、ローム台地上面まで下げて古墳時代や縄文時代の遺構を確認した。北西隅の低地にはA6区と同様に砂・シルトが埋まっていた。ローム層中には浅間起源の軽石層があり、旧石器の出土も予想されたため、試掘調査を実施したが、遺物は確認されなかった。

B3区 B3区は県道太田境線との交差点の南にあたる。平成5年度はB3区のうち交差点に近い北西部を調査した。ここはA3区の低地部の続きの地点にあたる。ここも表土下の面で遺構を確認作業を行ったが遺構はなかった。さらに低地に堆積する砂・シルト層を掘り下げて、畠を確認した。その下層については確認調査をおこなったが、旧河道を確認したにとどまった。

A2区 A2区は南半分を調査した。この区は表土

第2章 発掘調査の概要

を剥いだローム層上面で遺構を確認した。近世以降と思われる直線志向の溝をまず調査し、それらに先行する古墳時代の住居群を続けて調査した。住居は大型で深いものが多く、遺物の残存も良好であった。遺物を取り上げてから床面の精査を実施した。一部に黒色土で埋まる弧を描く凹地があったが、性格を明確にすることはできなかった。古墳時代の遺構の調査終了後、旧石器時代の遺物の有無を確認する試掘調査をおこなったが、遺物は検出されなかった。

(2) 平成7年度

平成7年度は、A4区・A5区・A6区の一部を調査した。

A6区 平成7年度に調査したA6区は、5年度調査区の南東に隣接するところである。遺構の写真や図面の記録は5年度に準じておこなった。表土下で平安時代の住居・土坑群を検出した。狭い範囲に多くの住居や土坑が重複して確認されたのに加えて、地山が砂質であったこともあり、住居の輪郭や床面の認定に手間取った。また、鉄生産関連遺構が2か所で住居に重複して検出された。炉壁や鉄滓が散乱して集中して出土したので、1/10の遺物分布図を作成した。平安時代の遺構全景を空中写真で撮影し、下層の畠の調査に移った。

畠は当初、5年度調査地点の畠が連続して確認されると思われたが、5年度と7年度の調査区の間、削り残されたローム台地が東方向に伸びており、畠は直接連続しないことが判明した。7年度調査区で確認された畠も洪水砂で重層して埋没しており、一部で5面の畠を断面観察で確認できた。二つの面を同時に掘り下げた地点もあったが、面の異なる畠は分けて掘り下げるように努めた。写真は各面ごとに空中写真を撮影し、畝および畝溝と等高線を航空測量をおこなって図化した。

畠の下層は、重機で遺構の有無の最終確認をおこなった。一部で縄文土器がまとまって出土したが、遺構は確認できなかった。

A5区 A5区は表土下で遺構を確認したが、検出

されなかった。全面にやや粗い砂・シルト質の土が堆積し、旧河道部にあったものと判断した。地表面下1.2mで浅間B軽石の水平堆積が認められたので軽石直下面の調査をおこない、写真撮影および平面図を記録した。

A4区 A4区は表土を剥いで、北西部が旧河道、南東部がローム台地であることが判明した。旧河道部には旧河道埋積後に掘り込まれた溝が確認されたのみである。台地は近世・平安時代・縄文時代の遺構がローム層上面の一面で確認され、それぞれの調査をおこなった。

(3) 平成9年度

平成9年度は調査の最終年度であり、残された発掘区の調査をおこなった。写真および図面の記録は5年度・7年度にほぼ準じておこなった。

A2区 A2区は5年度に南東部の調査をおこなったが、隣接する中央部の調査を9年度におこなった。表土下のローム層上面で遺構確認をした。中央部に浅間B軽石の堆積した凹地と、上武道路に接した部分で住居竈と推定される遺物集中を調査した。遺物の出土状態の微細図を作成した。

なお、A2区の北西部は用地買収が進まず、9年度でも調査を実施することができなかったが、整理事業をおこなった平成11年度に県文化財保護課が試掘調査をおこなった。この試掘調査では、遺構面の後世の攪乱が著しく、遺構が確認されなかったので本調査には至らなかった。

A6区 A6区は平成5年度・7年度に調査事務所のあった南東部の調査を実施した。土層観察をおこない、3面の遺構確認面で調査をおこなった。表土下の面では平安時代の住居群を確認し、下層の砂層中で平安時代の住居と畝間溝を検出した。さらにその下層で畝間溝と溝1条を検出した。住居は個別に写真・図面の記録をおこない、畠は全景写真を撮影し、溝とともに1/40の平面図、1/20の土層断面図の記録をした。

A7区 A7区は平成7年6月に、試掘調査を実施

し、調査区の確定がおこなわれた。A7区は旧河道に削り残された地形が複雑に入り組んだ地点で、南東部と中央部にローム台地が残っていた。ここではローム層上面で古墳時代と平安時代の住居を確認し、個別に調査・記録した。A7区北西部では砂・シルト質土が堆積する地点で、一部で畝間溝を検出し、全景写真および1/40の平面図・1/20の断面図で記録した。

B2区 B2区は遺跡南東部のローム台地の地点で、表土下のローム層上面で遺構確認をおこなった。ここでは古墳時代の遺構が検出された。また、縄文土器や石器の出土も多かった。

B3区 B3区は平成5年度に畝を調査した地点の南東部を調査した。砂質・シルト質土が堆積する北西部からローム台地が残る南東部へ、中央部で地形が変わる地点である。北西部では、5年度調査した畝につながるとされる畝が砂質土中で検出された。南東部ではローム層上面で遺構確認をおこない、古墳の周堀、平安時代の住居等を調査した。両地区とも個別遺構を調査・記録し、全景写真を撮影した。また、1/40の平面図・1/20の土層断面図を作成した。

B4区 B4区は調査区の土層断面から洪水砂が互層に堆積していることが判明した。そこでトレンチによる試掘調査を実施したところ、遺構・遺物はまったく検出されなかったため、トレンチ調査にとどまった。

第2節 遺跡の基本土層

三ツ木皿沼遺跡は、台地と低地と旧河道という、3つの地形に大きく分けて考えることができる。

台地部は、おもに水性堆積と考えられる黄褐色や褐灰色砂・シルトで構成されている。今回の調査で、この水性堆積物の中にいくつかのテフラが確認された。分析の結果、図示した2N-5グリッドの土層断面では、10・11層が浅間板鼻黄色軽石(As-YP：約1.3-1.4万年前)に、8層がAs-YPに伴う火山泥流と同定された。また、4L-50グリッドではAs-YP下層で浅間大窪沢第1軽石(As-0P1：約1.7万年前)が確認された。台地部ではローム層上面で縄文時代から近世にいたる遺構が確認できた。ローム層中の遺物は確認されなかった。

低地部は、台地を切る古い谷に砂やシルトが堆積した部分と考えられる。この谷は早川による侵食によって形成されたと考えられるが、現状では確定的でない。第7図4K-7グリッドの土層断面は、低地部の標準的な土層である。表土直下で中世以降と考えられる溝が確認でき、その下層10~20cmのシルト層中で平安時代の住居や土坑が確認できた。その下位には洪水砂に埋まった畝が検出された。畝は地点によって異なるが、2~5面の畝作付け面が埋没していた。この畝の下層にも砂やシルトが厚く堆積しているが、A6区北部だけ遺構が確認された。A6区北部では、畝の下位に黒灰色砂層が堆積しており、これを除去した黒色シルト質土面で奈良時代後半の住居と、畝の畝間の溝群を確認した。

黒色シルト質土はやや粘質で、白色軽石を含んでいる。これの軽石はテフラ分析によって、榛名二ツ岳火山灰(Hr-FA：6世紀初頭)と浅間C軽石(As-C：4世紀初頭)と同定された。これらのテフラを含む土層は、A6区中部やB3区の低地部でも確認された。

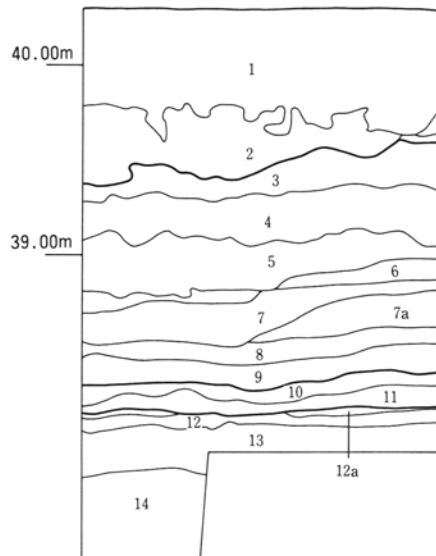
4K-7グリッド(A6区北部)では、黒色シルト質土の下位には灰褐色やにぶい黄褐色・灰色の砂が堆積し、黒色砂質土面から1.2m下で砂礫層(谷の基

第2章 発掘調査の概要

底) なる。その上部の灰色砂層中で出土した材はコナラで、その年代は 3270 ± 90 年の測定値が出ている。したがって谷の砂層はおよそ3300年前以降に堆積したと考えられる。この砂層中で、8層の灰褐色砂層は厚く堆積しており、第36図に示したような縄文土器や石器が出土した。

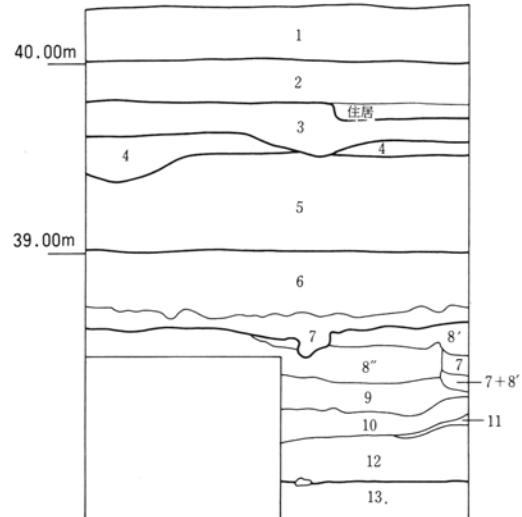
旧河道は、平安時代の遺構を切って、蛇行する河

道を示している。円礫や砂のラミナ堆積が見られる。A5区では、この旧河道の中央部に浅間Bテフラ(As-B:1108年)が堆積している。また、A6区では中世以降と考えられる溝が、旧河道が埋積してから掘られていた。したがって調査区内で確認した旧河道は平安時代以降中世以前の地形と考えられる。



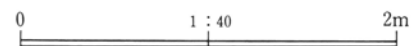
台地部 (2N-5グリッド)

- 1 表土。現代の耕作土。
- 2 黄褐色土層(10YR5/8)白色パミス(10mm程度)を少量含む。しまり強。ロームの再堆積の可能性あり。
- 3 黄褐色土層(10YR5/8)白色パミス(10mm程度)を少量含む。オリブ黄色の砂質土を部分的に含む。
- 4 黄褐色土層(10YR5/6)5層起源の褐灰色砂質土を多く含む。ロームを主体とする層。
- 5 褐灰色土層(10YR6/1)ロームを部分的にラナミ状に含む。
- 6 灰白色土層(10YR7/1)ロームを部分的にラナミ状に含む。粘質、しまり強。
- 7 褐灰色土層(10YR6/1)ラナミ状の堆積が認められる。部分的に赤褐色に酸化している。白色パミス粒(10mm程度)を部分的に含む。
7a層は7層と基本的には同じであるが、赤褐色に酸化している度合いが少ない部分。
- 8 橙色土層(7.5YR6/6)砂質土、粘土質土のラナミ状堆積が認められる。ピンク色の火山灰がラナミ状に認められる。
- 9 において褐色土層(7.5YR6/3)火砕流堆積物の再堆積土層。白色パミス粒(10mm程度)を部分的に含む。
- 10 浅黄色土層(10YR7/4)Y P。粒度の小さい部分。
- 11 浅黄色土層(10YR7/4)Y P。粒度の大きい部分。
- 12 灰オリブ土層(7.5YR6/2)粘土質。しまり非常に強い。
12aは赤褐色に酸化している部分。しまり非常に強い。
- 13 灰色土層(7.5YR6/1)粘土質。層全体に酸化部分が認められる。
- 14 灰色土層(7.5YR6/1)粘土質。



低地部 (4K-7グリッド)

- 1 黒褐色砂質土(7.5YR3/2)表土。
- 2 暗褐色シルト質土(10YR3/4)
- 3 灰黄色シルト質土(7.5YR4/2)
- 4 層上面 上面畠耕作面。
- 5 層上面 下面畠耕作面。下層は黒灰褐色粘質土。
- 6 黒色シルト質土 紫黒色(5 RP1.7/1)に近い。粘質。FAおよびAs-Cとみられる白色軽石小粒を多量に含む。部分的には、FAが堆積する層とAs-Cが集積する層に分けられる。
- 7 黒色粘質土 紫黒色(5 RP1.7/1)に近い。粘質。軽石を含まない。
- 8 灰黄褐色土(10YR6/2)砂質。
- 8' 3層に相当すると考えられるが、色調が暗く、やや粘質。(10YR4/3)
- 8'' 灰黄褐色粘質土(10YR4/2)
- 9 において黄橙色砂(10YR7/2)固く締まっている。
- 10 褐灰色土(10YR4/1)シルト、凹地部分のみに堆積しているとみられる。
- 11 において黄橙(10YR4/3)やや粗い砂。
- 12 灰色砂(N4/1)
- 13 砂礫層。



第7図 遺跡の基本土層

第3節 発掘区の概要

1. A2区

A2区は、ローム台地に立地する発掘区で、表土下のローム上面ですべての遺構を確認した。調査した遺構は、縄文時代の土坑1基、古墳時代の住居9軒、土器溜まり1か所、浅間Bテフラが堆積する黒色土の凹地2か所、近世の土坑1基、近世以降と考えられる溝13条、時期不明の土坑5基である。

縄文時代の163号土坑は、遺物が無く時期は不明であるが、埋没土の特徴から縄文時代の遺構とした。他に縄文時代の遺構は無い。北西部のローム台地縁辺に縄文時代の遺構の中心はあると思われる。

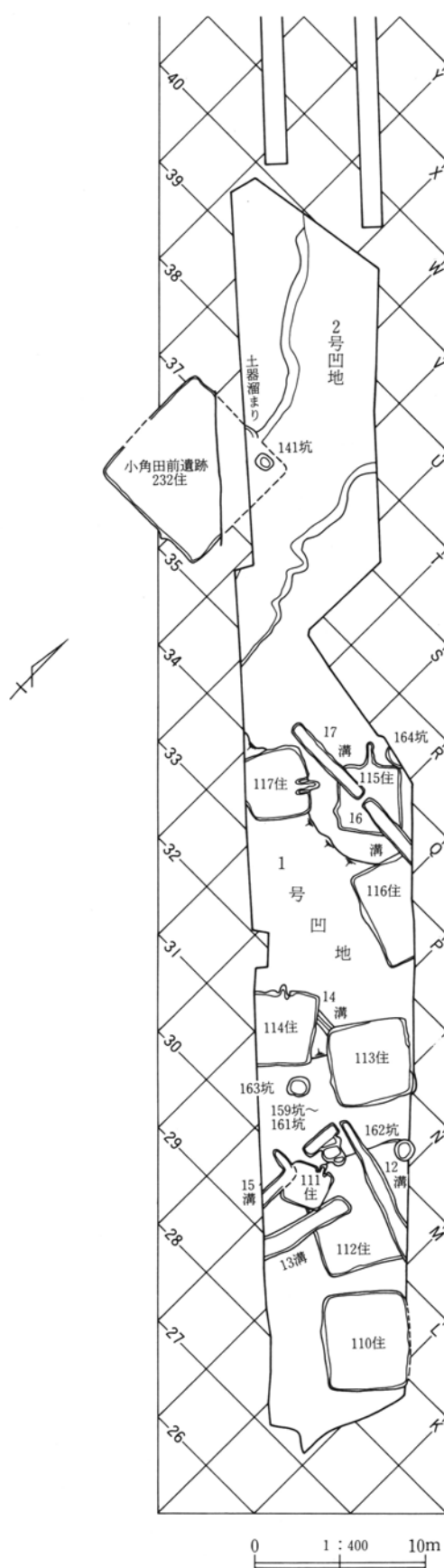
古墳時代の遺構は住居が重複あるいは近接して検出された。112号住居と110号住居は、一辺がそれぞれ6.5m、5.8mと大型で、111号住居は一辺2.5mと小型である。他の6軒は4～5mで中型である。時期は概ね6世紀初頭から後半と考えられる。

W-37・38グリッドで検出された土器溜まりは、発掘区南西壁に6世紀初頭の完形の土器が多数出土したが、調査時には遺構の性格を確定することができなかった。整理作業時に隣接して発掘調査した小角田前遺跡の遺構全体図と対応・照合したところ、232号住居の竈の可能性が高いことが判明した。土器溜まりに隣接して調査した141号土坑も住居北東隅に位置する貯蔵穴と考えられる。

A2区北西部では、黒色土で埋まる凹地が検出された。117号住居の埋没土を切って弧状に北西方向に掘られている。北西部中央には浅間Bテフラが堆積していた。出土遺物は縄文時代および古墳時代の土器で、古墳時代の遺構と考えられる。Q-33グリッドで出土した須恵器長頸壺の破片には、コンパス文が施されており、注目される。

近世の土坑は112号住を切って検出された。石製骨蔵器や板碑の破片が出土した。

他の溝や土坑の時期は、古墳時代の住居より新しいという所見以外は得られなかった。なお、2Aラ



第8図 A2区の遺構

第2章 発掘調査の概要

インから西は、試掘調査の結果、本調査とはならなかった。

2. A3区

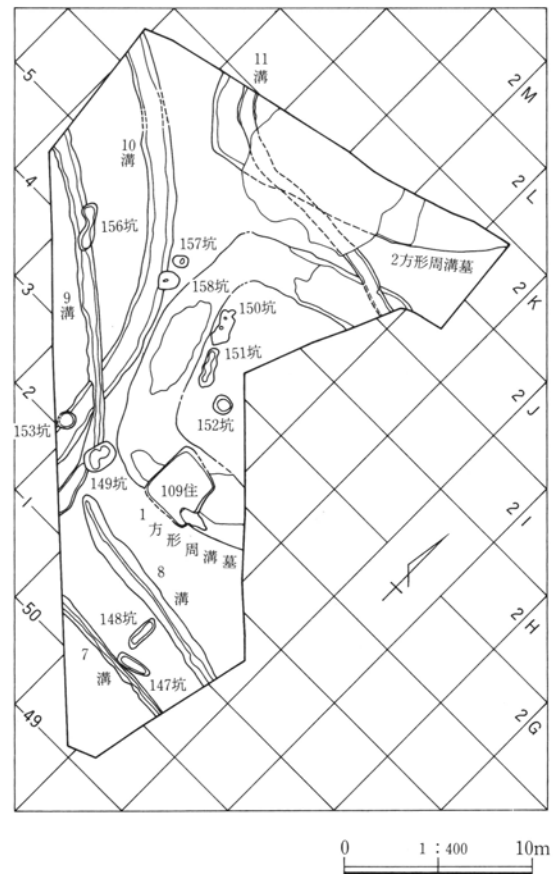
A3区は、県道太田境線との交差点の南東部にあたる発掘区である。ここもローム台地部分にあたるが、南西隅に低地部への傾斜変換点を確認できた。遺構はローム層上面で確認した。調査した遺構は、縄文時代の土坑9基、古墳時代の方形周溝墓2基、平安時代の住居1軒、近世以降と考えられる溝5条である。

縄文時代の土坑は9基確認された。形状は細長くやや不定型なもの(147号～151号・156号)と、円形のもの(152号・153号・157号)がある。土坑はローム台地の縁辺に点在していた。時期は概ね縄文時代後期で、称名寺式から加曾利b式の土器が出土した。また同時期の土器が1号方形周溝墓の周辺および周堀内で多数出土した。これらは、遺構に伴わない遺物として縄文時代の最後にまとめて報告した。

古墳時代の方形周溝墓は2基確認されたが、ともに発掘区域外に遺構が伸びており全掘できなかった。これらの周溝墓も台地の縁辺に主軸をあわせるように並んでいた。時期は1号方形周溝墓の周溝の出土土器から古墳時代前期と考えられ、2号方形周溝墓も遺物が出土しなかったので確定はできないが、同様な時期と考えられる。南東部の上武道路本線部分の発掘区でも台地縁辺に周溝墓が検出されており、古墳時代前期の墓域が台地縁辺に展開していたと理解される。

平安時代の住居は1号方形周溝墓の南周溝に重複して1軒のみ確認された。周辺には同時期の住居は確認できなかった。上武道路本線部分の発掘区では台地縁辺部には平安時代の住居は分布しないので、本住居は居住域の中心とはやや離れた住居と考えられる。

溝は5条が確認されたが、時期は明確にできなかった。古墳時代以前の遺構とはすべて後出する関係



第9図 A3区の遺構

にある。一部、上武道路本線部分で調査された溝につながる溝も確認された。

3. A4区

A4区は、ローム台地と旧河道に立地している。ほぼ2Yラインに旧河道の東端が位置している。A4区の西側1/3は旧河道で砂・シルトのラミナ状堆積になっていた。後述する西側のA5区では、旧河道の洪水堆積物の間に浅間Bテフラ(As-B:1108年)が堆積していたが、A4区では確認できなかった。旧河道の中にもいくつか時期の違う堆積単位があると考えられる。また、この河道が埋まった後に掘り込まれた溝1条を検出した。

その他の遺構はローム層上面で確認した。調査した遺構は、縄文時代の土器埋設土坑2基、土坑3基、

古墳の周堀と考えられる円形に巡る溝1条、平安時代の住居1軒、土坑2基、近世の竪穴状遺構1基である。

縄文時代の土器埋設土坑は称名寺式の大型深鉢土器をそれぞれ1個体ずつ埋設した楕円形の土坑である。他の縄文時代の土坑は、小型の120号土坑、楕円形の123号土坑、円形・フラスコ状の124号土坑である。すべて図示できなかったが、いずれも縄文時代後期の土器を多数出土している。また、これらの遺構の周辺では、遺構確認作業時に遺構に伴わない形で縄文土器が多数出土した。

古墳時代の遺構は、1号墳の周堀である。周堀の下半部が確認できただけで、盛り土および主体部は確認されていない。周堀埋設土からは古墳の時期を示すような遺物は確認されなかった。

平安時代の住居は攪乱が著しく、住居の平面形を調査で明らかにすることはできなかった。調査では完形に近い多くの土器や、竈の構造材として使用されたと考えられる整形軽石や礫の出土位置を記録した。遺構の掘り方も調査したが住居の輪郭はつかめなかった。ここでは銅製の片口鍋が出土している。

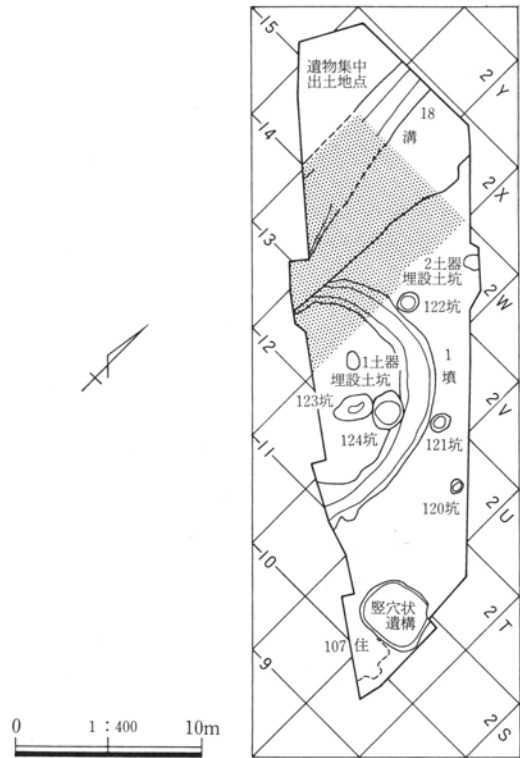
121号・122号土坑は時期は明確でないが、形態は円形・楕円形であり、他の調査区で検出した平安時代の土坑と同様であるので、平安時代のものと考えておきたい。

竪穴状遺構は、染付磁器や軟質陶器火鉢などの出土遺物の年代から18～19世紀の遺構と考えられる。火中の遺物も多いことから、家財道具を一括廃棄した穴と考えられよう。なお、中世および近世の遺物が竪穴状遺構を中心としたA4区東半部に多数出土した。

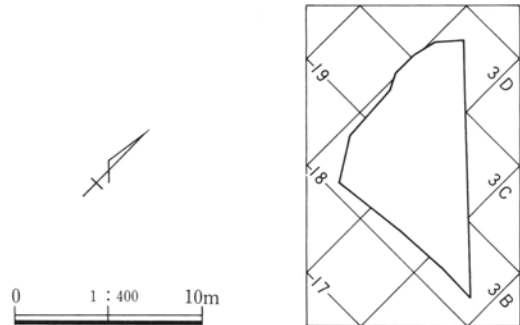
4. A5区

A5区は旧河道部の調査区である。ほぼ北から南に抜ける旧河道の西半が発掘区にあたったものとみられる。

発掘調査では、表土下および浅間Bテフラ直下で



第10図 A4区の遺構



第11図 A5区の遺構

遺構確認をおこなった。表土下では強く締まった砂壤土がほぼ水平に堆積していたが、遺構は確認されなかった。その下層の地表下1.2mで浅間Bテフラ(As-B:1108年)が全域に堆積して、旧河道埋積途中の面を確認した。浅間Bテフラ直下では西が高く、東に傾斜する面になっていた。遺構は確認できなかったため、調査では浅間Bテフラ面の全景写真と土層断面図を記録し、ともに写真を撮影して終了とした。

5. A6区

A6区はわずかなローム台地とその周辺に展開する広大な低地部に立地する。北西端と中央やや北側には蛇行する旧河道が遺構面を侵食していた。低地部は砂・シルト質土が堆積しており、それが遺構の埋没土や地山になっているために、遺構の確認や形態の把握が困難であった。

調査した遺構は、縄文時代の住居1軒、土坑3基、土器包含層5か所、古墳時代の遺物出土地点4か所、平安時代の住居91軒、土坑112基、祭祀跡1か所、鉄生産関連遺構2基、鉄生産関連土坑7基、畠3～5面、溝1条、近世以降と考えられる溝5条である。

縄文時代の遺構は中央やや北側に東西方向に帯状に残るローム台地上に確認された。住居は台地東端に検出されたが、平安時代の住居と重複していたために攪乱が著しく、住居の掘り込みは確認できなかった。ローム上面に残された炉と柱穴の調査および記録を行った。時期は炉から出土した土器等から称名寺式期と考えられる。

確実に縄文時代と確定できる土坑は、8号、10号、115号の3基である。特に8号土坑は石鏃製作にかかわる複数の石材の剥片がまとまって出土しており注目された。ローム台地上には縄文土器を出土する他の土坑もあるが、平安時代の遺物と一緒に出土している。また埋没土の特徴も縄文時代と即断しがたいものであったので、本書ではこれらの土坑は平安時代の遺構として扱った。

A6区では古墳時代の遺構は確認されなかったが、低地部に堆積する黒色シルト質土のなかに、榛名二ツ岳火山灰(Hr-FA:6世紀初頭)と浅間C軽石(As-C:4世紀初頭)の降下層準を確認している。4K-4グリッドでは榛名二ツ岳火山灰を混在する層中で、4I-4グリッドでは榛名二ツ岳火山灰を混在する層の上層でイネのプラントオパールが検出されている。この地点の稲作は古墳時代から行われていた可能性が高い。また、平安時代の畠下層のシルト質土中とローム台地裾の黒色土中の4か所で、古墳

時代の遺物が遺構に伴わずに出土した。

平安時代の畠は第12図には範囲を示していないが、低地部にあたるA6区の全域で検出された。畠は地点により埋没の層序が異なるので、3か年に亘る調査区の層位を厳密に対応させることができなかった。そこで畠は調査区年度ごとに分けて報告することとした。A6区の中央部やや北側に東西方向に残るローム台地より北側の平成5年度調査区をA6区北区、ローム台地より南側の平成7年度調査区をA6区中央区、その南側の6号溝より南東部をA6区南区と呼ぶ。(第300図)

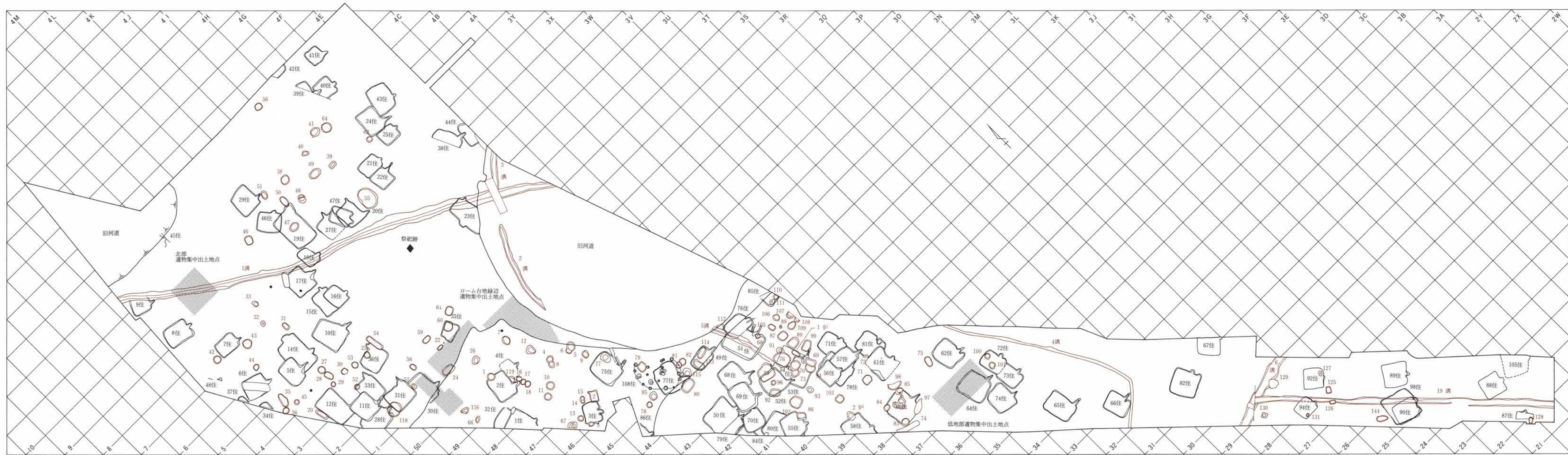
A6区北区では4面の畠作付け面とそれより下層の畝間群を検出した。いずれも平安時代前半の洪水砂で埋まった畠で、洪水常習地域に重層してつくられた畠の実態が明らかとなった。A6区中央区では部分的ではあるが5面の畠を確認し、畠作耕地の広がり进行を明らかにした。A6区南区では2面の畠が検出された。これでA6区の低地全域に畠が広がっていたことが確認されたことになる。

平安時代の住居91軒は、畠を埋めた砂・シルト層の中で確認できた。住居の確認面は、低地が砂やシルトで埋まり、ローム台地とほとんど高低差がないくらいに平坦になった層位である。住居はA6区の旧河道部を除くほぼ全域で検出されたが、分布の中心はA6区南西部、上武道路本線部に近い方にある。発掘区内で最も古い住居は9世紀末、最も新しい住居は11世紀前半である。一部の住居の重複状態から、この間ほぼ継続して居住域となっていたと思われる。

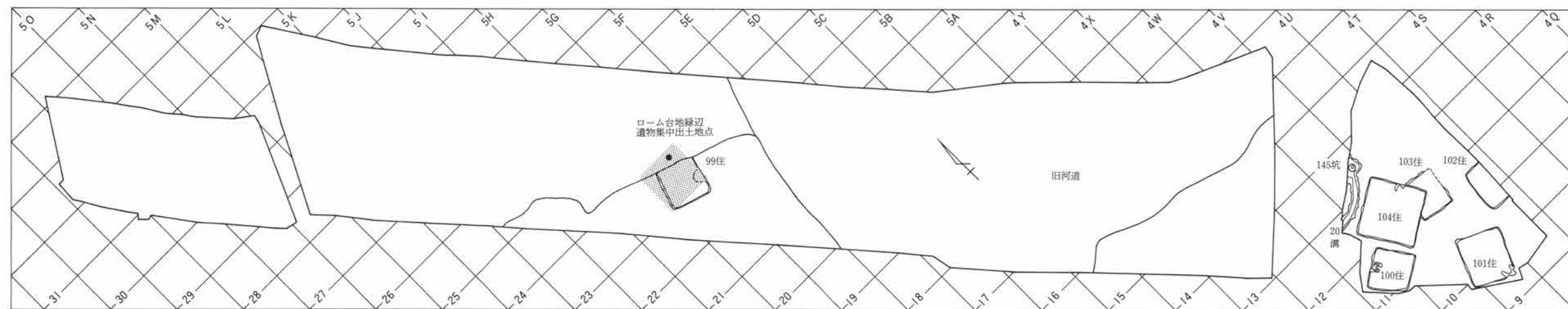
土坑112基は、出土遺物があつて時期を確定できるものは少ないが、埋没土の特徴や形態の類似からすべて平安時代として扱った。大型円形の土坑のなかには土器を多数出土するものがあり、注目される。

住居が分布しない空白部(4H-5グリッド)には、砂に埋まった土器群が検出された。これらの土器は10世紀後半で居住域に伴う祭祀跡と考えられる。

鉄生産関連遺構は、鋼精錬をおこなっていたとみられる炉跡が2基と操業に関連するとみられる土坑が7基検出された。炉の時期は、伴出土器がないの



第12図 A6区の遺構 (畠は付図2～9参照)



第13図 A7区の遺構 (畠は付図10参照)

- 古墳時代の遺物出土地点
- 縄文時代の遺物出土地点

0 1:400 20m

で確定できないが、いずれも10世紀前半の住居を切
って構築されていた。一方、10世紀中葉過ぎの住居
の竈の支脚に羽口が転用されていたり、10世紀後半
から11世紀にかけての住居の埋没土に鉄滓や羽口の
破片が多く出土することから、炉の操業は10世紀中
葉以降から11世紀の住居が埋まる頃まで、この発掘
区周辺で行われていたものと考えられる。

A 6区で検出された7条の溝のうち、6号溝は平
安時代の4面畠(A 6区中央区)に伴って検出された。
この溝はA 6区南区にもつながっており、2面畠の
面で調査・記録された。他の6条の溝は、表土下で
確認した新しい溝で、A 6区1～3号溝は旧河道が
埋まった後に掘られていた。掘削の時期を近世とは
確定できないが、A 4区では浅間Bテフラ(As-B:
1108年)が水平堆積する旧河道を切っているのも、そ
れ以降の溝と考えられる。

6. A 7区

A 7区は南東隅と中央部にわずかに残るローム台
地とその周辺の低地部と旧河道に立地する。南東部
の旧河道は大きく蛇行し、ローム台地を挟り込んで
いる。調査した遺構は、古墳時代の住居4軒、土坑
1基、古墳時代の遺物出土地点1か所、平安時代の
住居2軒、畠1面、時期不明の溝1条である。

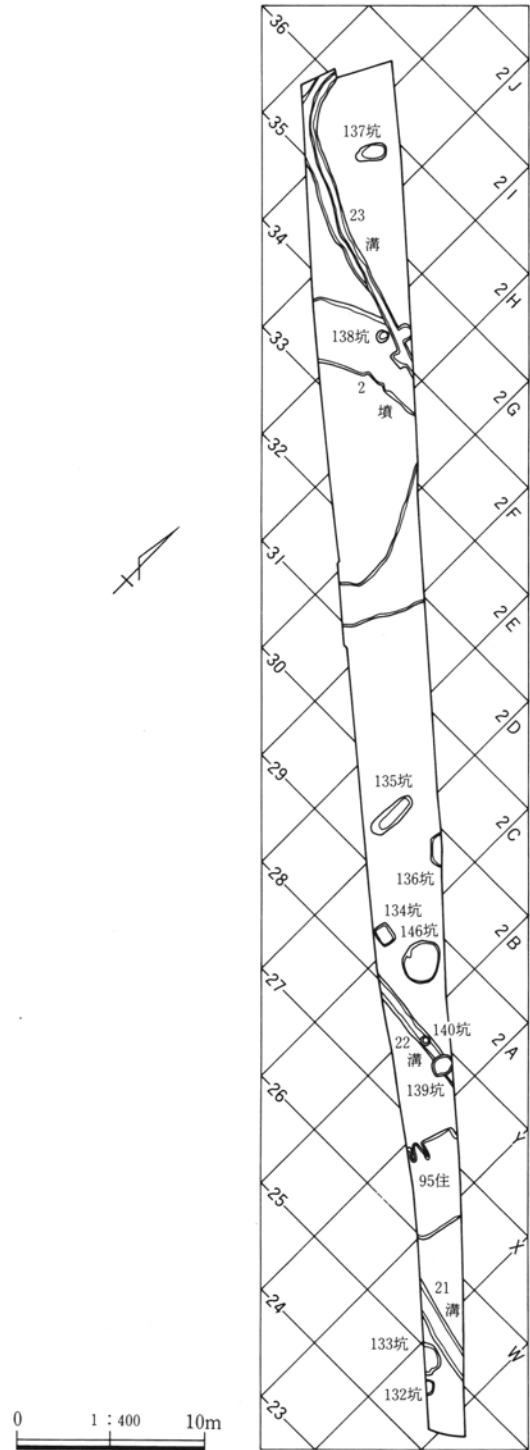
古墳時代の住居や土坑は南東隅の調査区で密集し
て検出された。104号住居は一辺4.8mの大型住居で
遺物も多数出土した。145号土坑は土器が完形に近い
形で出土したが、20号溝と重複して形状が不明確で
あった。全体図で検討すれば、古墳時代住居の南東
隅の可能性もあろう。北側のローム台地の北縁(5 G
-23グリッド)では古墳時代の土師器高坏や須恵器
大甕が台地裾の黒色土から出土した。

平安時代の住居は南東のローム台地と中央部のロ
ーム台地に1軒ずつ検出された。いずれも10世紀の
住居である。最北西の調査区(低地部)では平安時代
の砂に埋まった畠が狭い範囲で検出されている。

(第300図)

7. B 2区

B 2区は、尾島町よりのローム台地に立地する。
調査した遺構は、古墳の周堀1基、古墳時代の住居
1軒、時期不明の土坑10基、溝3条である。



第14図 B 2区の遺構
(畠は付図11参照)

第2章 発掘調査の概要

B2区は南端の調査区で巾が狭かったため、古墳の周堀や古墳時代の住居は、発掘区域内で全掘できなかった。古墳は方墳の可能性もある。住居はA2区古墳時代の住居の分布のつながりと考えられる。

土坑10基は、出土遺物がなく時期を確定できるものはない。埋没土の特徴や形態の類似からすべて平安時代として扱った。

溝は確実に相伴している遺物がなく、時期を確定することができなかったが、表土が落ち込んでいるので比較的新しい遺構と考えられる。

8. B3区

B3区は南東半部のローム台地と北西部に傾斜する低地と北西端の旧河道に立地する。調査した遺構は、古墳の周堀1基、平安時代の畠1面、平安時代の住居2軒、土坑2基である。

古墳周堀は北東側の一部が調査できただけである。周堀内や周辺から多量の縄文時代後期の遺物が出土した。ローム台地縁辺の縄文時代の遺構が近くにあることを示唆している。また、北西の低地部で平安時代畠の下層のシルト質土から、古墳時代の土器が出土した。

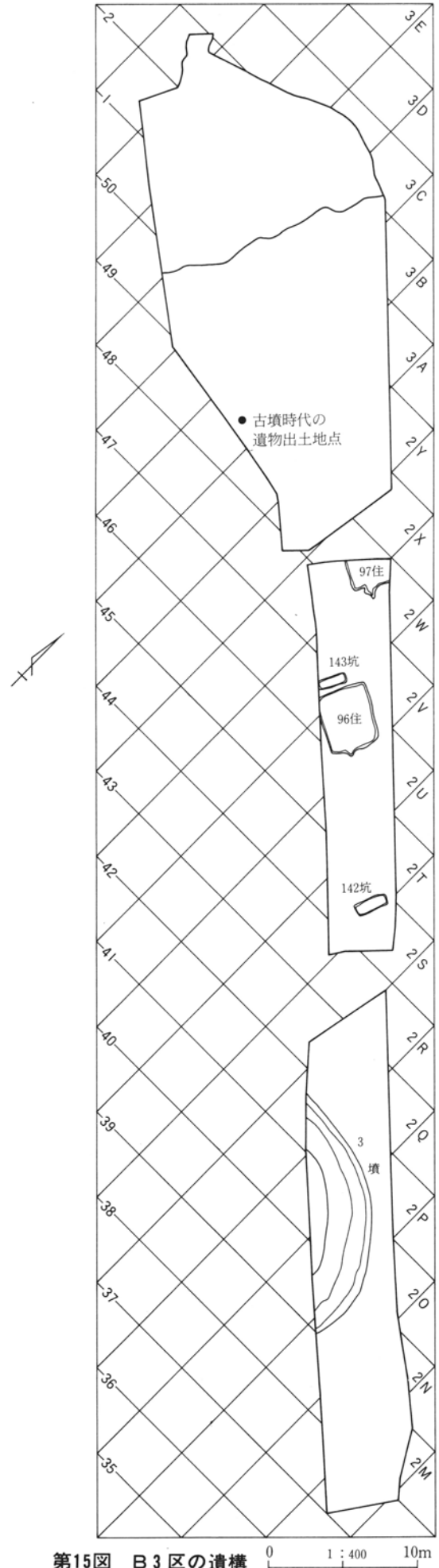
平安時代の畠は第15図に示さなかったが、北西の低地部で検出された。(第300図)西部は旧河道で切られている。畠は洪水砂に埋まった1面が見つかった。一部に盛り上げた砂が部分的にあったり、畝間の間隔が狭くなっているところもあることから、A6区で確認されたような畠作耕地の復旧がこの地点でも行われた可能性がある。

平安時代の住居は、いずれも畠を埋めた砂・シルト質土の上面で検出され、時期は10世紀である。このような遺構の検出状況は、A6区と同様である。

土坑はいずれも長方形で、時期は明確には決められないが平安時代の遺構として扱った。

9. B4区

トレンチ調査で遺構は確認できなかった。



第15図 B3区の遺構

第3章 検出された遺構と遺物

第1節 縄文時代の遺構と遺物

三ツ木皿沼遺跡で検出した縄文時代の遺構・遺物は後期称名寺式から加曽利B式にかけてのもので、ローム台地と低地部に分布していた。

ローム台地には住居、土坑9基、土器埋設土坑2基の遺構が確認された。108号住居は、A6区の中央よりやや北側に東西方向の帯状に残るローム台地に検出されたが、平安時代の住居が重複していたので、遺存状態が悪く炉と柱穴の痕跡を記録したにとどまった。住居周辺には土坑があり、特に8号土坑は石鏃の製作にかかわる土坑と考えられる。

A3区・A4区のローム台地上にも台地縁辺に集中して縄文時代の土坑が検出された。特にA4区には大型深鉢形土器を埋設する土坑が2基検出されている。土器はいずれも堀ノ内式である。また、B2区・B3区の台地上には遺構はみつからなかったが、2号墳・3号墳の周辺に縄文時代の遺物が多数出土する地点があり、縄文時代の遺構があったことを推定させる。

一方、低地部にも縄文時代の遺物が出土した。A6区台地裾部の黒色砂質土中には遺物包含層が形成されていた。さらに40-9グリッドや3V・3W-37グリッドでは、低地部を埋めている砂・シルト層の下位に、称名寺式や堀ノ内式の粗製深鉢土器等が遺存していた。これらの土器が出土した下位の灰色砂層中で出土したコナラの年代は3270±90年B.P.であった。

1. 住居

A6区のローム台地上で後期称名寺式期の住居を1軒検出した。

108号住居

(第16～22図 PL6・7・123～125 遺物観察表P.353)

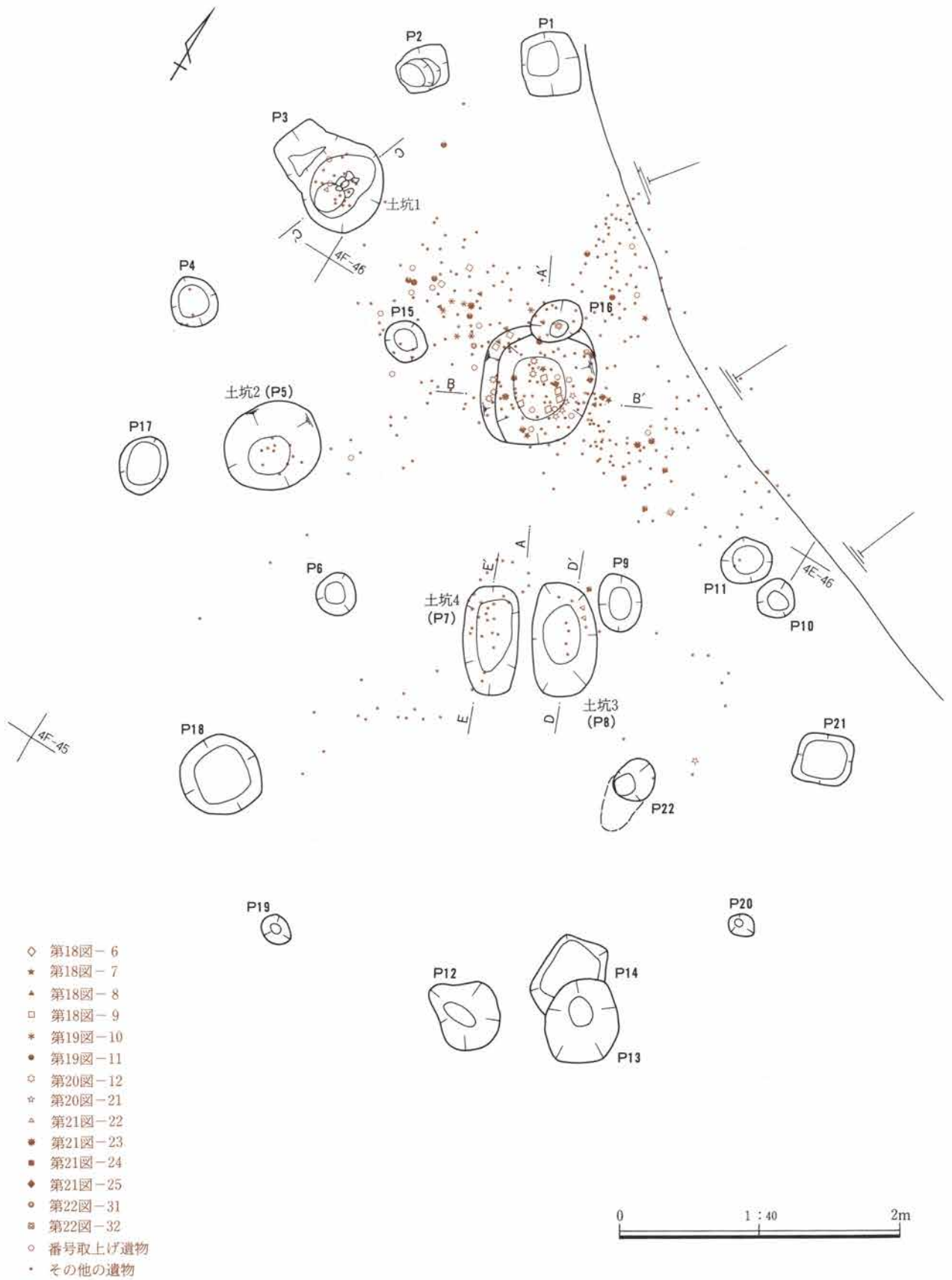
位置 A6区4D～4F-44～46グリッド

形状 本住居には平安時代の77号住居等の遺構が重複しており、遺存状態が悪かった。そのため壁や床面が検出できなかったため、本住居の形状は不明である。調査では平安時代の遺構周囲の黒色土中から縄文時代の遺物が4E-45・46グリッドを中心に多量に出土した。この時点で下層の遺構の有無や形態は不明であったので、遺物はグリッドごとに位置を記録して取り上げた。遺物取り上げ後、黒色土を除去してローム層上面を精査したところ、炉1基と大小合わせ22本の柱穴群を検出した。

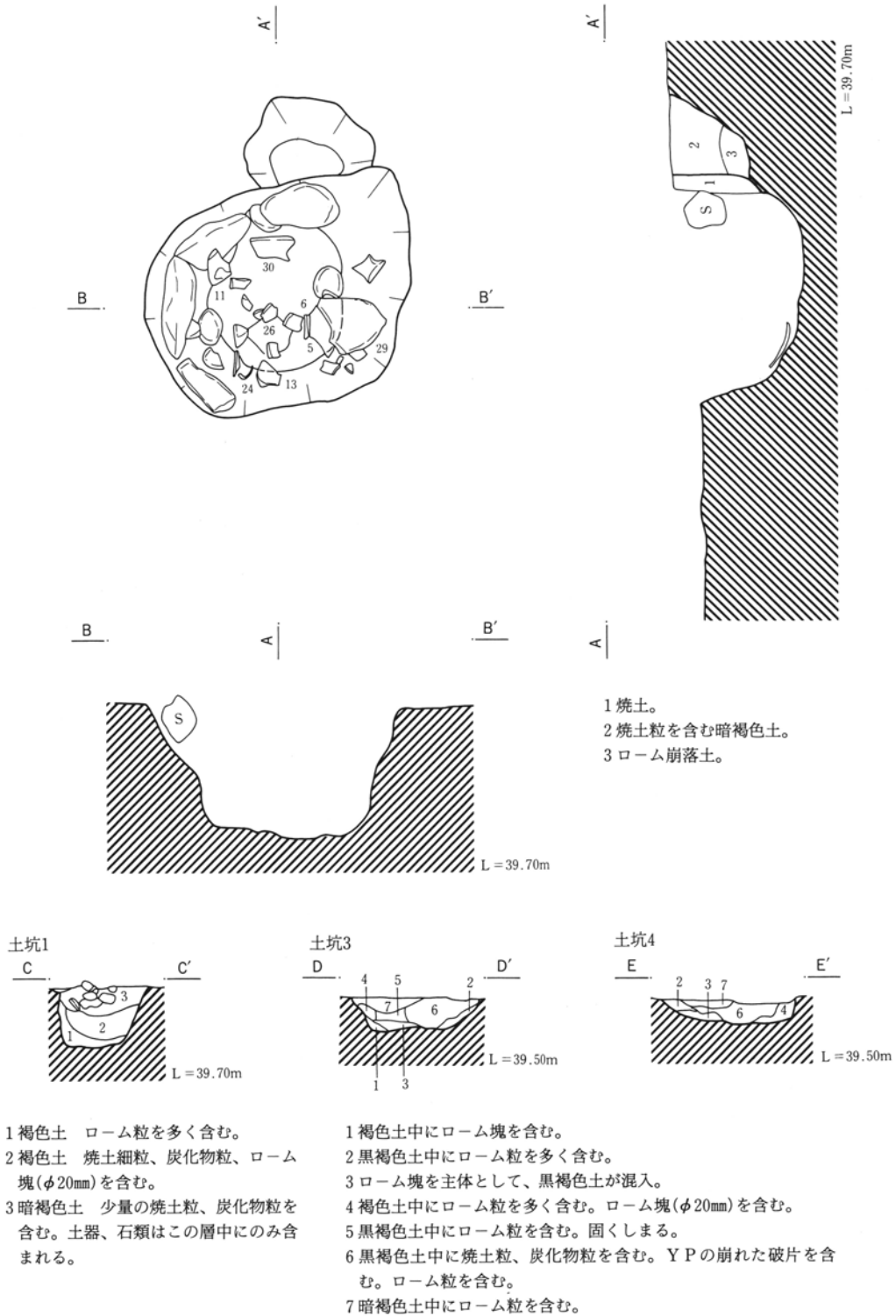
規模 南北の柱穴外側の距離 7.23m

炉 柱群の中央やや北側に炉が検出された。炉は長軸0.85m、短軸0.79m、確認面からの深さ0.43mの隅丸方形の掘り込みをもっていた。炉穴の中央には土器の破片が、底面に貼り付けられるように置かれ、さらに上位には、土器破片が立て並べられたように、出土した。また、西側の周囲には細長い円礫が炉壁を巡るように並んで出土した。この礫は東縁には残っていない。炉壁は石の下位から焼土化していた。柱穴 柱穴は大小合わせて22本が検出された。確認面はローム層上面であり、床面からは下がった位置である。柱の配置は炉の長軸を中心にほぼ対象に並んでおり、規格性を看取できる。柱穴の規模は下記のとおりである。

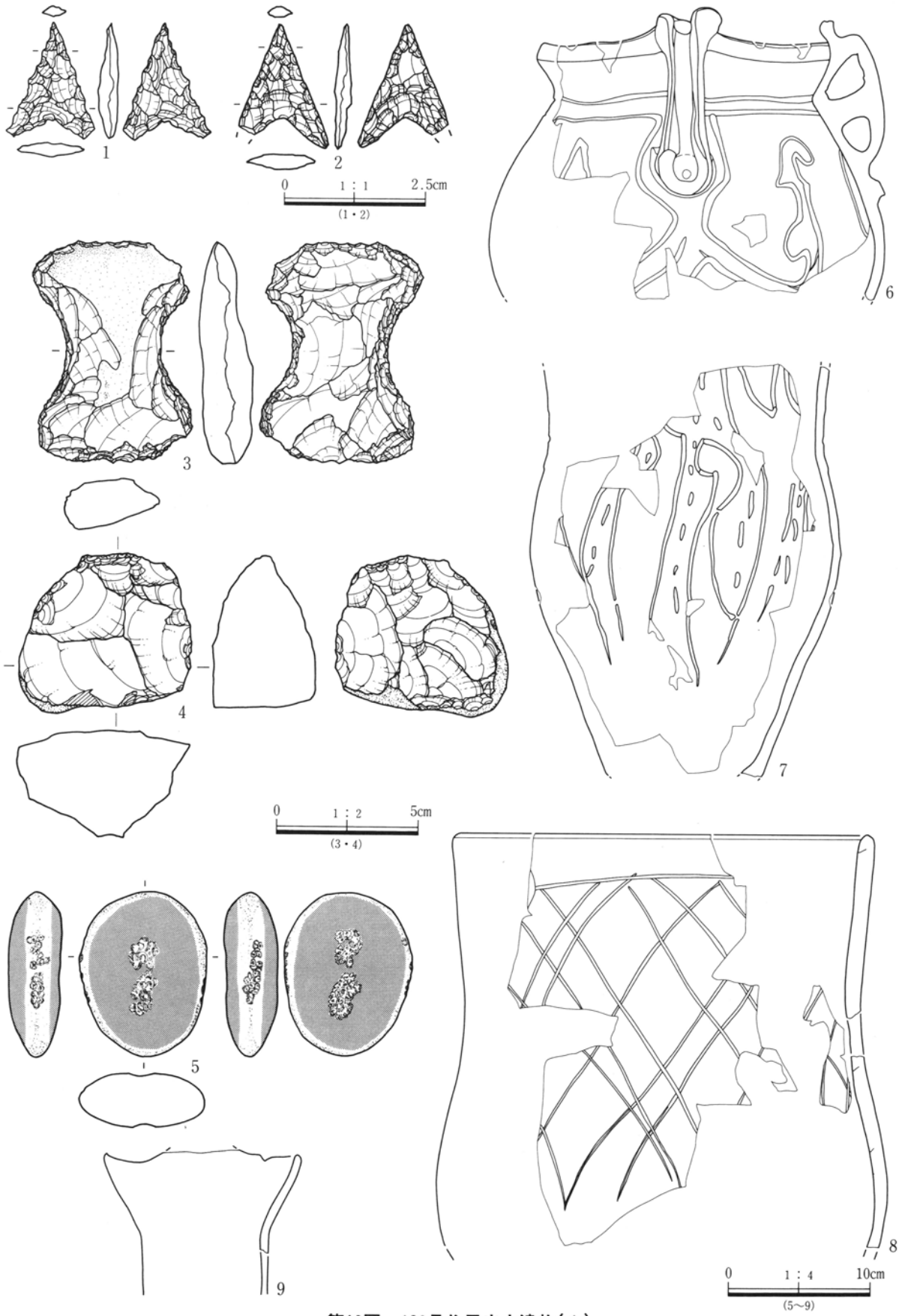
	長軸	短軸	深さ		長軸	短軸	深さ
P1	0.46	0.40	0.38	P2	0.38	0.32	0.28
P3	0.39		0.34	P4	0.36	0.33	0.06
P5	0.68	0.62	0.33	P6	0.28	0.28	0.15
P7	0.76	0.40	0.19	P8	0.80	0.44	0.24
P9	0.40	0.30	0.24	P10	0.26	0.26	0.12
P11	0.36	0.31	0.18	P12	0.55	0.50	0.15



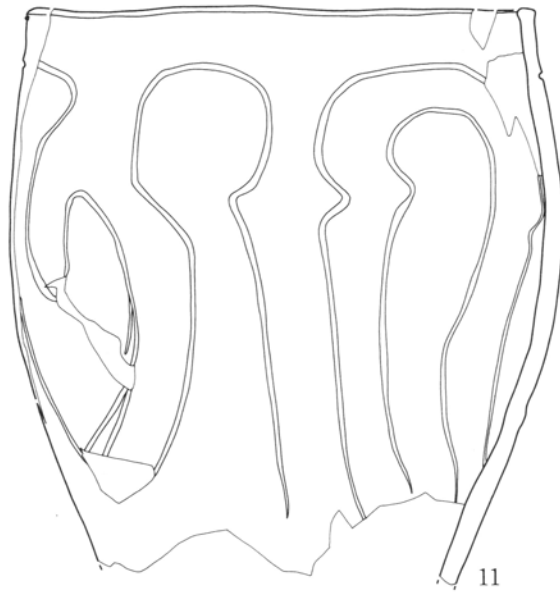
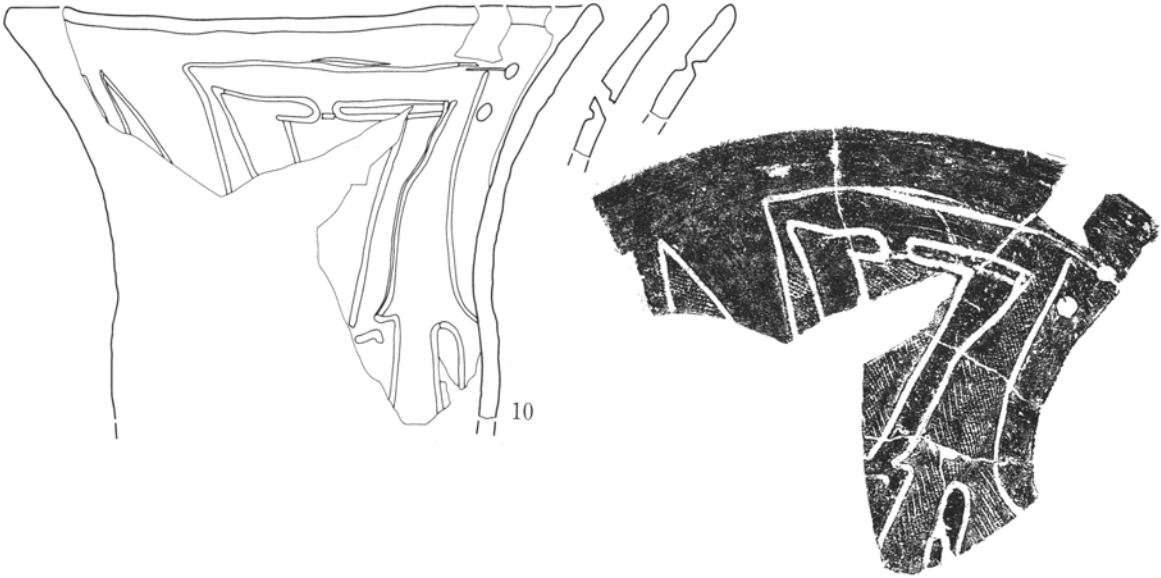
第16図 108号住居と遺物分布



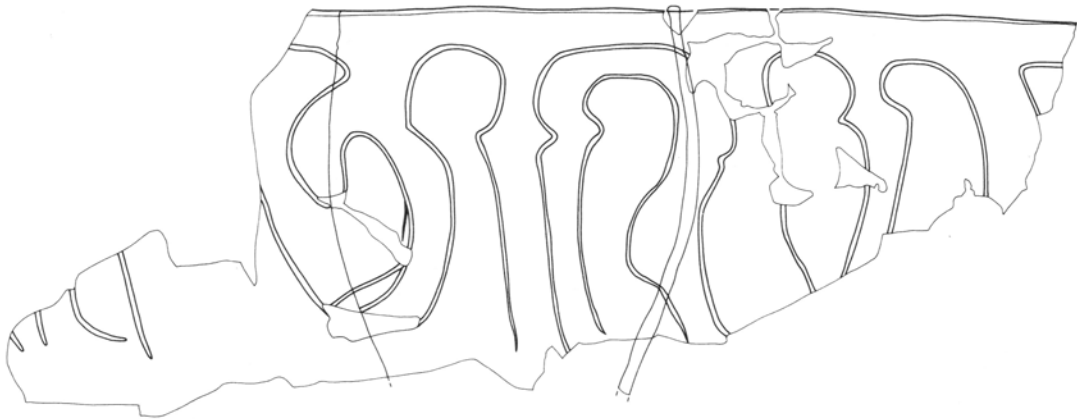
第17図 108号住居の炉と土坑



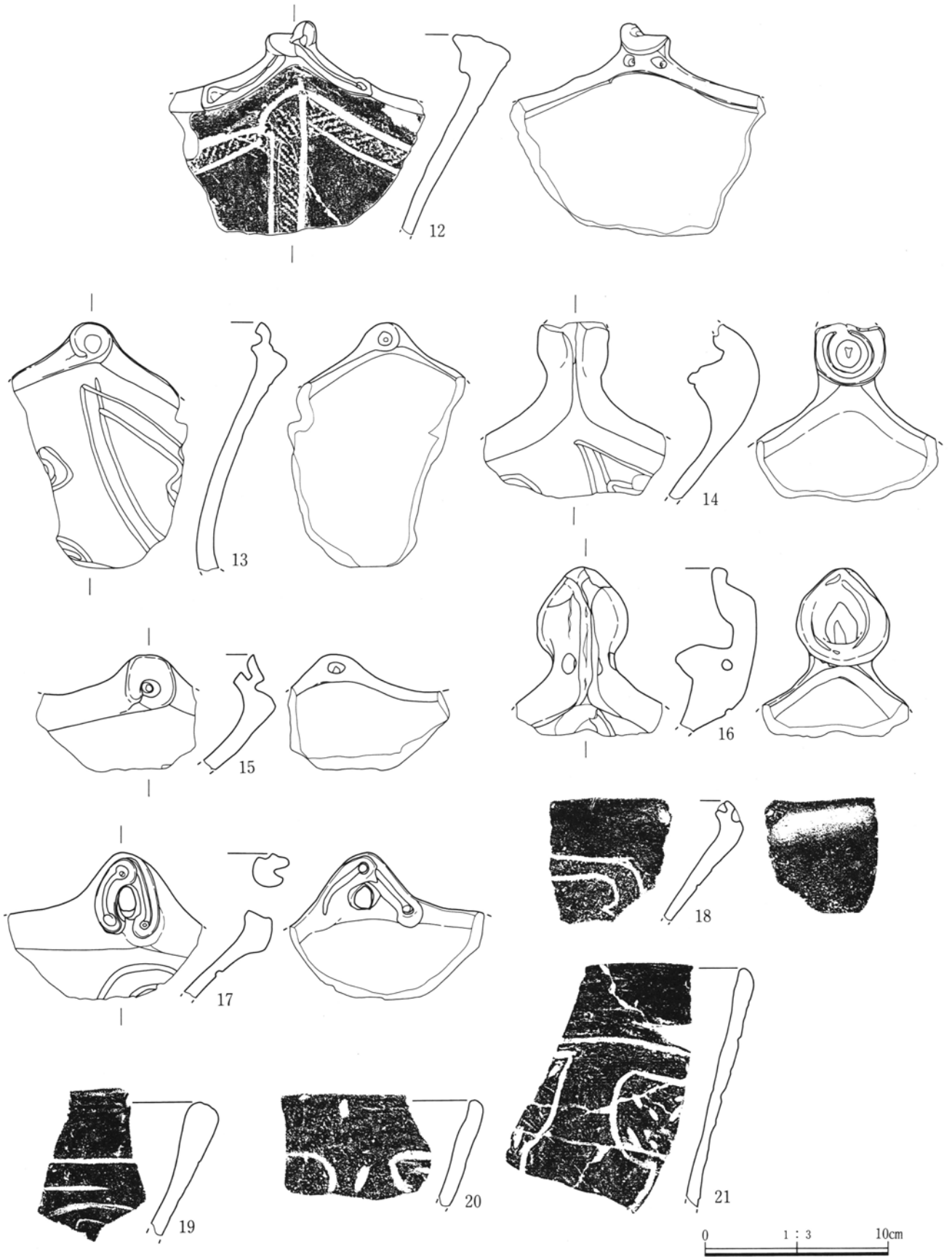
第18図 108号住居出土遺物(1)



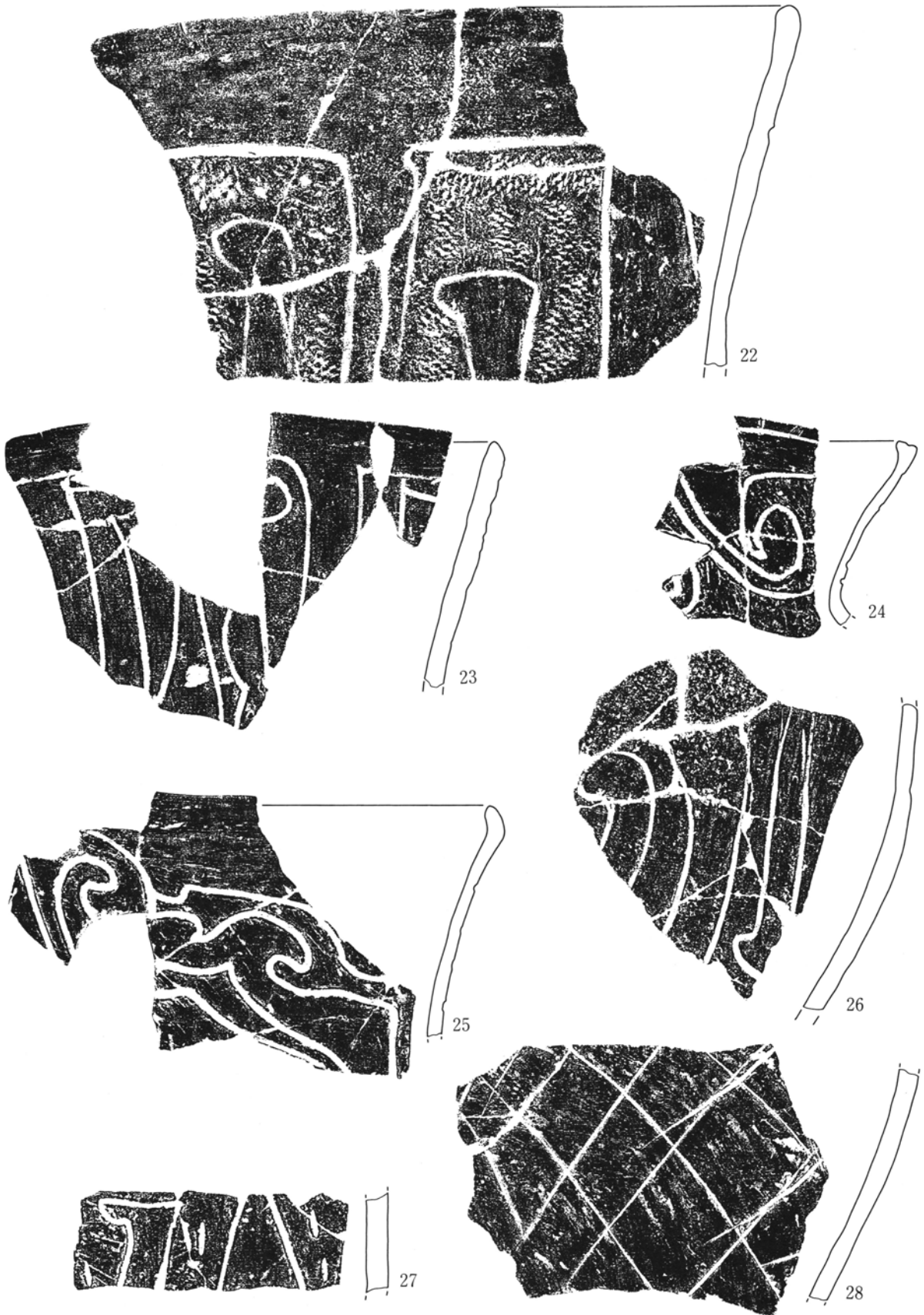
0 1 : 4 10cm



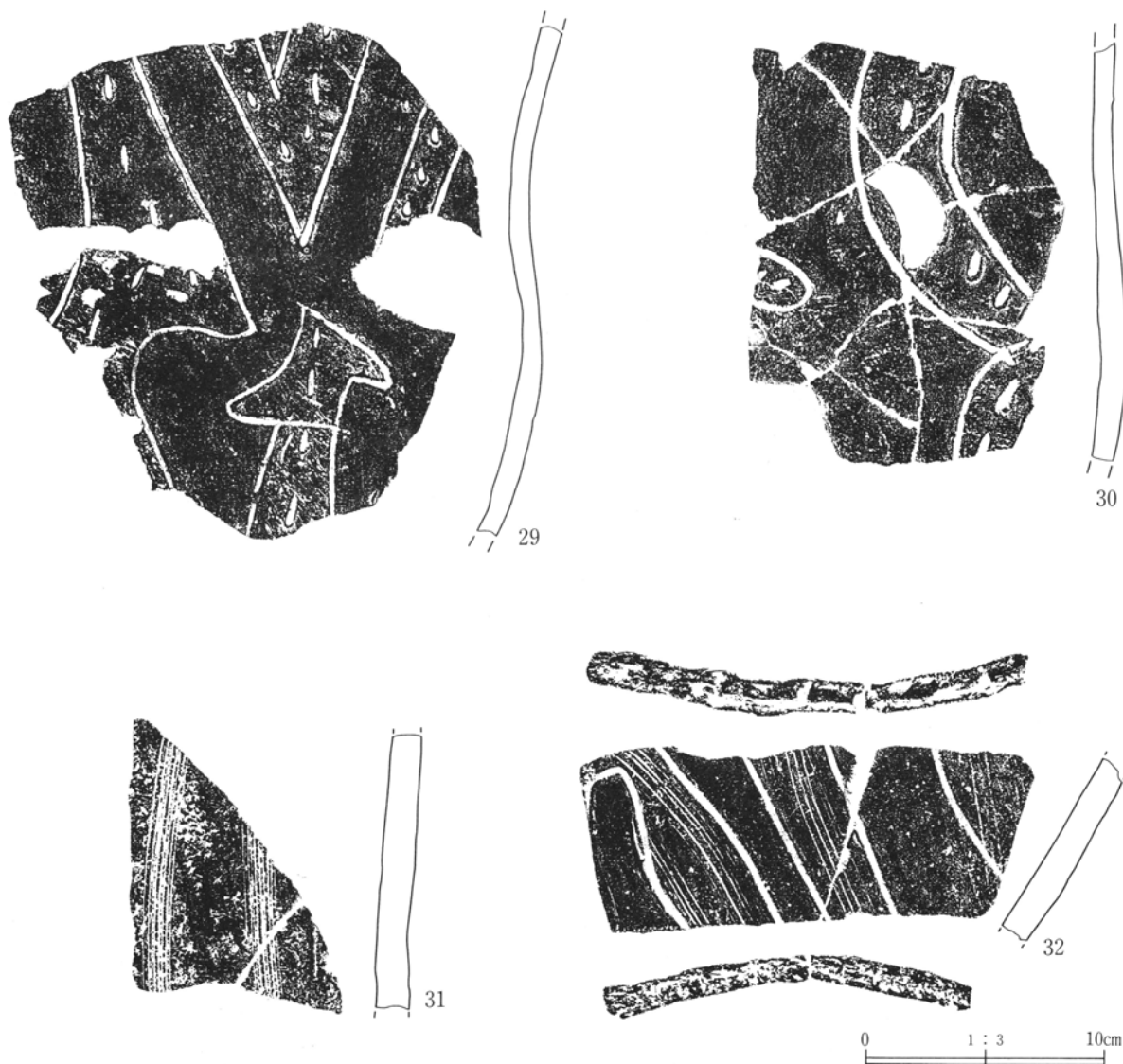
第19図 108号住居出土遺物(2)



第20図 108号住居出土遺物(3)



第21図 108号住居出土遺物(4)



第22図 108号住居出土遺物(5)

	長軸	短軸	深さ	長軸	短軸	深さ	
P13	0.63	0.54	0.19	P14	0.60	0.44	0.10
P15	0.33	0.26	0.20	P16	0.38	0.32	0.28
P17	0.40	0.33	0.14	P18	0.57	0.55	0.25
P19	0.21	0.18	0.07	P20	0.20	0.16	0.21
P21	0.40	0.35	0.12	P22	0.30	0.28	0.29

床面 P 3 の東側に長軸0.65m、短軸0.58m、深さ0.50mの楕円形の土坑が検出された。上層に小礫があった。

遺物と出土状況 出土遺物は炉の中からと、上層の黒色土中に包含されて多量に出土した。包含層出土の遺物は柱穴群の北半分に集中していた。土器は称

名寺II式が中心で、石鏃や打製石斧も出土している。炉から出土した土器と包含層の土器は接合する例が多く、包含層の土器は住居の遺物と考えられる。
 所見 本住居は、柱の位置や数からは2軒の住居でも考えられるが、炉が1基しか検出されていないことや柱の配置から見ると、その可能性は低いように思われる。出土遺物が柱穴群北半分に偏在していることや出土遺物の時期からは柄鏡形住居の可能性もある。最近では、柄鏡形住居の入り口部の外側の柱穴から諸施設を復元する報告もある。本住居のP17～P21はその外側施設の柱穴とも考えられよう。

2. 土器埋設土坑

土器埋設土坑はA4区に2基検出された。

1号土器埋設土坑

(第23・24図 PL7・125 遺物観察表P.354)

位置 A4区 2W-12グリッド

形態 平面形はやや口縁部側に広がる楕円形で、断面形は箱形で上方に広がる。底面は平坦。

規模 長径0.93m 短径0.7m 深さ0.37m

長軸方位 N-117°-E

埋没土 ローム粒やAs-YP粒を含む褐色土で埋まっていた。土器の内部を埋めた土の中には一部に焼土・炭の粒が混在していた。

遺物出土状態 土坑の楕円形の長軸に正位で堀ノ内II式の大型深鉢形土器が横位で出土した。土器は底面に接していた。埋没土中から同じく堀ノ内II式の

深鉢形土器の胴部破片が1片出土した。

2号土器埋設土坑

(第25図 PL7・125 遺物観察表P.354)

位置 A4区 2W-14グリッド

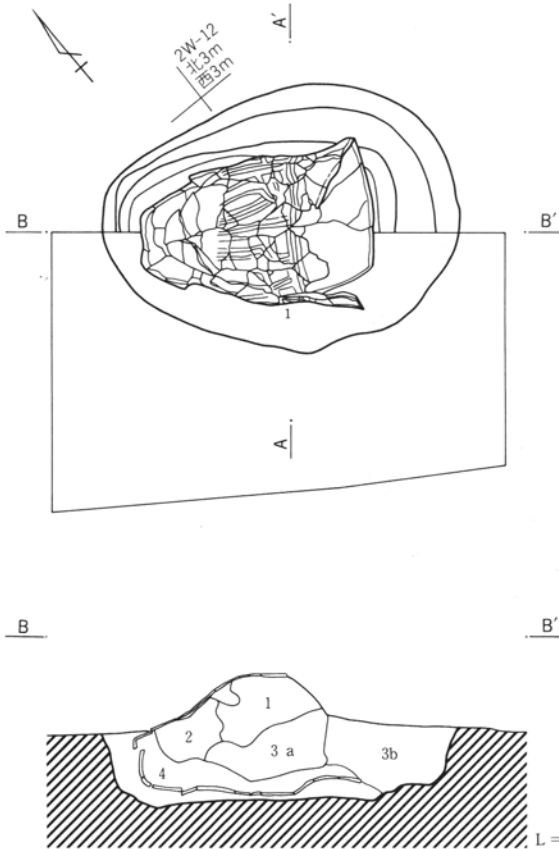
形態 東端が発掘区外になり、確認できなかったが、楕円形で、底面には少し凹凸がある。

規模 長径0.75m以上 短径0.8m 深さ0.08m

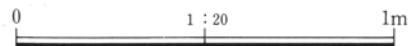
長軸方位 N-10°-E

埋没土 ローム粒やAs-YP粒を含む褐色土で埋まっていた。土器内を埋めていた土は不明。

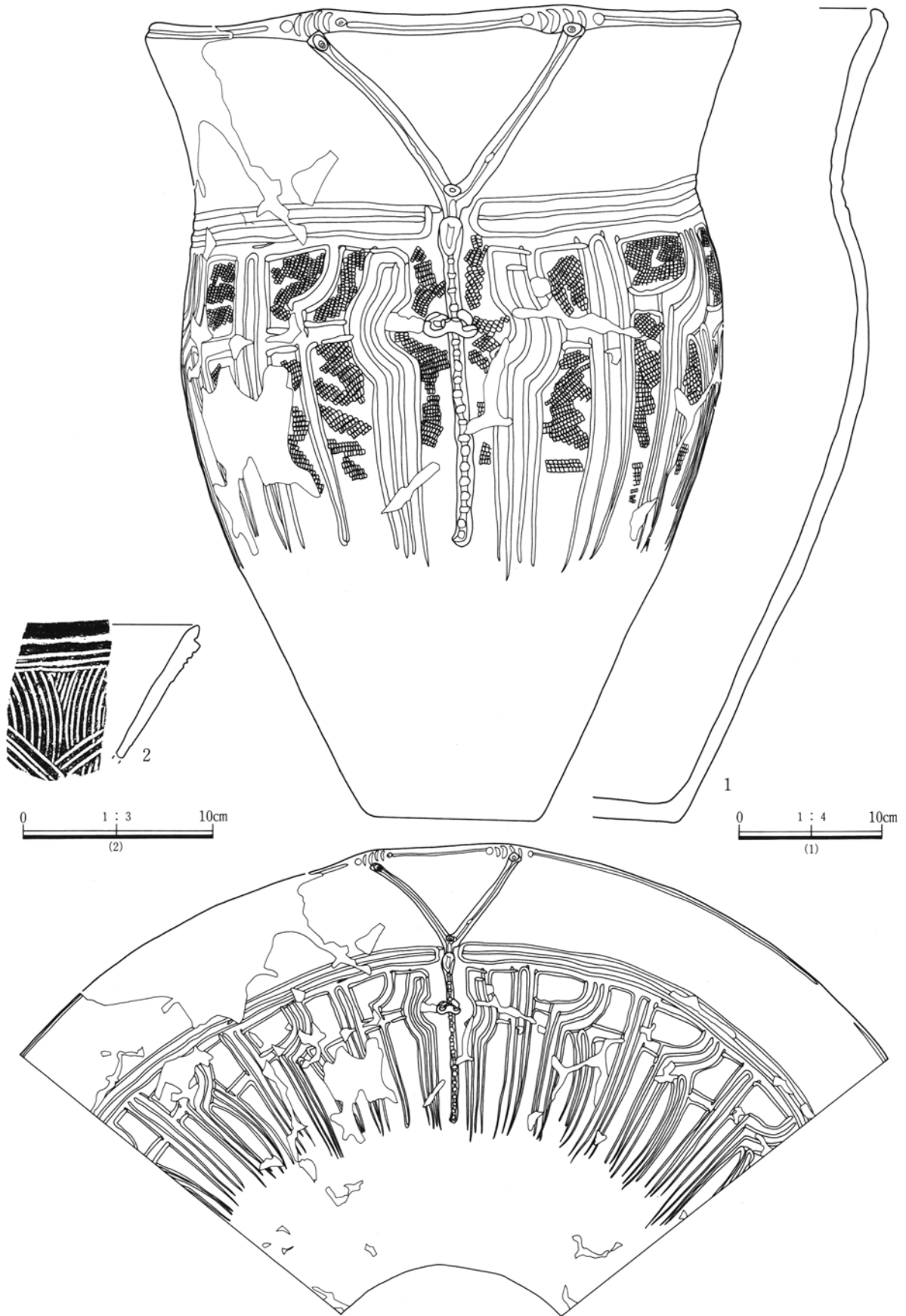
遺物出土状態 土坑の楕円形の長軸に正位で、堀ノ内II式の大型深鉢形土器が出土した。1号ほど残存状況は良好でなく、上半部は破壊されており土器は残っていなかった。埋没土中から同じく堀ノ内II式の深鉢形土器の胴部破片が1片出土した。



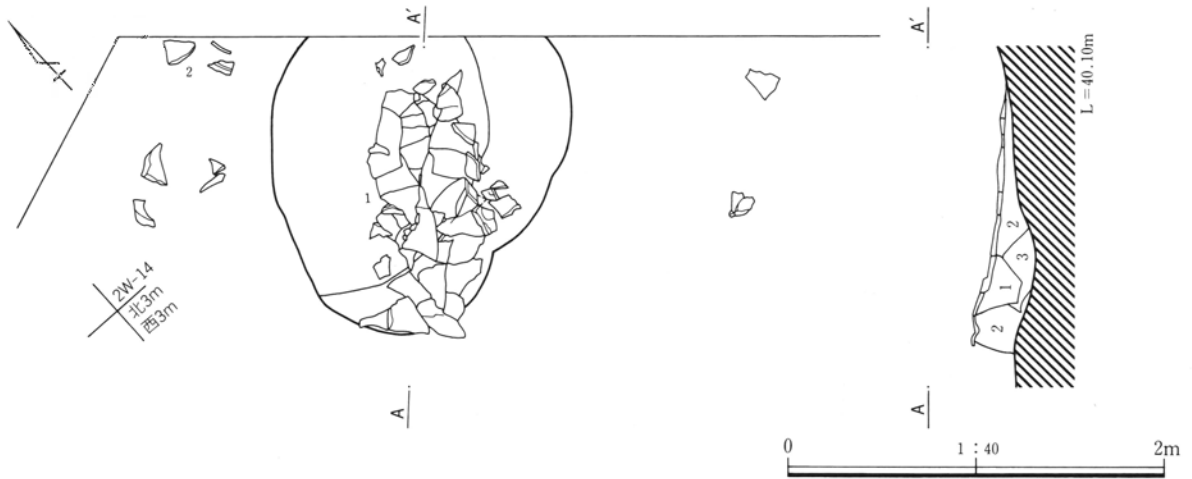
- 1 褐色土 ローム粒、YP粒含む。サラサラした層。
- 2 褐色土(やや暗い) 僅かに焼土、炭粒が見られる。やや粘性あり。
- 3 a 褐色土(やや橙色) ローム粒、YP粒含む。
- 3 b 褐色土 ローム粒、YP粒含む。
- 4 褐色土(やや緑色) ロームを僅かに含み、YPも少ない。やや粘性があり、しっとりしている。



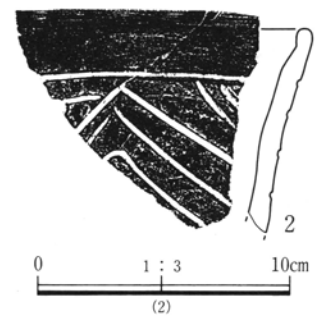
第23図 1号土器埋設土坑



第24図 1号土器埋設土坑の埋設土器



- 1 褐色土 ローム粒小塊含む。YP粒含。
- 2 くすんだ黄褐色土 ローム塊、暗褐色塊を含む。
- 3 黄橙色土 ローム粒、YP粒含む。



第25図 2号土器埋設土坑と埋設土器

3. 土坑

(第25～30図 PL 8～11・126・127 遺物観察表P.354)

縄文時代の土坑は、A 2 区に 1 基、A 3 区に 9 基、A 4 区に 3 基、A 6 区に 3 基、合計16基が検出された。形態は不定形な長楕円形と円形、楕円形のものに大きく分けられる。

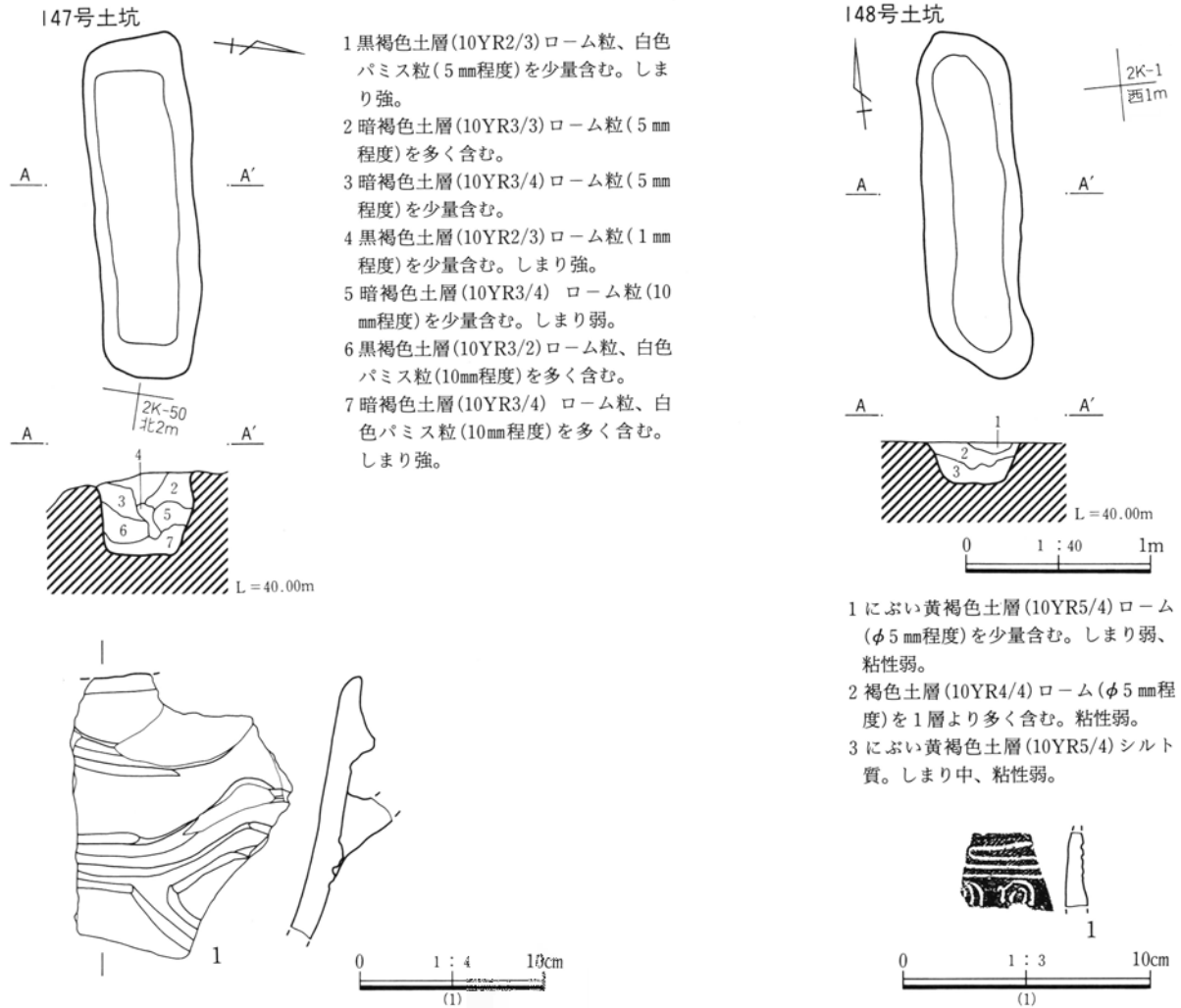
A 3 区にはローム台地縁辺に不定長楕円形の土坑が多く分布していた。遺物はあまり多く出土しないが、縄文時代の遺構を埋める大粒のローム粒や軽石粒が含まれた褐色土で埋まっていた。遺物の時期は堀ノ内II式から加曽利B式の土器である。

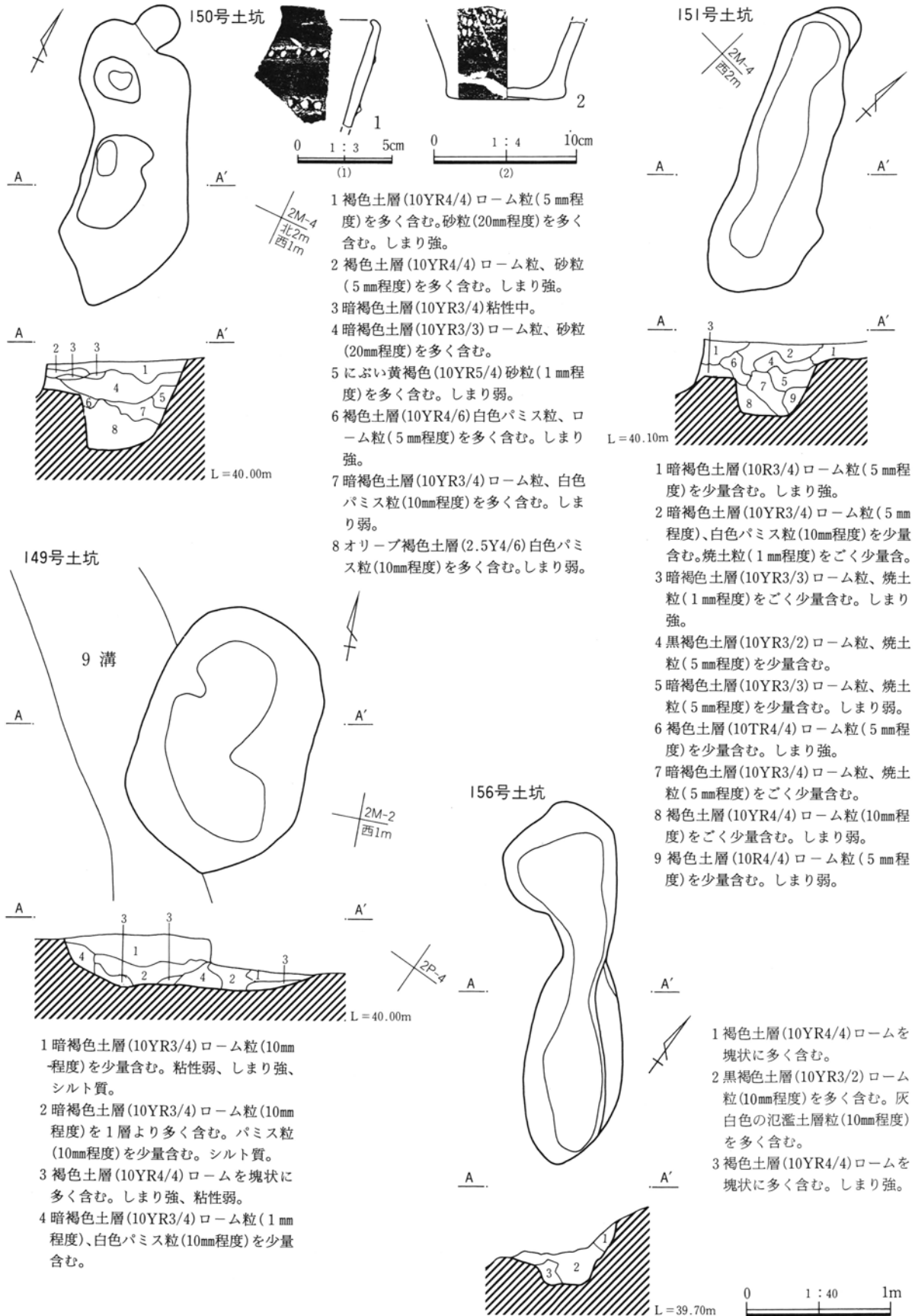
また円形の土坑はA 2 区・A 3 区・A 6 区で検出された。これらの土坑は定型的で、直径1m前後の

大きさに土器を多く出土した。出土する土器は称名寺式から堀ノ内式にかけての時期である。特に124号土坑は断面がフラスコ状を呈していた。

また、A 6 区 8 号土坑からは石鏃が 3 点出土したが、その他に石鏃の未製品と石鏃をつくる際に特徴的に出る微細剥片がまとまって出土した。石材には黒曜石(178片)・チャート(223片)・黒色安山岩(203片)の3種があり、母岩の違いでさらにいくつかに分類ができた。

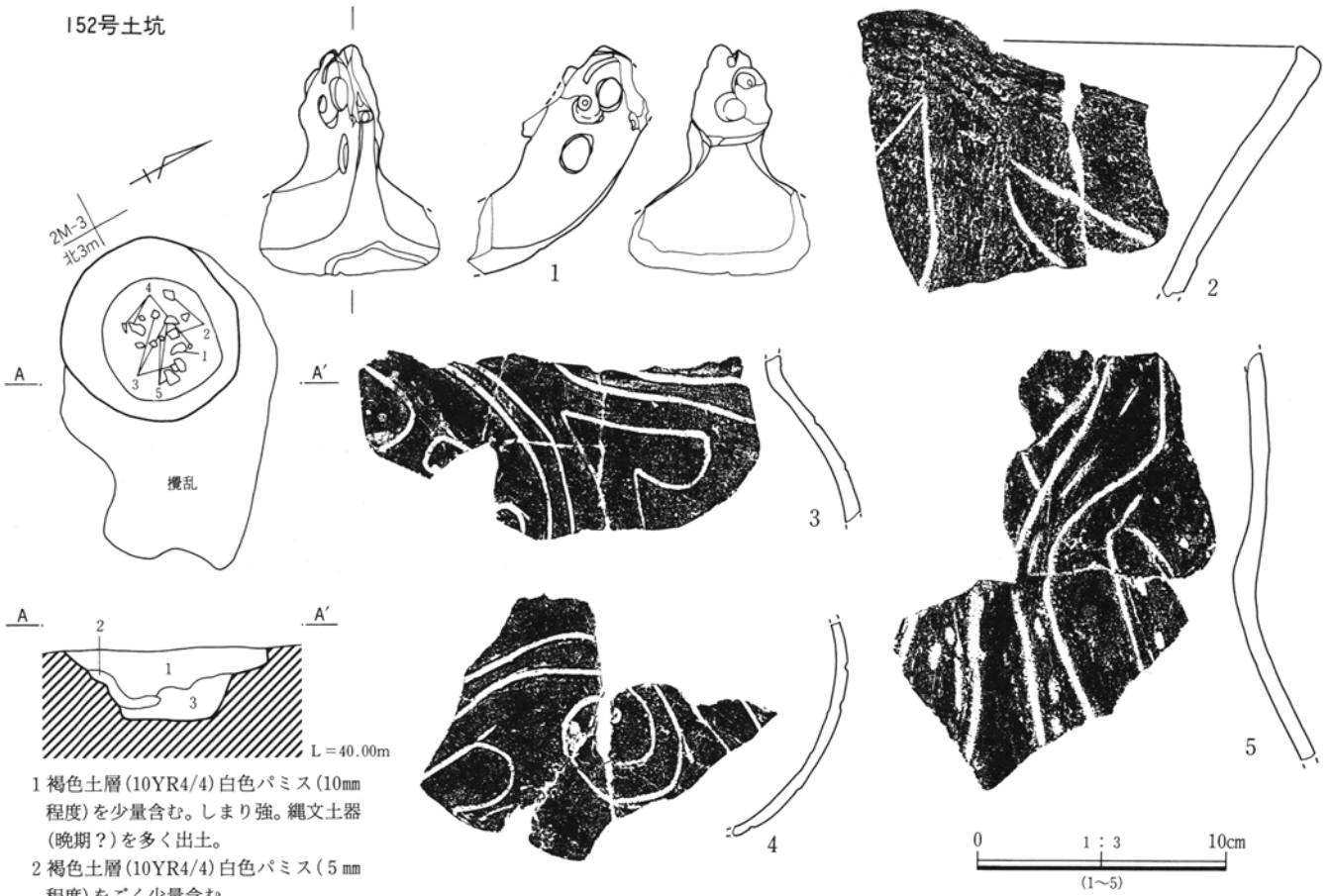
115号土坑は楕円形の土坑で、108号住居の南側にある。土器が破片で多数出土したが、図示はしなかった。





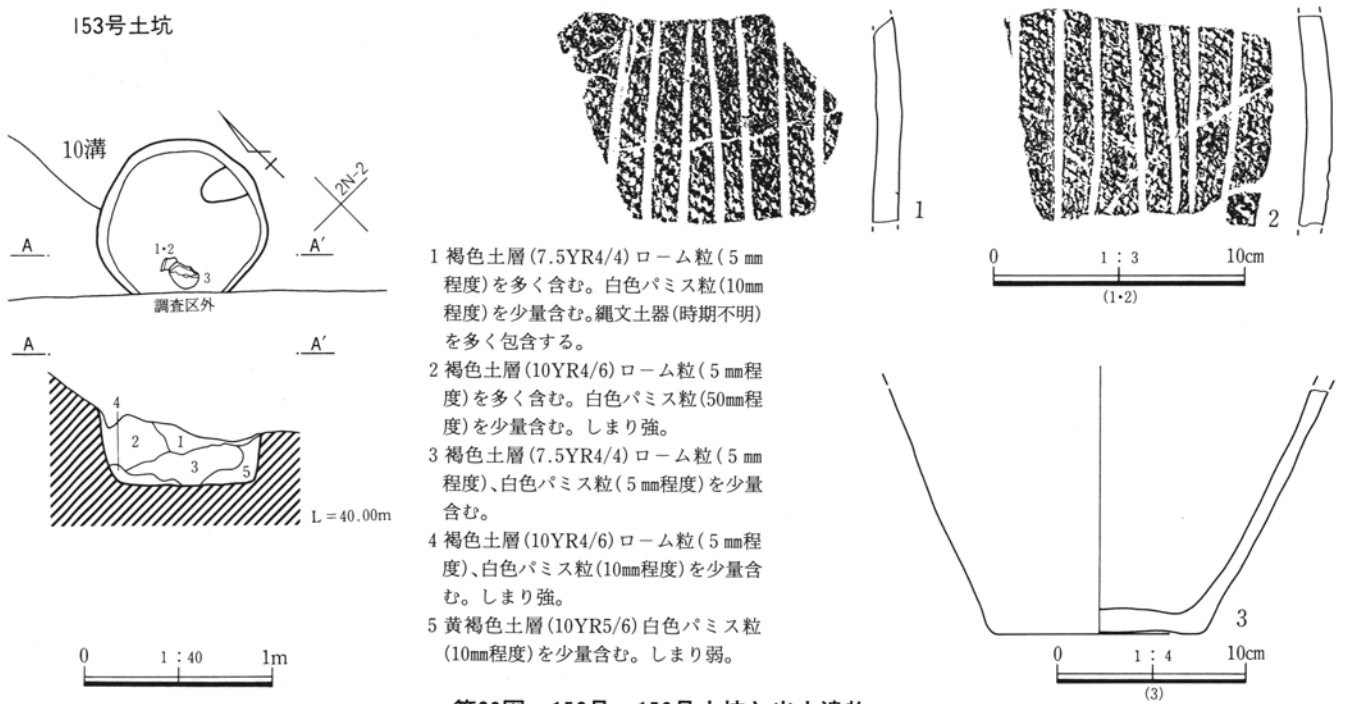
第27図 149号・150号・151号・156号土坑と出土遺物

152号土坑



- 1 褐色土層(10YR4/4)白色パミス(10mm程度)を少量含む。しまり強。縄文土器(晩期?)を多く出土。
- 2 褐色土層(10YR4/4)白色パミス(5mm程度)をごく少量含む。
- 3 褐色土層(10YR4/6)白色パミス(5mm程度)を少量含む。ローム粒(1mm程度)を非常に多く含む。しまり強。

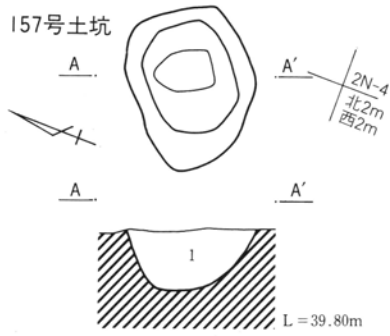
153号土坑



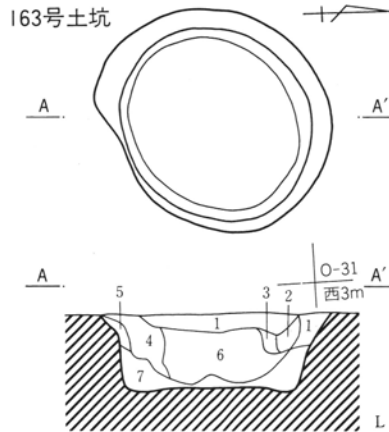
- 1 褐色土層(7.5YR4/4)ローム粒(5mm程度)を多く含む。白色パミス粒(10mm程度)を少量含む。縄文土器(時期不明)を多く包含する。
- 2 褐色土層(10YR4/6)ローム粒(5mm程度)を多く含む。白色パミス粒(50mm程度)を少量含む。しまり強。
- 3 褐色土層(7.5YR4/4)ローム粒(5mm程度)、白色パミス粒(5mm程度)を少量含む。
- 4 褐色土層(10YR4/6)ローム粒(5mm程度)、白色パミス粒(10mm程度)を少量含む。しまり強。
- 5 黄褐色土層(10YR5/6)白色パミス粒(10mm程度)を少量含む。しまり弱。

第28図 152号・153号土坑と出土遺物

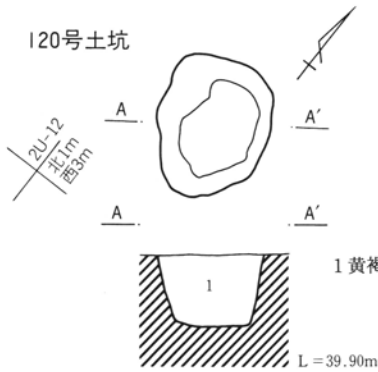
第1節 縄文時代の遺構と遺物



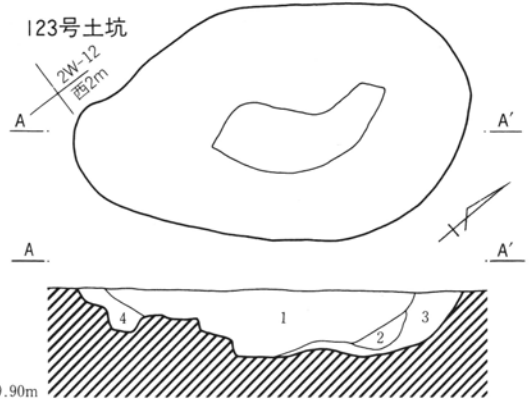
1 暗オリーブ褐色土(7.5Y3/3)ローム粒(1~1cm大)、炭化物(1~5mm)を多く含む。粘性弱、堆積はやや緻密。



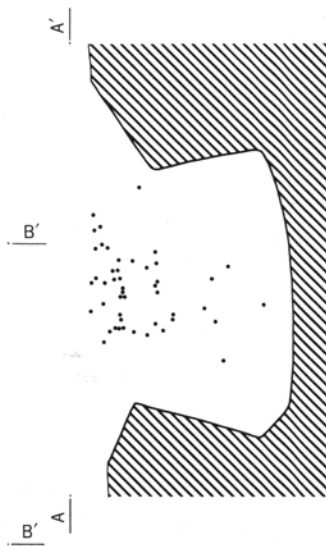
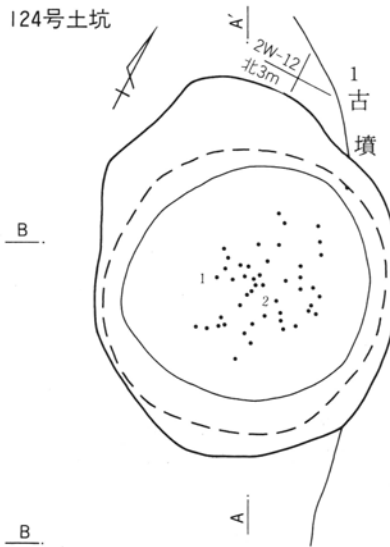
1 におい黄橙色土(10YR4/3)しまりのない、ごく少量のローム粒を含む。
 2 黄褐色土(2.5Y5/3)しまりが無い。
 3 黄褐色土(2.5Y5/3) 6層の小塊(φ1~2cm)を含む。
 4 オリーブ褐色土(2.5Y4/4) 6層の小塊(φ1~2cm)を含む。
 5 黄褐色土(2.5Y5/6)しまりが無い。
 6 暗灰黄色土(2.5Y4/2)オリーブ褐色土(2.5Y4/4)の小塊(φ2~5cm)、軽石(φ1~2cm)と、少量の焼土粒を含む。
 7 黄褐色土(2.5Y5/4) 6層の小塊(φ1~2cm)を含む。



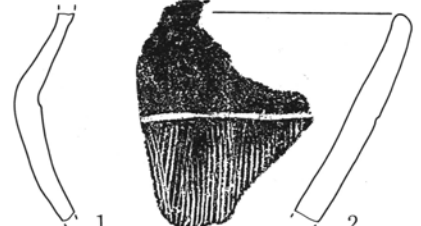
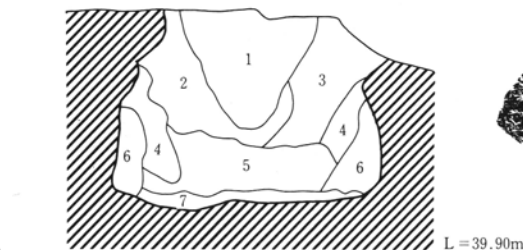
1 黄褐色 ローム塊混じり。



1 暗褐色土 ローム粒混入。
 2 暗褐色土 ローム粒1層より細かい。
 3 明褐色土 ローム漸移層に似る。ローム粒混入。
 4 黒色土 ローム塊混入。粘着質の土。

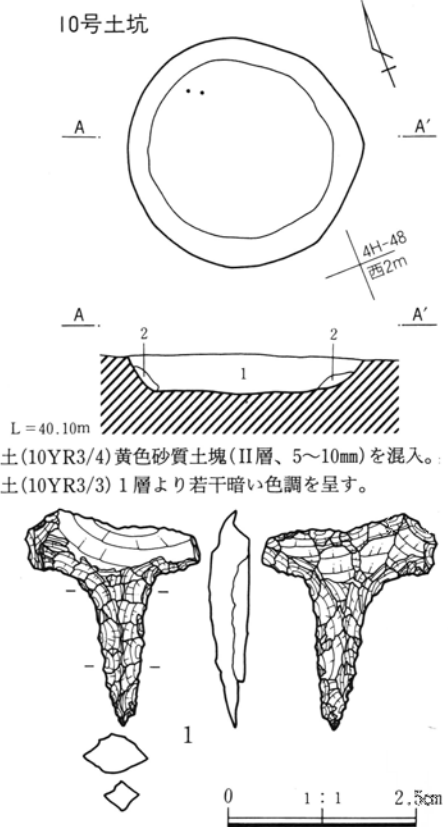
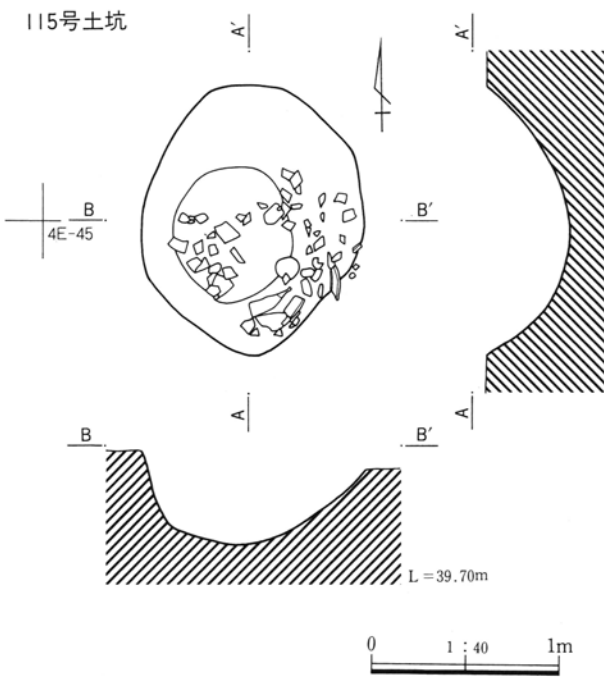
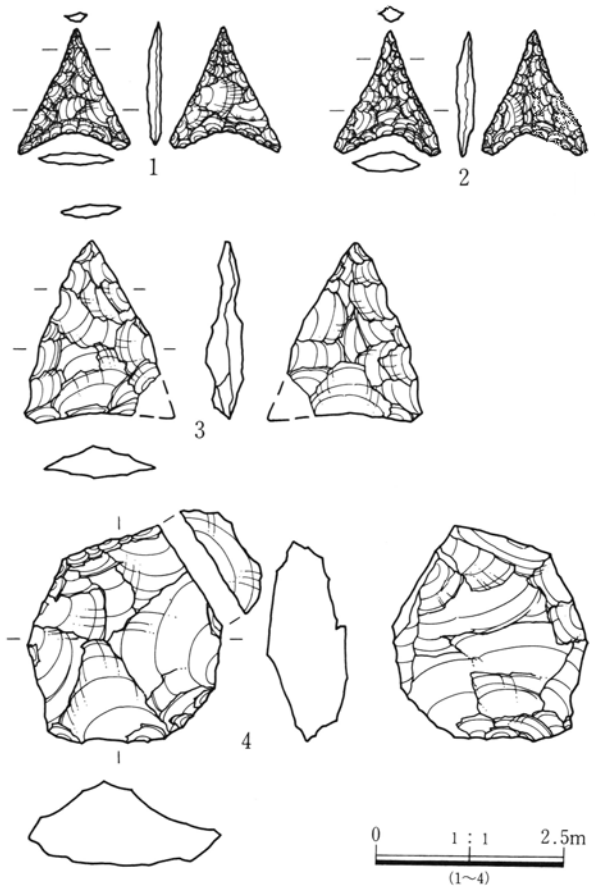
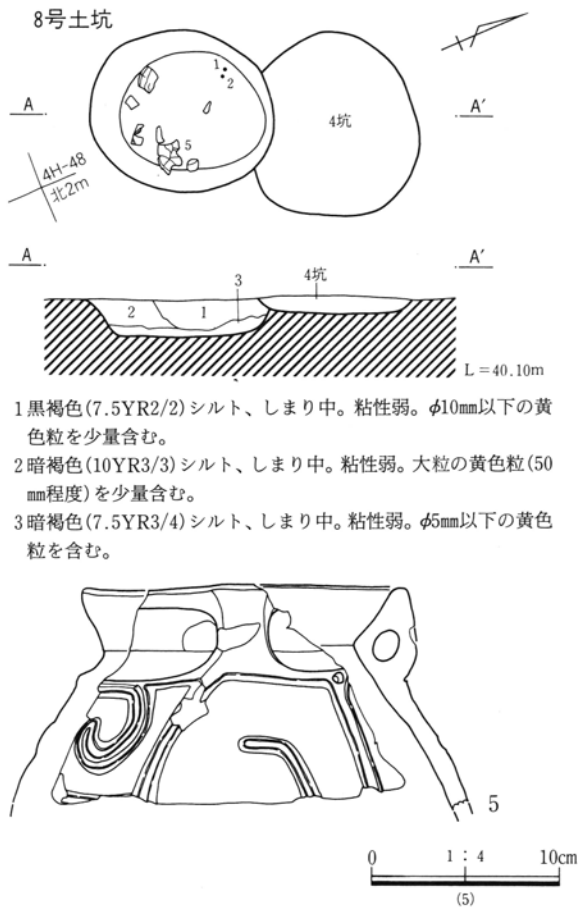


1 暗褐色土 ローム塊・YRを含み、土器片の大半はこの層より出土。炭粒僅かに含む。
 2 くすんだ黄褐色土 くすんだロームと暗褐色土の混土。ローム塊・YR含む。
 3 くすんだ黄褐色土 ローム粒・YR含む。僅かに焼土、炭化粒 含む。
 4 くすんだ黄橙色土 ローム主体。塊混じり。
 5 暗褐色土 ローム小塊、灰褐色粘土塊混じり、粘性強く、ベタつく。
 6 橙色 ローム、白色粘土の混土。壁崩落土。
 7 灰褐色土 暗褐色粘質土、灰白粘土塊の混土。しまり、粘性強。



第29図 120号・123号・124号・157号・163号土坑と出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物



第30図 8号・10号・115号土坑と出土遺物

4. 遺物集中出土地点

ローム台地縁辺 A3区・B2区・B3区

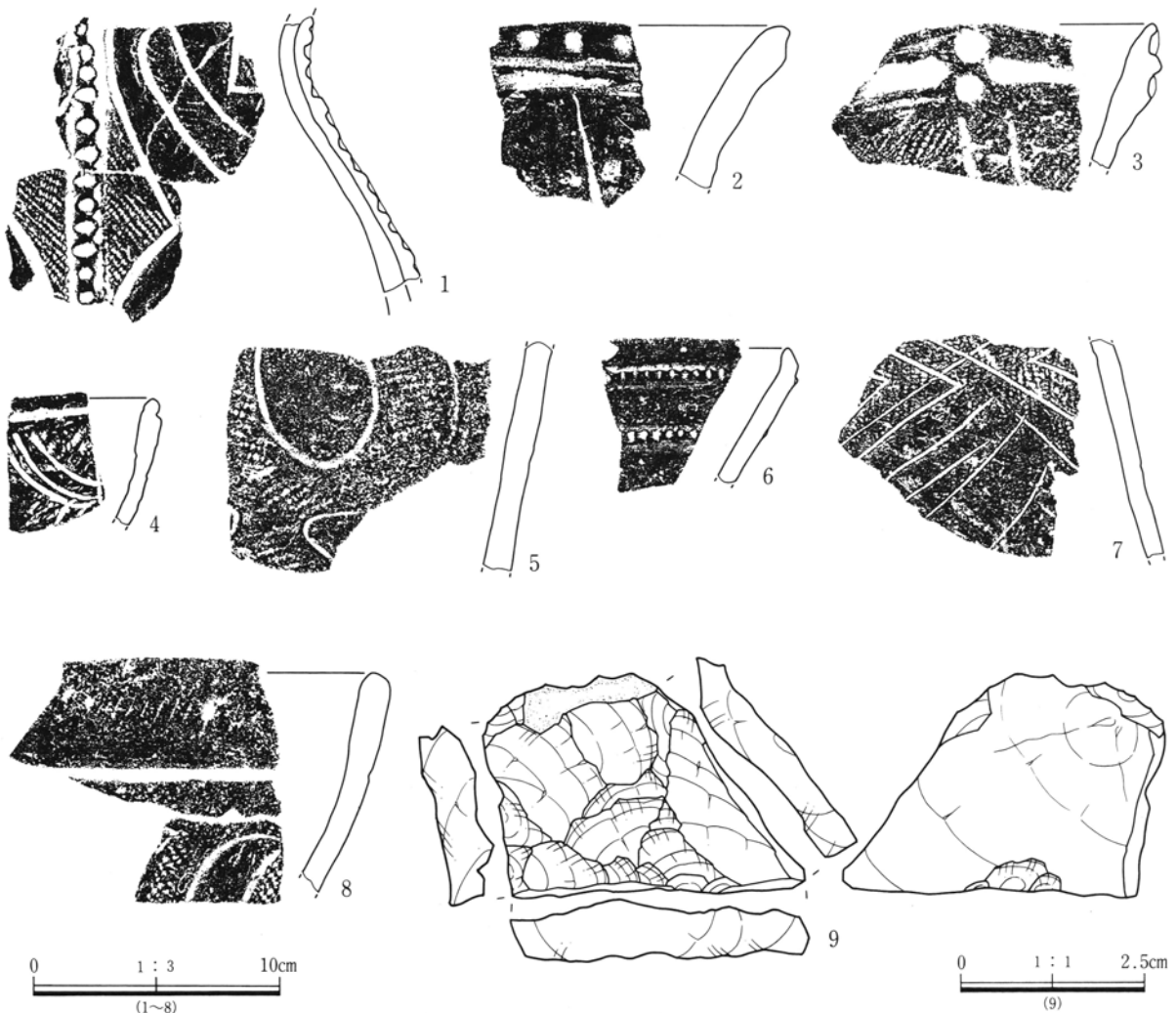
(第31・32図 PL11・127・138 遺物観察表P.355)

縄文時代の遺構が偏在しているローム台地縁辺には遺構に伴わない形で縄文土器や石器が多数出土した。周辺に縄文時代の遺構が分布していたことを示唆している。上武道路本線の調査でも付図1のようにローム台地縁辺に縄文後期の住居と遺物の分布域が確認されている。

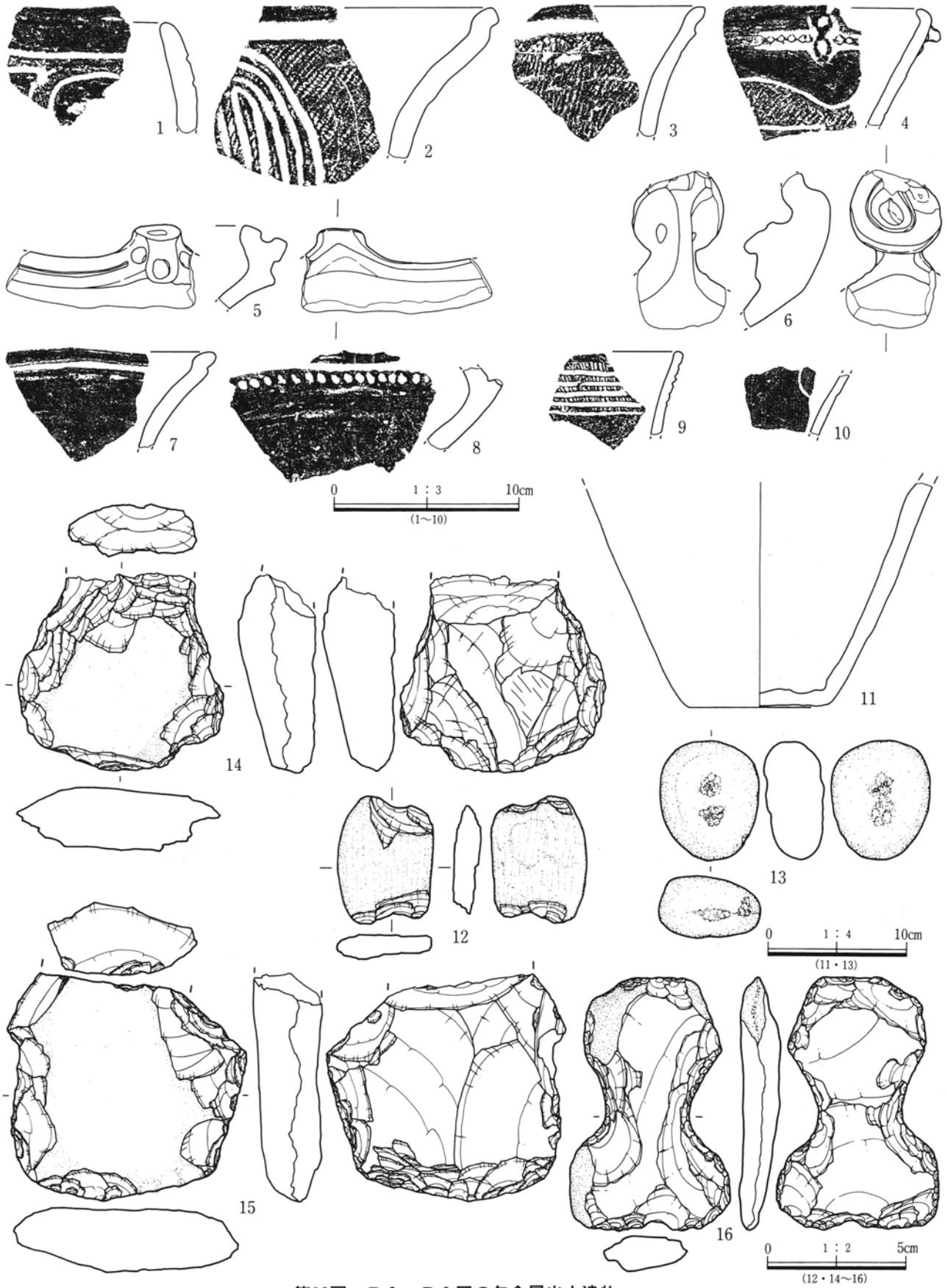
A3区の1号方形周溝墓の遺構確認作業や周溝掘り下げのときに、周辺のローム台地上面や埋没土のなかに縄文時代後期を中心とした土器が550点も出

土した。本書ではその一部を図示した。土器は称名寺式から堀ノ内式、加曾利B式のものであった。土器に比べて石器は少なく、二次加工ある剥片が図示できたくらいである。図示はしなかったが、隣接する2号方形周溝墓の調査時にも同様な時期の土器が40片ほど出土した。

B2区・B3区でも古墳の周堀の調査時に、埋没土中から多くの縄文土器が出土した。B2区の2号古墳からは407片、B3区の3号古墳からは459点もの土器や石器が出土した。土器は一部を図示したが、称名寺式から加曾利B式期のものである。石器は土器に比べて少なかったが、打製石斧や石錘、敲石が出土した。



第31図 A3区の包含層出土遺物



第32図 B2・B3区の包含層出土遺物

A 4区(2U~2Y-12~14グリッド)

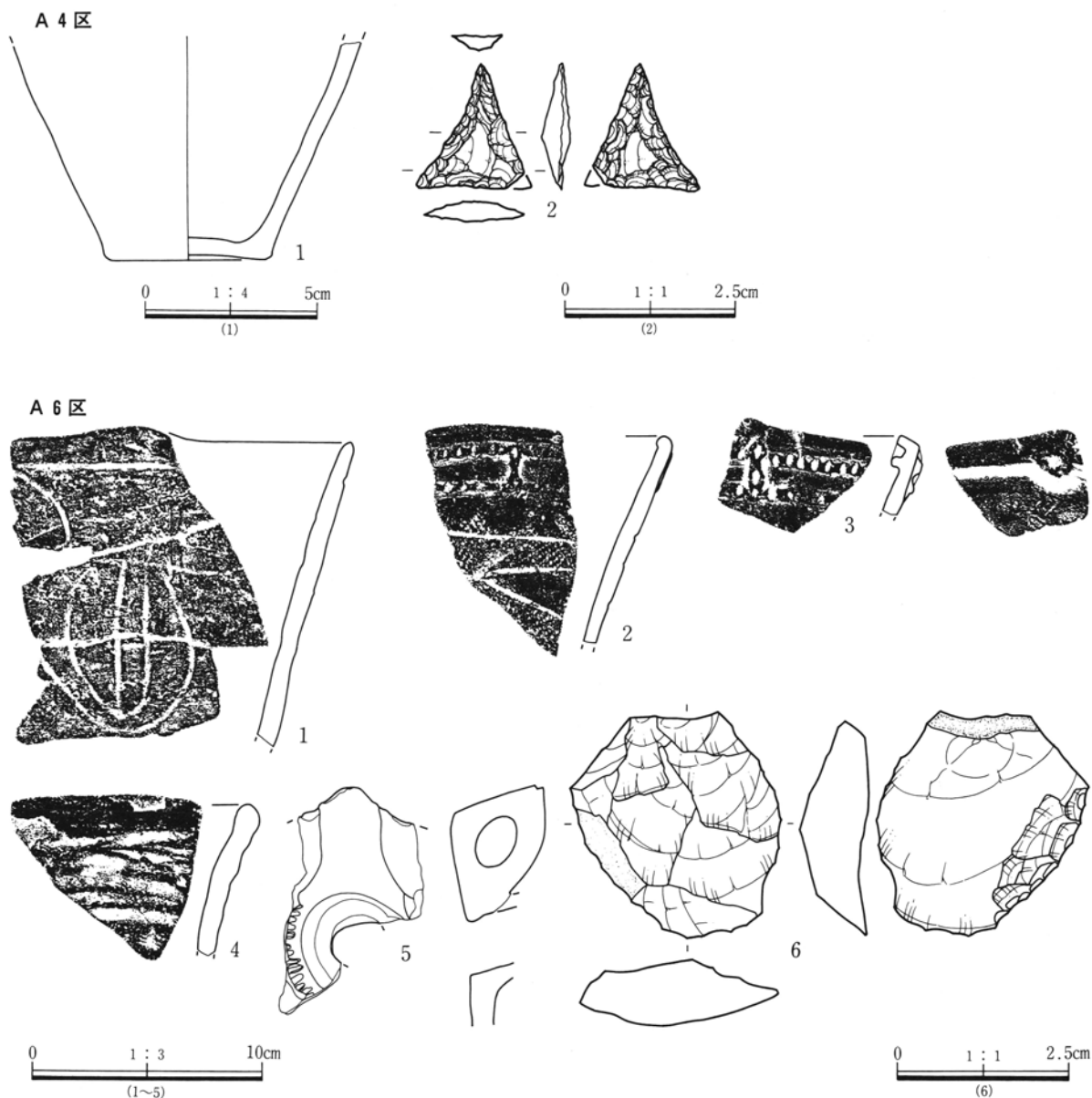
(第33図 PL128 遺物観察表P.355)

A 4区でもローム台地の縁辺で、縄文土器が多量に出土した。A 4区では土坑や埋設土器を検出している。周辺にも縄文時代の遺構が存在していることを推定させる。調査の結果、遺構に伴わない土器は746点にのぼった。時期は称名寺式・堀ノ内式・加曾利B式がほとんどである。また表採資料であるがA 4区で石鏃が出土した。

A 6区(3T~3W-37グリッド)

(第33図 PL128 遺物観察表P.355・356)

A 6区中部の畠の調査が終了した段階で、下層の遺構の有無を確認するためにトレンチ調査を実施した。その際に、遺構は確認できなかったが、縄文土器が多量に出土し、その総数は735点にのぼった。土器の時期は他の遺物出土地点と同様で、称名寺式・堀ノ内式・加曾利B式である。石剥片や礫も20点ほど出土しているが、図示した二次加工ある剥片のほか図示しうる石器は無い。



第33図 A 4区・A 6区の包含層出土遺物

A 6区北部およびB 3区低地部

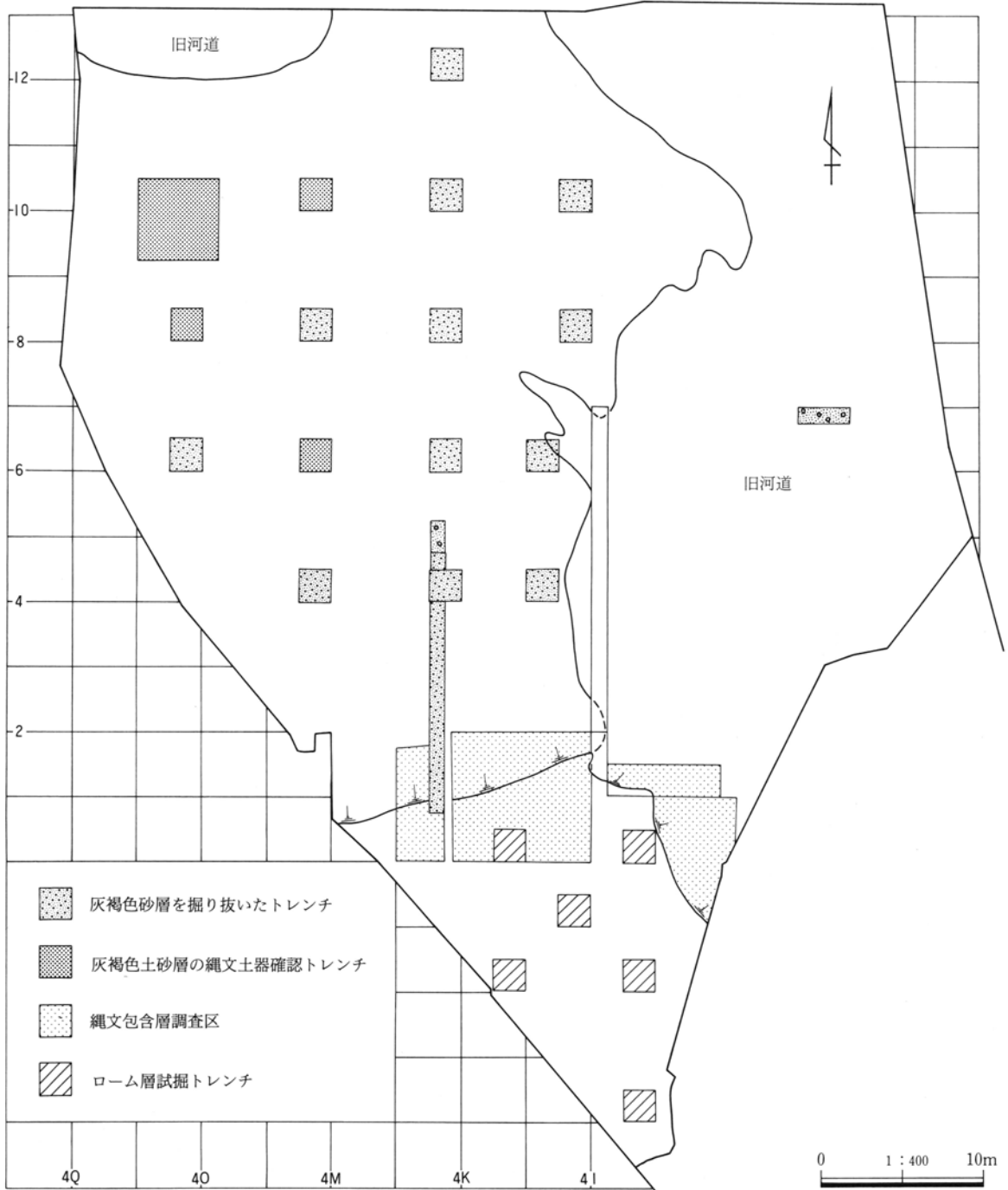
(第34～36図 PL12・129 遺物観察表P.356)

A 6区北部では、平安時代の遺構の調査が終了した段階で、ローム台地・ローム台地周辺・低地部の3地点でより古い時期の遺構確認調査を実施した。

ローム台地上には縄文時代の土坑があり、遺構確認作業時に縄文土器や石器が出土した。土器は土坑

に伴って出土したものと同様の型式のものであったのでここでは図示していない。また、図示した3点の石器が遺構に伴わない形で出土した。なお、6か所の1m四方の試掘トレンチで旧石器の試掘調査を実施したが、旧石器は確認できなかった。

ローム台地周辺の台地裾部では、縄文土器300点以上が台地上から落ち込んだような形で出土した。台



第34図 A 6区北部の縄文時代の調査

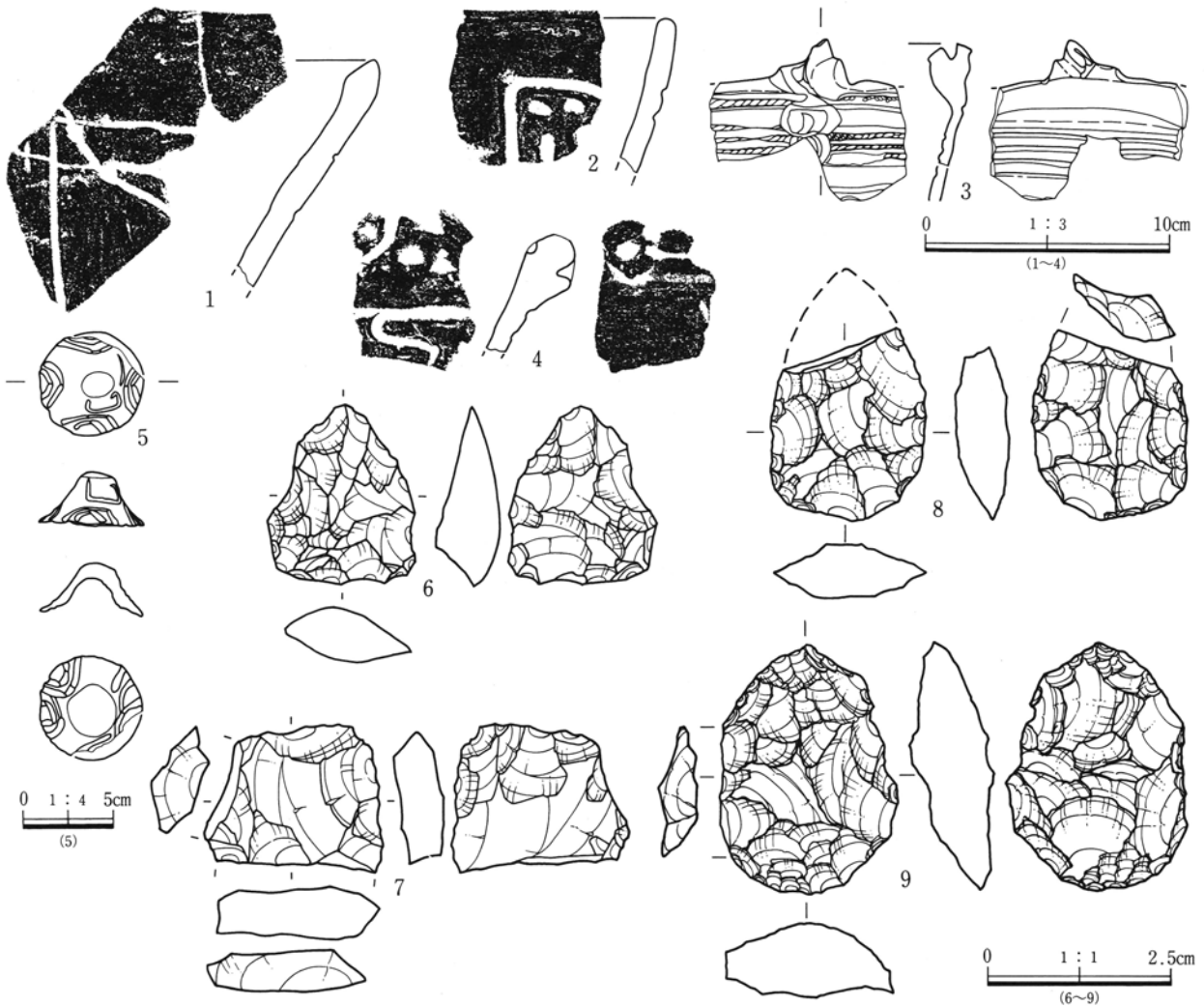
地の北および東の裾部に集中していた。出土した土器は台地上の土坑と同様の時期のもので、称名寺式を中心とする。

低地部には各グリッドに4mおきに1m四方の試掘トレンチ16か所を設定し掘り下げた。低地部を埋めている土は基本土層で示したように、上方から、Hr-FAやAs-Cを含む黒色粘土・軽石を含まない黒色粘土・灰黄褐色砂質土・堅く締まったにぶい黄褐色砂・褐灰色シルト・にぶい黄褐色砂・灰色砂・砂礫の順に堆積している。褐灰色シルト上面まで掘り下げたところで、4O-10グリッドで堀ノ内I式の粗製深鉢形土器(第36図1)が出土した。周囲を広げたところ、図示したように2か所にまとまって大きな破片が出土した。なお、この土器の北西で馬歯が

出土しているが、これは上層からの掘り込みに埋められていた可能性もあり、縄文土器に伴う確証はない。宮崎重雄氏の同定によれば、この馬歯は3歳程度の若い個体で、左下顎の前後臼歯の一部であることが判明している。

他の15か所のグリッドも褐灰色シルト上面まで掘り下げたが、ほとんど遺物は出土しなかった。また遺構も検出できなかった。

さらに16か所のトレンチのうち12か所のトレンチを砂礫層上面まで0.5m×1mの範囲で掘り下げた。一部のグリッドで灰褐色シルト中で土器や二次加工ある剥片や磨り石が、4I-6グリッドでは砂礫中から称名寺II式の土器片が出土した。遺構は検出できなかった。また、4K-8グリッドでは砂礫上層



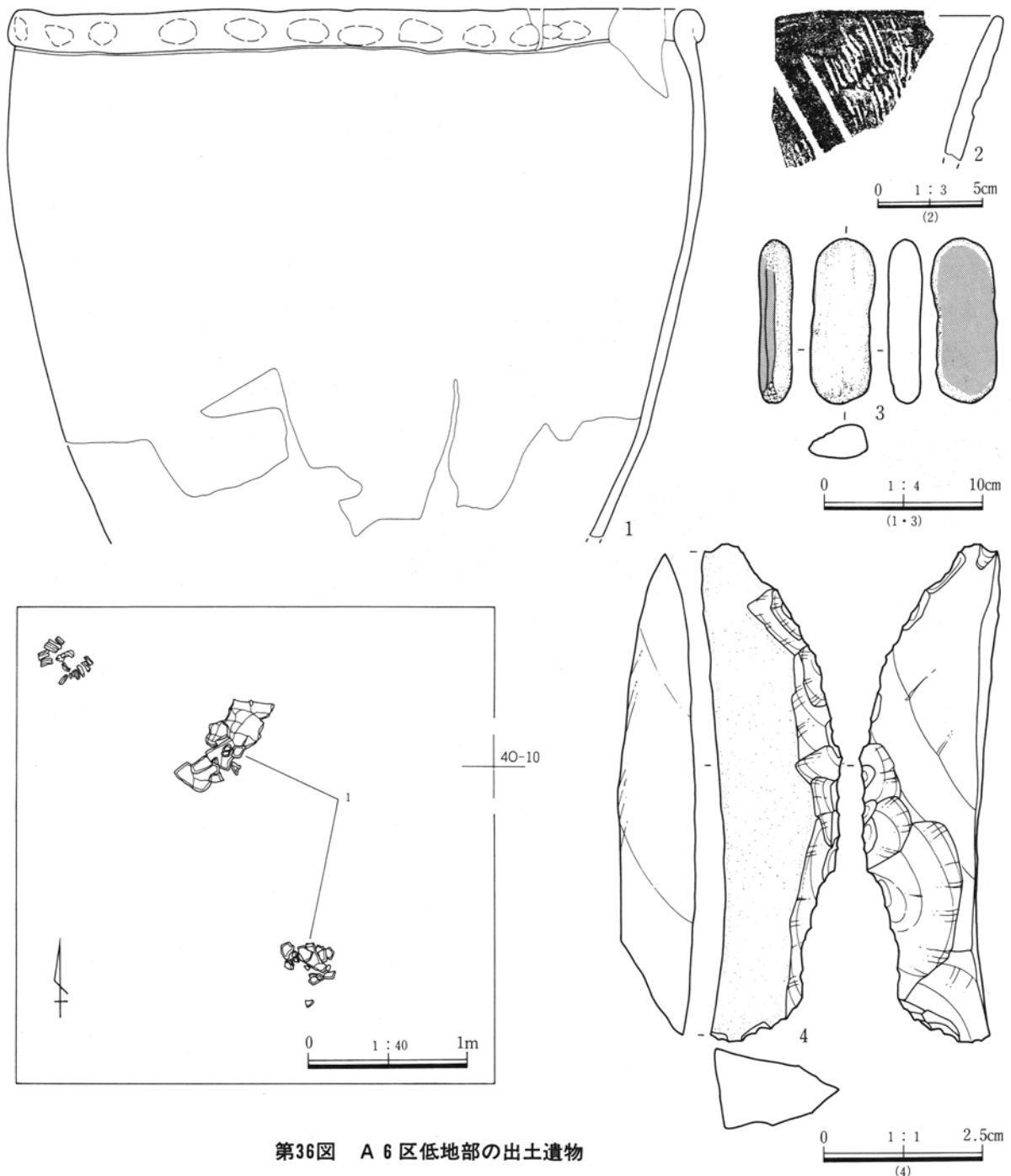
第35図 A6区ローム台地周辺の出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

にコナラと同定された材が出土した。年代測定を行ったところ 3270 ± 90 B.P.の値を得ている。

また、B3区でも畠調査後、下層の遺構の有無を確認するため掘り下げた。ここでも褐灰色砂層や灰色砂層が堆積し、上位にはHr-FAやAs-Cを含む黒

色粘土も確認できた。一部に河道の位置単位を示すような落ち込みが見られたが、畠以前の遺構は確認できなかった。ここでも炭化材が確認されており、 ^{14}C 年代を測定したところ、 2630 ± 100 B.P.、 2200 ± 80 B.P.の値を得ている。



第36図 A6区低地部の出土遺物

第2節 古墳時代の遺構と遺物

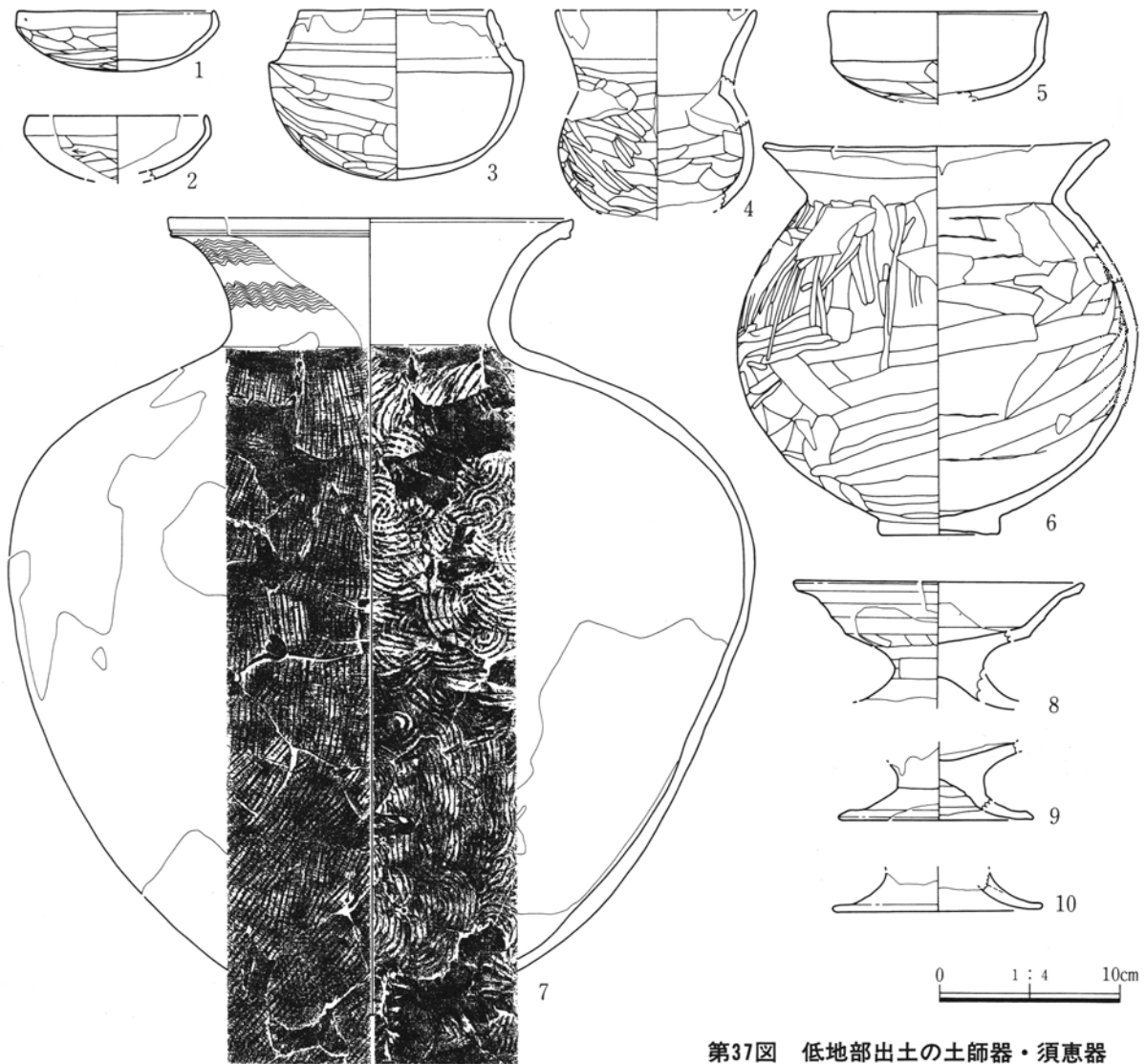
三ツ木皿沼遺跡の古墳時代の遺構は、ローム台地の縁辺に検出された。検出された遺構は、住居13軒、土器溜まり1か所、土坑2基、古墳の周堀3基、方形周溝墓2基である。また、低地部には5地点で古墳時代の遺物を包含する層を検出した。

住居はA2区で8軒、B2区で1軒、A7区で4軒が調査された。住居の時期は5世紀末から6世紀後半である。A2区・B2区の住居はローム台地のやや内部にあたる位置に分布し、A7区の住居は削り残されたローム台地に集中して検出された。古墳3基と方形周溝墓2基は住居群より台地縁辺に近い

ところに分布している。このような遺構分布の傾向は上武道路本線部分と同様である。

A2区の土器溜まりは上武道路本線の調査成果と照合した結果、小角田前遺跡232号住居の竈周辺である可能性が高い。また141号土坑もその位置からして同じ232号住居の貯蔵穴である可能性がある。

低地部にはHr-FAやAs-Cが含まれる黑色シルト質土が堆積している。この層位から5地点で第37図のような遺物が出土した。いずれも住居の時期と一致する。一方、低地部のHr-FAやAs-Cが含まれる層にはA6区とB3区でイネのプラントオパールが検出されている。古墳時代にも何らかの形で低地部での稲作が行われていた可能性も考えられよう。



第37図 低地部出土の土師器・須恵器

1. 住居

110号住居 (第38~41図 PL13・129・130 遺物観察表P.356・357)

位置 A2区K~M-28,29グリッド

形状 整った横長長方形。四隅はわずかに丸みを持って屈曲する。竈煙道部は調査区外となる。

規模 長辺 5.68m 短辺 5.00m 面積 24.83m²

方位 N-45° - E

柱穴 4本。1-2:2.4m 2-3:2.9m 3-4:2.4m 4-1:3.0m

周溝 竈部と北西壁中央を除いて全周するが、貯蔵穴付近で乱れる。確認深1~7cm。

貯蔵穴 竈右にある。深さ30cm。

埋没土 基本的にはローム粒を含む黒色~黒褐色土で埋没している。北東方向からはローム塊を含む暗灰黄褐色土が流入している。竈付近にのみ焼土粒が混じる。

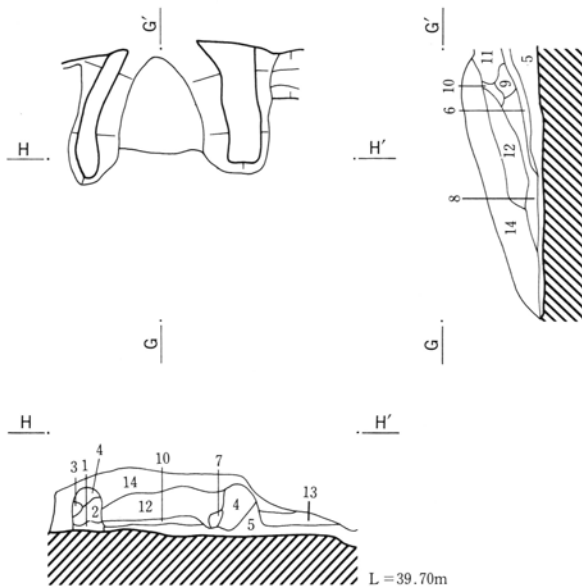
残存壁高及び壁の状況 40cm。南西辺はわずかに鈍

い立ち上がりを示すが、他の三辺はほぼ垂直に立ち上がる。

床面の状況及び床下施設等 ほぼ水平。中央部に黒色の灰層が広がる。掘り方では西半部中央近くが深く、2か所にやや大きな窪みが見られる。

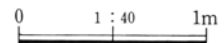
竈 北東壁の中央やや南寄りに設けられるが、煙道部は調査区外となる。袖は褐灰色~灰黄褐色の粘質土を用いて構築され、住居内にハの字状に張り出す。遺物と出土状況 土器、礫共に北東から南東部分を中心に散在する。一方、西隅部からの出土遺物はごく少ない。土器はほとんどが破片であり、復元可能なものは少ない。土師器の、いわゆる須恵器模倣坏が主体で、図示したもの以外も壘片少量のほかは坏の破片で占められる。土器以外では石製模造品片が12点出土しているが、全体の形状が把握できるものは双孔の円盤状品のみである。また、棒状礫や敲打痕のある扁平な円礫が出土している。

その他 古墳時代後期(6世紀後半)

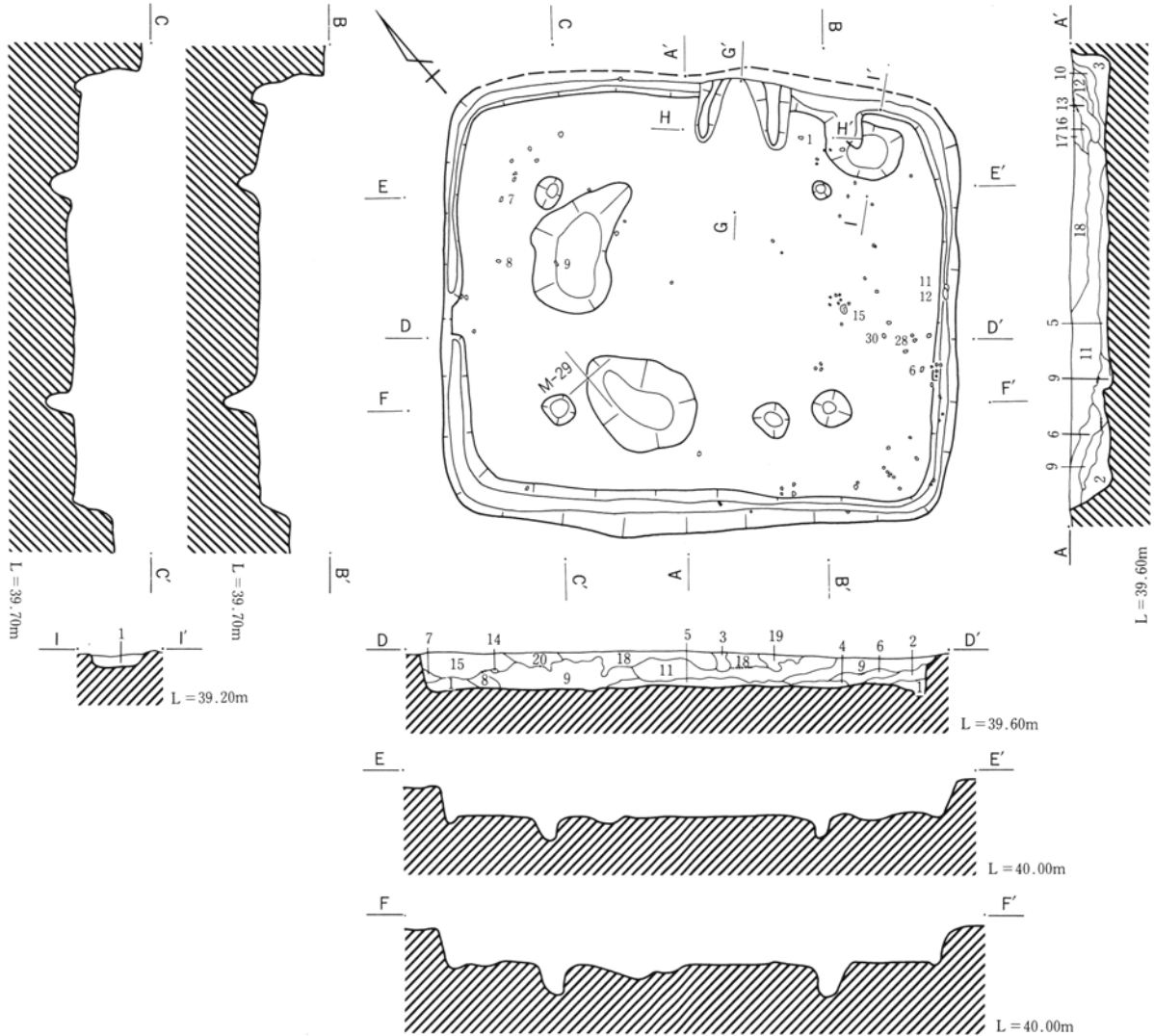


110号住居 竈 G-G' H-H'

- 1 黒褐色土(10Y R3/2)ローム粒(1~5mm)炭化物、焼土を多量に含む。褐灰色土粒(1~30mm)を少量含む。粘性はやや緻密な土。
- 2 灰黄褐色土(10Y R5/2)炭化物、焼土をごく少量含む。4層と同様の土。粘性は強く鉄分の凝集が著しい。
- 3 灰黄褐色土(10Y R5/2)炭化物をごく少量含む。鉄分の凝集が著しい。粘性は乏しくもろい。
- 4 褐灰色土(10Y R6/1)ローム粒(1~10mm)を少量混入。粘性は極めて強い(竈袖部材)。
- 5 黒褐色土(10Y R3/2)ローム粒(5~20mm)を多く含み、焼土、炭化物を少量含む。粘性はやや緻密でなくもろい。
- 6 褐灰色土(10Y R4/1)ローム粒少量含む。黒色灰と焼土を多量に含む。粘性はきわめて強い。
- 7 褐灰色土(10Y R5/1)ローム粒少ない。焼土が多量に混入、粘性はごく強い。
- 8 におい黄褐色土(10Y R4/3)ローム粒(5~10mm)焼土を少量含む。黒色灰が多量に混入。粘性はやや弱い。
- 9 褐色土(10Y R5/1)ローム粒極少量含む。褐色の粘質土が多く混入。粘質はやや強い。
- 10 褐灰色土(10Y R5/1)ローム粒(5~10mm)を少量含む。粘性はごく強い。
- 11 暗褐色土(10Y R3/4)ローム粒(5~10mm)焼土と炭化物を少し含む。粘性はやや弱い。
- 12 褐灰色土(10Y R5/1)ローム粒(5~10mm)を極少量含む。粘性はごく強い。
- 13 11層と同様の土、鉄分の凝集が著しい。
- 14 灰黄褐色土(10Y R5/2)ローム粒(5~10mm)炭化物をごく少量含む。粘性はごく強い。



第38図 110号住居竈



110号住居 A-A' D-D'

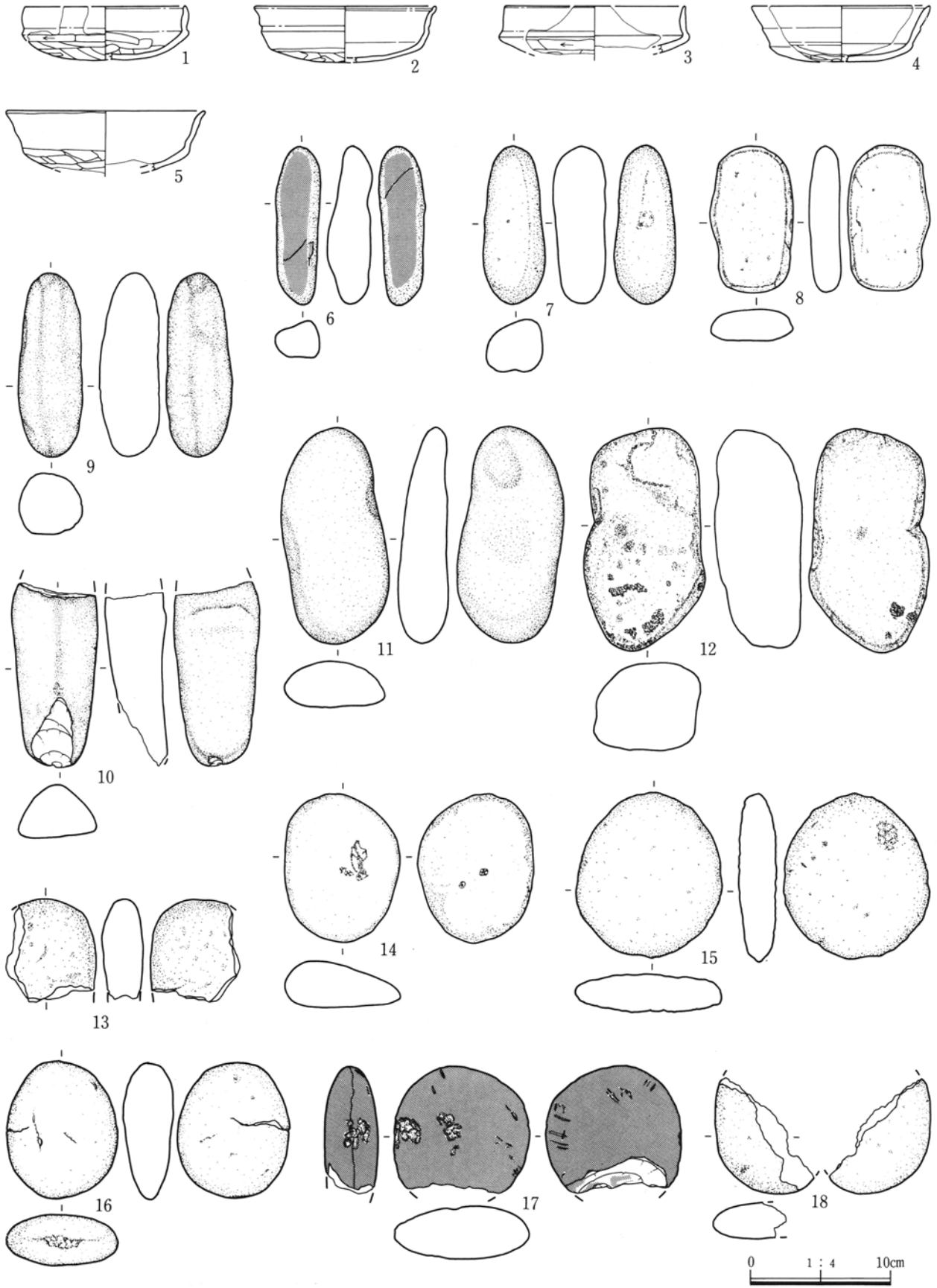
- 1 黒色土(2.5Y2/1)黄色ローム粒(1~2mm)を2層より多く含む。
- 2 黒褐色土(2.5Y3/1)黄色ローム粒(1~2mm)をやや多く含む。
- 3 暗灰黄色土(2.5Y5/2)黄褐色ローム粒、灰白色粘質土粒(1~2mm)を多量に含む。
- 4 オリーブ褐色土(2.5Y4/3)黄色ローム粒(0.5~3mm)をやや多く含む。
- 5 明黄褐色土(2.5Y6/6)灰白色粘質土塊(5~10mm)、焼土塊(4~5mm)、黒褐色土塊(2~8mm)をそれぞれ若干含む。
- 6 灰黄褐色土(10YR5/2)ベースとなるのは灰黄褐色土であるが、黄褐色ローム粒・ローム塊(20~40mm)をやや多量に含。
- 7 にぶい黄褐色土(10YR4/3)黄褐色ローム粒(0.5~5mm)を多量に含む。
- 8 灰黄褐色土(10YR5/2)黄褐色ローム粒(1~10mm)をやや多く含。
- 9 にぶい黄褐色土(10YR4/3)黄色ローム粒(1~5mm)をやや多く含。
- 10 灰オリーブ色土(7.5Y5/2)黄色ローム粒(0.5~3mm)、赤褐色焼土粒(1~4mm)を若干含む。明緑灰色粘土の塊(5~10mm)を多く含む。
- 11 黒褐色土(2.5Y3/1)黄色ローム粒(0.5~5mm)を多く含む。
- 12 暗灰黄色土(2.5Y4/2)微細なローム粒(1mm以下)を少量含む。

- 13 暗灰黄色土(2.5Y4/2)黄色ローム塊、ローム粒(0.5~10mm)を多量に含む。
- 14 ローム塊。
- 15 暗灰黄褐色土(2.5Y5/2)黄褐色ローム粒・黄褐色ローム塊(1~20mm)を大量に含む。
- 16 灰黄褐色土(10YR4/2)黄色ローム粒、灰白色粘質土粒(0.5~2mm)をやや多く含む。
- 17 灰黄褐色土(10YR4/2)黄褐色ローム塊(0.5~5mm)をやや多く含。
- 18 暗灰黄色土(2.5Y4/2)黄色ローム粒(1~5mm)を少量含む。
- 19 オリーブ褐色土(2.5Y4/4)黄色ローム粒(0.5~20mm)を多量に含。
- 20 黒褐色土(2.5Y3/1)黄褐色ローム粒(3~15mm)を少量含む。

110号住居内貯蔵穴 I-I'

- 1 黒褐色土(10YR2/3)ローム粒(5~10mm)を極多量に含む。堆積もろく脆弱である。

第39図 110号住居



第40図 110号住居の出土遺物(1)



第41図 110号住居の出土遺物(2)

111号住居(第42図・43 PL13・14・130 遺物観察表P.357)

位置 A2区N,O-29,30グリッド

形状 わずかに横長だがほぼ方形。四隅はわずかに丸みを持って屈曲する。

規模 長辺 2.54m 短辺 2.49m 面積 5.25m²
本遺跡の古墳時代住居としては最小規模の住居である。

方位 N-9°-E 柱穴 なし。

周溝 東半部では明瞭に確認できる。西半部では平面的な形状が確認できない。しかし、土層断面にはこれが現れていることから、本来はほぼ全周していた可能性が高い。

貯蔵穴 なし。

埋没土 ローム粒を含む黒褐色土～暗褐色土が壁際に堆積し、ローム粒、焼土粒、炭化物粒を含む黒褐色土が床面を覆う。覆土中位にも炭化物粒、焼土粒が含まれる。

残存壁高及び壁の状況 38cm。ほぼ垂直に立ち上がる。

床面の状況及び床下施設等 均平でほぼ水平。中央西寄りにゆがんだ円形状の平面形で焼土が広がり、その南に炭化物の集中部がやはりゆがんだ円形に広

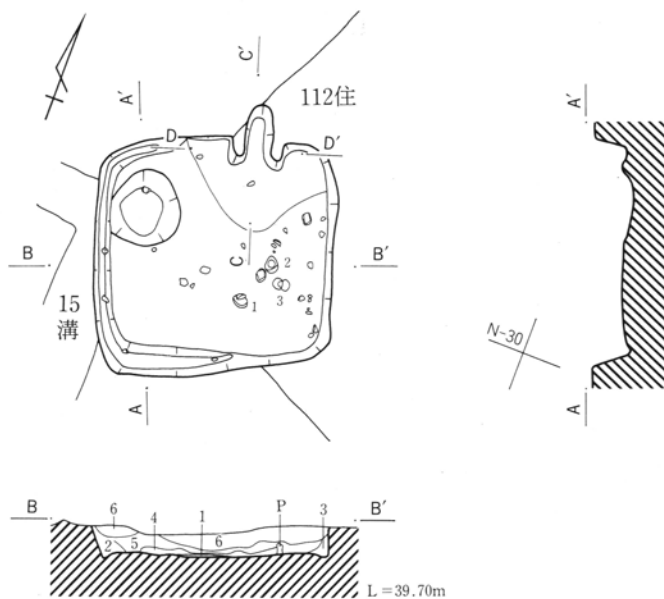
がる。これからやや東に離れた位置にも、細長い楕円形の平面形で炭化物の広がりがある。北西隅部には床下土坑がある。

竈 北壁やや東寄りを壁外にU字状に掘り込んで燃焼部が作られている。煙道は確認できない。袖は住居内に、短く平行に張り出す。袖、天井ともに白色粘土を用いて構築されている。確認長64cm、焚き口幅32cm。燃焼部中央から土師器の長胴甕(第43図-5)が、口縁をやや焚き口側に傾けるものの、ほぼ正位の状態出土した。土層断面の観察では、この土器の底面は竈底の灰層以下に位置する。また、焚き口部には土師器のやや小型の甕(第43図4)が横位で残されていた。

重複 112号住より新しい。15号溝より古い。

遺物と出土状況 破片は住居内全体に散在しているが、住居東半部に比較的大型の破片が目立つ、また、東半部やや南寄りの位置から完形遺物出土している。竈部の甕のほか、土師器のいわゆる須恵器模倣坏、小型甕などがある。図示できない破片資料でも坏が少なく、甕類が多い。

その他 古墳時代後期(6世紀後半)

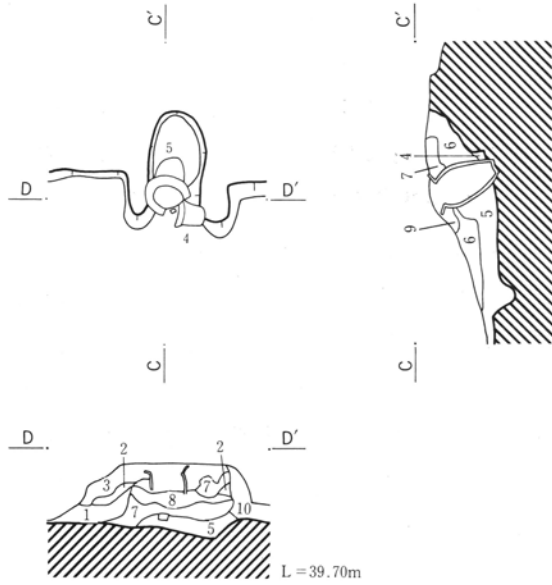


111号住居 A-A'

- 1 炭化物
- 2 暗褐色土(7.5YR3/3)ローム粒・ローム小塊(1~2cm)・焼土粒を含む。
- 3 黒褐色土(7.5YR3/2)ローム粒を含む。
- 4 黒褐色土(5YR3/1)炭化物小塊(2~4cm)・焼土小塊(0.5~1cm)・ローム粒を含む。住居中央部では下層に炭化物の層が1cmほど堆積している。
- 5 黒褐色土(5YR3/1)ローム粒・炭化物粒・焼土粒を含む。
- 6 黒褐色土(5YR3/1)ローム粒・ローム小塊(2~4cm)を多量に含む。鉄分でやや赤っぽい部分もある。

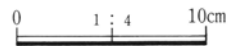
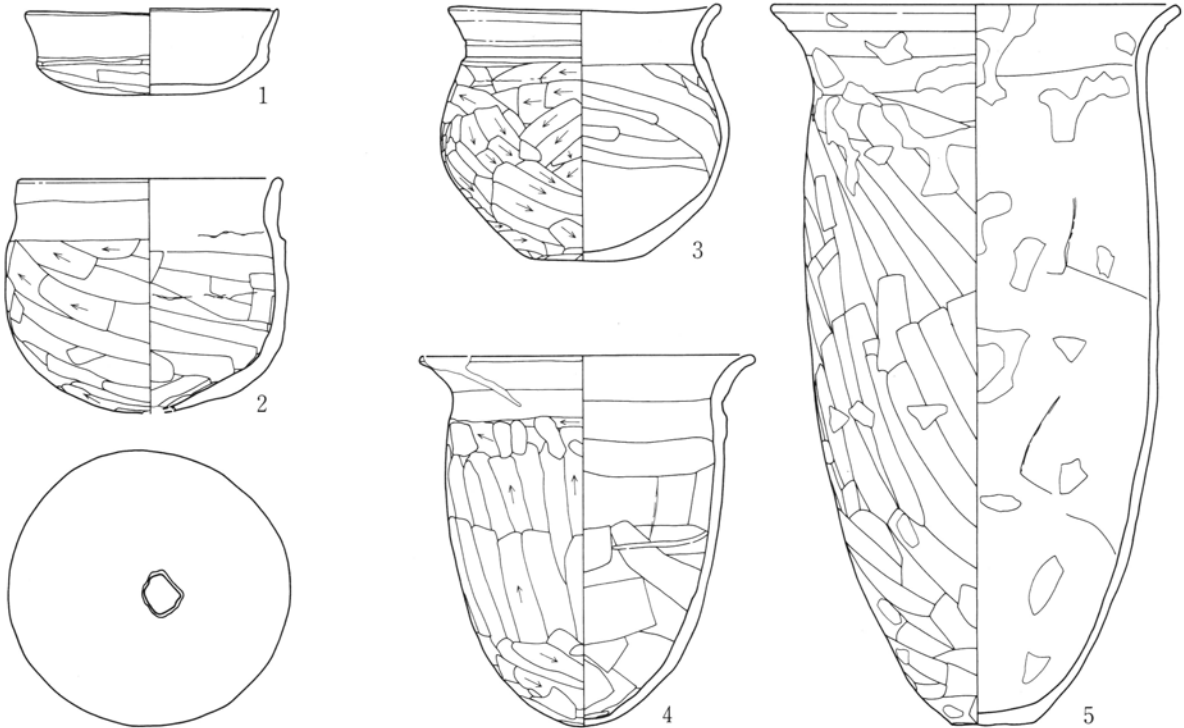
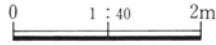
第42図 111号住居

第2節 古墳時代の遺構と遺物



111号住居 竈 C-C' D-D'

- 1 黒褐色土(2.5Y3/1)ベースとなるのは炭化物層で、黄褐色ローム粒(0.5~2・3mm)を少量含む。
- 2 黒色土(10YR2/1)ローム小塊(1~2cm)・ローム粒含む。
- 3 黒色土(10YR2/1)ローム粒・焼土粒を含む。
- 4 灰層
- 5 黄灰色土(2.5Y4/1)ローム粒・焼土粒・炭化物(0.5~2・3mm)等を多く含む。
- 6 暗褐色土(10YR3/3)ローム粒・白色粘土粒・焼土粒・炭化物粒を多量に含む。
- 7 白色粘土
- 8 灰黄褐色土(10YR5/2)ローム粒・焼土粒(0.5~2・3mm)をやや多く含む。
- 9 褐色土(7.5Y4/3)焼土粒・ローム粒・炭化物粒を含む。
- 10 黒褐色土(10YR3/1)ローム粒を多量に含む。(112号住居埋没土)



第43図 111号住居竈と出土遺物

112号住居 (第44~46図 PL14・15・130・131 遺物観察表P.357)

位置 A2区M, N-29~31グリッド

形状 北東側の壁が発掘区外となり、竈が不明瞭であるため確定できないが、ほぼ方形あるいはわずかに横長の長方形の平面形と考えられる。西南隅は111号住居に切られる。北を162号土坑に切られるが、この部分が隅部に近いものと思われる。

規模 長辺確認長 6.58m 短辺 6.51m

方位 N-29° - E (東壁)

柱穴 確認数3本。1-2:3.9m 2-3:4.1m

周溝 南西隅部で不明瞭になるが、ほぼ全周するものと考えられる。幅20~30cm、深さ2~5cm。

貯蔵穴 なし。

埋没土 ローム粒を含む暗褐色土が床面を覆う。東壁中央やや南寄りに炭、焼土の集中がある。覆土上位はローム粒、ローム塊を含む暗褐色土。

残存壁高及び壁の状況 38cm。ほぼ垂直に立ち上がる。

床面の状況及び床下施設等 小さな凹凸があるが、ほぼ水平に作られる。東壁際がわずかに高くなるか見え、掘り方も西壁際がやや深い。地山の傾きを

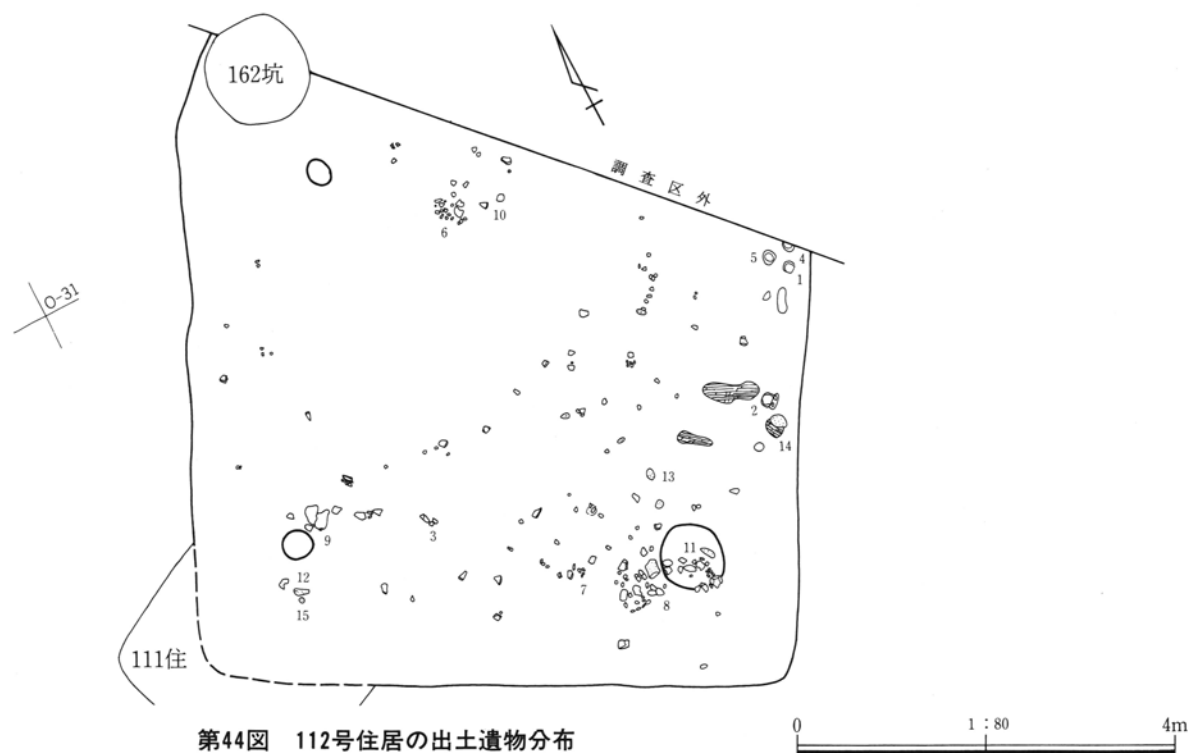
反映したものと思われる。

竈 明確ではない。北部の調査区界の中央部に組まれたかに見える石があり、この前に当たる部分から甕が出土している。調査時点ではこの石を竈と想定したが、壁の推定線からは2m近くも内側にあたり、この時期の竈としても異例に大きなものになってしまう。石は焼けているが焼土や炭化物の堆積は見られず、竈として確定することはできない。東壁の南寄りには部分的に焼土塊や炭化物の集中が見られる。しかしここには壁を掘り込む構造はなく、壁周溝も連続する。従って、調査範囲内には竈はなく、北壁部の調査区外に作られていたものと想定せざるを得ない。

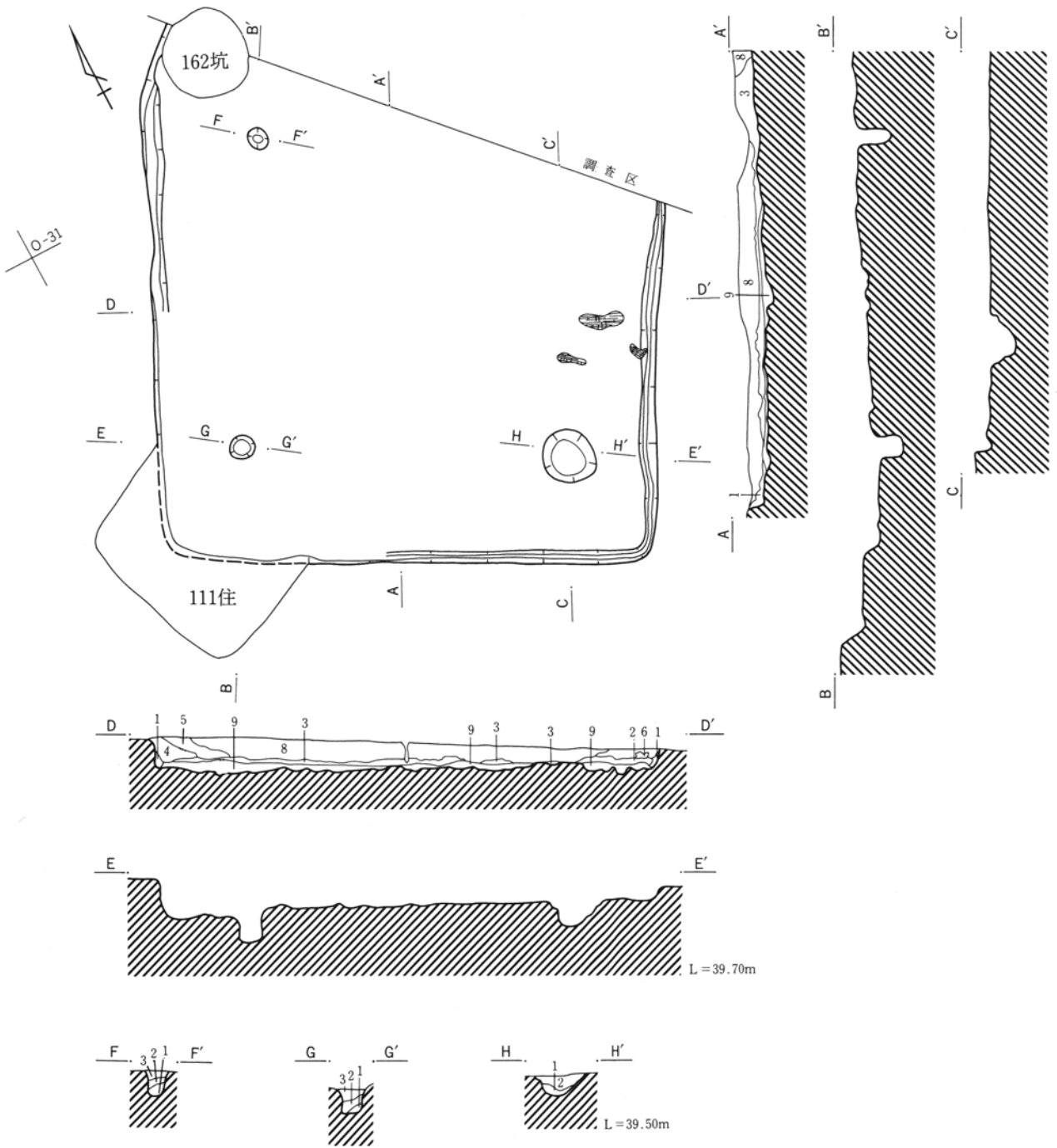
重複 111号住居、162号土坑、12号溝より古い。

遺物と出土状況 住居南半に多い。柱穴2・3周辺に土師器甕の大破片が集中し、東壁際では須恵器、土師器の坏が完形で出土している。北部では竈周辺に土師器甕があり、坏、甕の小片が見られるが、他はごく散在的で量も少ない。

その他 古墳時代後期(6世紀中葉)



第44図 112号住居の出土遺物分布



112号住居 A-A' D-D'

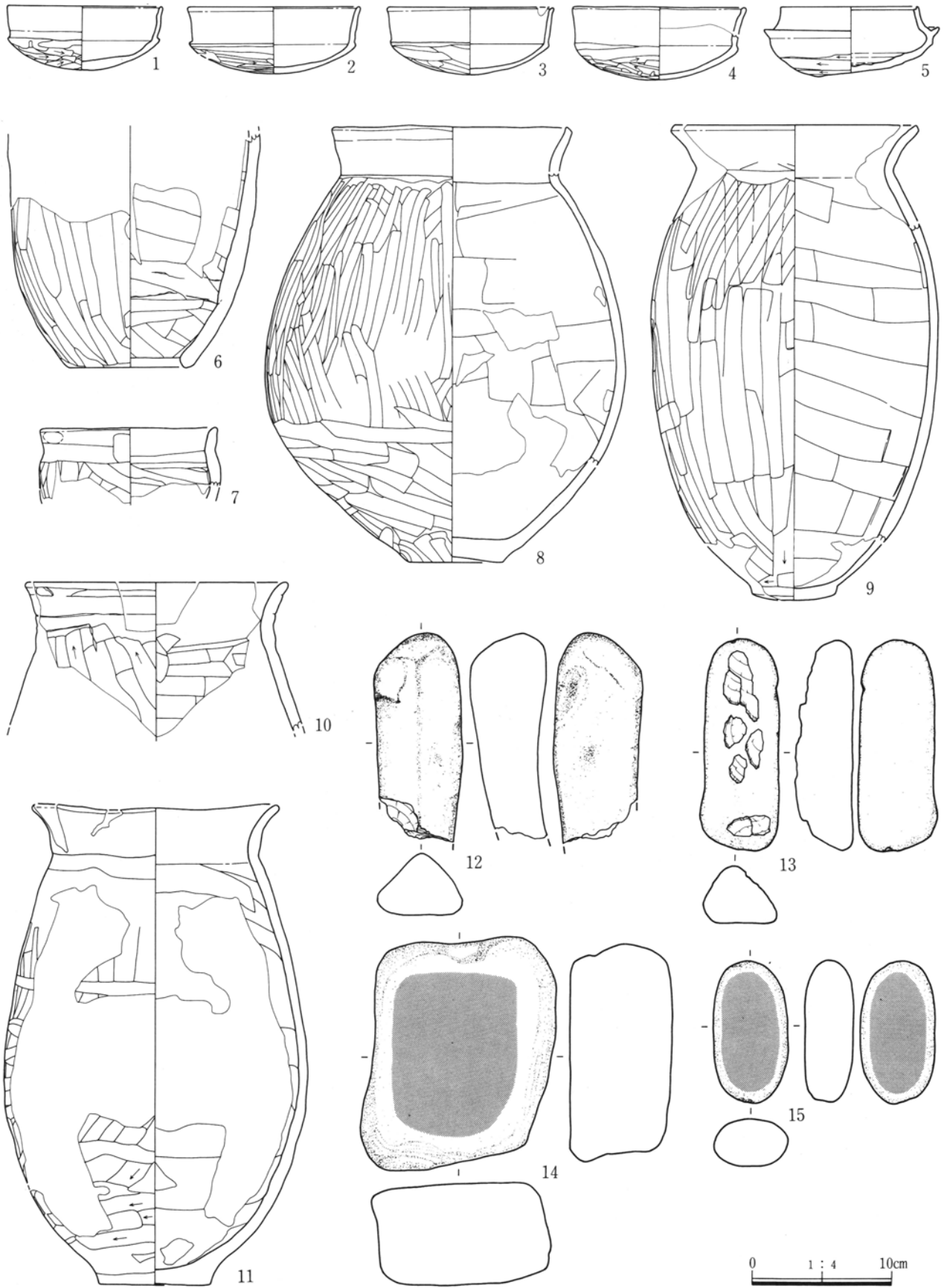
- 1 にぶい黄褐色土(10YR4/3)ローム粒を含む。しまりない。
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2)ローム小塊(10mm)と炭化物を多量に含む。
- 3 暗褐色土(10YR3/3)ローム粒を含む。
- 4 灰黄褐色土(10YR4/2)ローム粒を含む。
- 5 黒褐色土(10YR3/2)ローム粒・ローム小塊(5~10mm)を含む。
- 6 焼土塊
- 7 灰黄褐色土(10YR4/2)ローム粒・焼土粒を多量に含む。
- 8 黒褐色土(10YR3/1)ローム粒・ローム小塊(5~10mm)を少量含む。砂質。
- 9 黒褐色土(掘り方埋没土)ローム塊・焼土粒を含む。

112号住居 柱穴 F-F' G-G' H-H'

- 1 褐色土
- 2 褐色土
- 3 黒褐色土

第45図 112号住居

第3章 検出された遺構と遺物



第46図 112号住居の出土遺物

113号住居(第47~50図 PL15・16・131・132 遺物観察表P.358~)

位置 A2区N~P,31,32グリッド

形状 各隅がやや丸みを持つ方形。北東壁の竈煙道部が調査区外となる。

規模 長辺 4.80m 短辺 4.72m 面積 19.49m²

方位 N-43°-E

柱穴 4本。1-2:2.5m 2-3:2.8m 3-4:2.8m 4-1:2.8m

周溝 深さ5cmほどで、南隅部及び南西辺の中ほどにある。

貯蔵穴 竈の右手にあたる東隅部にある。柱穴2に接する。直径60cmほどの円形の平面形を呈し、深さは30cm。

埋没土 床面は黒褐色土とローム塊のしまりのない混土で覆われる。中位はローム粒、焼土粒を含む黒褐色土、上位は砂質の黒褐色土。

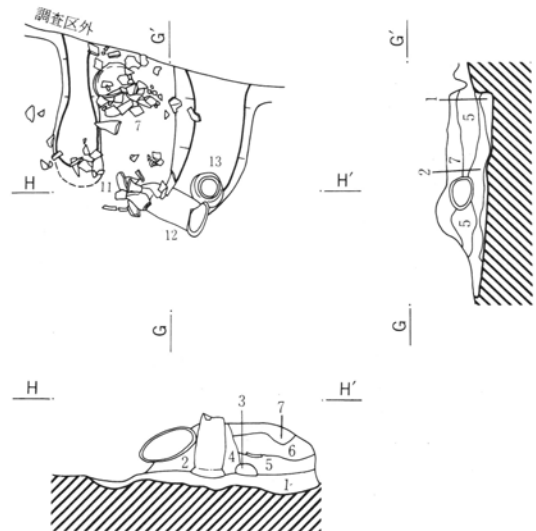
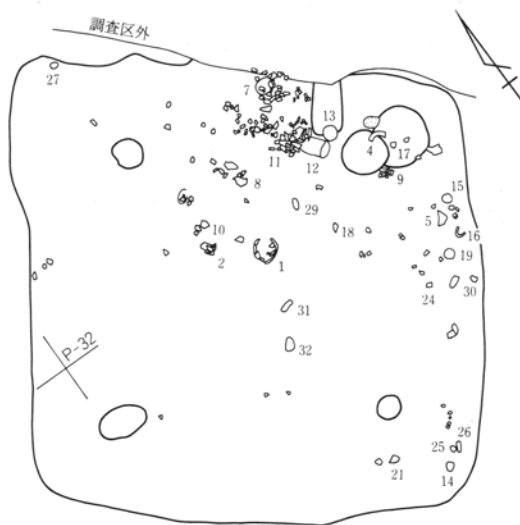
残存壁高及び壁の状況 70cm。やや上位が開くように立ち上がる。

床面の状況及び床下施設等 わずかに凹凸があるが、ほぼ水平。掘り方では柱穴部分が大きく掘り取られて、住居中央がやや盛り上がるかに見られる。

竈 北東壁の中央近くやや東南寄りに作られるが、煙道部は調査区外にかかるため、全容は分からない。右袖部のみが残っていた。黄褐色粘土を用いて構築されている。焚き口部は土師器の甕を組み合わせで作られている。

遺物と出土状況 竈周辺から住居北東半にかけて遺物が多い。南隅部からは棒状礫がまとまって出土している。土器は土師器のいわゆる須恵器模倣坏、長胴甕、小型甕などがある。覆土からは須恵器甕の小片が出土している。

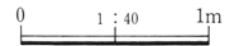
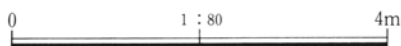
その他 古墳時代後期(6世紀後半)



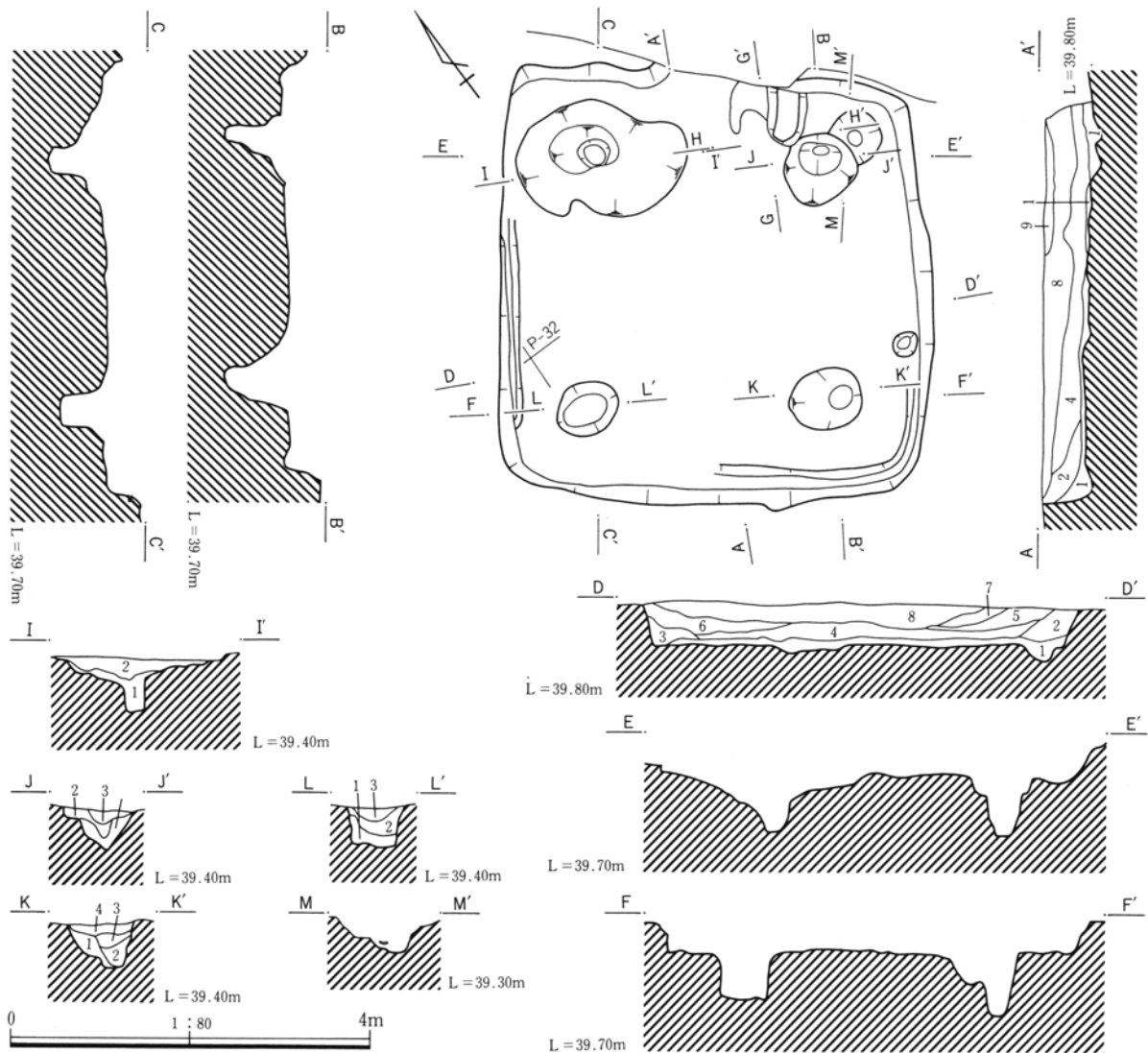
113号住居 竈 G-G' H-H'

- 1 黄灰色土(2.5Y4/1)黄褐色粒(5~30mm)が多量に混入する。粘性は弱い緻密な堆積である。
- 2 黒褐色土(2.5Y3/19)黄褐色粒・焼土・炭化物(5~30mm)を多量に含む。緻密な堆積の土。
- 3 黄色土(2.5Y8/8)ローム塊。

- 4 黄灰色土(2.5Y5/1)黄褐色粒(0.5~1・2mm)を少量含む。
- 5 暗黄灰色土(2.5Y5/2)黄褐色粒・炭化物(0.5~2・3mm)を若干含む。
- 6 明オリーブ灰色土(5GY7/1)黄褐色土・赤褐色土粒(0.5~1・2mm)をやや多く含む。
- 7 灰色土(5Y4/1)灰オリーブ色土塊(1~3mm)・黄褐色土塊(1~3mm)を少量含む。



第47図 113号住居の遺物出土状態



113号住居 A-A' D-D'

- 1 黒褐色土(10YR2/3)とローム塊(30~40mm)の混土。しまりない。
- 2 黒褐色土(10YR2/3)ローム粒を少量含む。
- 3 暗褐色土(10YR3/3)ローム粒・焼土粒を少量含む。
- 4 黒褐色土(10YR2/3)ローム粒・焼土粒・ローム小塊(20~50mm)を含む。
- 5 灰黄褐色土(10YR5/2)ローム粒・ローム小塊(20~60mm)を多量に含む。
- 6 黒褐色土(10YR3/2)ローム大粒(5mm)を多く含む。
- 7 灰黄褐色土(10YR5/2)ローム粒・ローム小塊(10~20mm)を含む。
- 8 黒褐色土(10YR3/1)砂質。ローム粒・ローム小塊(10~20mm)を少量含む。
- 9 暗褐色土(10YR3/4)

113号住居 柱穴1 I-I'

- 1 黒褐色土(10YR3/2)ローム粒(5~10mm)を多量に含む。堆積もろい。
- 2 黄灰色土(2.5Y4/1)黄色ローム塊(1~5mm)を若干含む。

113号住居 柱穴2 J-J'

- 1 褐色土(10YR4/6)ローム土が極めて多量に混入。堆積もろい。

2 黒褐色土(10YR3/2)ローム粒(5~10mm)を多量に含む。堆積もろい。

- 3 黒褐色土(10YR3/2)ローム粒(5~10mm)を多量に含む。炭化物を少量含む。もろい。

113号住居 柱穴3 K-K'

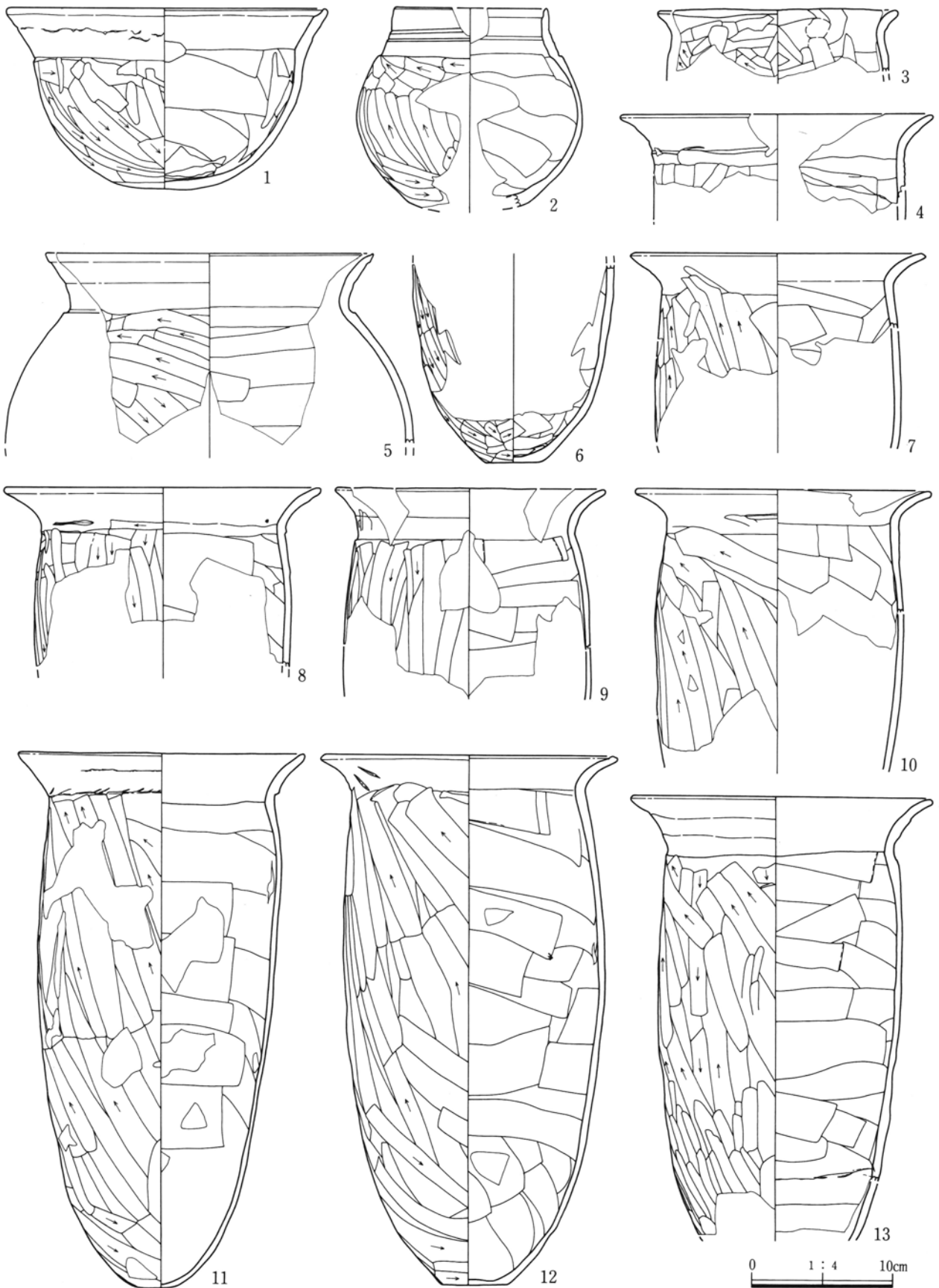
- 1 褐色土(10YR4/6)ローム土が極めて多量に混入。堆積もろい。
- 2 褐色土(10YR4/4)ローム粒(5~20mm)・ローム塊(20~30mm)を多量に含む。堆積もろい。
- 3 黄褐色土(10YR5/6)ローム塊(20~40mm)が多量に混入。堆積もろい。
- 4 黒褐色土(10YR3/2)ローム粒(5~10mm)を多量に含む。堆積もろい。

113号住居 柱穴4 L-L'

- 1 褐色土(10YR4/6)ローム土が極めて多量に混入。堆積もろい。
- 2 褐色土(10YR4/4)ローム粒(5~20mm)・ローム塊(20~30mm)を多量に含む。堆積もろい。
- 3 黒褐色土(10YR3/2)ローム粒(5~10mm)を多量に含む。炭化物少量含む。堆積もろい。

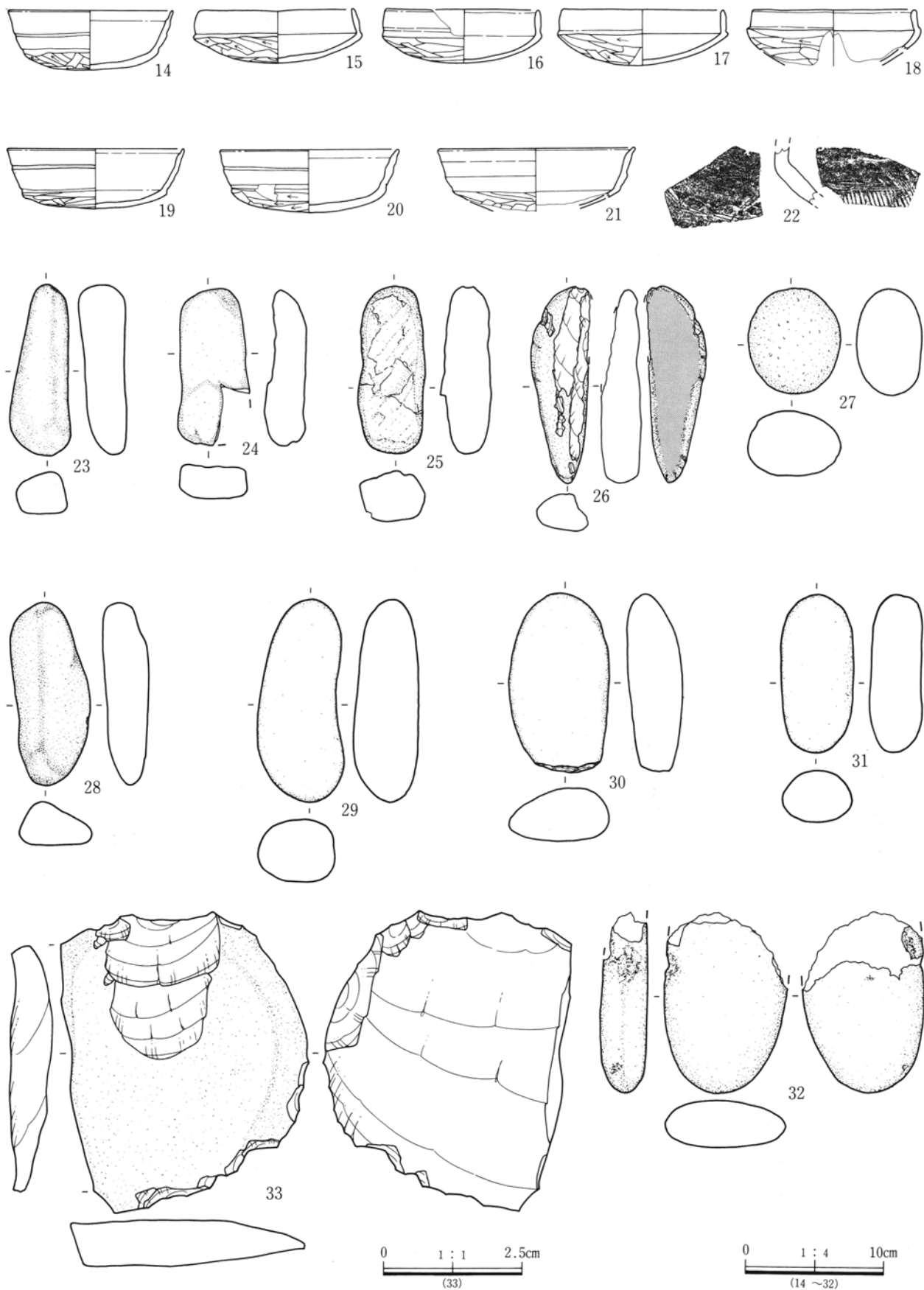
第48図 113号住居

第2節 古墳時代の遺構と遺物



第49図 113号住居の出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物



第50図 113号住居の出土遺物(2)

114号住居(第51~53図 PL15・16・132 遺物観察表P.359)

位置 A2区P,Q-30~32グリッド

形状 南西辺が調査区外となるため確定できない。

東隅がやや開き、台形に近い形状と思われる。

規模 長辺 4.26m 短辺 3.78m

方位 N-135°-E

柱穴 なし。

周溝 竈部から貯蔵穴付近にかけて切れるが、他の確認部分は全周する。幅20cm、深さ2.5~10cm。

貯蔵穴 竈の右横にあたる北隅部にある。幅70cm、長115cmの隅丸長方形から楕円形の平面形を呈し、深さ15cmほどの掘り込みの北部に、幅30cm、長さ55cmほどの部分をさらに15cmほど一段深く掘り込む。

埋没土 炭化物、焼土粒を含む黒褐色土~黒色土で

埋まる。

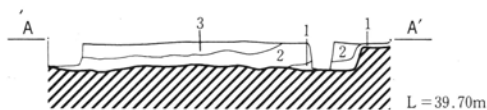
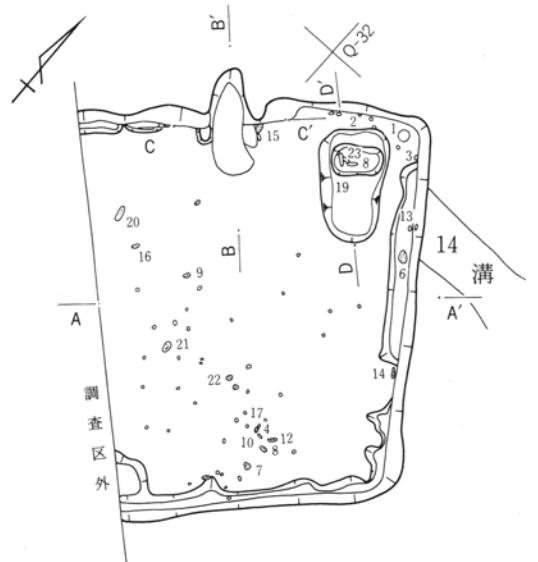
残存壁高及び壁の状況 32.5cm。ほぼ垂直に立ち上がる。

床面の状況及び床下施設等 小さな凹凸はあるが、ほぼ水平。掘り方にも大きな窪みは見られず、床貼りも薄い。住居中央部に直径24cm、深さ46cmのピットがある。竈前部にも不整形の落ち込みがある。竈 北西壁の、調査範囲内では中央近くにあたる部分の壁を掘り込んで作られている。袖は灰白色粘土を用いて構築される。

重複 14号溝より新しい。

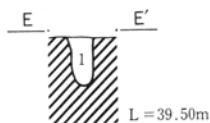
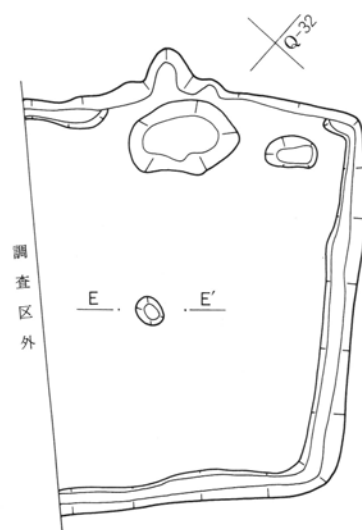
遺物と出土状況 全体に散在するが、住居南半にやや多い。

その他 古墳時代後期(6世紀後半)



114号住居 A-A'

- 1 黒褐色土(2.5Y3/1)ローム小塊(5~10mm)を多く含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/1)ローム粒・ローム小塊(10~20mm)・焼土粒・炭化物粒を含む。
- 3 黒色土(10YR2/1)ローム粒・炭化物粒を含む。砂質。

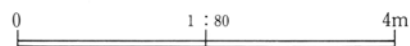


114号住居 貯蔵穴 D-D'

- 1 黒褐色土(10YR3/2)ローム粒・ローム小塊(10mm)を含む。

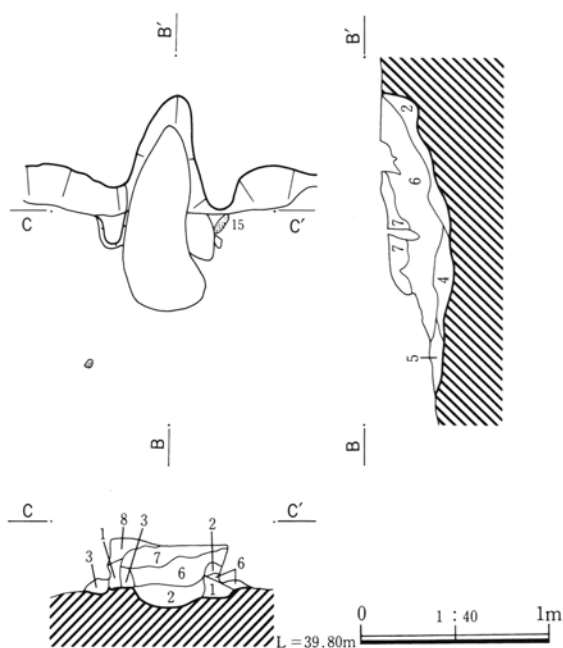
114号住居 ピット E-E'

- 1 黄灰色土(2.5Y4/1)ローム塊(5~10mm)をやや多く含む。



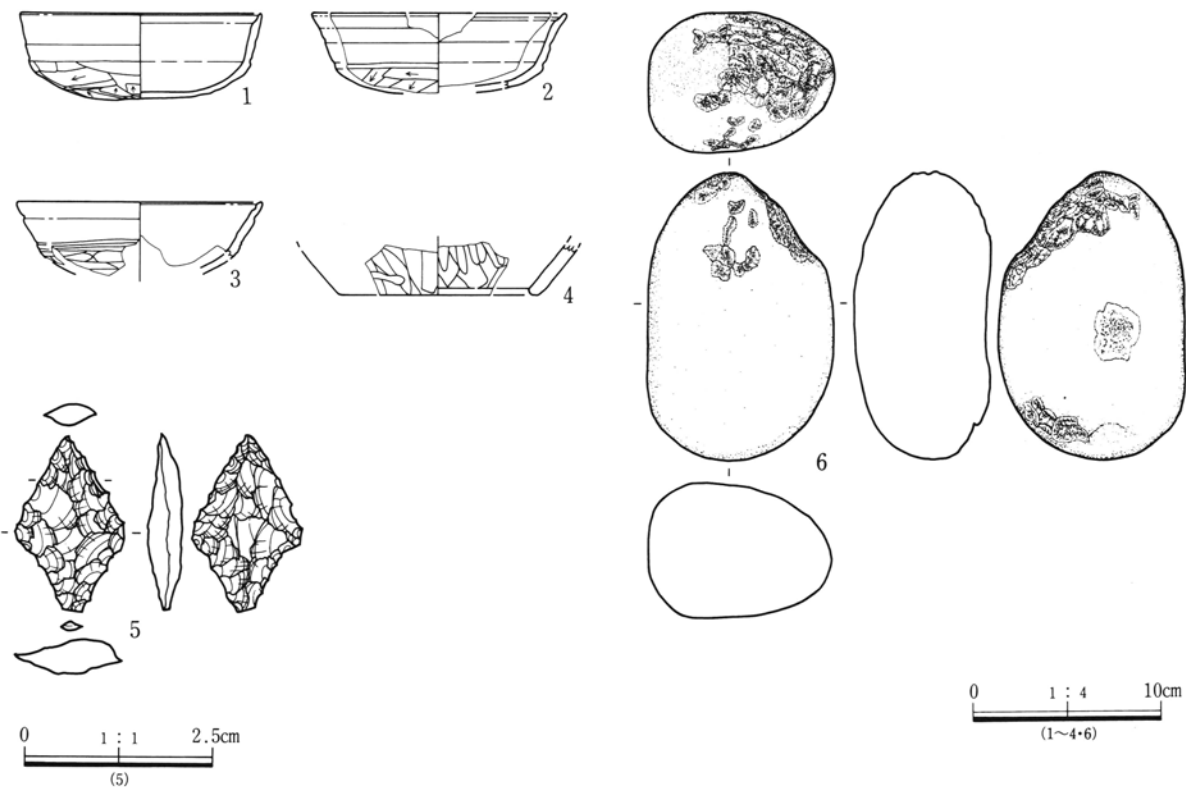
第51図 114号住居

第3章 検出された遺構と遺物

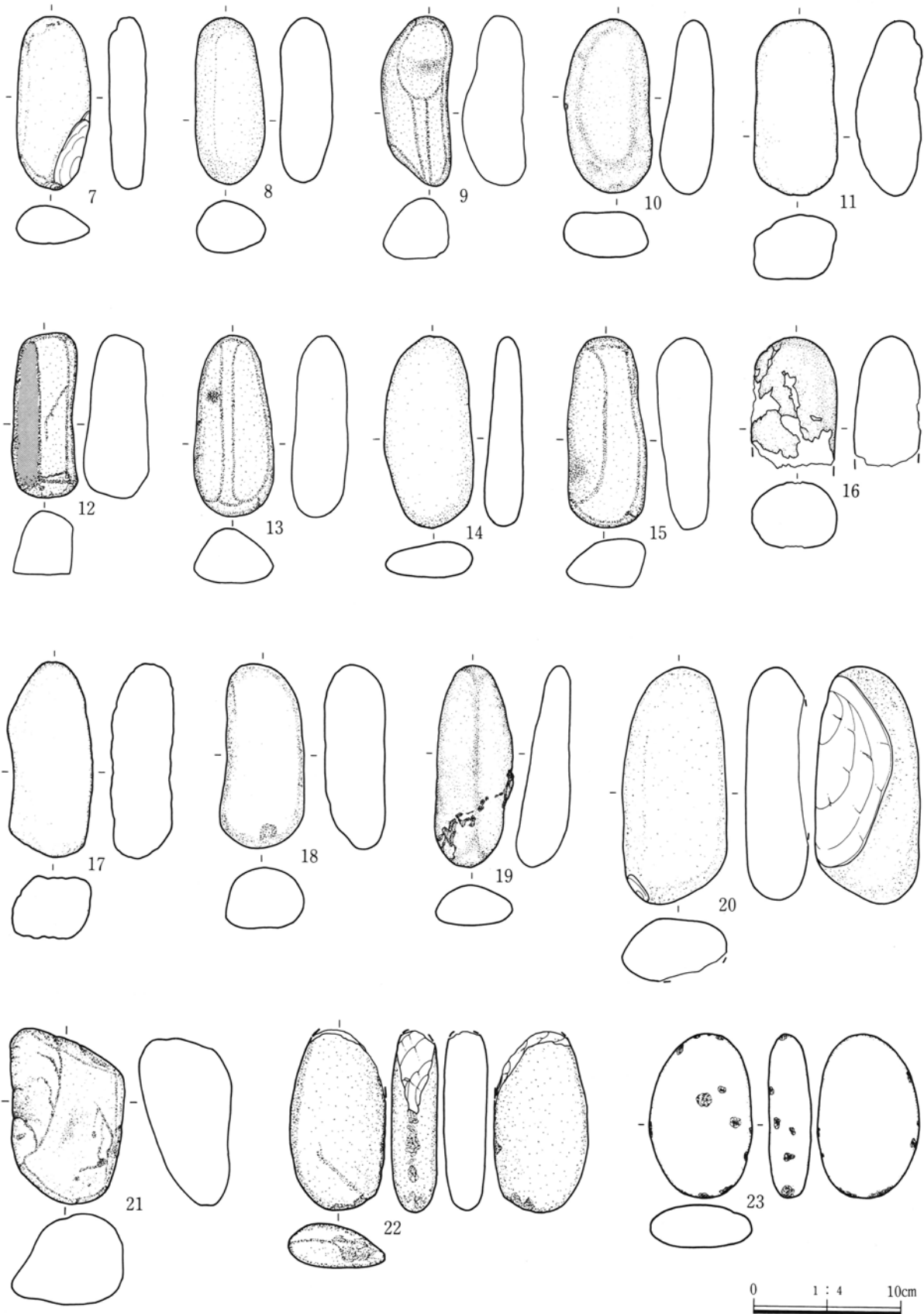


114号住居 竈 B-B' C-C'

- 1 灰白色土(7.5Y7/2)ローム粒・炭化物を若干含む。竈袖粘土材。
- 2 灰と焼土粒と灰色粘土粒の混土。
- 3 灰白色粘土(2.5Y7/1)
- 4 褐灰色土(10Y R4/1)ローム粒・ローム小塊(10~40mm)・焼土粒・炭化物粒を含む。
- 5 灰黄褐色粘質土(10YR5/2)焼土粒・ローム粒・炭化物粒を多量に含む。
- 6 灰黄色粘質土(2.5Y6/2)白色粘土粒・白色粘土小塊(10~30mm)・焼土粒・炭化物粒を多量に含む。
- 7 黄灰色土(2.5Y5/1)ローム粒・ローム小塊(10~20mm)を含む。
- 8 黄灰色土(2.5Y6/1)焼土粒・白色粘土粒を含む。



第52図 114号住居竈と出土遺物(1)



第53図 114号住居の出土遺物(2)

第3章 検出された遺構と遺物

115号住居(第54~56図 PL17・132・133 遺物観察表P.360)

位置 A2区Q,R-33~35グリッド

形状 やや縦長の長方形。南西壁の南東寄りに半円形のステップ状の張り出しが付く。

規模 長辺 3.88m 短辺 3.54m 面積 12.51m²

柱穴 なし。

方位 N-138°-E

周溝 竈部を除き全周する。深さ3cm~10cm。

貯蔵穴 竈の右手にあたる北隅部にある。56cm×58cmの横長の隅丸長方形の平面形を呈し深さ30cm。

埋没土 ローム粒を含む黒褐色から黒色土で埋まる。

残存壁高及び壁の状況 52cm。ほぼ垂直に立ち上が

る。

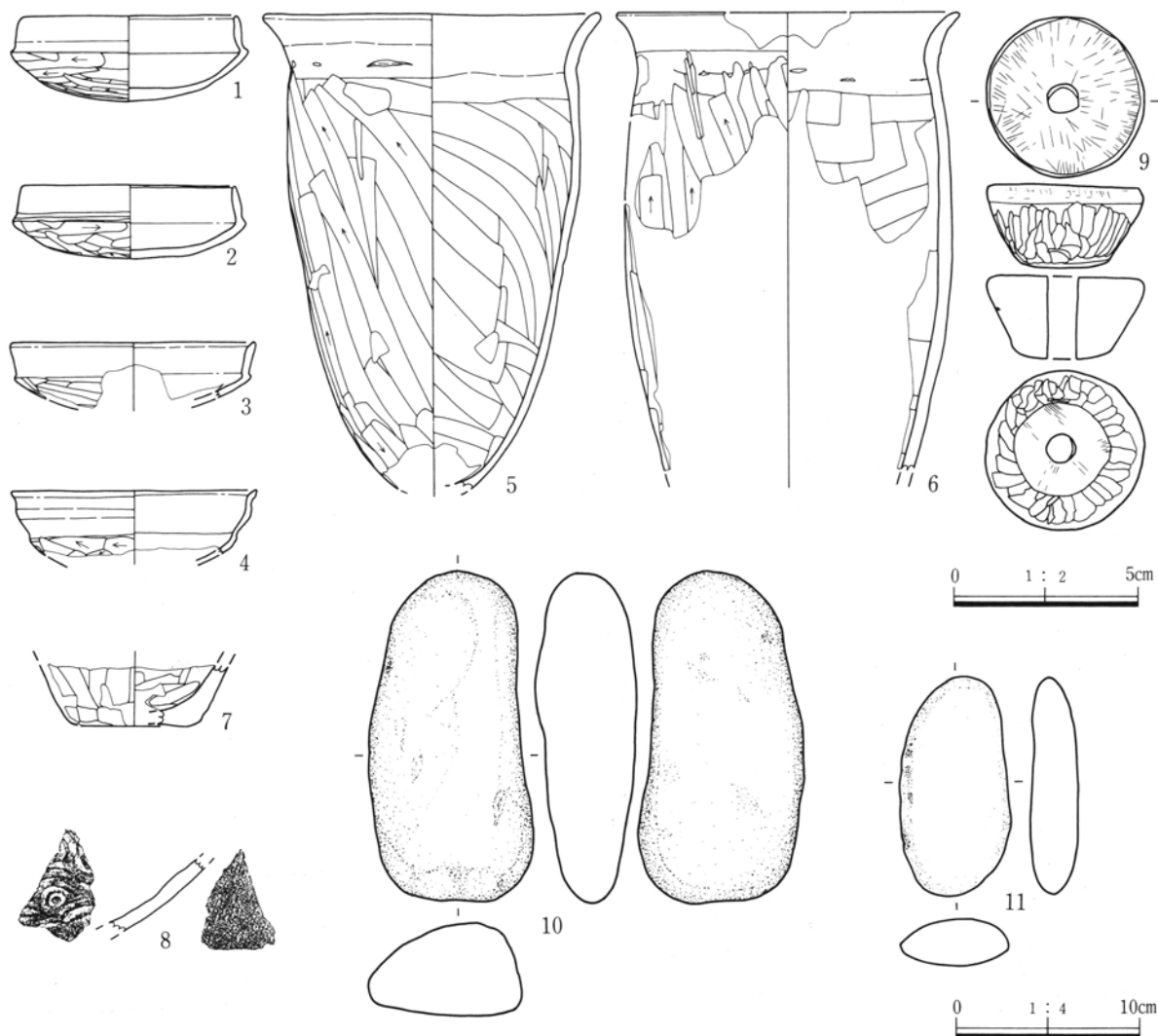
床面の状況及び床下施設等 ほぼ均平だが、住居中央部がわずかに盛り上がる。掘り方では壁際がやや深めに掘られている。

竈 北西壁中央に作られる。煙道が壁外に長く掘り込まれ、袖は灰黄褐色粘質土を用いて構築される。燃烧部、煙道部ともによく焼けている。確認長2.0m、焚き口幅37cm。

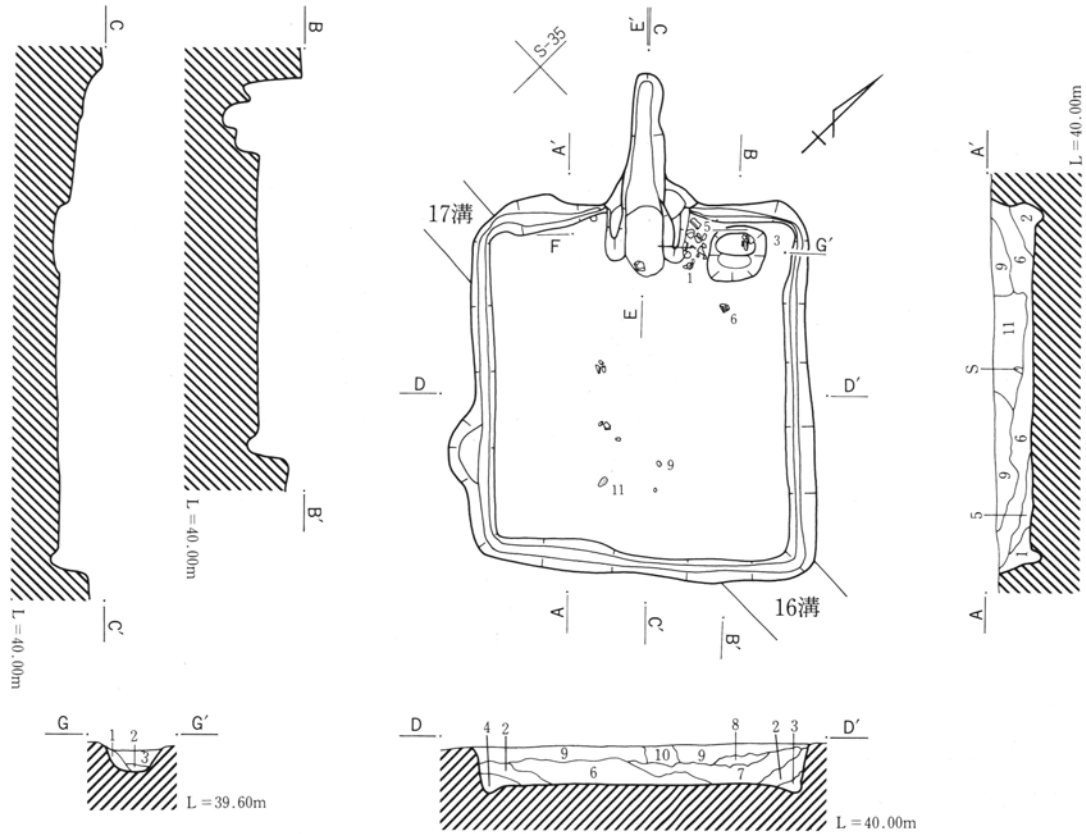
重複 16号・17号溝より古い。

遺物と出土状況 竈右袖の右側と貯蔵穴との間に集中する。他は、住居中央部に散在する。

その他 古墳時代後期(6世紀後葉)



第54図 115号住居の出土遺物



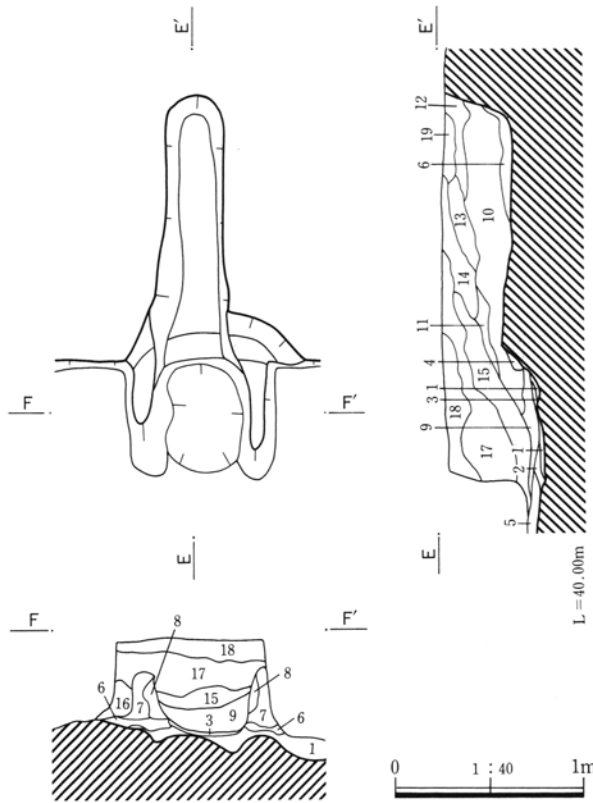
115号住居 A-A' D-D'

- 1 黒褐色土(10YR2/3)ローム粒(1~10mm)・焼土が少量含まれる。堆積はもろい。
- 2 黒色土(10YR2/1)ローム粒(1~5mm)が少量混入する。粘性はやや強い。
- 3 黒褐色土(10YR3/2)ローム粒(1~20mm)が少量含まれる。堆積はもろい。
- 4 黒褐色土(10YR3/2)ローム粒(1~5mm)が少量含まれる。堆積はもろい。
- 5 黒褐色土(10YR3/2)ローム粒(1~30mm)が多量含まれる。粘性はやや強い。
- 6 黒色土(10YR2/1)ローム粒(1~5mm)が多量に混入。焼土が少量含まれる。堆積はやや強い。
- 7 黒褐色土(10YR3/2)ローム粒(5~20mm)が少量含まれる。堆積は強硬である。粘性はやや強い。
- 8 褐色土(10YR4/4)ローム土が極めて多量に混入。堆積は硬い。
- 9 黒褐色土(10YR3/2)ローム土粒(5~30mm)を多量に含み、黒色土粒(10~20mm)・焼土が少量含まれる。堆積はやや強い。
- 10 黒褐色土(10YR2/3)ローム粒(1~5mm)が少量含まれる。堆積はもろい。19土坑。
- 11 黒褐色土(10YR2/3)ローム粒(1~5mm)少量含まれる。堆積はもろい。20土坑。

115号住居 貯蔵穴 G-G'

- 1 褐色土(10YR4/6)ローム塊(20~40mm)が多量に混入。焼土が少量、堆積はもろく脆弱である。
- 2 暗褐色土(10YR3/3)ローム粒(5~20mm)が多量に含まれる。堆積はもろいが粘性はやや強い。
- 3 黒色土(10YR2/1)ローム粒(5~20mm)が多く含まれる。炭化物少量、堆積はやや緻密である。

第55図 115号住居



115号住居 竈 E-E' F-F'

1 褐色土(10YR4/6)ローム土が多量に混入する。堆積はやや緻密。

第56図 115号住居竈

- 2 黒色土(10YR2/1)黒色灰・焼土を多量に含み、ローム粒(5~20mm)を少量含む。粘性は強く脆弱である。
- 3 黒色土(10YR2/1)焼土・黒色灰を多量に含み、ローム粒(5~10mm)を少量含む。脆弱な堆積である。
- 4 赤褐色(5YR4/8)焼土。
- 5 黄褐色土(10YR5/6)7層・15層と同様の粘土粒が少量混入し、ローム粒(5~10mm)が多量に混入する。堆積は緻密である。上面は燃焼により著しく硬化、赤色を呈する。
- 6 黒褐色土(10YR2/3)ローム粒(5~20mm)を多量に含み、焼土を少量含む。堆積はやや緻密である。
- 7 灰黄褐色土(10YR5/2)竈の袖を作る粘性の極めて強い粘土。内側が赤く硬化する。
- 8 焼土
- 9 黒色土(10YR2/1)黒色灰がごく多量に混入する。焼土粒が少量混入する。極めて脆弱な層である。
- 10 黒褐色土(10YR3/2)焼土・黒色灰が極めて多量に混入する。ローム粒(5~10mm)が極少量混入する。堆積は極めて脆弱である。
- 11 暗褐色土(10YR3/3)焼土粒が多量に混入し、黒色灰ローム粒(5~10mm)がごく少量含まれる。堆積はややもろい。
- 12 黒褐色土(10YR3/2)焼土が多量に混入する。堆積はやや緻密。
- 13 黒褐色土(10YR3/1)焼土・黒色灰・ローム粒(5~30mm)が少量含まれる。堆積はやや緻密である。
- 14 黒褐色土(10YR3/2)ローム粒(5~10mm)が多量に含まれ、焼土粒・炭化物がごく少量含まれる。堆積はやや緻密である。
- 15 灰黄褐色粘土(10YR5/2)竈部材・上面部材が崩落したものと思われ、上部が硬化し、赤色を呈する。
- 16 黒灰色土(2.5Y4/1)ローム粒・ローム塊(0.5~3・4mm)を若干含。
- 17 暗褐色土(10YR3/3)ローム粒(5~40mm)を多量に含み、焼土・炭化物・灰黄褐色土塊を少量含む。堆積は緻密である。
- 18 暗褐色土(10YR3/4)ローム粒(5~20mm)を少量含み、灰黄褐色粘土粒をごく少量含む。堆積は緻密である。
- 19 暗褐色土(10YR3/3)焼土・灰黄色粘土塊が多量に混入する。堆積は緻密で硬い。

116号住居(第57・58図 PL18・133・134 遺物観察表P.360)

位置 A2区P, Q-33, 34グリッド

形状 南西部のみを確認した。他は調査区外となるため、全体の形状は把握できない。検出された両隅部は丸みを持たずにほぼ直角に曲がるため、方形または長方形の平面形と思われる。

規模 長辺 5.75m 短辺 (3.98)m

柱穴 2本。1-2:3m

周溝 西隅部のみL字形にめぐる。

貯蔵穴 東南隅部の土坑が貯蔵穴に相当すると思われる。長さ86cm、幅58cmの隅丸長方形の平面形を呈し、深さは70cm~80cm。底部は平坦にならずにU字形に近い断面形である。

埋没土 床面は焼土及びローム粒を含む暗褐色土で覆われる。部分的に二次堆積のロームが認められる。

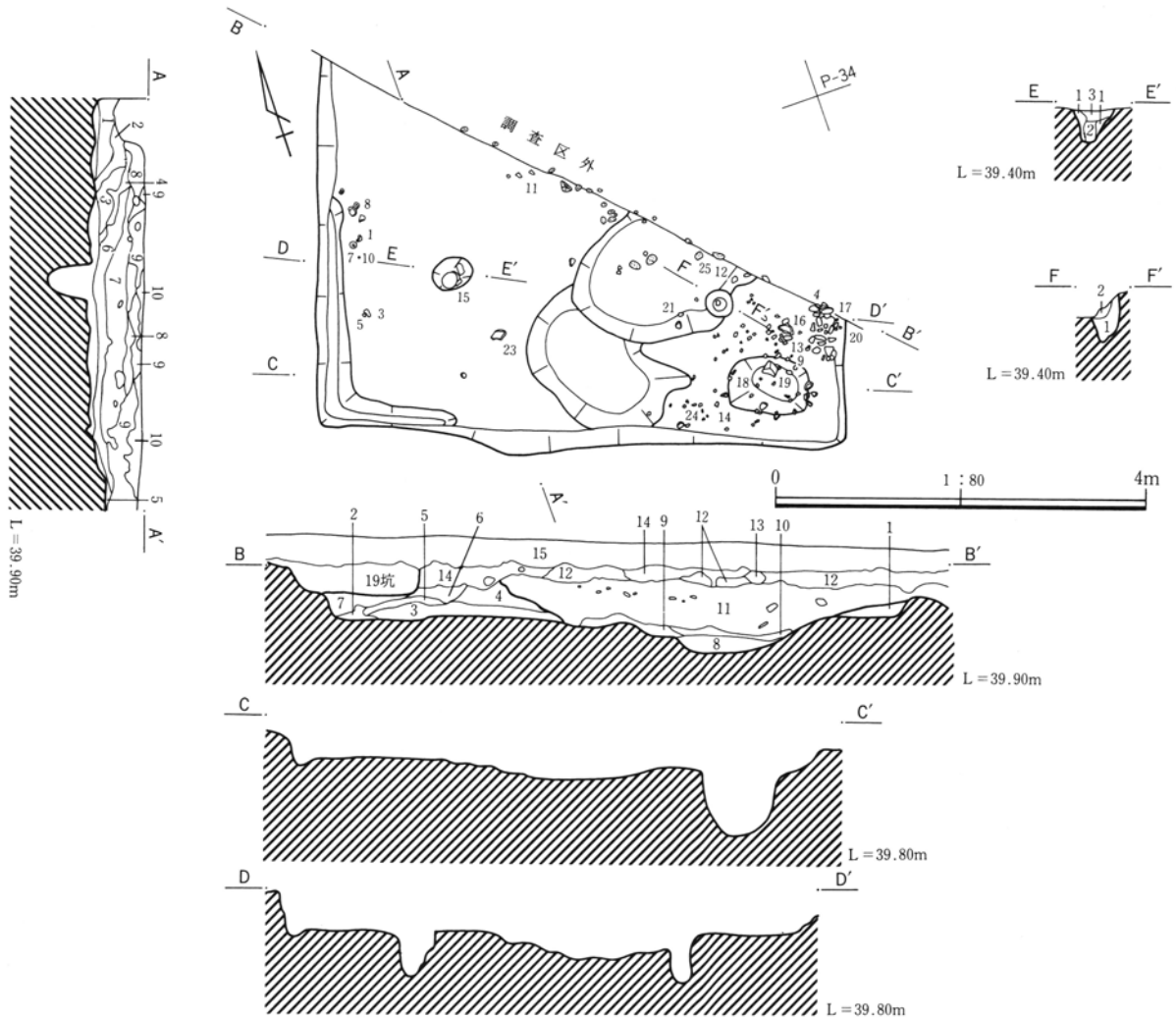
残存壁高及び壁の状況 53cm。残存が悪いが、基部では垂直に近く立ち上がる。

床面の状況及び床下施設等 壁際でやや低くなる傾向があるが、全体としてはほぼ均平に仕上げられる。掘り方には中央近くに比較的大きな凹凸があるが、土坑的な施設は見られない。

竈 調査区内には認められない。東壁の発掘区際では炭化物や灰を含む灰白色粘土が見られ、竈用材の痕跡と考えられる。したがって、東壁のやや南寄りに竈が設けられ、その右方に貯蔵穴があることになる。重複 16号溝より古い。谷状地より古い。

遺物と出土状況 貯蔵穴の北に完形品や大型破片が集中する他は、全体的に散在する。調査区際の礫は谷状地に伴うものと考えて良い。

その他 古墳時代後期(6世紀前半)



116号住居 A-A'

- 1 暗灰黄色土(2.5Y4/2)ローム粒(0.5~3・4mm)を少量含む。
- 2 浅黄色土(2.5Y7/4)ローム粒・灰白色粒(0.5~2・3mm)を多く含む。
- 3 明黄褐色土(2.5Y7/6)ローム塊。
- 4 におい黄褐色土(2.5Y6/4)ローム粒(0.5~1・2mm)・ローム塊(5~10mm)を多く含む。
- 5 暗オリーブ褐色土(2.5Y3/3)ローム粒(0.5~2・3mm)・ローム塊(5~20mm)を若干含む。
- 6 オリーブ褐色土(2.5Y4/3)ローム粒(0.5~2・3mm)をやや多く含む。
- 7 黒褐色土(2.5Y3/2)黄褐色粒・暗褐色粒(0.5~2・3mm)を少量含む。
- 8 暗灰黄色土(2.5Y5/2)黄色粒(1~2mm)を若干含む。
- 9 黒色土(2.5Y2/1)夾雑物をほとんど含まない。
- 10 暗灰黄色土(2.5Y4/2)黄色粒(1~2mm)をごく少量含む。

116号住居 B-B'

- 1 灰白色粘土(10YR7/1)焼土小塊(10~20mm)・灰・炭化物粒を含む。(竈崩落の粘土と考えられる)
- 2 明黄褐色土(2.5Y7/6)2次堆積ローム。
- 3 暗褐色土(10YR3/4)焼土粒・ローム粒を含む。
- 4 明黄褐色土(2.5Y7/6)2次堆積ローム。
- 5 におい黄褐色土(10YR6/4)ローム粒(5~10mm)を含む。
- 6 におい黄褐色土(10YR5/3)ローム小塊(5~10mm)を多量に含む。
- 7 黒褐色土(10YR3/2)ローム塊(10~30mm)を含む。
- 8 凹地。

- 9 黒褐色土(10YR2/3)ローム塊を多量に含む。凹地。

- 10 凹地。
- 11 黒褐色土(10YR2/3)やや砂質。上半部に礫を含む。凹地。
- 12 黒色土(10YR1.7/1)砂質、一部に粕川テフラが残っている。
- 13 ローム塊。
- 14 12層と15層の混土。
- 15 表土a 暗褐色土(10YR3/3)耕作土。
表土b におい黄褐色土(10YR5/3)耕作土。

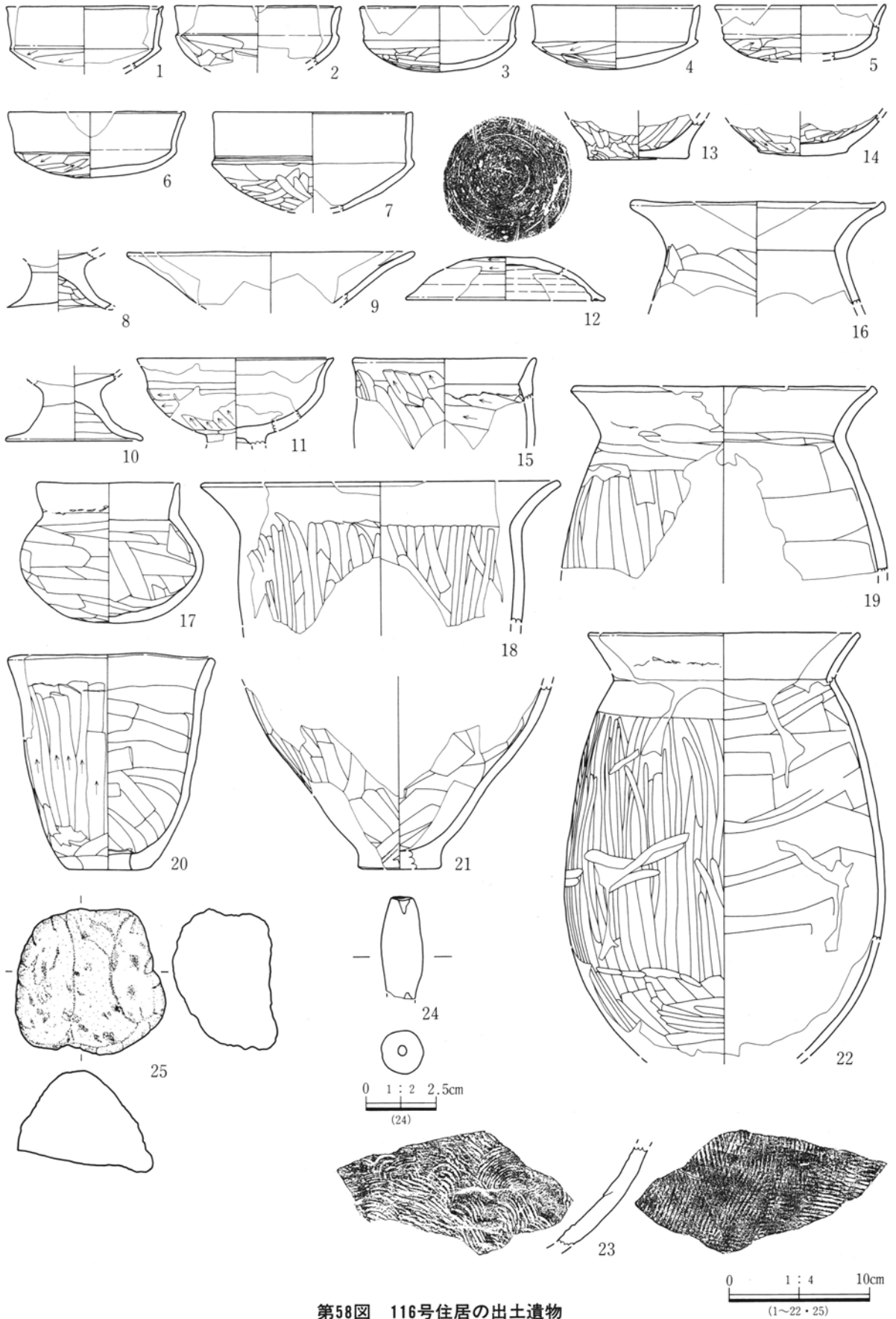
116号住居 柱穴1 E-E'

- 1 黄褐色土(10YR5/8)ローム土中に上層2の土が塊状に少量混入する。堆積はやや緻密である。
- 2 褐色土(10YR4/4)ローム粒(5~10mm)を多く含む。ローム土が多量に混入する。堆積はもろいがやや粘性は強い。
- 3 暗褐色土(10YR3/4)ローム粒(5~10mm)を多く含む。ローム土が多量に混入する。堆積はもろい。

116号住居 柱穴2 F-F'

- 1 褐色土(10YR4/4)ローム粒(5~10mm)を多く含み、ローム土も多量に混合し、ローム塊(20~40mm)が少量混入する。堆積はもろくやや上層より粘性ある。
- 2 暗褐色土(10YR3/4)ローム粒(5~10mm)を多く含む。ローム土が多量に混入する。堆積はもろい。

第57図 116号住居



第58図 116号住居の出土遺物

117号住居(第59・60図 PL18・19・134 遺物観察表P.361)

位置 A2区R, S-33,34グリッド

形状 わずかに横長の隅丸長方形の平面形を呈する。南壁の西半部が一部調査区外となる。

規模 長辺 4.02m 短辺 3.58m

方位 N-46° - E

柱穴 なし。

周溝 竈部を除いて、調査範囲内では全周する。深さ1.5cm~4.5cm。

貯蔵穴 竈の右手にあたる北東隅の、壁からやや離れた位置にある。1辺40cmの、比較的整った隅丸方形の平面形を呈し、深さは32cmある。底面は平坦で、断面形は上部の開いたコの字状を呈している。

埋没土 覆土上位は焼土をごく少量含む黒褐色土で、中位にはローム粒、ローム塊が混じる。床面はローム粒子を含む黒褐色土で覆われる。

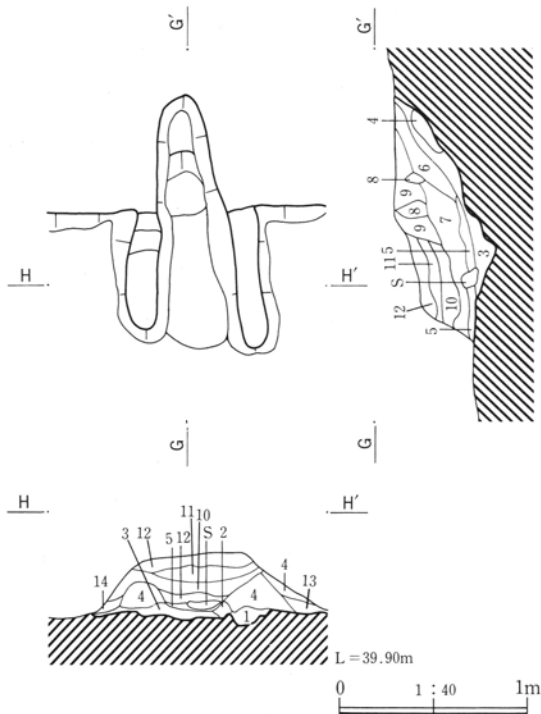
残存壁高及び壁の状況 44cm。80°ほどの角度で立ち上がり、上方ではやや開く。

床面の状況及び床下施設等 緩やかに波打つ。南東方に向かってわずかに傾斜する。

竈 北東壁のやや東寄りを壁外にU字形に掘り込んでいる。袖は灰黄褐色粘土を多く含む褐色~黒褐色土を用材として作られ、住居内に平行に張り出して燃焼部を囲んでいる。確認長1.35m。焚き口幅32cm。燃焼部は良く焼けている。

遺物と出土状況 出土遺物数は少ない。貯蔵穴内から土師器の長胴甕がまとまって出土しているが、貯蔵穴覆土の中位ないし上位からの出土である。竈の左手にあたる北東壁の西寄りの壁下からは土師器の須恵器模倣坏が完形で、床面にほぼ接した状態で出土している。他は小破片で散在する。

その他 古墳時代後期(6世紀後半)

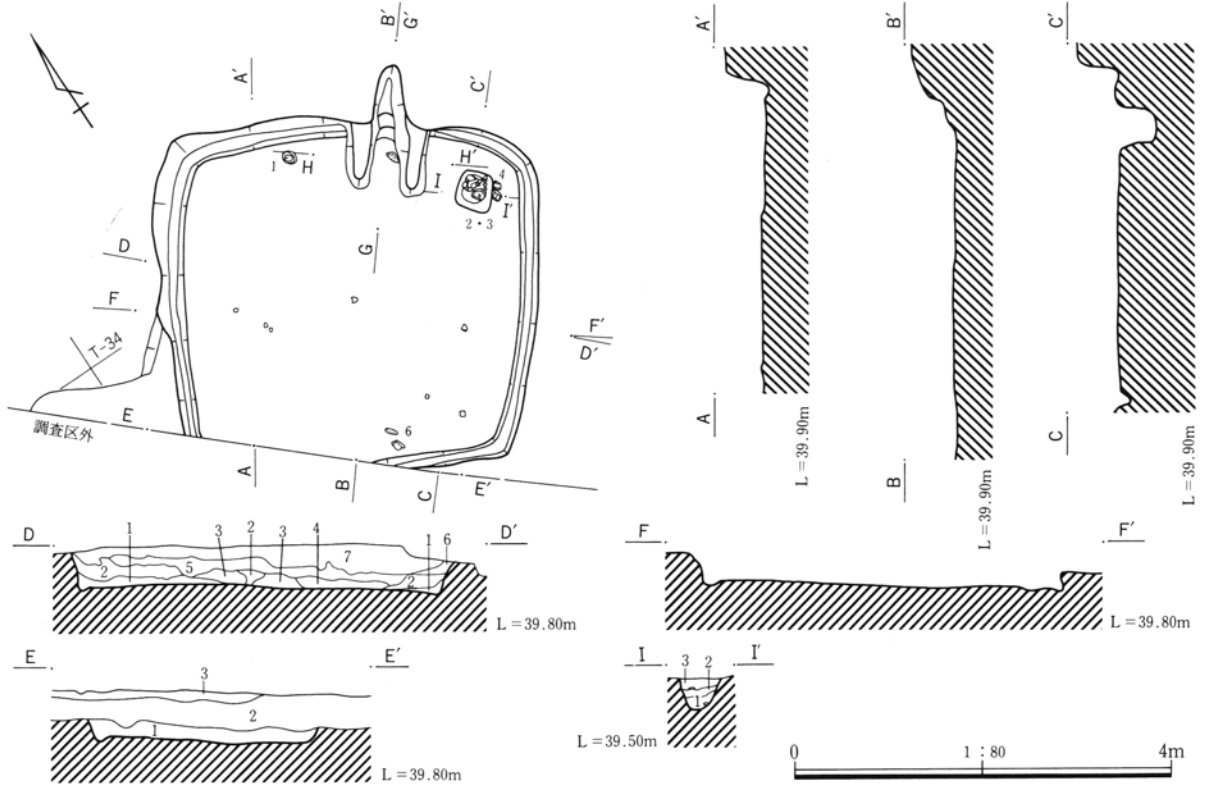


117号住居 竈 G-G' H-H'

- 1 黒褐色土(10YR3/2)ローム塊(20~40mm)を多量に含む。堆積はあまり緻密でなく、粘性弱い。
- 2 黒色土(10YR2/1)黒色灰・ローム粒(5~20mm)が多量に含まれる。堆積はもろく粘性は弱い。
- 3 黒褐色土(10YR3/2)灰黄褐色粘土塊粒(5~20mm)・ローム粒(5~10mm)を少量含む。堆積は緻密であるが、粘性は乏しい。
- 4 暗褐色土(10YR3/3)灰黄褐色粘土(10Y R 4/2)塊が混入する土・ローム粒(5~20mm)が多量に混入。堆積は緻密。粘性は強い。
- 5 黒色土(10YR2/1)ローム粒(5~10mm)・黒色灰が少量含まれる。脆弱な土層。
- 6 暗褐色土(10YR3/3)ローム粒(5~10mm)・灰黄色粘土粒(10~30mm)が少量含まれる。堆積は緻密。
- 7 暗褐色土(10YR3/3)ローム粒(5~10mm)・灰黄褐色土粒(5~40mm)が多量に含まれる。堆積は緻密。
- 8 灰黄褐色粘土(10YR5/2)部材。
- 9 暗褐色土(10YR3/3)焼土・ローム粒(5~10mm)を少量混入。灰黄色土粒(5~20mm)が少量含まれる。堆積は緻密。
- 10 黒褐色土(10YR3/2)ローム粒(5~20mm)が少量、灰黄褐色土粒(10~20mm)が多量に含まれる。堆積はやや緻密。
- 11 黒褐色土(10YR3/2)ローム粒(5~20mm)が多量、灰黄褐色土粒(5~10mm)が少量含まれる。堆積はややもろい。
- 12 黒褐色土(10YR3/2)ローム粒(1~5mm)・灰黄褐色土粒(5~10mm)が少量含まれる。堆積はややもろい。
- 13 黄褐色土(10YR7/8)ローム土(汚れたローム土)堆積は緻密。粘性は弱い。
- 14 黒褐色土(10YR2/3)ローム粒(5~20mm)が多量に含まれる。堆積は緻密。

第59図 117号住居竈

第3章 検出された遺構と遺物



117号住居 D-D'

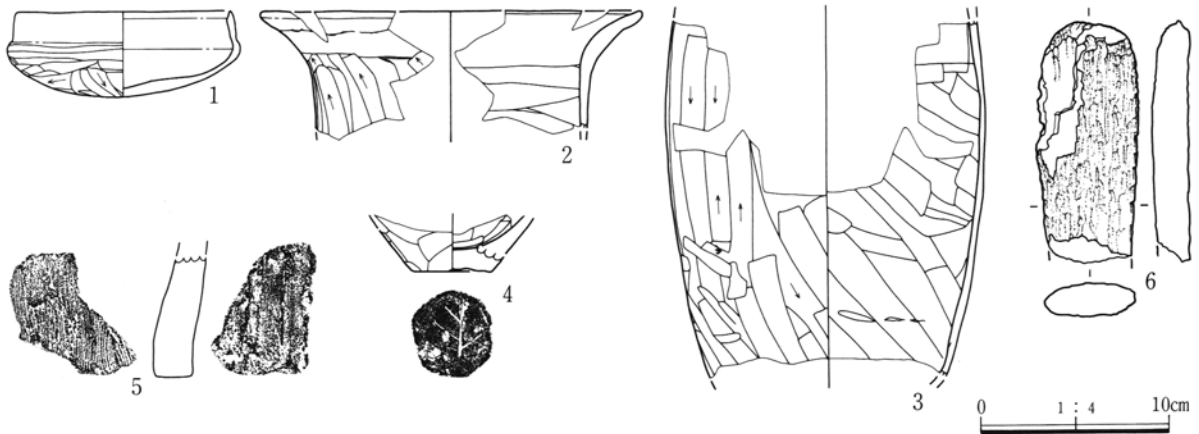
- 1 黒褐色土(10YR3/1)ローム粒(10~20mm)を少量含む。ローム土が多量に含まれる。しまりはやや強い。
- 2 暗褐色土(10YR3/3)ローム粒(1~30mm)を多量に含む。ローム土が多量に含まれる。しまりはやや強い。
- 3 黒褐色土(10YR3/1)ローム粒(1~5mm)・ローム塊(5~10cm)を多量に含む。しまりはやや強い。
- 4 黒褐色土(10YR3/2)ローム粒(1~5mm)をごく少量含む。しまりはやや強い。
- 5 黒褐色土(10YR3/2)ローム粒(5~20mm)を少量含む。しまりはやや強め。
- 6 黒褐色土(10YR3/1)ローム粒(1~3mm)・焼土を少量含む。しまりはやや強い。
- 7 黒褐色土(10YR3/1)ローム土(1~5mm)・焼土をごく少量含む。しまりはやや弱い(砂質土を含む)。

117号住居 E-E'

- 1 黒褐色土(10YR3/1)ローム塊(10~50mm)を少量含む。
- 2 黒褐色土(10YR2/3)やや砂質、上半部に礫を含む。凹地。
- 3 黒色土(10YR1.7/1)砂質、一部に粕川テフラが残る。凹地。

117号住居 貯蔵穴 I-I'

- 1 黒褐色土(10YR3/1)ローム粒(5~10mm)をごく少量含む。粘性はやや強い。
- 2 黒褐色土(10YR2/3)ローム粒(5~10mm)を多量に含む。堆積はもろい。
- 3 黒褐色土(10YR2/3)ローム粒(5~10mm)・ローム塊(30mm)を少量含む。堆積はもろい。



第60図 117号住居と出土遺物

95号住居 (第61・62図 PL19・134 遺物観察表P.361)

位置 B2区X・Y-25~27グリッド

形状 南北が調査区外となり、上部の削平も激しいため、全体の形状は分からない。想定的に復元すると、方形ないし南北にやや長い横長長方形の平面形を呈するものと考えられる。

規模 東西確認長 4.20m 南北確認長 2.90m

方位 N-65°-W (竈)

柱穴・周溝 なし。

貯蔵穴 竈右手にあたる北西隅近くにある。東西80cm、南北60cmほどの長方形の平面形を呈する。深さは床面から74cmほどある。底面は緩やかに窪み、上部がやや開いたU字状の断面形態を示すが、深いために、壁面はほぼ垂直に近く掘り込まれたように見える。覆土の下層はローム塊混じりの暗褐色土で、上層はローム塊混じりの黒色土で埋まる。貯蔵穴の東に、西壁と平行するように幅15~20cm、深さ7~12cmほどの溝が掘られている。北は調査区外となるため、北壁との関係は把握できないが、南端は貯蔵穴の南辺の延長部で止まっている。竈右袖と東壁、北壁を合わせて貯蔵穴を囲むように施設されたもので

ある可能性を考えたい。

埋没土 ローム粒、ローム塊を多量に含む黒褐色土で埋まる。

確認最大壁高及び壁の状況 18.5cm。残存が悪いため部分的な観察にとどまる。わずかに上方に開くが、やや丸みを持って立ち上がり、ほぼ直立する。

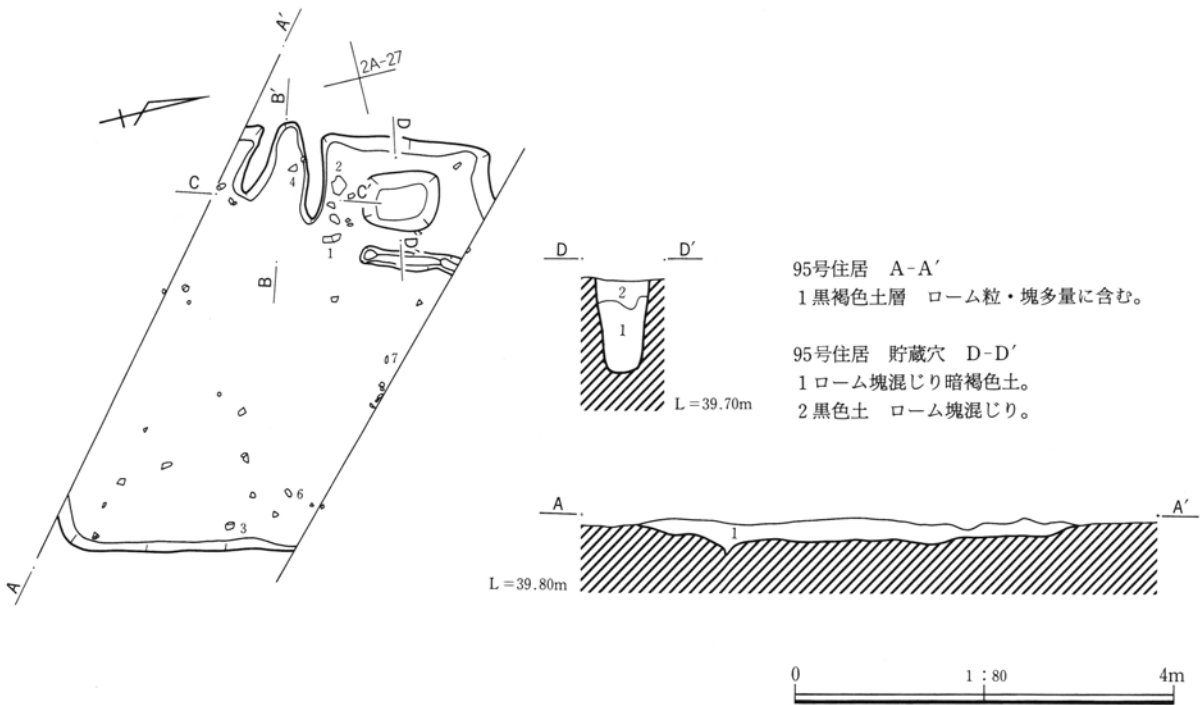
床面の状況及び床下施設等 小さな凹凸が激しい。東側がわずかに低くなる。

竈 西壁のほぼ中央にあたると思われる部分にある。削平が著しい部分にあたり、非常に残存が悪い。壁外に75cmほど、半円形に張り出すように掘り込み、住居内にもこれとやや食い違うような形でU字形の掘り込みを作っている。両者を合わせて長径2m、短径95cmほどのゆがんだ楕円形の掘り方となるが、これを黒褐色土やローム塊を多量に含む暗褐色土で埋めて竈を構築する。袖はハの字状に住居内に開いて燃焼部を囲む。

重複 なし。

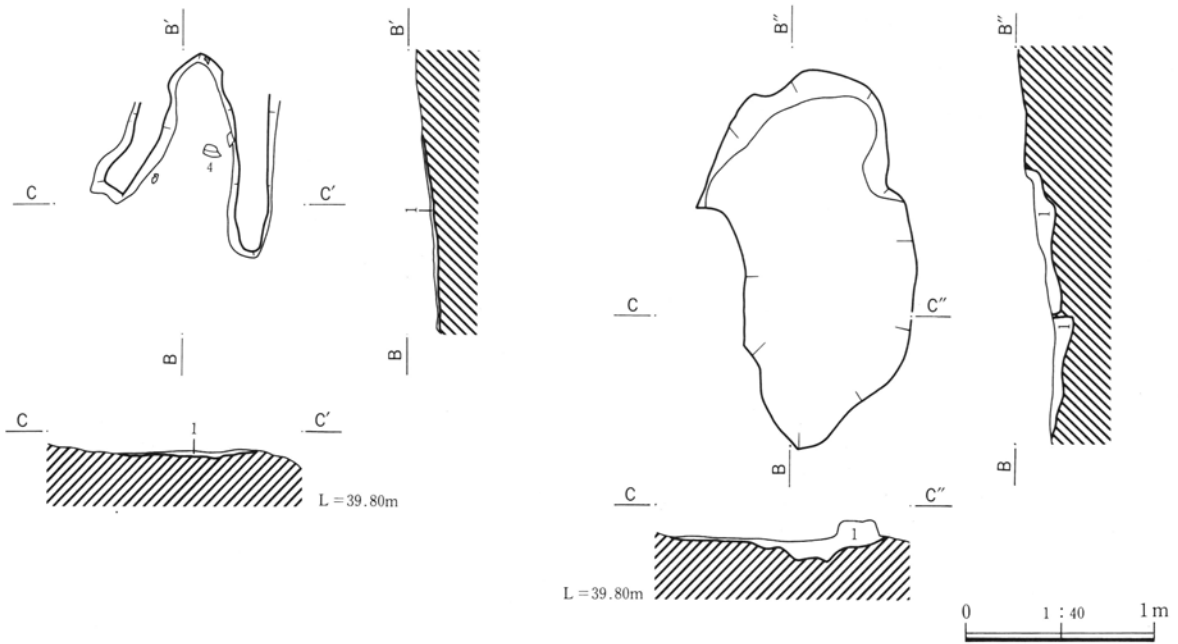
遺物と出土状況 竈と貯蔵穴の間に大型の土器破片が集中し、小破片が住居全体に散在する。

その他 古墳時代後期(6世紀前半)



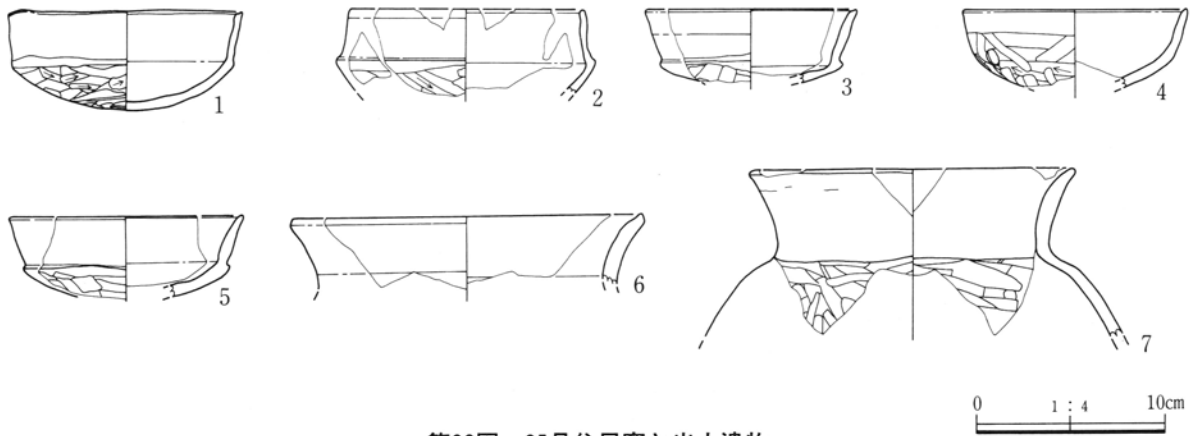
第61図 95号住居

第3章 検出された遺構と遺物



95号住居 竈 B-B' C-C'
1 焼土混じりの暗褐色ローム塊混じり。

95号住居 竈 掘り方 B-B'' C-C''
1 暗褐色土層 黒褐色土ローム塊多量に含む。



第62図 95号住居竈と出土遺物

100号住居(第63・64図 PL19・20・134・135 遺物観察表P.361)
位置 A7区4V,W-10グリッド
形状 平行四辺形に近い方形の平面形を呈する。各隅はわずかに丸みをもって屈曲するが、北東隅と南西隅がやや広く、北西隅と南東隅がやや狭い角度をもつ。
規模 長辺 3.3m 短辺 3.3m 面積 10.14m²
方位 N-34°-W

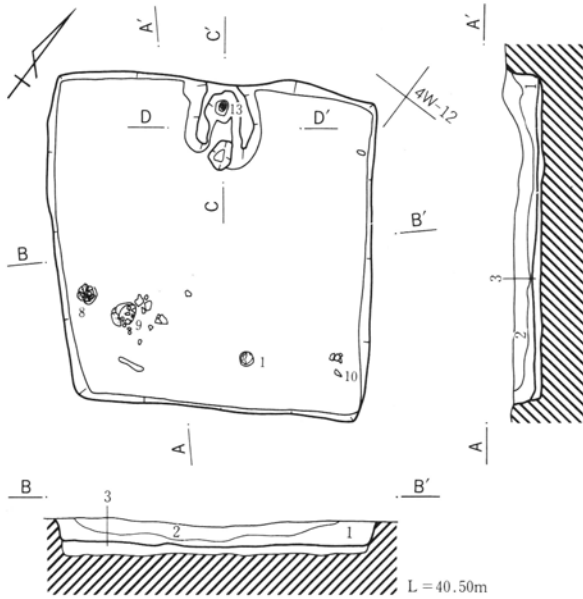
柱穴・周溝・貯蔵穴 なし。
埋没土 ローム粒、火山灰粒を含む褐色土で埋まる。
確認最大壁高及び壁の状況 28cm。わずかに上方に開くが、丸みを持たずに立ち上がり、直立する。
床面の状況及び床下施設等 わずかに凹凸があるがほぼ平らに仕上げられる。掘り方は比較的深く、粗い凹凸が目立つ。
竈 北壁のほぼ中央にある。住居内に粘土で構築し

たもので、壁外への掘り込みはない。確認長68cm、外側最大幅75cm、焚き口内側幅26cm。焚き口部底面は浅い窪みとなり、燃烧部は一段深く掘られて中央に土製支脚が埋め込まれる。燃烧部には甕が掛けられた状態をとどめて出土し、焚き口部には別の甕が倒れ込むような形で出土している。

重複 なし。

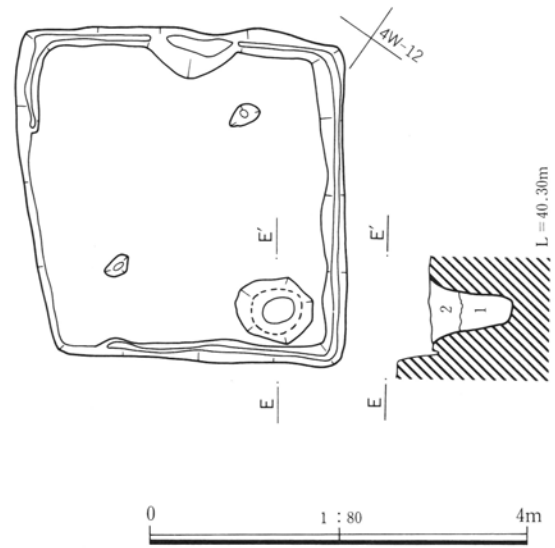
遺物と出土状況 竈内から甕、支脚が出土した他、住居南半部から大型の土器破片が出土している。特に南西隅近くでは甕2個体がほぼ完形で出土し、南東部には完形の坏があった。

その他 古墳時代後期（6世紀前半）



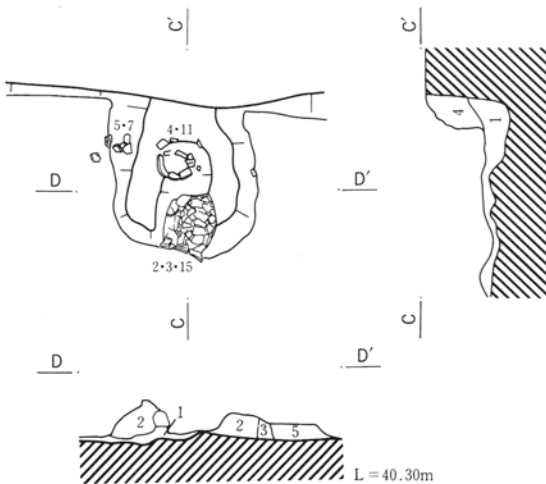
100号住居 A-A' B-B'

- 1 褐色土層 ローム粒・火山灰(粒)混じり。灰色土なし。
- 2 褐色土層 ローム粒・火山灰(粒)混じり。灰色土混じり。
- 3 掘り方埋没土



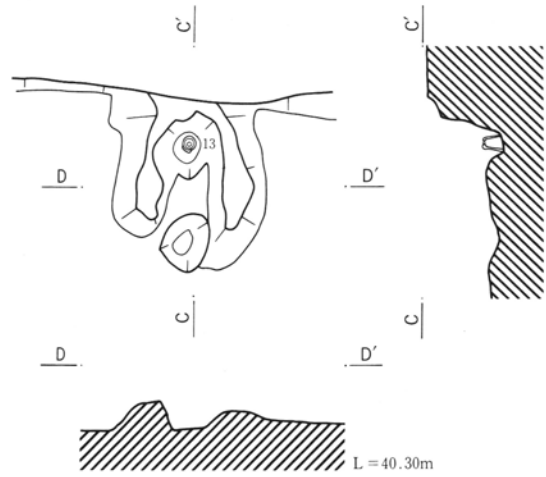
100号住居内 ピット E-E'

- 1 黄褐色土 ローム粒・ローム塊含む。
- 2 黒褐色土層 ローム塊含む。



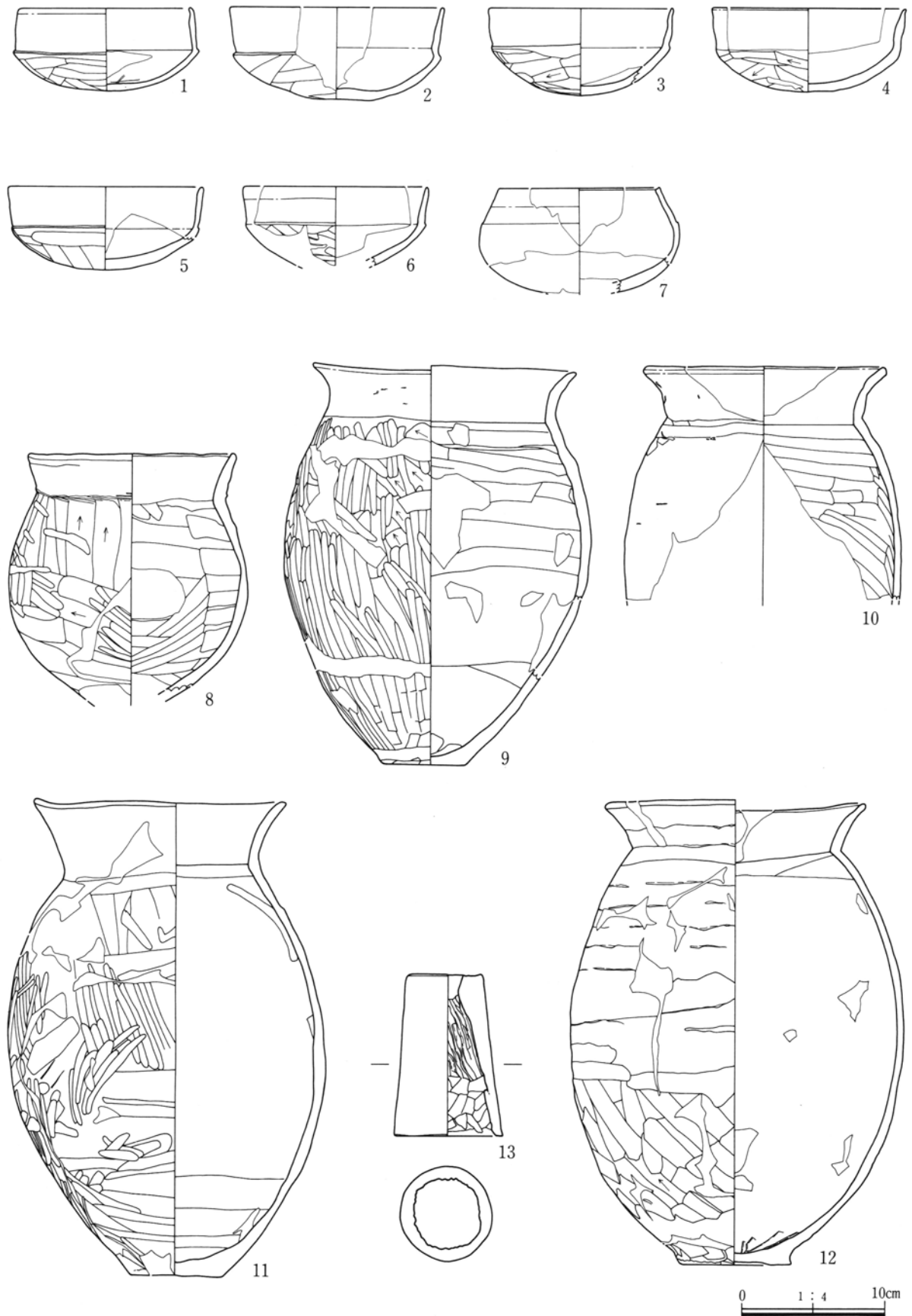
100号住居 竈 C-C' D-D'

- 1 暗褐色土層 ローム塊含む。灰層。
- 2 粘土(袖)
- 3 袖の一部 粘土主体。ローム塊含む。
- 4 粘土・焼土塊混土。
- 5 暗褐色土層 ローム粒含む。



第63図 100号住居

第3章 検出された遺構と遺物



第64図 100号住居の出土遺物

101号住居(第65・66図 PL20・135 遺物観察表P.361)

位置 A7区4U,4V-9,10グリッド

形状 南隅に竈を持つ北東-南西に長い長方形の平面形を呈する。

規模 長辺 4.14m 短辺 3.50m 面積 15.03㎡

方位 N-158°-W(西壁) N-163°-E(竈)

柱穴・周溝・貯蔵穴 なし。

埋没土 ローム粒、火山灰粒を含む褐色土で埋まる。

確認最大壁高及び壁の状況11cm。わずかに上方に開くが、やや丸みを持って立ち上がり、ほぼ直立する。

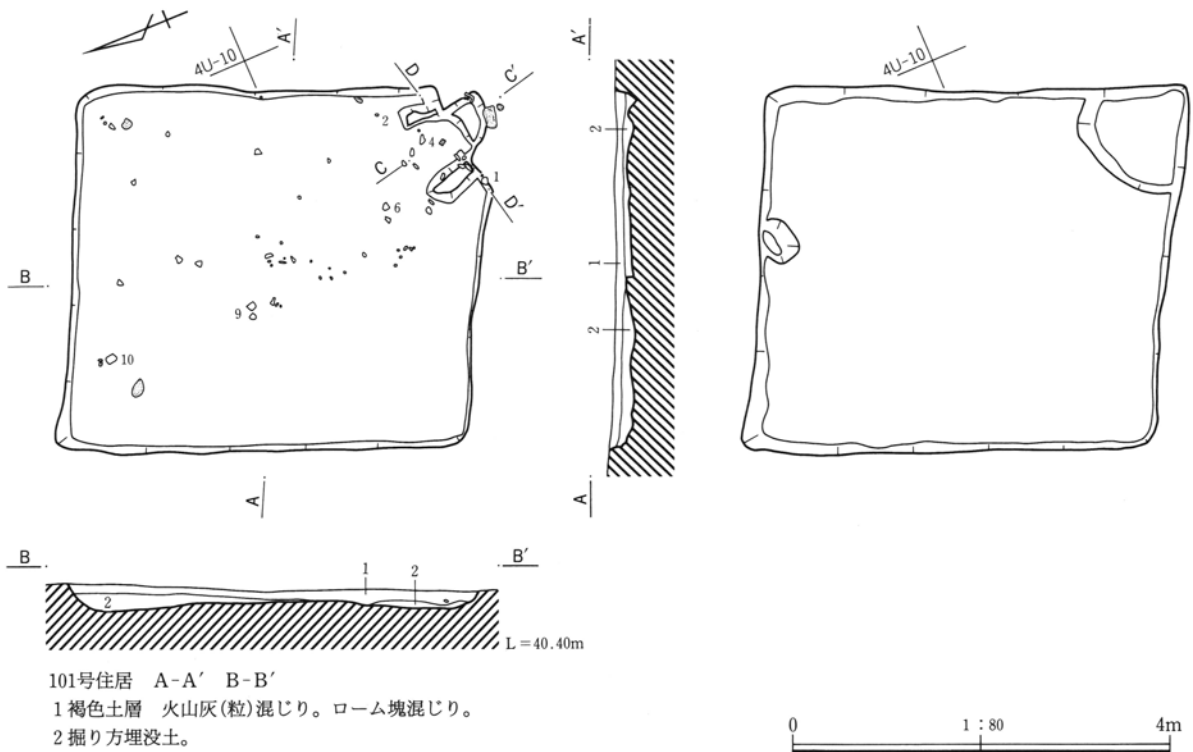
床面の状況及び床下施設等 わずかに凹凸があるがほぼ平らに仕上げられる。住居中央部に、南北約1m、東西45cmほどの楕円形状の範囲に焼土が広がっている。掘り方は小さな凹凸が激しく、北壁中央部は深く掘られる。

竈 住居の南隅にある。住居内を扇形に一段深く掘

り込んで、これを灰白色粘土やローム塊を混じた暗褐色土で埋めて、竈を構築している。確認長1.1m、袖内側幅65cm。検出時の状態は隅部の壁を隅切り状に屈曲させ、燃烧部から煙道にかけてを壁外に設けるかに見えるが、竈残存部の全体を含めて一連の住居掘り方の中にあり、壁外への掘り込みはない。袖は平行ないし弱くハの字状に開いて燃烧部を囲む。覆土には構築材に用いられたと考えられる灰白色粘土が見られる。竈残存部の南端に比較的大きな方形礫と円礫があるが、構築材かどうか判断できない。重複 なし。

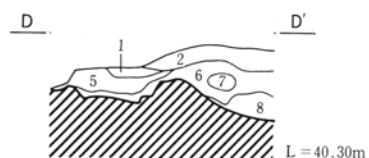
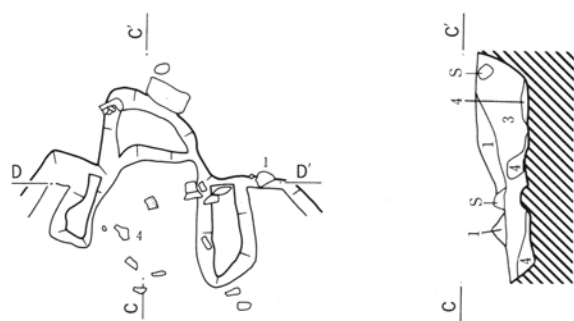
遺物と出土状況 竈及びその周辺に遺物が多い。また、住居の南北隅を結ぶ対角線上に土器破片が集中し、この線より東側にも散在するが、西側ではほとんど遺物が出土しない。

その他 古墳時代後期(6世紀前半)

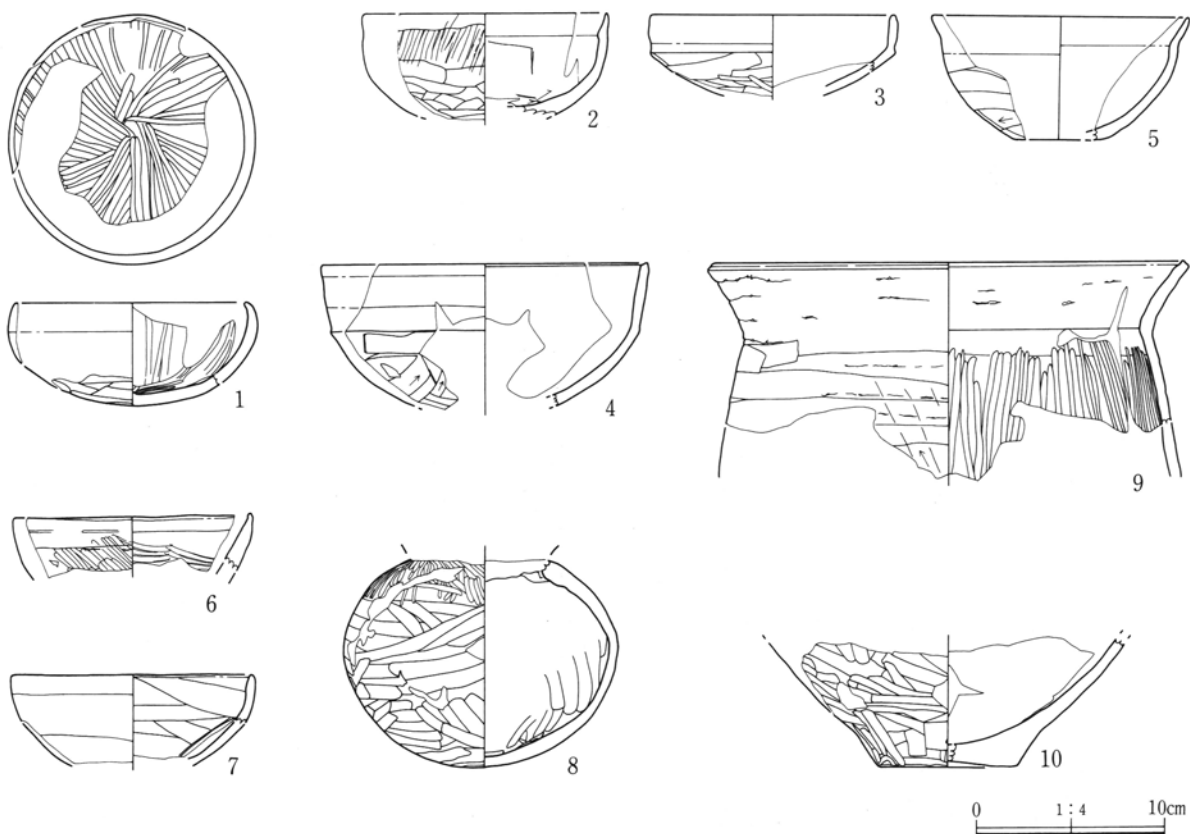
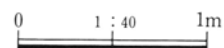


第65図 101号住居

第3章 検出された遺構と遺物



- 101号住居 竈 C-C' D-D'
- 1 焼土ローム塊・(灰白色)粘土混じり。
 - 2 ローム小塊、白色鉱物含む(赤城山)。
 - 3 暗褐色土 赤城山軽石・灰白色粘土ローム塊混じり。
 - 4 ローム、暗褐色塊混じり。
 - 5 暗褐色土 ローム塊混じり。
 - 6 暗褐色土 焼土塊・灰白色粘土塊・ローム塊混じり。
 - 7 灰白色粘土
 - 8 ローム・ローム塊暗褐色土混じり。



第66図 101号住居竈と出土遺物

103号住居 (第67図 PL21・135 遺物観察表P.362)

位置 A7区4U-11,12グリッド

形状 上部の削平が著しく、北東隅部は平面形状を把握できない。また、西壁から北壁西部にかけてを104号住居に大きく切られるため、全体の形状は分からない。南壁はほぼ全形が把握できる。北部がやや不鮮明だが東壁には竈が設けられていない。104号住居に切られた西壁に竈をもつものと考えれば、南北にやや長い、横長長方形の平面形を呈するものと考えられる。

規模 長辺 3.30m 短辺 2.80m

方位 N-11°-E (東壁)

柱穴・周溝・貯蔵穴・竈 確認できない。104号住居が本住居より深い掘り方をもつため確認できないが、西壁に竈が作られていた可能性はあろう。

埋没土 大小のローム塊を含む暗褐色土で埋まる。

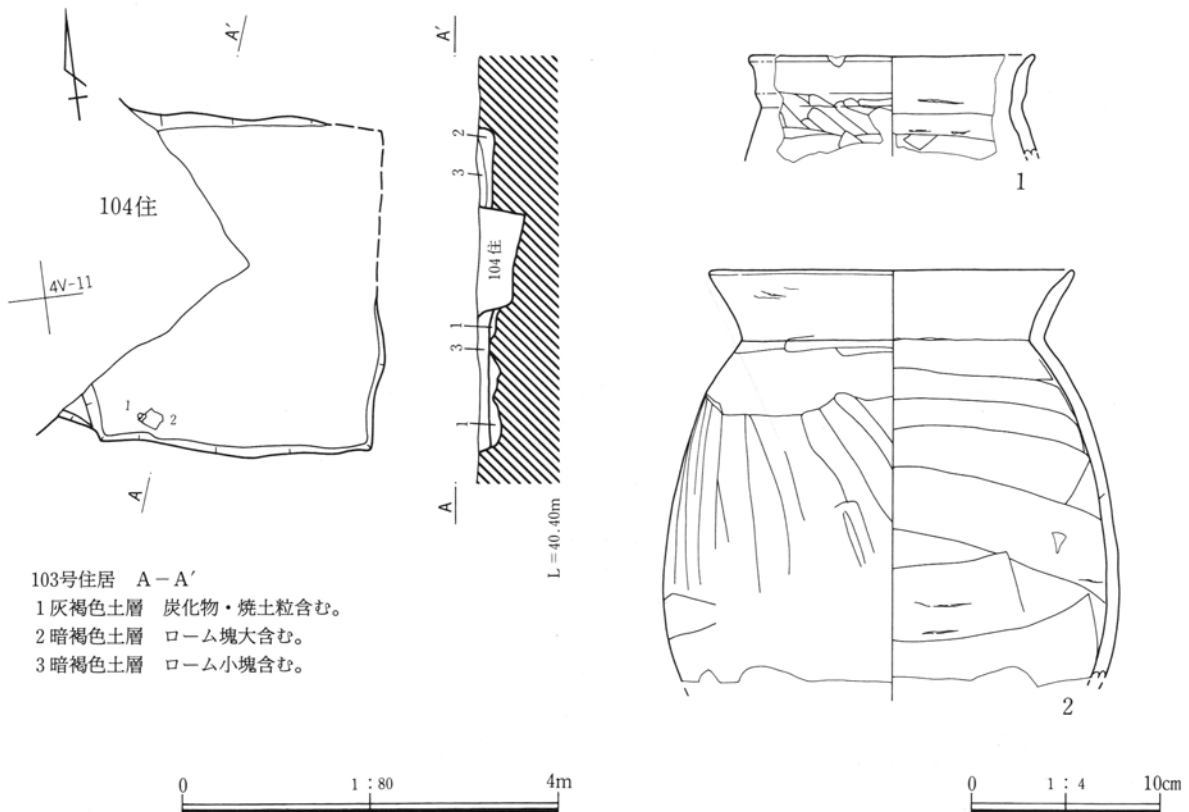
確認最大壁高及び壁の状況 12cm。残りの良い南壁では、やや丸みを持って立ち上がり、ほぼ直立する。北壁の一部ではわずかに上方に開きながら立ち上がる。西壁、東壁は明瞭でない。

床面の状況及び床下施設等 わずかに凹凸があるがほぼ平らに仕上げられる。掘り方は床面下7cmほどにあたり、小さな凹凸が多い。南壁際では掘り込みが深く、この部分では炭化物・焼土粒を含む灰褐色土で床が貼られる。

重複 104号住居より古い。

遺物と出土状況 南西隅部から土師器甕の大型破片と口縁片が出土しているのみである。

その他 古墳時代(6世紀前半)



103号住居 A-A'

- 1 灰褐色土層 炭化物・焼土粒含む。
- 2 暗褐色土層 ローム塊大含む。
- 3 暗褐色土層 ローム小塊含む。

第67図 103号住居と出土遺物

104号住居(第68~70図 PL21・135・136 遺物観察表P.362・363)

位置 A7区4U,4V-11~13グリッド

形状 わずかに北東-南西に長いが、ほぼ方形の平面形を呈する。各隅は丸みをもたずに屈曲する。

規模 長辺 4.82m 短辺 4.72m 面積 23.49m²

方位 N-58°-E

柱穴 4本。床面では確認できず、掘り方調査時に検出した。1-2:2.02m 2-3:2.12m 3-4:2.02m 4-1:2.20m

周溝 床面では確認できないが、掘り方では全周する。

貯蔵穴 竈右手にあたる東隅部にある土坑が位置的にはふさわしいものと思われるが、床面下にあたり、貼り床土と連続する、ローム塊を含む黒褐色土で底面まで埋まる。覆土の最上層も貼り床土である。1辺35~40cmのゆがんだ隅丸台形状の平面形を呈し、深さ42cm。底面は緩やかに窪み、U字状の断面形態を示す。

埋没土 比較的大きなローム塊を含む暗褐色土で埋まる。

確認最大壁高及び壁の状況 23cm。わずかに上方に開くが、やや丸みを持って立ち上がり、ほぼ直立。

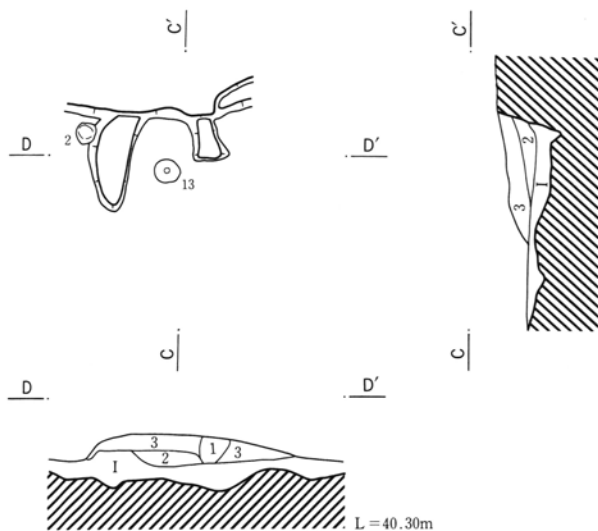
床面の状況及び床下施設等 ローム塊を多量に含む黒褐色土で貼り床される。わずかに波打つがほぼ平らに仕上げられる。掘り方では小さな凹凸が激しく、壁際には周溝状に溝が掘られる。西壁部では北端と南端近くを除いて幅広く掘られる。貯蔵穴のある南西隅部は丸みをもって掘られ、竈部ではやや乱れる。柱穴2の北西に床下土坑がある。直径50cmほどの円形の平面形を呈し、深さは20cmほどある。

竈 北東壁のほぼ中央にある。住居内に粘土を用いて構築したもので、壁外への掘り込みはない。左袖の長さ48cm、袖内側幅32cm。燃烧部中央やや手前から伏せた状態の埴(第70図-13)が出土している。

重複 103号住居より新しい。

遺物と出土状況 坏をはじめ、小型の甕、鉢など大型破片や比較的完形に近い土器が多い。住居全体に散在して、まとまった状況はみられない。竈およびその周辺には比較的遺物が少なく、上記の埴のほか、左袖と壁との接点近くで坏が出土しているのみである。土器以外では北隅部近くから剣形の石製模造品が出土している。覆土からは石鏃が出土した。

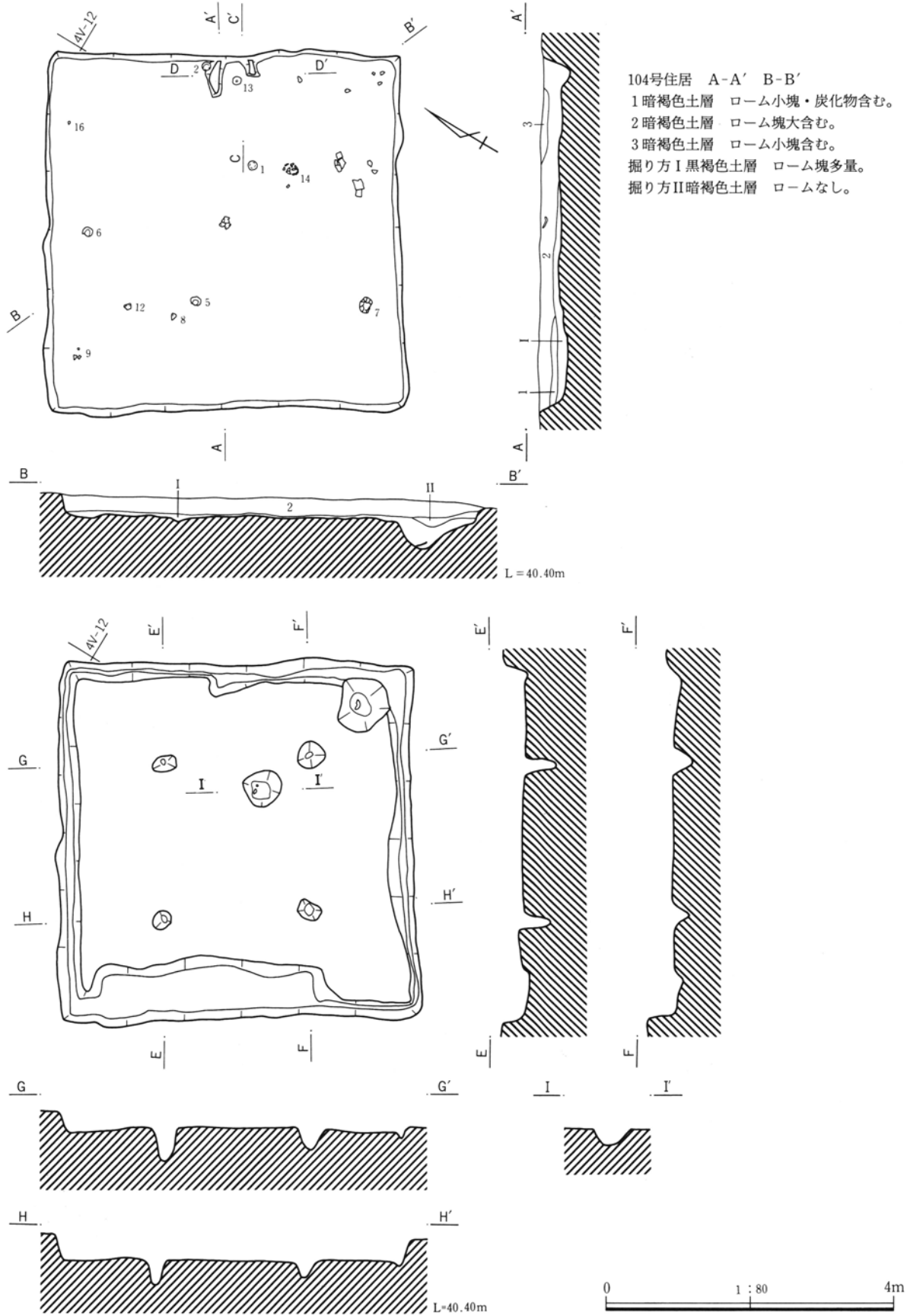
その他 古墳時代後期(6世紀初頭)



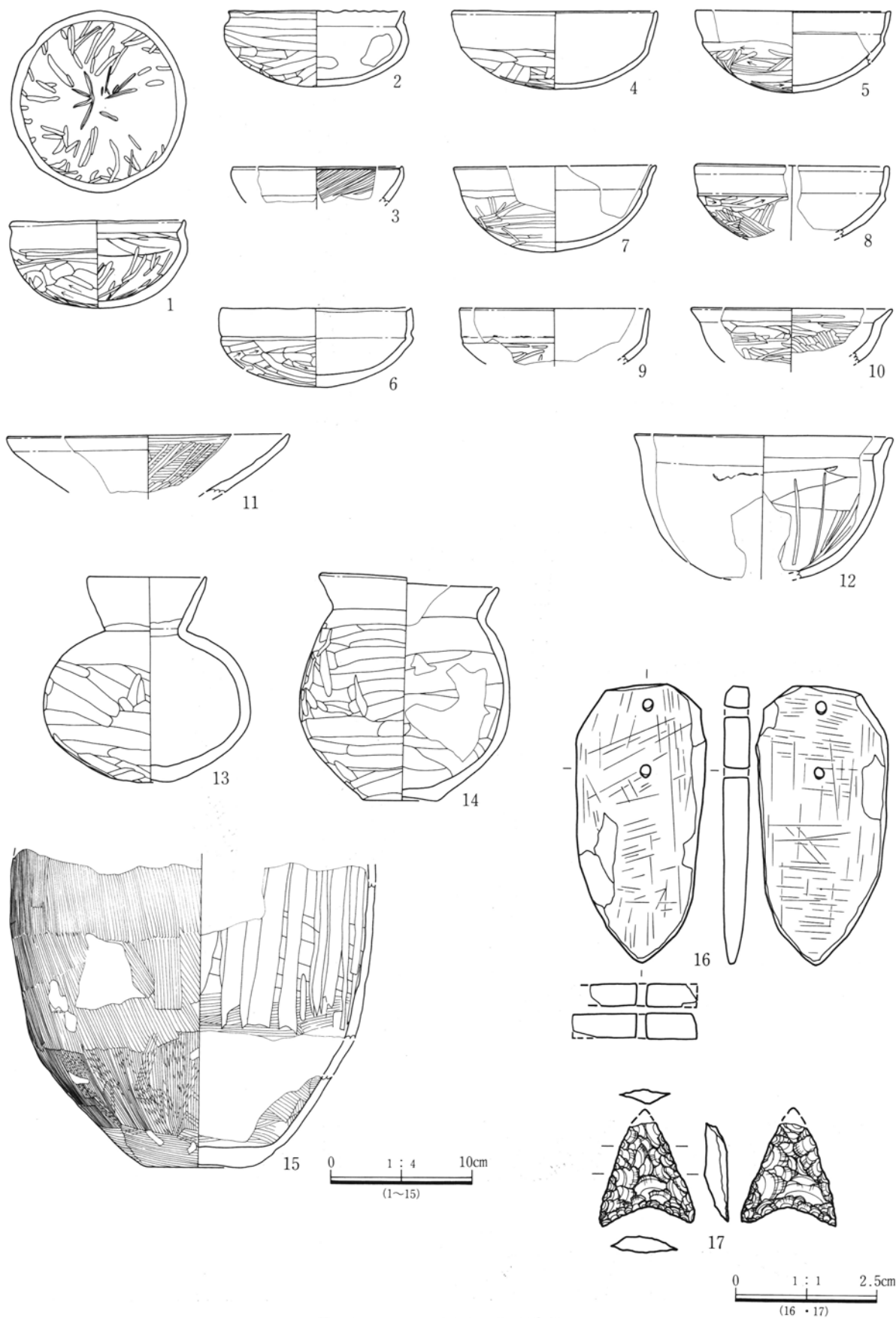
104号住居 竈 C-C' D-D'

- 1 粘土塊(袖)
- 2 褐色土 ローム粒混じり。
- 3 焼土 ローム塊・ローム粒・焼土混じり。
- 掘り方I 褐色土 ローム粒・ローム塊混じり。

第68図 104号住居竈



第69図 104号住居



第70図 104号住居の出土遺物

2. 土器溜まり

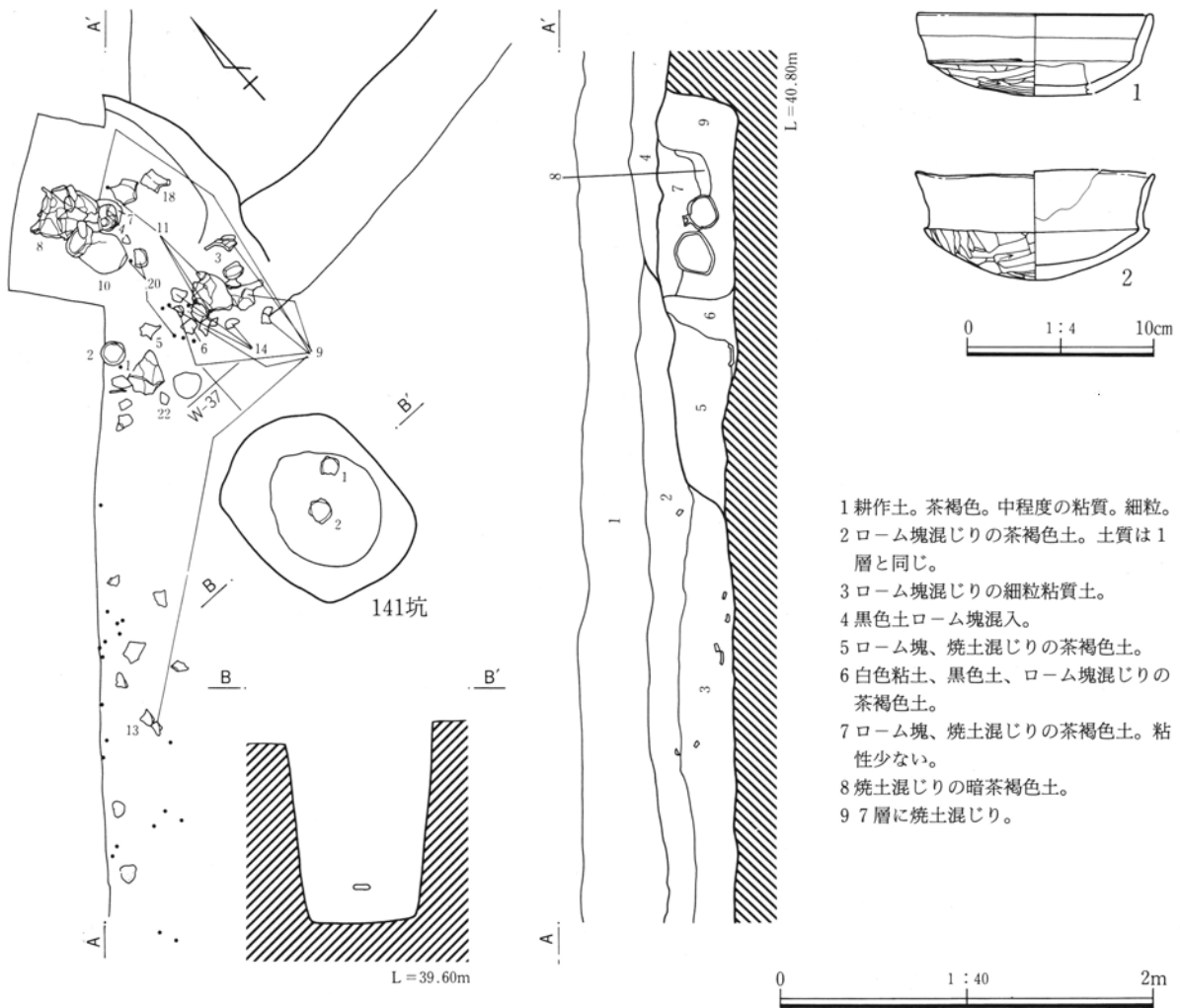
(第71~73図 PL22・136・137 遺物観察表P.363・364)

A2区のW-36・37グリッドで、3m×2mほどの範囲で土器が集中して出土する土器溜まり地点が検出された。発掘区の境で遺構の詳細はつかめなかったが、完形の土器が多く出土し、周囲の埋没土中に焼土が混じっていることから、調査時には竈の部分と考えられたが、住居の床面や壁等を検出することはできなかった。

遺物集中区の南側には141号土坑が検出された。平面形は隅丸長方形で、規模は長軸1.04m、短軸0.82m、深さ1.08mである。底面近くから土師器坏形土器が2個出土した。土坑出土の土器は、遺物集中地点の土器と同時期であると考えられる。

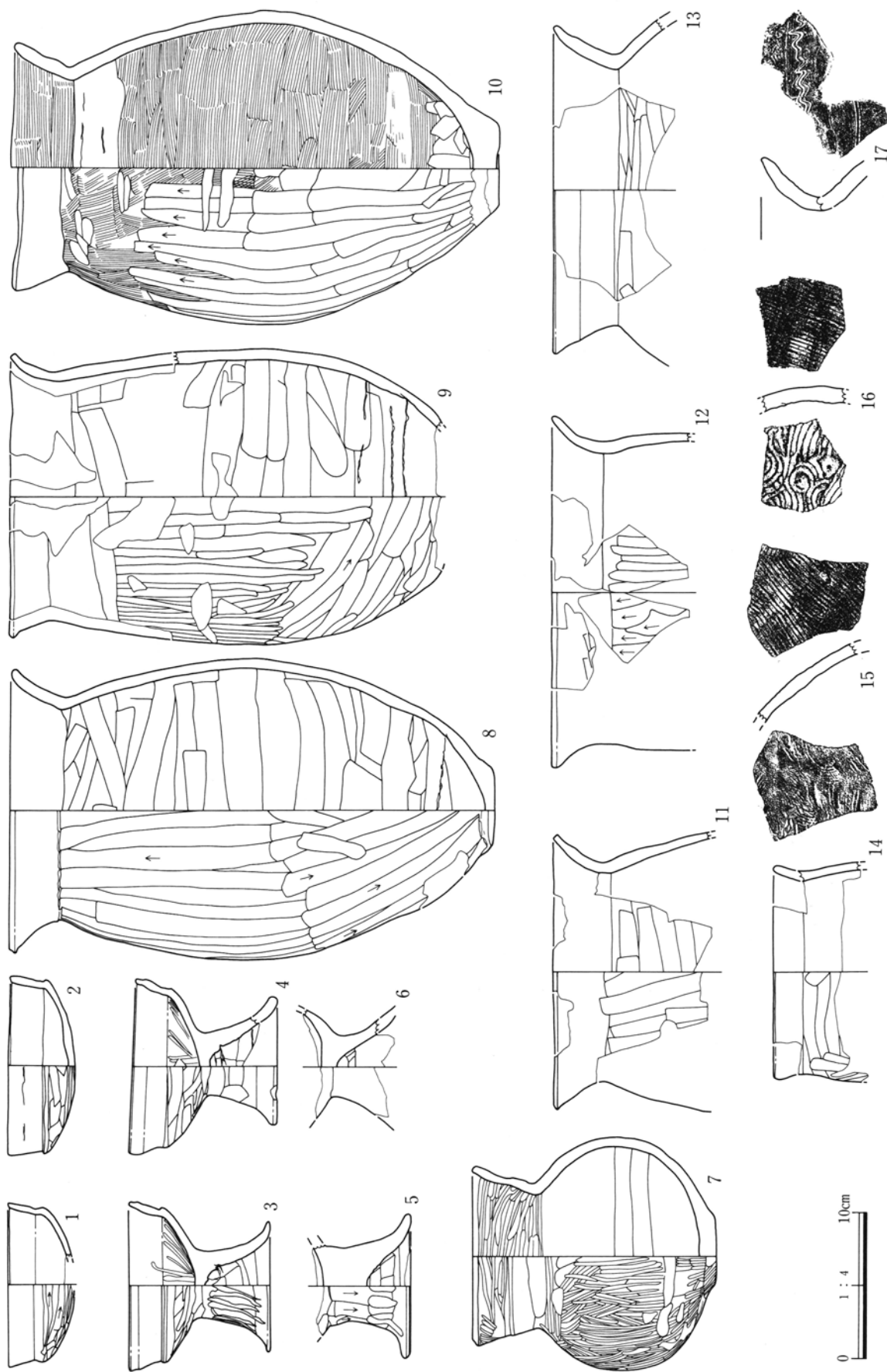
A2区の発掘区の境は上武道路本線部分の調査区に接していることから、整理作業時に上武道路本線の遺構全体図と合成してみたところ、付図1のように小角田前遺跡の232号住居の北東部にあたることが判明した。土器溜まりの北側には掘り込みが確認できたが、これが232号住居の北壁に連続するような位置にある。さらに141号土坑は、小角田前遺跡232号住居の北東隅にあたり、長軸方向が北壁に平行することから、竈脇につくられた貯蔵穴の可能性が高い。

小角田前遺跡232号住居からは遺物が出土していないので、遺物から検証することができないが、遺構の位置関係から、A2区土器溜まりは小角田前遺跡232号住居であると考えておきたい。



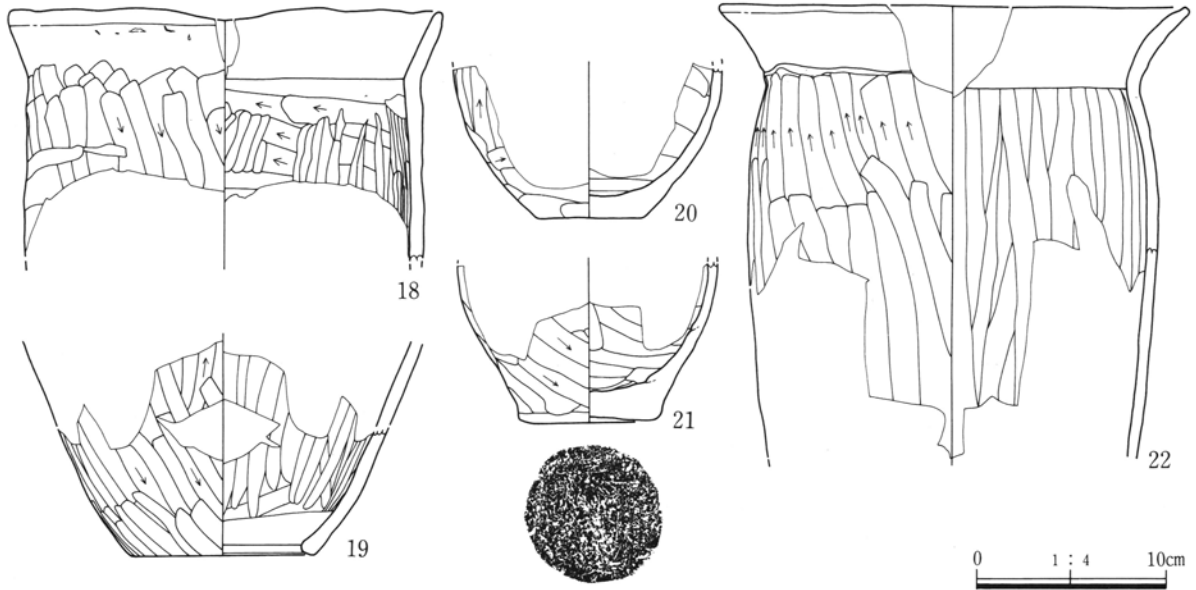
- 1 耕作土。茶褐色。中程度の粘質。細粒。
- 2 ローム塊混じりの茶褐色土。土質は1層と同じ。
- 3 ローム塊混じりの細粒粘質土。
- 4 黒色土ローム塊混入。
- 5 ローム塊、焼土混じりの茶褐色土。
- 6 白色粘土、黒色土、ローム塊混じりの茶褐色土。
- 7 ローム塊、焼土混じりの茶褐色土。粘性少ない。
- 8 焼土混じりの暗茶褐色土。
- 9 7層に焼土混じり。

第71図 A2区土器溜まりと土坑出土遺物



第72図 A2区土器溜まりの出土遺物(1)

0 1 : 4 10cm



第73図 A2区土器溜まりの出土遺物(2)

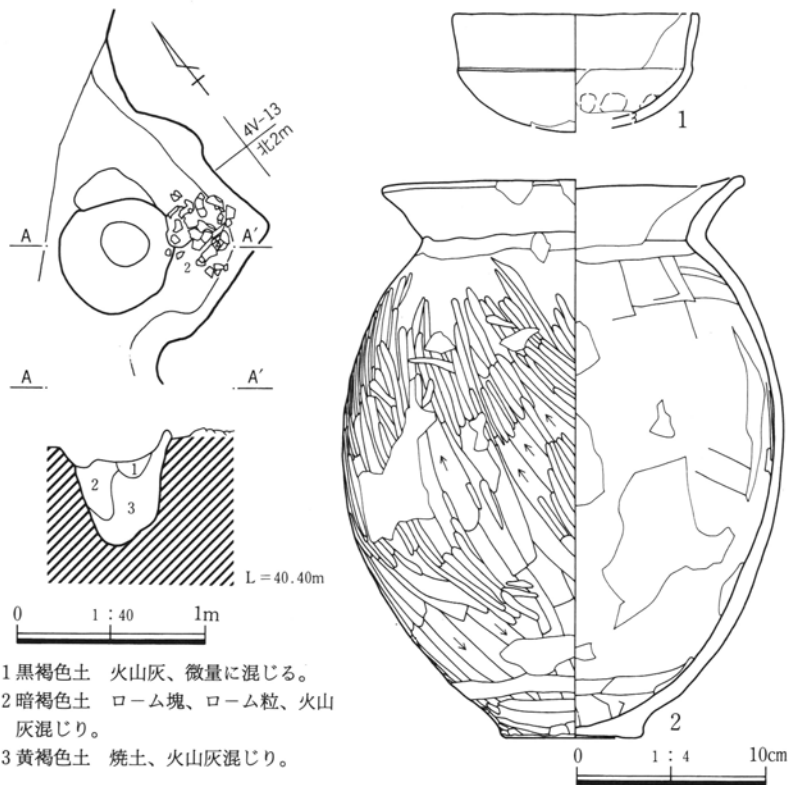
3. 土坑

145号住居 (第74図 PL22・137)

遺物観察表P.364)

A7区の住居群の北西部に、時期不明の20号溝と重複して検出された。形態は円形で、直径0.64m、深さは0.43mである。周囲の掘り方は方形で、その内側の土坑のすぐ脇から図示した土師器坏形土器と甕形土器が出土した。土層からは溝とも重複関係は確定できなかった。出土した土器はA7区の他の住居と同様の6世紀前半のものである。

土坑周辺の掘り方は角張っていて、住居南東隅の可能性もある。とすれば現道部分で調査できなかった部分にもう1軒住居があったことも考えられるだろう。



- 1 黒褐色土 火山灰、微量に混じる。
- 2 暗褐色土 ローム塊、ローム粒、火山灰混じり。
- 3 黄褐色土 焼土、火山灰混じり。

第74図 145号土坑と出土遺物

4. 墓

1号方形周溝墓

(第75・76図 PL23・24・137 遺物観察表P.364)

位置 A3区2K~2M-2~6グリッド

形状 東半分は発掘区域外のため未調査。全体形状は不明であるが、調査した西半分の形状からすると方形と考えられる。

周溝内側は直線的な方形に掘られているが、外側は中央部が少し膨らむような形状になっている。遺構確認面は表土直下のローム層上面であったので、全面には盛り土を確認することができなかったが、発掘区壁にそった土層断面A-A'を精査したところ、7層がロームを主体とする土層なので、盛り土の可能性も考えられる。

規模 方台部長 9.6m

北西周溝幅 2.56m 同深さ 0.63m

南西周溝幅 2.8m 同深さ 0.82m

南東周溝幅 3.5m 同深さ 1.26m

長軸方位 N-18°-W

主体部 検出されなかった。

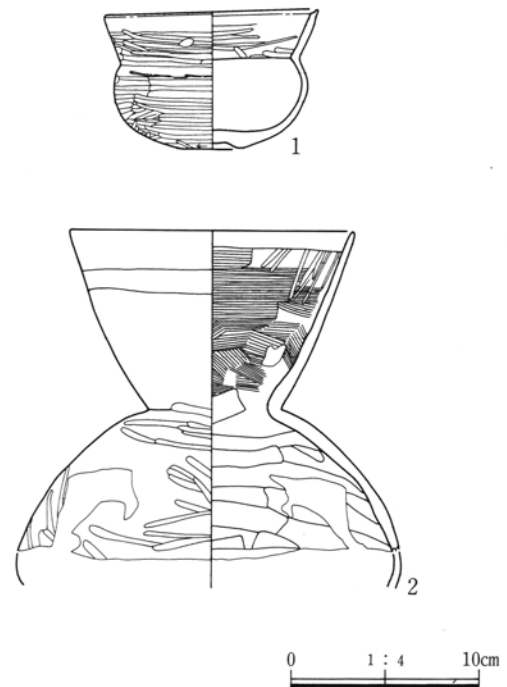
周溝 北西周溝と南東周溝の半分と、南西周溝を調査することができた。北西周溝は最も狭く、浅い。近世以降と思われる11号溝が北東隅を切っている。南西側の周溝は南にいくにしたがって広がっていた。底面は平坦ではなく、各周溝とも中央部が深くなる傾向が見られた。特に南東周溝の中央部は北側の2倍の深さがあった。さらに南東周溝の発掘区際のところには、部分的に深く掘れる長方形の掘り込みがあった。これが周溝墓に伴う掘り込みなのか、別の遺構であるかは確定できなかった。

埋没土 周溝を埋めていた土は、白色パミスやローム粒を含む褐色土・黒褐色土である。南東周溝中央発掘区際の不明落ち込みは、それより上位の埋没土とは少し異なった砂質のローム塊を含む黄褐色土・褐色土で埋まっていた。この上下で埋没土の堆積状況が異なるので、下位の掘り込み部分60cmほどが埋まった後、周溝が埋まった可能性がある。

遺物と出土状況 南西周溝中央部の底面から土師器小型広口壺形土器が、南西周溝底面上10cmで大型の埴形土器の上半が出土した。周溝埋没土からは土師器破片26点が出土した。小型広口壺形土器は口を上にしてやや斜位の位置で出土した。大型埴形土器は周溝で出土した破片が接合した。

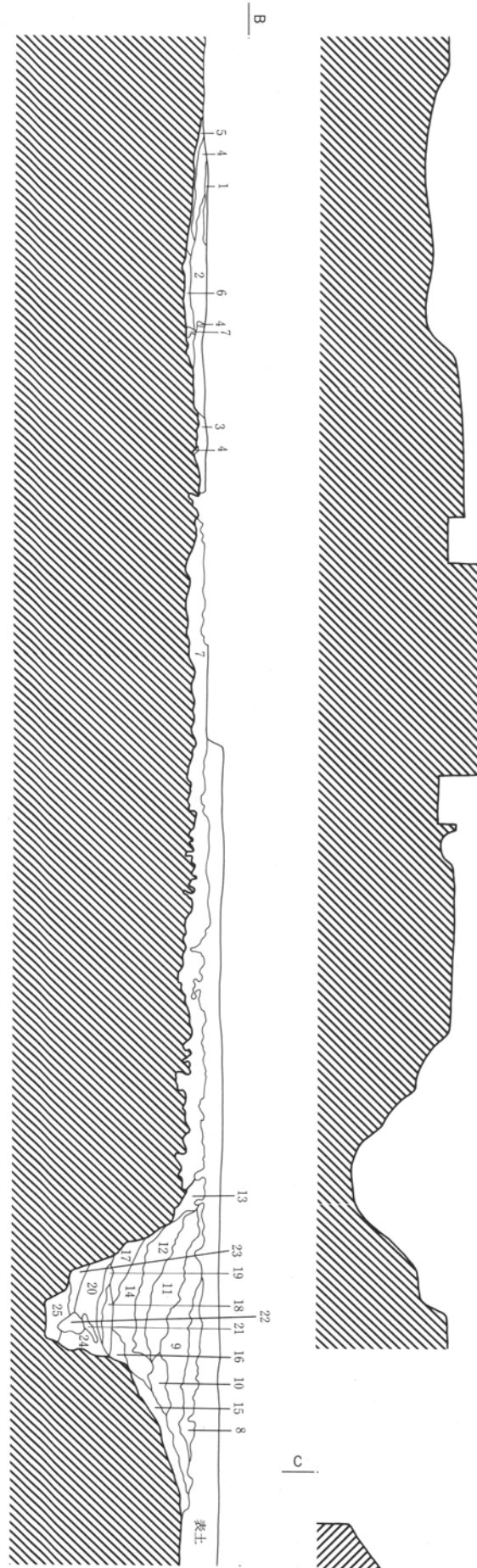
また、周溝墓の遺構確認面や周溝埋没土から縄文土器の破片が550点余り出土している。これは、本周溝墓周辺に縄文時代の遺構が多く分布していたためと考えられる。実際縄文時代後期の土坑が、方台部に3基、周溝周辺に6基検出されている。周溝掘削に伴って壊された縄文時代の遺構があったことを示していよう。

その他 古墳時代前期

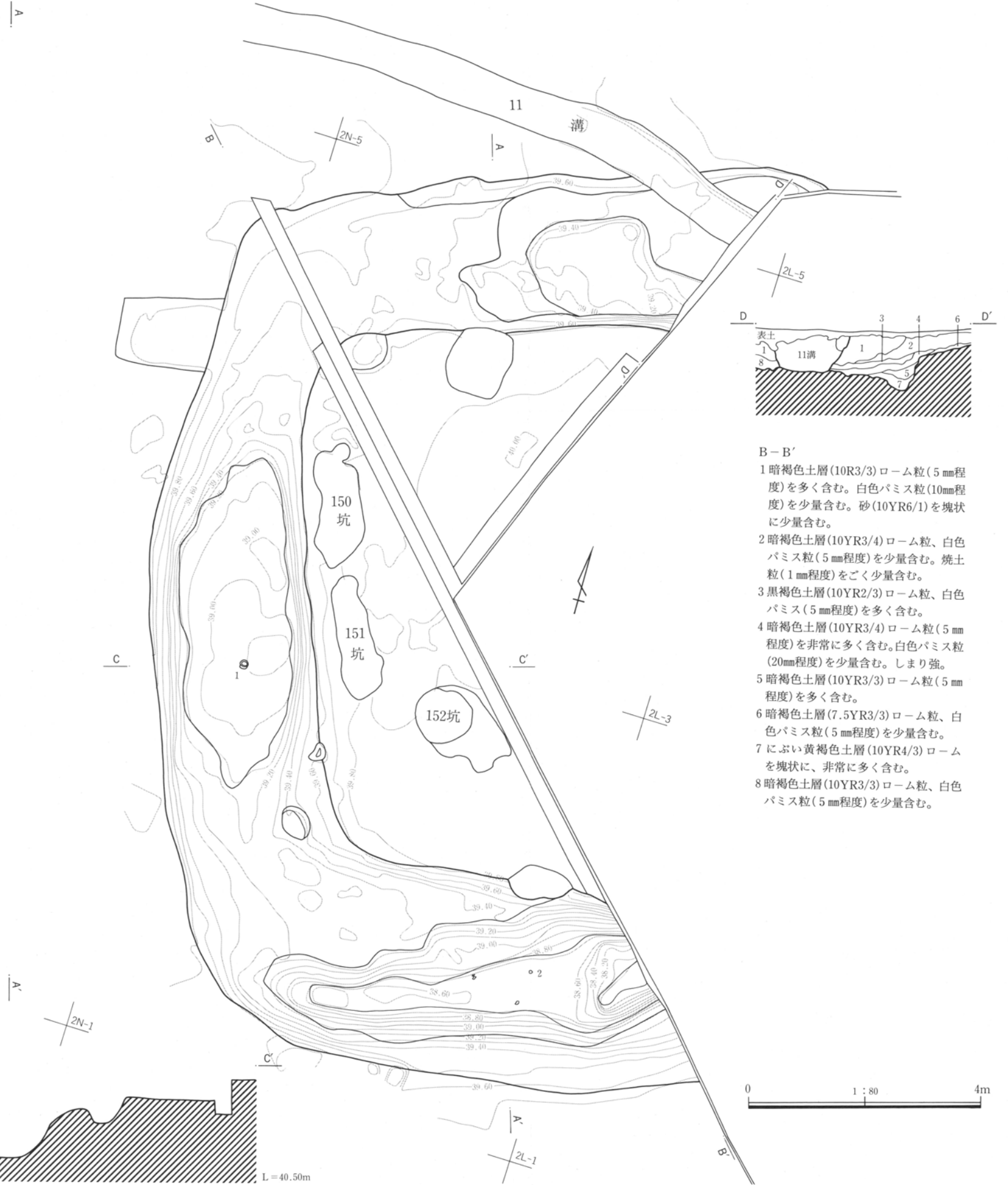


第75図 1号方形周溝墓の出土遺物

- A-A'
- 1 におい黄褐色土層(10YR5/3)白色パミス(10mm程度)を非常に多く含む。粘性弱。
 - 2 褐色土層(10YR4/6)ローム粒(5mm程度)、白色パミス(5mm程度)を多く含む。
 - 3 褐色土層(10YR4/4)ローム粒(5mm程度)、白色パミス粒(5mm程度)を多く含む。
 - 4 暗褐色土層(10YR3/4)白色パミス粒(5mm程度)を少量含む。
 - 5 暗褐色土層(10YR3/3)白色粒(5mm程度)を少量含む。
 - 6 黒褐色土層(10YR3/2)白色パミス粒(10mm程度)、ローム粒(20mm程度)を多く含む。
 - 7 褐色土層(10YR4/6)白色パミス粒(10mm程度)を少量含む。粘性弱。ロームを主体とする土。盛土の可能性あり。
 - 8 暗褐色土層(10YR3/3)ローム粒(5mm程度)を多く含む。白色パミス粒(5mm程度)、焼土粒(5mm程度)を少量含む。
 - 9 暗褐色土層(10YR3/4)白色パミス粒(20mm程度)、ローム粒(5mm程度)を多く含む。焼土粒(5mm程度)を少量含む。
 - 10 黒褐色土層(10YR2/3)白色パミス粒(20mm程度)を少量含む。ローム粒(5mm程度)を多く含む。
 - 11 褐色土層(10YR4/4)白色パミス粒(20mm程度)を多く含む。ローム粒(5mm程度)を非常に多く含む。
 - 12 暗褐色土層(10YR3/3)白色パミス粒(10mm程度)を少量含む。ローム粒(5mm程度)を多く含む。
 - 13 暗褐色土層(10YR3/3)ローム粒(5mm程度)を多く含む。
 - 14 暗褐色土層(10YR3/4)白色パミス粒(5mm程度)を少量含む。ローム粒(5mm程度)を多く含む。しまり弱。
 - 15 におい黄褐色土(10YR4/3)ローム粒(5mm程度)を多く含む。
 - 16 褐色土層(10YR4/4)ローム粒(5mm程度)を多く含む。白色パミス粒(5mm程度)、褐灰色粘土粒(5mm程度)を少量含む。
 - 17 褐色土層(10YR4/4)ローム粒(5mm程度)を非常に多く含む。白色パミス粒(10mm程度)を少量含む。しまり弱。
 - 18 におい黄褐色土層(10YR5/4)白色パミス粒(10mm程度)を少量含む。ローム粒(5mm程度)を多く含む。褐灰色粘土を塊状に多く含む。
 - 19 におい黄褐色土層(10YR4/3)ローム粒(5mm程度)を非常に多く含む。褐灰色粘土を塊状に多く含む。しまり弱。
 - 20 におい黄褐色土層(10YR5/4)ローム粒(10mm程度)、白色パミス粒(10mm程度)、褐灰色粘土塊(20mm程度)を多く含む。
 - 21 黄褐色土層(2.5YR5/4)砂質塊、しまり弱。部分的に酸化している。
 - 22 黄褐色土層(2.5YR5/4)15層と同じ。
 - 23 暗褐色土層(10YR3/4)ローム粒(10mm程度)を多く含む。褐灰色粘土粒(20mm程度)を少量含む。しまり弱。
 - 24 黄褐色土層(10YR5/6)ローム塊、黄褐色(2.5YR5/4)、砂質塊を多く含む。
 - 25 におい黄褐色土層(10YR5/4)ローム粒(10mm程度)、白色パミス、褐灰色粘土粒(20mm程度)を多く含む。



第76図 1号方形周溝墓(折り込み)



- B-B'
- 1 暗褐色土層(10R3/3)ローム粒(5mm程度)を多く含む。白色パミス粒(10mm程度)を少量含む。砂(10YR6/1)を塊状に少量含む。
 - 2 暗褐色土層(10YR3/4)ローム粒、白色パミス粒(5mm程度)を少量含む。焼土粒(1mm程度)をごく少量含む。
 - 3 黒褐色土層(10YR2/3)ローム粒、白色パミス(5mm程度)を多く含む。
 - 4 暗褐色土層(10YR3/4)ローム粒(5mm程度)を非常に多く含む。白色パミス粒(20mm程度)を少量含む。しまり強。
 - 5 暗褐色土層(10YR3/3)ローム粒(5mm程度)を多く含む。
 - 6 暗褐色土層(7.5YR3/3)ローム粒、白色パミス粒(5mm程度)を少量含む。
 - 7 におい黄褐色土層(10YR4/3)ロームを塊状に、非常に多く含む。
 - 8 暗褐色土層(10YR3/3)ローム粒、白色パミス粒(5mm程度)を少量含む。

2号方形周溝墓

(第77図 PL24)

位置 A3区2K~2O-6・7グリッド

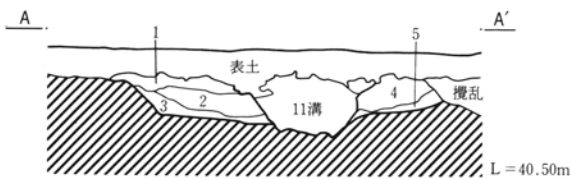
形状 遺構の主要部分は発掘区域外のため、東周溝外縁部のみ調査にとどまった。全体形状は不明であるが、東周溝外側の形状からすると方形と考えられる。

周溝内側の形状は不明である。外側は中央部が少し膨らむような形状になっている。中央部に大きな攪乱があり、中央部の底面は失われていた。また、南東隅で近世以降と思われる11号溝と重複していた。規模 規模は部分的な調査にとどまったので、方台部長および周溝幅は計測できなかった。外形形状から比較すると1号方形周溝墓より大型であると推定される。確認面からの周溝の深さは、完掘できた南東隅で40cmであった。

周溝 東周溝の一部を調査することができた。南東隅は近世以降と思われる11号溝に切られている。

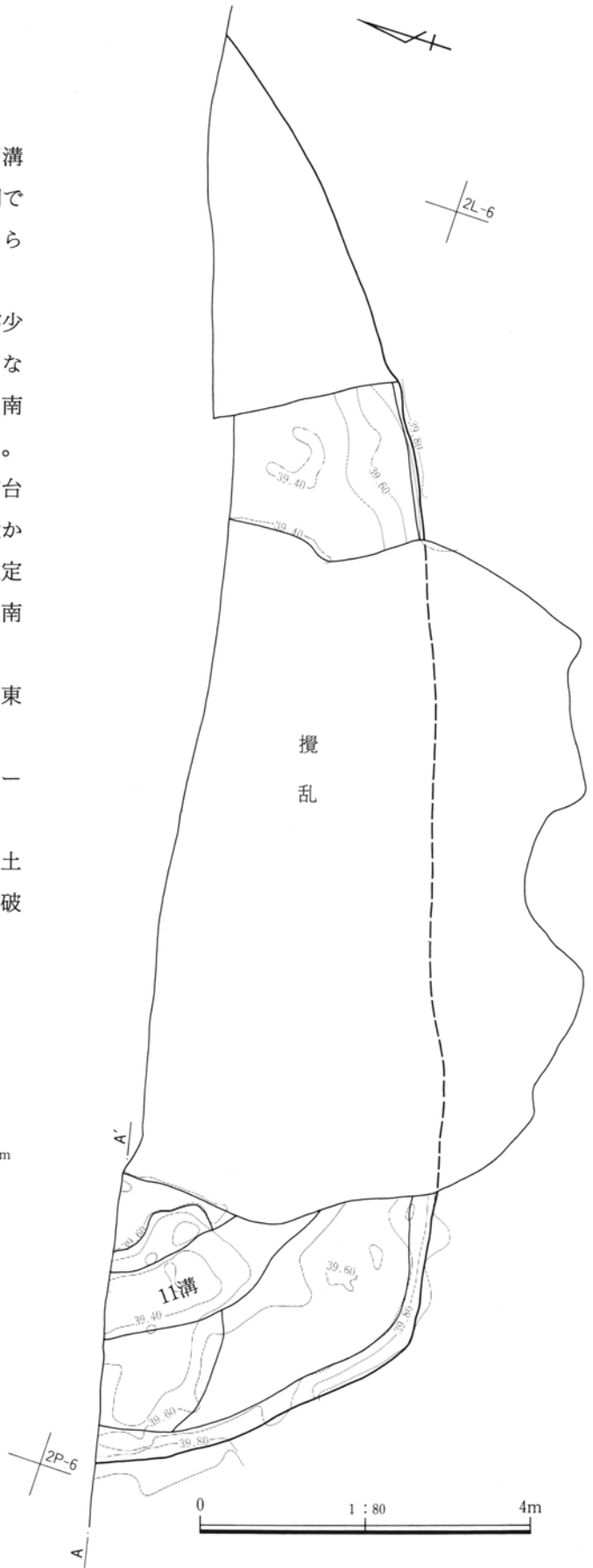
埋没土 周溝を埋めていた土は、白色パミスやローム粒を含む褐色土・黒褐色土である。

遺物と出土状況 周溝墓の遺構確認面や周溝埋没土から縄文土器の破片38点、土師器破片5点、陶器破片2点が出土した。



- 1 黒褐色土層(10YR2/3)ローム粒(5mm程度)をごく少量含む。しまり強。
- 2 黒褐色土層(10YR2/2)ローム粒、白色パミス粒(5mm程度)を少量含む。しまり強。
- 3 暗褐色土層(10YR3/3)ローム粒(20mm)を多く含む。白色パミス(5mm程度)を少量含む。
- 4 黒褐色土層(10YR2/2)ローム粒(5mm程度)、白色パミス粒(10mm程度)を少量含む。
- 5 褐色土層(10YR4/4)ロームを塊状に非常に多く含む。

第77図 2号方形周溝墓



1号古墳 (第78図 PL25・137)

位置 A4区2V~2X-11~13グリッド

形状 南西部は発掘区域外のため未調査。全体形状は不明であるが、円墳の周堀が遺存したものと考えられる。

規模 直径 23.8m

周堀幅 1.68m 同深さ 0.32m

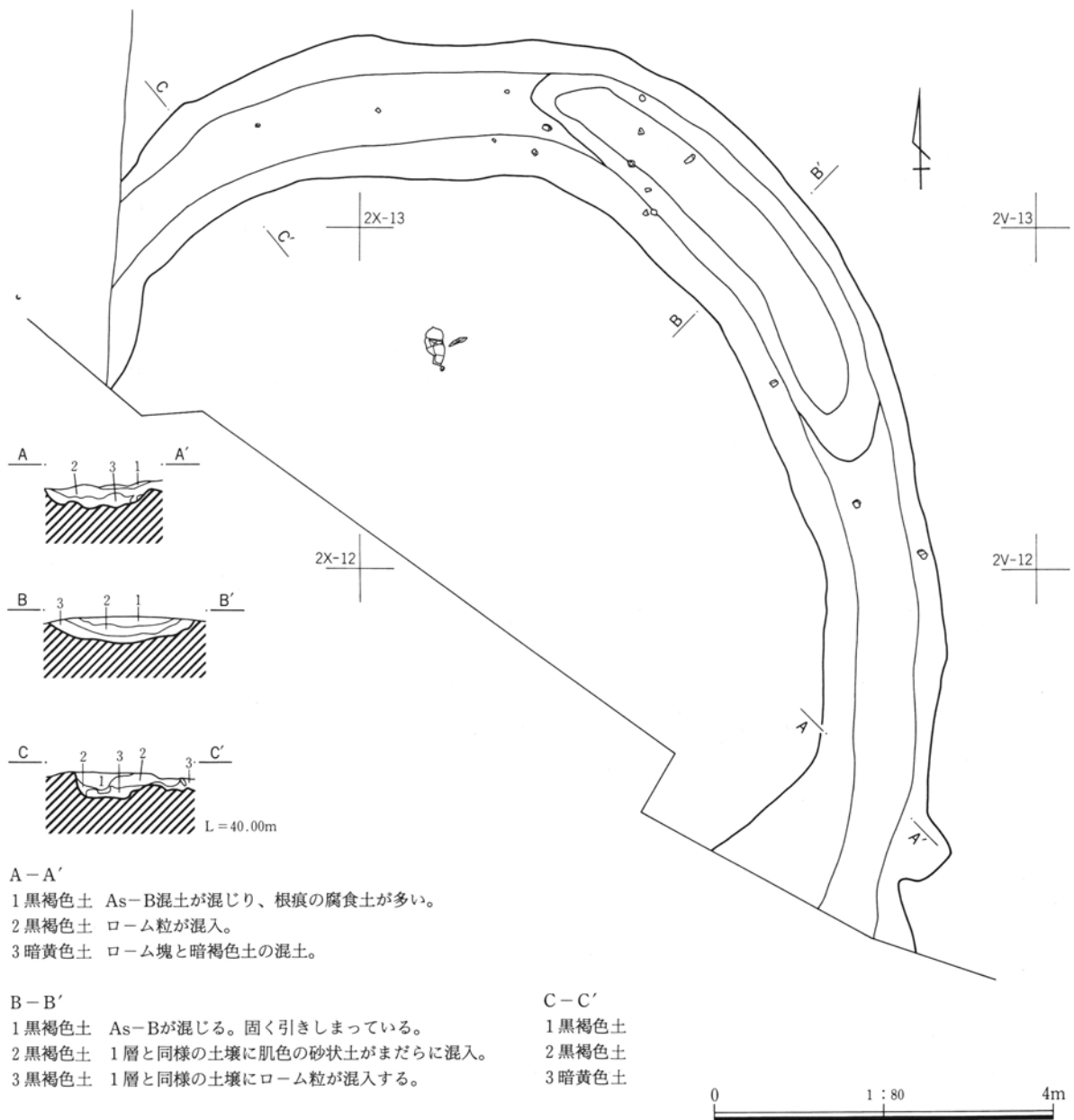
主体部 検出されなかった。

周堀 周堀の北東部半分を調査することができた。

周堀の断面は隅の丸い箱形で、底面は平坦である。一部北東部にやや深く、断面が皿状になったところがあった。

埋没土 周溝を埋めていた土は、ローム粒やローム塊を含む暗褐色土である。

遺物と出土状況 周堀北東部の埋没土中から縄文土器の破片15点と磨り石1点が出土したのみである。縄文土器の出土が多いのは、縄文後期の土器埋設土坑等の遺構が重複しているからと考えられる。



第78図 1号古墳

2号古墳 (第79図 PL11・26)

位置 B2区2F~2I-33・34グリッド

形状 北東隅と南西隅は発掘区域外のため未調査。全体形状は不明であるが、調査した北西部や南東部の形状からすると方墳の周堀が遺存したものと考えられる。方形周溝墓とも考えられるが、周堀内側の墳丘部の角の形状が丸くなっており、方形周溝墓の直角に曲がる形状とはやや異なっている。

規模 墳丘長 14m

南東周堀幅 3.27m 同深さ 0.26m

長軸方位 N-27°-W

主体部 検出されなかった。

周溝 北西周堀と南東周堀の一部を調査することができた。断面皿状の周堀で、底面は平坦である。北西隅と南東隅にやや深くなる地点がある。北側には23号溝が重複している。

埋没土 周溝を埋めていた土は、ローム粒やローム塊を含む暗褐色土・黒褐色土である。

遺物と出土状況 周堀の遺構確認面や周堀埋没土から縄文土器の破片が420点余り出土した。周堀内から出土した土器はいずれも周堀底面より上で出土しており、周堀掘削土が盛りあげられた墳丘が崩落した際に流れ込んだものと考えられる。本古墳周辺には縄文時代遺構が分布していたことが推定される。なお、その縄文土器は本章第1節B2区包含層の出土遺物として第32図に掲載した。

3号古墳 (第80図 PL26・137 遺物観察表P.364)

位置 B3区2O~2R-39~41グリッド

形状 北東部の一部を調査したのみで、他はほとんど発掘区域外のため未調査。全体形状は不明であるが、調査できた部分の弧状からすると円墳の周堀が遺存したものと考えられる。

規模 直径 計測不可

南東周堀幅 2.38~3.03m 同深さ 0.68m

主体部 検出されなかった。

周溝 北東周堀の一部、全体の1/4を調査することができた。断面皿状の周堀で、底面は平坦である。周

堀内側は比較的なだらかで、外側は立ち上がっている。

埋没土 周溝を埋めていた土は、ローム粒やローム塊を含む暗褐色土・茶褐色土である。

遺物と出土状況 北東部周堀中央で土師器埴形土器が底面直上で出土した。これは正位で胴部があり、隣に口縁部が破損して横たわっていた。この埴形土器は古墳に伴う出土遺物と考えられる。

一方、周堀の遺構確認面や周堀埋没土から、土師器・須恵器の破片431点、縄文土器の破片460点余り、石片・礫が41点出土した。周堀内から出土した土器はいずれも周堀底面より上で出土しており、周堀掘削土が盛りあげられた墳丘が崩落した際に流れ込んだものと考えられる。B2区の2号古墳と同様に、本古墳周辺にも縄文時代遺構が分布していたことが推定される。なお、その縄文土器は本章第1節B3区包含層の出土遺物として第32図に掲載した。

5. その他の遺構

凹地

A2区の平成5年度調査で、住居群より新しい黒色土の帯状の凹地(1号:O~T-31~33グリッド)を確認した。またU-34グリッドで1号凹地とは方向の異なる凹地を確認していた。これは平成9年度に調査した浅間B軽石の堆積する帯状の凹地(2号:U~X-34~40グリッド)につながる位置にあった。これらの凹地は遺構としての性格を確定することができなかったが、特に1号凹地からは遺物が多量に出土しているので、本項目で報告する。なお、いずれの凹地も上武道路本線の発掘区には確認されていない。

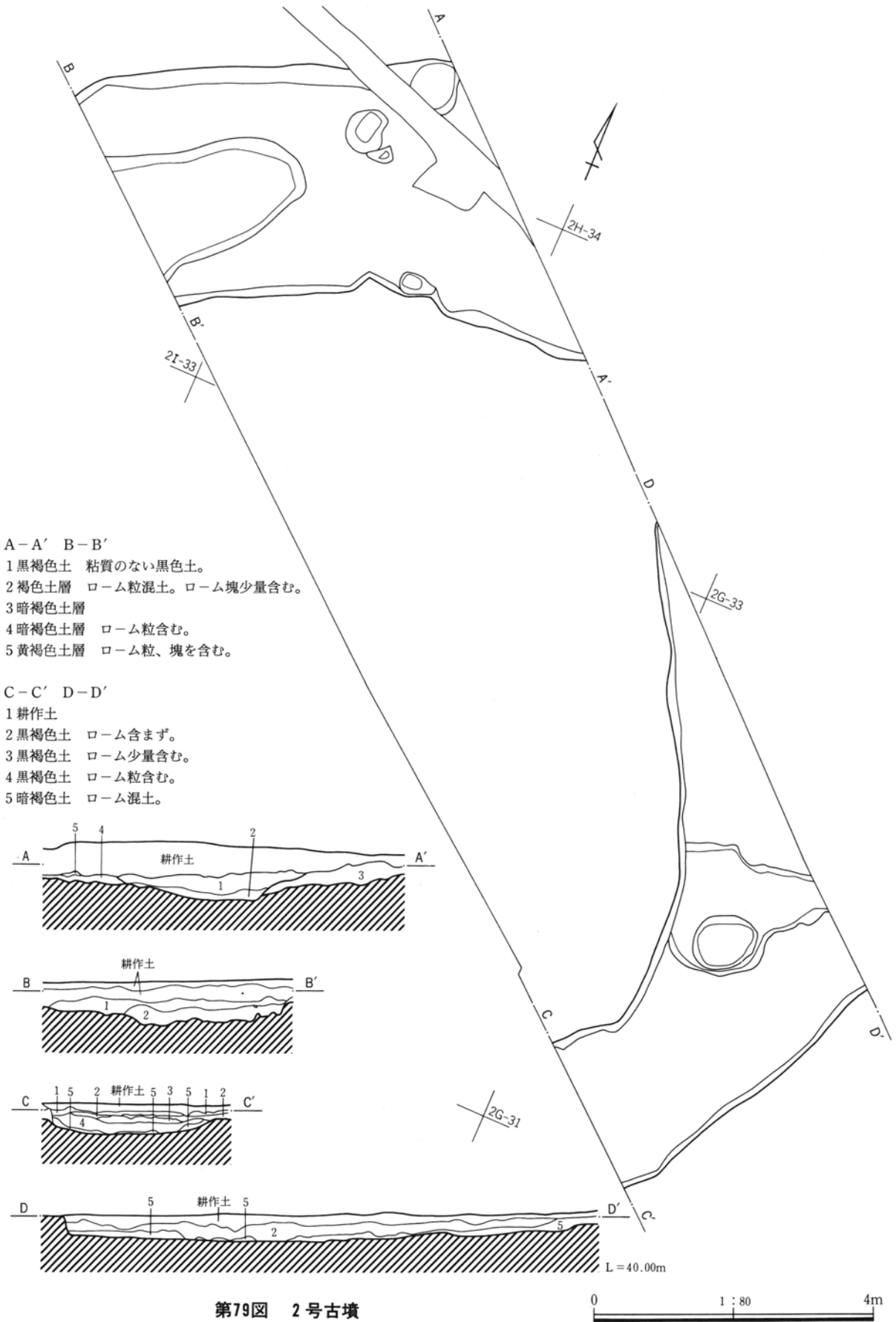
1号凹地 (第81・82図 PL27・137 遺物観察表P.364)

位置 A2区O~T-31~33グリッド

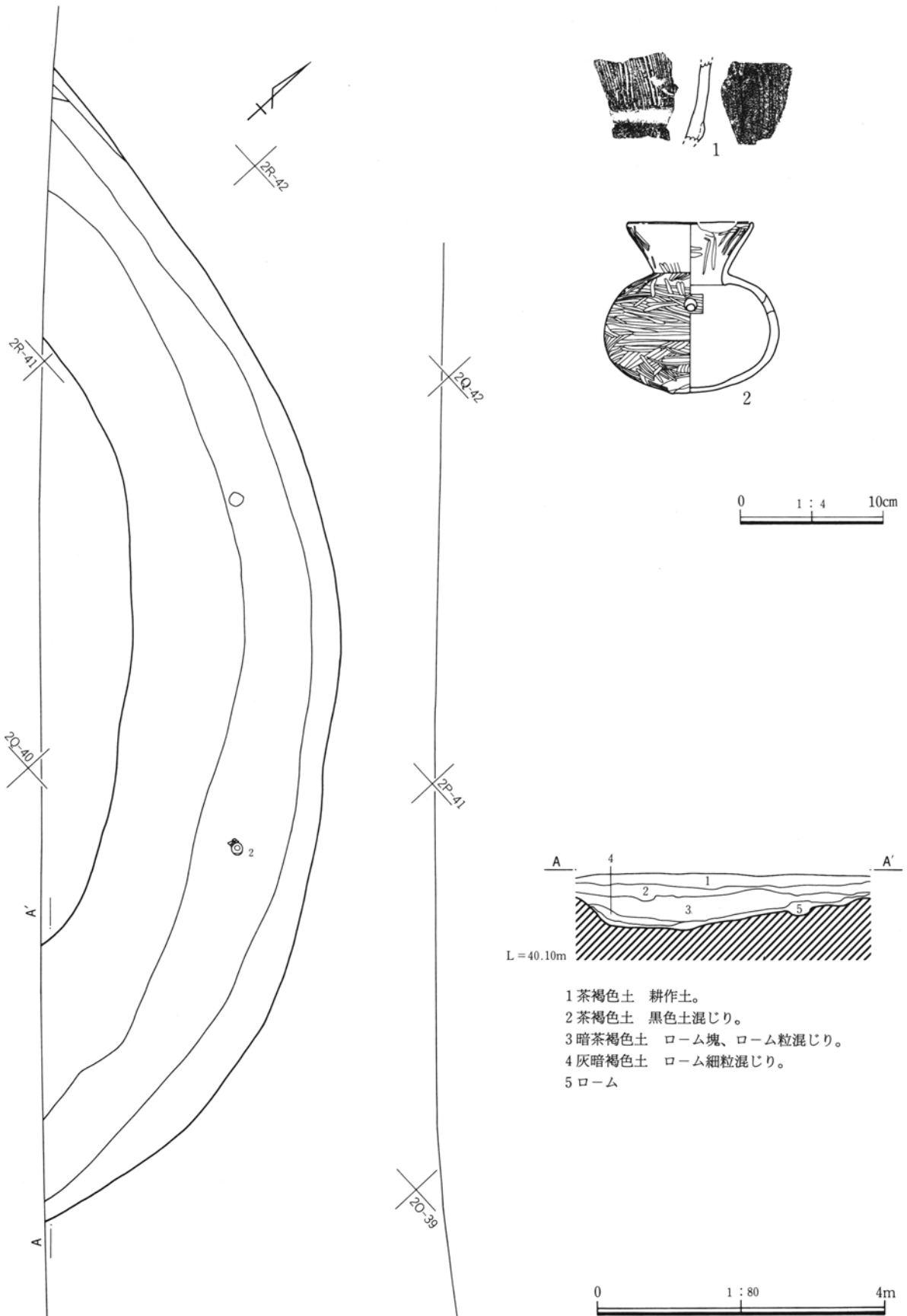
形状 やや南側が膨らむが、北縁はほぼ直線的に掘られた凹地。

規模 調査長 23m

第3章 検出された遺構と遺物



第79図 2号古墳



第80図 3号古墳と出土遺物

- 1 茶褐色土 耕作土。
- 2 茶褐色土 黒色土混じり。
- 3 暗茶褐色土 ローム塊、ローム粒混じり。
- 4 灰暗褐色土 ローム細粒混じり。
- 5 ローム

第3章 検出された遺構と遺物

幅 7.0m 同深さ 0.48m

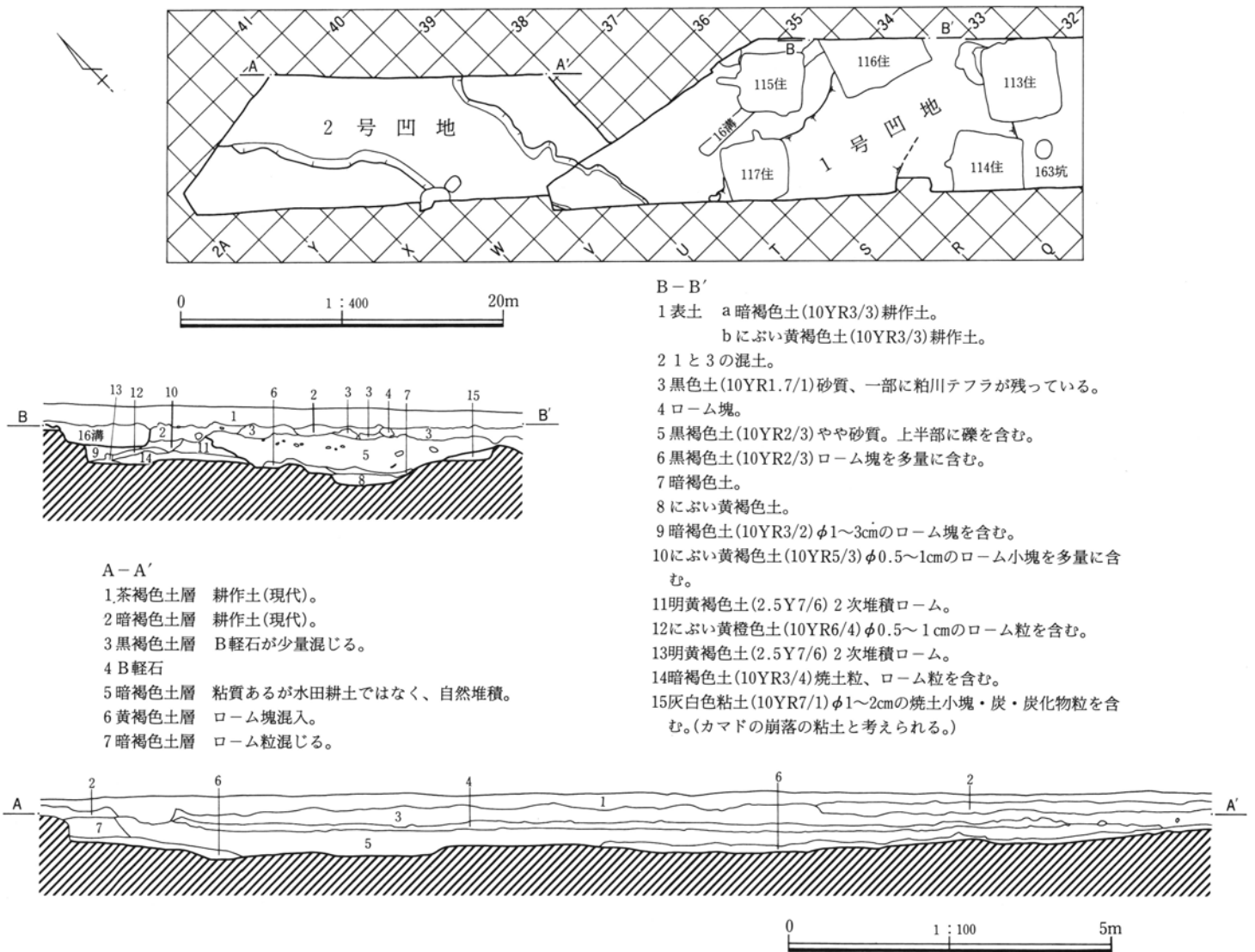
東壁方位 概ねN-12°-W

埋没土 117号住居の埋没土層断面をみると砂質の黒い土が堆積している凹地が住居の埋没土を切っている。凹地を埋めていた土は、上半部に小礫を含む砂質黒褐色土、ローム塊を多量に含む黒褐色土である。

遺物と出土状況 凹地の遺構確認面や埋没土から縄文土器の破片16点、土師器環・埴類破片346点、壺・甕類破片810点、須恵器破片49点等が出土した。凹地は113号・114号・116号・117号住居を壊しているの

で、その住居の遺物を混じていると思われるが、明らかに時期の新しいものが含まれており、凹地の時期を示唆している。

図示した須恵器長頸壺(第82図8)は、116号住居の埋没土内と周辺の凹地から出土した破片が接合した。7世紀後半と考えられる遺物である。また、この須恵器長頸瓶と同一個体と考えられる破片(第82図7)が凹地のQ-32グリッドの埋没土から出土した。この須恵器片の外面には直径6mmのコンパス文が4個施文されている。これらの須恵器については第6章-3で詳述した。



第81図 A2区凹地

2号凹地(第81・82図 PL27・137 遺物観察表P.364)

位置 A2区U~X-34~40グリッド

形状 掘り方の平面形は不安定で北側がやや膨らんでいる。

規模 調査長 17.5m

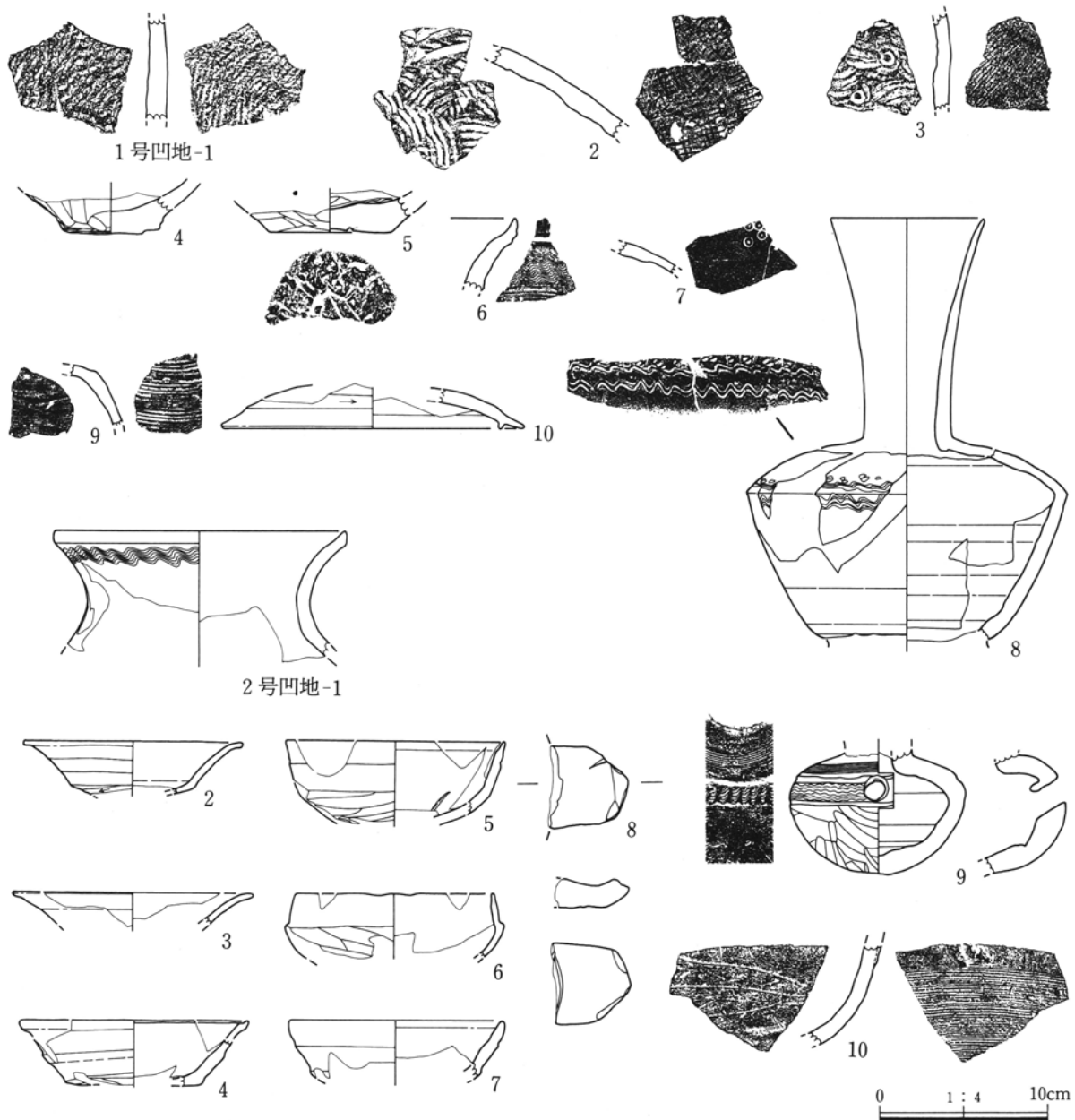
幅 6.5~11.8m 同深さ 0.72m

北壁方位 概ねN-90°-W

埋没土 凹地を埋めている土の主体は粘質の暗褐色土とその下位のローム塊を混じる黄褐色土である。

北側では、これらの上位に浅間B軽石がほぼ水平に堆積していたが、南部では明瞭に浅間B軽石は確認できなかった。

遺物と出土状況 凹地の遺構確認面や埋没土から縄文土器の破片2点、土師器坏・埴類破片676点、壺・甕類破片1076点、須恵器破片23点等が出土した。図示した須恵器甕(第82図9)は、U-35グリッドの底面直上で出土した。



第82図 A2区1号・2号凹地の出土遺物

第3節 古代の遺構と遺物

三ツ木皿沼遺跡で検出された古代の遺構は、発掘区のほぼ全域で検出された。検出された遺構は、住居97軒、平安時代と考えられる土坑130基、祭祀跡1か所、鉄生産に関連する炉2基、鉄生産関連土坑7基、畠3か所、溝1条である。

これらの遺構の立地は、ローム台地上だけではなく、低地部にもおよんでいる。古墳時代以前の遺構がローム台地に分布していたのに対して、奈良時代以降は、低地部にも遺構の分布が拡大しているのである。

ローム台地上ではA2区で土坑3基、A3区で住居1軒、土坑1基、A4区で住居状遺構1基、土坑2基、A7区で住居2軒、B2区で土坑10基が調査された。いずれも台地縁辺の立地であるが、後述するような低地部の住居や土坑の分布につながるものと考えられる。A4区の住居状遺構からは銚子（さしなべ）と考えられる銅製片口鍋が出土している。

低地部ではA6区で91軒、B3区で2軒の住居が調査された。このうち、A6区の低地部北部の下層には8世紀後半の住居が3軒検出された。その周囲には少なくとも3方向の畠の畝間溝の列が検出されている。これらの住居は砂・シルトに埋まり、耕作面等の旧地表面は検出できなかったため、畠と住居との新旧関係は確認できなかった。

この時期以降、A6区とB3区の低地部は全面畠地に変わる。A6区の多い地点で5回もの洪水に埋まりながら、被災以前の畠を復旧して耕作を続けた農民の姿をかいま見ることができる。復旧の方法は、砂に埋まった畠の畝の中央をサク状に掘り、砂の上に盛りあげて新しい畠の作付け面をつくる方法をとっている。これは天地返しとサク切りを同時に行う効率的な方法であるといえよう。

またA6区南部に、唯一平安時代と確定できる溝が検出された。畠の畝の単位の境に掘られており、畠と同じ砂で埋まっていた。

畠の上層には9世紀末以降の住居が検出された。

住居はA6区で88軒、B3区で2軒が調査された。住居の時期は9世紀末から11世紀前半である。住居の分布はA6区に集中している。A6区には中央やや北側に削り残されたローム台地があるが、台地上にも連続して平安時代の住居が88軒検出された。これらの住居の分布にはやや偏在が見られる。A6区中央のローム台地の北西部と南東部には住居が著しく重複していた。

また、A6区には112基の土坑、B3区には2基の土坑が検出された。これらの土坑は平面形から円形・楕円形・隅丸方形・長方形・不定形5種に分類できる。時期が明確な土坑は少ないが、ここでは平安時代の遺構として扱った。出土遺物の時期は概ね9世紀末から10世紀の頃で、住居と基本的に同じである。

一方、A6区には住居や土坑が分布しないか分布が薄くなる地点があった。そのうち、4H-22グリッドには砂に埋まった10世紀後半の土器祭祀跡が検出された。土坑等の掘り込みはなかったが、上層に小型平底鉢形土器5点、下層に坏形土器5点が埋まっていた。これらの土器の位置や埋設状況から、地鎮等に関わる祭祀跡と考えられる。

さらにA6区の中央部では、10世紀と考えられる鉄生産に関連する炉2基と、その操業に関連する土坑7基を検出した。炉はいずれも10世紀前半の住居より新しいことが調査で判明した。しかし、周辺では10世紀前半の住居の埋没土に鉄滓が出土したり、竈の支脚に羽口が転用されていたりしていることから、10世紀前半には周辺で何らかの操作が行われていたと考えられた。ただし畠から居住域に転換された9世紀末までは遡らない。鉄生産関連遺構の遺存状態は悪かったが、鉄滓等の分析から鉄生産活動を想定することができた。

三ツ木皿沼遺跡の古代の集落は9世紀末を境に、畠作耕地から鉄生産を伴う居住域へ大きく変貌していたのである。

1. 住居

109号住居(第83~85図 PL28・138 遺物観察表P.365)

位置 A3区2K, 2L-2, 3グリッド

形状 ゆがんだ台形状の平面形を呈し、東辺が短く北辺が東部で南に傾く。南辺の構成する両角はほぼ直角で、北東コーナーが鈍角となる。

規模 長辺 3.0m 短辺 2.8m 面積 7.62㎡

方位 N-90°-E

柱穴・周溝・貯蔵穴 なし。

埋没土 上部は耕作により攪乱される。中・下位は焼土粒やパミスを含む暗褐色土~黒褐色土に埋没している。

確認最大壁高及び壁の状況 32cm。東西辺の壁はほぼ垂直に立ち上がる。南辺は周溝墓の周溝埋没土にあたるため、明確にはとらえられない。北辺もはっきりしないが、やや丸みをもって立ち上がり、やや上方に開く。

床面の状況及び床下施設等 南北方向はほぼ水平だが、中央から西より部分では東から南に向かってわ

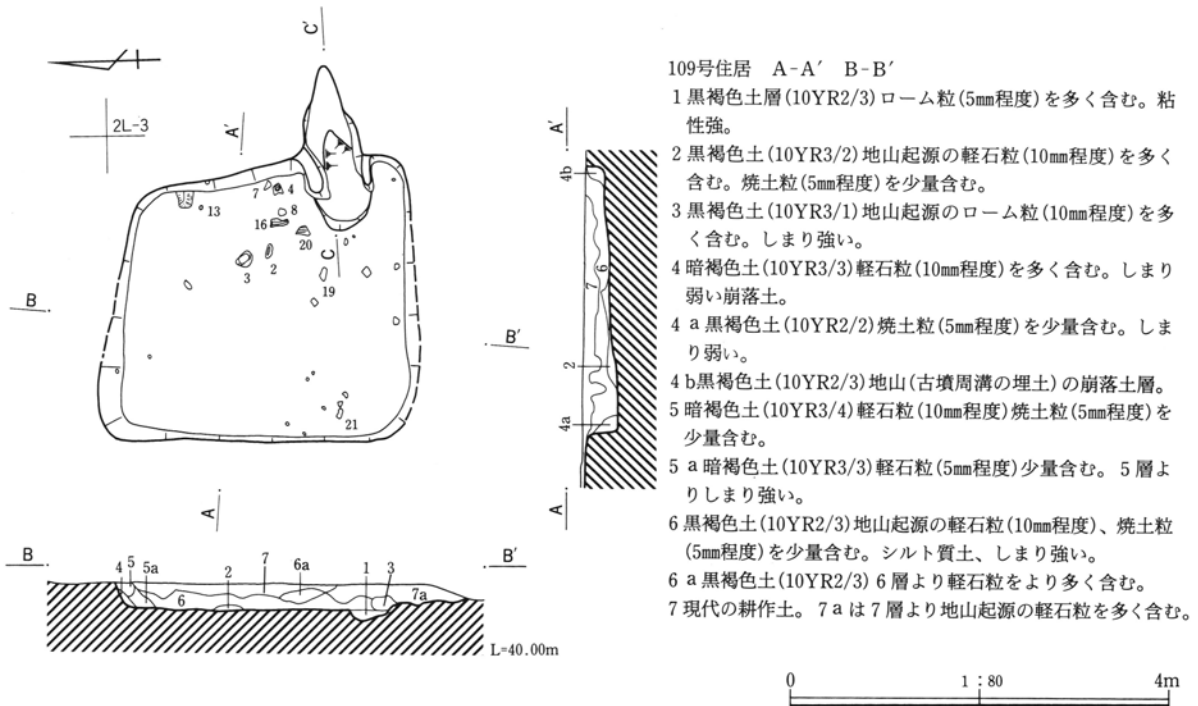
ずかに下がる。

竈 東壁南寄りに、地山を壁外にC字形に掘り込んで燃焼部を形成し、煙道を延ばしている。上位を耕作により失い、天井部はわからない。袖を住居内に短く張り出す。左袖部には袖石が残っている。燃焼部内には小礫が多いが、構造材としては認められない。埋没土中に白色粘土塊がみられるが、量的にはさほど多くない。確認長1.65m、焚き口幅40cm。

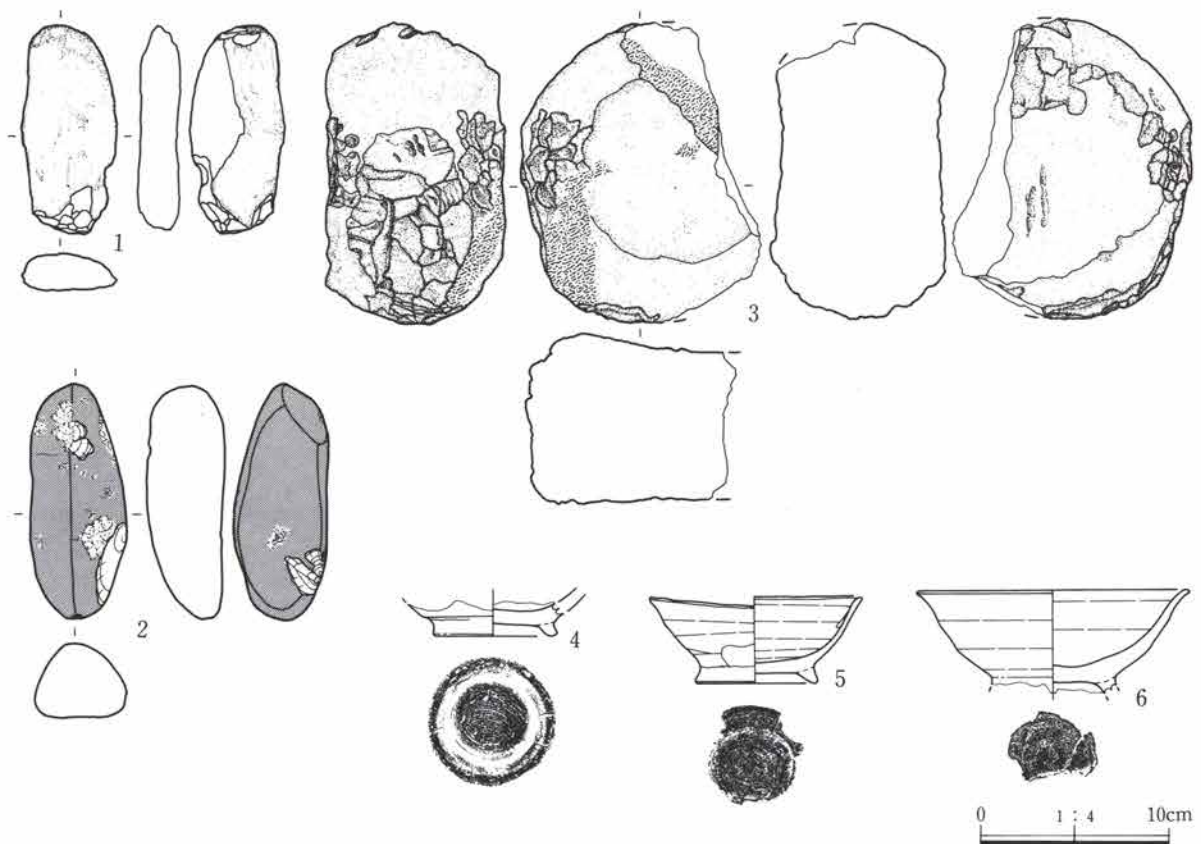
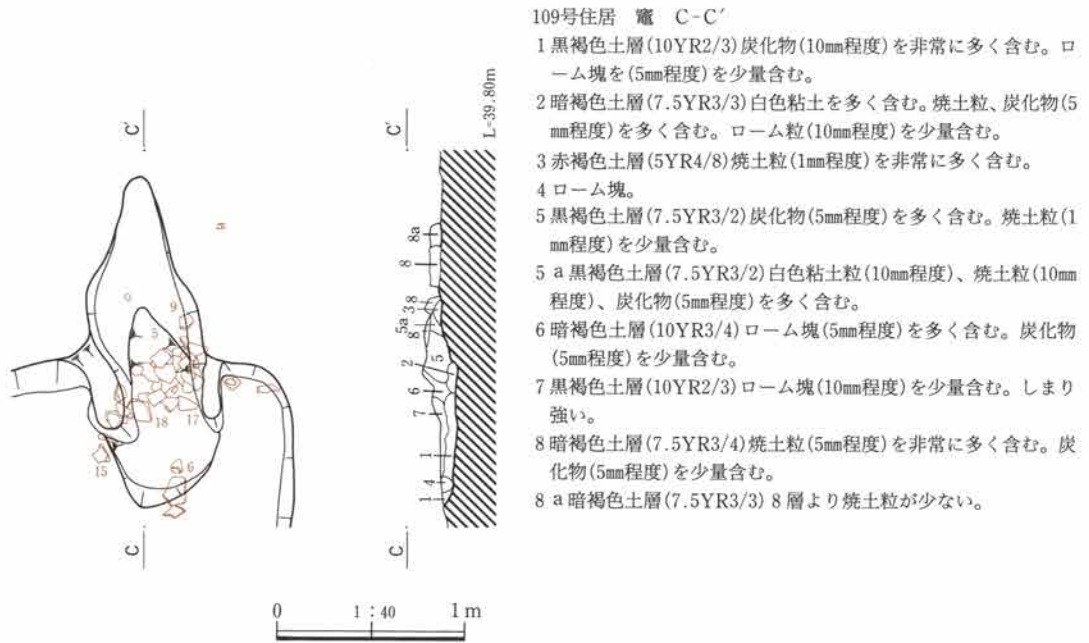
重複 周溝墓の周溝より新しい。

遺物と出土状況 竈燃焼部内から竈前面にかけて土器破片がまとまって出土している。また、住居南半部から比較的多く出土し、北西四半からはごくわずかな小破片しか出土していない。土器は還元焰焼成の高台付壺、酸化焰焼成の甕、小型甕、羽釜片、瓦質の小型甕などが出土している。また、東壁北端近くと中央東寄りの床面から棒状礫、石皿状の石などが出土している。埋没土には縄文土器片が含まれている。

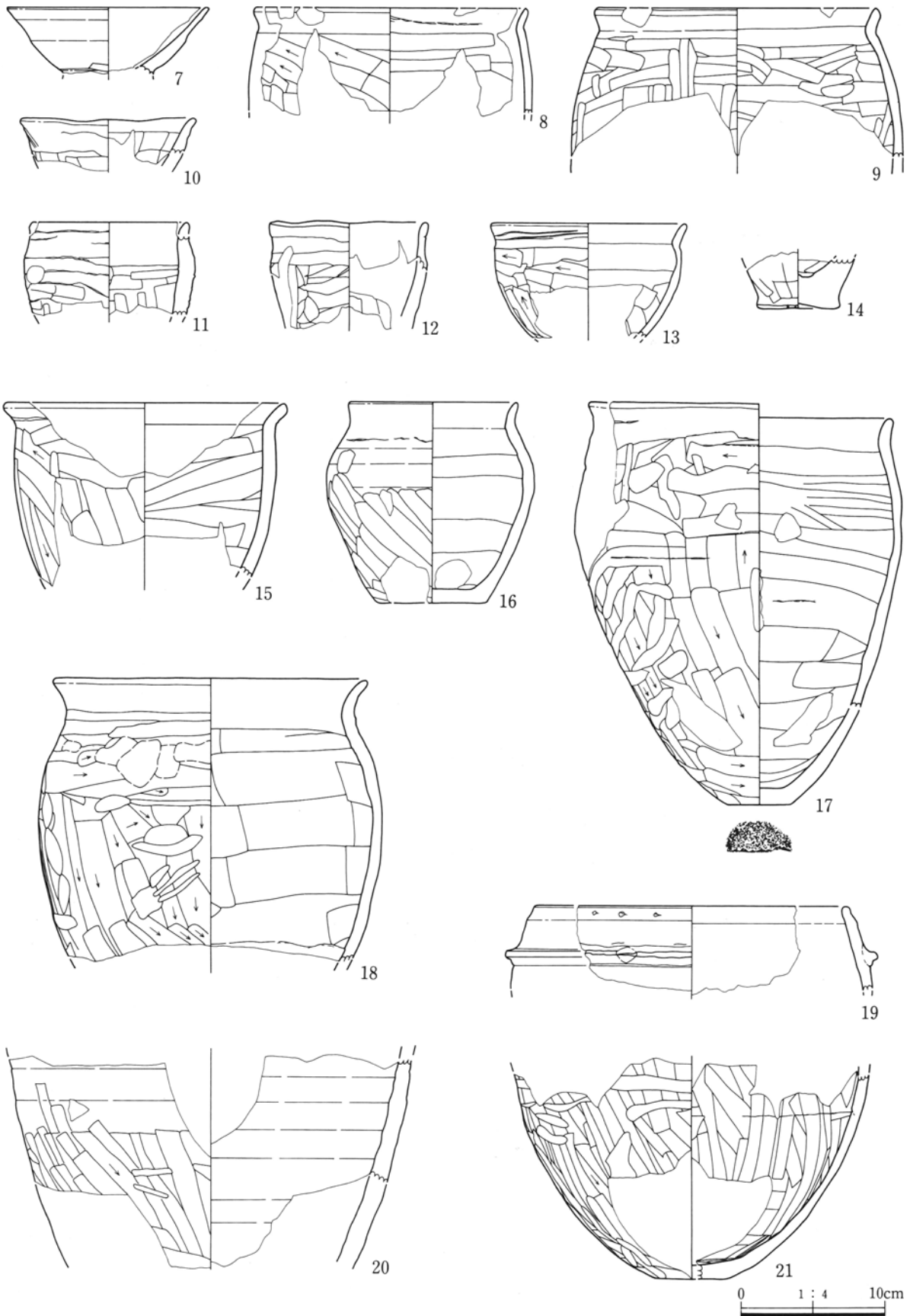
その他 平安時代(10世紀中葉)



第83図 109号住居



第84図 109号住居竈と出土遺物(1)



第85図 109号住居の出土遺物(2)

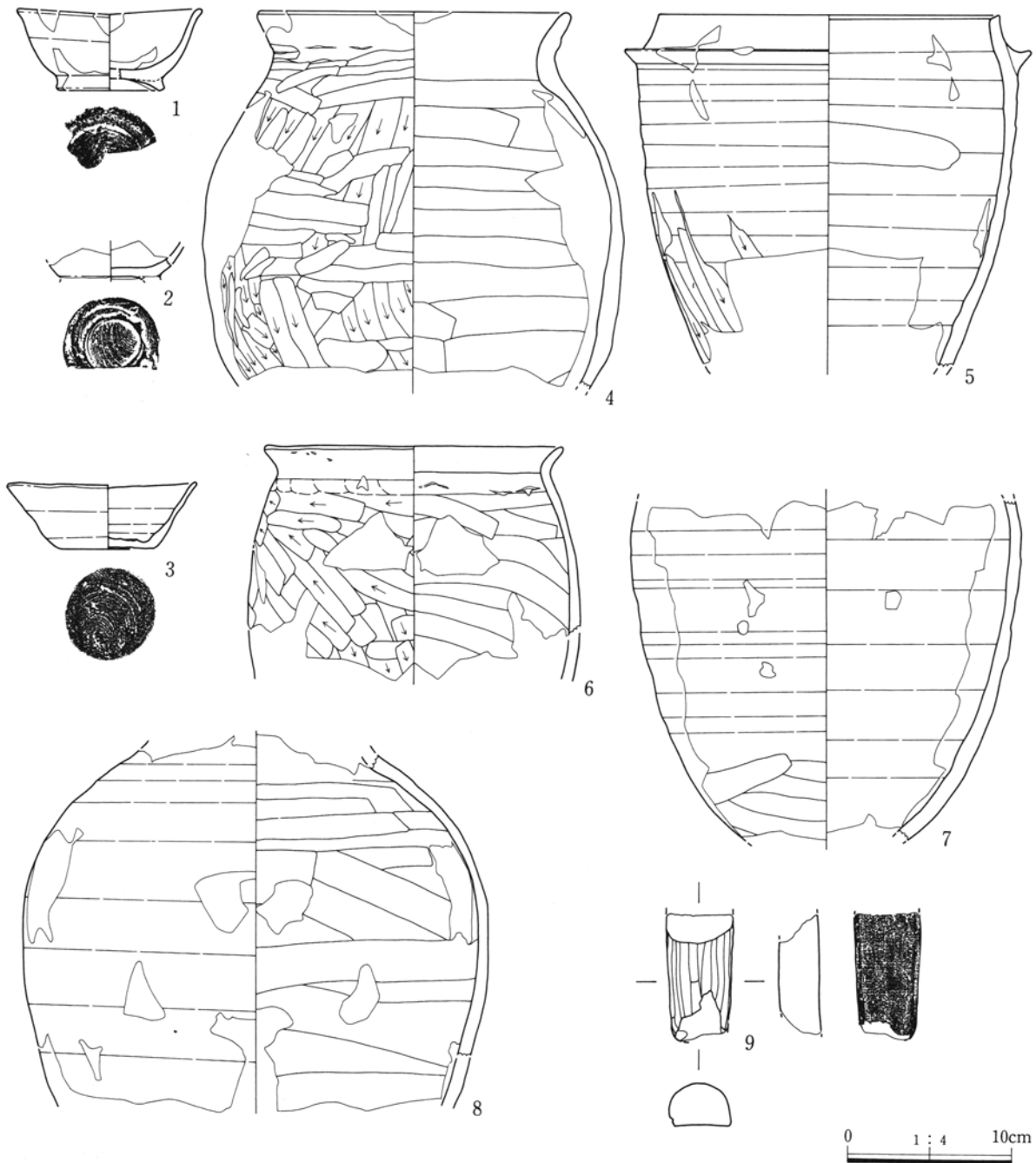
3の土師器坏と13の銅製片口鍋は並んで出土した。坏は伏位、片口は正位である。鍋には片口部から見て直角方向に3個の小孔が三角形にあいている。柄を取り付けるための止め金具がつく孔と考えられる。この鍋は銚子(さしなべ)と考えられる。詳細については第6章-1で詳述した。

4～8の土師器甕や須恵器羽釜は完形ではなく、

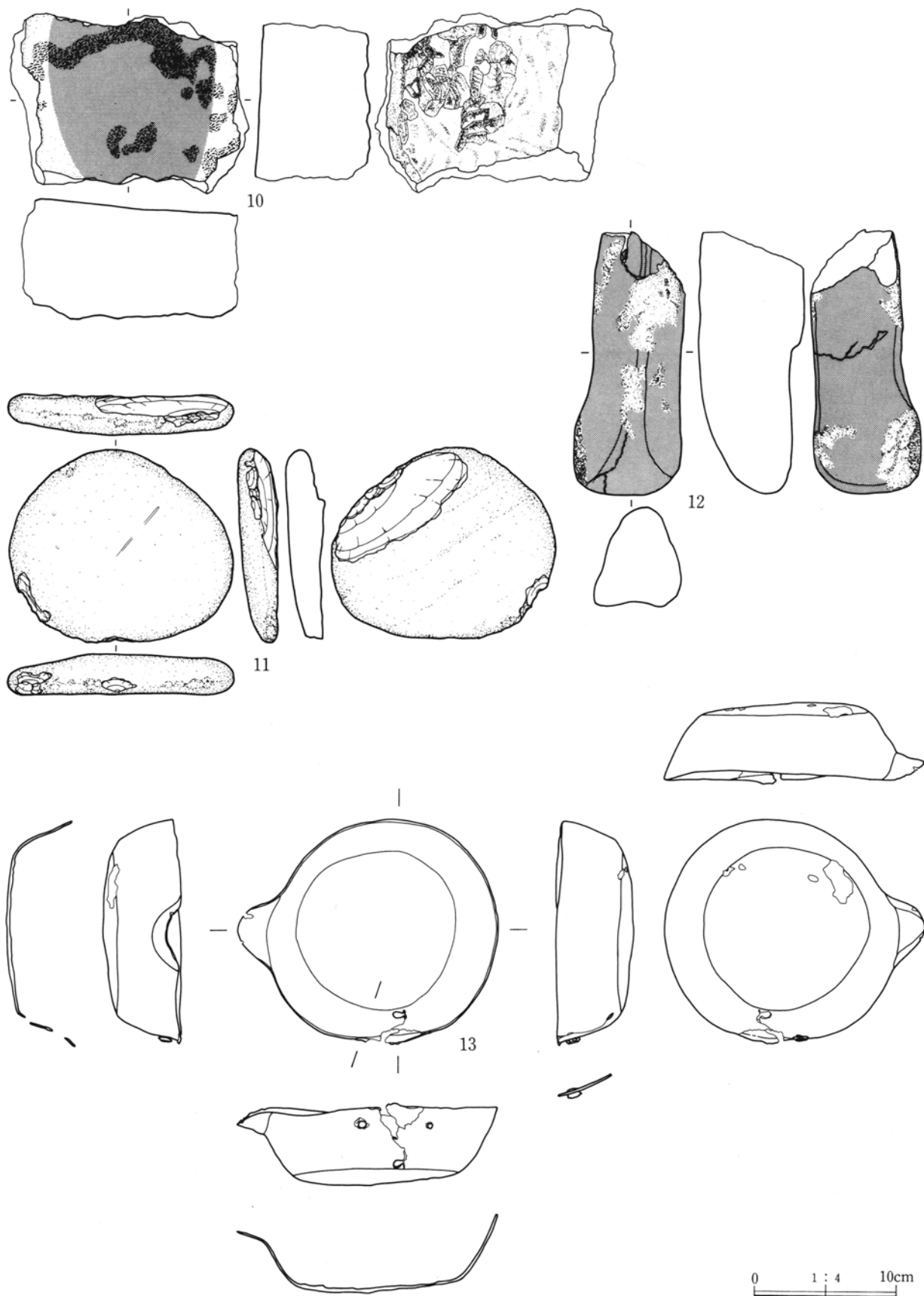
大型の破片であった。前述の坏や片口鍋と同層位で出土している。

また、角礫や円礫が多く出土したが、10や12のように炭化物が付着しているものがあった。11は円盤状の石器で用途は不明であるが、側面に敲打痕がある。

その他 平安時代(10世紀前葉)



第87図 107号住居状遺構の出土遺物(1)



第88図 107号住居状遺構の出土遺物(2)

1号住居 (第89・90図 PL29 遺物観察表P.366)

位置 A6区4I, 4J-47, 48グリッド

形状 西半部は調査区外となり、北壁の一部と東壁に囲まれた部分のみの調査にとどまったため、全体の形状は分からない。北東隅部も攪乱され、隅部の屈曲状態も不明であるが、方形ないし長方形の平面形を呈するものと考えられる。

規模 北壁確認長 3.2m 東壁確認長 4.0m

方位 N-78°-E (北壁)

柱穴・周溝・貯蔵穴 なし。

埋没土 炭化物粒、ローム粒、小礫を含む黒褐色土が床面を覆う。床直上には炭化物などが残る。

確認最大壁高及び壁の状況 18cm。わずかに上方に開くが、やや丸みを持って立ち上がり、ほぼ直立する。北壁は32号住居を切る部分に当たり、やや崩れた状態で検出された。

床面の状況及び床下施設等 やや波打つような凹凸があり、全体として南から北へわずかに下る。床上には北部を中心に炭化物が多いが、床自体が焼けている部分はない。貼り床される。掘り方は、凹凸が激しく、各所に不整形の落ち込みが見られる。

竈 東壁の調査区界近くにある。東壁のほぼ南端に近い位置にあたるものと考えられる。壁外に地山を半円形に掘り込んで燃焼部の半ばを作っている。煙道は分からない。袖はない。確認長0.78m。燃焼部は良く焼けている。

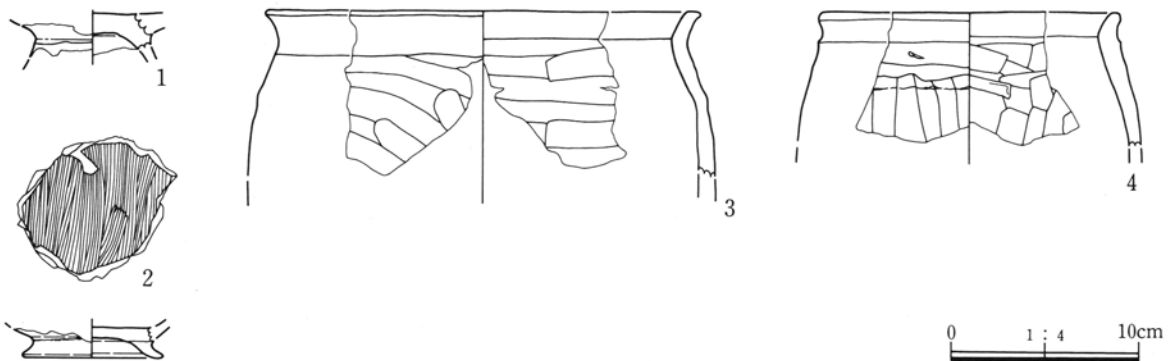


重複 32号住居より新しい。

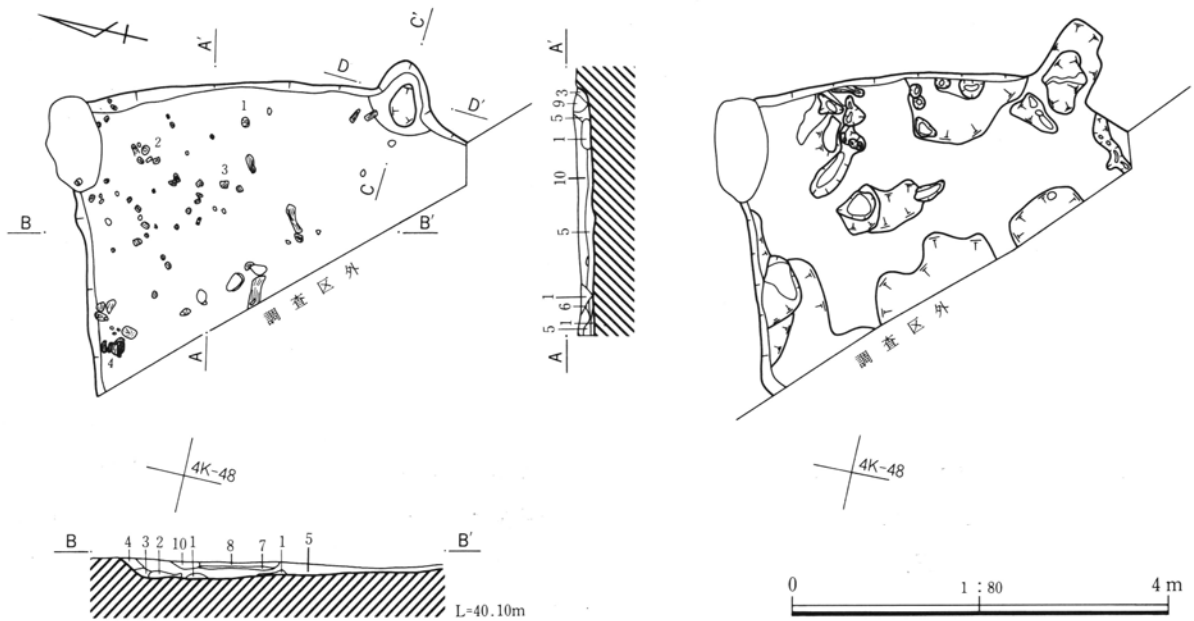
遺物と出土状況 炭化物に混じて土器片が住居全体に点在するが量は少ない。酸化焰焼成の甕の小破片が多く、高台付埴もある。完形ないしこれに近いものはない。

床面直上の炭化物は住居北部を中心に多量に見られるのだが、南部の竈周辺には比較的少ない。クヌギ節樹木の丸材、割材などに混じてササ類や草本が束状に出土する場所も認められる。北壁東部際では炭化物の間に、きめの細かい焼土が挟まれた状態が見られる。この焼土中にはカヤなどの炭化物が含まれている。なお炭化物の詳細については第5章及び第6章を参照されたい。

その他 平安時代(10世紀後葉)

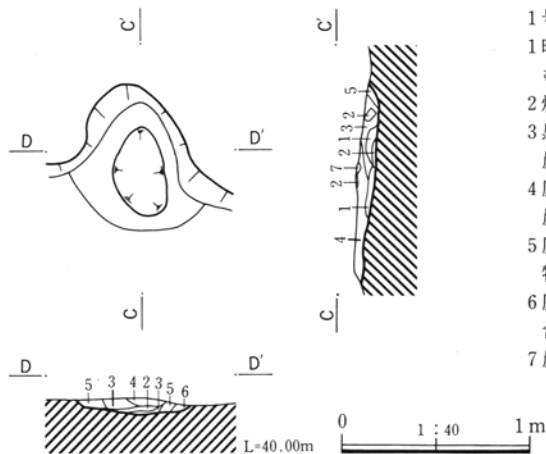


第89図 1号住居の出土遺物



1号住居 A-A' B-B'

- 1 炭化物。
- 2 におい黄橙色土(10YR6/4)炭化物粒なし。焼土粒少量、ローム塊60%含む。しまり・粘性なし。ポロポロ。粒やや粗。
- 3 暗褐色土(10YR3/4)炭化物粒・ローム粒少量含む(4層より多い)。しまり・粘性なし。粒やや密。
- 4 褐色土(10YR4/4)炭化物粒・ローム粒少量含む。しまり・粘性弱い。粒やや密。
- 5 黒褐色土(10YR3/1)炭化物粒・ローム粒・小礫(5mm)を少量含む。焼土粒僅かに含む。しまり・粘性ややあり。粒やや密。
- 6 焼土。
- 7 灰黄褐色土(10YR4/2)10層に類似。炭化物含む。焼土粒が10層より強い。
- 8 灰黄褐色土(10YR4/2)10層に類似。炭化物含む。
- 9 3層に類似。焼土わずかに含む。
- 10 灰黄褐色土(10YR4/2)炭化物粒なし。しまり・粘性ややあり。粒やや密。焼土粒少量含む。ロームなし。



1号住居 竈 C-C' D-D'

- 1 暗褐色土(10YR3/3)しまり・粘性ややあり。粒やや密(II層を含む)。炭化物粒20%、焼土粒10%含む。
- 2 焼土(よく焼けている)
- 3 黒褐色土(7.5YR3/2)しまり・粘性あり。粒やや密(シルト質)、炭化物10%、焼土10%、灰をわずかに含む。
- 4 灰黄褐色土(10YR4/2)しまりややあり。粘性なし。粒密(砂質)。炭化物粒わずかに含む。焼土なし。
- 5 灰褐色土(7.5YR4/2)しまり・粘性あり、粒密(シルト質)、炭化物なし、焼土塊40%含む。
- 6 灰褐色土(7.5YR4/2)しまり・粘性ややあり。粒やや粗(II層を含む)。炭化物粒10%、焼土粒10%含む。
- 7 炭化物。

第90図 1号住居

2号住居

(第91~93図 PL29・30・138・139 遺物観察表P.366)

位置 A6区4I, 4J-48, 49グリッド

形状 南北に長い横長長方形の平面形を呈する。北東隅部は比較的丸みが少なく屈曲するが、他の三隅は丸みを持って屈曲する。

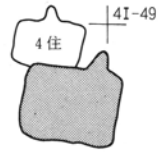
規模 長辺4.07m 短辺 3.13m 面積 11.14m²

方位 N-99°-E

柱穴 なし。

周溝 床面では認められないが、掘り方では北半部にのみコの字状にめぐる。

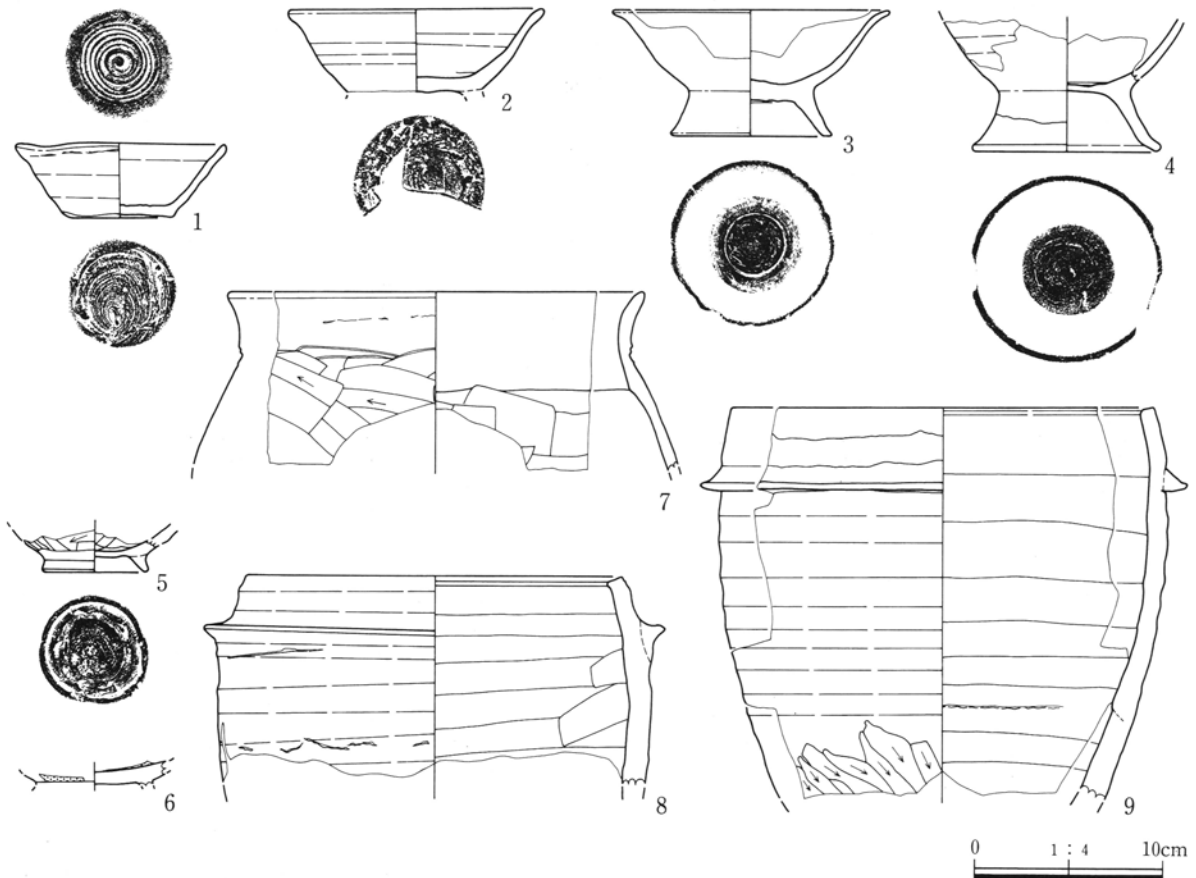
貯蔵穴 北東隅にある土坑が相当すると思われる。長径1.1m、短径0.8mほどのゆがんだ楕円形の平面形を呈し、深さは36cmほどある。しかし、出土土器は住居出土土器より新しい様相を呈するよう見え、住居に伴う貯蔵穴として断定することができない。



埋没土 地山である黄色の砂質土を多く含み、Hr-FPかと思われる白色軽石粒や、焼土粒を少量含む暗褐色土の単一層でほぼ埋まっている。北壁際の埋没土には白色粘土が少量混じる。

確認最大壁高及び壁の状況 32cm。わずかに上方に開くが、やや丸みを持って立ち上がり、ほぼ直立する。

床面の状況及び床下施設等 全体にわずかな凹凸がある。東側から西側に向けてわずかに低くなる。掘り方上に黒褐色土を乗せて貼り床としており、貼り床土は良くしまっている。掘り方では、北半部にコ



第91図 2号住居の出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

の字状にめぐる周溝状の掘り込みがあり、南西隅にも不整なL字形に掘り込まれた部分がある。竈手前にも円形の掘り込みがあって、この中から土器片が出土している。西南隅の掘り方のうち、西壁際には焼土と炭化物の層が見られる。

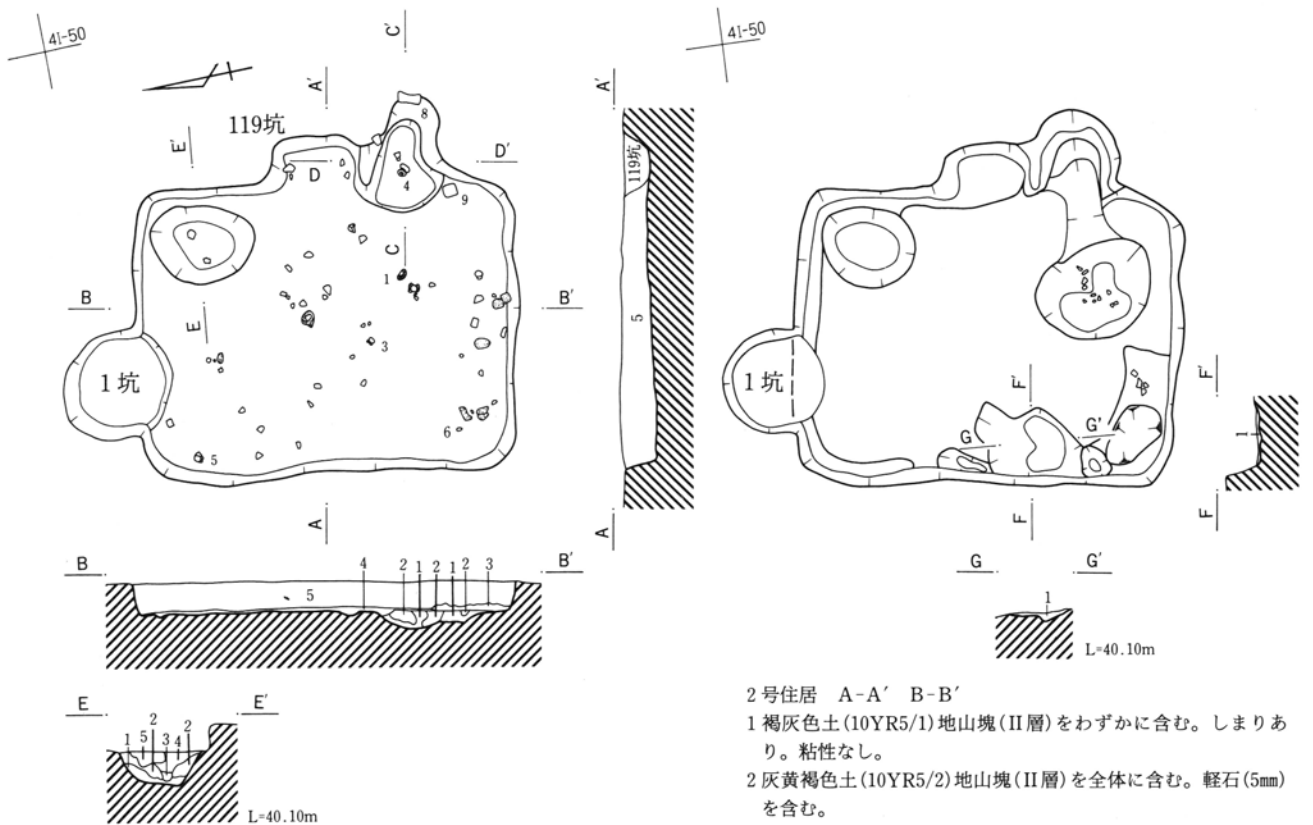
竈 東壁南寄りを壁外に半円形に掘り込んで燃焼部を作り、煙道を延ばす。袖部はあまり良好な状態で残っておらず、左側では地山をわずかに袖状に削り残したかに見えるが、右袖はほとんど破壊されており、はっきりしない。燃焼部左壁の一部と右奥部には白色粘土が貼られ、埋没土にも構築材に用いられたと考えられる粘土が含まれる。煙道部からは、羽

釜の比較的大きな破片が出土している。確認長1.25m、燃焼部幅40cm。

重複 4号住居・1号土坑より新しい。119号土坑より古い。

遺物と出土状況 竈内およびその周辺に集中する。竈内からは羽釜片がまとまって出土した。その他、住居全体に坏、埴類の土器片や棒状礫、角礫が散在しているが、特定の分布傾向を読みとることはできない。掘り方では、竈前部の土坑状掘り込み中と南壁中央部に土器破片がまとまって出土する部分があった。

その他 平安時代（10世紀中葉）



- 2号住居 貯蔵穴 E-E'
- 1 軽石塊(20~50mm)を多く含む黒褐色土。
 - 2 軽石塊(20~40mm)・軽石粒(2~5mm)を多く含む茶褐色土。
 - 3 塊(10~30mm)・軽石粒(2mmほど)を含む暗褐色土。
 - 4 塊(10~20mm)・軽石粒(2~5mm)を少量含む暗褐色土。
 - 5 軽石(10~20mm)・軽石粒(2~5mm)を含む茶褐色土。やや砂質。

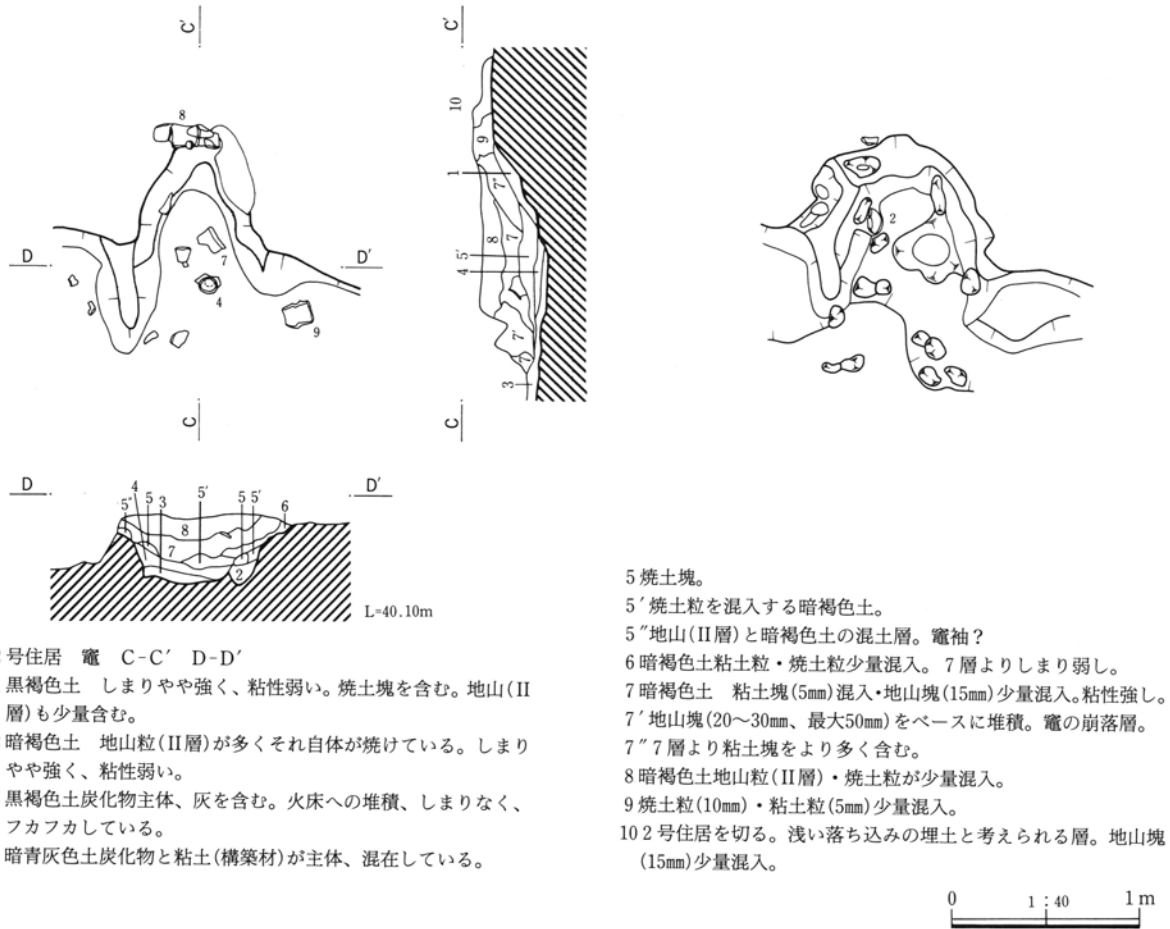
- 2号住居 西壁際セクション F-F' G-G'
- 1 軽石粒(10~20mm)・炭化物粒・少量の焼土粒を含む。

2号住居 A-A' B-B'

- 1 褐灰色土(10YR5/1)地山塊(II層)をわずかに含む。しまりあり。粘性なし。
- 2 灰黄褐色土(10YR5/2)地山塊(II層)を全体に含む。軽石(5mm)を含む。
- 3 暗褐色土(10YR3/4)竈構築材の粘土を少し含む。
- 4 褐灰色土(10YR5/1)地山塊(II層)をわずかに含む。粘性はあまりないが、よく固まっている。
- 5 暗褐色土(10YR3/4)黄色砂質土塊(5~30mm II層)を多く含む。白色軽石・焼土粒を少し含む。全体に下層ほどしまる。

0 1:80 4m

第92図 2号住居



2号住居 竈 C-C' D-D'

- 1 黒褐色土 しまりやや強く、粘性弱い。焼土塊を含む。地山(II層)も少量含む。
- 2 暗褐色土 地山粒(II層)が多くそれ自体が焼けている。しまりやや強く、粘性弱い。
- 3 黒褐色土炭化物主体、灰を含む。火床への堆積、しまりなく、フカフカしている。
- 4 暗青灰色土炭化物と粘土(構築材)が主体、混在している。

- 5 焼土塊。
- 5' 焼土粒を混入する暗褐色土。
- 5'' 地山(II層)と暗褐色土の混土層。竈袖?
- 6 暗褐色土粘土粒・焼土粒少量混入。7層よりしまり弱し。
- 7 暗褐色土 粘土塊(5mm)混入・地山塊(15mm)少量混入。粘性強し。
- 7' 地山塊(20~30mm、最大50mm)をベースに堆積。竈の崩落層。
- 7'' 7層より粘土塊をより多く含む。
- 8 暗褐色土地山粒(II層)・焼土粒が少量混入。
- 9 焼土粒(10mm)・粘土粒(5mm)少量混入。
- 10 2号住居を切る。浅い落ち込みの埋土と考えられる層。地山塊(15mm)少量混入。

0 1:40 1m

第93図 2号住居竈

3号住居 (第94図 PL30・31・139 遺物観察表P.366)

位置 A6区4G, 4H-45, 46グリッド

形状 やや南北に長い、ゆがんだ横長長方形の平面形を呈する。南北両壁はわずかながら膨らみを持っている。上部の削平が著しい。

規模 長辺 3.16m 短辺 2.56m 面積 6.73㎡

方位 N-122°-E

柱穴・周溝 なし。

貯蔵穴 竈右手にあたる、南壁東端近くにある。直径70cm、深さ27cmほどの規模で、ゆがんだ円形の平面形を呈する。

確認最大壁高及び壁の状況 9cm。

床面の状況及び床下施設等 わずかな凹凸はあるが、ほぼ平らに仕上げられている。掘り方では、南東部

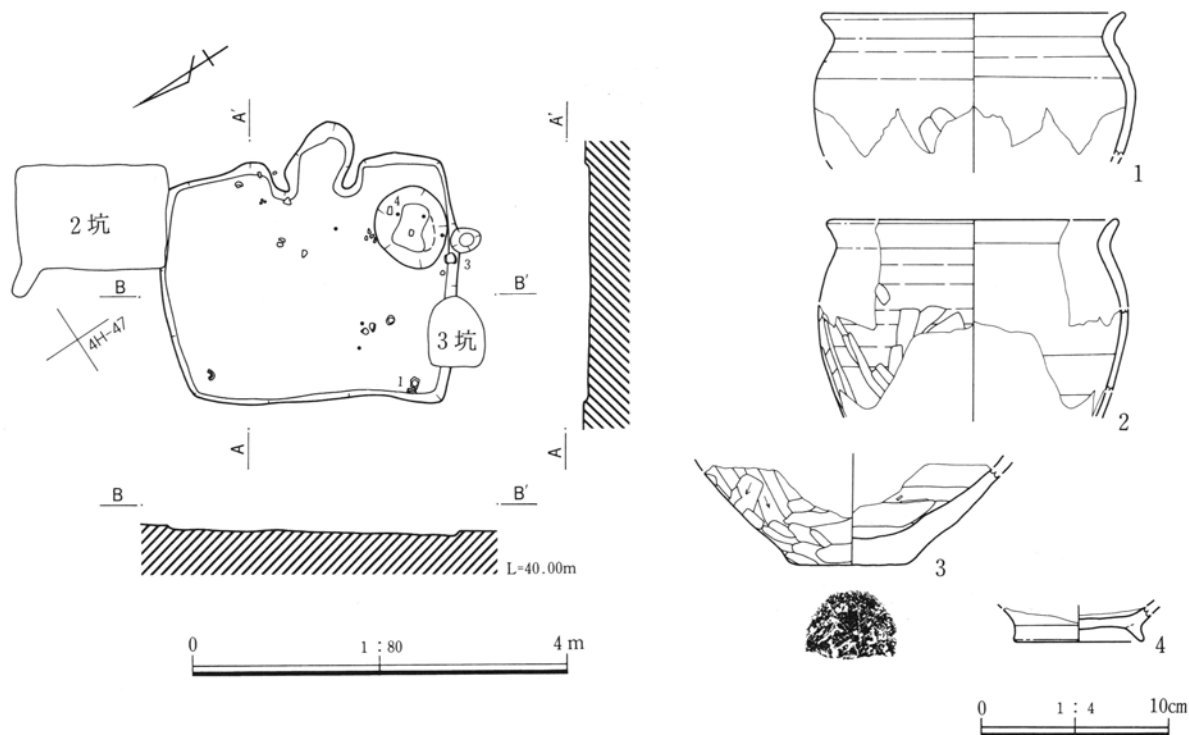
を中心に広い掘り込みがみられ、全体に細かい凹凸も多い。東壁際と北西隅、西壁中央に溝状の掘り込みが残っている。

竈 東壁のほぼ中央を、壁外に半円形からU字形に掘り込んで燃焼部を作っている。煙道は残存が悪く、はっきりと分からない。左右の袖は地山を掘り残して、短く、やや燃焼部に向けてすぼまるように作られている。確認長 0.8m、焚き口幅 38cm。

重複 2号土坑、3号土坑より古い。

遺物と出土状況 遺物数は少ない。竈左手と南西隅部に土師器の甕などの土器片が少数ながらまとまる部分がある。

その他 平安時代(10世紀前葉)



第94図 3号住居と出土遺物

4号住居 (第95図 PL31・139 遺物観察表P.366)

位置 A6区4H, 4I-49, 50グリッド

形状 上面が削られ、全体の形状を把握することはできなかった。東壁の竈周辺と、北東隅にあたるかと思われる貯蔵穴の調査にとどまったが、埋没土の分布範囲から見て、南北に長い横長長方形の平面形であろうと思われる。南西部は2号住居に切られているものとみられる。

規模 南北辺推定長 2.9m 東西辺推定長 1.9m

方位 N-102°-E (竈)

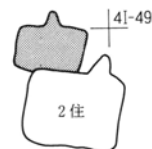
柱穴 なし。

周溝 確認できない。

貯蔵穴 東壁北端にある土坑が貯蔵穴に相当するものと思われる。直径44cm、深さ38cmほどの規模で、円形ないし隅丸方形の平面形を呈する。

埋没土 ローム粒、白色粘土粒を多量に混入する黒褐色土が住居範囲を示すものと考えられる。この下に焼土粒を含む部分がある。

確認最大壁高及び壁の状況 6cm。竈周辺を除き、



明確にとらえられない。

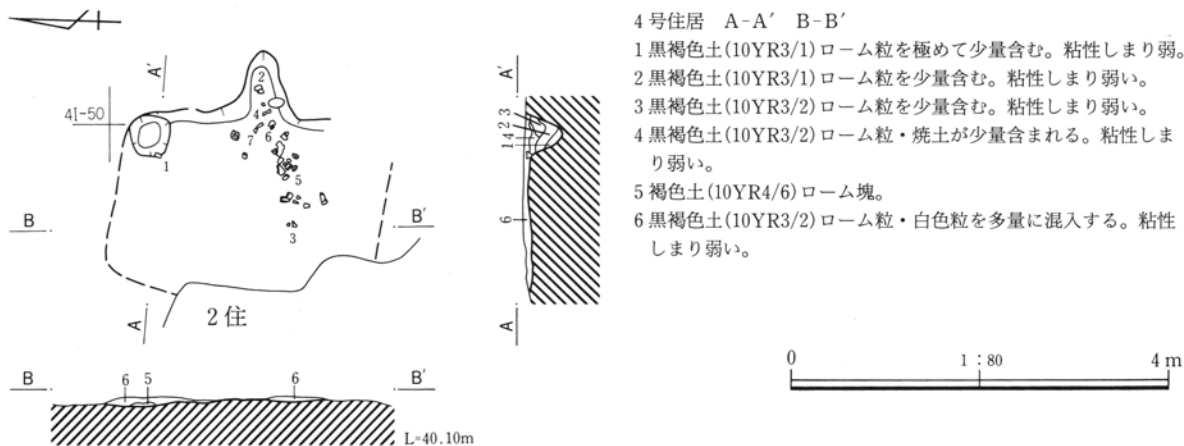
床面の状況及び床下施設等 緩やかに波打つ。貼り床はないものと思われる。

竈 住居埋没土の分布範囲から見ると東壁のほぼ中央にあたる。壁外に向けてU字形に掘り込んで燃焼部を作っている。煙道部は削平されて確認できない。袖も確認できない。

重複 2号住居より古い。

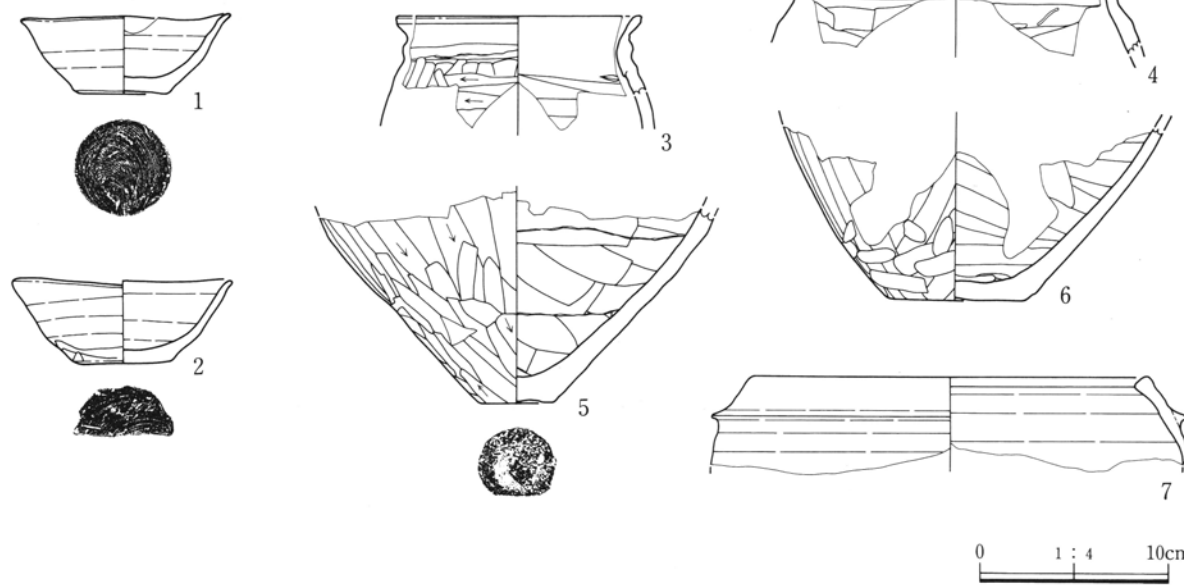
遺物と出土状況 竈前部から羽釜、甕、坏などの破片が比較的まとまって出土している。

その他 平安時代(10世紀前葉)



4号住居 A-A' B-B'

- 1 黒褐色土(10YR3/1)ローム粒を極めて少量含む。粘性しまり弱。
- 2 黒褐色土(10YR3/1)ローム粒を少量含む。粘性しまり弱い。
- 3 黒褐色土(10YR3/2)ローム粒を少量含む。粘性しまり弱い。
- 4 黒褐色土(10YR3/2)ローム粒・焼土が少量含まれる。粘性しまり弱い。
- 5 褐色土(10YR4/6)ローム塊。
- 6 黒褐色土(10YR3/2)ローム粒・白色粒を多量に混入する。粘性しまり弱い。



第95図 4号住居と出土遺物

5号住居

(第96~98図 PL31・32・139・140 遺物観察表P.367)

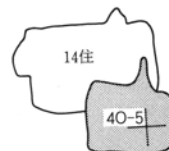
位置 A6区4N, 4O-4,5グリッド

形状 南北に長い横長長方形の平面形を呈する。南東隅部を大きく土坑状の攪乱に切られているため、南辺は正確に把握できない。北東部で14号住居を切る。北壁の両隅はやや丸みを持って屈曲し、南西隅は緩やかな丸みを持つ。

規模 長辺 3.76m 短辺 2.92m 面積 9.42m²

方位 N-97°-E

柱穴・周溝・貯蔵穴 なし。



埋没土 全体として炭化物を多く含む褐色土で埋没する。壁際も水平に近い堆積状態を示す。

確認最大壁高及び壁の状況 40cm。わずかに上方に開くが、丸みをあまり持たずに立ち上がり、ほぼ直立する。

床面の状況及び床下施設等 ほぼ平らだが、壁際でやや低くなる。シルト質の灰黄褐色土で床が貼られ

第3章 検出された遺構と遺物

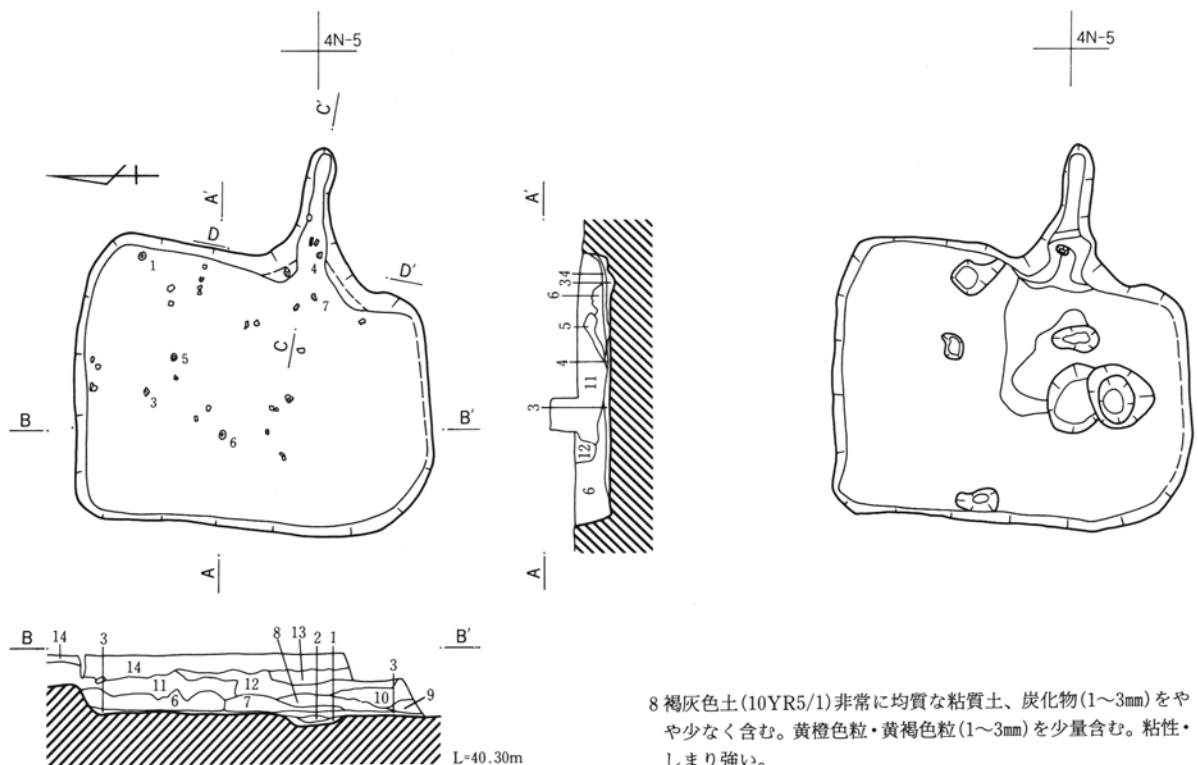
る。掘り方は細かい凹凸はあまりないが、竈前が広く窪み、南半中央部に土坑状の掘り込みが2基重なる。南側の掘り込みは深く、埋没土の中～上位に炭化物、焼土を含む。

竈 東壁南寄り壁外にV字形に掘り込んで燃焼部を作り煙道を延ばす。煙道は壁外に長く張り出す。袖は地山を掘り残したもので小さく短い。左袖部には袖石が残り、燃焼部中央にも垂角礫がある。埋没土には構築材に用いられたと考えられる灰白色粘質土塊が多く見られる。

重複 14号住居より新しい。

遺物と出土状況 竈内及び住居北半に羽釜、小形の環が散在する。焼失住居であり、多量の炭化した植物質遺物が見られる。土器は出土量が少ない。炭化物、土器ともに竈中軸線より北側に集中する。炭化物にはコナラ節、クヌギ節の材とササ類や草本などが見られるほか、ケヤキ材や編物に入ったかに見えるシソ近似種の種子などがある。炭化物の詳細については第5章及び第6章を参照されたい。

その他 平安時代(11世紀前葉)

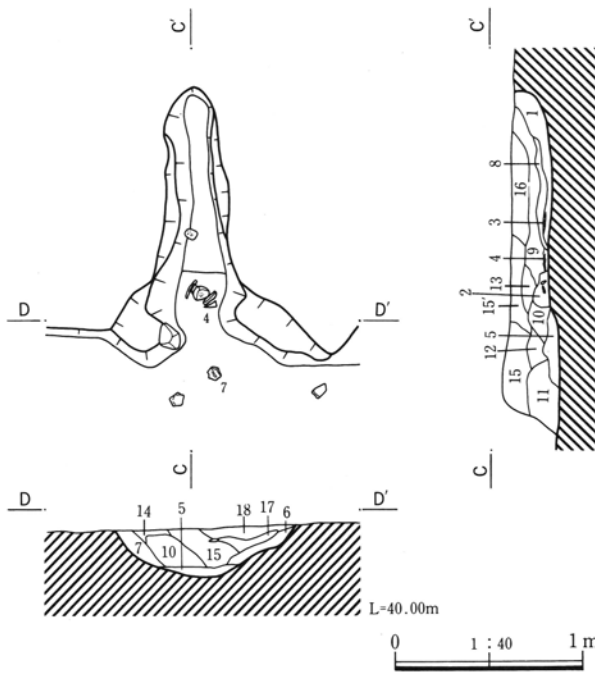


5号住居 A-A' B-B'

- 1 灰黄褐色土(10YR5/2)炭化物・焼土含まない。土器片含む。粘性弱く、しまり強い。
- 2 褐色土(7.5YR5/1)炭化物・焼土を細かい粒で含む。粘性弱く、しまりやや強い。石・剝片を多く含む。
- 3 灰黄褐色土(10YR6/2)炭化物・焼土含まない。粘性弱く、しまりやや強い。シルト質。
- 4 褐色土(10YR6/1)炭化物を多量に含む。粘性・しまりやや強い。焼土わずかに含む。シルト質。
- 5 褐色土(10YR4/1)炭化物を多量に含む。粘性・しまりやや弱。
- 6 褐色土(10YR4/1)炭化物を多量に含む。粘性・しまりやや弱。
- 7 褐色土(10YR5/1)炭化物(3~5mm)をやや多く含む、下部には灰を若干含む。粘性やや強い(8層よりはかなり劣る)。

- 8 褐色土(10YR5/1)非常に均質な粘質土、炭化物(1~3mm)をやや少なく含む。黄褐色粒・黄褐色粒(1~3mm)を少量含む。粘性・しまり強い。
- 9 褐色土(10YR6/1)10層とよく類似するが、炭化物の混入量が大きくなる。粘性・しまり強い。
- 10 褐色土(10YR6/1)炭化物(1~2mm)を少量含む。黄褐色粒(1mm以下)を少量含む。粘性・しまり強い。
- 11 褐色土(10YR5/1)炭化物(1~10mm)をやや多く(12層よりさらに多く)含む。黄褐色粒(1~5mm)・焼土を含む。粘性・しまりやや強い(12~14層より弱い)。
- 12 褐色土(10YR5/1)炭化物(1~3mm)をやや多く、黄褐色粒(1~2mm)を14層よりさらに少なく含む。粘性・しまり14層よりやや強い。
- 13 褐色土14層よりやや暗い色調を呈する。砂粒・黄褐色粒(0.5~2・3mm)、焼土粒(1~3mm)を14層よりやや少なく含む。粘性・しまり強い。
- 14 褐色土(10YR6/1)炭化物(0.5~15mm)・黄褐色粒(1~3mm)・砂粒(0.5~1mm前後)をやや多く含む。粘性・しまり強い。

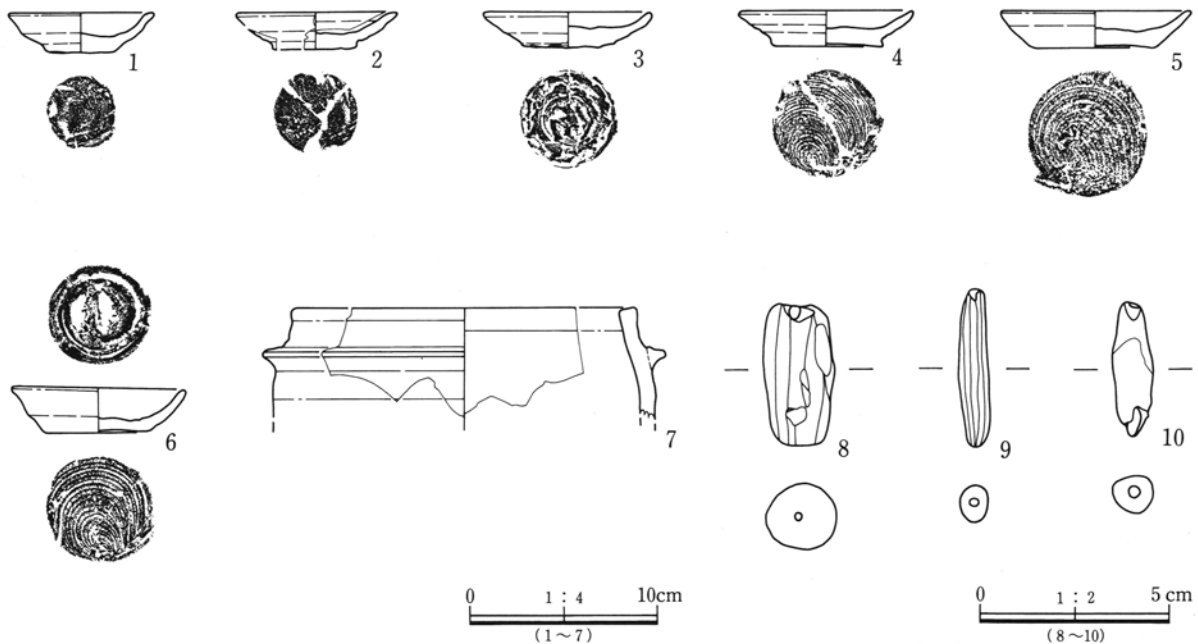
第96図 5号住居



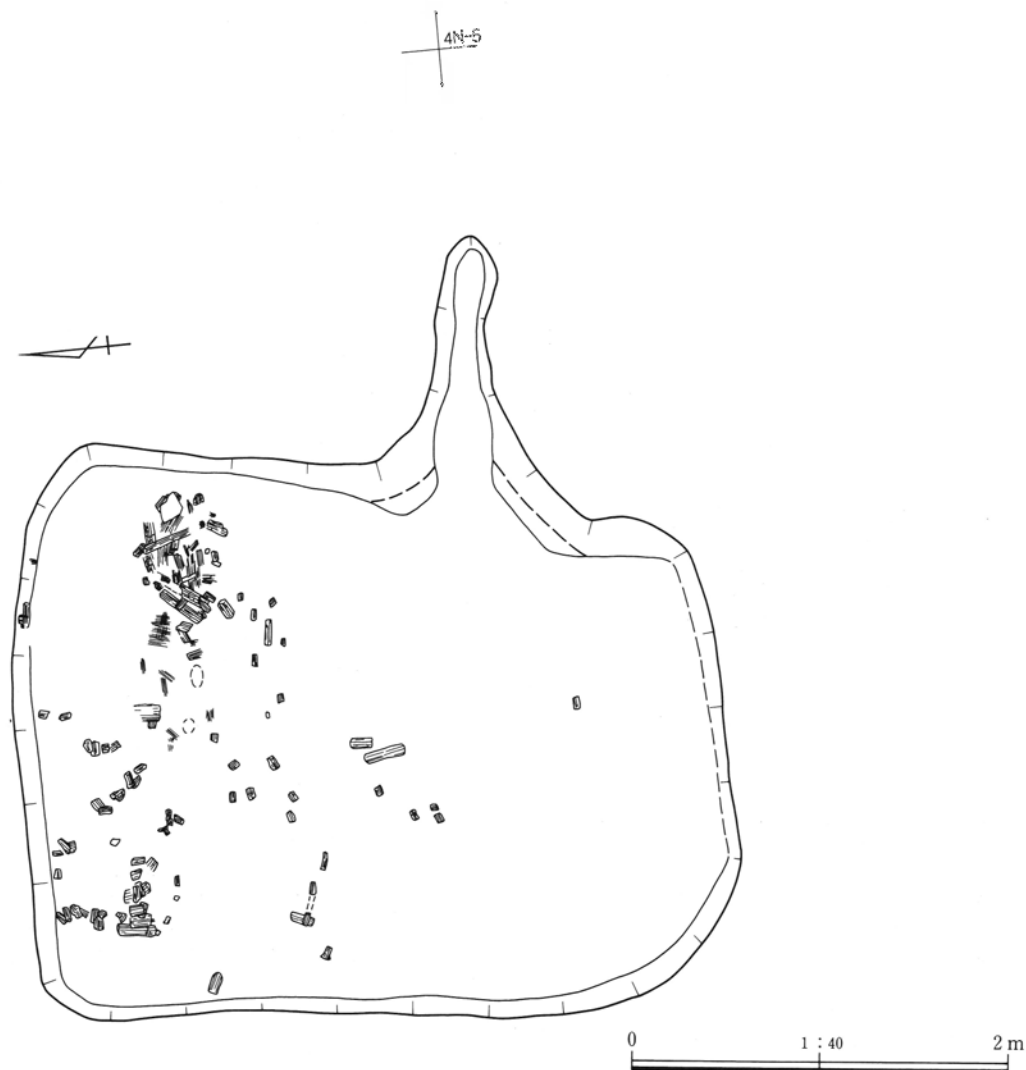
5号住居 竈 C-C' D-D'

- 1 褐灰色土(10YR4/1)炭化物塊含まない。赤褐色焼土粒をごく少量含む。粘性やや強く、しまり弱い。粒やや粗。
- 2 褐灰色土(7.5YR4/1)炭化物塊(1~5mm)やや多く含み、焼土塊を多く含む。この層より支脚と思われる石が検出されている。焼土がかなり固くしまっている。土器片含む。粘性弱く、しまりやや強い。粒やや密。

- 3 炭化物。
- 4 灰。
- 5 褐灰色土(10YR4/1)焼土・灰白色粘質土塊(5mm前後)をやや多く含む。炭化物・灰をを多量に含む。
- 6 褐灰色土(10YR5/1)灰白色粘質土塊(0.5~5mm)・赤褐色焼土粒(0.5~2mm)をやや多く含む。炭化物(1~2mm)を少量含む。
- 7 褐灰色土(10YR5/1)黄褐色粒(0.5~1.2mm)、炭化物(1~2mm)を微量含む。
- 8 明赤褐色土(5YR5/8)赤褐色焼土粒を多量に含む。炭化物がラミナ状に含まれている。粘性やや強く、しまりやや弱い。粒やや密。
- 9 褐灰色土(10YR4/1)炭化物塊(1~2mm)ごく少量、赤褐色焼土粒を微量含む。灰がラミナ状に一部含まれている。粘性ややあり。しまり弱く、粒やや密。
- 10 灰白色土(10YR8/2)灰白色粘質土の大きな塊と炭化物・焼土塊(1~5mm)の互層。粘性・しまり弱い。
- 11 褐灰色土(10YR4/1)炭化物塊(3~30mm)をやや多く含む。粘性・しまり強い。
- 12 褐灰色土(10YR4/1)灰白色粒・赤褐色焼土粒・炭化物(1~3mm)を少量含む。粘性、しまりやや強い。
- 13 におい褐色土(7.5YR5/3)炭化物塊(1~2mm)ごく少量、焼土塊を多く含む。粘性なし。しまりやや強い。粒密。
- 14 褐灰色土(10YR5/1)赤褐色焼土粒(0.5~2.3mm)を少量、炭化物(1~2mm)をごく少量含む。
- 15 褐灰色土(10YR4/1)灰白色土塊(1~3mm)・赤褐色粒(1~2mm)を少量含む。炭化物・焼土の粒(1~3mm)を若干含む。粘性・しまり強い。
- 15' 15層に類似、15層よりはりが無い。
- 16 褐灰色土(10YR5/1)炭化物塊(1~2mm)・灰をごく少量、赤褐色焼土粒を少量含む。粘性なし。しまりやや強い。粒密。
- 17 褐灰色土(10YR5/1)炭化物塊(10~20mm)を少量含む。微細な砂粒(0.5~1mm)をごく少量含む。粘性・しまり強い。
- 18 褐灰色土(10YR5/1)炭化物塊(1~2mm)極少量、黄褐色粒(0.5~1mm)、赤褐色粒(1mm前後)を少量含む。粘性・しまりやや強い。



第97図 5号住居竈と出土遺物



第98図 5号住居の炭化材出土状況

6号住居 (第99図 PL33・140 遺物観察表P.367)

位置 A6区40,4P-5,6グリッド

形状 東西に長い縦長長方形の平面形を呈する。北西隅から南東隅にかけて試掘調査時のトレンチが入るため、この両隅部は失われているが、他の2隅は丸みを持たずに屈曲する。

規模 長辺 3.6m 短辺 3.15m 面積 10.02㎡

方位 N-102°-E

柱穴・周溝・貯蔵穴 なし。

埋没土 細かい砂礫や焼土、炭化物粒を含む褐灰色土が床面を覆う。埋没土上位は夾雑物の少ない均質な褐灰色土である。

確認最大壁高及び壁の状況 24cm。わずかに上方に開くが、やや丸みを持って立ち上がり、ほぼ直立する。

床面の状況及び床下施設等 ほぼ平らに仕上げられ、凹凸はほとんどない。貼り床はない。

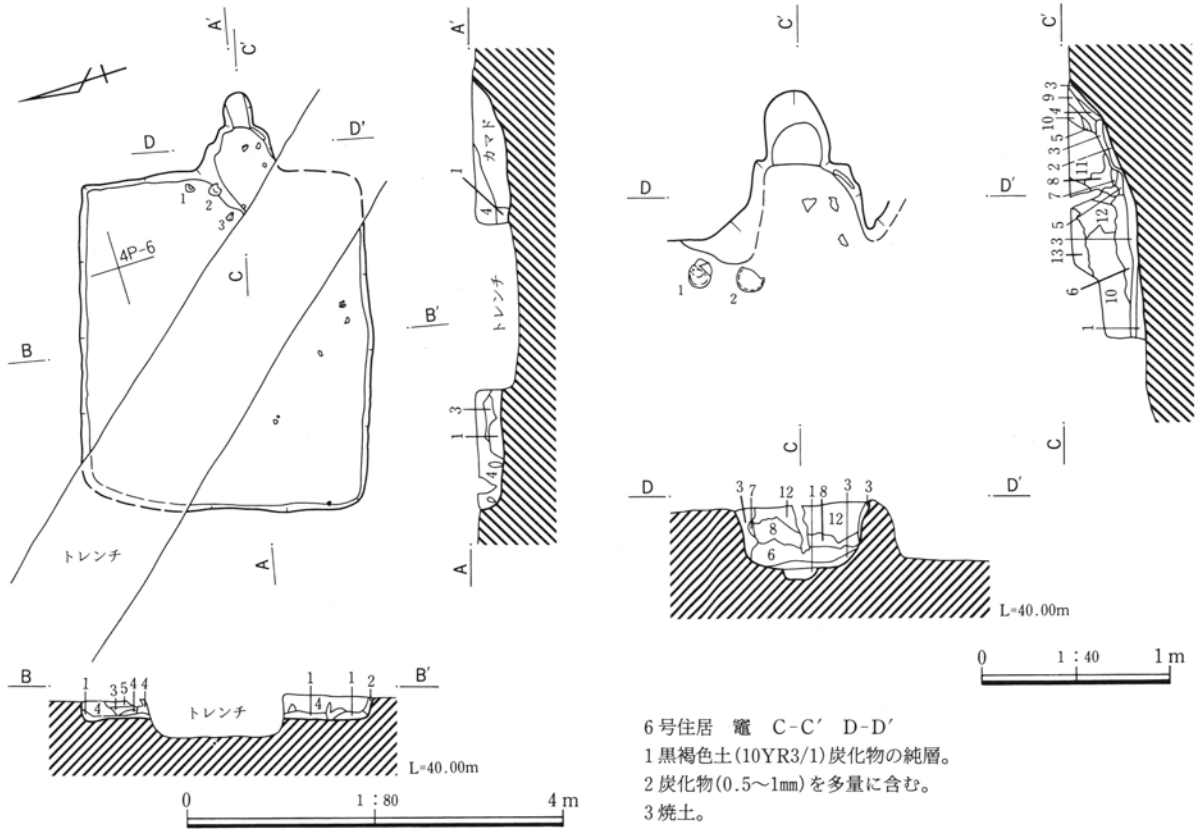
竈 東壁中央部を壁外に丸みのあるコの字状に掘り込んで燃焼部を作り、煙道を延ばす。左袖部は地山を掘り残したかに見えるが、右袖はない。埋没土には構築材に用いられたと考えられる白色粘土や灰白色シルト質土塊が混じる。確認長0.9m、燃焼部幅0.8m。

重複なし。

遺物と出土状況 出土遺物数は少ない。竈内に甕破片があり、竈左側では坏、高台付碗各1がほぼ完形

で出土している。住居南西部には甕の小破片が散在する。

その他 平安時代(10世紀前葉)

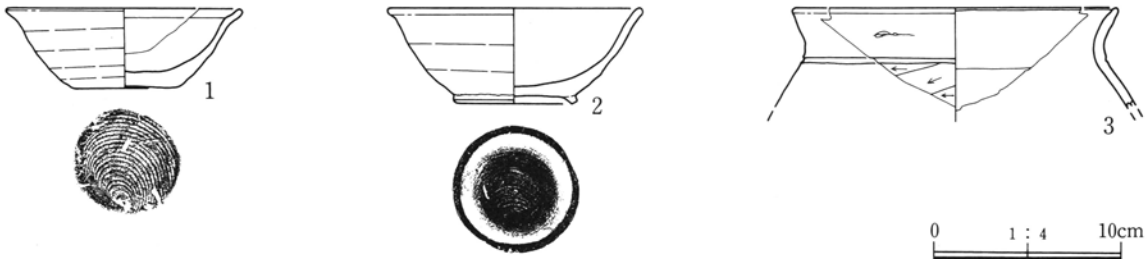


6号住居 A-A' B-B'

- 1 褐灰色土(10YR5/1)炭化物・赤褐色粒(0.5~1mm前後)・砂礫(1mm以下)を少量含む。粘性4層より強く、しまりは4層と同程度である。
- 2 褐灰色土(10YR6/1)4層によく似るが、夾雑物さらに少なく、粘性・しまりともにさらに強い。
- 3 褐灰色土(10YR5/1)1層よりやや明るい色調を呈し、ややさらさらした砂質土、炭化物(1~2mm)を若干含む。粘性は1・2・4層に比べれば弱く、しまりも同様に弱い。
- 4 褐灰色土(10YR6/1)非常に均質な土で、砂礫・炭化物(0.5~2・3mm)をごく少量含む。粘性やや強く、しまり強い。
- 5 褐灰色土(10YR6/1)微細な砂粒(1mm以下)を少量含む。

6号住居 竈 C-C' D-D'

- 1 黒褐色土(10YR3/1)炭化物の純層。
- 2 炭化物(0.5~1mm)を多量に含む。
- 3 焼土。
- 4 におい黄橙色シルト質土(10YR7/2)焼土粒(5~10mm)と炭化物粒を含む。
- 5 焼土粒を含む灰層。
- 6 灰白色シルト質土(5YR8/2)焼土粒(4~6mm)・炭化物粒(5mmほど)・白色粘土粒(5mmほど)を多量に含む。
- 7 焼土塊。
- 8 焼土小塊(5~10mm)・白色粘土粒(2~3mm)の混土。
- 9 におい黄橙色シルト質土(10YR7/2)焼土粒(2mmほど)を含む。
- 10 灰白色シルト質土(5Y8/2)焼土粒(5~10mm)を少量含む。しまりがある。
- 11 におい黄橙色シルト質土(10YR7/2)焼土粒・白色粘土粒(5~10mm)を含む。
- 12 灰白色シルト質土(5Y8/2)焼土粒(2~3mm)・白色粘土粒(1~2mm)を少量含む。
- 13 灰白色シルト質土(5Y8/2)焼土細粒、白色粘土細粒を極少量含む。



第99図 6号住居と出土遺物

7号住居(第100・101図 PL33・34・140 遺物観察表P.367)

位置 A6区4O,4P-7グリッド

形状 東西に長い縦長長方形の平面形を呈する。南北両壁の中央部やや西よりは、わずかながら内側にくびれている。東辺の両隅はやや丸みを持って屈曲しているが、西辺の両隅はほとんど丸みを持たずに、ほぼ直角に屈曲する。

規模 長辺 3.34m 短辺 2.30m 面積 6.90㎡

方位 N-92°-E

柱穴・周溝 なし。

貯蔵穴 住居西南四半の中央部にある土坑が貯蔵穴に相当するものと思われる。長径42cm、短径30cm、深さ15.5cmの規模で、底面は皿状に窪み、平坦ではない。隅丸長方形の平面形を呈する。

埋没土 床面は炭化物や焼土粒を含む褐灰色土で覆われる。壁際の埋没土には灰白色土塊が混入している。

確認最大壁高及び壁の状況 24cmと比較的深い。わずかに上方に開くが、やや丸みを持って立ち上がり、ほぼ直立する。

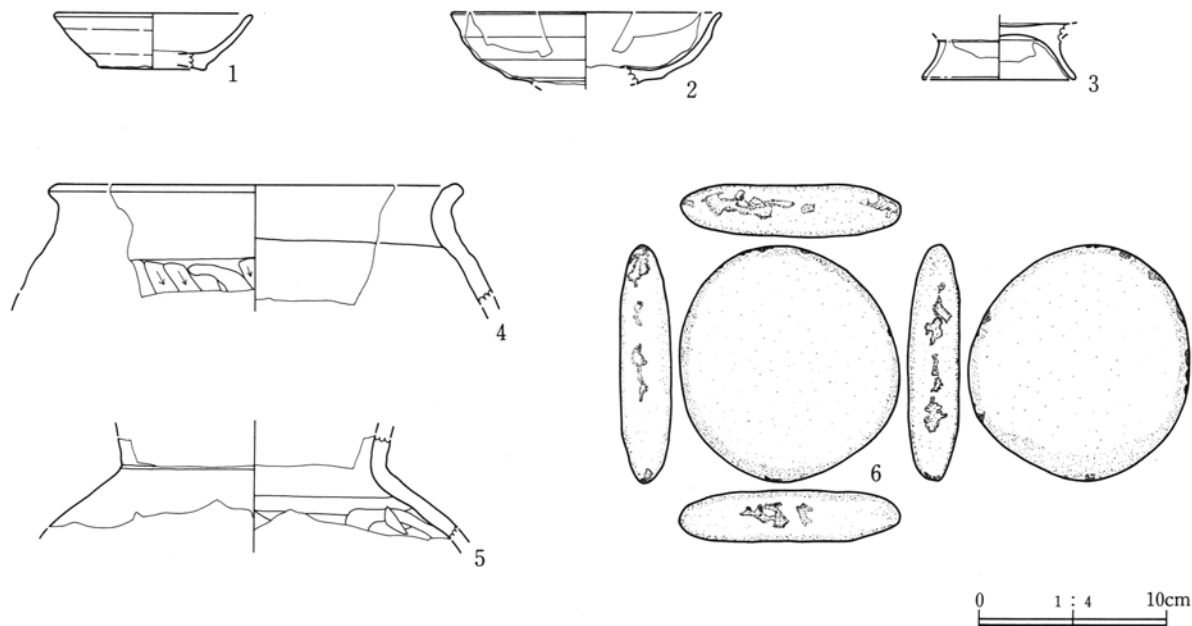
床面の状況及び床下施設等 床面の凹凸は少なく、ほぼ平らに仕上げられている。竈の周辺部は、やや砂質がかった浅黄色土で床貼りされる。

竈 東壁の南寄り、壁外に半円形に掘り込んで燃焼部を作り、煙道を延ばす。右袖部でわずかに地山を掘り残したような突起部がみられるが、左袖は認められない。埋没土に混入している、褐灰色粘質土や、黄褐色土塊が構造材に用いられたものと考えてよいだろう。燃焼部中央近くに円礫があるが、これは構造材として用いられたものか否か判断できない。底面の焼土面は2面認められ、作り替えがあったものと考えられる。

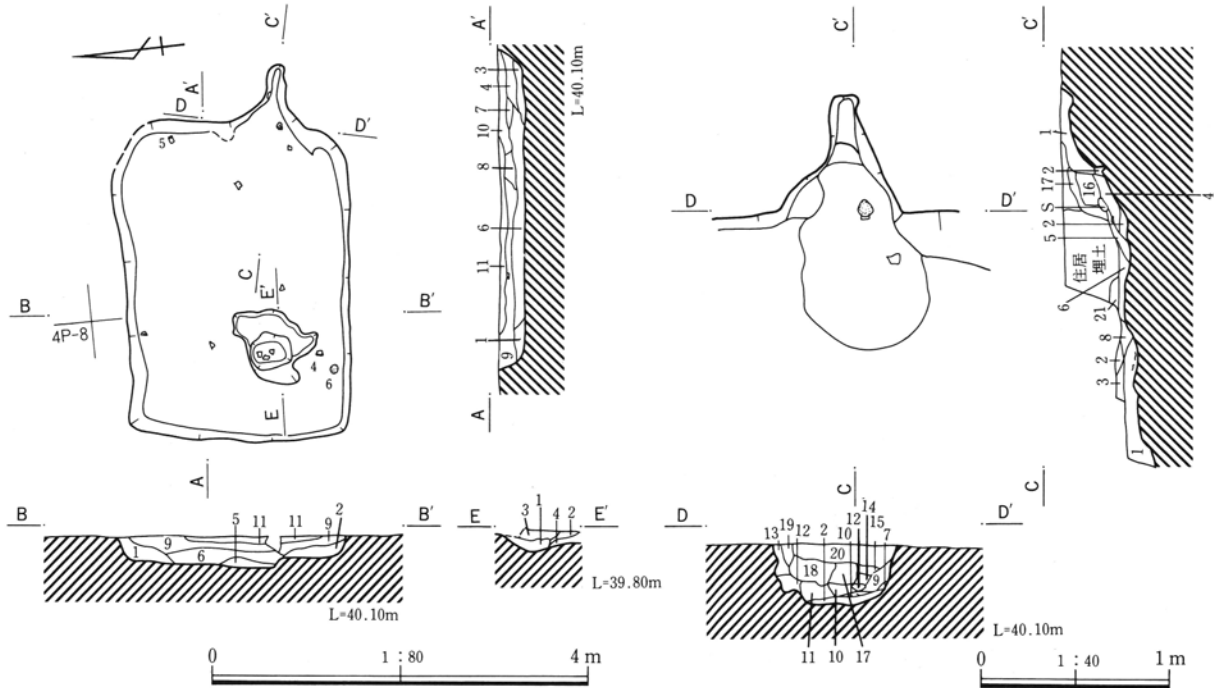
重複 なし。

遺物と出土状況 出土遺物数は少ない。比較的深い残存状況でありながら、覆土からの出土土器もごく少ない。床面近くでは、竈内及びその周辺と、貯蔵穴内及びその周辺に坏、埴、甕などの破片が散在しているにとどまる。

その他 平安時代(10世紀中葉)



第100図 7号住居の出土遺物



7号住居 A-A' B-B'

- 1 褐灰色土(10YR5/1)炭化物(0.5~1・2mm)、焼土粒(0.5~1mm)、灰白色土塊(5~10mm)を微量含む。粘性・しまりやや強い。
- 2 褐灰色土(10YR5/1)6層よりも若干明るい色調。夾雑物も多い。黄橙色粒(0.5~3mm)を極少量含む。粘性・しまりやや強い。
- 3 褐灰色土(10YR4/1)炭化物・黄橙色粘質土塊(0.5~2・3mm)、焼土粒など(1~3mm)を含み、灰白色土塊(0.5~3・4mm)を少量含む。粘性・しまりやや強い。
- 4 褐灰色土(10YR4/1)焼土粒・炭化物(0.5~3mm)を若干含む。粘性・しまりやや強い。
- 5 褐灰色土(10YR4/1)炭化物・焼土粒(1~3mm)を少量、灰を若干含む。粘性強いが、しまりやや弱い。
- 6 褐灰色土(10YR5/1)炭化物・焼土粒(0.5~2・3mm)、砂粒・黄褐色粒(1~2mm)を若干含む。粘性・しまりやや強い。
- 7 褐灰色土(10YR6/1)微細な砂粒(0.5mm以下)を少量、焼土・炭化物(1mm以下)の粒をごく少量含む。灰白色土の塊(1~3・4mm)を若干含む。粘性・しまりともに強い。
- 8 褐灰色土(10YR6/1)夾雑物多くボソボソしている。粘性・しまりやや強い。
- 9 褐灰色土(10YR6/1)微細な砂粒(0.5~2mm)・焼土粒(1~2mm)を極少量、炭化物(0.5~1・2mm)を微量含む。粘性・しまり共に強。
- 10 褐灰色土(10YR5/1)9・11層よりもやや暗い色調を呈し、炭化物粒・焼土粒(0.5~1mm)をごく少量含む。鉄分の沈着多し、粘性・しまりともに強い。
- 11 褐灰色土(10YR5/1)微細な砂粒(1mm以下)及び炭化物を含む。粘性・しまりともに強い。

7号住居 貯蔵穴 E-E'

- 1 灰黄褐色土(10YR4/2)焼土粒・炭化物(1~3mm)をやや多く含む。粘性強く、しまりやや弱い。
- 2 褐灰色土(10YR5/1)炭化物(3~5mm)をやや多く含む。粘性・しまりともに強い。
- 3 褐灰色土(10YR5/1)炭化物(0.5~2・3mm)を若干、砂粒(0.5~1mm)を少量含む。粘性やや強く、しまりやや弱い。
- 4 褐灰色土(10YR4/1)炭化物(1~3mm)、焼土粒を少量含む。灰を少量含む。粘性は強いが、しまりはやや弱い。

7号住居 竈 C-C' D-D'

- 1 灰黄褐色土(10YR4/2)焼土粒(0.5~3・4mm)・炭化物(1~2mm)をかなり多く含み、特に炭化物は一部でラミナ状に堆積している。砂礫(0.5~1・2mm)をごく少量含む。(第一次使用面以前の竈使用の痕跡)
- 2 オリーブ黄色土(5Y6/4)焼土粒(5mmほど)を含む。
- 3 浅黄色土(5Y7/4)やや砂質、固くしまっている(貼り床)。炭化物粒を少量含む。
- 4 黒褐色土(10YR2/2)炭化物の層、焼土粒(0.5~2・3mm)を少量含む。
- 5 橙色土(2.5YR6/6)焼土塊・炭化物を若干含む。
- 6 灰オリーブ色土(5Y5/2)多量の灰と焼土粒を含む。
- 7 橙色土(5YR7/6)焼土の塊。
- 8 黒褐色土(10YR3/1)炭化物・灰の層。
- 9 灰黄褐色土(10YR5/2)焼土・炭化物(0.5~3mm)をやや多く含。
- 10 灰黄褐色土(10YR6/2)焼土・炭化物(1~2mm)を多量に含む。
- 11 褐灰色土(10YR4/1)ベースとなるのは、褐灰色土であるが、焼土塊・炭化物(1~5mm)を多量に含む。
- 12 褐灰色土(10YR5/1)焼土(1~3mm)を少量含む。
- 13 褐灰色土(10YR6/1)褐灰色粘質土の塊、黄褐色土の塊を交互に含む。粘性・しまりやや弱い。
- 14 褐灰色土(10YR5/1)黄褐色粒(0.5~1mm前後)を含む。
- 15 灰黄褐色土(10YR6/2)砂礫(1~3mm)、黄褐色粒(1~5mm)をやや多く含む。
- 16 褐灰色土(10YR4/1)焼土粒・炭化物(1~5mm)を多量に含む。
- 17 褐灰色土(10YR5/1)炭化物(1~2mm)、焼土(1~4mm)をごく少量含む。粘性・しまりやや強い。
- 18 褐灰色土(10YR5/1)17層とよく類似するが、若干暗い色調を呈し、焼土(1~3mm)、炭化物(1~4mm)少量含む。粘性・しまり強。
- 19 橙色土(5YR7/6)焼土の塊。
- 20 褐灰色土(10YR6/1)炭化物(0.5~3mm程度)、焼土粒(0.5~1mm)を極少量含む。粘性・しまり強い。
- 21 黒褐色土(10YR3/1)炭化物を多量に含み、焼土粒(1~3mm)を若干含む。

第101図 7号住居

8号住居(第102・103図 PL34・140 遺物観察表P.367)

位置 A6区4P, 4Q-8, 9グリッド

形状 東西に長い縦長長方形の平面形を呈する。東南隅はやや丸みを持つ。他の隅はわずかに丸みを持って屈曲する。

規模 長辺 3.8m 短辺 3.0m 面積 10.47m²

方位 N-101°-E

柱穴・周溝・貯蔵穴 なし。

埋没土 炭化物を含む褐灰色土で埋まる。埋没土下位には部分的に炭化物をやや多く含む部分がある。

確認最大壁高及び壁の状況 22cm。わずかに上方に開くが、やや丸みを持って立ち上がり、ほぼ直立する。

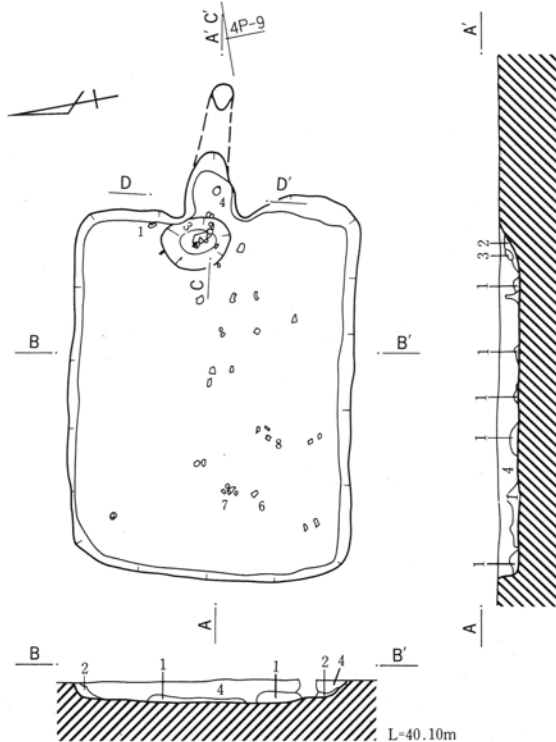
床面の状況及び床下施設等 ほぼ平らに仕上げられる。最終床面下にさらに一面の床があることを確認した。作り替えが行われたものと見られる。

竈 東壁ほぼ中央をU字形に掘り込んで燃焼部を作り煙道を延ばす。竈前の壁より内側の部分に幅70cm、長さ54cmほどの平面形が楕円形の窪みがあり、炭化物に焼土を混じた層が厚く堆積する。壁上端から1.3m外に直径20cmほどの煙道口がある。残存全長1.9m、燃焼部幅55cm。埋没土には構築材に用いられたと考えられる灰黄褐色粘質土が混じる。この竈の南隣にもう一つ竈状の掘り込みが認められ、床面とともに作り替えられた古い竈と見られる。

重複 なし。

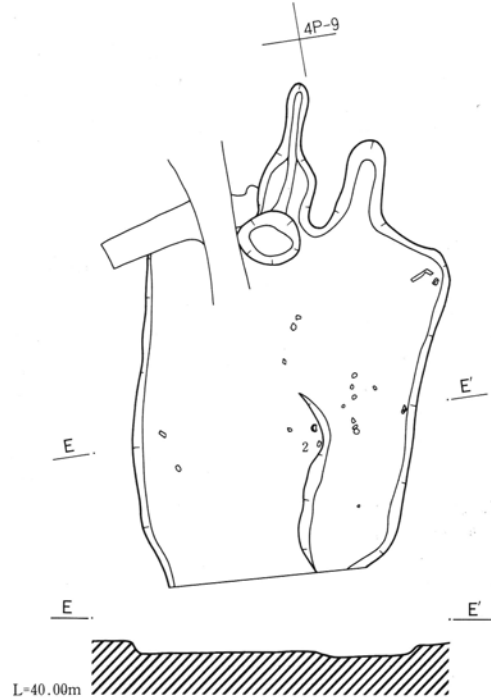
遺物と出土状況 竈内及び住居南半に破片が散在する。甕、坏、高台付埴、羽釜などがある。一次床面上にも小破片が散在し、緑釉の水注は竈前と住居中央近く、及び8号住居、5号住居の覆土等からの出土片が接合したものである。

その他 平安時代(10世紀中葉)

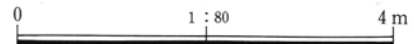


8号住居 A-A' B-B'

- 1 褐灰色土(10YR4/1)砂粒・炭化物(0.5~2・3mm)をやや多く含む。粘性・しまり4層より強い。
- 2 褐灰色土(10YR4/1)1層よりきめ細かい土。粘性・しまり1層と同程度。
- 3 灰黄褐色土(10YR4/2)砂粒(1mm以下)を多量に、焼土粒(1~2mm)をやや多く含む。煙道。



- 4 褐灰色土(10YR5/1)砂礫・黒褐色粒(1~5mm)、黄橙色粒・赤褐色粒(0.5~2・3mm)をやや多く含む。炭化材(1~3mm)を若干含む。粘性・しまりともにやや強い。

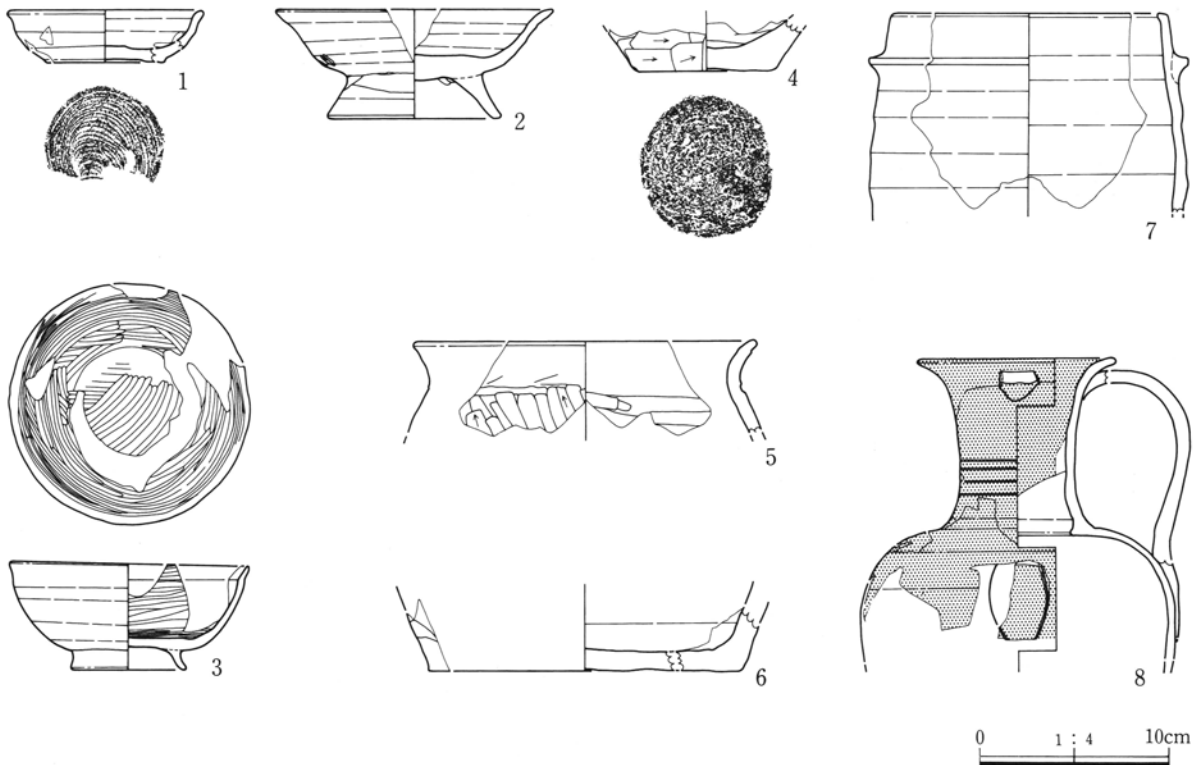
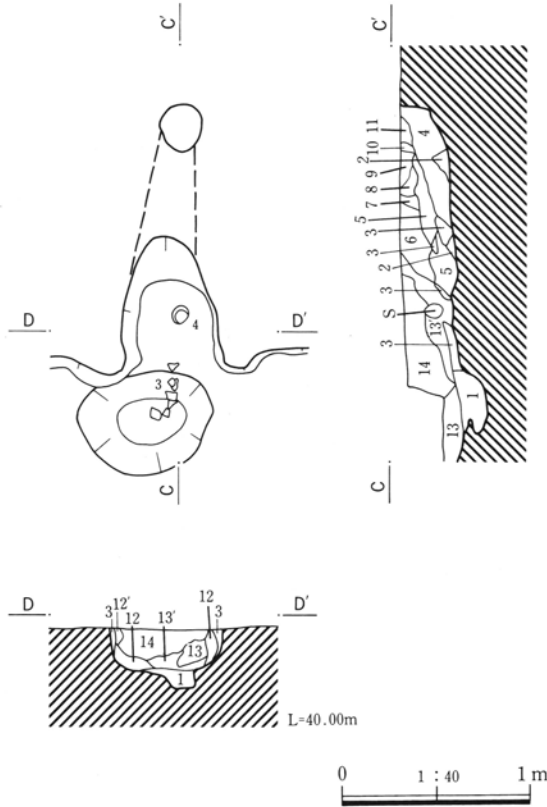


第102図 8号住居

第3節 古代の遺構と遺物

8号住居 竈 C-C' D-D'

- 1 黒褐色土(10YR3/1)炭化物の堆積層(ほぼ純層に近い)。焼土やや多く混入する。
- 2 炭化物。
- 3 焼土。
- 4 灰黄褐色土(10YR4/2)砂粒(1mm以下)を多量に、焼土粒(1~2mm)をやや多く含む。煙道。
- 5 褐灰色土(10YR5/1)シルト質土、焼土粒・炭化物粒(0.5~2・3mm)をやや多く含む。煙道。
- 6 灰黄褐色土(10YR6/2)シルト質土、焼土塊(1~5mm)を若干含む。砂粒(1mm以下)をやや多く含む。
- 7 灰黄褐色土(10YR6/2)粘質土、焼土塊(1~3mm)をやや多く含む。黄褐色粒(0.5~2・3mm)を若干含む。
- 8 褐灰色土(10YR6/1)11層よりさらにきめの細かい粘質土をベースとし、焼土粒(1~3mm)を少量含む。
- 9 におい黄橙色土(10YR6/3)黄褐色粒・砂粒(0.5~1・2mm)を若干、暗褐色粘質土の塊(1~5mm)を少量含む。
- 10 灰黄褐色土(10YR6/2)シルト質土、焼土塊(0.5~3・4mm)をやや多く含む。黄褐色粒・赤褐色焼土粒(0.5~1・2mm)を若干含む。
- 11 褐灰色土(10YR6/1)粘質土、微細な焼土粒(0.5~1・2mm)を少量含む。
- 12 褐灰色土と焼土塊の混土。
- 12' 焼土粒を多量に混入。
- 13 褐灰色土(10YR5/1)14層よりやや暗い色調を呈す。焼土の混入は14層より少ない。
- 13' 13層より暗く、焼土粒を混入する。
- 14 褐灰色土(10YR5/1)焼土粒微量混入。



第103図 8号住居竈と出土遺物

9号住居 (第104図 PL34 遺物観察表P.367)

位置 A6区4P, 4Q-10, 11グリッド

形状 北半を旧河道に切られ、南半のみを確認した。

方形ないし長方形の平面形を呈するものと思われる

が、南西及び南東の隅部は丸みを持っている。

規模 南壁長 2.76m 西壁確認長 2.12m

方位 N-105°-E

柱穴・周溝・貯蔵穴 なし。

埋没土 炭化物を少量含む粘性のある褐灰色土で埋まる。

確認最大壁高及び壁の状況 8.5cm。埋没土が薄く、十分に観察できない。やや鈍角で立ち上がる。

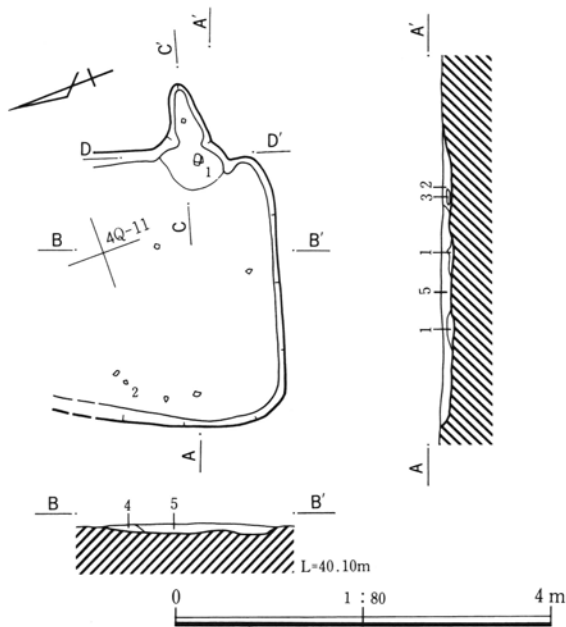
床面の状況及び床下施設等 やや波打つような起伏がある。竈前部のみ炭化物を多く含む褐灰色土で貼り床される。

竈 東壁の南端近くをV字形に掘り込んで燃焼部を作り、煙道をのぼす。地山を掘り残して左右の袖を作る。竈前部の貼り床土下にも灰層があり、竈を作り替えている可能性がある。

重複 1号溝より古い。

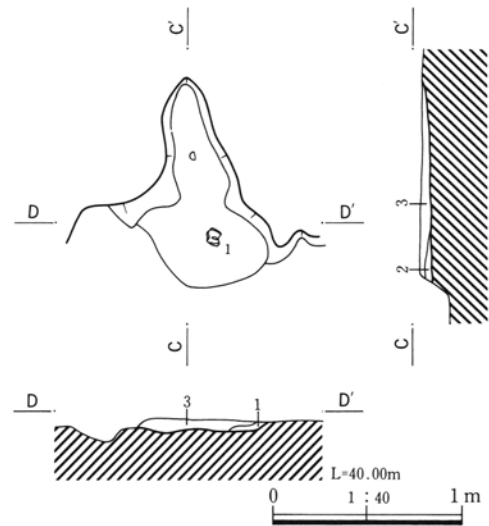
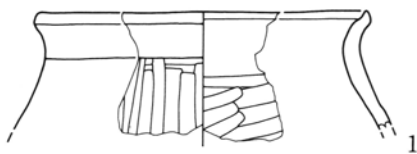
遺物と出土状況 出土遺物数は少ない。小片が散在する。竈内からは甕の口縁片が出土している。

その他 平安時代(10世紀代)



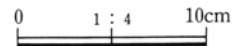
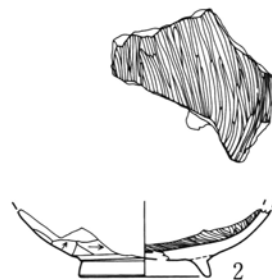
9号住居 A-A' B-B'

- 1 褐灰色土(10YR5/1)粘質土、炭化物(3~4mm)を少量含む。
- 2 褐灰色土(10YR4/1)炭化物を多く含む(貼り床土)。
- 3 炭化物層。
- 4 褐灰色土(10YR5/1)夾雑物が多く、ややボソボソしている。砂礫・黒褐色粒(0.5~3・4mm)を若干含む。粘性・しまりやや弱。
- 5 褐灰色土(10YR6/1)非常に均質な土で砂礫・焼土粒・炭化物(0.5~2・3mm)をごく少量含む。粘性・しまりともに強い。



9号住居 竈 C-C' D-D'

- 1 灰層(少量の粘土を混入する)。
- 2 褐灰色土(10YR6/1)3層より明るい色調を呈する。床面と同じ氾濫層起源の土をそのままの状態を使う。全体にしまりが強く、一度床面を作り替えている可能性がある。下層には灰層が存在する。
- 3 褐灰色土(10YR5/1)焼土塊・粘土粒・炭化物を多く混入(崩落土)。



第104図 9号住居と出土遺物

10号住居 (第105・106図 PL35・140 遺物観察表P.368)

位置 A6区4L, 4M-4, 5グリッド

形状 南北に長い横長長方形の平面形を基本とするものと思われるが、北壁が南壁よりやや短いため、竈以北の東壁が西に傾き、変則的な台形状を呈している。東壁の両隅はやや丸みを持って屈曲するが、西壁の両隅はほとんど丸みを持たずに屈曲している。

規模 長辺 4.42m 北壁 3.70m 南壁 3.40m
面積 14.88㎡

方位 N-92°-E

柱穴・周溝・貯蔵穴 なし。西壁の中央よりやや北寄りに三角形の平面形を呈するピットが1基あるが、構造上の位置づけはとらえられなかった。

埋没土 褐灰色の夾雑物の少ない緻密な土で埋没する。壁際でわずかに上がるが水平に近い堆積状況を示す。炭化物や焼土などは含まれない。最上位には厚さ4cmほどの、一次堆積に近いと思われるAs-Bが堆積している。

確認最大壁高及び壁の状況 50cm。わずかに上方に開くが、やや丸みを持って立ち上がり、ほぼ直立する。

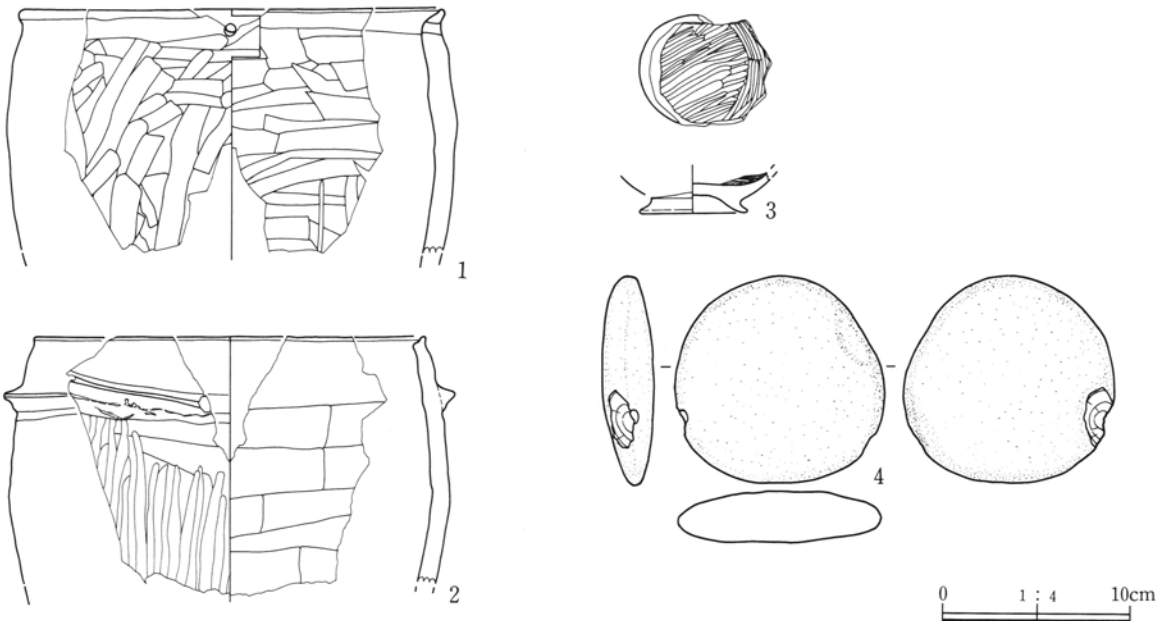
床面の状況及び床下施設等 壁際がやや高くなる。貼り床はない。

竈 東壁南端近くを壁外にU字形に掘り込んで燃焼部を作り、細長く煙道を延ばす。灰黄褐色粘質土で小さな袖が作られている。この粘土中にはスサ材と思われる炭化物が含まれる部分がある。燃焼部は長さ60cm、幅32cmほどの隅丸長形状で、手前側の住居壁の延長線上が最も良く焼けている。燃焼部の奥に礫があり、支脚的な役割を果たしていたものと思われる。

重複 なし。

遺物と出土状況 出土遺物数はごく少ない。竈内および竈前部に小片が散在する。羽釜、土釜、高台付碗があるが、土釜以外は竈の埋没土から出土したものである。また、北壁の西寄りから円盤状の礫が出土している。機能等はわからないが、7号住居でも相同の位置で類似した礫の出土がある。

その他 平安時代(10世紀後葉)



第105図 10号住居の出土遺物

11号住居(第107・110図 PL35・36・140・141 遺物観察表P.368)

位置 A6区4M,4N-1,2グリッド

形状 計測値上は、わずかに南北に長い横長長方形になるが、方形の平面形を基本とするものとみてよいだろう。東壁北部と西壁北部は試掘トレンチ及び他住居の埋没土中に当たるため明確にとらえることができなかった。西部で12号住居、東部で33号住居、南部で28号住居を切る。南辺の両隅は比較的丸みを持つ。東壁と北壁が直線的であるのに対し、西壁と南壁はやや蛇行する。

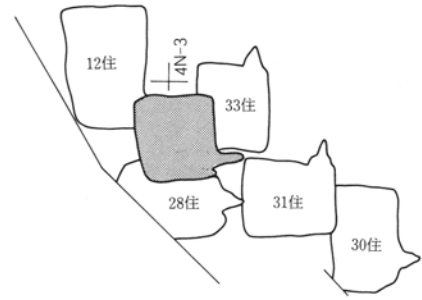
規模 長辺 3.30m 短辺 3.10m 面積 11.42㎡

方位 N-85°-E

柱穴 4本。1-2:1.4m 2-3:1.6m 3-4:1.7m
4-1:1.5m

周溝 なし。

貯蔵穴 南西隅にある土坑が貯蔵穴に相当するものと考えられる。直径72cm~74cm、深さ28cmほどの規模で、ほぼ円形の平面形だが、西壁はやや直線的に掘られる。底面は北側がやや高いが平面をなしており、凹凸はほとんどない。上方に開く台形状の断面



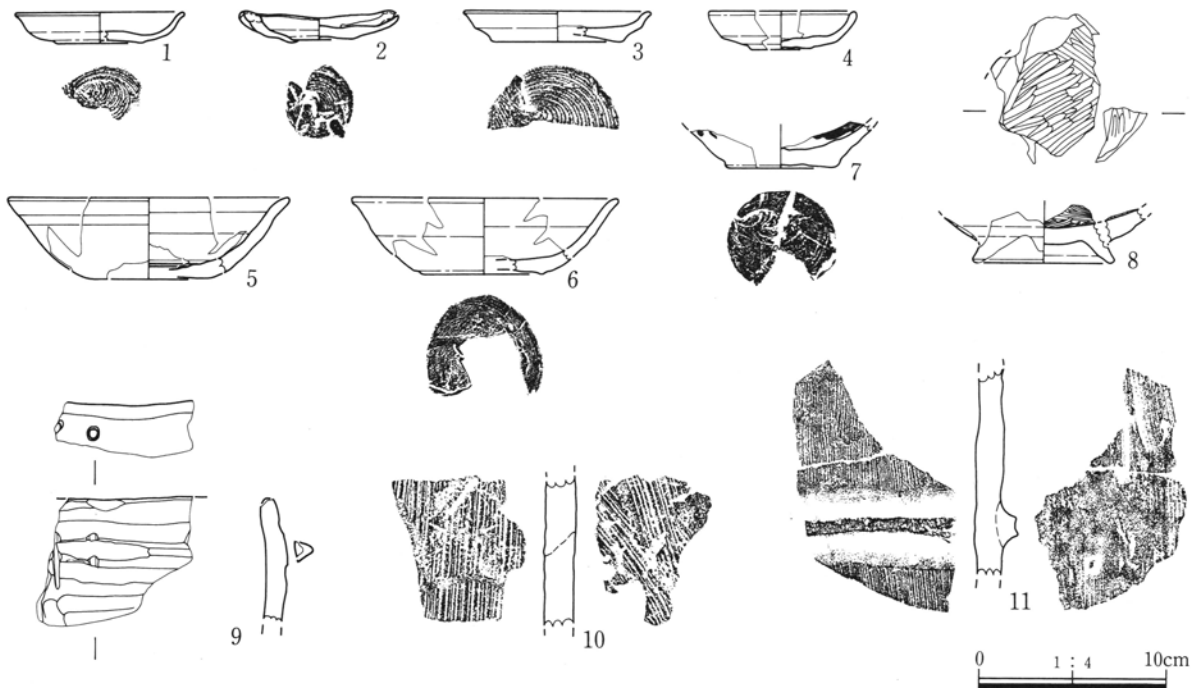
形を示している。

埋没土 床面は、多量の焼土粒と炭化物粒を含むシルト質の灰色土で覆われている。埋没土の上位にはAs-B層があり、その上位には部分的にAs-Kkの堆積が見られる。

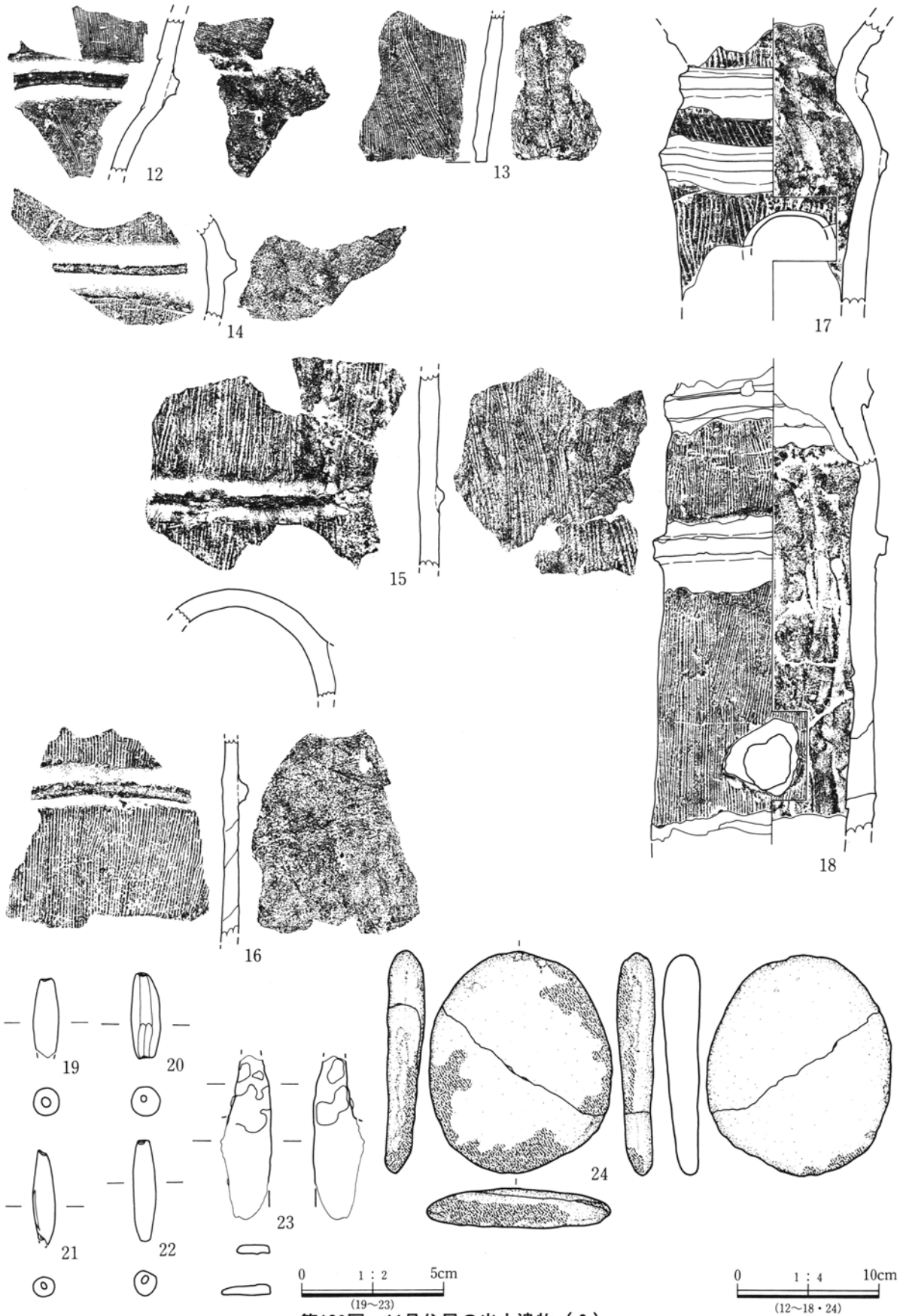
確認最大壁高及び壁の状況 60cm。わずかに上方に開くが、やや丸みを持って立ち上がり、ほぼ直立する。

床面の状況及び床下施設等 ほぼ平らに仕上げられる。竈前に長軸78cm、短軸64cmほどの土坑状の窪みがあり、この部分は床もやや窪んでいる。明確な貼り床は認められない。

竈 東壁の南端近くを、壁外にU字形に掘り込んで



第107図 11号住居の出土遺物(1)



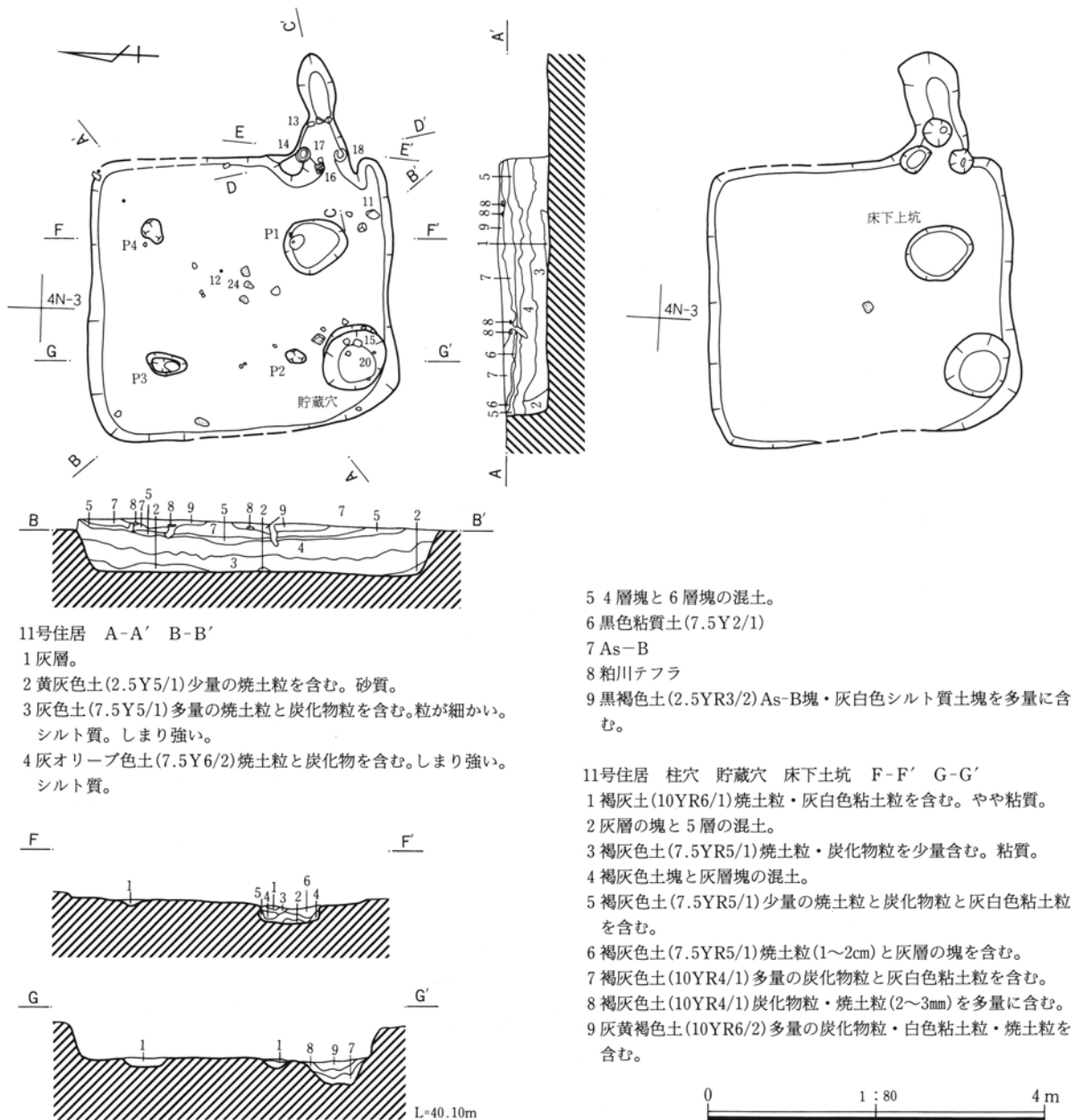
第108図 11号住居の出土遺物(2)

燃焼部を作り、さらに煙道を延ばす。袖は地山を掘り残して短く作っており、左右に朝顔形埴輪を倒立状態で設置して、焚き口を形成している。確認長1.2m、焚き口幅33cm。灰白色の粘土を構築材としており、埋没土に混じる灰白色粘土、黄灰色粘質土も竈構築材の残痕であろう。

重複 33号住居、28号住居、12号住居より新しい。
遺物と出土状況 竈からは用材とされていた朝顔形

埴輪が出土した。埴輪片は竈周辺にも散在する。他の出土遺物数は多くないが、土器破片や礫が埋没土中からの出土を含め、住居全体に散在している。坏、埴類は、ほとんどが埋没土中からの出土である。土錘も貯蔵穴内から1点出土したほかは埋没土中で検出されたものである。住居中央部に円礫等が4個ま

とり、貯蔵穴周辺にも礫がみられる。
その他 平安時代（11世紀前半）



11号住居 A-A' B-B'

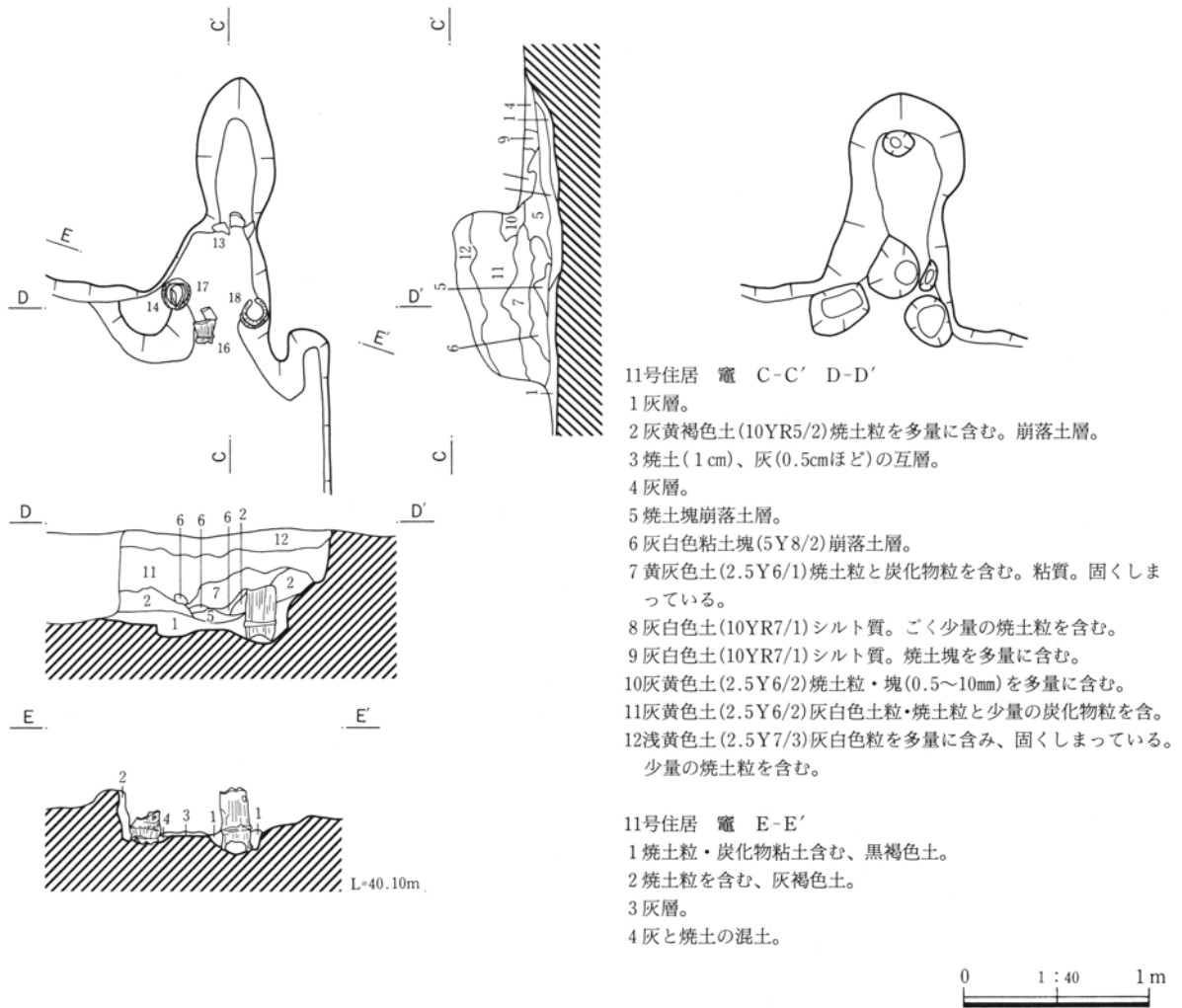
- 1 灰層。
- 2 黄灰色土(2.5Y5/1)少量の焼土粒を含む。砂質。
- 3 灰色土(7.5Y5/1)多量の焼土粒と炭化物粒を含む。粒が細かい。シルト質。しまり強い。
- 4 灰オリーブ色土(7.5Y6/2)焼土粒と炭化物を含む。しまり強い。シルト質。

- 5 4層塊と6層塊の混土。
- 6 黒色粘質土(7.5Y2/1)
- 7 As-B
- 8 粕川テフラ
- 9 黒褐色土(2.5YR3/2)As-B塊・灰白色シルト質土塊を多量に含む。

11号住居 柱穴 貯蔵穴 床下土坑 F-F' G-G'

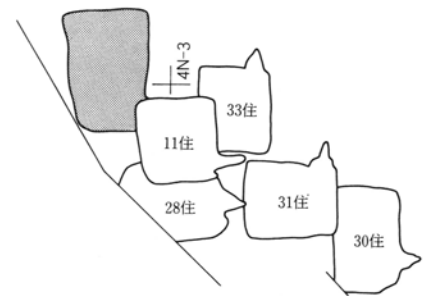
- 1 褐灰土(10YR6/1)焼土粒・灰白色粘土粒を含む。やや粘質。
- 2 灰層の塊と5層の混土。
- 3 褐灰色土(7.5YR5/1)焼土粒・炭化物粒を少量含む。粘質。
- 4 褐灰色土塊と灰層塊の混土。
- 5 褐灰色土(7.5YR5/1)少量の焼土粒と炭化物粒と灰白色粘土粒を含む。
- 6 褐灰色土(7.5YR5/1)焼土粒(1~2cm)と灰層の塊を含む。
- 7 褐灰色土(10YR4/1)多量の炭化物粒と灰白色粘土粒を含む。
- 8 褐灰色土(10YR4/1)炭化物粒・焼土粒(2~3mm)を多量に含む。
- 9 灰黄褐色土(10YR6/2)多量の炭化物粒・白色粘土粒・焼土粒を含む。

第109図 11号住居



第110図 11号住居竈

12号住居 (第111・112図 PL37・141~143 遺物観察表P.369・370)
 位置 A6区4N,4O-2,3グリッド
 形状 南北に長い横長長方形の平面形を呈する。北部がやや広くなる。北東隅はやや丸みを持って屈曲し、他の隅部はトレンチ及び切り合いにより不明確。
 規模 長辺 4.92m 短辺 3.00~3.50m 面積 15.26m²
 方位 N-86°-E
 柱穴・周溝・貯蔵穴 なし。
 埋没土 炭化物を含む灰黄褐色土、灰白色土粒を含む灰オリーブ色土で埋まる。
 確認最大壁高及び壁の状況 35cm。わずかに上方に開くが、やや丸みを持って立ち上がり、ほぼ直立す



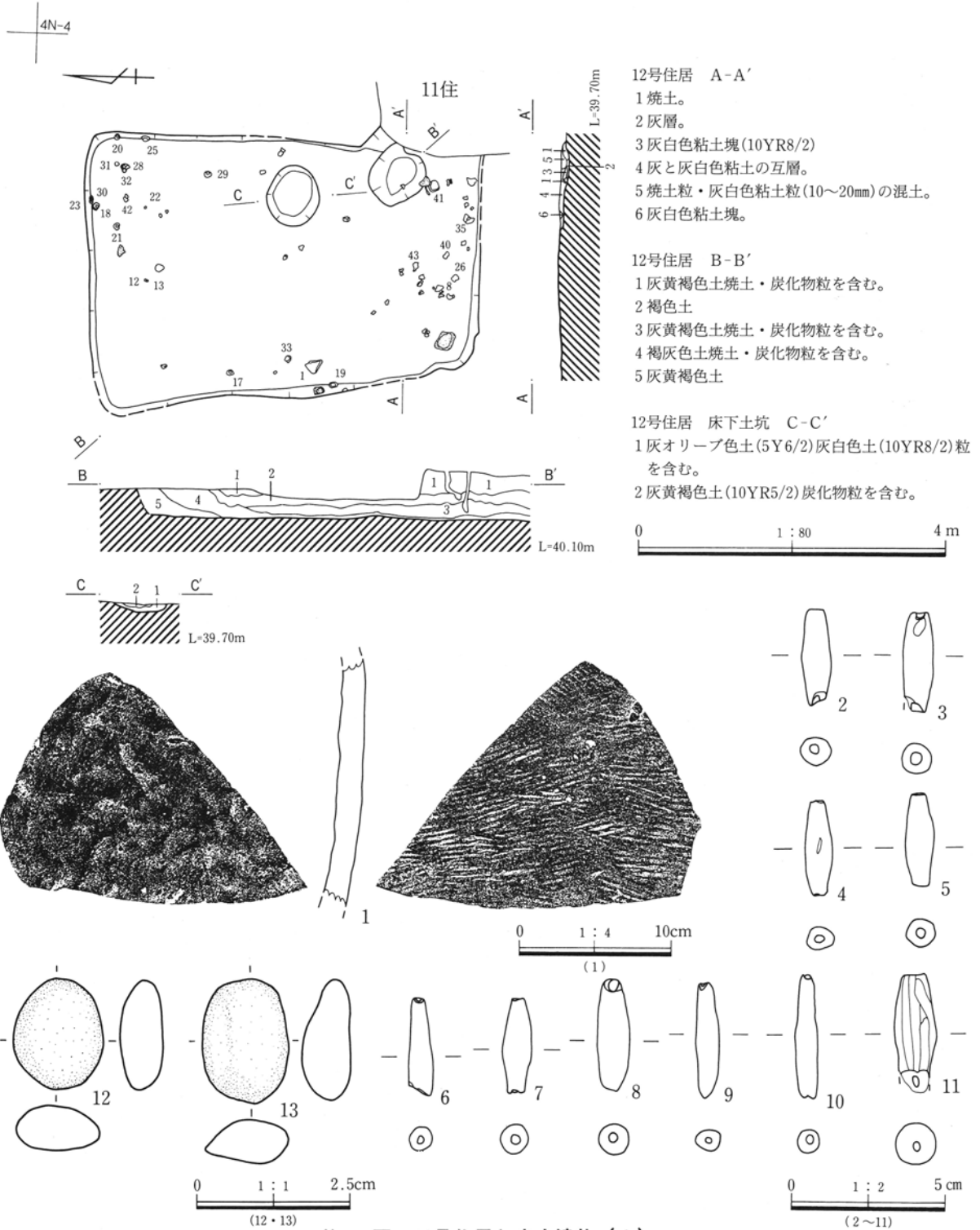
る。
 床面の状況及び床下施設等 南半がやや低い。掘り方では中央やや東寄りに土坑状の窪みがある。長径78cm、短径68cmのやや東西に長い楕円形で、深さは12cmほど。
 竈 明確ではない。東壁南部に焼土及び灰白色粘土

塊や灰が見られ、ここが竈に当たるものと考えられるが11号住居に切られて形状は全く分からない。掘り方では長軸80cm、短軸70cm、深さ7.5cmほどの東西に長い楕円形の窪みがみられる。

重複 11号住居より古い。

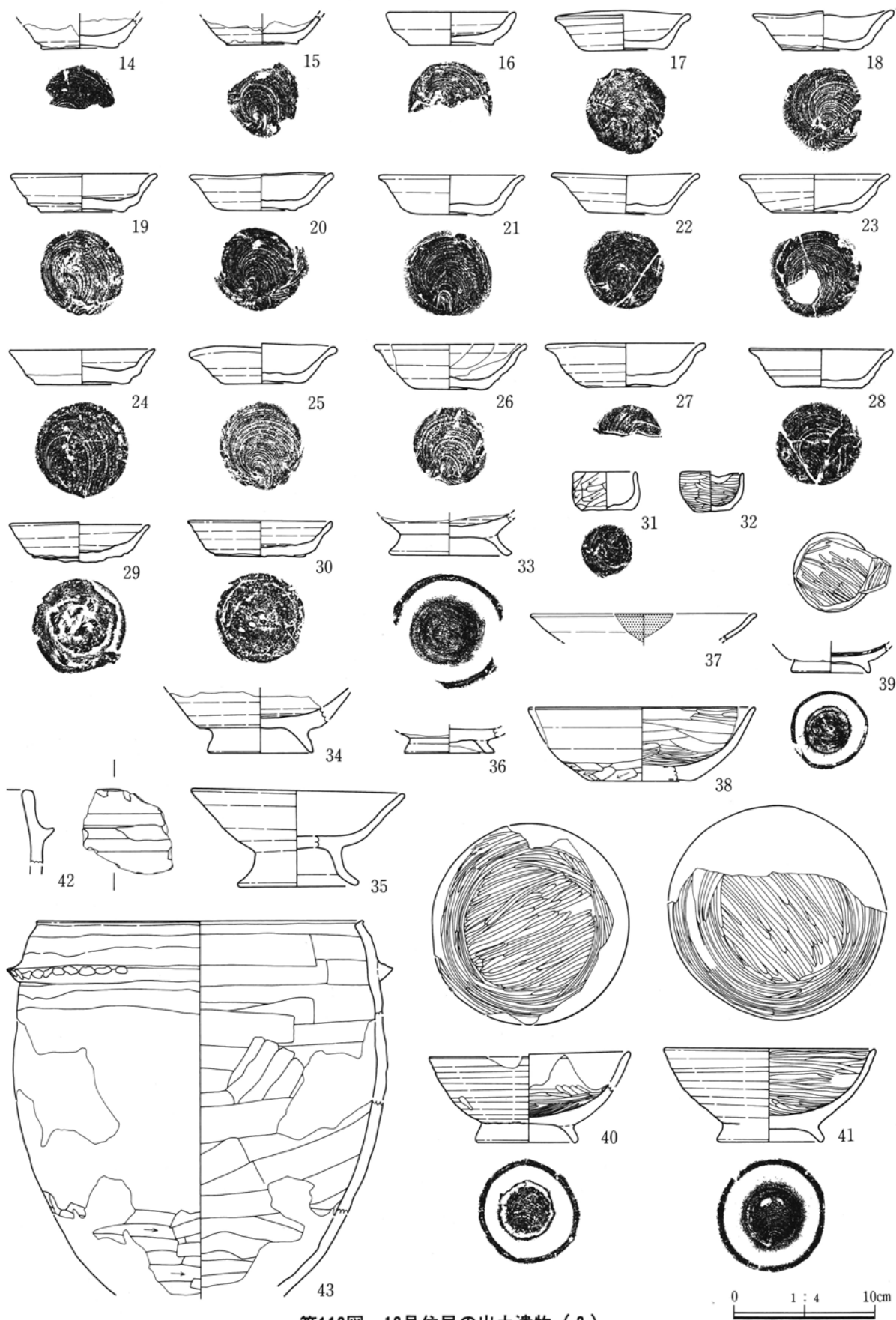
遺物と出土状況 全体に散在する。南壁寄りにややまとまる傾向がある。壁際から点々と小型の坏が出土している。

その他 平安時代(10世紀後葉)



第111図 12号住居と出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物



第112図 12号住居の出土遺物(2)

14号住居(第113・114図 PL37・143 遺物観察表P.370)

位置 A6区4M,4N-4~6グリッド

形状 南北に長い横長長方形の平面形を呈している。南西隅部は5号住居に切られるため、形状をとらえられないが、他の各隅はやや丸みを帯びて屈曲している。北壁東部には東西方向に長い張り出しをもつ。この張り出し部は住居本体の床面と段差をもたずに連続している。張り出し部の西壁は、住居の壁からほぼ直角におれ曲がって北へ延び、北壁はやや膨らみを持って弧状に住居壁へつながる。張り出し部の東壁は西壁の半分ほどの長さしかないため、張り出し部の東では住居の幅が広くなり、壁が食い違うような印象を与えている。

規模 長辺 5.24m 短辺 3.53m 張出幅 1.2m
同奥行き 0.7m

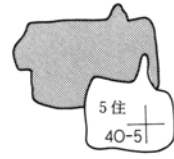
方位 N-2°-W

柱穴・周溝 なし。

貯蔵穴 遺構としては認められない。竈右手に当たる南東隅部がやや窪んでおり、この部分が貯蔵穴と相当する機能を有していたのかもしれない。

埋没土 細砂、黄褐色粒子を少量含む灰白色土で埋まる。下層には炭化物の細粒を少量含む。

確認最大壁高及び壁の状況 25.5cm。わずかに上方に開くが、やや丸みを持って立ち上がり、ほぼ直立



する。

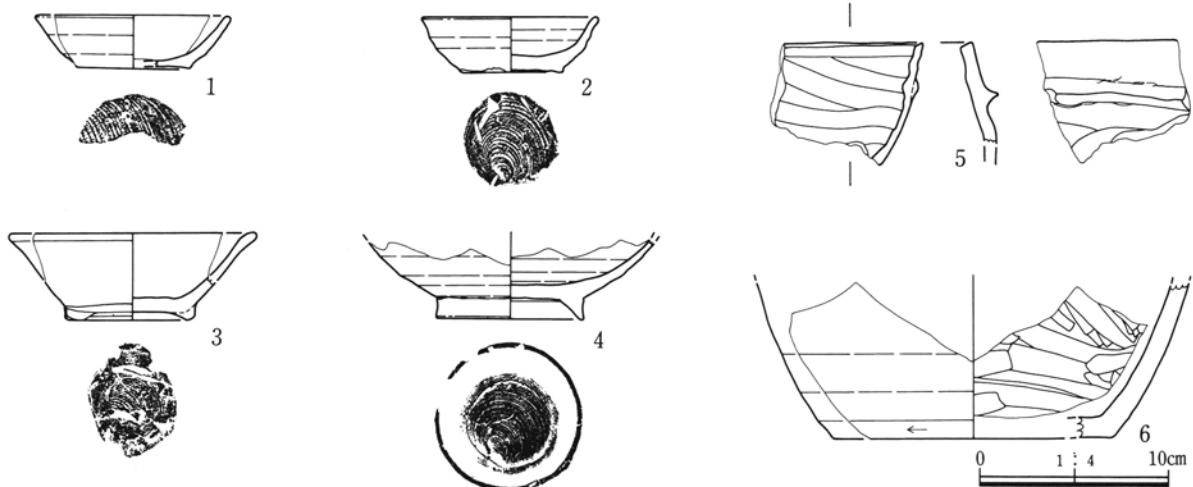
床面の状況及び床下施設等 ほぼ平らに仕上げられる。北に向かってわずかに下がる。南東隅部はやや窪む。

竈 東壁南部に、壁外にU字形に掘り込んで燃焼部が作られている。煙道は明確にはとらえられない。袖は認められない。褐灰色のシルト質土で埋まっている。底部には炭化物が比較的厚く堆積する。底部の焼土面もよく焼けてしまっている。燃焼部右側の壁上部は崩されたように比較的なだらかな斜面をなして、左側壁部が直立するのと際だった差異を見せている。周辺には礫が散在するが、構造を留めてはいない。

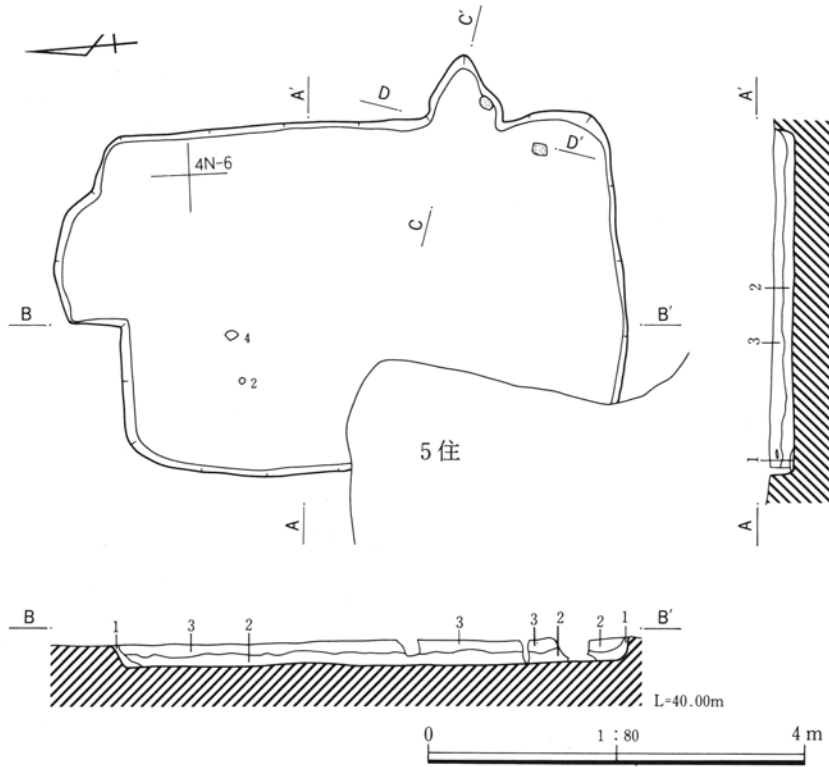
重複 5号住居より古い。

遺物と出土状況 出土遺物数はごく少ない。竈周辺と住居中央部北西寄りに点在するのみで、埋没土からの出土も少ない。坏・埴と羽釜がある。

その他 平安時代(10世紀中葉)



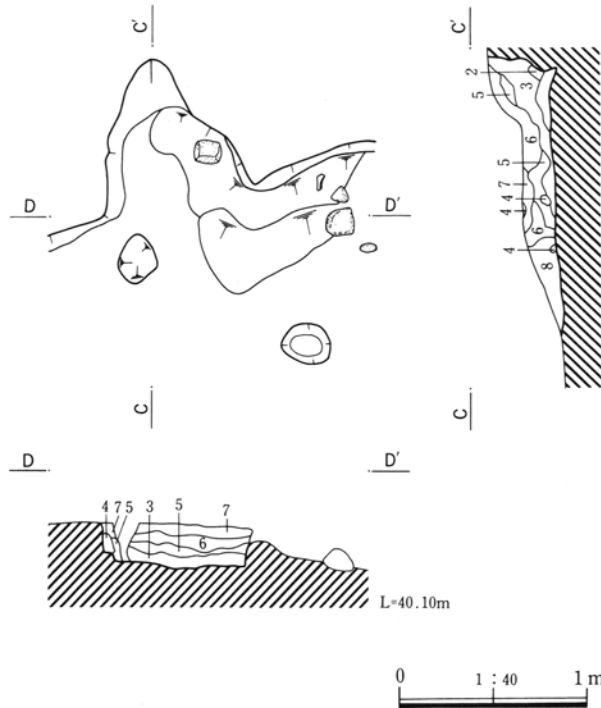
第113図 14号住居の出土遺物



14号住居 A-A' B-B'

- 1 灰黄褐色土(10YR6/2)砂粒・黄褐色粒(0.5~2・3mm)をやや多く含む。粘性・しまり弱い。
- 2 灰色土(7.5Y6/1)0.5mm以下の微細な砂粒・黄褐色粒を少量含む(3層よりさらに少ない)。粘性・しまり非常に強い。

3 灰白色土(2.5Y7/1)砂粒・黄褐色粒・炭化物(0.5~1・2mm)を少量含む。粘性しまり強い。



14号住居 竈 C-C' D-D'

- 1 灰黄褐色土(10YR6/2)焼土塊・炭化物をやや多く含む。
- 2 褐灰色土(10YR6/1)塊。
- 3 黒褐色土(5YR2/2)炭化物の積層、焼土わずかに含む。灰層がラミナ状に含まれる。
- 4 明赤褐色土(2.5YR5/6)焼土塊、炭化物粒わずかに含む。とても固い。しまり強く、粘性弱い。
- 5 橙色土(5YR6/6)シルト質土が焼けたもの。焼土塊わずかに含む。灰は少量含まれ、炭はラミナ状に含まれている。しまりなく、粘性わずかにあり。
- 6 褐灰色土(7.5YR6/1)シルト質土。焼土炭化物粒少量含む。灰塊をわずかに含む。7層よりしまりがなく、弱い粘性が7層よりある。
- 7 褐灰色土(10YR6/1)シルト質土、焼土及び炭化物粒をわずかに含む。灰は含まない。しまりあり、粘性弱い。
- 8 灰褐色土(7.5YR5/2)シルト質土。しまり強く、粘性弱。

第114図 14号住居

15号住居(第115図 PL38・40・140 遺物観察表P.370)

位置 A6区4K,4L-5,6グリッド

形状 南北に長い縦長の長方形だが、東西壁の中央部がやや括れるようにせばまり、南壁は北壁よりやや広くなる。各隅は比較的丸みを持たない。

規模 長辺 3.60m 短辺 2.56~2.90m 面積 9.88㎡

方位 N-1°-W

柱穴・周溝・貯蔵穴 なし。

埋没土 上面を著しく削平されるため、埋没土はごく薄い。灰白色土で埋まる。床面近くで部分的に炭化物を多く含む層がみられる。

確認最大壁高及び壁の状況 5cm。上部をほとんど

削平されるため、明確ではない。

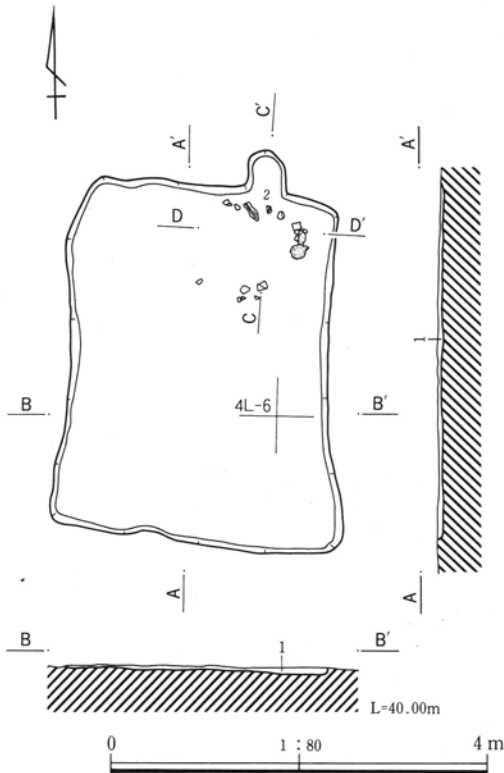
床面の状況及び床下施設等 ほぼ平らに仕上げられる。貼り床はない。

竈 北壁東寄りに作られる。壁を半円形に掘り込んで燃焼部を作る。燃焼部下面のみを確認したにとどまる。幅は32cm。竈の前には炭化物や灰が広がっている。左手前に礫があるが、竈との関係は分からない。

重複 16号住居より古い。

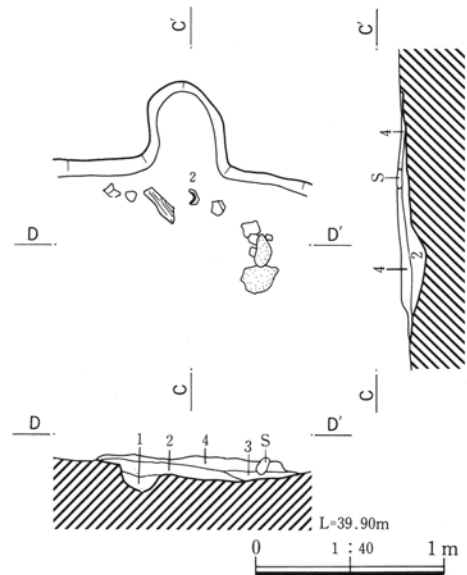
遺物と出土状況 竈前部にのみ認められる。量は少ない。

その他 平安時代(10世紀前葉)



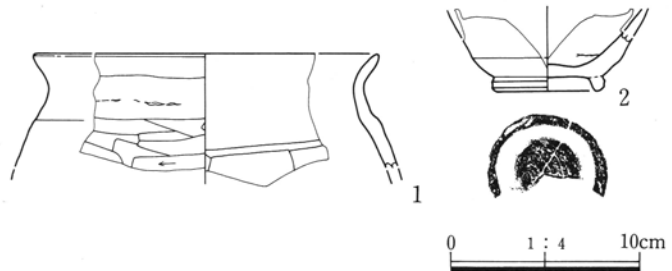
15号住居 A-A' B-B'

1 灰白色土(10YR7/1)砂粒(0.5~2・3mm)・黄褐色粒(0.5~1・2mm)を若干含む。床面間近に厚さ10mmほどの炭化物を多く含む層の堆積が、若干部分的にみられる。粘性・しまりやや強い。



15号住居 竈 C-C' D-D'

- 1 灰黄褐色土(10YR5/2)焼土・炭化物(1~2mm)を若干含む。粘性・しまり強い。
- 2 褐灰色土(10YR4/1)炭化物を多く含む。粘性・しまりやや弱い。
- 3 灰黄褐色土(10YR6/2)砂礫・黄褐色粒・焼土等(0.5~1・2mm)を若干含む。粘性・しまりやや強い。
- 4 灰黄褐色土(10YR5/2)炭化物・焼土の塊を一部に含む。



第115図 15号住居と出土遺物

16号住居(第116・117図 PL38・143 遺物観察表P.370)

位置 A6区4K,4L-5,6グリッド

形状 南北にやや長い横長方形の平面形を呈する。

規模 長辺 3.20m 短辺 2.38m 面積 7.26㎡

方位 N-90°-E

柱穴・周溝・貯蔵穴 なし。

埋没土 上面を削平されるため、埋没土は薄い。焼土粒、炭化物粒を少量含む褐灰色土で埋まる。

確認最大壁高及び壁の状況 11cm。上部を削平されるため、明確ではない。

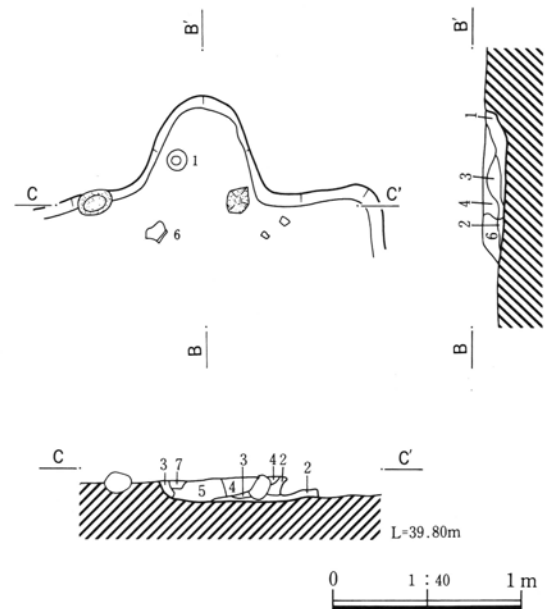
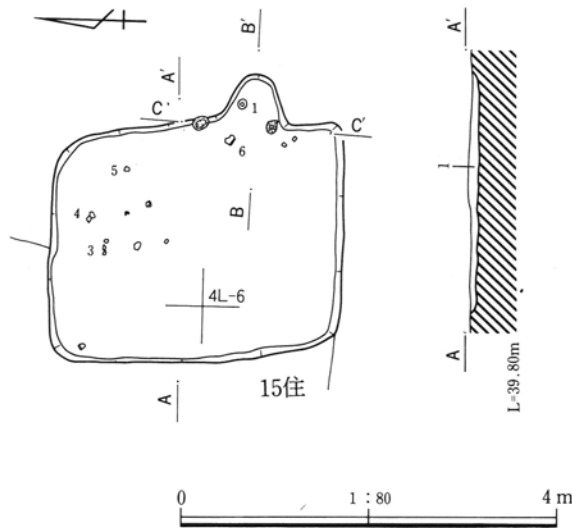
床面の状況及び床下施設等 ほぼ平らに仕上げられる。貼り床はない。

竈 東壁の南寄りを半円形に掘り込んで燃焼部を作る。煙道は分からない。袖はないが、右袖部に相当する位置に角礫があり、袖石の可能性はある。左にも円礫があるが、これはやや離れており、竈の構造材とは認めがたい。確認長60cm、燃焼部幅64cm。燃焼部の奥に炭化物のまとまった層がある。埋没土には構築材に用いられたと考えられる明青灰色粘土塊が混じている。

重複 15号住居より新しい。

遺物と出土状況 出土遺物数は少ない。竈内及びその周辺と住居北半部に散在する。

その他 平安時代(10世紀前葉)



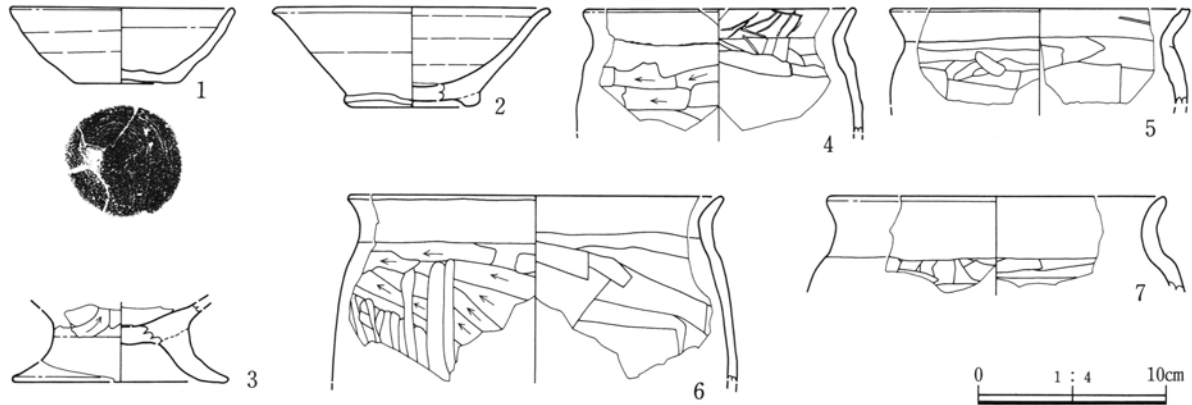
16号住居 A-A'

1 褐灰色土(10YR6/1)砂礫・茶褐色粒(0.5~1・2mm)を少量含む。焼土・炭化物の粒を若干含む。粘性・しまりやや強い。

16号住居 竈 B-B' C-C'

- 1 黒褐色土(10YR3/1)炭化物の層をベースとし、焼土粒・砂礫(2~5mm)を若干含む。粘性・しまり弱い。
- 2 褐灰色土(10YR4/1)焼土粒(0.5~1・2mm)を若干含む。炭化物を多く含む。粘性・しまり弱い。
- 3 明青灰色土(5B G7/1)粘土塊。焼土粒若干混入。粘性・しまりやや強い。
- 4 灰黄褐色土(10YR6/2)焼土粒・明青灰色粘土粒(0.5~2mm)を若干含む。粘性・しまり6層と同程度。
- 5 灰黄褐色土(10YR6/2)ベースとなるのは灰黄褐色土であるが、明青灰色粘質土塊・炭化物・焼土塊などが多量に混入する。粘性・しまり弱い。
- 6 黄灰色土(2.5Y6/1)砂礫・焼土粒(0.5~2・3mm)、炭化物(0.5~1mm)を若干含む。粘性・しまりやや弱い。
- 7 褐灰色土(10YR6/1)炭化物・焼土を多量に混入する。粘性・しまりやや強い。

第116図 16号住居



第117図 16号住居の出土遺物

17号住居(第118図 PL38・39・143 遺物観察表P.370)

位置 A6区4K,4L-6~8グリッド

形状 計測値上ではわずかに南北に長い横長長方形ないし東壁がわずかに長い台形状の平面形を示しているが、ほぼ方形の平面形を基本とするものと考えてよいものと思われる。北西隅は土坑状の攪乱に切られるため形状をとらえられないが、他の各隅はほとんど丸みを持たずに屈曲する。

規模 長辺 3.60m 短辺 3.40m 面積 13.36m²

方位 N-96°-E

柱穴・周溝・貯蔵穴 なし。竈前には、75cm×65cm、深さ10cmほどのゆがんだ円形の平面形を呈する土坑があるが、埋没土には焼土、炭化物が含まれておらず、土層断面では竈由来の焼土層を切ることが観察されている。直接住居や竈に関するものではないだろう。

埋没土 砂粒、黄褐色土粒、赤褐色土粒を少量含む褐灰色土で埋まる。残存壁高が低いため、ほぼ単層で埋没しているが、北壁部では焼土粒や炭化物粒を少量含む褐灰色土が流れ込むように堆積する状態がみられる。

確認最大壁高及び壁の状況 12cm。上部を削平されるため明確にとらえられないが、わずかに上方に開きながら、やや丸みを持って立ち上がる。北壁部では上方への開き方が他よりやや大きい。

床面の状況及び床下施設等 中央付近から北西方向

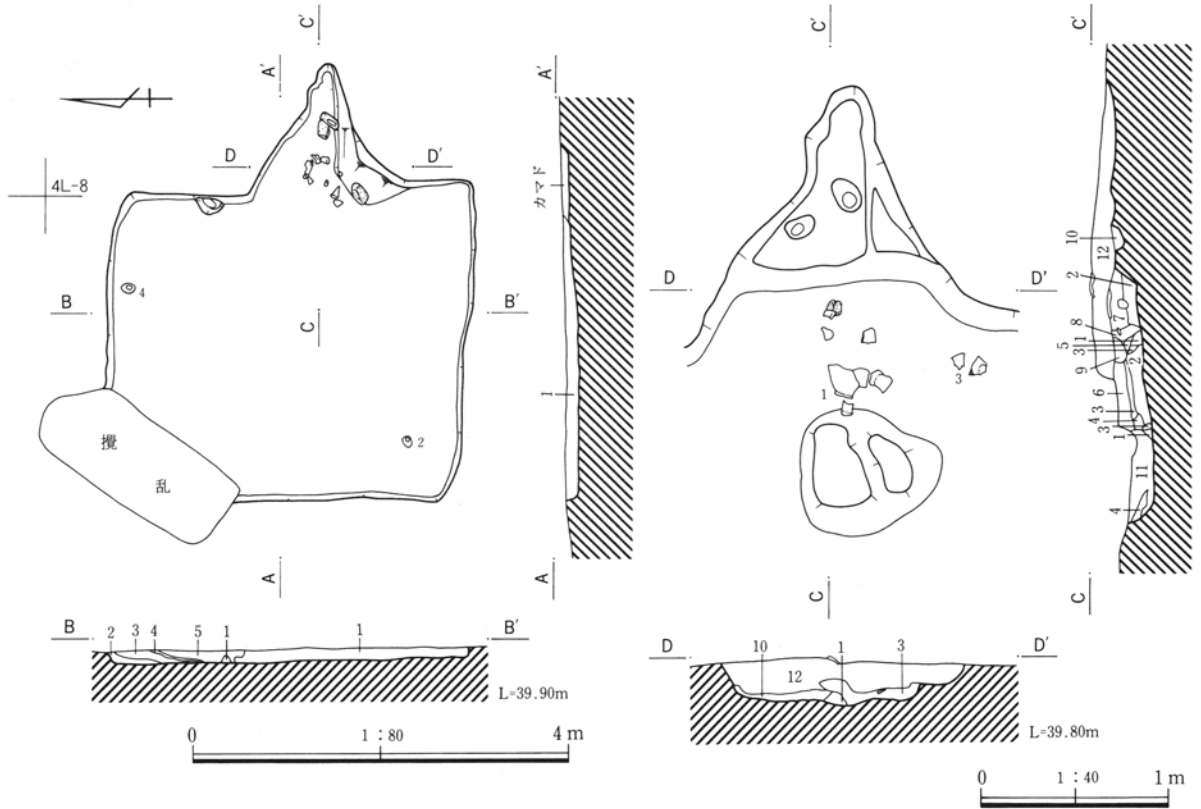
に、わずかながら段差を持って低くなっている。貼り床はない。

竈 東壁中央よりやや南寄りを、壁外に1.5mほどの奥行きを持つ三角形に掘り込んで燃烧部を作り、煙道を延ばしている。燃烧部は壁をコの字状に掘り込んでいて、煙道部はここから段差を持って掘られている。袖は認められないが、右袖に当たるかと思われる位置に亜角礫がある。燃烧部右側の壁上部は崩されたように比較的なだらかな斜面をなしていて、左側壁部が上部まで直立するのと際だった差異を見せている。埋没土中には構築材に用いられたと考えられる灰黄色土、明青灰色粘質土が混じる。燃烧部奥にはしっかりした焼土層が形成されており、手前側に炭化物の集中層がある。竈前の埋没土中から甕の破片がまとまって出土している。

重複 なし。

遺物と出土状況 出土遺物数は少ない。埋没土中であるが、竈前に甕片がまとまる。竈右手、北壁東寄り、南西隅近くの床面から塊が出土している。北壁際と南西隅出土の塊はほぼ完形であった。

その他 平安時代(10世紀前葉)

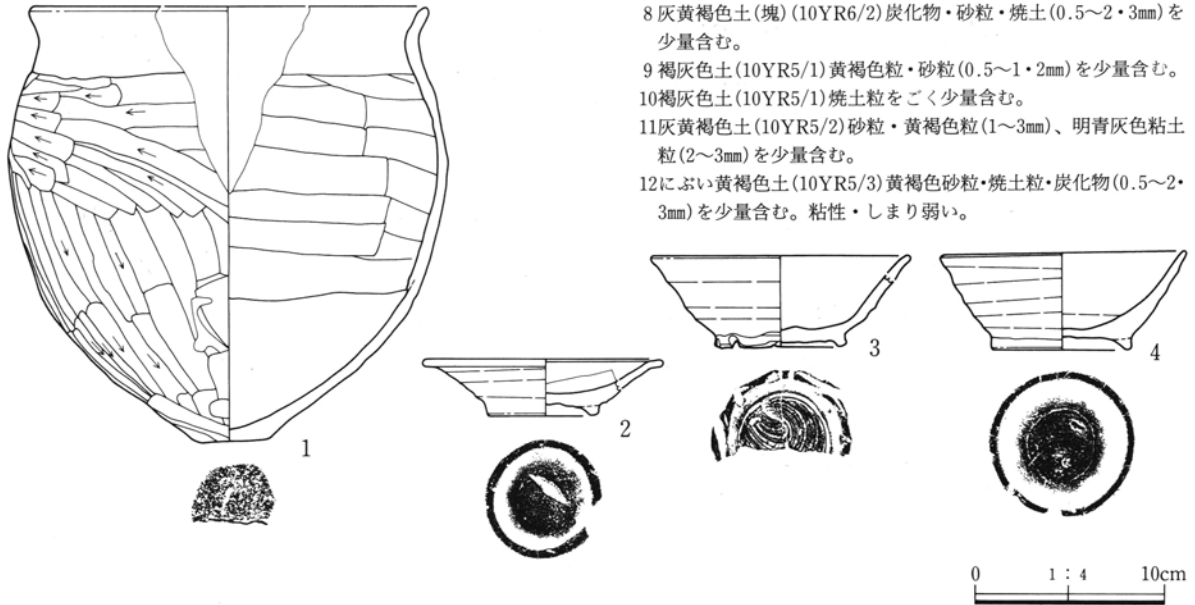


17号住居 A-A' B-B'

- 1 褐灰色土(10YR6/1)砂粒・黄褐色粒・赤褐色粒(0.5~2・3mm)をごく少量含む。粘性・しまり強い。
- 2 褐灰色土(10YR4/1)砂粒・焼土粒・炭化物(1~3mm)を少量(3層よりやや多く)含む。粘性・しまり強い。(3層より強い)
- 3 褐灰色土(10YR5/1)微細な黄褐色粒・砂粒(1mm以下)をごく少量含む。粘性・しまり5層と同程度。(5層より夾雑物少ない)炭化物層。
- 4 褐灰色土(10YR5/1)砂粒・焼土粒(0.5~1・2mm)を少量含む。粘性・しまり1層よりやや強い。

17号住居 竈 C-C' D-D'

- 1 橙色土(2.5YR6/6)焼土層。
- 2 灰色土(5Y6/1)砂粒・黄褐色粒・焼土粒(0.5~1・2mm)を若干含む。
- 3 褐灰色土(10YR4/1)炭化物層。
- 4 明青灰色土(5BG7/1)粘質土。砂粒・炭化物(0.5~2・3mm)をやや多く含む。
- 5 褐灰色土(塊)(10YR5/1)炭化物・焼土粒を少量含む。
- 6 灰黄色土(2.5Y7/2)黄褐色粒(0.5~3mm)を若干含む。粘性・しまりやや強い。
- 7 黄灰色土(2.5Y6/1)明青灰色粘土塊(1mm前後)を若干含む。
- 8 灰黄褐色土(塊)(10YR6/2)炭化物・砂粒・焼土(0.5~2・3mm)を少量含む。
- 9 褐灰色土(10YR5/1)黄褐色粒・砂粒(0.5~1・2mm)を少量含む。
- 10 褐灰色土(10YR5/1)焼土粒をごく少量含む。
- 11 灰黄褐色土(10YR5/2)砂粒・黄褐色粒(1~3mm)、明青灰色粘土粒(2~3mm)を少量含む。
- 12 におい黄褐色土(10YR5/3)黄褐色砂粒・焼土粒・炭化物(0.5~2・3mm)を少量含む。粘性・しまり弱い。



第118図 17号住居と出土遺物

18号住居 (第119図 PL39 遺物観察表P.371)

位置 A6区4K-7,8グリッド

形状 全体に上部の削平が著しく、形状を明確にとらえることができないが、南北に長いゆがんだ横長長方形の平面形を呈するものと考えられる。各隅は丸みを持ち、隅丸長方形に近いものだろう。

規模 長辺 2.74m 短辺 1.94m 面積 5.64㎡

方位 N-101°-E

柱穴・周溝・貯蔵穴 なし。

埋没土 床面は、ごく少量の焼土粒を含み、シルトをやや多く含む褐灰色土で覆われている。

確認最大壁高及び壁の状況 4cm。削平が著しく、詳細は把握できない。

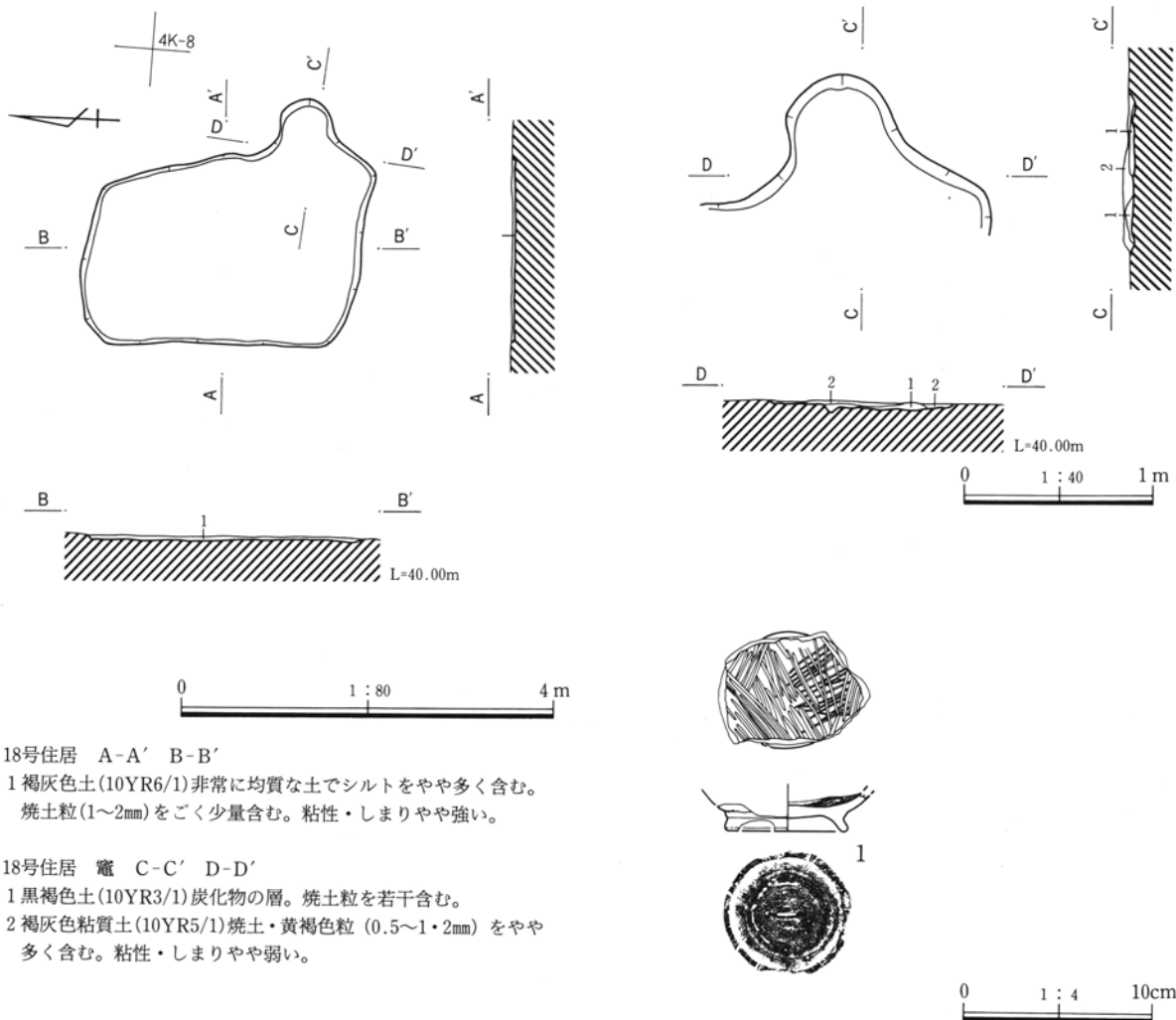
床面の状況及び床下施設等 北辺がやや低くなるがほぼ平らに仕上げられる。貼り床はない。

竈 燃烧部底面のみを確認したにとどまる。東壁南端近くを、壁外に半円形に掘り込んで燃烧部を作っている。煙道、袖は分からない。底面には炭化物が堆積し、その上に乗っている褐灰色粘質土が構造材として用いられたものだろうか。

重複 なし。

遺物と出土状況 ごく少ない。床面に接して出土した遺物はない。埋没土から土師器、須恵器の細片が出土している。

その他 平安時代(10世紀代)



18号住居 A-A' B-B'

1 褐灰色土(10YR6/1)非常に均質な土でシルトをやや多く含む。焼土粒(1~2mm)をごく少量含む。粘性・しまりやや強い。

18号住居 竈 C-C' D-D'

1 黒褐色土(10YR3/1)炭化物の層。焼土粒を若干含む。
2 褐灰色粘質土(10YR5/1)焼土・黄褐色粒(0.5~1.2mm)をやや多く含む。粘性・しまりやや弱い。

第119図 18号住居と出土遺物

19号住居(第120・121図 PL39・143 遺物観察表P.371)

位置 A6区4J,4K-8,9グリッド

形状 南北に長い長方形の平面形を呈する。西壁が東壁よりわずかに短い。北東隅に竈が作られる。他の各隅はやや丸みを持って屈曲している。東西両壁は直線的だが、南壁はややふくらむ。

規模 長辺 5.80m 短辺 3.54m 面積 20.11m²

方位 N-94°-E

柱穴・周溝・貯蔵穴 なし。

埋没土 壁際は炭化物を少量含む褐灰色土が堆積するが、西壁部のみ黒褐色土が見られる。床面中央は少量の焼土とわずかな炭化物を含む褐灰色土で覆われる。

確認最大壁高及び壁の状況 25cm。わずかに上方に

開くが、やや丸みを持って立ち上がり、ほぼ直立する。

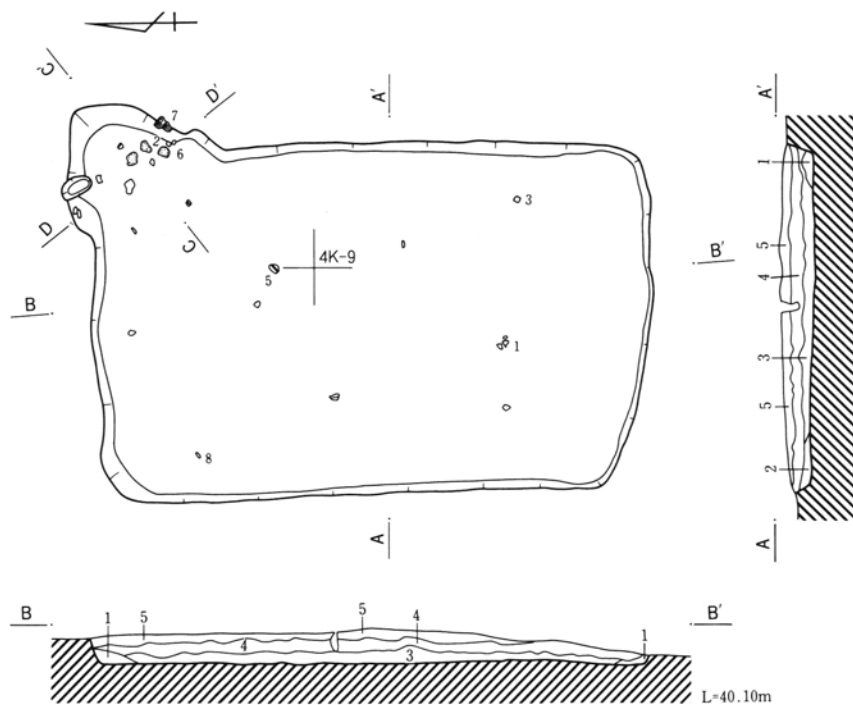
床面の状況及び床下施設等 ほぼ平らに仕上げられる。貼り床はない。

竈 北東隅の壁を北東方向にU字形に掘り込んで燃焼部を作っている。煙道は分からない。燃焼部幅1.05m、確認長1.5mほどの大きさで、燃焼部右壁に構造材と考えられる角礫、円礫が見られる。埋没土には焼土、炭化物の混入は少なく、粘質土も見られない。

重複 46号住居より新しい。

遺物と出土状況 竈内及びその周辺に甕、羽釜の破片がまとまるが、他は小片が全体に散在する。

その他 平安時代(10世紀後葉)



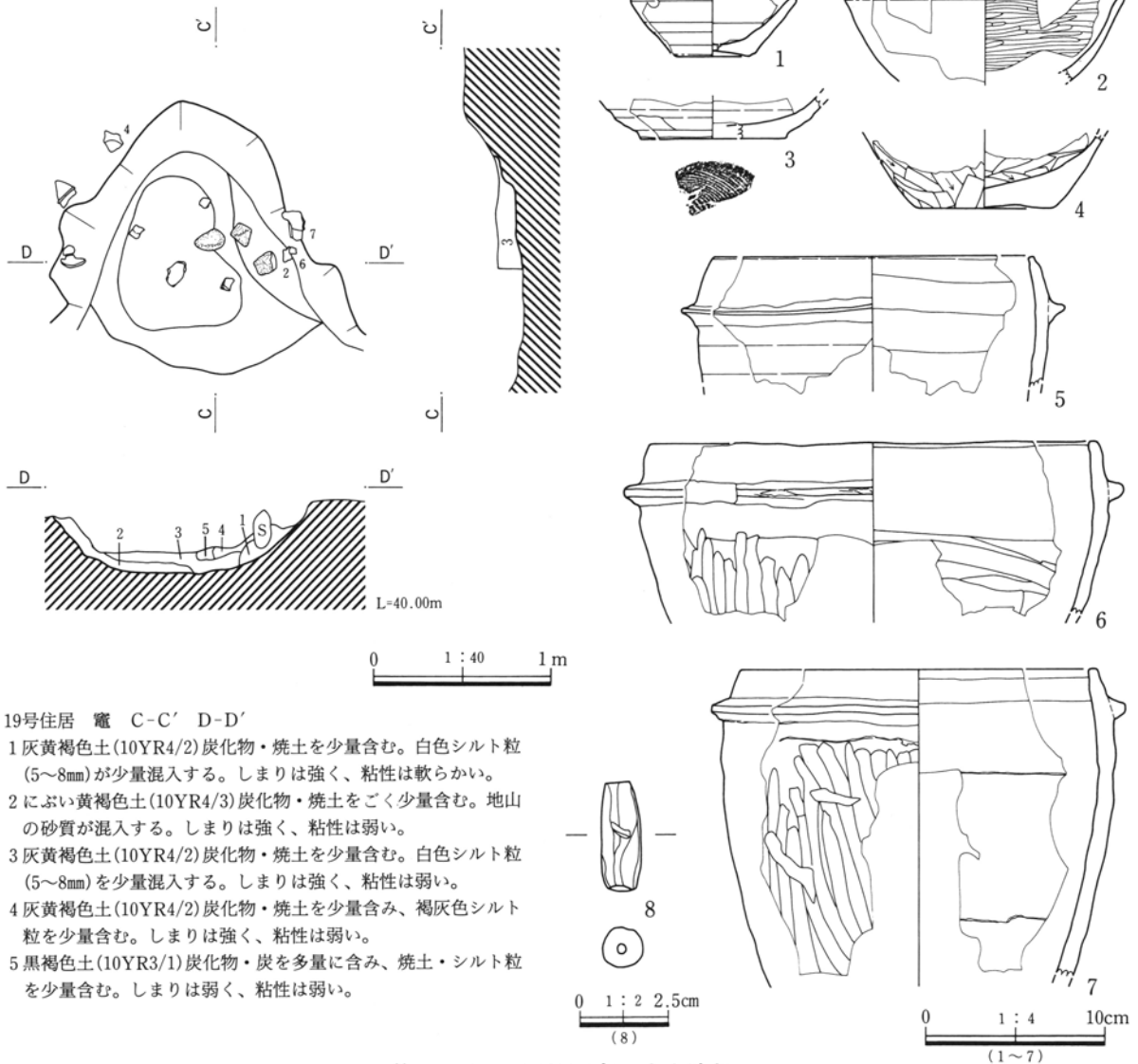
19号住居 A-A' B-B'

- 1 褐灰色土(10YR4/1)炭化物が少量含まれる。しまりは強く、粘性はやや強い。
- 2 黒褐色土(10YR3/1)炭化物・焼土を少量含む。しまりは強く、粘性はやや強い。
- 3 褐灰色土(10YR4/1)炭化物をごく少量・焼土を少量含む。地山シルトが少量混入。しまりは強く、粘性はやや強い。

- 4 褐灰色土(10YR4/1)炭化物・焼土をごく少量含む。しまりは強く、粘性は弱い。全体に植物の根による鉄の凝集が著しく、灰黄褐色を呈する。
- 5 灰黄褐色土(10YR4/2)炭化物・焼土を少量含む。しまりは強く、粘性は弱い。

0 1 : 80 4 m

第120図 19号住居



19号住居 竈 C-C' D-D'

- 1 灰黄褐色土(10YR4/2)炭化物・焼土を少量含む。白色シルト粒(5~8mm)が少量混入する。しまりは強く、粘性は軟らかい。
- 2 におい黄褐色土(10YR4/3)炭化物・焼土をごく少量含む。地山の砂質が混入する。しまりは強く、粘性は弱い。
- 3 灰黄褐色土(10YR4/2)炭化物・焼土を少量含む。白色シルト粒(5~8mm)を少量混入する。しまりは強く、粘性は弱い。
- 4 灰黄褐色土(10YR4/2)炭化物・焼土を少量含む、褐灰色シルト粒を少量含む。しまりは強く、粘性は弱い。
- 5 黒褐色土(10YR3/1)炭化物・炭を多量に含み、焼土・シルト粒を少量含む。しまりは弱く、粘性は弱い。

第121図 19号住居竈と出土遺物

20号住居(第122・123図 PL40・143 遺物観察表P.371)

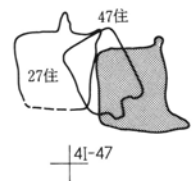
位置 A6区4H, 4I-7, 8グリッド

形状 南北に長い隅丸長方形の平面形を呈する。東辺の両端に竈がある。東壁南端の竈(竈2)が最終的に使用されていたものと考えられるので、横長の形態とみてよいだろう。西辺の両隅は丸みを持っている。南壁は直線的だが、他の三辺はわずかながら蛇行する。

規模 長辺 3.42m 短辺 2.84m

方位 N-97°-E

柱穴・周溝・貯蔵穴 なし。



埋没土 住居中央に炭化物や焼土粒を少量含むシルト質の灰黄褐色土がわずかに盛り上がるように堆積し、その上面を炭化物の薄い層が覆う。この上位には灰褐色粘質土が堆積し、壁際の床面から住居全体を覆う。

確認最大壁高及び壁の状況 9.5cm。わずかに上方に開くが、やや丸みを持って立ち上がり、ほぼ直立する。

床面の状況及び床下施設等 北西方向にわずかに下がる。中央部はやや盛り上がる。貼り床はない。

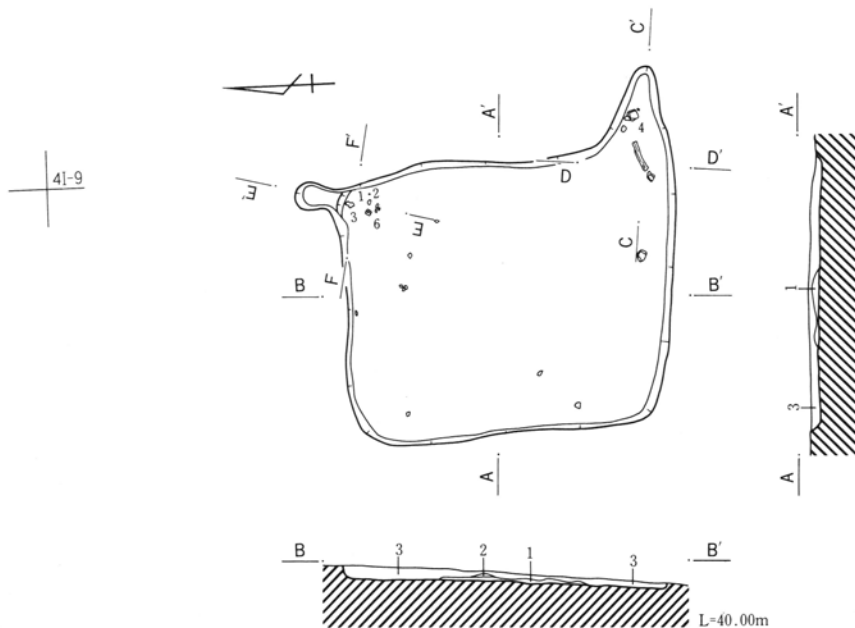
竈 東壁の両端に各1基作られている。南端の竈(竈1)は東壁北端を東側に向かって90cmほどV字状に掘り込んで燃焼部と煙道を作っている。燃焼部右壁が住居南壁の延長上にある。内側幅73cm。燃焼部中央の底面が溝状に窪み、炭化物層で埋まる。埋没土は全体に焼土や炭化物を多く含む。燃焼部内に円筒埴輪片、形象埴輪片があり、本遺跡の他例から見て竈の構造材として用いられていたものと思われる。東壁北端の竈(竈2)は北東隅に幅40cm、長さ45cmほどの楕円形の掘り込みを作って燃焼部とし、北壁の東端を北に向かって掘り込んで短い煙道を作る。

煙道の右壁が住居東壁の延長上にあるが、主軸はやや東に振れる。燃焼部から30cmほどの煙道を経て径28cmほどの煙道口に達する。全体の平面形は瓢形を呈することになる。埋没土には焼土、炭化物を多く含む。燃焼部内から羽釜片、小型の皿状土器と羽口が出土している。羽口は立った状態にあり、竈の構造材であった可能性がある。

重複 47号住居より新しい。

遺物と出土状況 竈内に多く、他は全体に甕を中心とする破片が散在するが住居中央部には見られない。竈1からは土器類は出土せず、埴輪のみである。

その他 平安時代(11世紀前半)

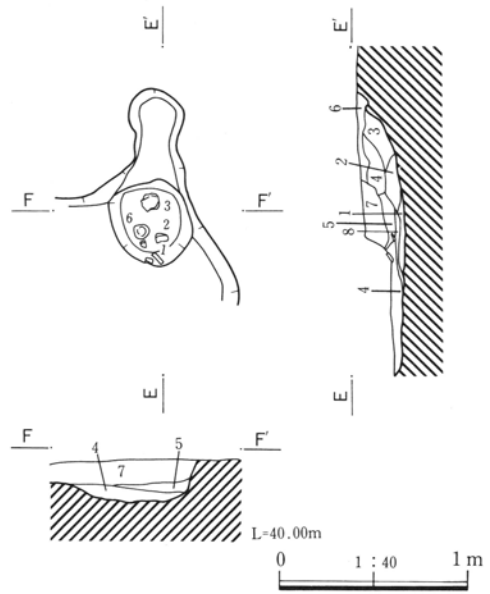
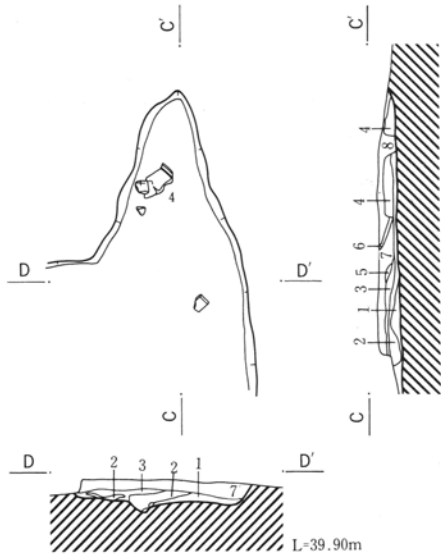


20号住居 A-A' B-B'

- 1 灰黄褐色土(10YR6/2) 2層よりやや明るい色調を呈し、2層よりややシルトがかった土。炭化物・焼土粒(0.5~1・3mm)を少量含む。
- 2 灰黄褐色土(10YR5/2) 砂礫・黄褐色粒(1~3mm)をやや多く、炭化物(1~3mm)を若干含む。粘性・しまりやや強い。(3層よりやや弱い)
- 3 褐灰色粘質土(10YR6/1) 砂礫・黄褐色粒(0.5~2・3mm)を少量含む。粘性・しまり非常に強い。

0 1 : 80 4 m

第122図 20号住居

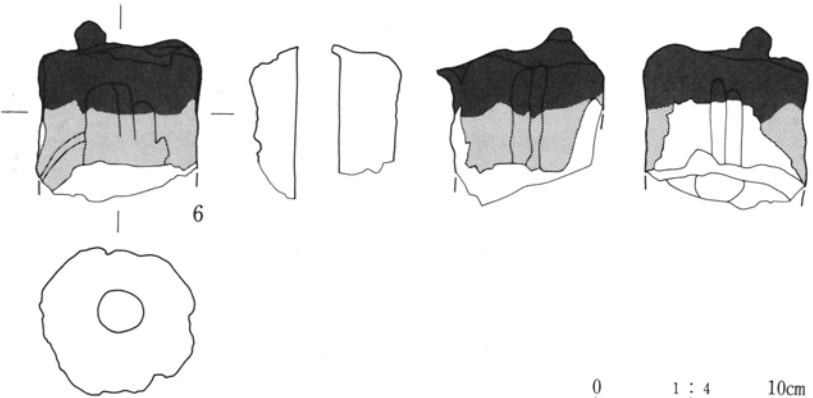
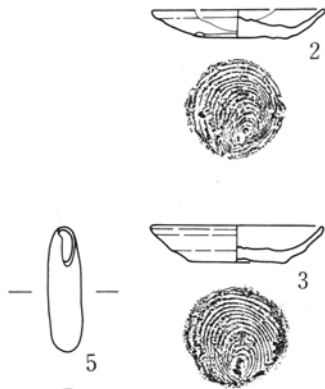
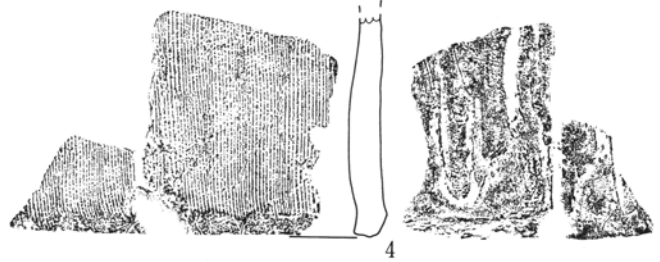
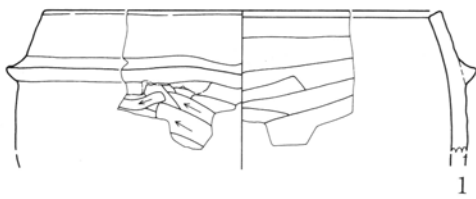


20号住居 竈1 C-C' D-D'

- 1 黒褐色土(10YR3/1)炭化物を多く含む。
- 2 灰黄褐色土(10YR5/2)砂粒・焼土粒を若干含む。
- 3 灰黄褐色土(10YR5/2)焼土塊(1~15mm)をやや多く含む。粘性・しまり強い。(竈煙道部)
- 4 粘土塊。
- 5 褐灰色土(10YR4/1)砂礫・小石(0.5~2・3mm)、焼土塊(1~5mm)を若干、炭化物塊(1~4mm)を少量含む。粘性・しまりやや強。
- 6 灰黄褐色土(10YR5/2)焼土塊(0.5~5mm)・炭化物塊(2~5mm程度)を若干含む。粘性・しまりやや強い(5層よりやや強い)。
- 7 褐灰色粘質土(10YR5/1)砂礫・小石(0.5~1・2mm)、焼土粒(2・3mm)をやや多く含む。粘性・しまり強い。
- 8 灰褐色土(10YR6/2)焼土粒・炭化物を多量に、砂粒・黄褐色粒(0.5~2・3mm)をやや多く含む。

20号住居 竈2 E-E' F-F'

- 1 におい黄褐色土(10YR5/3)微細な砂粒(1mm以下)を極少量含。
- 2 黒褐色土(10YR3/2)炭化物層。
- 3 灰黄褐色土(10YR5/2)炭化物・焼土塊を多量に含む。
- 4 褐灰色土(10YR5/1)焼土粒(0.5~3mm)・炭化物(1~3mm)などを若干含む。
- 5 黒褐色土(10YR3/1)炭化物を多量に含み、粘性・しまりやや弱。
- 6 黒褐色土(10YR3/1)焼土粒・炭化物を多く含む。粘性・しまりやや弱い。
- 7 褐灰色粘質土(10YR6/1)焼土粒・黄褐色粒(0.5~2・3mm)を少量含む。粘性・しまりやや強い。
- 8 灰層



0 1 2 2.5cm
(5)

0 1 4 10cm
(1~4・6)

第123図 20号住居竈と出土遺物

21号住居(第124図 PL40・41・143 遺物観察表P.371)

位置 A6区4G-8グリッド

形状 東西に長い縦長隅丸長方形の平面形を呈する。各隅はやや丸みを持って屈曲する。北壁は直線的だが、東壁はややふくらみ、南壁と西壁はわずかに蛇行する。

規模 長辺 3.16m 短辺 2.29m 面積 6.98m²

方位 N-90°-E

柱穴・周溝・貯蔵穴 なし。

埋没土 南北の壁際には焼土、炭化物粒を含む灰黄褐色粘質土が見られる。主体的には炭化物や焼土を少量含む褐灰色土が床面を覆う。

確認最大壁高及び壁の状況 12.5cm。南壁部は崩れ

て不明瞭。残存部はわずかに上方に開くが、やや丸みを持って立ち上がり、ほぼ直立する。

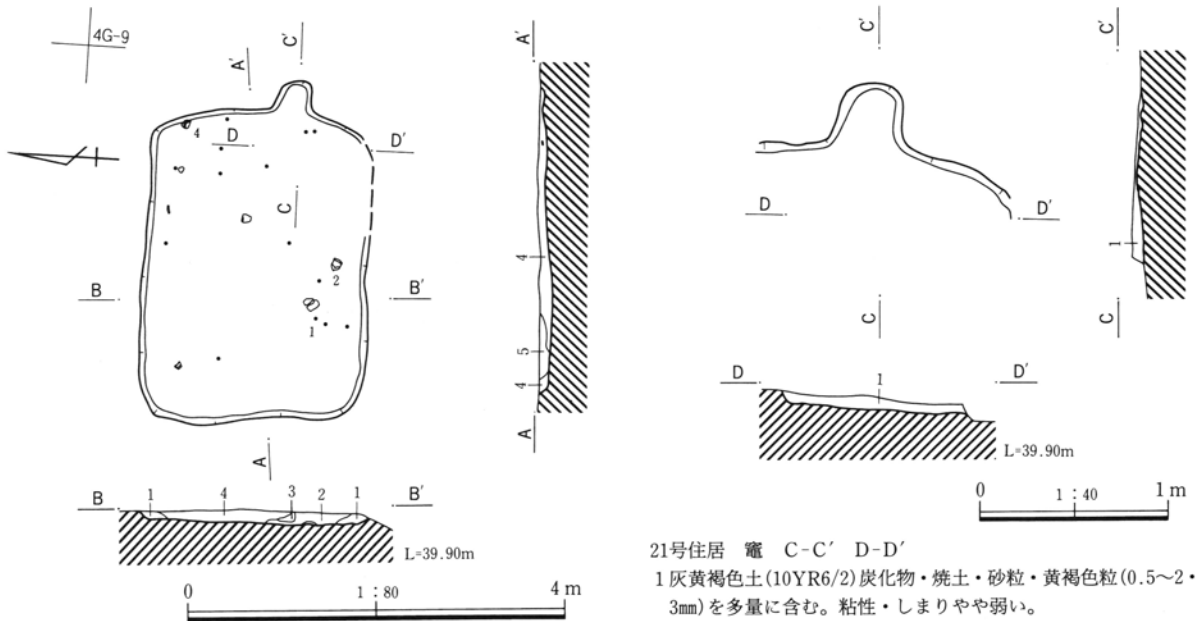
床面の状況及び床下施設等 東南部がやや低くなる。貼り床はない。

竈 東壁南寄りに壁を北方向にU字形に掘り込んで燃烧部を作っている。煙道は分からない。燃烧部幅0.4m、確認長0.8mほどの大きさで、燃烧部内円礫が見られるが構造材であるかどうか分からない。埋没土は焼土、炭化物を含む灰黄褐色土。

重複 22号住居より新しい。

遺物と出土状況 出土遺物数は少ない。甕、埴類の破片が住居東半に散在する。

その他 平安時代(10世紀前葉)

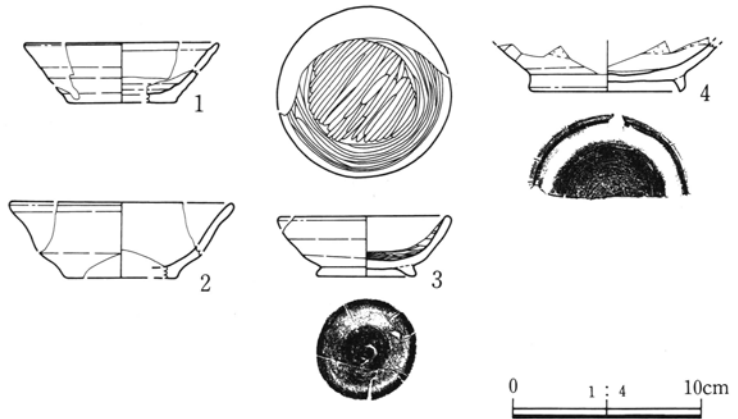


21号住居 竈 C-C' D-D'

1 灰黄褐色土(10YR6/2)炭化物・焼土・砂粒・黄褐色粒(0.5~2.3mm)を多量に含む。粘性・しまりやや弱い。

21号住居 A-A' B-B'

- 1 灰黄褐色粘質土(10YR4/2)炭化物粒・焼土(0.5~2.3mm)を少量含む。粘性・しまり2層よりさらに強い。
- 2 灰黄褐色粘質土(10YR6/2)砂粒・焼土粒(0.5~2.3mm)、黄褐色粒・炭化物(0.5~1mm)をやや多く含む。粘性・しまりやや強い。
- 3 褐灰色土(10YR4/1)炭化物・焼土粒をやや多く含む。粘性・しまりやや弱い。
- 4 褐灰色土(10YR5/1)炭化物・焼土粒・砂粒(0.5~5mm)を少量含む。粘性・しまり5層より強い。
- 5 灰黄褐色粘質土(10YR5/2)炭化物・焼土粒(1~3mm)を少量含む。粘性・しまり強い。



第124図 21号住居と出土遺物

22号住居

(第125・126図 PL41・143・144 遺物観察表P.371)

位置 A6区4F, 4G-7, 8グリッド

形状 ややゆがむがほぼ方形の平面形を呈する。南東隅は丸みが少なくやや鋭角に屈曲する。

規模 長辺 2.58m 短辺 2.56m 面積 6.33㎡

方位 N-91°-E

柱穴・周溝・貯蔵穴 なし。

埋没土 焼土、炭化物や明青灰色粘土粒を含む灰色土で一様に埋まる。

確認最大壁高及び壁の状況 29cm。やや丸みを持って立ち上がり、わずかに上方に開く。

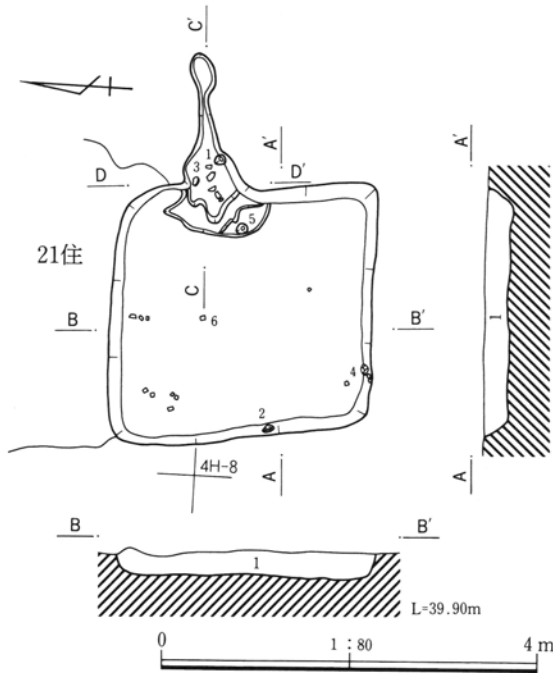
床面の状況及び床下施設等 住居中央部がわずかに

高くなるがほぼ平らに仕上げられる。貼り床はない。

竈 東壁の北部を半円形に掘り込んで燃焼部を作り細長く煙道を延ばす。袖はない。確認長1.74mで、壁から1mほどの所で直径25cmほどの煙道口に至る。燃焼部幅50cm。埋没土には構築材に用いられたと考えられる明青灰色粘土塊が見られ、竈前にこの粘土が帯状塊として残り、底面にもこれが見られる。重複 21号住居より古い。

遺物と出土状況 出土遺物数は多くない。竈内に完形の坏、埴や坏片、甕片があり、他は壁際に小さくまとまる。

その他 平安時代(10世紀前葉)



22号住居 A-A' B-B'

1 灰色土(10Y5/1)炭化物・焼土(1~2mm)・砂粒(0.5~1・2mm)を若干、明青灰色粘土粒(1~2mm)をごく少量含む。粘性・しまりやや強い。

22号住居 竈 C-C' D-D'

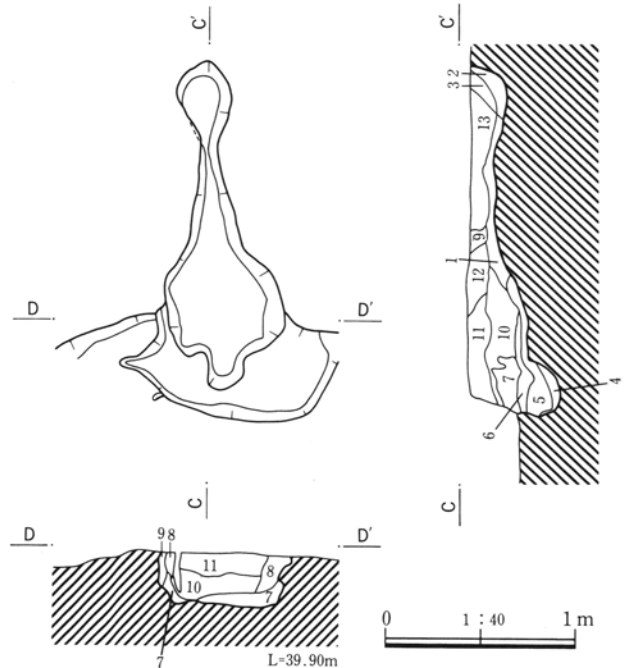
1 灰黄褐色土(10YR5/2)炭化物を多量に、焼土粒(1~3mm)をやや多く含む(煙道部)。粘性・しまりやや弱い。

2 黒褐色土(10YR3/1)炭化物を多量に含み、焼土(0.5~2・3mm)をやや多く含む。粘性・しまり弱い。

3 灰白色土(5Y7/2)ベースとなるのは灰白色土であるが、明青灰粘土塊(1~20mm)をやや多く、炭化物・焼土粒(0.5~2・3mm)を若干含む。粘性・しまり1層よりかなり強い。

4 灰黄褐色土(10YR5/2)砂粒・焼土(1~5mm)をやや多く含む。

5 黒褐色土(10YR3/1)炭化物層、焼土(1~10mm)を若干含む。



6 褐灰色土(10YR6/1)砂粒・小石・黄褐色粒(0.5~1・2mm)を多量に、明青灰色粘土塊(0.5~5mm)をやや多く含む。

7 明青灰色土(5B G 7/1)粘土塊。

8 灰白色土(2.5Y 7/1)ベースとなるのは灰白色土であるが、明青灰色粘土塊(1~30mm)を多量に含む。

9 焼土。

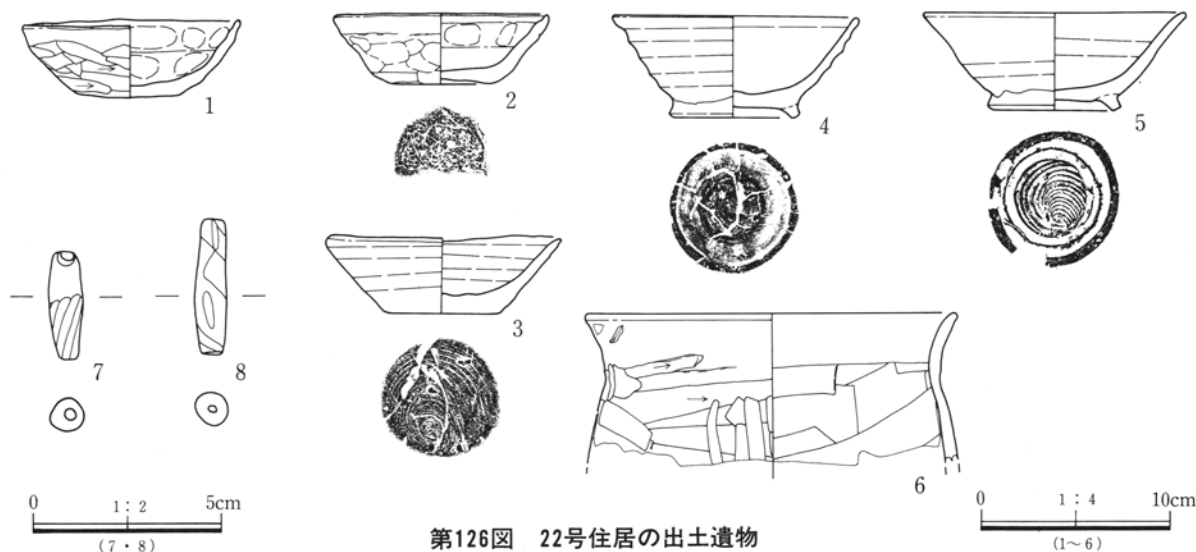
10 灰黄褐色土(10YR4/2)炭化物・焼土粒(1~2mm)・砂粒(0.5~1mm前後)をごく少量含む。粘性・しまりやや弱い。

11 灰白色土(2.5Y 7/1)炭化物粒(1mm以下)を少量、青灰白色粘土の粒(1~10mm)をやや多く含む。粘性・しまりやや強い。

12 灰黄色土(2.5Y 6/2)砂粒・焼土粒(1mm以下)をやや多く含む。粘性・しまりかなり弱い。

13 灰黄褐色土(10YR6/2)炭化物・焼土粒・砂粒(1~2mm)をやや多く含む。粘性・しまり11・12層より強い。

第125図 22号住居



第126図 22号住居の出土遺物

23号住居(第127図 PL41・42・144 遺物観察表P.372)

位置 A6区4E, 4F-3~5グリッド

形状 上面の削平が著しく、南を旧河道に切られること、竈が不明瞭であることなどから全体の形状を確定することができない。残存する埋没土の範囲からみると、南北に長いゆがんだ長方形に近い形面形を呈するものと思われる。東壁北寄り部分に竈を想定すれば横長長方形となる。東壁は比較的直線的に延びるが、北壁と西壁は蛇行している。南壁は旧河道に切られている。西壁の中央近くと想定される部分には、幅1.2m、奥行き38cmほどのコの字状の張り出しがある。張り出し部の床面は住居本体の床面と段差なく連続している。類似した張り出しは14号住居の北壁部にもみられる。

規模 南北確認長 5.6m 東西最大長 3.1m

方位 N-82°-E

柱穴 なし。南東部に33cm×24cm、深さ18.5cmほどのピットがあるが、他に組み合う施設はなく、柱穴であるかどうか確認できない。

周溝・貯蔵穴 なし。

埋没土 炭化物粒や焼土粒をわずかに含む褐灰色粘質土で埋まる。

確認最大壁高及び壁の状況 3.5cm。上面の削平により詳細な観察はできない。

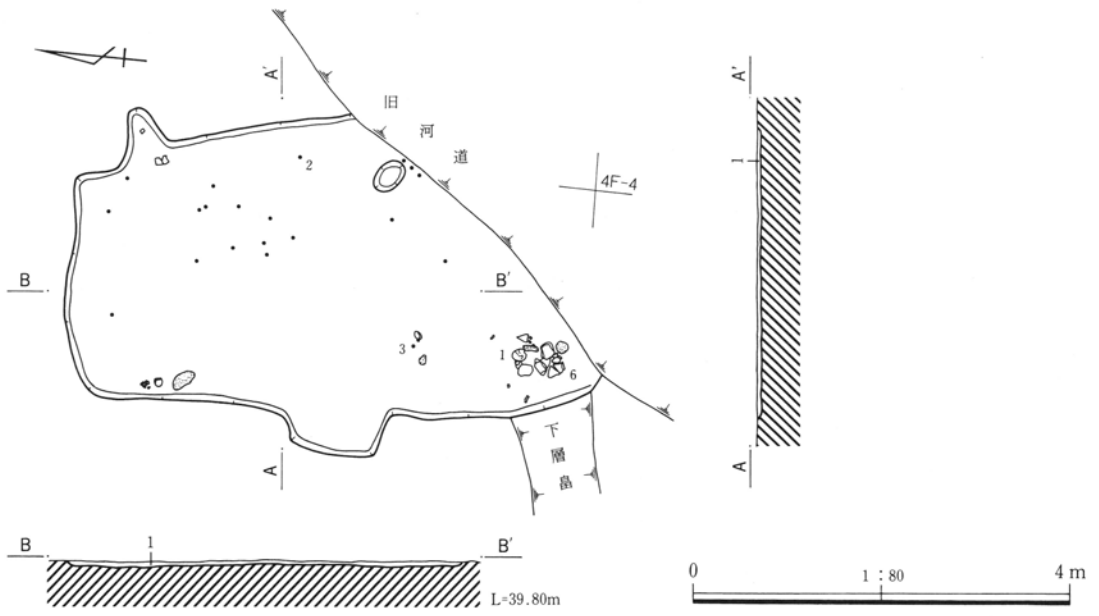
床面の状況及び床下施設等 南の旧河道寄りが低くなるがほぼ平坦に仕上げられる。貼り床は認められない。

竈 東壁北端近くに、壁外に向けてU字形に掘り込んだ部分があり、この部分から甕片が出土している。これを一応竈と考えておくと、明瞭な焼土や炭化物層などが認められず、構造をとらえることもできなかったため、確定できない。本遺跡の他の住居の例からみて、東壁南寄りの、旧河道に切られた部分に竈があった可能性もなしとしない。

重複 旧河道より古い。下層畠遺構の上に乗る。

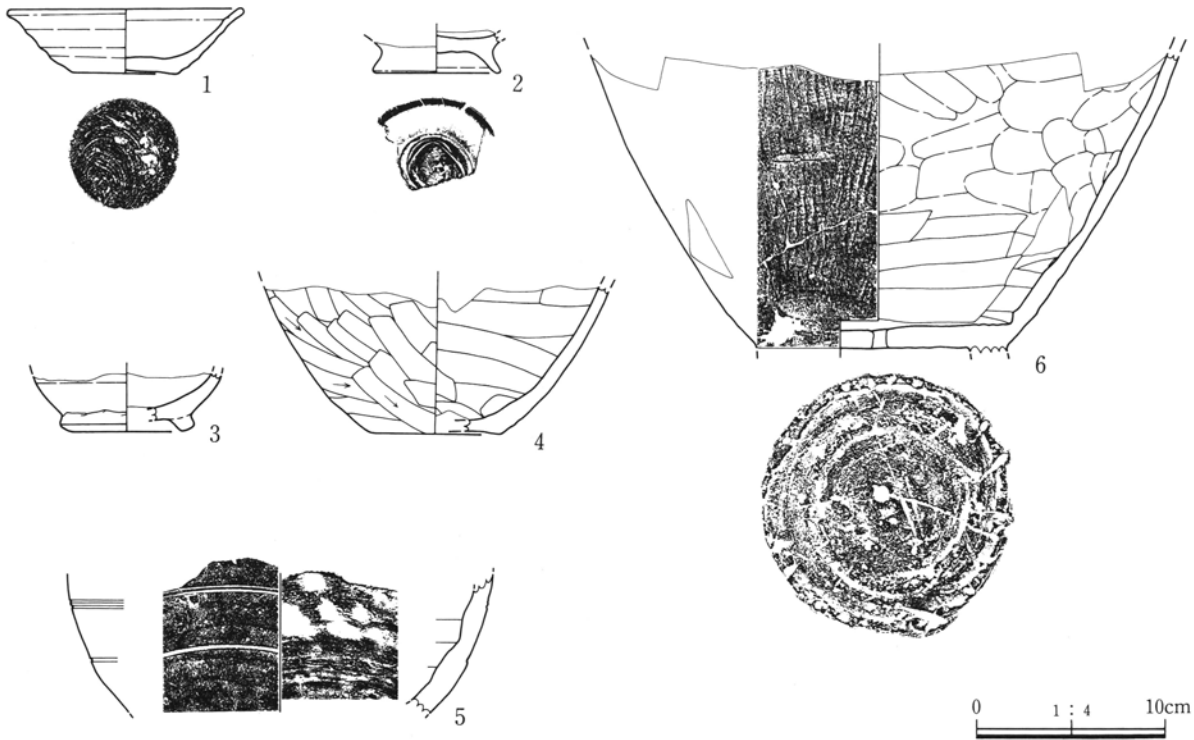
遺物と出土状況 竈想定位置から甕片が出土している。南西隅部には底部に円孔を有する須恵器甕の胴下半部片とほぼ完形の坏が出土し、周囲に円礫や角礫がまとまってみられるが、構造の有無をとらえることはできなかった。また、西壁北寄り部分でも長円形の礫と土器破片が小さくまとまる。他は全体に小破片が散在する。

その他 平安時代(10世紀前葉)



23号住居 A-A' B-B'

1 灰黄褐色粘質土(10YR5/2)砂粒(0.5~1・2mm)・同大の炭化物・
 焼土粒などをごく少量含む。粘性・しまり強い。



第127図 23号住居と出土遺物

24号住居(第128~130図 PL42・144・145 遺物観察表P.372)

位置 A6区4E, 4F-9, 10グリッド

形状 南北にやや長い横長長方形の平面形を呈する。各隅はわずかに丸みを持って屈曲するが、南東隅は竈の右手で小さく屈曲した後に、隅切り状に角度をかえている。

規模 長辺 3.24m 短辺 2.58m 面積 9.52㎡

方位 N-104°-E

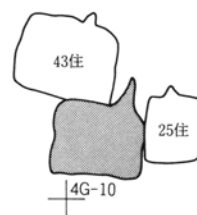
柱穴・周溝・貯蔵穴 なし。

埋没土 細砂をごく少量含む灰白色土で埋まっている。壁際も灰白色土で埋まるが、黄褐色粒が少量混入する。

確認最大壁高及び壁の状況 20cm。わずかに上方に開くが、丸みを持たずに立ち上がり、ほぼ直立する。

床面の状況 東南方向にやや下がるが、ほぼ平らに仕上げられる。貼り床はない。

竈 東壁の南端近くを壁外にコの字状に掘り込んで燃焼部の東端と煙道を延ばす。燃焼部の主体は住居内に置かれ、地山を掘り残した袖がこれを囲むように作られている。確認長2.2m、燃焼部幅34cm。煙道

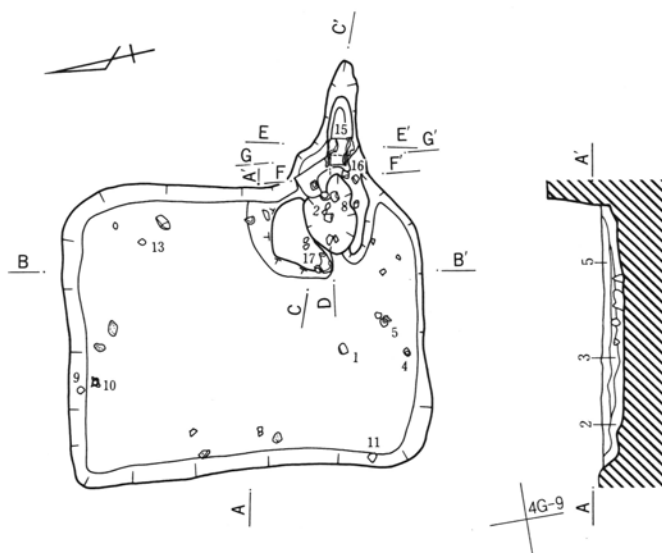


は住居外に細長く延びる。煙道の底部に貼られたような状態で、土釜の口縁から胴部上半にかけての破片が出土している。

重複 43号住居より新しい。25号住居と接するが、確認面では直接切り合わず、土層断面は新旧関係を確認することができない。出土土器の様相からみると、24号住居の方がやや新しいもののように見受けられる。

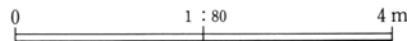
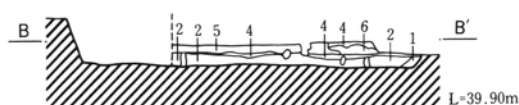
遺物と出土状況 竈内及びその周辺に甕類の大型破片がまとまり、坏もみられる。住居内に坏類を中心とする土器片と円礫、亜角礫が散在しているが、住居中央部にはほとんどなく、やや壁際にかけての出土が多い。

その他 平安時代(10世紀後葉)

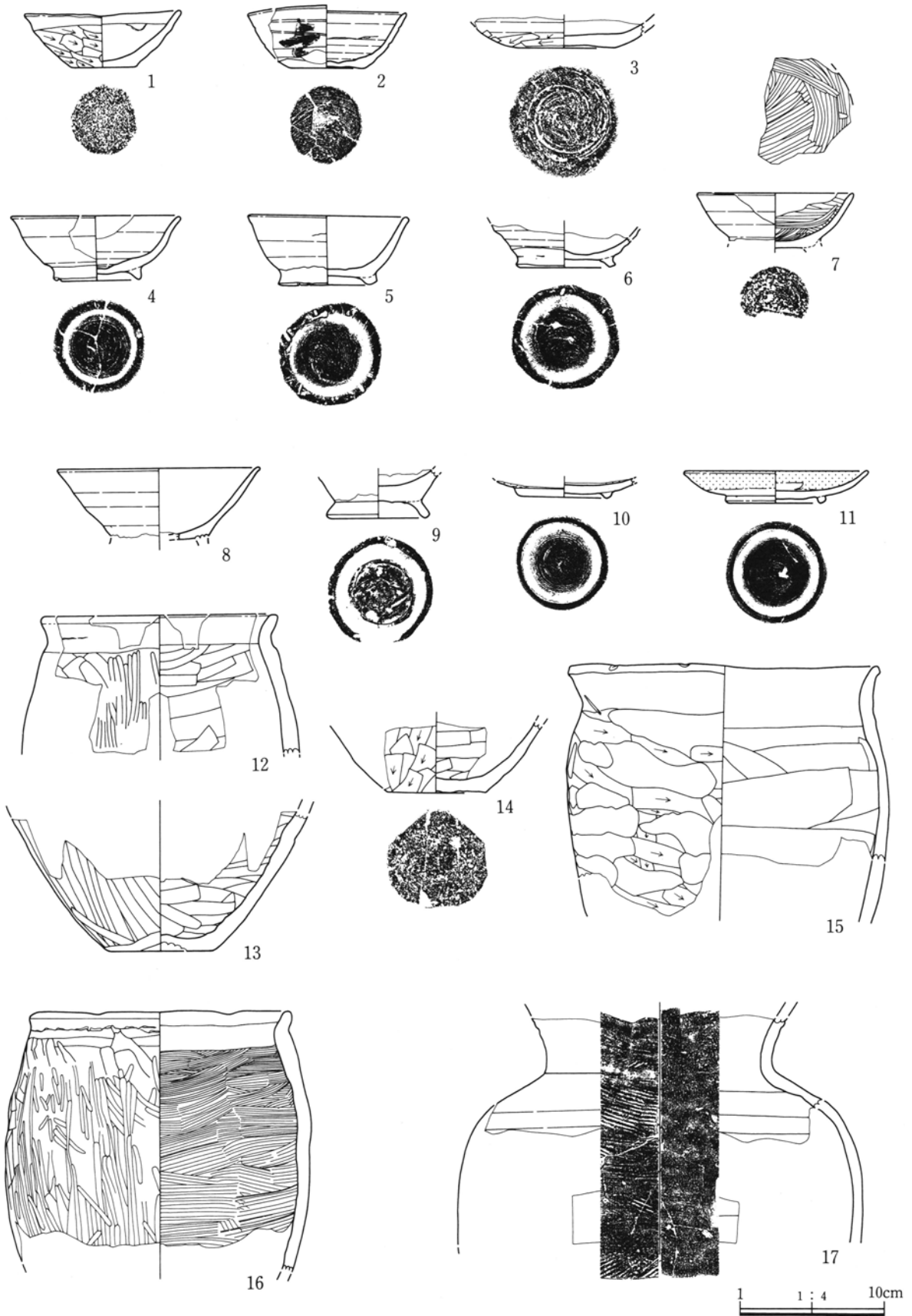


24号住居 A-A' B-B'

- 1 灰白色土(2.5YR7/1)黄褐色粒を少量含む。
- 2 灰白色土(5Y7/1)φ1mm前後の微細な砂粒をごく少量含む。
- 3 灰白色土(5Y8/1)6層よりさらに白っぽく明るい色調を呈し、φ0.5~2.3mmの黄褐色粒、砂礫などをごく少量含む。
- 4 褐灰色土(10YR4/1)炭化物がラミナ状に互層に堆積する。焼土粒をやや多く含む。
- 5 灰黄褐色土(2.5Y6/2)φ1mm以下~2.3mmの砂粒・黄褐色粒を少量含む。
- 6 灰黄褐色土(2.5Y7/2)φ1~5mmの砂礫をごく少量含む。

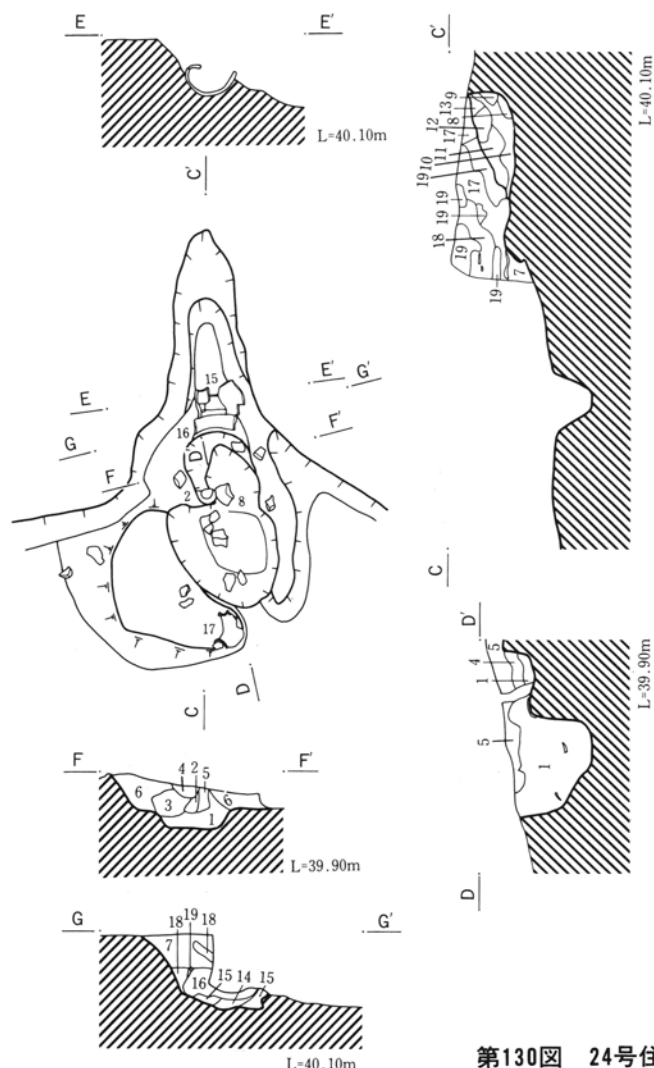


第128図 24号住居



第129図 24号住居の出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物



第130図 24号住居竈

24号住居 竈 C-C' D-D' F-F' G-G'

- 1 黒褐色土(10YR3/1)炭化物・焼土を多量に含む。
- 2 灰黄褐色土(10YR5/2)φ1~10mmの炭化物・焼土粒をやや多く含む。粘性・しまりやや強い。
- 3 灰黄褐色土(10YR4/2)φ1~10mmの焼土・炭化物を多量に含む。
- 4 において黄橙色土(10YR6/3)φ2~10mmの焼土粒、φ0.5~1mm前後の炭化物を若干含む。
- 5 褐灰色土(10YR6/1)φ0.5~2・3mmの赤褐色・黄褐色粒、φ0.5~1・2mmの炭化物を少量含む。
- 6 橙色土(7.5Y7/6)焼土をベースとする黒褐色土・灰褐色土の塊を若干含む。
- 7 灰黄褐色土(2.5Y7/2)φ0.5~1・2mmの砂礫・炭化物・焼土をやや多く含む。
- 8 褐灰色土(10YR6/1)きめの細かい土をベースとしφ1~2mmの砂礫・炭化物をごく少量含む。
- 9 暗灰黄褐色土(2.5Y4/2)φ0.5~2・3mmの砂礫・炭化物・焼土粒を少量含む。
- 10 黒褐色土(10YR3/1)φ1~10mmの焼土塊を炭化物塊と交互にまだら状に含む。
- 11 において褐色土(7.5Y5/3)非常にきめの細かい土をベースとし、φ0.5~1・2mmの砂礫を少量含む。
- 12 暗黄褐色土(2.5Y5/3)φ1~5mm前後の焼土塊・炭化材を交互にまだら状に含む。
- 13 黄灰色土(2.5Y4/1)φ1~5mm前後の焼土塊・炭化材を交互にまだら状に含む。
- 14 灰白色砂質土(2.5Y7/1)焼土細粒を少量含む。
- 15 褐灰色粘土(10YR5/1)多量の焼土小塊(φ1~2mm)を含む。
- 16 褐灰色粘土(10YR5/1)焼土粒を少量含む。
- 17 黄灰色土(2.5Y5/1)焼土粒・炭化物を多量に含む。
- 18 黄灰色土(2.5Y6/1)焼土粒・褐灰色粘土(10YR5/1)塊(φ3~5mm)を含む。
- 19 焼土塊

25号住居 (第131図 PL42・43・145 遺物観察表P.372・373)

位置 A6区4E,4F-8,9グリッド

形状 東西に長い縦長長方形の平面形を呈する。各隅はわずかに丸みを持って屈曲する。

規模 長辺 2.42m 短辺 2.14m 面積 5.39m²

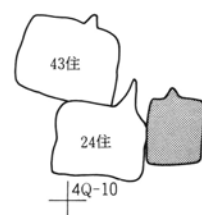
方位 N-97°-E

柱穴・周溝・貯蔵穴 なし。

埋没土 細砂と黄褐色粒をごく少量含む灰色土で埋まる。

確認最大壁高及び壁の状況 32cm。わずかに上方に開くが、丸み持たずに立ち上がり、ほぼ直立する。

床面の状況 東南方向にやや下がるがほぼ平らに仕上げられる。貼り床はない。

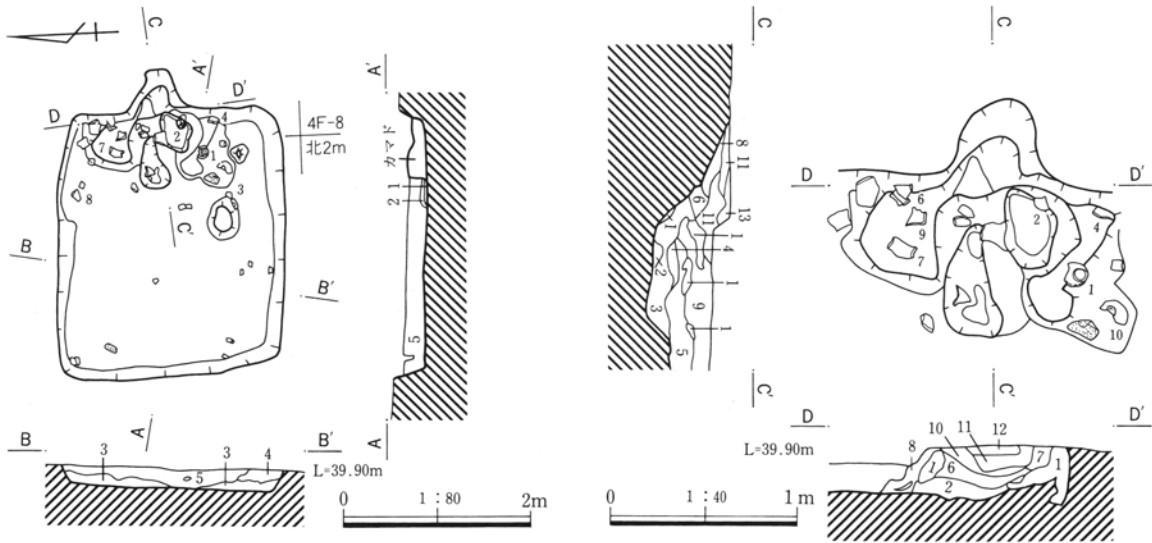


竈 東壁の中央よりやや北を掘り込んで煙道を立ち上げる。燃焼部は住居内に置かれ、明青灰色粘土で袖を作っている。確認長1.1m、燃焼部幅54cm。

重複 24号住居と接する。土層断面では新旧関係が明確ではないが、出土土器の様相は24号住居の方がやや新しいように見受けられる。

遺物と出土状況 竈内及びその周辺に大型破片がまとまるが、他は住居東半部に散在する。

その他 平安時代(10世紀中葉)



25号住居 A-A' B-B'

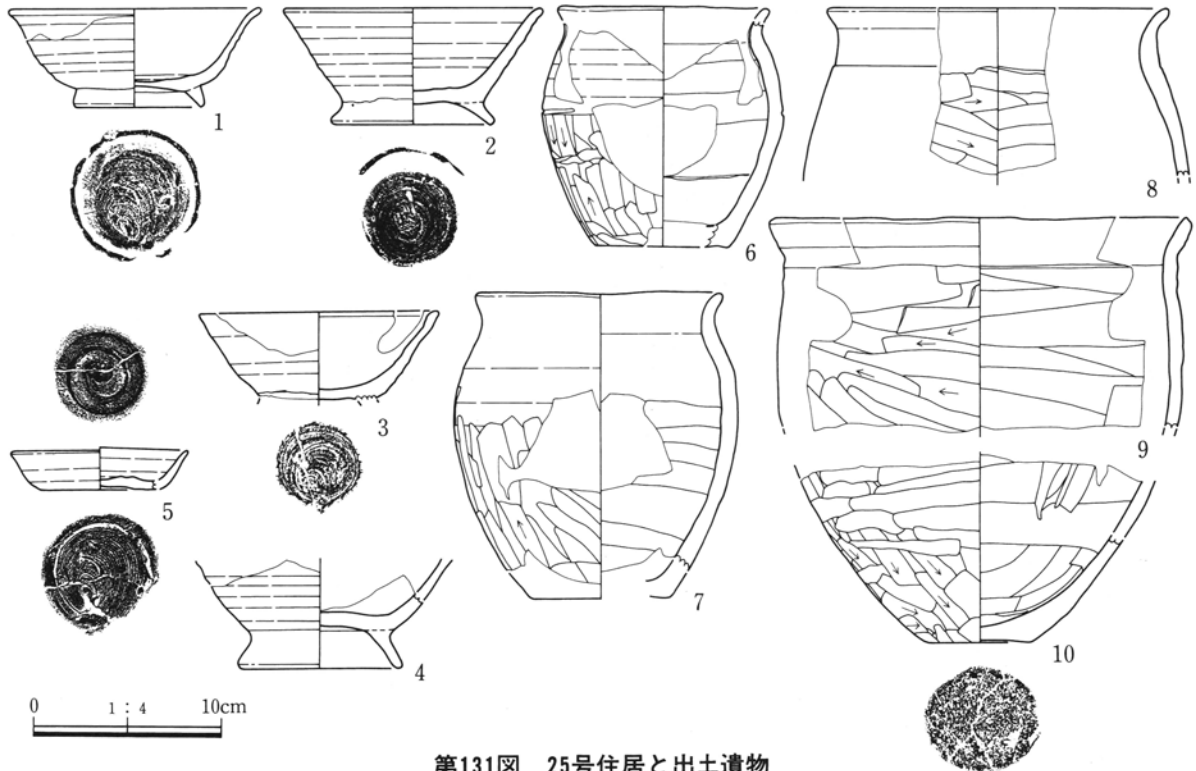
- 1 褐灰色土(10YR4/1)炭化物を多量に含む。
- 2 灰黄褐色土(10YR6/2) ϕ 0.5~5mmの焼土・黒褐色粒・炭化物を少量含む。
- 3 灰色土(5Y6/1) ϕ 1mm以下の砂粒・黄褐色粒をごく少量含む。
- 4 灰白色土(7.5Y7/1) ϕ 1mm以下の砂粒・黄褐色粒を微量含む。
- 5 褐灰色土(10YR6/1) ϕ 1mm以下の砂粒・黄褐色粒を少量含む。

25号住居 竈 C-C' D-D'

- 1 褐灰色土(10YR6/1) ϕ 0.5~2・3mmの焼土・明青灰色粘土を少量含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/1)炭化物、 ϕ 1~5mmの焼土粒を多量に含む。
- 3 灰黄褐色土(2.5Y6/2) ϕ 1~3mmの炭化物・焼土粒を若干含む。
- 4 灰色土(10YR6/1) ϕ 1~10mmの明青灰色粘土塊を多量に含む。
 ϕ 0.5~1mm前後の砂粒・焼土粒をごく少量含む。粘性・しまりやや強い。

- 5 黄灰色土(2.5Y5/1) ϕ 1mm以下の砂粒・黄褐色粒をごく少量含む。
- 6 灰黄褐色土(10YR6/2) ϕ 0.5~2・3mmの焼土・黄褐色粒を少量含む。

- 7 褐灰色土(10YR4/1) ϕ 1~2mmの黄褐色粒を少量含む。
- 8 灰白色土(10YR7/1) ϕ 0.5~1・2mmの砂粒・黄褐色粒を少量含む。
- 9 灰色土(5Y5/1) ϕ 1~3mmの青灰色粘土粒を少量含む。 ϕ 1~2mmの明黄褐色粘土を若干含む。粘性・しまりやや強い。
- 10 明青灰色土(5B G7/1)粘土層。
- 11 灰黄褐色土(10YR6/2)青灰色粘土塊を若干含む。粘性・しまり13層と同程度。
- 12 褐灰色土(10YR5/1) ϕ 1~5mmの砂粒を若干含む。
- 13 褐灰色土(10YR6/1) ϕ 0.5~5mmの明青灰色粘土粒を少量含む。
 ϕ 1mm以下の焼土・砂粒をごく少量含む。 ϕ 1mm以下の炭化物を若干含む。粘性・しまり4層よりやや弱い。



第131図 25号住居と出土遺物

27号住居(第132・133図 PL43・145 遺物観察表P.373)

位置 A6区4I,4J-7,8グリッド

形状 南壁が不明瞭なため確定できないが、ほぼ方形の平面形と思われる。北西隅部は丸みを持って屈曲する。

規模 南北 3.18m 東西 3.12m 面積 9.67㎡

方位 N-2°-E(竈1) N-45°-E(竈2)

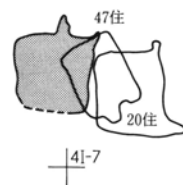
柱穴・周溝・貯蔵穴 なし。

埋没土 北部のみの観察だが、炭化物、焼土粒を含む灰黄褐色土で埋まる。

確認最大壁高及び壁の状況 23cm。残存部ではわずかに上方に開くが、やや丸みを持って立ち上がり、ほぼ直立する。

床面の状況及び床下施設等 南がやや低くなる。貼り床はない。

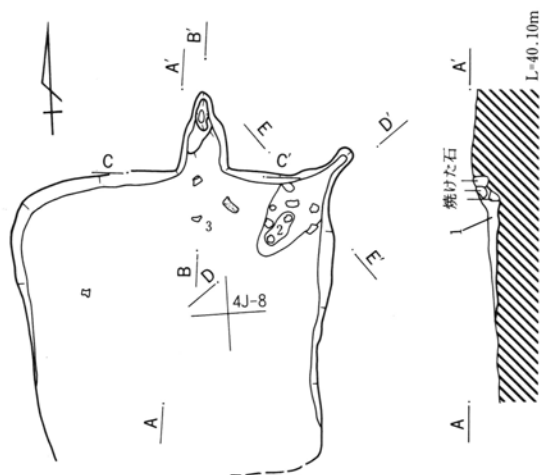
竈 北壁東寄り(竈1)と北東隅(竈2)の2か所に作られている。竈1は壁を東方向に掘り込んで燃焼部と煙道を作る。袖に当たる位置に礫があって、石組の焚き口を持っていたものと考えられる。確認長95cmで、袖石の内側幅40cm、壁から62cmの位置で



直径18cmほどの煙道口を確認している。煙道はわずかに上方に開くが、ほぼ垂直に立ち上がって煙道口に至る。燃焼部内側はよく焼けている。竈2は北東隅部の壁を北東方向に掘り込んで燃焼部の半ばと煙道を作っている。袖はなく、石の使用もない。確認長1.45mで燃焼部幅約50cm、壁から70cmの位置で直径18cmほどの煙道口を確認している。燃焼部と煙道は段差を持つが、煙道はなだらかに立ち上がって煙道口に至る。竈1と比べて燃焼部内の焼け方は弱い。重複 47号住居より新しい。

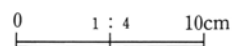
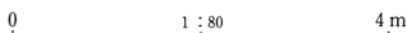
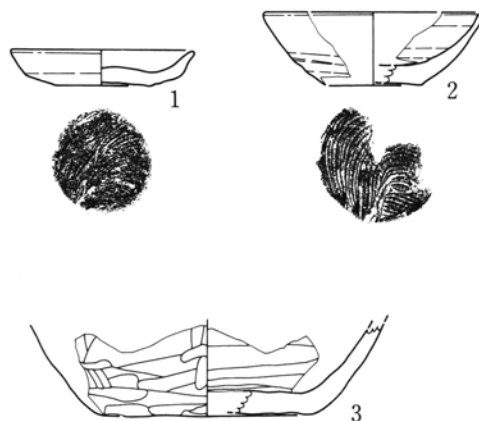
遺物と出土状況 出土遺物数は少ない。竈内及び周辺に集中する。

その他 平安時代(10世紀中葉)

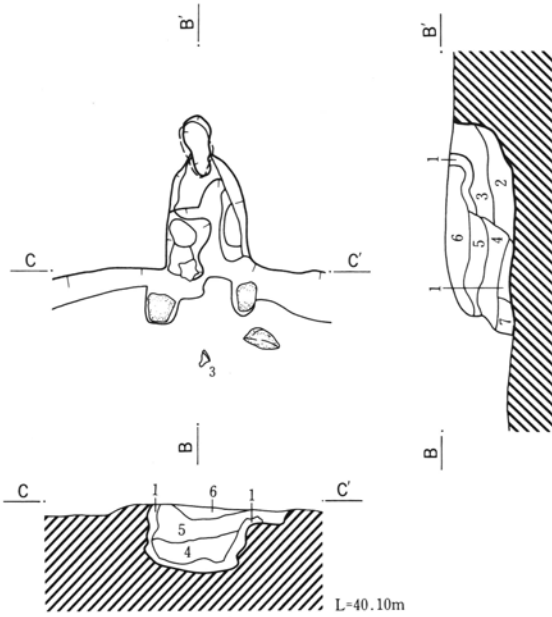


27号住居 A-A'

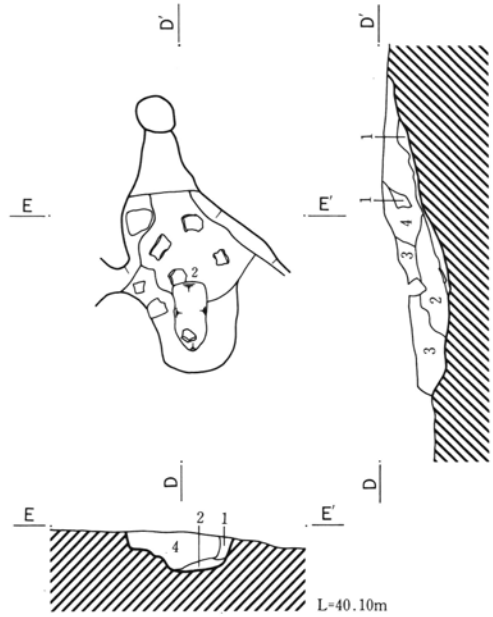
1 灰黄褐色土(10YR6/2)砂粒・黄褐色粒・灰白色粒(1~3mm)をごく少量含み、炭化物・焼土粒(0.5~1・2mm)を若干含む。粘性、しまり強い。



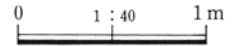
第132図 27号住居と出土遺物



- 27号住居 竈1 B-B' C-C'
- 1 灰黄褐色土(10YR5/2)炭化物・焼土を多量に含む。
 - 2 黄灰色土(2.5Y5/1)砂粒・炭化物・焼土(0.5~2・3mm)を少量含む。
 - 3 黄灰色土(2.5Y4/1)焼土塊(1~20mm)を多く含む、炭化物(1~15mm)を少量含む。
 - 4 褐灰色土(10YR5/1)焼土(1~3mm)を若干含む。
 - 5 褐灰色土(10YR6/1)砂粒・焼土(1~2mm)を若干含む。
 - 6 におい黄橙色土(10YR6/3)砂礫・小石・黄褐色粒(0.5~2・3mm)を若干含む。
 - 7 橙色土(5 YR7/6)焼土塊・炭化物を含む。



- 27号住居 竈2 D-D' E-E'
- 1 焼土。
 - 2 褐灰色土(10YR5/1)焼土粒(0.5~1・2mm)を多量に含み、砂粒・黄褐色粒(0.5~3mm)をごく少量含む。粘性・しまりやや強い(4層よりやや弱い)。炭化材がやや多く混入する。
 - 3 灰黄褐色土(10YR6/2)灰白色粒(0.5~1mm)をやや多く含み、黄褐色粒(1~2mm)を少量、炭化物を極微量含む。粘性・しまり4層より強い。
 - 4 褐灰色土(10YR6/1)焼土粒(0.5~2・3mm)をやや多く含み砂粒・炭化物(0.5~1・2mm)を少量含む。粘性・しまりやや強い。



第133図 27号住居竈

28号住居 (第134図 PL44・145 遺物観察表P.373)

位置 A6区4M,4N-1,2グリッド

形状 東西に長い縦長長方形と思われるが、南西部は調査区外となり、北壁は大きく11号住居に切られるため全体の形状を把握できない。

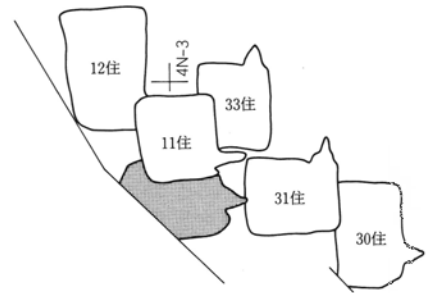
規模 東西確認長 4.2m 南北推定長 3.0m

方位 N-90°-E (竈)

柱穴・周溝・貯蔵穴 なし。

埋没土 竈周辺の部分的な観察にとどまるが灰白色粘土粒、焼土粒を含むシルト質の灰黄色土で埋まる。確認最大壁高及び壁の状況 28cm。わずかに上方に開くが、やや丸みを持って立ち上がり、ほぼ直立する。

床面の状況及び床下施設等 ほぼ平らに仕上げられる。貼り床はない。



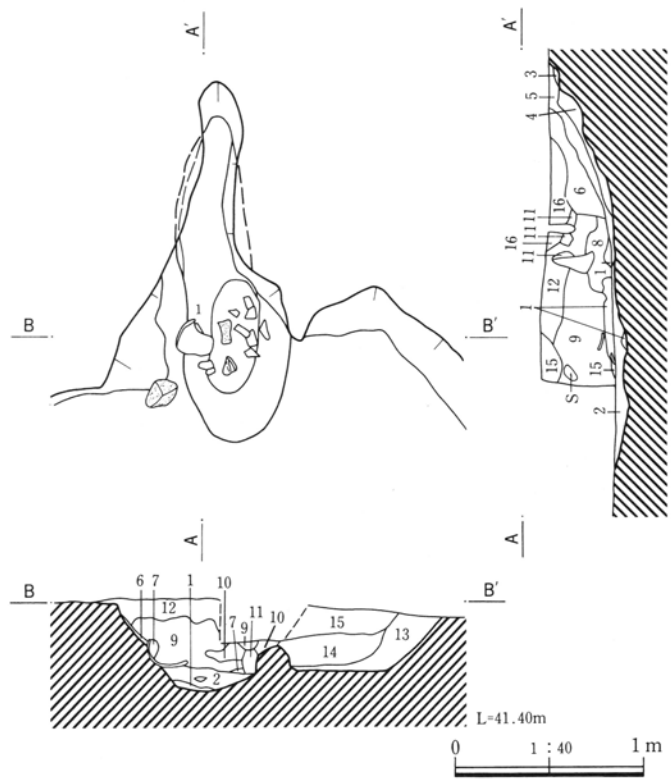
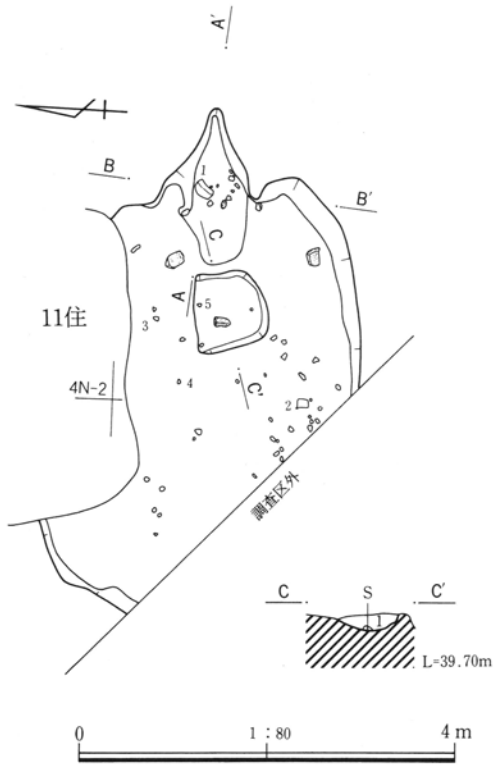
竈 東壁南寄りの壁をV字形に掘り込んで、燃烧部の半ばと煙道を作っている。確認長1.9m、燃烧部幅58cm。左袖部には角礫があるが、右袖部にはみられず、地山をわずかに掘り残したかのような小さな張り出しがある。壁から1.5mほど外に直径24cmほどの煙道口がある。竈前に1辺80cmほどの方形の土坑が掘られており、埋没土には焼土塊、灰白色粘土と炭化物片を多量に含む。

重複 11号住居より古い。

遺物と出土状況 竈内に大型の破片があるが、住居

全体に小片が散在する。

その他 平安時代（10世紀中葉）



28号住居 竈 A-A' B-B'

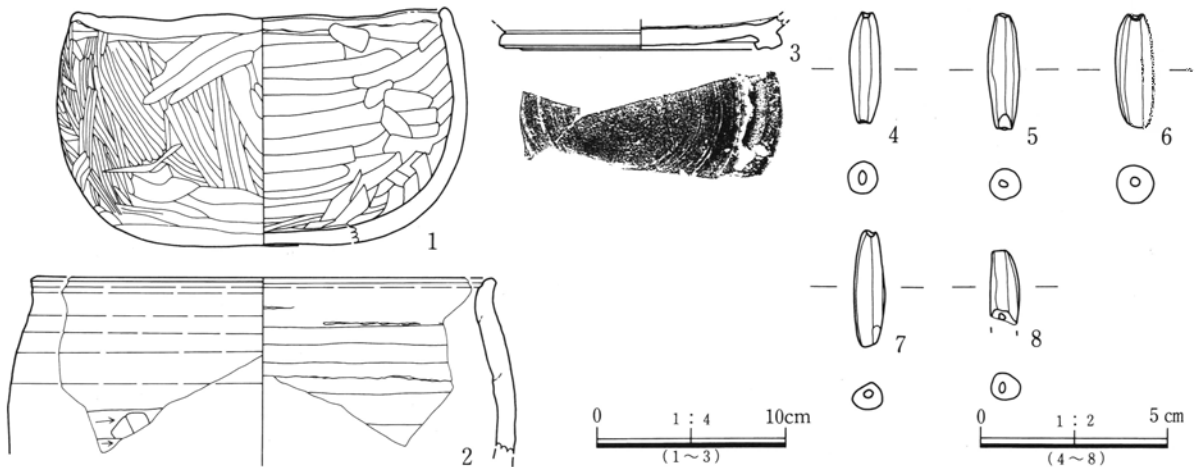
- 1 焼土。
- 2 灰層。
- 3 灰白色土(2.5Y7/1)焼土粒を含む。
- 4 黒褐色土(2.5Y3/2)焼土粒・炭化物粒を多く含む。
- 5 暗灰黄色土(2.5Y5/2)白色土粒・焼土粒(5mm)を多量に含む。
- 6 褐灰色土(10YR5/1)焼土塊(1cmほど)を含む。
- 7 黄灰色土(2.5Y5/1)灰白色粘土粒を多量に含む。
- 8 黄灰色シルト質土(2.5Y5/1)小塊・焼土小塊・灰白色粘土小塊の混土。
- 9 黄灰色土(2.5Y5/1)焼土粒・灰白色粘土粒・炭化物粒(5~10mm)を多く含む。

10 灰白色粘土塊(5Y8/2)

- 11 焼土塊。
- 12 黄灰色土(2.5Y6/1)焼土粒・灰白色粘土粒・炭化物粒を含む。
- 13 黄灰色土(2.5Y6/1)少量の焼土粒を含む。
- 14 褐灰色土(10YR4/1)焼土粒・炭化物粒・白色土粒を多く含む。
- 15 住居覆土上層。
- 16 黄灰色土(2.5Y6/1)少量の焼土粒を含む。シルト質。

28号住居 床下土坑 C-C'

- 1 褐灰色土(10YR6/1)焼土塊(20~30mm)・灰白色粘土小塊(5~10mm)・炭化物片(10~20mm)を多量に含む。やや粘質。



第134図 28号住居と出土遺物

29号住居 (第135・136図 PL44・45～145 遺物観察表P.373)

位置 A6区4K, 4L-10, 11グリッド

形状 わずかに南北に長い横長の長方形だが、北辺がやや短いため、北西隅はくびれながら開きぎみに屈曲する。他の隅はわずかな丸みを持って屈曲する。

規模 長辺 3.5m 短辺 2.9～3.1m 面積 10.67m²

方位 N-88°-E

柱穴・周溝 なし。

貯蔵穴 竈右手に当たる南東隅部にある。長軸63cm、短軸50cmほどのゆがんだ楕円形の平面形を呈し、床面からの深さは25cmほどある。底面はほぼ平らで炭化物などを含む黒褐色土で埋まる。

埋没土 炭化物粒、焼土粒をごく少量含む褐灰色土で埋まる。北壁近くには炭化物粒をやや多く含み、やや暗い色調の褐灰色土が堆積する。

確認最大壁高及び壁の状況 13.5cm。わずかに上方に開くが、やや丸みを持って立ち上がり、ほぼ直立

する。

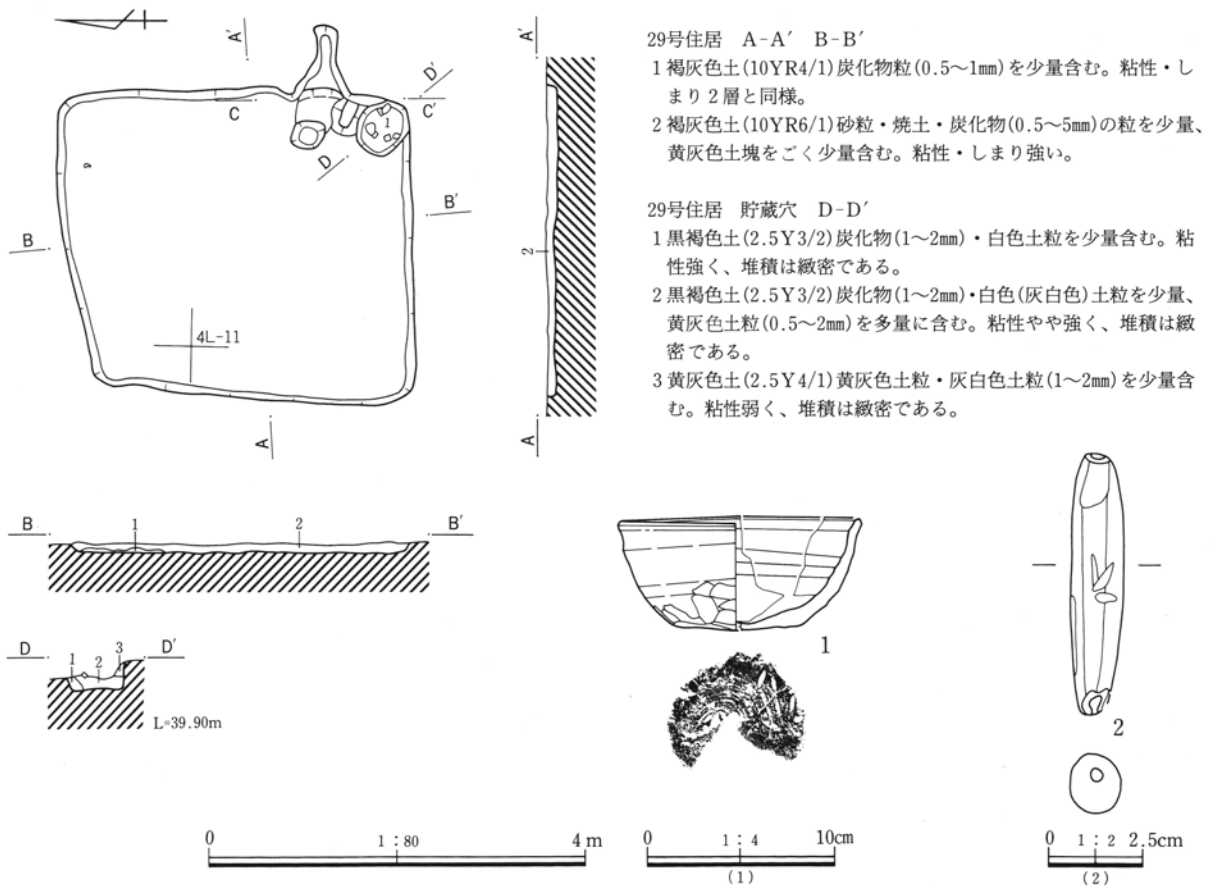
床面の状況及び床下施設等 ほぼ平らに仕上げられるが南西部がやや高い。貼り床はない。

竈 東壁の南部を壁外に掘り込んで、燃焼部の一部を作り、煙道を延ばしている。燃焼部の主体は住居内におかれ、明青灰色の粘土で構築している。右袖部ではこの粘土が良く残っている。一方、左袖は明確にとらえられなかった。焚き口部の前には、1辺30cmほどの隅丸方形の浅い窪みが作られている。確認長1.32m、袖部内側幅37cm。壁から70cmほど外で煙道が立ち上がる。

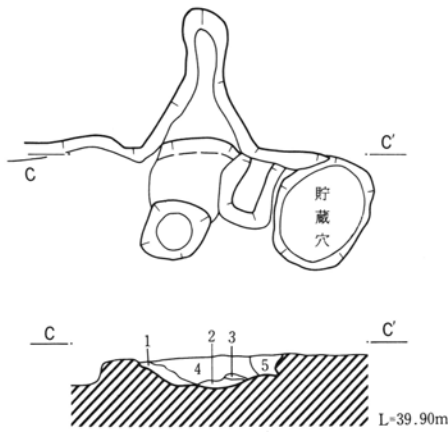
重複 なし。

遺物と出土状況 出土遺物数はごく少ない。貯蔵穴内から壺が出土しているほかは、北東隅近くに小片があるだけである。土錘は埋没土中からの出土である。

その他 平安時代 (10世紀中葉)

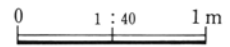


第135図 29号住居と出土遺物



29号住居 竈 C-C'

- 1 橙色土(2.5YR7/6)焼土。
- 2 灰黄褐色土(10YR5/2)砂粒(1mm以下)をごく少量、焼土粒(1mm前後)をやや多く、炭化物(0.5~1・2mm)をごく少量含む。粘性・しまりやや強い。
- 3 黒色土(5Y2/1)炭化物層(純層に近い)。焼土粒(0.5~1mm)を少量、砂粒(1mm以下)を若干含む。粘性・しまり弱い。
- 4 黄灰色土(2.5Y6/1)明青灰色粘質土塊(0.5以下~15mm)を少量、焼土塊(1~3mm)を若干、炭化物(0.5~1・2mm)をごく少量、黄褐色粒・赤褐色粒(0.5~2・3mm)(焼土ではない)をごく少量含む。粘性・しまりやや強い。
- 5 明青灰色土(5BG7/1)粘土をベースとし、灰色土塊がやや混入する。(竈袖部)



第136図 29号住居竈

30号住居(第137図 PL45・145・146 遺物観察表P.373)

位置 A6区4K,4L-50,1グリッド

形状 南北に長い横長長方形の平面形を呈するものと考えられる。北西隅は30号住居に切られるため、形状を確認できない。また、南西隅もわずかだが調査区外となって、南西隅部が把握できない。南壁の西部は上部が削られて正確には把握できない。北東隅はやや丸みを持って屈曲する。南東隅は、貯蔵穴を囲むように小さく屈曲した後に、隅切り状に角度をかえて南壁に接続している。

規模 長辺 4.14m 短辺 2.69m 面積 11.67m²

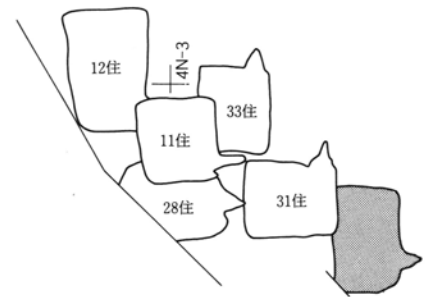
方位 N-93°-E

柱穴・周溝 なし。

貯蔵穴 竈右手に当たる、東南隅部にある。東壁はこの貯蔵穴を囲むように小さな屈曲部をもつ。貯蔵穴は1辺50cmほどの隅丸方形の平面形で、深さは10cmほどと浅く、底面は皿状に窪んでいて、平坦ではない。炭化物粒や焼土粒を含む灰黄褐色土で埋まっており、土器片が多く出土している。

確認最大壁高及び壁の状況 23cm。確認部分では、わずかに上方に開くが、やや丸みを持って立ち上がり、ほぼ直立する。

床面の状況及び床下施設等 北東方向に向かってや



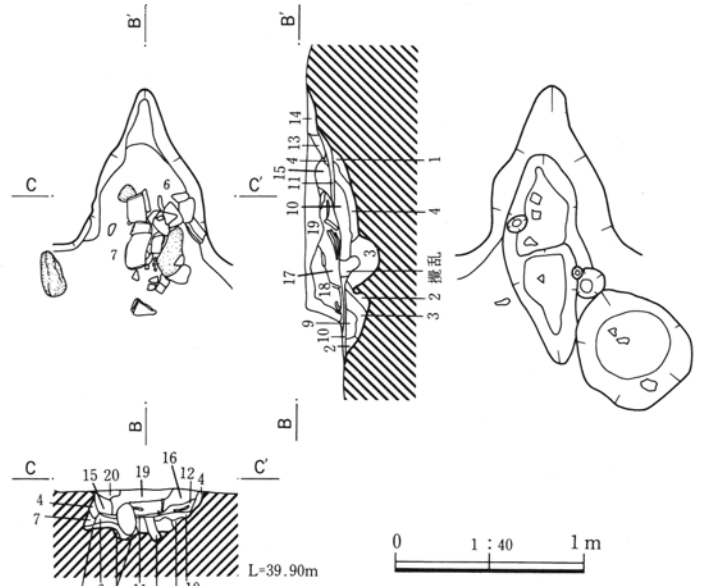
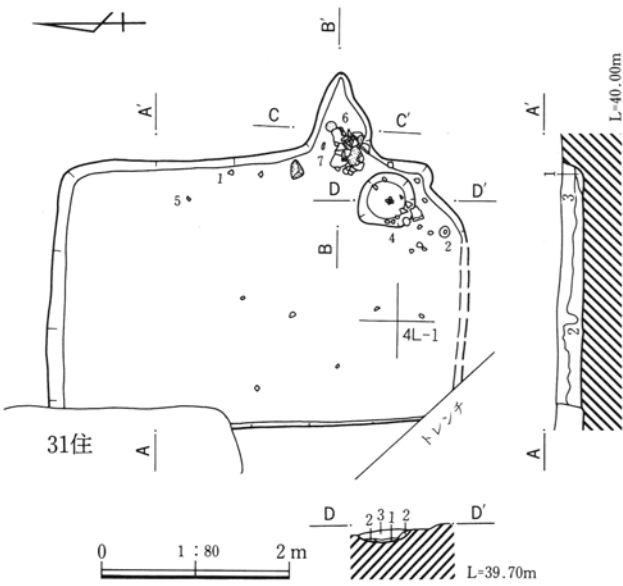
や下がるが、ほぼ平坦に仕上げられている。貼り床はない。

竈 東壁の南端近くを、壁外にU字形に掘り込んで、燃烧部の半ばを作り、煙道を延ばしている。燃烧部中央に支石、右袖部に袖石が残っている。左袖部近くにも垂角礫があって、これも袖石と思われるが、左右ともに明確な袖は見いだせない。確認長1.4m、燃烧部幅57cm。

重複 31号住居より古い。

遺物と出土状況 竈内から貯蔵穴上面にかけて甕片がまとまって出土している。他の破片は住居内に散在するが、住居北半には少なく、特に北西四半には埋没土を含め全く出土しない。

その他 平安時代(10世紀中葉)



30号住居 A-A'

- 1 褐灰色土 焼土粒を含む。
- 2 褐色土 焼土粒をわずかに含む。
- 3 灰黄褐色土 焼土粒・炭化物粒を含む。

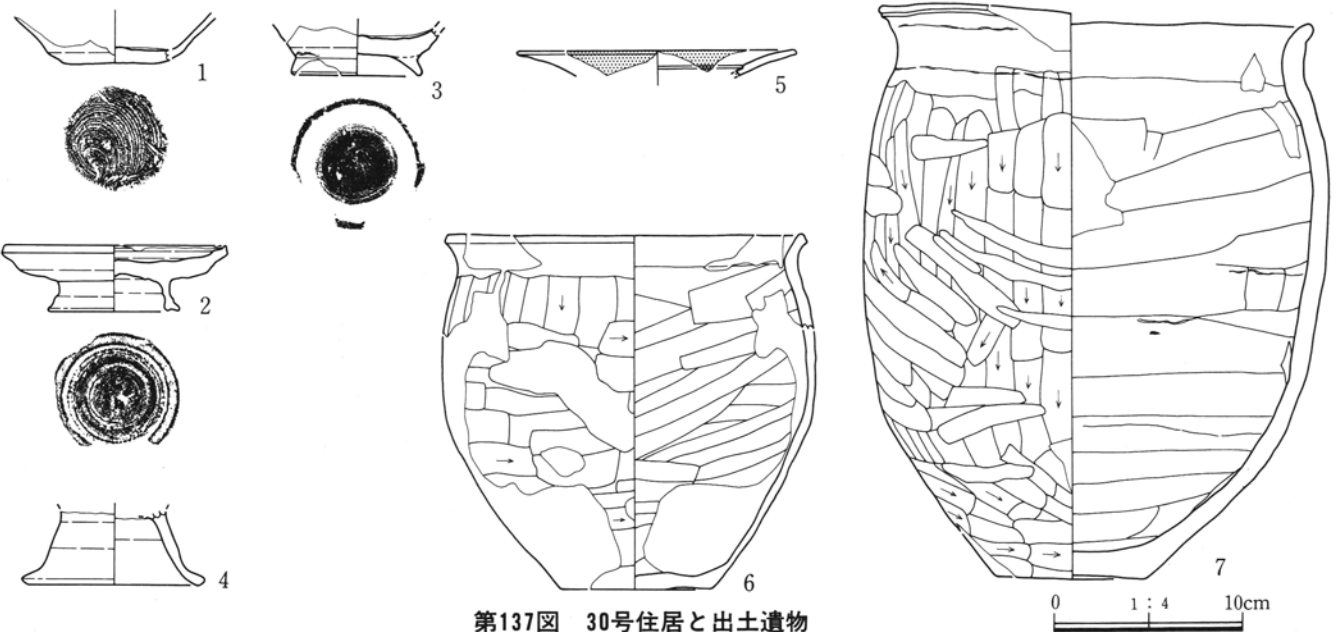
30号住居前土坑 D-D'

- 1 灰黄褐色土(10YR5/2)炭化物粒を含む。
- 2 灰黄褐色土(10YR5/2)焼土粒、褐灰色シルト質土地山塊(10~20mm)を含む。
- 3 灰黄褐色土(10YR5/2)焼土粒、灰白色土粒を含む。

30号住居 竈 B-B' C-C'

- 1 褐灰色土(10YR4/1)少量の焼土粒を含む。
- 2 灰白色土(10YR7/1)
- 3 褐灰色土(10YR5/1)焼土粒・炭化物粒を含む。
- 4 橙色土(7.5YR6/6)焼土塊。
- 5 褐灰色土(10YR4/1)多量の炭化物を含む。
- 6 褐灰色土(10YR4/1)焼土小塊(5~30mm)を含む。
- 7 灰黄褐色土(10YR4/2)焼土粒を含む、フカフカしている。
- 8 黒褐色粘土(7.5YR3/2)
- 9 灰白色土の互層(10YR8/1~7/1)シルト質。

- 10 褐灰色土(10YR4/1)焼土粒、多量の灰を含む。
- 11 灰層。
- 12 黒褐色土(10YR3/1)焼土塊・炭化物粒をやや多く含む。比較的フカフカ。粘性強く、しまりやや弱い。
- 13 褐灰色土(7.5YR5/1)4層より焼土多い。粘性・しまりやや弱い。
- 14 橙色土(7.5YR6/8)焼土塊を多く含む。炭化物無し。粒やや密。粘性はなく、しまりやや弱い。
- 15 褐色土(7.5YR4/3)焼土塊・炭化物粒を多く含む。全体的に軟らかい。粒やや粗、灰を塊状に含む。粘性・しまりやや弱い。
- 16 褐灰色土(7.5YR5/1)焼土塊・炭化物粒を少量含む(1層<4層<2層)。シルト質。粘性・しまりやや弱い。
- 17 褐灰色土(7.5YR5/1)4層に似ている、4層より粘性なし。
- 18 褐灰色土(10YR6/1)シルト質土。焼土・炭化物粒含まない。粘性弱く、しまりやや強い。
- 19 褐色土(10YR4/4)焼土粒をわずかに含む。シルト質。粘性弱く、しまりやや強い。
- 20 褐色土(10YR4/4)焼土粒・炭化物粒をやや含む(1層より多)。粒やや密。粘性やや強く、しまりやや弱い。



第137図 30号住居と出土遺物

31号住居(第138・139図 PL45・46・146 遺物観察表P.374)

位置 A6区4L, 4M-1, 2グリッド

形状 東西に長く、東壁がやや短いため、北壁が傾斜する。横長の台形状の平面形を呈する。

南壁の両隅はやや丸みを持って屈曲し、北西隅もさほど極端には鋭角化しない。

規模 長辺 3.78m 短辺 3.10・2.68m 面積 11.45m²

方位 N-1°-W

柱穴・周溝 なし。

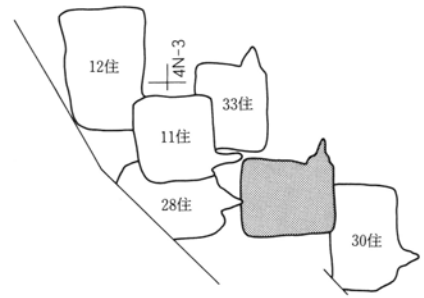
貯蔵穴 南東隅にある。東西76cm、南北64cm、床面からの深さ34cmほどの規模で、楕円形に近い隅丸長方形の平面形を呈する。

埋没土 炭化物粒や焼土粒を含む灰黄色土で埋まる。壁際の埋没土には炭化物塊が混入する。上位の埋没土には多量の灰白色土粒が含まれる。

確認最大壁高及び壁の状況 23.5cm。わずかに上方に開くが、やや丸みを持って立ち上がり、ほぼ直立する。

床面の状況及び床下施設等 東側がやや低くなる。掘り方では竈前が窪み、南東四半の中央もやや窪む。

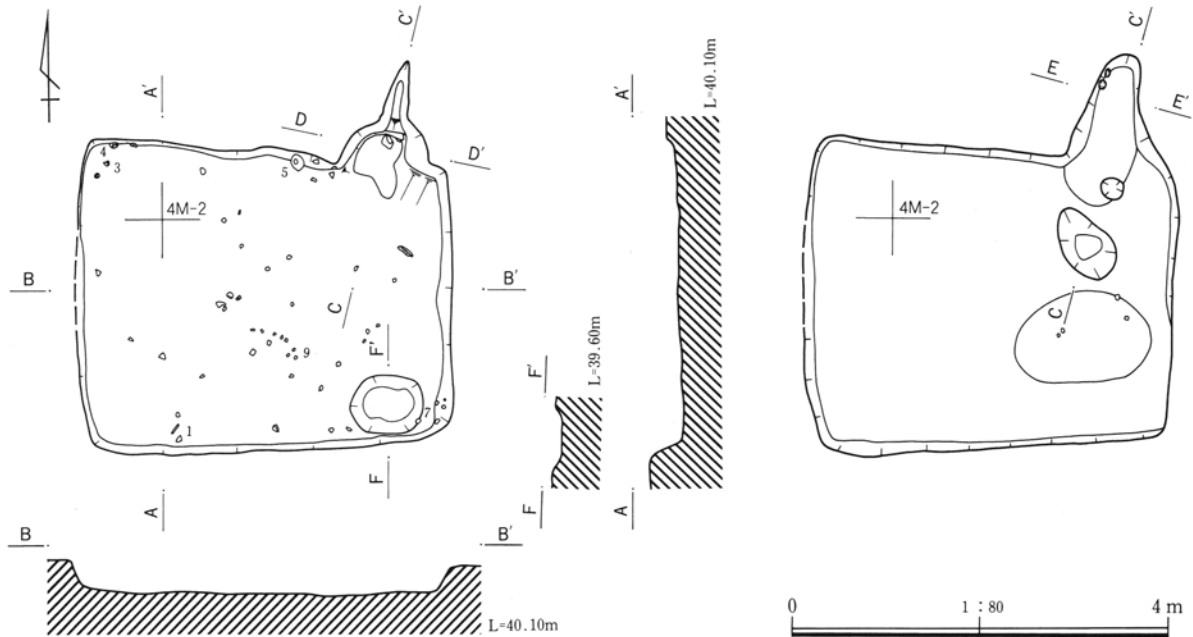
竈 北壁の東端を半円形に掘り込み、北から15°ほど



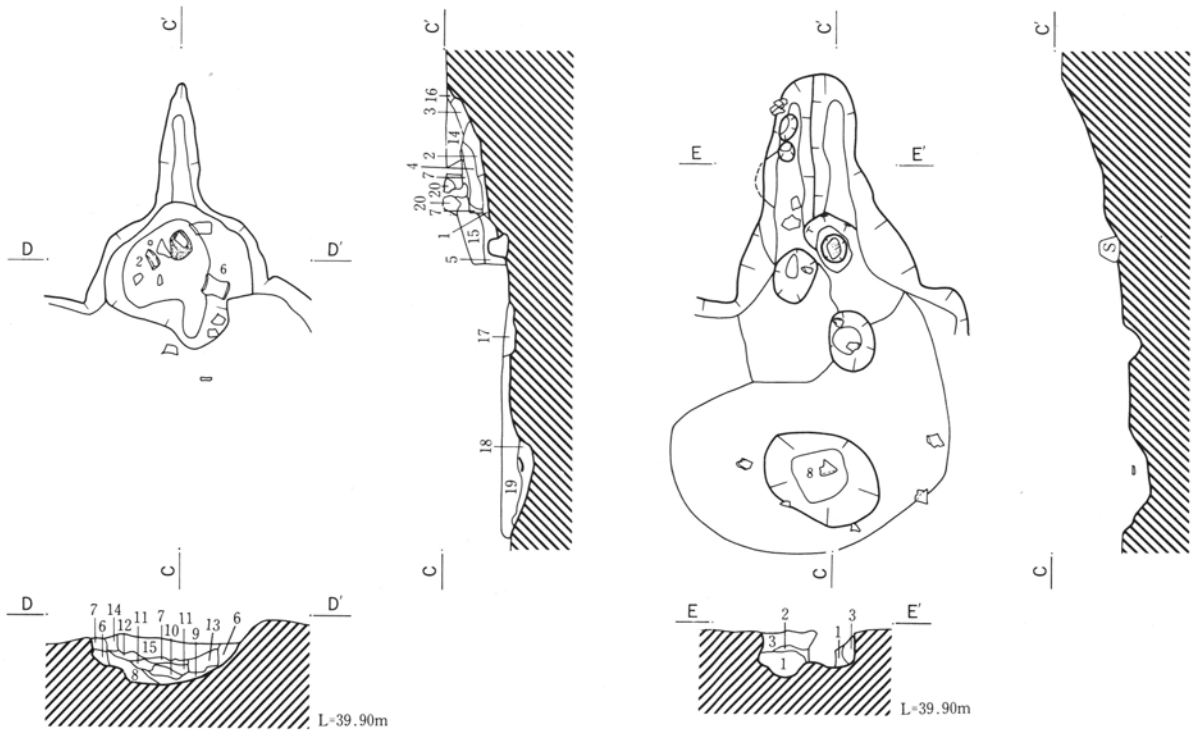
東に振った方向に煙道を延ばしている。燃烧部幅は76cm、奥行きも75cmほどあり、手前がやや細く張りだした円形の掘り込みとなっている。煙道寄りに支脚かと考えられる礫がとらえられる。掘り方では確認した煙道の西にほぼ平行するようにもう1本の煙道状の溝が掘られている。また、燃烧部中央寄りやや手前に小ピットがあって炭化物と焼土の混土で埋まり、西側煙道の基部や先端近くにもピットがある。竈手前部は大きく緩やかに窪み、この中に長径84cm、短径42cmほどのゆがんだ楕円形の掘り込みがある。重複 30号住居を切る。

遺物と出土状況 竈内に集中する他は住居内全体に小破片が散在する。

その他 平安時代(10世紀中葉)



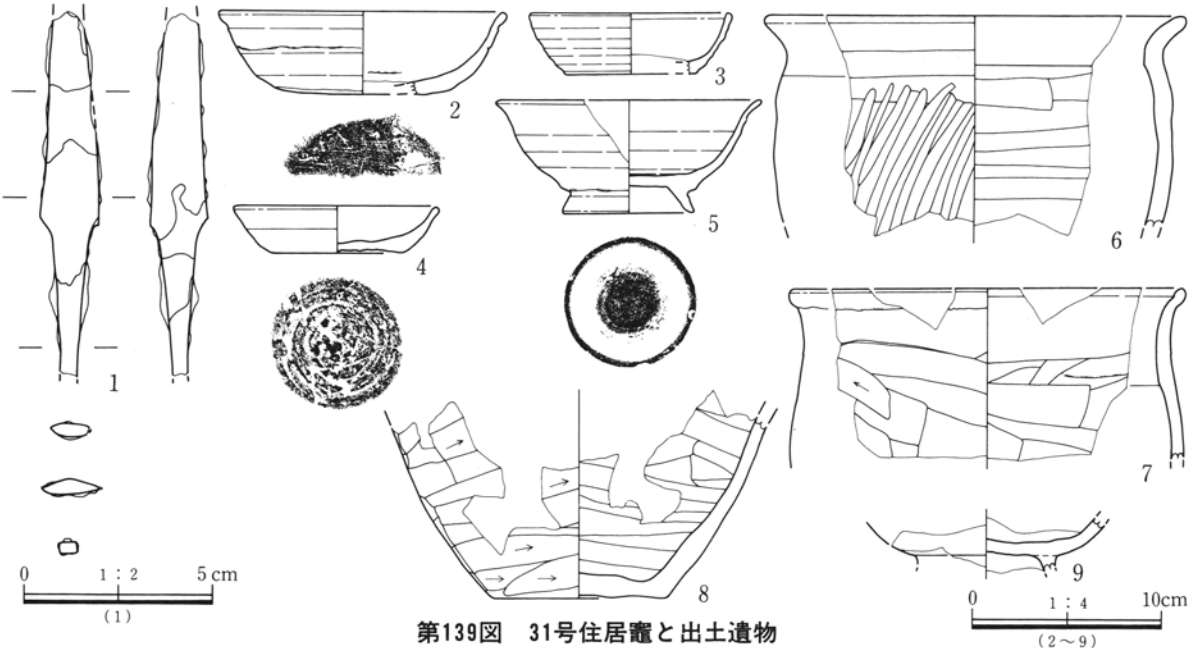
第138図 31号住居



31号住居 竈 C-C' D-D'

- 1 灰層と焼土塊。
- 2 黒褐色土(10YR3/1)焼土粒・炭化物粒を含む。
- 3 褐灰色土(10YR4/1)焼土粒を含む。
- 4 褐灰色土(10YR4/1)焼土塊を多量に含む。
- 5 焼土小塊と褐灰色土(10YR6/1)塊の混土。
- 6 黄灰色土(2.5Y5/1)焼土粒(5mmほど)を含む。 7 焼土塊。
- 8 黄灰色土(2.5Y5/1)焼土塊(10mmほど)と少量の焼土粒を含む。
- 9 黄灰色土(2.5Y5/1)焼土塊・炭化物粒(10mmほど)を含む。
- 10 暗黄灰色土(2.5Y5/2)やや粘質。
- 11 黄灰色土(2.5Y5/1)シルト質。夾雑物含まない。
- 12 黄灰色土(2.5Y6/1)焼土塊・灰白色粘土粒(10~20mm)を含む。
- 13 褐灰色土(7.5YR6/1)灰白色粘土塊・焼土粒を少量含む。

- 14 黄灰色土(2.5Y6/1)シルト質。焼土粒(2~5mm)を含む。
- 15 黄灰色土(2.5Y6/1)シルト質。焼土粒少量含む。
- 16 褐灰色土(10YR4/1)白色土粒を少量含む。
- 17 炭化物粒と灰、焼土の混土。
- 18 灰黄褐色土(10YR5/2)焼土粒をごく少量含む。
- 19 灰白色土(10YR7/1)焼土粒・炭化物粒を少量含む。
- 20 住居覆土最上層。
- 31号住 掘り方 E-E'
- 1 灰黄褐色土(10YR4/2)焼土塊(20~30mm)・灰白色土塊(5~10mm)を多量に含む。
- 2 焼土。
- 3 灰黄褐色土(10YR4/2)焼土粒・灰白色粘土小塊を含む。



第139図 31号住居竈と出土遺物

32号住居 (第140図 PL46)

位置 A6区4J, 4K-48グリッド

形状 西部は調査区域外に当たり、南部は1号住居に切られ、北東隅はトレンチに切られるため、全体の形状を推すことも困難である。北壁はわずかにふくらみを持つが、東壁は短い範囲ではあるが直線的に延びるらしい。焼失住居と思われ、床上に炭化物粒や炭化材が見られる。

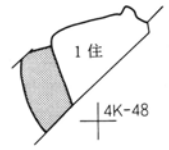
規模 東西確認長 3.28m 南北確認長 1.64m

方位 N-75°-E (北壁)

柱穴・周溝・貯蔵穴 なし。

埋没土 上面を削平されごく薄い層が、炭化物や炭化物粒、焼土粒を含む黒褐色土が床面を覆う。埋没土上層は炭化物粒、焼土粒を含まない暗褐色土である。

確認最大壁高及び壁の状況 3.5cm。上面の削平が著



しく観察できない。

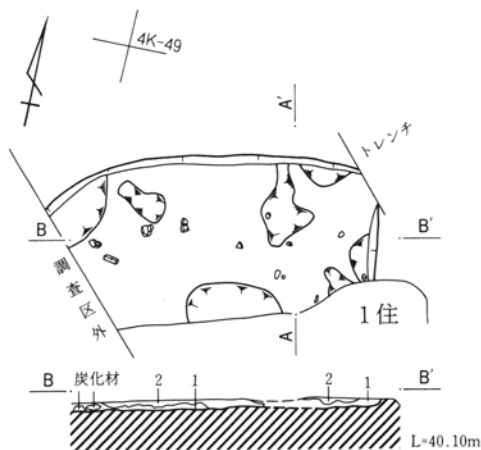
床面の状況及び床下施設等 比較的平らに仕上げられる。貼り床される。掘り方では窪みが各所に見られ、細かい凹凸も多い。

竈 確認できない。

重複 1号住居より古い。

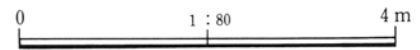
遺物と出土状況 出土遺物数は少ない。確認部分全体に破片が点在する。1号住居との接点に近い埋没土中から鉄器片が出土している。

その他 不明



32号住居 A-A' B-B'

- 1 黒褐色土(10YR2/1)炭化物粒及び材をやや多く・焼土粒を少量含む。粒粗く粘性あり、2層よりしまりなくややフカフカ。
- 2 暗褐色土(10YR3/3)炭化物・焼土含まない。粒やや密で粘性あり。しまりやや弱い。



第140図 32号住居

33号住居 (第141・142図 PL46・47・146 遺物観察表P.374)

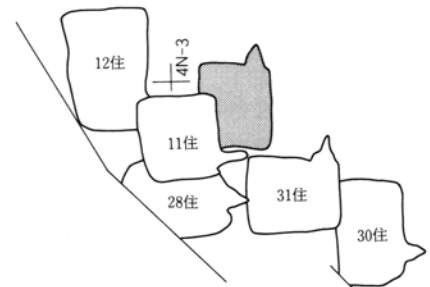
位置 A6区4L, 4M-2, 3グリッド

形状 南北に長い縦長の長方形の平面形を呈している。西壁南部と南壁の大部分を11号住居に切られるため、南西部が失われている。他の三隅はわずかに丸みを持って屈曲する。

規模 長辺 3.24m 短辺 2.74m

方位 N-2°-E

柱穴・周溝 なし。



貯蔵穴 東壁中央寄りやや北にある。直径60cmほどの円形の平面形を呈し、床面からの深さ40cmほど。底面はほぼ平らに作られていて、上方にやや丸みを持って開くコの字状の断面形を示している。埋没土の下位はしまりのない灰色土、暗灰黄色土などが混じり合い、部分的に炭化物が含まれる。上位は少量の炭化物を含む黄灰色土で埋まる。壁際の住居埋没土は貯蔵穴の上位埋没土の上に堆積するため、少なくとも住居を放棄した時点では、既にこの貯蔵穴は使用されていなかったものと考えられる。

埋没土 壁際はごく少量の焼土粒を含むシルト質の灰白色土で埋まる。床面の中央では炭化物粒、焼土粒が比較的多く含まれる。

確認最大壁高及び壁の状況 19.5cm。東壁、北壁はわずかに上方に開くが、ほぼ垂直に立ち上がる。西南隅部から西壁にかけては立ち上がりが不明瞭となる。

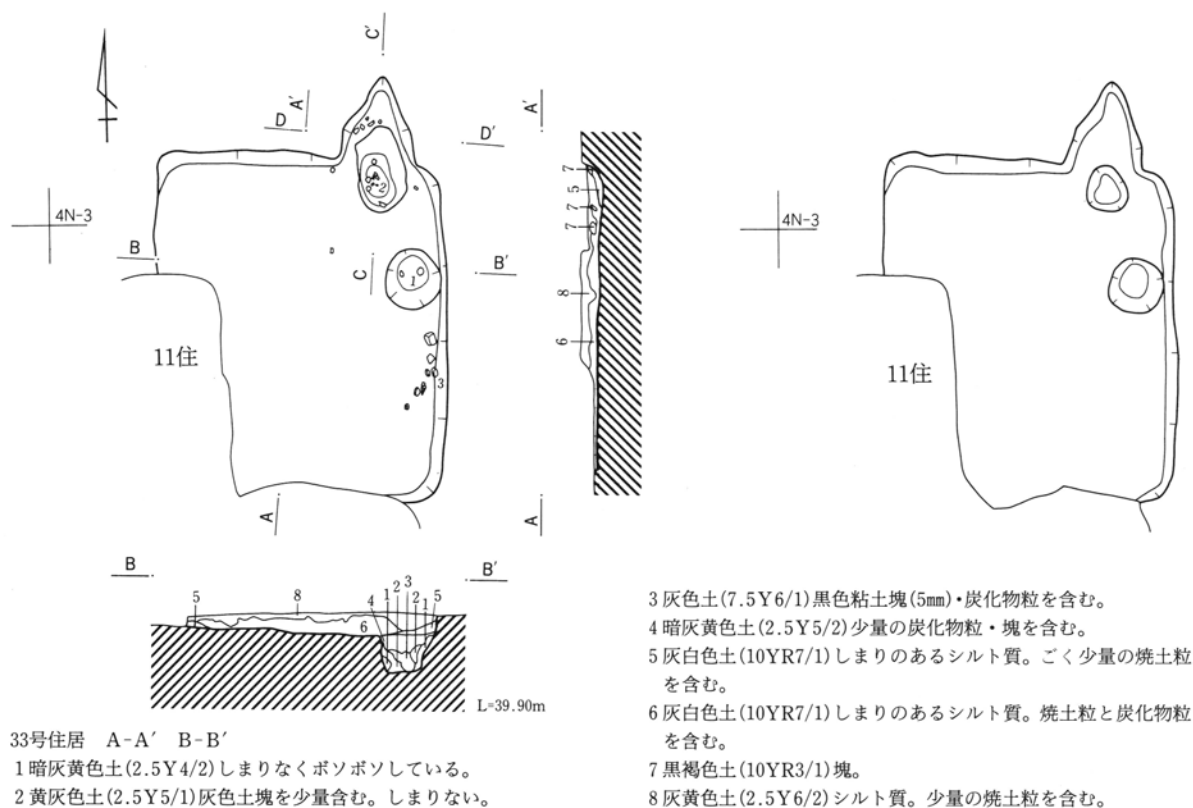
床面の状況及び床下施設等 床は西北方向にわずかに下がるが、ほぼ平らに仕上げられる。貼り床はない。

竈 北壁東端をV字形に掘り込んで燃焼部の半ばと煙道を作っている。確認長1.34m。燃焼部は長さ84cm、幅67cmほどの楕円形の浅い窪みで、明確な袖は見られないが、右袖部では小さな突起状に地山が掘り残されている。掘り方では燃焼部の手前部分が深く掘り込まれ、炭化物粒、焼土粒、灰白色粘土の混土で埋まる。埋没土にも灰白色粘土粒、白色粘土粒が混入しており、これらの粘土が竈の構築材として用いられていたものであろう。

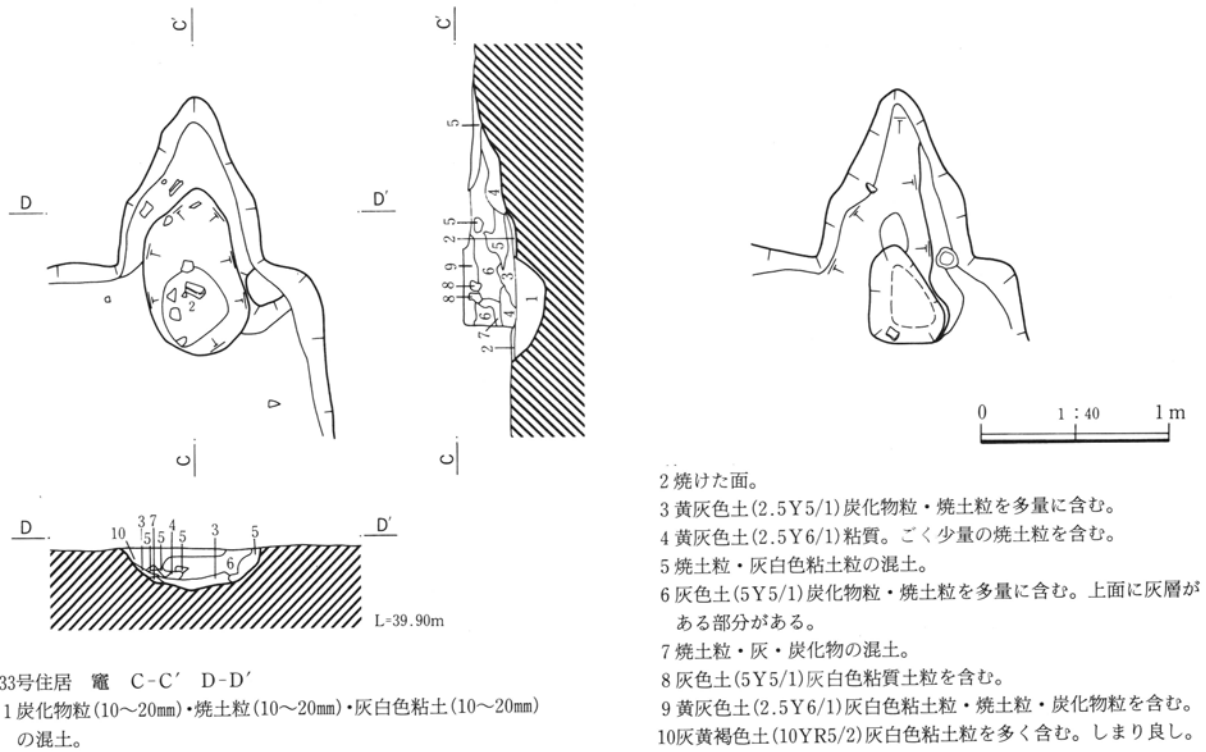
重複 11号住居より古い。

遺物と出土状況 竈内から羽釜、貯蔵穴内から小型の坏が出土し、東壁際の中央やや南寄りから甕片や礫がまとまって出土している。

その他 平安時代（10世紀後葉）

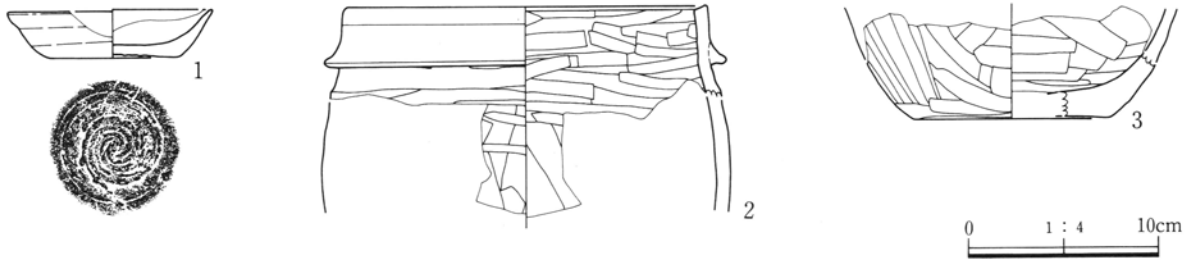


第141図 33号住居



33号住居 竈 C-C' D-D'
1炭化物粒(10~20mm)・焼土粒(10~20mm)・灰白色粘土(10~20mm)の混土。

- 2 焼けた面。
- 3 黄灰色土(2.5Y5/1)炭化物粒・焼土粒を多量に含む。
- 4 黄灰色土(2.5Y6/1)粘質。ごく少量の焼土粒を含む。
- 5 焼土粒・灰白色粘土粒の混土。
- 6 灰色土(5Y5/1)炭化物粒・焼土粒を多量に含む。上面に灰層がある部分がある。
- 7 焼土粒・灰・炭化物の混土。
- 8 灰色土(5Y5/1)灰白色粘質土粒を含む。
- 9 黄灰色土(2.5Y6/1)灰白色粘土粒・焼土粒・炭化物粒を含む。
- 10 灰黄褐色土(10YR5/2)灰白色粘土粒を多く含む。しまり良い。



第142図 33号住居竈と出土遺物

34号住居 (第143図 PL47・146)

位置 A6区4P-4,5グリッド

形状 調査区界近くにあつて、南東隅部のみを検出し調査したものであるため、全体の形状は分からない。北壁はふくらみを持つが、東壁は直線的で、隅部はあまり丸みを持たずに屈曲する。

規模 北壁確認長 1.1m 東壁確認長 1.2m

方位 N-2°-E

柱穴・周溝・貯蔵穴 確認できない。

確認最大壁高及び壁の状況 20cm。部分的な所見だが、わずかに上方に開くが、やや丸みを持って立ち上がり、ほぼ直立する。

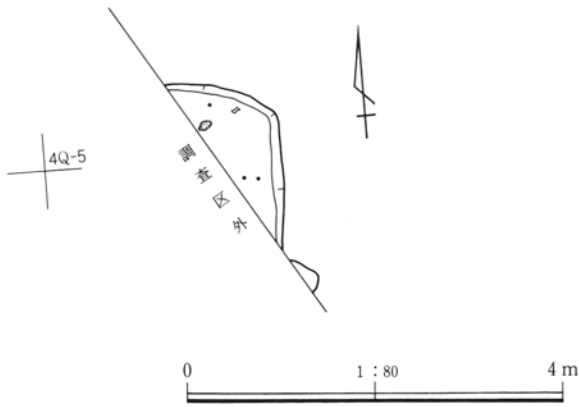
床面の状況及び床下施設等 ほぼ平らに仕上げられる。貼り床はない。

竈 東壁の南調査限界近くにある張り出しが竈に相当するものと思われるが、明確ではない。

重複 なし。

遺物と出土状況 細片4点のみが出土した。

その他 平安時代



第143図 34号住居

35号住居 (第144図 PL47 遺物観察表P.374)

位置 A6区4I, 4J-1,2グリッド

形状 南壁が最も長く、西壁が最も短い。東西壁は中央でわずかに曲がり、幅を狭めて北壁にとりつくが、東壁が長いために東がやや開いたゆがんだ台形状の平面形を呈する。

規模 長辺 2.4m 短辺 1.7m 面積 4.33㎡

方位 N-20°-W (東壁)

柱穴・周溝・貯蔵穴 なし。

確認最大壁高及び壁の状況 21cm。わずかに上方に

開くが、やや丸みを持って立ち上がり、ほぼ直立する。

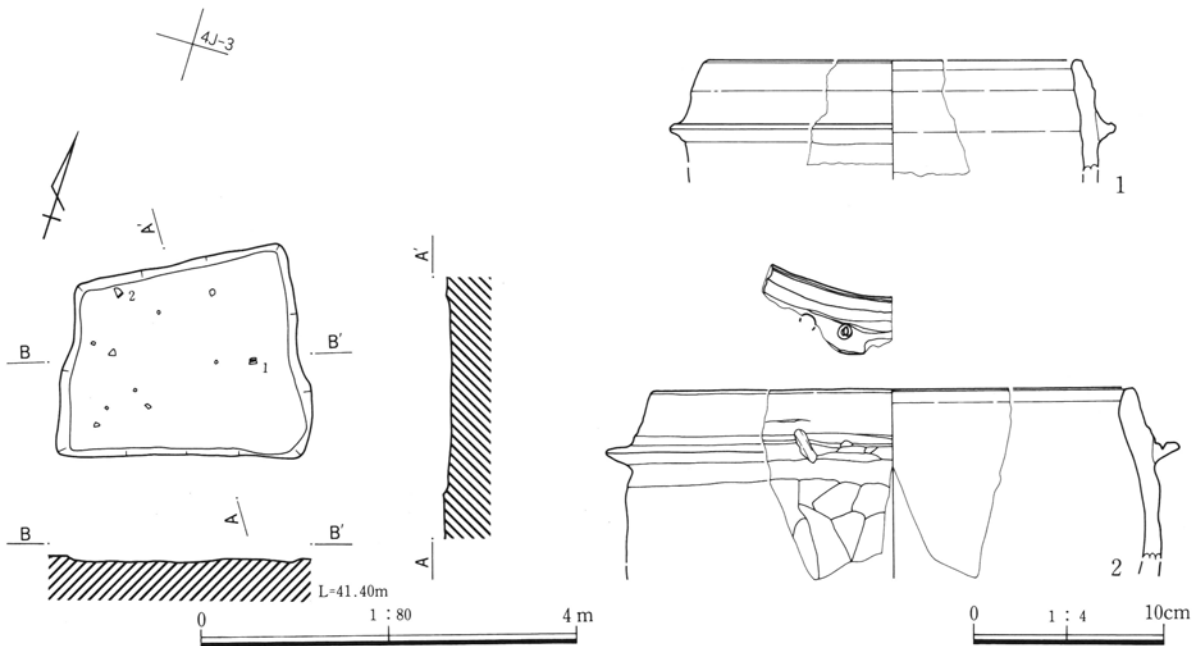
床面の状況及び床下施設等 北西隅がやや下がるが、ほぼ平らに仕上げられる。

竈 なし。

重複 なし。

遺物と出土状況 埋没土の比較的高い位置に土器片が含まれる。

その他 竈・炉などの施設がなく、通常の住居とは異なる。平安時代(10世紀中葉)



第144図 35号住居と出土遺物

36号住居(第145・146図 PL47・48～146 遺物観察表P.374)

位置 A6区4K,4L-2,3グリッド

形状 わずかに東西に長い隅丸方形の平面形を呈する。北東隅部から東壁北半にかけてを54号土坑に切られている。他の三隅は丸みを持って屈曲する。北壁と西壁はわずかなふくらみを持っている。

規模 長辺 3.32m 短辺 2.94m 面積 9.80㎡

方位 N-13°-W

柱穴・周溝・貯蔵穴 なし。

埋没土 灰白色土粒や炭化物粒を含む黄灰色土で埋まる。北壁際には夾雑物のほとんどない黄灰色土が見られる。

確認最大壁高及び壁の状況 17cm。わずかに上方に開くが、やや丸みを持って立ち上がり、ほぼ直立する。

床面の状況及び床下施設等 緩やかに波打ち、北壁際がやや下がっている。貼り床はない。

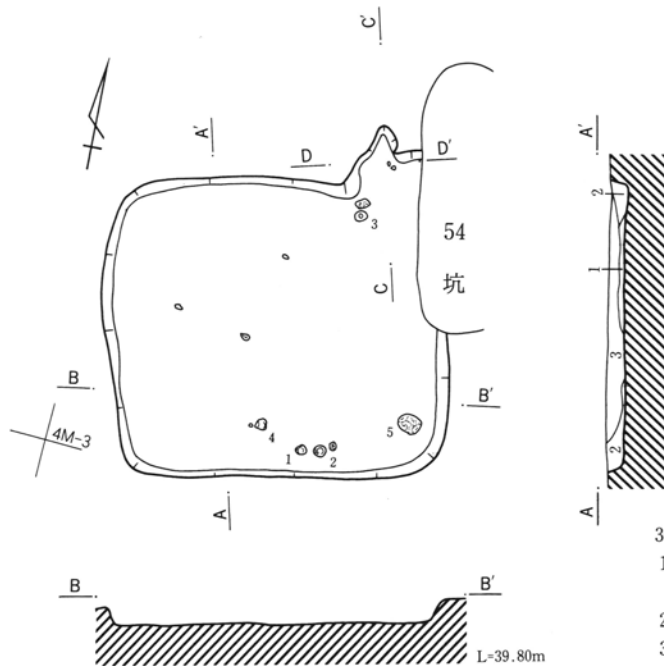
竈 北壁の東端近くをC字形に掘り込んで燃焼部の半ばを作り、さらに煙道を延ばしている。燃焼部は

壁内外にまたがり、内側幅48cm、長さ54cmほどの隅丸長方形に掘られていて、小さな段差をもって煙道部に続く。壁から80cmほど外側に直径20cmほどの煙道口が認められている。煙道奥部の壁は、丸みを持って立ち上がっている。左袖部は地山を突起状に掘り残したかみえ、袖石かと思われる礫も出土しているが構造を留めるものではないようだ。埋没土中にも粘土は少ない。この礫の前から、塊が逆位で出土している。右袖部は確認できなかった。

重複 54号土坑より古い。

遺物と出土状況 出土点数は埋没土中のものを含めてもごく少ないのだが、完形ないしそれに近い状態の坏、壺が目立っている。竈内からは、土器小片が少量出土したのみだが、竈前から壺が完形で出土している。また、南壁の中央部壁際からも坏、壺が完形ないしほぼ完形の状態で3点並ぶように出土している。北東隅部には角礫があった。

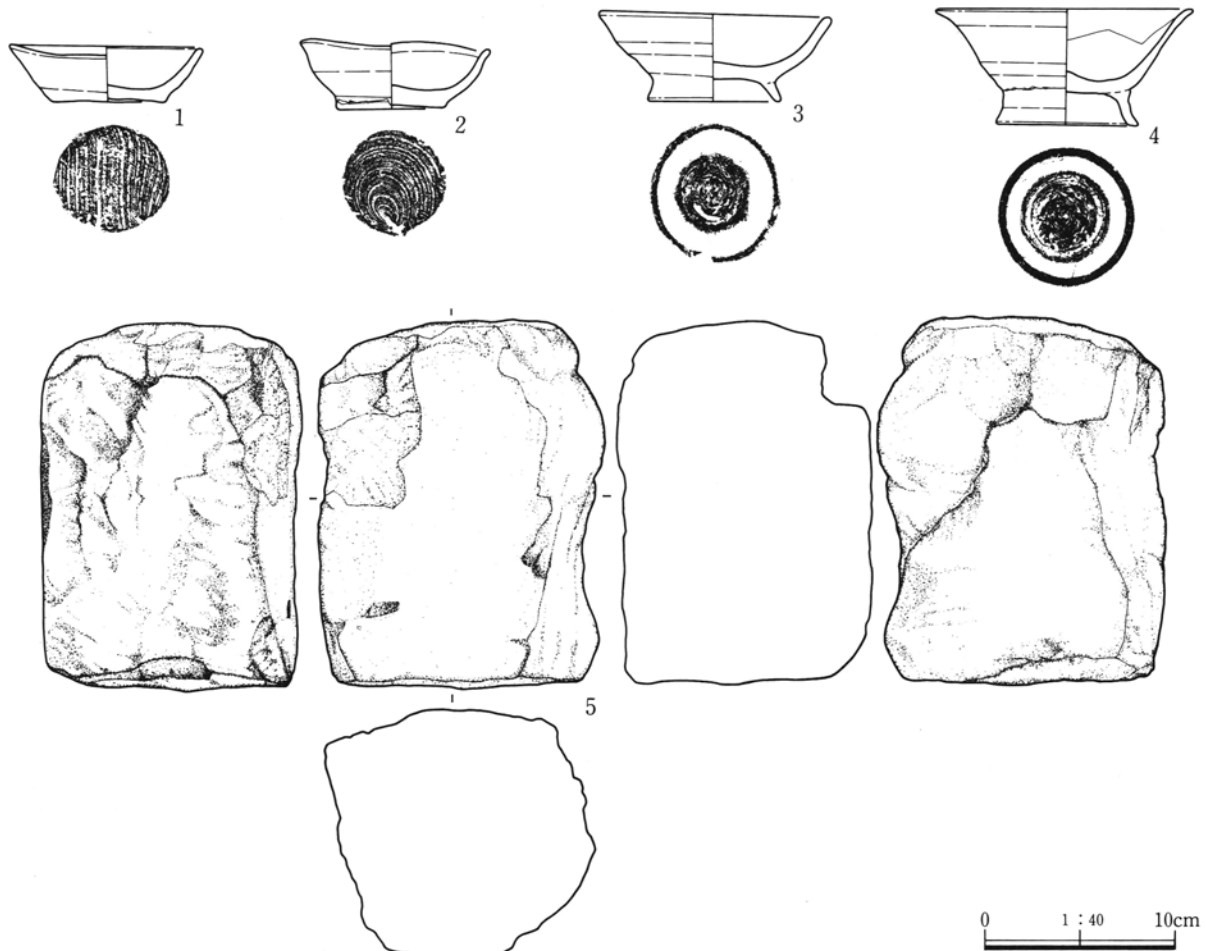
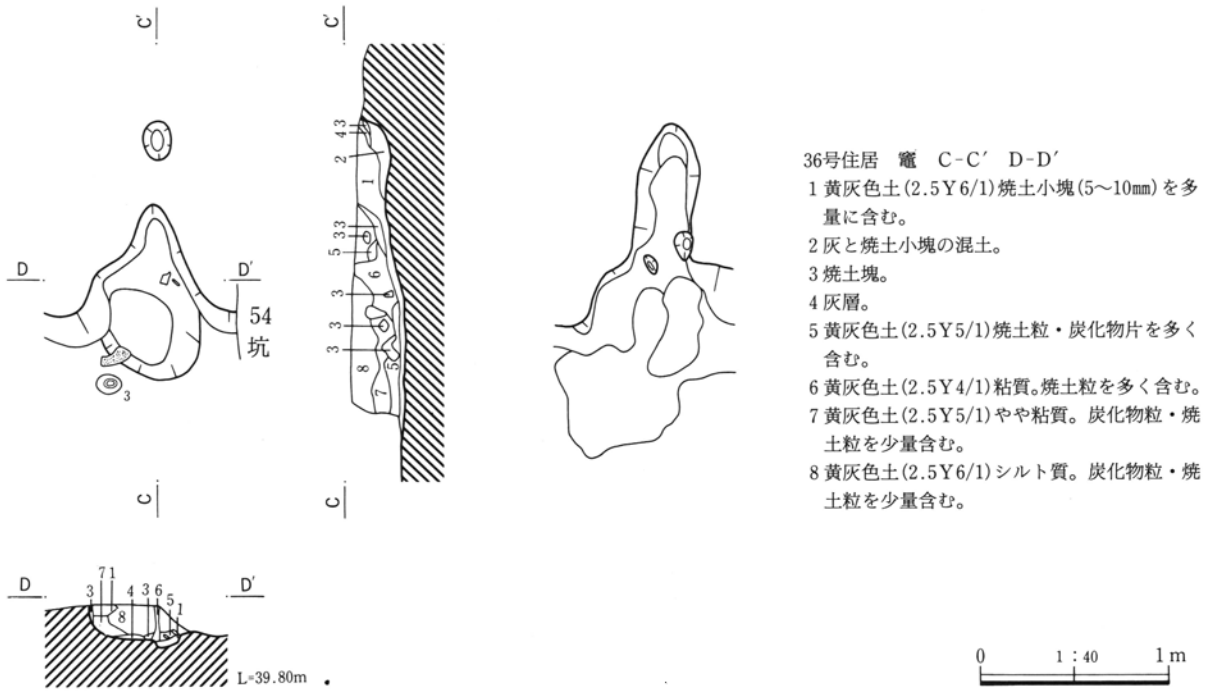
その他 平安時代(10世紀中葉)



36号住居 A-A'

- 1 黄灰色土(2.5Y6/1)灰白色土(2.5Y7/1)粒、小塊・炭化物粒を含む。
- 2 黄灰色土(2.5Y4/1)夾雑物ほとんどない。
- 3 黄灰色土(2.5Y5/1)炭化物粒・暗灰黄色土粒(2.5Y5/2)を含む。

第145図 36号住居



第146図 36号住居竈と出土遺物

37号住居 (第147図 遺物観察表P.374)

位置 A6区4P, 4Q-5グリッド

形状 調査区界にあって、東北隅のみを検出したため、全体の形状は分からない。隅部はやや丸みを持って屈曲している。

規模 北壁確認長 0.65m 東壁確認長 1.34m

方位 N-7°-W (東壁)

柱穴・周溝・貯蔵穴 確認できない。

確認最大壁高及び壁の状況 11cm。

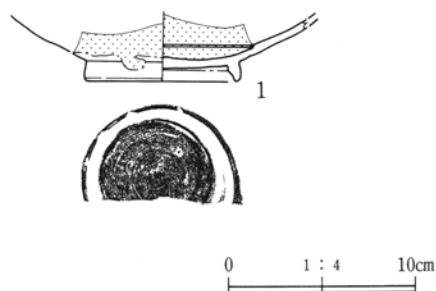
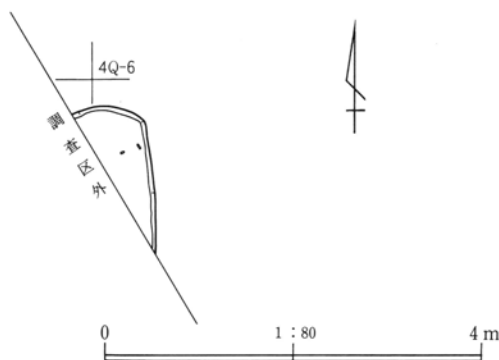
床面の状況及び床下施設等 調査範囲内でもやや凹凸がある。

竈 確認できない。

重複 なし。

遺物と出土状況 細片2片が出土しているのみである。

その他 平安時代 (10世紀前葉)



第147図 37号住居と出土遺物

38号住居 (第148図 PL48・147 遺物観察表P.374)

位置 A6区4D, 4E-6, 7グリッド

形状 西部の大半が調査区外に当たる。東部のみの調査となったため、全体の形状を把握することができなかった。東壁はややふくらみを持ち、中央寄りやや北でわずかに角度を変えて、やや開き気味に、丸みを持ちながら北壁と接続する。南の隅部はわずかな丸みを持って屈曲し、やや内側にくびれる傾向がみられる南壁と接続する。本遺跡の他の住居の例からみて、横長の長方形ないし方形の平面形を呈するものと考えられるだろう。

規模 東壁長 3.90m 東西確認長 1.60m

方位 N-97°-E (竈)

柱穴・周溝・貯蔵穴 なし。

埋没土 砂礫、炭化物、焼土などを多量に含む灰色土の単層で埋まる。

確認最大壁高及び壁の状況 12.7cm。わずかに上方に開くが、やや丸みを持って立ち上がり、ほぼ直立

する。

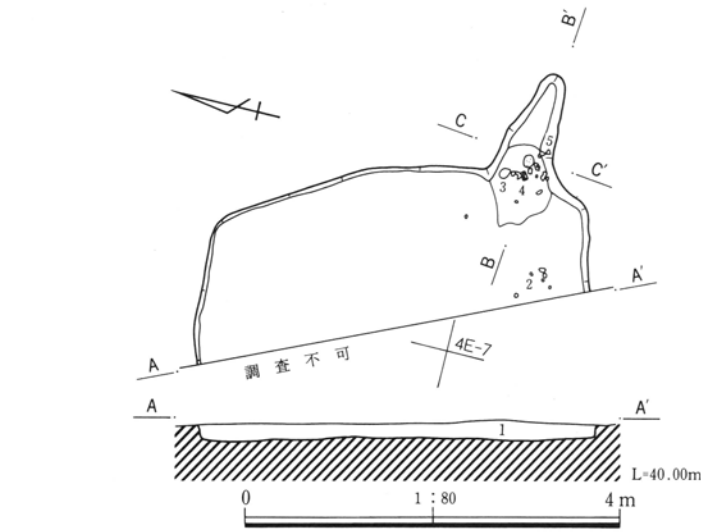
床面の状況及び床下施設等 床面はやや凹凸があって、中央部がやや高く、特に北部がやや低くなっている。貼り床はない。

竈 東壁の南端近くを壁外に細長いU字状に掘り込んで燃焼部と煙道を作っている。確認長1.3m、燃焼部幅39cmで、燃焼部から煙道へは段差をもたず、なだらかに上がっている。埋没土には灰黄色ないし灰黄褐色の粘質土がみられ、これは構築材の残痕と思われる。燃焼部中央には支脚に用いられたと思われる棒状の礫が立てられている。左右とも袖は認められない。右袖部がやや破壊の度が高いものと思われる。

重複 44号住居より新しい。

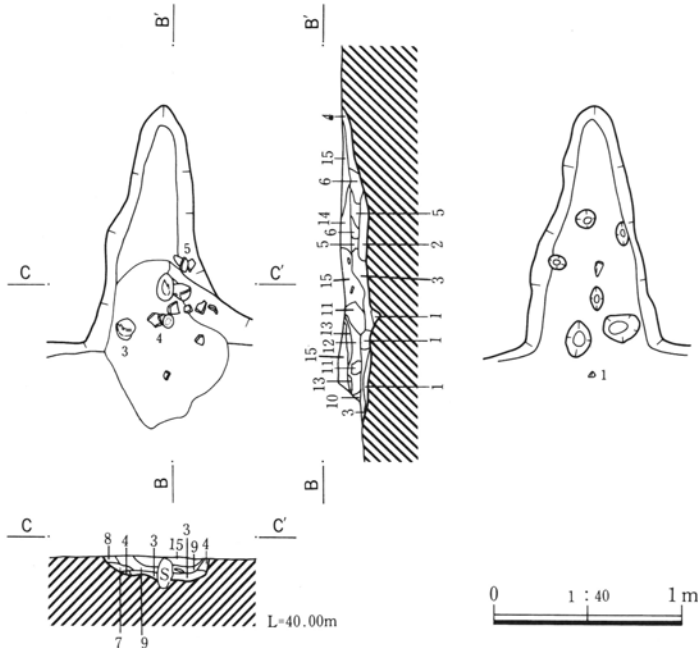
遺物と出土状況 竈内と周辺から羽釜、塀の破片が出土している。

その他 平安時代 (10世紀中葉)



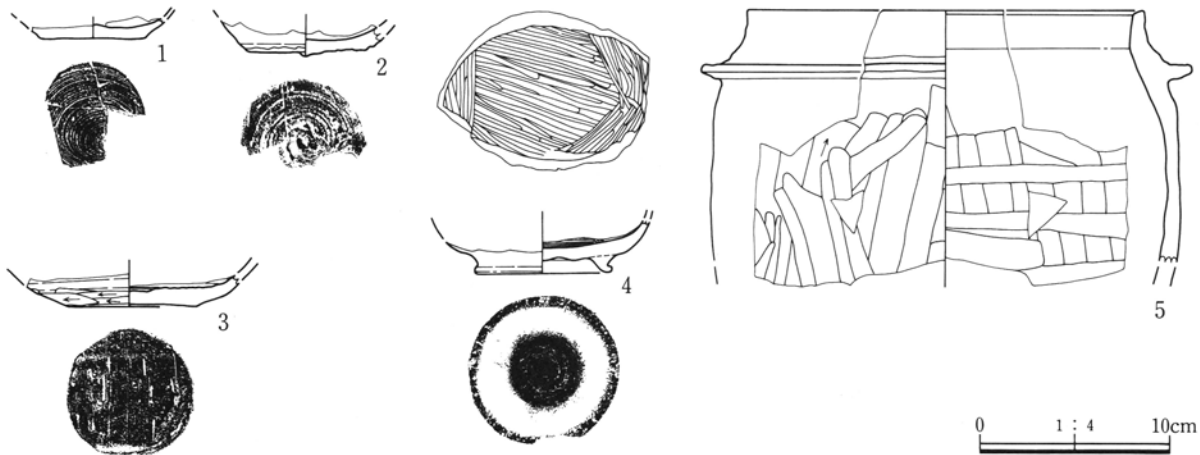
38号住居 A-A'

1 灰色土(5Y5/1)砂礫・炭化物・焼土を多量に含む。
粘性・しまりやや強い。



38号住居 竈 B-B' C-C'

- 1 灰黄褐色土(10YR6/2)粘質。炭化物粒を含む。
- 2 焼土・灰黄褐色粘土粒(10YR4/2)・灰を含む。
- 3 灰・焼土粒を含む。
- 4 灰黄褐色土(10YR6/2)灰・焼土粒を含む。
- 5 焼土。
- 6 褐灰色土(10YR6/1)焼土粒・灰黄褐色粘土粒(10YR4/2)を含む。
- 7 暗灰黄褐色土(2.5Y5/2)砂質。
- 8 暗灰黄褐色土(2.5Y4/2)砂質土、鉄分の凝集が著しい。粘性弱く、堆積はもろい。
- 9 暗灰黄褐色土(2.5Y4/2)焼土・炭化物(1~5mm)を少量含む。粘性弱く、堆積はやや緻密である。
- 10 暗灰黄褐色土(2.5Y4/2)黒色灰を多量に含む。堆積はもろい。
- 11 灰黄色粘質土塊 下半が火を受け硬化している。竈部材。
- 12 黒褐色土(2.5Y3/2)焼土・灰(黒色)を多量に含み、灰黄色土塊(11)を含む。粘性やや強く堆積はもろい。
- 13 暗灰黄褐色土(2.5Y4/2)粘性の強い灰黄色(2.5Y6/2)(5~1mm)を少量含む。粘性弱く、堆積は硬い。
- 14 暗灰黄褐色土(2.5Y4/2)焼土を多量に含む。堆積はもろい。
- 15 暗灰黄褐色土(2.5Y4/2)焼土・炭化物(1~2mm)をごく少量含む。粘性弱く、堆積は緻密である。



第148図 38号住居と出土遺物

39号住居(第149・150図 PL48・49・147 遺物観察表P.375)

位置 A6区4F,4G-11,12グリッド

形状 試掘トレンチに切られており、北東隅部のみ
の調査となったため、全体の形状を把握することが
できない。東壁はややふくらみ、北東隅でやや丸み
を持って屈曲して北壁と接続する。長方形ないし方
形の平面形であろう。

規模 東壁確認長 2.90m 北壁確認長 1.40m

方位 N-101°-E (竈)

柱穴・周溝・貯蔵穴 なし。

確認最大壁高及び壁の状況 24.4cm。わずかに上方
に開くが、やや丸みを持って立ち上がり、ほぼ直立
する。

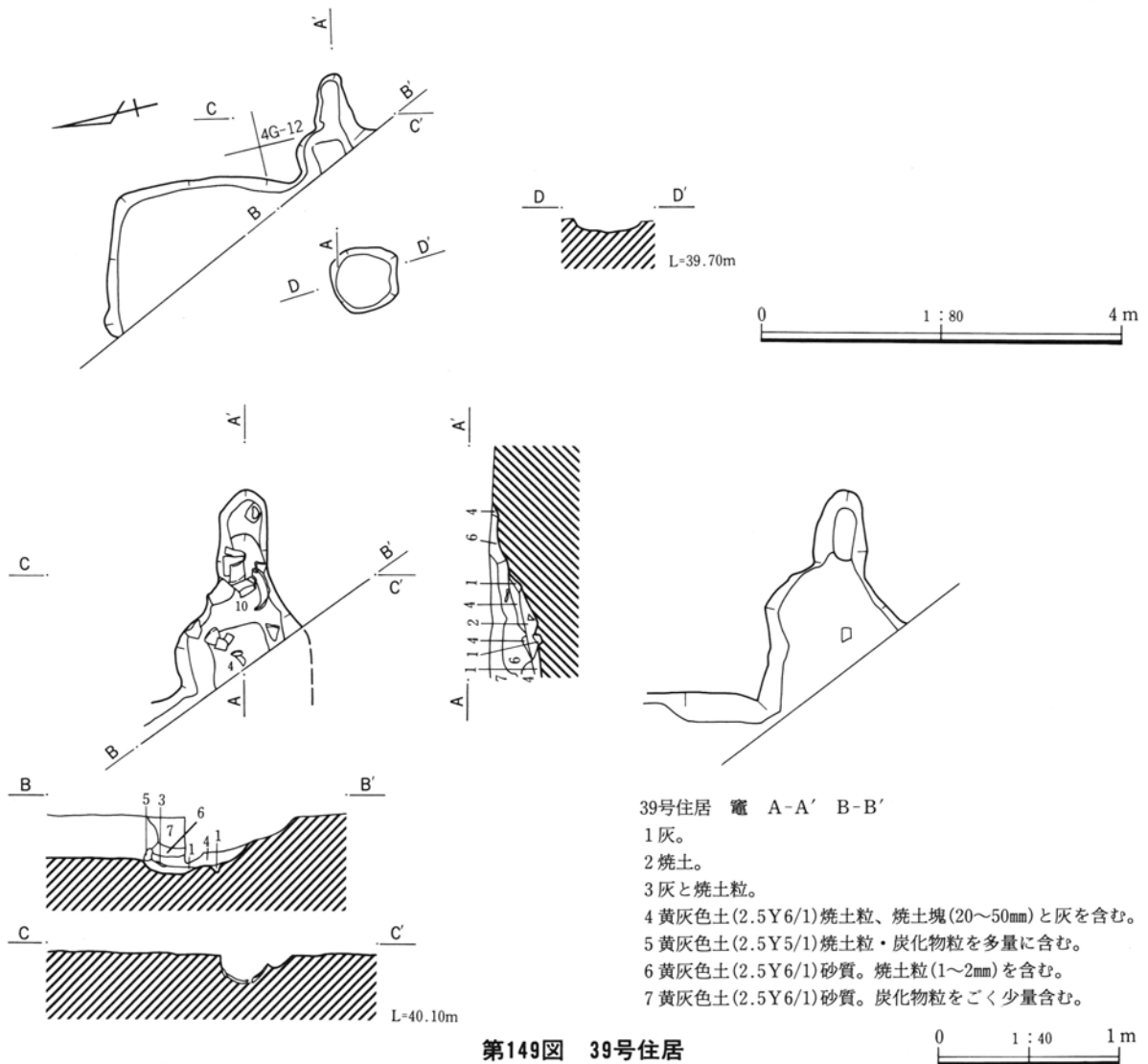
床面の状況及び床下施設等 やや凹凸があり、北壁
付近が低くなる。貼り床はない。試掘トレンチ中で
土坑が検出されており、この住居に伴う床下土坑と
判断されている。

竈 東壁の南端をコの字状に掘り込んで燃焼部の半
ばを作り、煙道を延ばす。確認長1.15m、燃焼部幅
は60cmほどと推定される。燃焼部と煙道の境界は段
差をもつ。

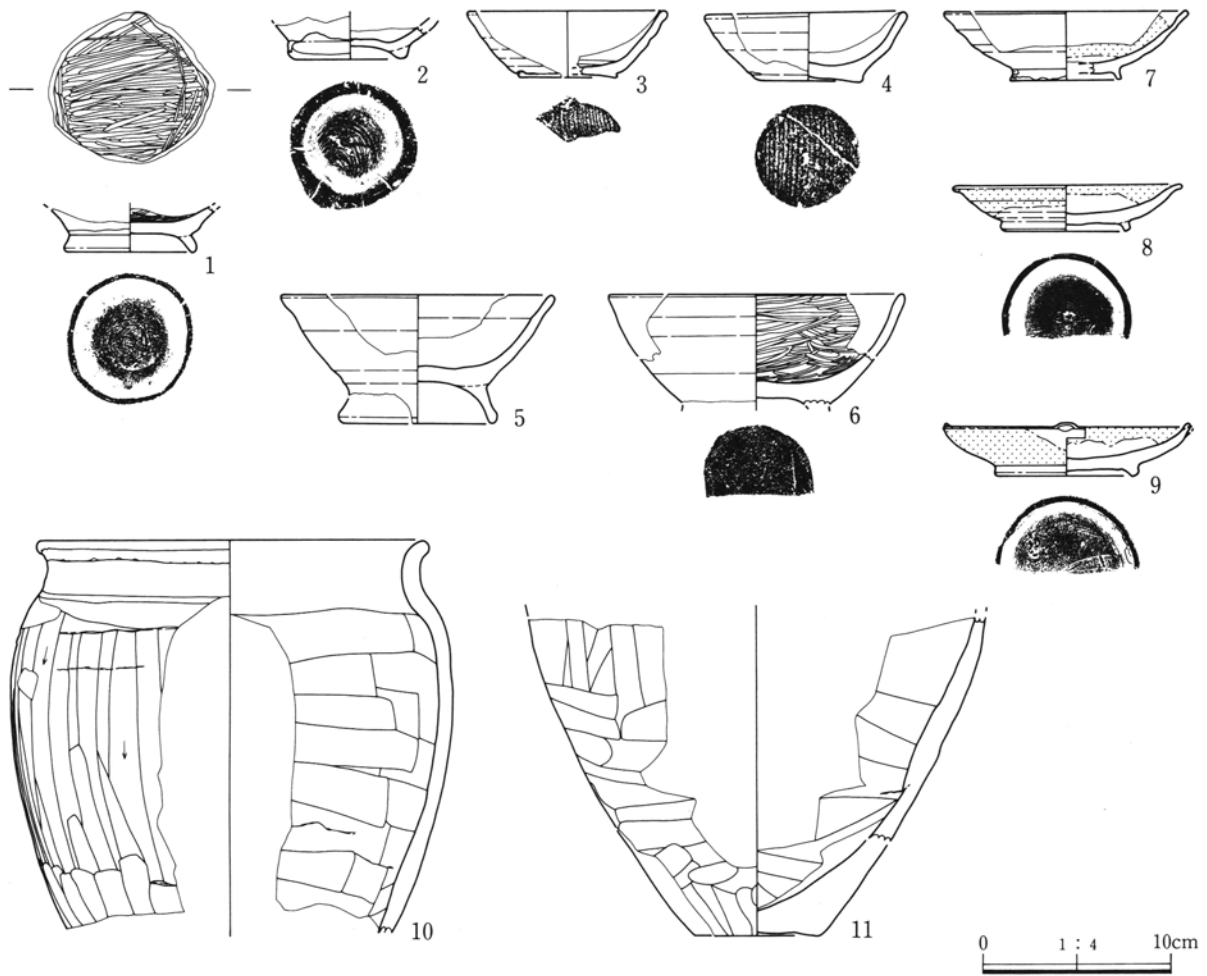
重複 40号住居より新しい。

遺物と出土状況 竈内に甕、坏がある。埋没土から
甕、坏や灰釉陶器片が比較的多く出土している。

その他 平安時代(10世紀中葉)



第149図 39号住居



第150図 39号住居の出土遺物

40号住居 (第151図 PL49 遺物観察表P.375)

位置 A6区4F, 4G-11, 12グリッド

形状 わずかに南北に長い、縦長の隅丸長方形の平面形を呈する。南西隅が調査区境界に当たって失われ、39号住居にも切られている。このため、南西隅の状況は把握できないが、西壁の方が東壁よりやや短いようだ。竈右手に当たる南東隅部は円弧状に張り出している。北壁の両隅はやや丸みを持って屈曲する。

規模 長辺 2.6m 短辺 2.5m

方位 N-96°-E

柱穴・周溝・貯蔵穴 なし。

埋没土 南半は炭化物粒や明緑色の粘土を多く含む黄灰色土で埋まり、北半は灰白色砂塊を含む黄灰色

土で埋まる。南半にみられる粘土は竈用材と同様のもの、竈の崩壊にもなって混入したものかと考えられる。

確認最大壁高及び壁の状況 24cm。わずかに上方に開くが、やや丸みを持って立ち上がり、ほぼ直立する。

床面の状況及び床下施設等 わずかに凹凸があるがほぼ平らに仕上げられる。貼り床はない。

竈 東壁の中央よりやや南寄りを壁外に半円形に掘り込んで燃焼部の半ばを作っている。煙道は分からない。左袖部ははっきりしないが、右袖部は地山を小さな突起状に掘り残している。燃焼部は長径77cm、短径50cmほどのゆがんだ楕円形ないし卵形で、壁端より住居側に長径45cm、短径35cm、深さ15cmほどの

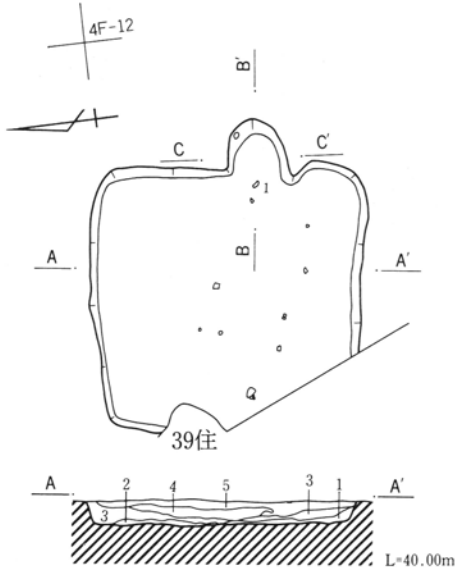
第3章 検出された遺構と遺物

ピット状の掘り込みを伴っている。確認長1.15m、
 燃焼部幅は60cmほどと推定される。埋没土には構築
 材に用いられたと考えられる明緑灰色粘土が混入す
 る。

重複 39号住居より古い。

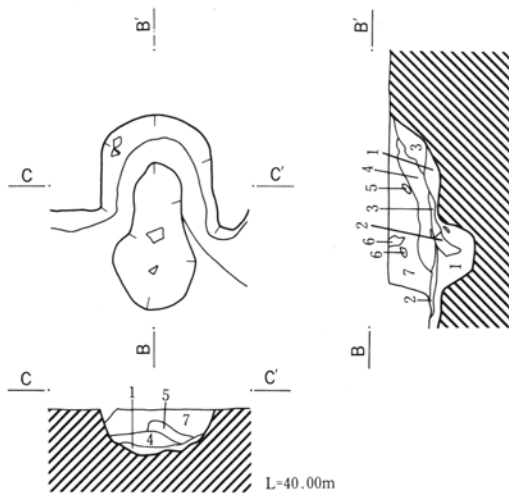
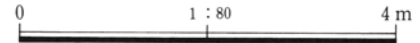
遺物と出土状況 埋没土中を含めても出土遺物量
 はごく少ない。竈内に甕の小片があり、他は住居中央
 部に細片が散在するのみである。

その他 平安時代(10世紀前葉)



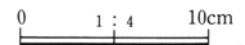
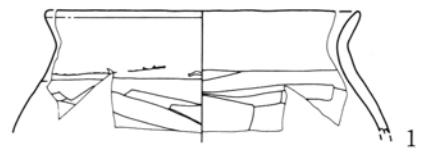
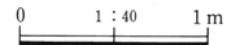
40号住居 A-A'

- 1 黄灰色土(2.5Y5/1)炭化物粒・明緑灰色粘土(10GY8/1, 30~50mm)を多く含む。
- 2 黄灰色土(2.5Y5/1)、灰白色砂塊(5Y7/1)を含む。
- 3 黄灰色土(2.5Y6/1)焼土粒を少量含む。
- 4 褐灰色土(10YR6/1)炭化物片、明緑灰色粘土塊(10GY8/1, 40~50mm)を多量に含む。
- 5 褐灰色土(10YR6/1)炭化物粒を含む。鉄分の沈着が著しい。



40号住居 竈 B-B' C-C'

- 1 灰黄褐色土(10YR5/2)炭化物・焼土(0.5~2・3mm)を若干含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/2)炭化物を大量に、焼土をやや多く含む。
- 3 橙色土(2.5YR7/6)黒褐色粒(1~3mm)を少量含む。
- 4 暗灰黄色土(2.5Y5/2)砂質。焼土粒と多量の炭化物粒を含む。
- 5 明緑灰色粘土(10GY8/1)
- 6 灰黄色土(2.5Y6/2)砂質。炭化物粒を多量に含む。
- 7 灰黄色土(2.5Y6/2)砂質。焼土粒・炭化物粒・明緑灰色(10GY8/1)粘土粒を含む。



第151図 40号住居と出土遺物

41号住居 (第152図 PL49 遺物観察表P.375)

位置 A6区4E, 4F-12, 13グリッド

形状 わずかに東西に長いが、ほぼ方形の平面形を呈する。

規模 長辺 2.1m 短辺 1.9m 面積 4.77m²

方位 N-95°-E

柱穴・周溝・貯蔵穴 なし。

埋没土 上面を削平されているため、詳細な観察はできない。床面上にはごく少量の焼土粒を含む黄灰色土が堆積する。

確認最大壁高及び壁の状況 5cm。

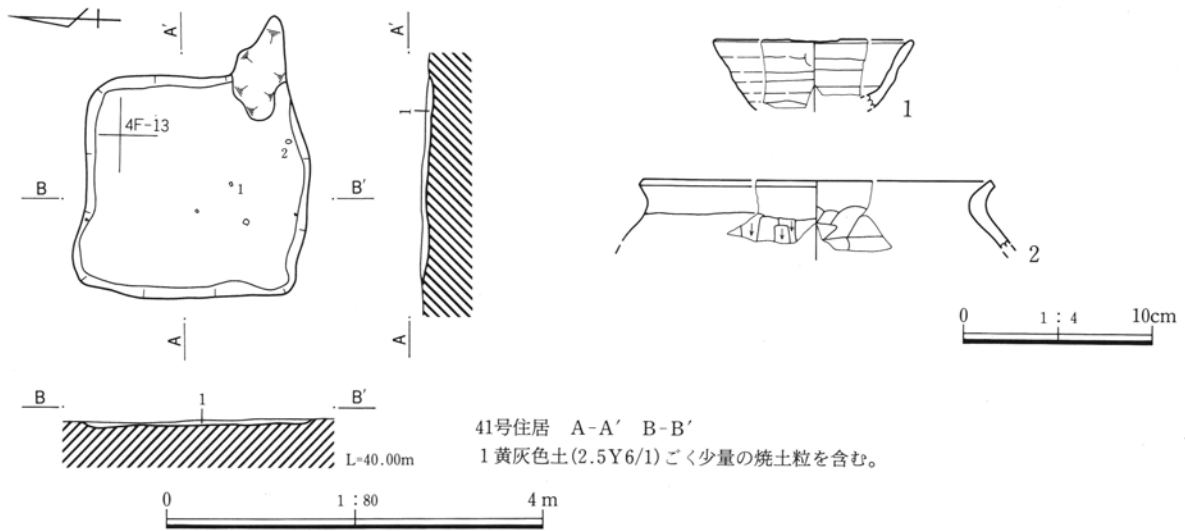
床面の状況及び床下施設等 わずかに凹凸があるがほぼ平らに仕上げられる。貼り床はない。

竈 東壁の南端を掘り込んで燃焼部を作り煙道を延ばすが、掘り方底面近くを検出したのみであるため詳細は観察できない。

重複 なし。

遺物と出土状況 小片が住居南半部に点在する。

その他 平安時代 (10世紀中葉)



第152図 41号住居と出土遺物

42号住居 (第153図 PL50 遺物観察表P.375)

位置 A6区4G-13グリッド

形状 北部の大半が調査区外となり、西部は溝状の攪乱に切られる。南東隅部のみの調査となったため、全体の形状は分からない。

規模 南壁確認長 2.36m 東壁確認長 0.84m

方位 N-92°-E (南壁)

柱穴・周溝・貯蔵穴 確認できない。

確認最大壁高及び壁の状況 19cm。上面を削平されているため詳細な観察はできない。丸みを持って立ち上がり、やや上方に開く。

床面の状況及び床下施設等 わずかに凹凸があるが、

ほぼ平らに仕上げられる。貼り床はない。

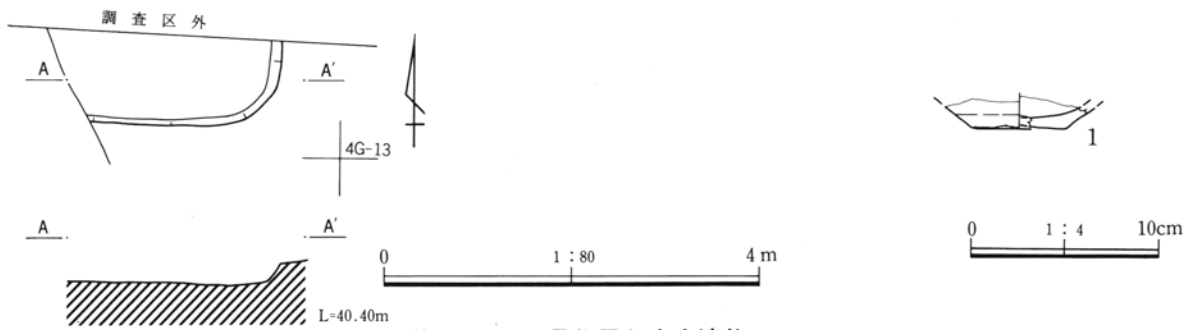
竈 確認できない。

重複 なし。

遺物と出土状況 埋没土中から小形の坏片が出土したのみである。

その他 平安時代か

第3章 検出された遺構と遺物



第153図 42号住居と出土遺物

43号住居(第154・155図 PL50・147 遺物観察表P.375)

位置 A6区4E-9,10グリッド

形状 南北に長い横長長方形の平面形を呈する。南西隅を24号住居に切られる。他の三隅はやや丸みを持って屈曲し、特に東南隅は丸みが強い。

規模 長辺 3.50m 短辺 2.90m 面積 12.74㎡

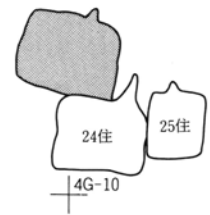
方位 N-107°-E

柱穴・周溝 なし。

貯蔵穴 南東隅部にある土坑が貯蔵穴に相当するものと思われる。東西90cm、南北70cmほどの隅丸長方形の平面形を呈し、深さは最大でも7.5cmほどと浅い。

埋没土 主体的には炭化物粒や焼土粒を含む灰色土で埋まる。

確認最大壁高及び壁の状況 6.6cm。わずかに上方に開くが、やや丸みを持って立ち上がり、ほぼ直立する。



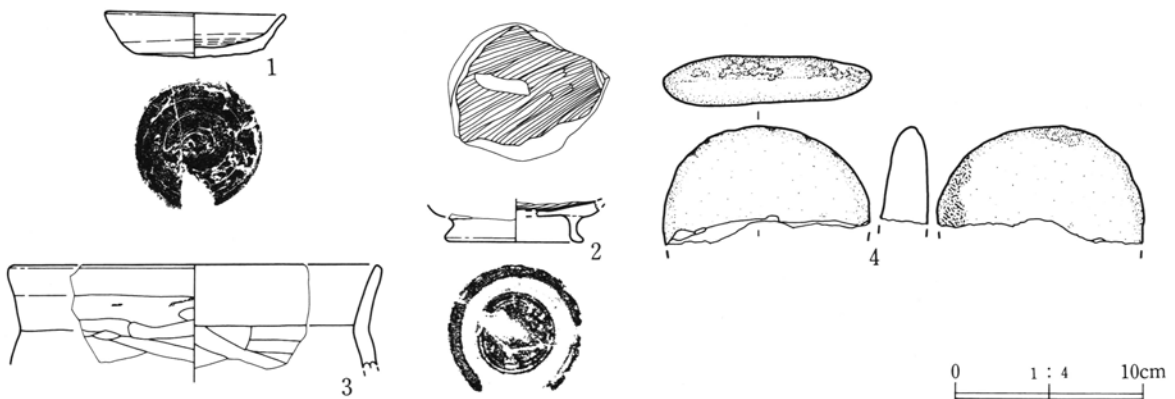
床面の状況及び床下施設等 わずかに凹凸があるがほぼ平らに仕上げられる。わずかに北方向に下がる。貼り床はないが、竈前には長径77cm、短径70cm、深さ23cmの床下土坑がある。

竈 東壁の中央南寄りをもV字形に掘り込んで燃焼部を作り煙道を延ばす。袖はないが、掘り方では住居壁と左右それぞれの接点部分に小ピットがある。確認長58cm、燃焼部幅38cm。

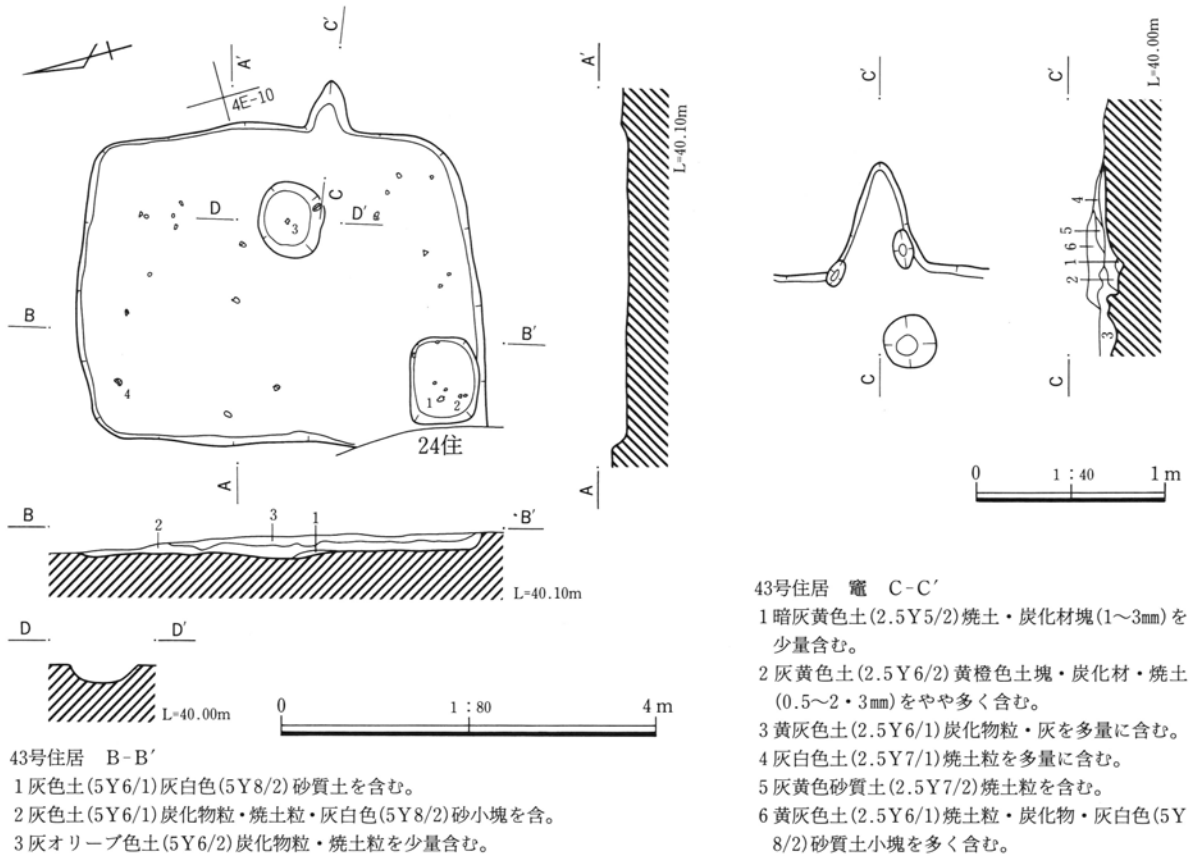
重複 24号住居より古い。

遺物と出土状況 全体に小片が散在する。

その他 平安時代(11世紀前葉)



第154図 43号住居の出土遺物



第155図 43号住居

44号住居 (第156図 PL50)

位置 A6区4C, 4D-6, 7 グリッド

形状 東部の大半を旧河道に切られる。また、竈も確認されていないため、全体の形状を把握することはできない。北西隅部はやや鋭角で、北壁が南壁に比して北に傾く。これからみると、西壁より東壁の方がやや短いものであったものとの推測が可能である。南西隅はやや丸みを持ちながらもほぼ直角に屈曲するため、ゆがんだ台形状の平面形であった可能性が考えられるだろう。

規模 南北長 3.2m

方位 N-6°-E (西壁)

柱穴・周溝・貯蔵穴 確認できない。

確認最大壁高及び壁の状況 21cm。

埋没土 黄褐色土粒、砂粒、炭化物を若干含む灰色

土で埋没する。床面直上の埋没土はほぼフラットな堆積状況を示している。

壁の状況 わずかに上方に開くが、やや丸みを持って立ち上がり、ほぼ直立する。

床面の状況及び床下施設等 わずかに凹凸があるがほぼ平らに仕上げられる。中央部はごくわずかだが、ふくらむように高くなり、特に北壁部では周溝状にややくぼむかと思われるが、遺構として明確にとらえるには至らなかった。貼り床はない。

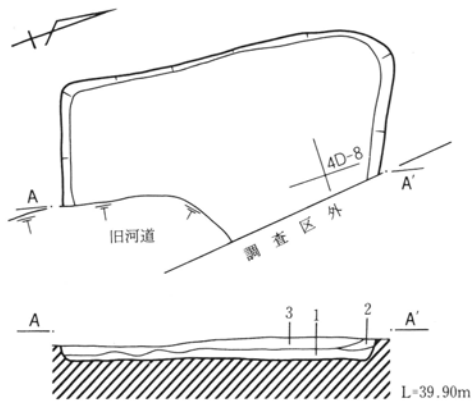
竈 確認できない。

重複 38号住居より古い。旧河道より古い。

遺物と出土状況 北東隅部と中央部から土器小片が出土しているのみである。

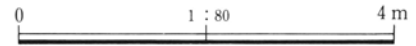
その他 平安時代か

第3章 検出された遺構と遺物



44号住居 A-A'

- 1 不明。
- 2 灰色土(10Y6/1)黄褐色粒(1~2mm)をやや多く含む。
- 3 灰色土(7.5Y6/1)黄褐色粒・砂粒(0.5~1・2mm)を少量含み、炭化物を若干含む。



第156図 44号住居

45号住居 (第157図 PL50 遺物観察表P.375)

位置 A6区4N-11,12グリッド

形状 下層にある畠遺構の調査時に設定したセクションベルト上にかかったものである。竈の下底部分と床面のごく一部を検出したのみにとどまったため、全体の形状を把握することはできなかった。床面の残存状況から見ると、竈が東壁にあり、この右手がすぐに東南隅部に当たるものと思われる。この部分で東壁がやや丸みを持って屈曲し、南壁に接続するものらしい。本遺跡の他の住居の例からみて、方形ないし長方形の平面形を呈するものであろうと推測される。

規模 南北確認長 1.60m 東西確認長 0.70m

方位 N-90°-E (竈)

柱穴・周溝・貯蔵穴 確認できない。

確認最大壁高及び壁の状況 1cm。壁の状況は観察できなかった。

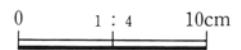
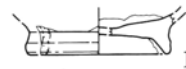
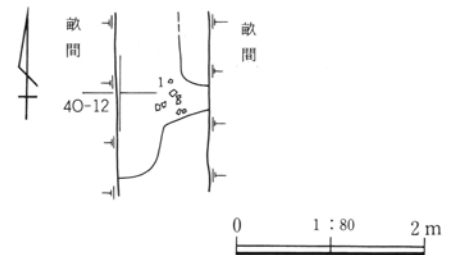
竈 基底部分のみを検出しているため、詳細を把握することはできなかった。東壁の南寄りにあたると思われる部分を、壁外にU字形に掘り込んで燃焼部を作ったものらしい。この部分では土器片がやや集中して出土しているが、構造材等は全く検出できなかった。

重複 旧河道より古い。

遺物と出土状況 竈内およびその前面に相当すると思われる部分から小片がまとめて出土しているに

とどまる。

その他 平安時代(10世紀前葉)



第157図 45号住居と出土遺物

46号住居 (第158図 PL50・51 遺物観察表P.375)

位置 A6区4K,4L-9,10グリッド

形状 北西-南東方向に長い横長長方形。各壁はややふくらみを持ち、隅部はあまり丸みを持たずに屈曲する。

規模 長辺 3.10m 短辺 2.56m 面積 9.52㎡

方位 N-48°-E

柱穴・周溝・貯蔵穴 なし。

埋没土 北西壁部は砂礫をごく少量含む黄灰色土が床面を直接覆う、他の3方の壁際には青灰色粘質土や炭化物、焼土を含む褐灰色土が堆積する。

確認最大壁高及び壁の状況 8.5cm。わずかに上方に開くが、ほぼ垂直に立ち上がる。

床面の状況及び床下施設等 中央部が低く壁際がや

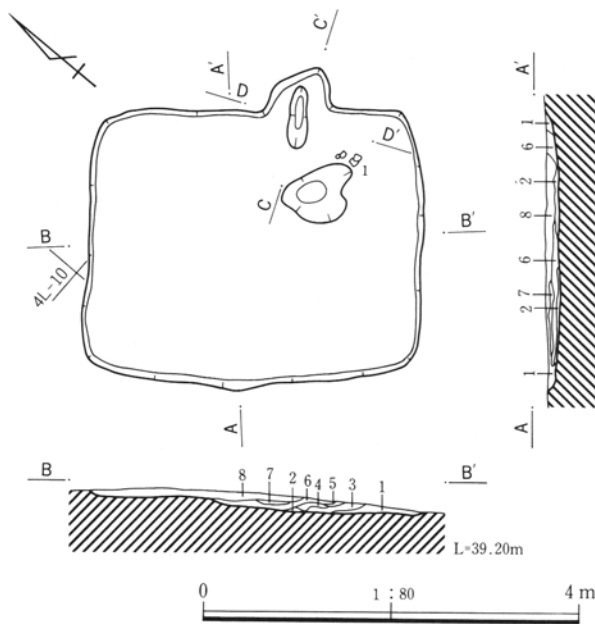
や高くなる。長軸方向では、南東部が段差をもって低くなる。貼り床はない。竈前に長軸80cm、短軸56cm、深さ18cmほどのハート形に似た不整形の窪みがある。貯蔵穴かとも思われるが、内部からの出土遺物はなく、確定できない。

竈 北東壁の南東寄りをゆがんだU字形に掘り込んで燃焼部を作る。袖はない。確認長88cm、燃焼部幅60cm。中央に溝状の窪みがある。埋没土には青灰色粘土塊が混じり、これが構築材とされていたものだろう。

重複 19号住居より古い。

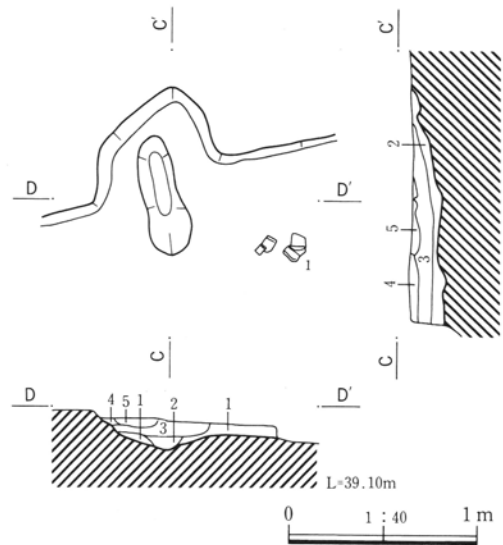
遺物と出土状況 遺物数はごく少ない。竈前部の窪みと竈との間に破片がまとまる。

その他 奈良時代(8世紀後半)



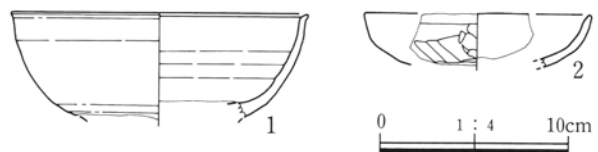
46号住居 A-A' B-B'

- 1 褐灰色土(10YR5/1)青灰色粘質土・炭化物・焼土(0.5~1・2mm)を若干含む。
- 2 褐灰色土(10YR4/1)砂礫・焼土粒(0.5~1・2mm)を少量含む。
- 3 不明。
- 4 黄灰色土(2.5Y6/1)1mm以下の青灰色粘質土を少量含む。
- 5 灰色土(5Y6/1)焼土・炭化物(0.5~2・3mm)を少量含む。
- 6 灰黄褐色土(10YR6/2)炭化物・焼土粒(0.5~1・2mm)をやや多く含む。
- 7 灰色土(5Y6/1)炭化物をやや多く含む。
- 8 黄灰色土(2.5Y6/1)砂礫(0.5~1・2mm)をごく少量含む。



46号住居 竈 C-C' D-D'

- 1 褐灰色土(10YR4/1)0.5mm以下の砂礫・炭化物を少量含む。
- 2 灰黄褐色土(10YR5/2)炭化物・焼土粒(0.5~1・2mm)・青灰色粘土塊(0.5~3・4mm)を少量含む。
- 3 黒色土(5Y2/1)炭化物をベースとし、青灰色粘土塊(0.5~10mm)・焼土塊(1~5mm)をやや多く含む。
- 4 褐灰色土(10YR6/1)青灰色粘土塊(0.5~2・3mm)を斑状にやや多く含む。
- 5 明青灰色粘質土塊(5B7/1)



第158図 46号住居と出土遺物

47号住居(第159・160図 PL51・147 遺物観察表P.375)

位置 A6区4I, 4J-7, 8グリッド

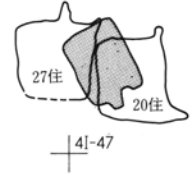
形状 南北に長い縦長長方形。竈左手にあたる南東隅部に、東壁を延長する形で幅56cm、奥行き20cmほどの張り出しがある。各隅はやや丸みをもって屈曲する。

規模 長辺 2.8m 短辺 1.94m 面積 6.47㎡

方位 N-151°-E

柱穴・周溝・貯蔵穴 なし。

確認最大壁高及び壁の状況 12cm。丸みを持って立ち上がり上方に開く。南壁はほぼ垂直に立ち上がる。床面の状況及び床下施設等 緩やかに波打ちながら南壁から北壁に向かって低くなる。貼り床はない。

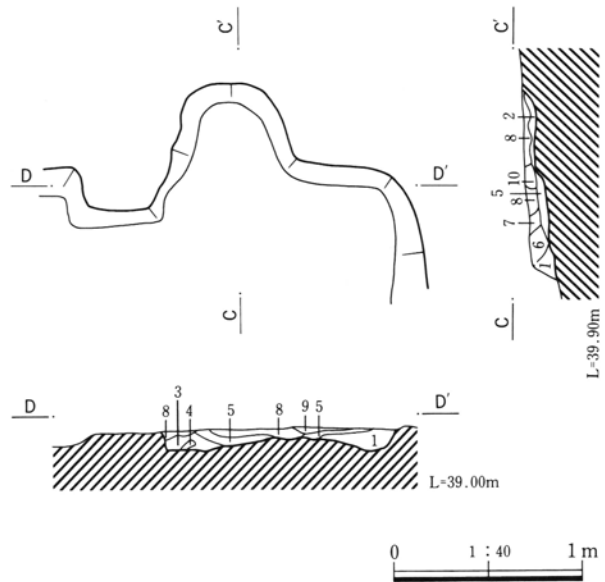
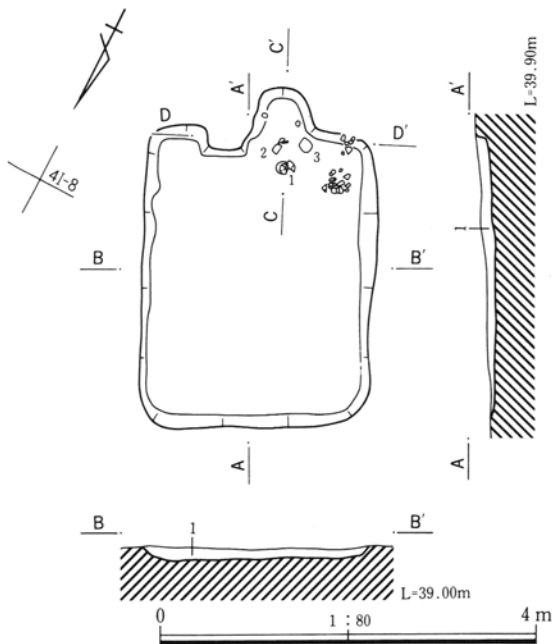


竈 南壁の西寄りを半円形に掘り込んで燃焼部の半ばを作る。袖はない。確認長92cm、燃焼部幅50cm。埋没土には構築材に用いられたと考えられる青灰色粘土塊が多く含まれる。

重複 20号・27号住居より古い。

遺物と出土状況 竈内から竈右手の南西隅部にかけて破片が集中する。

その他 奈良時代(8世紀後半)



47号住居 A-A' B-B'

1 灰黄褐色土(10YR6/2)焼土粒や炭化物粒等をほとんど含まない。非常に均質な粘質土。

47号住居 竈 C-C' D-D'

1 灰黄褐色土(10YR6/2)粒・夾雑物をほとんど含まない。非常に均質な粘質土。粘性・しまり8層と同程度。

2 灰層。

3 黒褐色土(10YR3/1)砂粒・焼土粒・炭化物粒(1~5mm)を少量含む。粘性・しまり8層と同程度。

4 褐灰色土(10YR6/1)青灰色粘土塊(1~2mm)・焼土(0.5~1.2mm)をやや多く含む。

5 黒色土(5Y2/1)炭化物層、赤橙色焼土粒(1mm以下)をごく少量含む。粘性・しまりやや弱い。

6 灰色土(5Y4/1)焼土・橙色土・黄褐色土・炭化物粒(0.5~1.2mm前後)を斑状にそれぞれ多く含む。粘性・しまりは8層に比べてやや弱い。

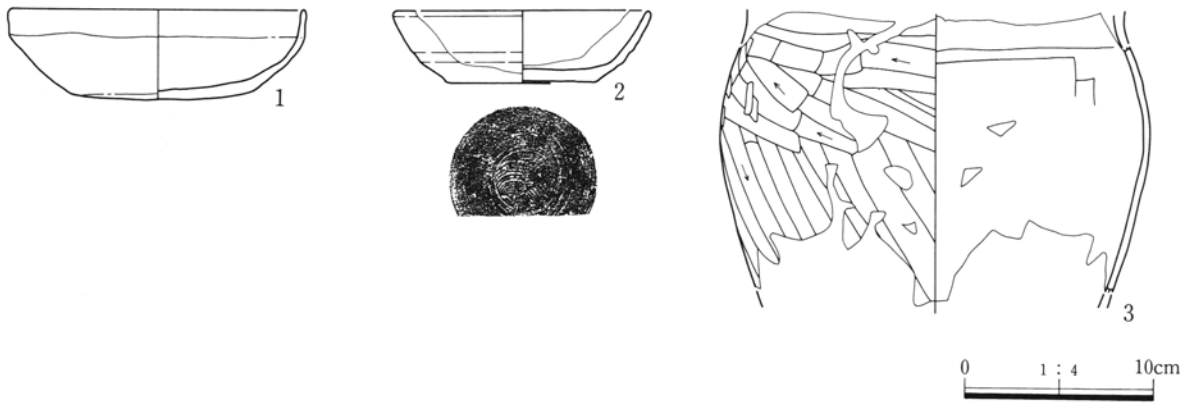
7 褐灰色土(10YR6/1)青灰色粘土・焼土粒(0.5~1mm前後)をごく少量含む。粘性・しまりともに強い(8層と同程度)。

8 灰白色土(10YR7/1)焼土粒・青灰色粘土塊(0.5~2.3mm)を斑状に多量に含む。粘性・しまりともに強い。

9 焼土混入。特に緻密。

10 焼土塊。

第159図 47号住居



第160図 47号住居の出土遺物

48号住居 (第161図 PL51)

位置 A6区4P, 4Q-6, 7グリッド

形状 調査区際で竈の下底部分と床面のごく一部を検出したものである。全体の形状を把握することはできない。東壁に竈を持つものと推測されるため、本遺跡の他の住居の例からみて、方形ないし長方形の平面形であろう。

方位 N-73°-E (竈)

柱穴・周溝・貯蔵穴 確認できない。

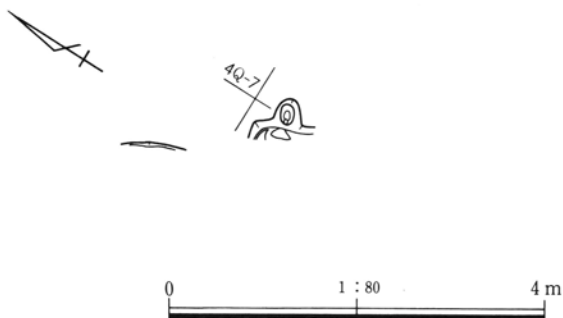
確認最大壁高及び壁の状況 6.5cm。

竈 東壁を壁外にコの字形に掘り込んで燃焼部を作り、短い煙道を付したものであると思われるが、詳細な構造は分からない。

重複 なし。

遺物と出土状況 なし。

その他 時期不明、平安時代か。



第161図 48号住居

49号住居 (第162図 PL51・52)

位置 A6区4C, 4D-44, 45グリッド

形状 東西に長い縦長の隅丸長方形の平面形を呈する。南壁は北壁よりやや短くなっており、東壁に作られた竈の左右で壁がやや食い違っている。各隅は丸みを持って屈曲しているが、特に南西隅は丸みが強い。

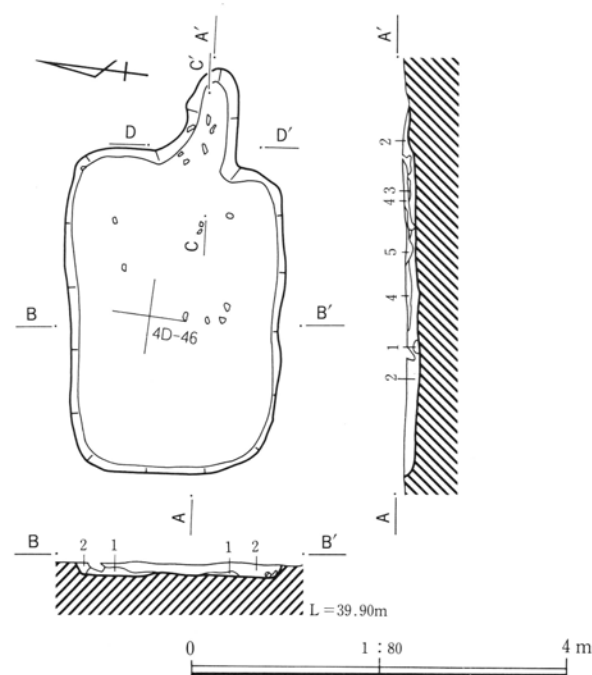
規模 長辺 3.2m 短辺 1.8m 面積 6.52㎡

方位 N-86°-E

柱穴・周溝・貯蔵穴 なし。

埋没土 褐灰色土を主体とし、これに灰褐色土、黄褐色ローム塊が混じた層で埋没する。一部に床面に接して灰白色粘土や黒褐色土塊を混じた灰色土が見られる。

確認最大壁高及び壁の状況 17cm。わずかに上方に開くが、やや丸みを持って立ちあがる。西壁はややなだらかな立ち上がりを示す。



49号住居 A-A' B-B'

- 1 灰色土 灰白色粘質土・黒褐色土の各塊の混土。
- 2 褐灰色土 褐灰色土に灰褐色土・黄褐色ローム塊の入り混じった層。一括埋土(竈前にローム塊多い)。
- 3 灰褐色土 灰層を含んだ層。粘性・しまりあり。
- 4 褐灰色土 灰褐色粘質土に鉄分沈着見られる。
- 5 褐色土 As-Bのような砂粒混土。

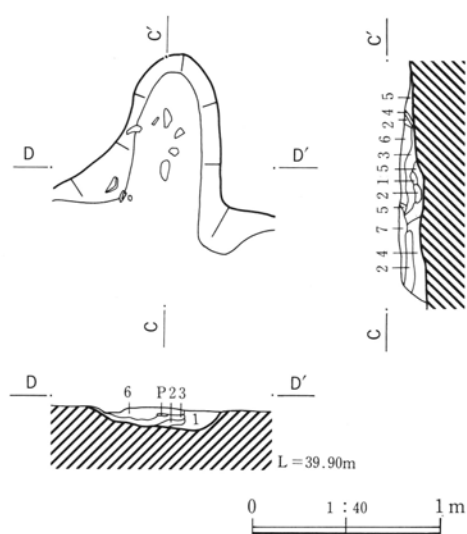
床面の状況及び床下施設等 わずかに凹凸があるがほぼ平らに仕上げられている。北西側がやや低くなり、南東側とわずかながら段差を持っている。貼り床はない。

竈 東壁の南寄りを、壁外にU字形に掘り込んで燃焼部を作り、煙道を延ばす。明確な袖は認められないが、左袖部では小さな突起状に地山が削り残されている。確認長1.0m、燃焼部幅40cm。埋没土には構築材に用いられたと考えられる灰白色の粘土が見られる。

重複 なし。

遺物と出土状況 竈内及び住居東半部を中心に土器片が散在するが、すべて細片である。竈内出土土器を除いて、他の土器は比較的上層の埋没土からの出土である。

その他 平安時代(11世紀前半)



49号住居 竈 C-C' D-D'

- 1 にぶい黄褐色土 灰白色粘土と灰黄褐色土の混土。
- 2 黄灰色 灰色及び黒褐色の灰が互層に入る。
- 3 褐色土 灰白色粘土小塊・焼土・灰混じる。
- 4 暗灰黄色土 ローム小塊(10~20mm)まだらに含む。
- 5 焼土塊
- 6 灰黄色 灰白色粘土に焼土粒・褐色土塊含む。天井崩落土。
- 7 灰黄褐色土

第162図 49号住居

50号住居 (第163~165図 PL52・147・148 遺物観察表P.376)

位置 A6区4D, 4E-42, 43グリッド

形状 東西に長い縦長長方形の平面形を呈する。南西隅がわずかながら調査区外となるが、他の三隅はやや丸みをもって屈曲する。竈先端部を69号住居に切られる。

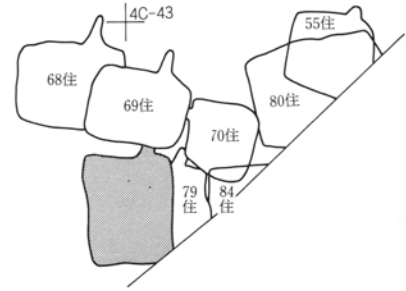
規模 長辺 4.36m 短辺 3.36m

方位 N-90°-E

柱穴・周溝・貯蔵穴 なし。

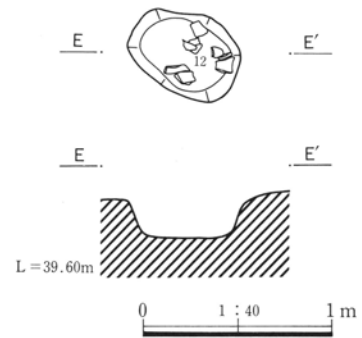
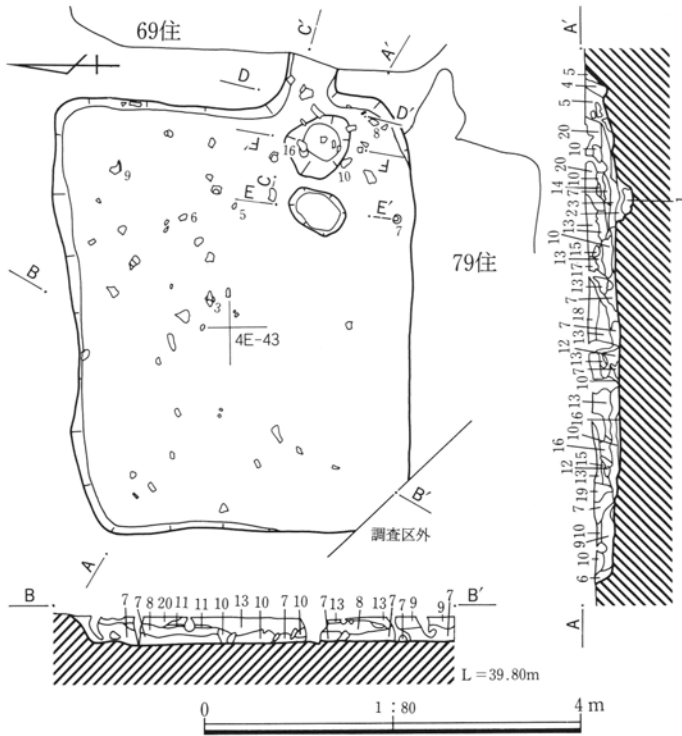
埋没土 主体的には炭化物をほとんど含まない暗褐色土で埋まるが、部分的に細かい炭化物粒を多く含む暗褐色~黒褐色土が見られる。焼土粒や炭化物は埋没土の中位から上位に多くみられる。

確認最大壁高及び壁の状況 42cm。わずかに上方に開くが、やや丸みを持って立ち上がり、ほぼ直立す



る。

床面の状況及び床下施設等 わずかに凹凸があるがほぼ平らに仕上げられている。北壁際には、わずかながら段差を持って高くなる部分がある。貼り床はないものと判断された。竈前部には直径70cmほどのゆがんだ不整形の平面形を呈する浅い窪みと、長軸55cm、短軸45cmの楕円形の平面形を呈し、18cmほどの深さを持つ土坑がある。これらの土坑は、こ



50号住居 A-A' B-B'

- 1 黒褐色土 灰・炭化物を全体に含み焼土塊を含む。床下ピット。
- 2 黄褐色土 黄白色シルト・灰色シルト塊を含む。床下ピット。
- 3 褐灰色土 黄白色土小塊、焼土・炭化物を含む。2層との境界に灰色粘質土が薄く堆積する。床面。
- 4 褐灰色土 3層に似るが、混入物少なく、炭粒わずかに含む。
- 5 褐灰色土 3層と同質。

- 6 暗褐色砂質壤土(10YR3/3)
- 7 暗褐色シルト質壤土(10YR3/3)炭化物はほとんど含まない。(3~5mm)の地山を含む(9層より多い)。
- 8 暗褐色土(10YR3/4)地山を多く含む。
- 9 暗褐色シルト質壤土(10YR3/3)炭化物粒(1~3mm)・地山塊(3~5mm)を含む。
- 10 8層と13層の中間的な様相。細かい炭化物粒を多く含み、黒みが強い。
- 11 炭化物の層状集中。
- 12 黄灰色シルト質壤土(地山)の塊。
- 13 黒褐色土(10YR2/3)黒褐色土をベースに炭化物・焼土・地山が混入。
- 14 13層中に地山の崩れた塊を含む。
- 15 13層中に地山の小塊多く含む。
- 16 13層中に黒色土塊を多く含む。
- 17 13層中に焼土を多く含む。
- 18 13層中に炭化物を特に多く含む。
- 19 13層中に細かい焼土粒を多く含む。
- 20 10層に近い。焼土粒を含む。

第163図 50号住居

第3章 検出された遺構と遺物

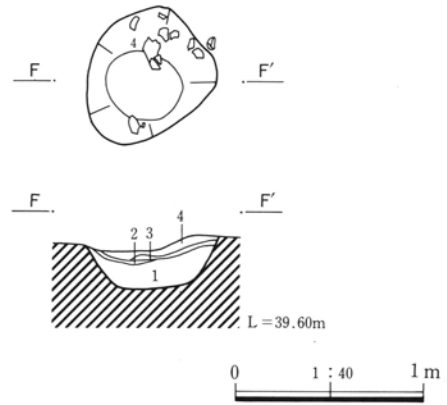
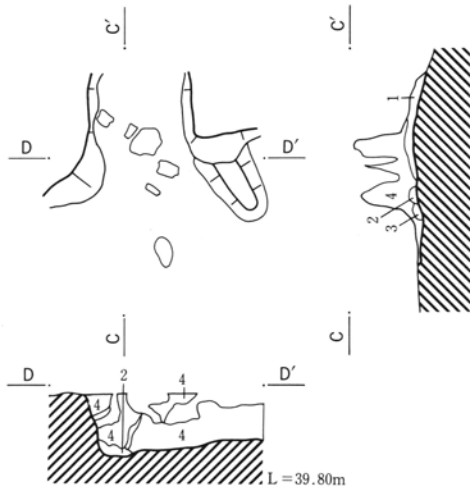
の住居に伴う床下土坑かと思われる。しかし、埋没土中には青灰色粘土塊が混入している。この粘土は79号住居の床面上に広がる粘土と同質であり、これらの土坑が79号住居に付属する可能性もある。

竈 東壁の南寄りをU字形に掘り込んで燃焼部を作るが、先端と煙道部は69号住居に切られる。左袖ははっきりしないが、右袖は地山を削り残している。確認長0.8m、燃焼部幅50cm。

重複 69号住居より古い。79号住居より新しい。

遺物と出土状況 竈内及び周辺に比較的大きな土器破片がある。竈燃焼部底面からは円筒埴輪破片が内面を上にして出土しており、構造の一部を成したものと考えられる。小片は住居全体に散在するが、図示可能個体はない。南西四半は出土量自体がごく少ない。被熱した整形角礫も出土した。

その他 平安時代（10世紀中葉）

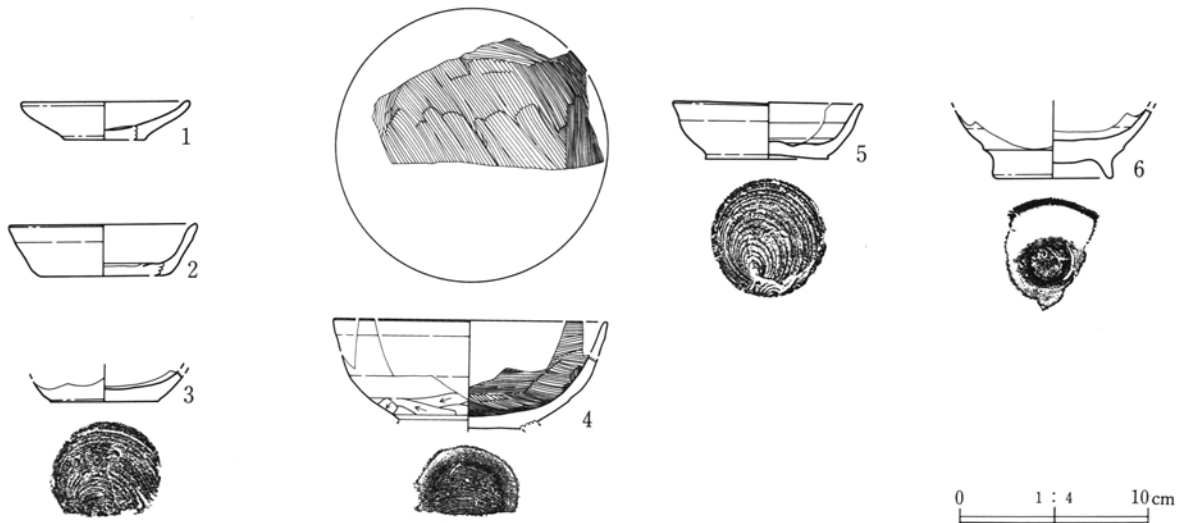


50号住居 竈 C-C' D-D'

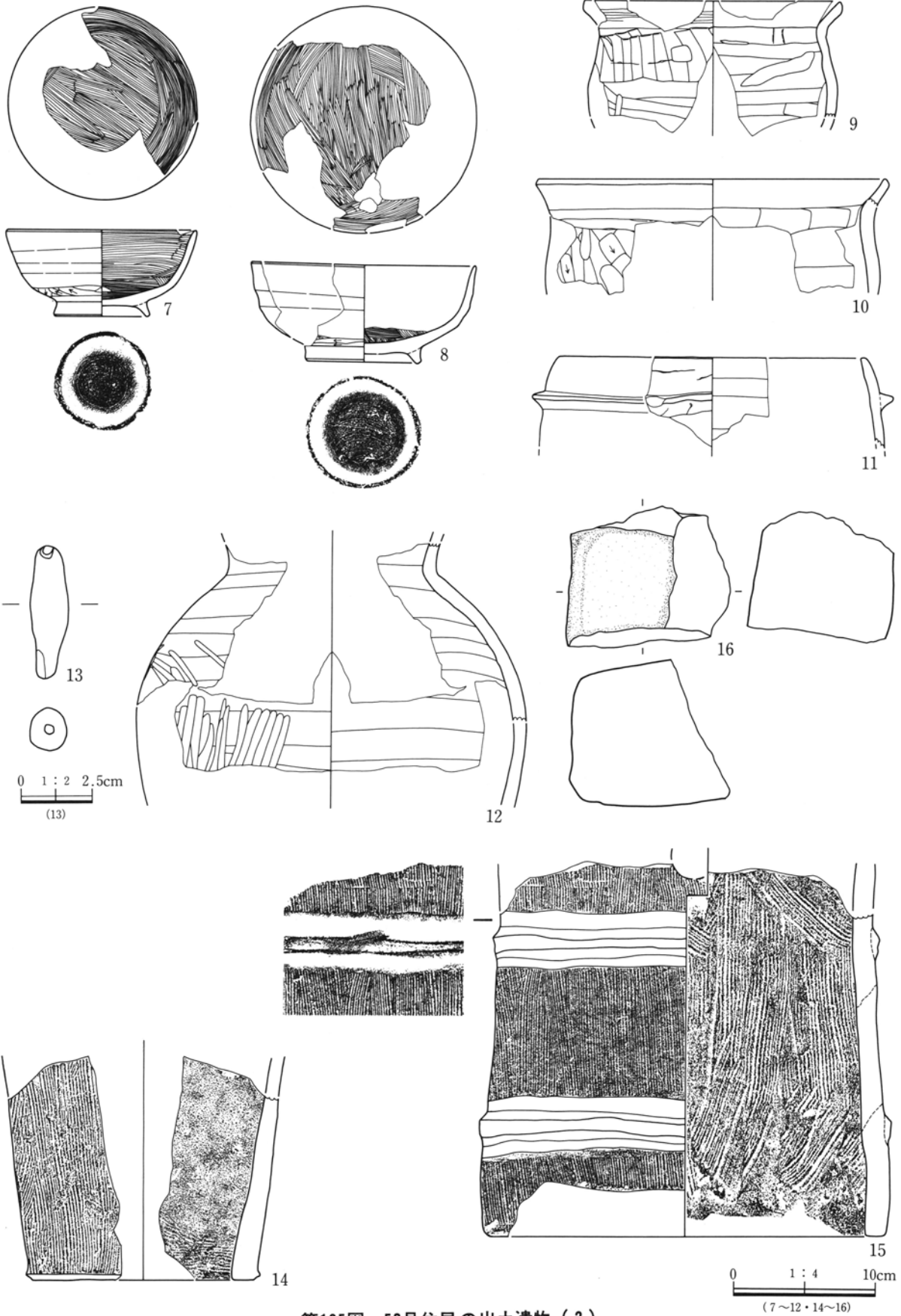
- 1 暗褐色土 灰・焼土粒混じり。
- 2 橙色土 焼土塊主体。褐色土、灰、炭含む。
- 3 黄褐色土塊
- 4 褐灰色土 灰黄色土小塊・暗褐色土小塊混じり、焼土・炭粒含む。砂質気味。

50号住居 竈前ピット F-F'

- 1 黒褐色土 灰層に焼土粒が混じり、黄白色シルト縞状に入る。
- 2 不明。
- 3 黒褐色土 灰層が1mm前後の厚さで互層に堆積。
- 4 黒褐色土 焼土粒、灰まじり。



第164図 50号住居竈と出土遺物（1）

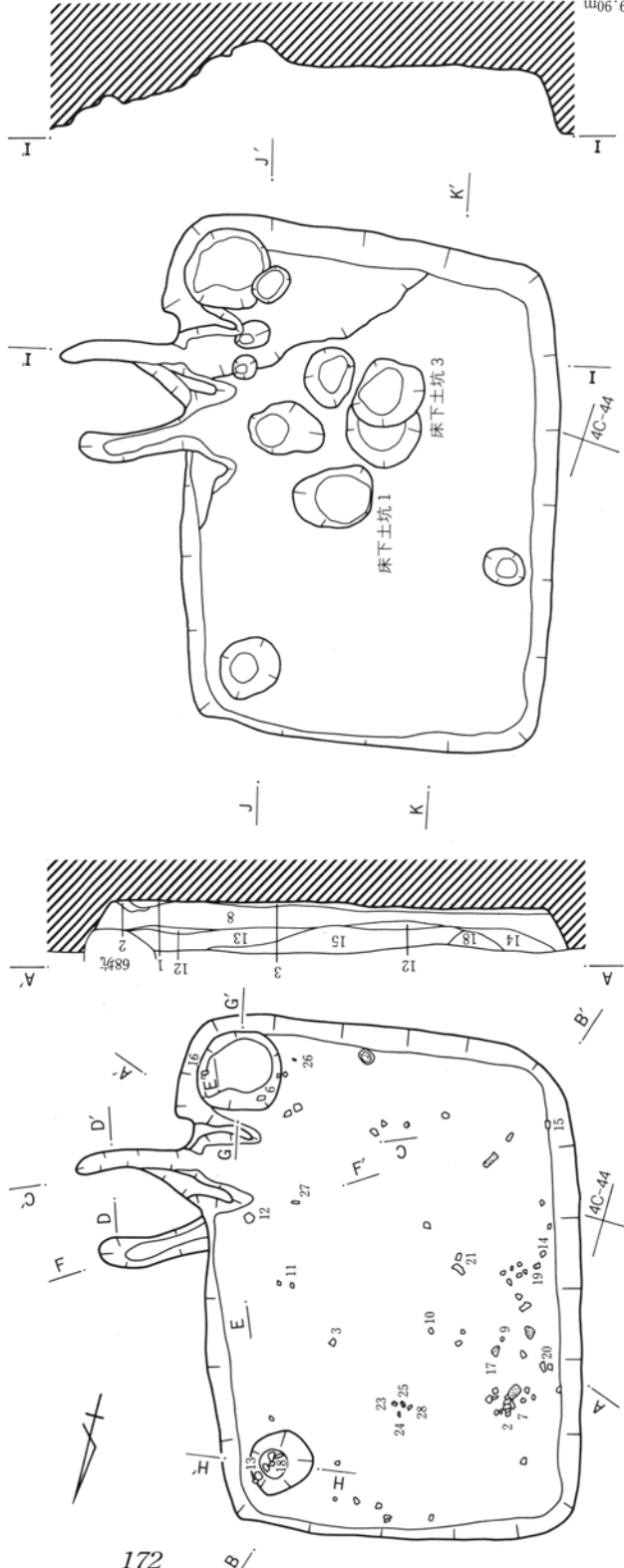


第165図 50号住居の出土遺物(2)

第3章 検出された遺構と遺物

51号住居 G-G'

- 1 砂壤土(10YR3/4)シルト斑(10YR7/3)φ5~15mmを含む。
- 2 焼土・炭化物は含まない。
- 3 1に近いがシルト斑少なく、炭化物粒を含む。
- 4 2に近いが焼土は含まない。
- 5 小塊(φ5mm)、φ3~5mmの炭化物粒を含む。
- 6 砂壤土(10YR3/4)φ2~3mmの焼土粒を少量含む。
- 7 砂壤土(10YR5/4)φ2~3mmの焼土粒を少量含む。5層の小塊、茎状の炭化物を含む。
- 8 ほぼ6層と同層。7層中に斑状に存在。
- 9 砂壤土(10YR5/3)少量の焼土塊を含む。
- 10 砂壤土(10YR4/3)φ3~5mmの焼土粒を含む。(10YR7/3)のシルト小塊(φ2~5mm)、(10YR2/3)の塊(壁部地山)を含む。

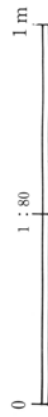


51号住居 A-A' B-B'

- 1 焼土。
- 2 黒褐色埴土(10YR2/3)竈軸にあたる。鉄分が凝集する。
- 3 灰褐色粘質土(貼り床)炭化物・焼土粒が部分的に多く混じる。一部灰白色シルトとの互層をなす。
- 4 暗褐色壤土(10YR3/3)混入物は少ない。
- 5 砂壤土(2.5Y3/2~2.5Y3/3)暗褐色土の小斑や炭化物・焼土を含む。
- 6 褐色砂壤土(10YR4/4)
- 7 にぶい黄褐色壤土(10YR6/3)炭化物粒を含む。

51号住居 H-H'

- 1 砂質壤土(10YR3/2)
- 2 (10YR3/4)壤土中に砂粒(地山の再堆積ローム中の黄色砂粒)を含む。
- 3 (10YR4/3)壤土中に(10YR6/3)のシルト斑を含む。
- 4 (10YR3/3)壤土。
- 5 (10YR3/4)砂質壤土中に(10YR5/4)シルト塊、(10YR2/3)埴土塊を含む。
- 6 砂質壤土(10YR3/4)混入物少なく均質。



8 暗オリーブ褐色砂壤土(2.5Y3/3)炭化物・焼土粒を含む。暗褐色土・灰白色土・焼土などの小塊が入り混じる。

9 暗オリーブ褐色壤土(2.5Y3/3)炭化物粒を含み、上位は暗褐色土化する。

10 褐色壤土(10YR4/4)焼土粒・炭化物粒を含む。

11 暗オリーブ褐色砂壤土(2.5Y3/3)

12 炭化物集中層。13層及び15層下面につづく。

13 オリーブ褐色シルト質壤土(2.5Y4/6)炭化物の細粒、φ2mm程の焼土粒を含む。

14 暗褐色砂壤土(10YR3/4)下位は炭化物を多く含み、13層に連続する。

15 暗褐色砂壤土(10YR3/4)やや攪乱を受けている。

16 褐色壤土(10YR4/4)

17 にぶい黄褐色砂壤土(10YR3/4)φ2mm程の細かい炭化物粒を含む。

18 暗褐色砂壤土(10YR3/4)灰白色シルト・暗褐色土の小斑を含む。19にぶい黄褐色砂壤土(10YR4/3)炭化物・焼土粒を多く含む。(76号住居の覆土)

第166図 51号住居

51号住居(第166~168図 PL52・54・148 遺物観察表P.376・377)

位置 A6区4A, B-43・A~C-44グリッド

形状 南北に長い横長長方形の平面形を呈する。南壁が北壁よりやや長く、また西壁とやや開き気味に接続する。南東隅部は貯蔵穴を囲むようにわずかながら張り出す。他の三隅はわずかに丸みをもって屈曲する。

規模 長辺 5.00m 短辺 3.64m 面積 17.46㎡

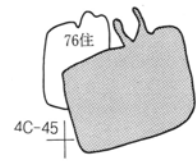
方位 N-82°-E

柱穴・周溝 なし。

貯蔵穴 竈右手に当たる南東隅部にある(貯蔵穴1)。北西隅部にも遺物を伴う土坑(貯蔵穴2)があり、これも貯蔵穴としての機能を持ったものであろう。貯蔵穴2は貼り床下にあり、最終使用時には埋まった状態であつたらしい。貯蔵穴1は直径90cmほど、床面からの深さ25cmほどの規模で、円形の平面形を呈するが、竈側は直線的に掘られている。埋没土には焼土や炭化物、粘土などを部分的に含む。底面は皿状で、竈側に小さな段差を持っている。貯蔵穴2は直径60cmほど、深さ33cmほどの規模で、円形の平面形を呈する。底面は平坦で、逆台形状の断面形を呈している。坑底から垂角礫と坏の破片が出土している。

埋没土 暗オリーブ褐色の砂質壤土を主体として、これに炭化物、焼土、暗褐色土、灰白色土などの塊が入り混じる、乱れた土で埋まっている。この層の直上には、特に住居中央部から南部分に広がって、ほぼ水平に炭化物や焼土の集中する層が見られ、一部では比較的厚い堆積を示している。炭化物は材として認定できるものはなく、小塊ないし細片として認められた。焼土も、堅く焼き締まったものが多いものの、小塊が主体をなしている。ともに、一見して現地性のものではないことは明らかであった。埋没の比較的早い段階で、住居窪地を掘り直す等の人工が加えられ、炭化物の廃棄等が行われたものようだ。

確認最大壁高及び壁の状況 52cm。わずかに上方に開くが、やや丸みを持って立ち上がり、ほぼ直立す



る。

床面の状況及び床下施設等 わずかに波打つような凹凸があるが、ほぼ平らに仕上げられる。灰褐色粘質土で貼り床される。北壁近くの掘り方はほぼ水平だが、それ以南は徐々に深く掘り込まれ、中央やや南寄りの、竈前に当たる部分には、土坑状の掘り込みが5基あって、西側の2基は切り合うように掘られている。この掘り込みの埋没土中には炭化物や焼土、粘土などを含むものがあり、竈の作り替えに際して掘り込まれた可能性が考えられる。

竈 東壁の南寄りに2基が重複している。南側の竈(竈1)が新しく、住居の最終使用時に伴うものである。粘土で住居内に燃焼部を構築し、壁外に細長く掘り込んだ煙道を延ばしている。袖は茶褐色の粘質土を主体的な用材としたもので、燃焼部の構築には埋没土に混ざる黄褐色、青灰色、灰白色の粘土が用いられたものと見られる。また、竈の前には青灰色粘土の面的な分布があるが、竈と直接的に関係するものかどうか分からない。焚き口相当部に対向する小ピットがあるが、袖石などは見られない。燃焼部と煙道との接続はなだらかだが、煙道は途中で段差を持っている。確認長2.24m、燃焼部幅50cm。

南側の竈2も構造的には相同であるものと思われるが、竈1に切られ、燃焼部や袖はほとんど残っていない。左袖部には地山を突起状に掘り残したかと思われる残痕がある。煙道部は現代の耕作溝に切られていて、この底面で赤変した焼土面を確認したのみであった。燃焼部は貼り床下の窪みとして確認された。浅い窪みであるが、この中には炭化物、焼土や灰が堆積していた。確認長1.7m。燃焼部の手前には東西80cm、南北50cmの楕円形の平面形を呈する窪みがあり、この東端部に直径30cm、深さ30cmほどの規模で円形の平面形を呈する土坑が掘られている。

第3章 検出された遺構と遺物

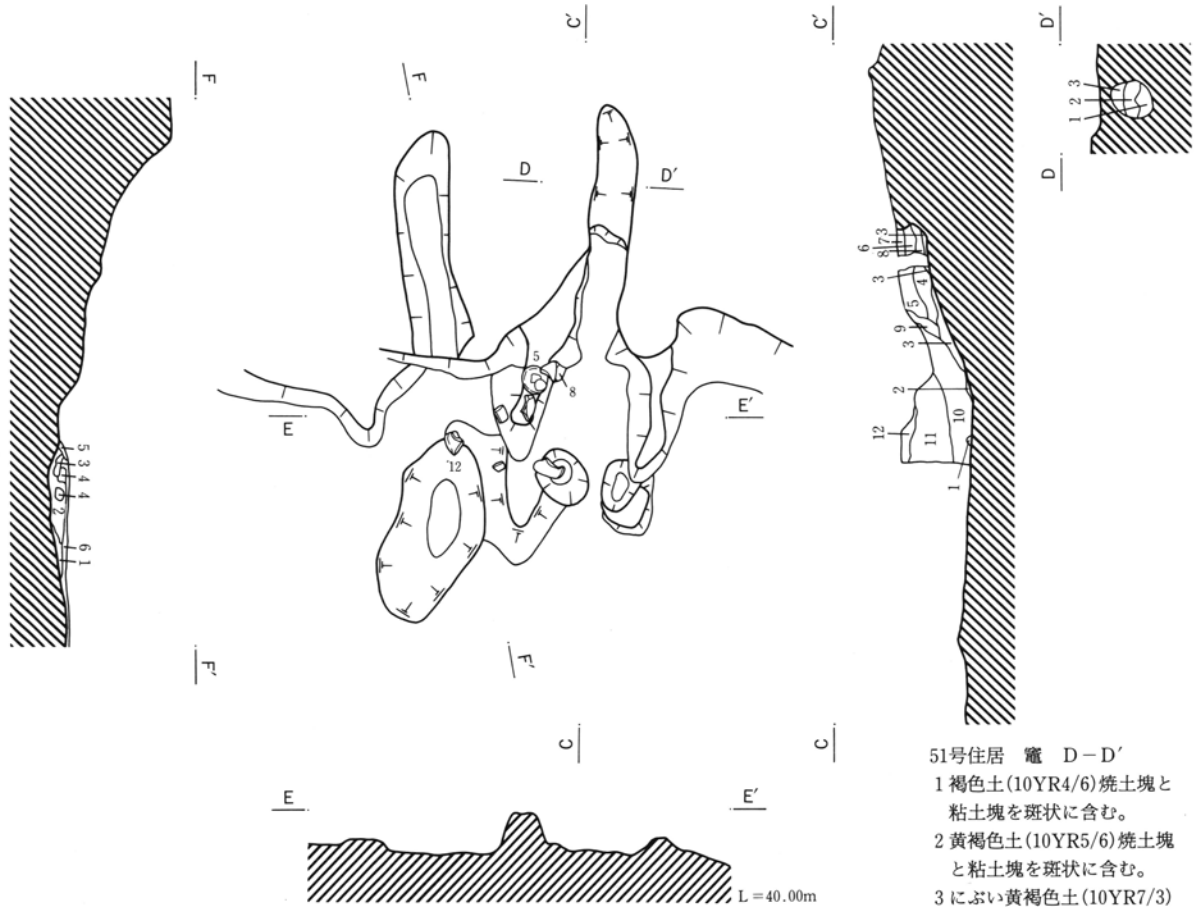
この土坑の埋没土には、比較的大きな炭化物の集中部や多量の灰を含む部分がある。

重複 76号住居、68号土坑より古い。

遺物と出土状況 住居全体に土器破片が散在している。しかし、竈1の左袖部にほぼ完形の高台付碗などがあるほかは、竈周辺には遺物の出土が比較的少ない。図示した資料には坏、碗類が多いが、これも竈周辺からの出土土器が少ないことによるものだろう。西壁の南寄りに集中する傾向があるが、これは

埋没土中位の炭化物層の分布域外にあたり、先に想定した掘り直し等によって、失われた土器があったものと考えられる。また、北壁部にも小さな土器片のまとまりがあるが、ここでは上位から流れ込んだような破片の出土状況が見られた。土器以外では住居北半の中央付近は、管状土錘が4点まとまって出土している。

その他 平安時代（10世紀中葉）



51号住居 竈 C-C'

- 1 黄褐色粘土
- 2 青灰色粘土
- 3 焼土
- 4 壤土(2.5Y3/3)やや粘性があり、径10~15mmの焼土塊を含む。
- 5 砂壤土(2.5Y4/3)径3~5mmの焼土粒を含み、灰白色粘土を斑状に含む。
- 6 粘質土(10YR5/6)焼土塊を多く含む。
- 7 埴壤土(10YR7/3)下底部は焼けて赤変する。
- 8 埴壤土(10YR4/4)焼土塊を含む。
- 9 砂壤土(2.5Y3/3)径3~5mmの焼土粒と、灰白色粘土を含む。
- 10 砂壤土(2.5Y3/3)9より炭化物・焼土が少ない。

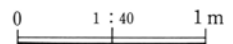
51号住居 竈 D-D'

- 1 褐色土(10YR4/6)焼土塊と粘土塊を斑状に含む。
- 2 黄褐色土(10YR5/6)焼土塊と粘土塊を斑状に含む。
- 3 にぶい黄褐色土(10YR7/3)天井部の残存。

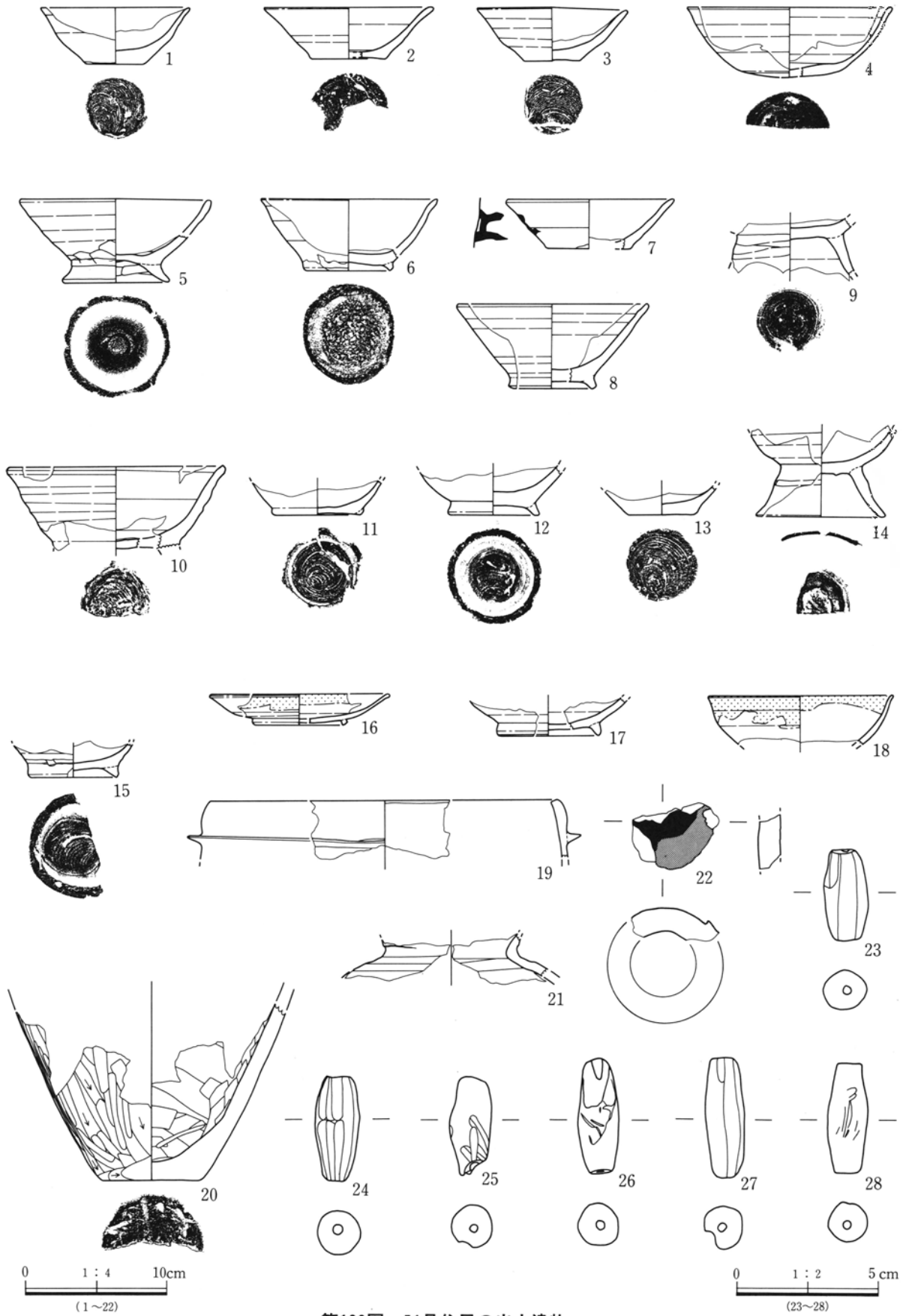
- 11 砂壤土(2.5Y3/3)10層に黒褐色土を混ぜ乱れる。
- 12 シルト質壤土(2.5Y6/4)炭化物・焼土を含む。

51号住居 竈 F-F'

- 1 やや濁った焼土と灰の混土。
- 2 1層が根によって攪乱を受けた土。
- 3 シルト(2.5Y4/4)焼土粒を多く含み、灰を織状に含む。
- 4 シルト(2.5Y4/3)焼土・炭化物を多く含む。
- 5 粘土(2.5Y6/3)
- 6 シルト(2.5Y5/3)76号住居の貼り床下にあたる。



第167図 51号住居竈



第168図 51号住居の出土遺物

52号住居(第169~171図 PL54・148・149 遺物観察表P.377・378)

位置 A6区4B,4C-41,42グリッド

形状 隅丸方形。北壁は中央部でやや内側にくびれ、北東隅は比較的丸みが少ない。

規模 長辺 2.96m 短辺 2.90m 面積 9.67㎡

方位 N-98°-E

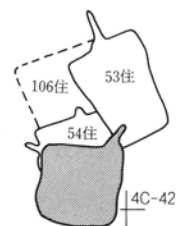
柱穴・周溝・貯蔵穴 なし。

埋没土 床面直上には焼土、炭化物、白色シルトを含む灰褐色～褐灰色土が薄く堆積する。その上位には灰黄褐色土が一気に堆積している。

確認最大壁高及び壁の状況 27cm。わずかに上方に開くが、やや丸みを持って立ち上がり、ほぼ直立する。

床面の状況及び床下施設等 わずかに凹凸があるがほぼ平らに仕上げられる。貼り床はない。

竈 東壁の南端を東に向けてU字形に掘り込んで燃焼部を作り、細長く煙道を延ばす。壁から袖はないが右袖部に礫が認められる。また、燃焼部中央やや奥寄りに支脚と見られる礫が立位で認められる。確

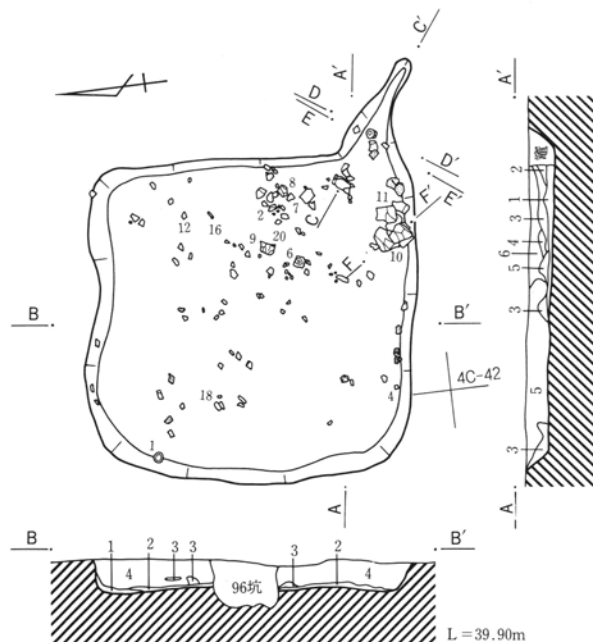


認長1.5m、燃焼部幅50cm。壁から68cm外まで燃焼部が掘られ、さらに30cmほど外に直径20cmほどの煙道口がある。埋没土には構築材に用いられたと考えられる青灰色粘土が見られる。

重複 53号・54号住居、92号土坑、99号土坑より新しい。96号土坑より古い。

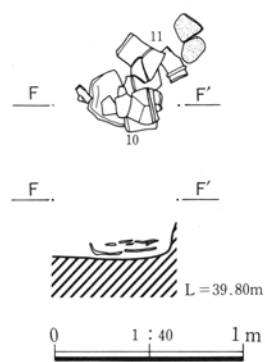
遺物と出土状況 竈内及び竈周辺に大型破片が集中する。竈右手の南壁際には羽釜2個体分のまとまりがあり、左手には土釜片がまとまる。他は全体に小片が散在し、坏、埴、土錘などが見られる。埋没土から鉄製品の釘、刀子片、穿孔、整形のある須恵器片、墨書土器片なども出土している。

その他 平安時代(10世紀中葉)



52号住居 A-A'

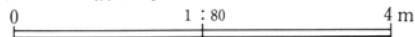
- 1 灰褐色土 灰、シルト互層塊。
- 2 灰褐色土 焼土塊をまだらに含む。灰白色小塊が点在する。



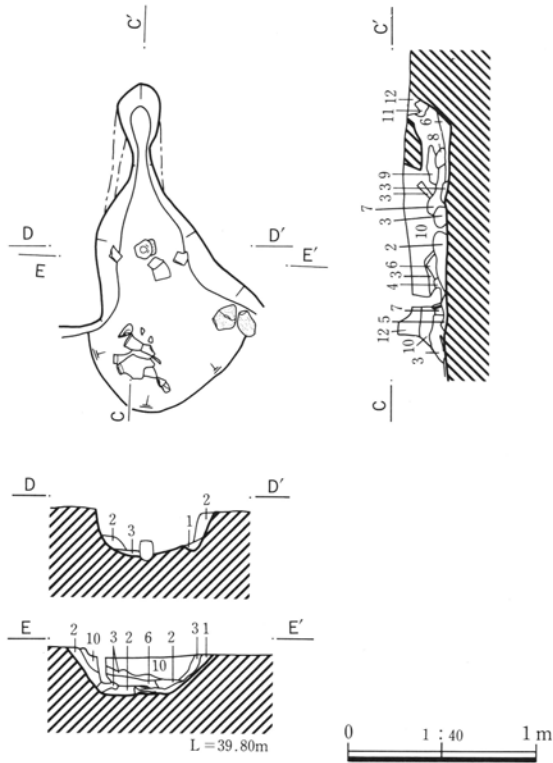
- 3 灰褐色土 灰褐色土と黄白色シルトの混土。ややラミナ状に見える。焼土、炭粒含む。
- 4 灰褐色土 細砂、シルト互層塊。
- 5 灰黄褐色土 焼土粒を含む。
- 6 灰褐色土 5層に似るが、やや白っぽい。

52号住居 B-B'

- 1 褐灰色土 2層とは色調がやや異なる。
- 2 灰褐色土 焼土・炭粒・白色シルトを含む。
- 3 におい黄褐色土 シルト質。洪水砂。地山。
- 4 灰黄褐色土 灰白色粒・炭粒・焼土粒を含む。土器片を上層に多く含む。洪水による一括埋土。



第169図 52号住居

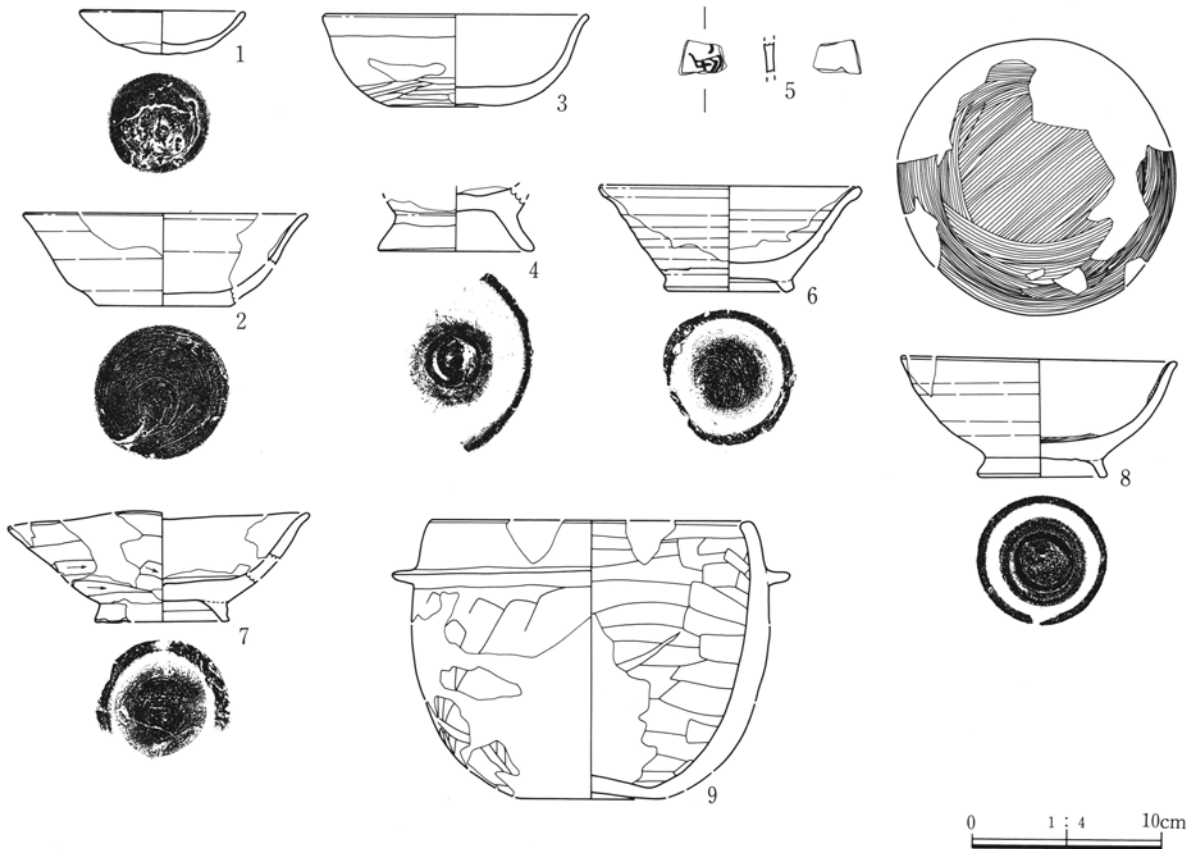


52号住居 竈 C-C' E-E'

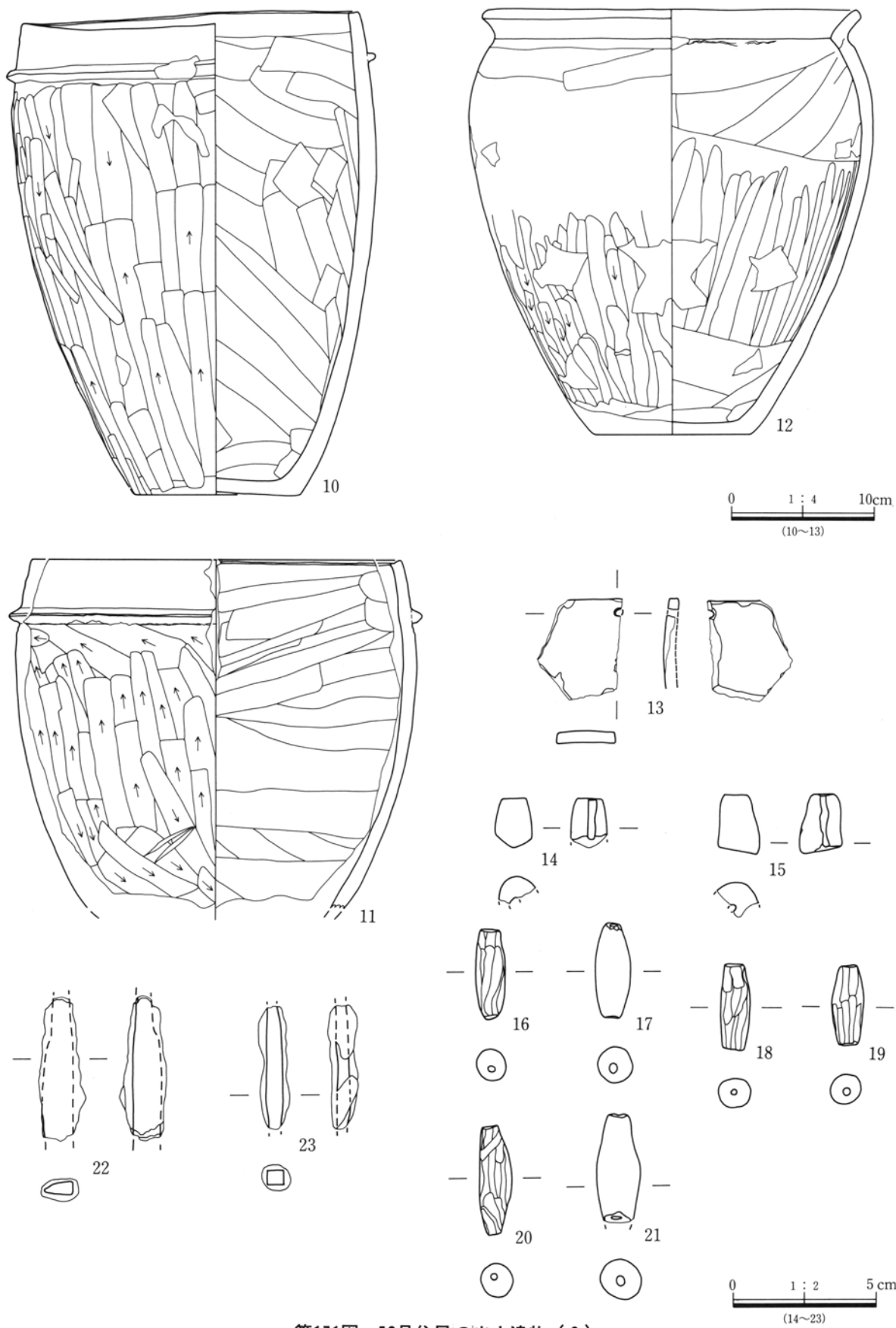
- 1 青色シルト やや砂質土。
- 2 におい橙色土 焼土塊・青灰色粘土塊・灰などの混じり。
- 3 におい橙色土 焼土小塊主体。青灰色粘土小塊の混土。
- 4 灰色 灰層。細かな草の灰のような物を含む。フワフワした層。
- 5 黒褐色土 焼土粒を含む灰層。
- 6 橙色土 灰色シルト質粘土の焼土化した層。(天井崩落土)
- 7 青灰色粘土塊 灰褐色土塊混じり。
- 8 灰黄褐色土 黄白色シルト塊を含む。
- 9 におい黄橙色土 青灰色粘土塊主体。黄褐色シルト塊との混土。
- 10 暗褐色土 焼土粒・炭粒・青灰色粘土小塊が点在する。
- 11 灰褐色土 夾雑物少なく、僅かに黄白色粒を含む。
- 12 暗褐色土 焼土粒・炭粒を僅かに含む。

52号住居 竈 D-D'

- 1 におい褐色土 焼土小塊、灰白色シルト塊の混土。
- 2 褐色土 焼土小塊を含む。
- 3 灰層。



第170図 52号住居竈と出土遺物(1)



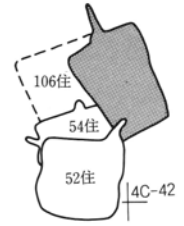
第171図 52号住居の出土遺物(2)

53号住居(第172~174図 PL55・149・150 遺物観察表P.378)

位置 A6区4A,4B-41,42グリッド

形状 東西に長い縦長長方形の平面形を呈する。南壁の東部を69号土坑と94号土坑に、北壁の東部を70号土坑に切られている。さらに北西隅は52号住居に切られる。このため、北壁は北東隅を除いてはつきりしない。確認できる隅部はやや丸みをもって屈曲する。中央部がややくびれるように狭くなるため、東壁の方が西壁よりやや長い形状であった可能性もある。

なお、この住居東壁の北延長上にも完形の埴類がまとまった出土を見せていて、調査時点ではこれらの土器も本住居に伴う可能性が考えられた。このため、この土器の出土範囲を含む方形の平面形状も想定されたが、確実に本住居に伴う土器と、これらの



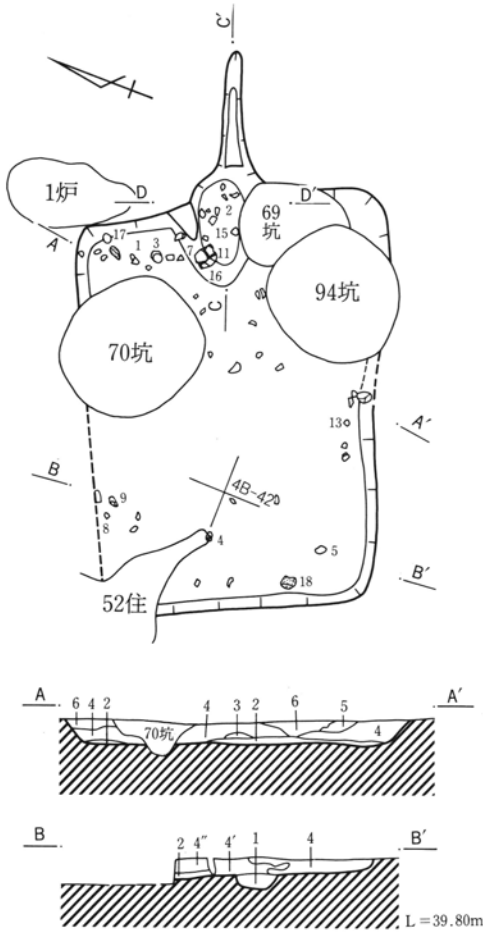
土器との間に時期差があること、想定された方形の平面形状では竈と壁との接合に不自然さがあることなどから、先の土器類については別の住居に帰属するものとして、整理段階で新たに106号住居を建てることとした。

規模 長辺 4.06m 短辺 2.74m

方位 N-70°-E

柱穴・周溝・貯蔵穴 なし。

埋没土 青灰色粘土塊や焼土、炭化物を含む褐灰色



53号住居 A-A' B-B'

- 1 灰褐色土 青灰色粘土塊を含む。土質密。粘性強い。
- 2 暗灰色土 灰色と黄白色のそれぞれ粘性の強い土が、互層に踏み締められる(貼り床)。
- 3 暗褐色土 焼土小塊。青灰色粒含む。僅かに炭粒を含む。
- 4 灰褐色土 青灰色粘土小塊をまだらに多く含む。焼土小塊・炭化物を含む。粘性強い。
- 4' におい灰黄褐色土 青灰色粘土小塊をまだらに含む。
- 4'' におい灰黄褐色土 青灰色粘土塊主体。焼土化塊、灰褐色土塊の混土。粘性強く、しまり強い。
- 5 褐色土 焼土粒僅かに含む。
- 6 黒褐色土 灰・炭を多量に含む。焼土粒含み、サクサクした層。

0 1 : 80 4 m

第172図 53号住居

土で埋没している。青灰色粘土は埋没土中に比較的多く含まれているが、竈においては灰白色の粘土が構築材の主体とされており、青灰色の粘土は最終使用面以下にあって、作り替え以前の竈の構築材に想定されている。

確認最大壁高及び壁の状況 11cm。東西の壁は比較的残りが良い。わずかに上方に開くが、やや丸みを持って立ち上がり、ほぼ直立する。

床面の状況及び床下施設等 わずかに凹凸があるがほぼ平らに仕上げられる。北部は粘性の強い灰色土と黄白色土の薄い互層が締め固められて貼り床とされている。

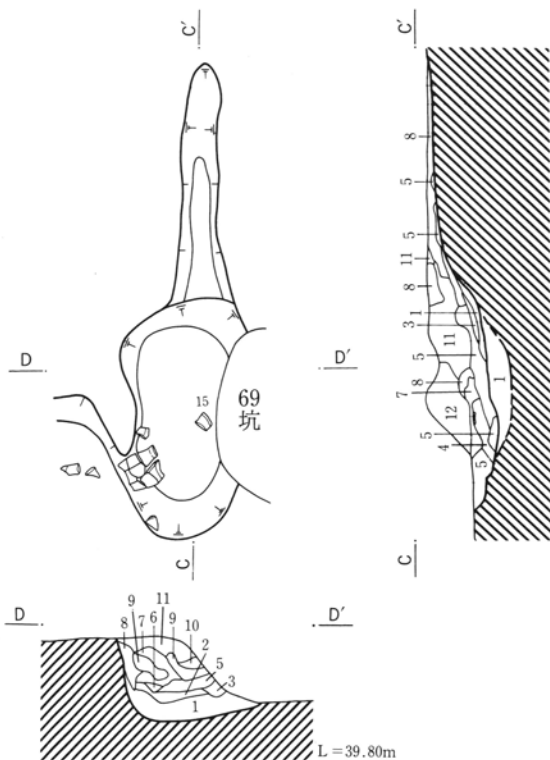
竈 東壁のほぼ中央をU字形に掘り込んで燃烧部の半ばを作り、細長く煙道を延ばす。左袖部は地山を短く削り残して住居内に張り出させている。右袖部は69号土坑に切られて失われている。確認長2.48m、燃烧部は長1.25m、幅60cmほどの楕円形の平面形を呈する皿状の窪みで、わずかな段差をもって煙道に続く。煙道は幅30cmほどの幅で燃烧部に取り付き、

幅15cmほどにせばまって、燃烧部端から1.23mほどの長さに延びている。埋没土には構築材に用いられたと考えられる灰白色粘土が見られる。また、使用面下に青灰色粘土の塊や焼土塊がまとまってみられる部分があり、この青灰色粘土を用いて作られた竈が灰白色粘土を用いる竈に作り直されたものではないかと想定される。

重複 69号・70号・94号土坑、52号・54号住居より古い。106号住居より新しい。北隅を1号炉に切られている。

遺物と出土状況 住居中央部をのぞいて、土器破片が比較的多く出土している。形状をうかがうことのできる大きな破片も多い。中でも竈を中心に、住居の東半部分に多くの土器破片がみられ、特に竈左手では完形ないしそれに近い状態の塊がまとまって出土している。また、竈内からは甕の大型破片が出土した。

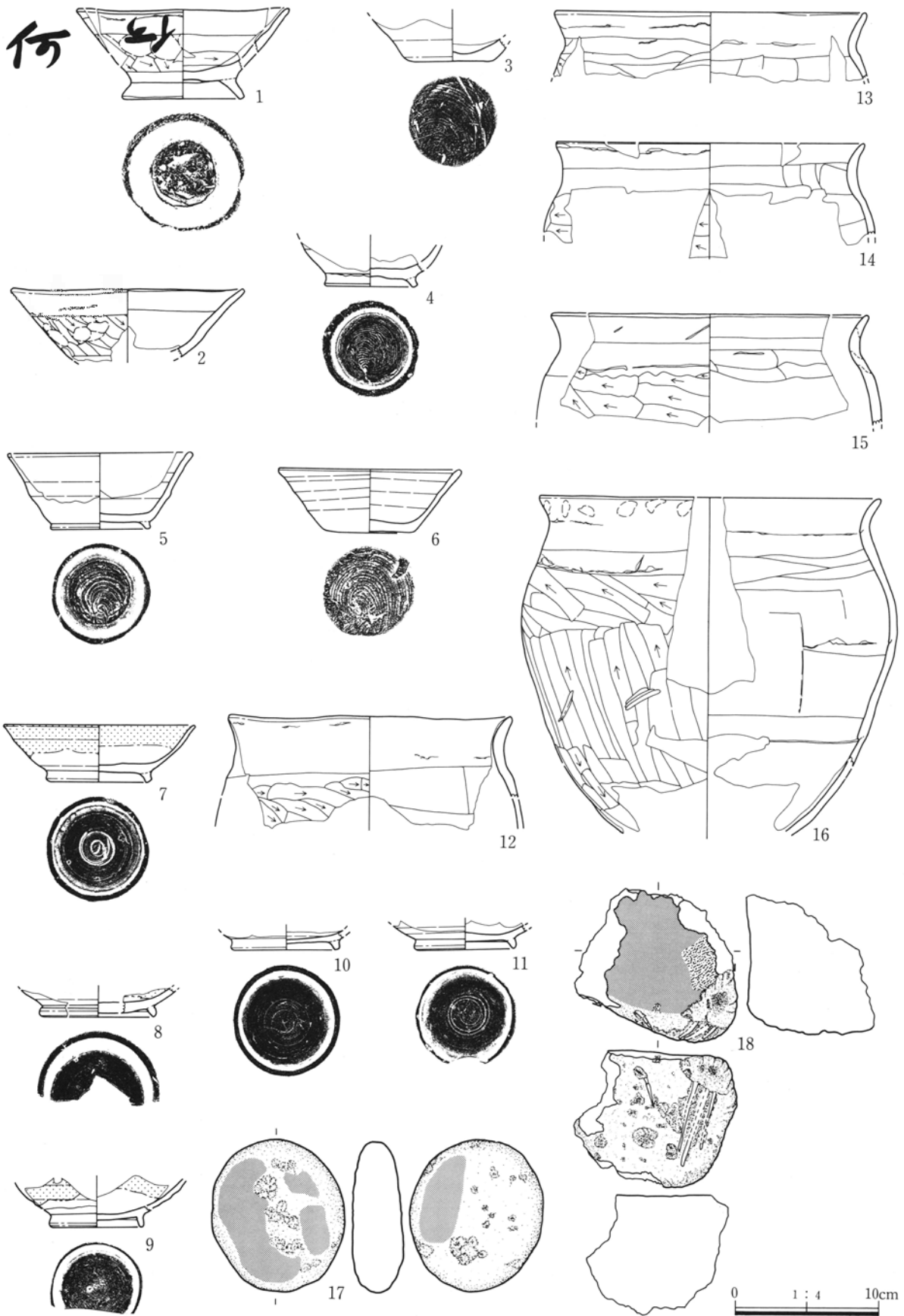
その他 平安時代（10世紀前葉）



53号住居 竈 C-C' D-D'

- 1 青灰色粘土塊主体であるが、焼土塊、褐灰色粘土塊の混土。(使用面下層、竈構築材で作り替えの可能性が考えられる)
- 2 灰白色灰層
- 3 暗灰褐色土 灰層に、焼土塊、細砂が混じる。
- 4 灰黄色土 焼土塊を多く含む。
- 5 鈍い褐色土 焼土塊主体。
- 6 灰色土 焼土粒を僅かに含む。灰層?
- 7 灰黄色土 灰白色粘土小塊粒を含み、僅かに焼土、炭粒を含む。
- 8 灰白色粘土主体。
- 9 におい灰黄色土 11層に焼土、炭粒を含む。
- 10 灰黄色土 灰白色粘土塊を多く含み、僅かに焼土、炭粒を含む。
- 11 におい灰黄色土 灰白色粒(φ5mm)が点在する。粘性強い。
- 12 灰白色 灰白色粘土粒、炭化物、焼土粒が乱れた状態に入る。

第173図53号住居竈



第174図 53号住居の出土遺物

54号住居(第175・176図 PL55・150 遺物観察表P.378)

位置 A6区4A, 4B-42グリッド

形状 東壁と南壁の一部を検出したにとどまるため、全体の形状は分からない。東壁の南寄りに竈を持つものとすれば、本遺跡の他の住居の例からみて、南北に長い横長長方形である可能性が高いものと考えられる。当初は83号住居と同一の住居と考え、二つの竈を持つものと想定していた。

規模 東壁確認長 2.66m 東西確認長 2.2m

方位 N-80°-E (竈)

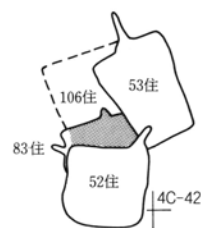
柱穴・周溝 なし。

貯蔵穴 竈右手にあたる南東隅部にある。長径62cm、短径48cmの楕円形の平面形を呈する。

確認最大壁高及び壁の状況 22.5cm。確認できる部分は少ない。わずかに上方に開くが、やや丸みを持って立ち上がり、ほぼ直立する。

床面の状況及び床下施設等 わずかに凹凸があり、北に向かってやや下がるが、ほぼ平らに仕上げられる。貼り床はない。

竈 上部の削平が激しく、詳細な構造はわからない

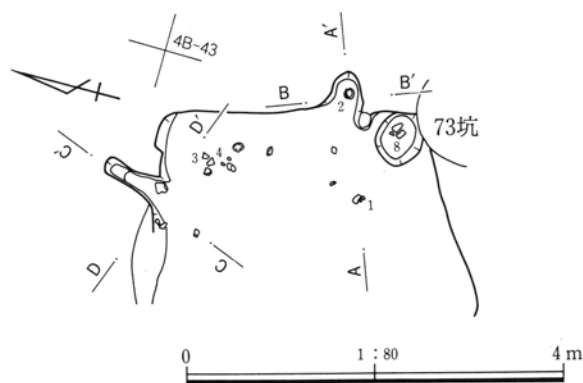


が、東壁の南寄りを壁外に半円形に掘り込んでおり、これで燃烧部の半ばを作ったものだろう。左袖はないが、右袖は地山をわずかに削り残して短く突出させ、割れた円礫を袖石としている。煙道は確認できない。確認長1.5m、燃烧部幅24cm。埋没土には構築材に用いられた青灰色粘土が見られる。掘り方から、住居内の燃烧部をとりまくようにこれが残っている。

重複 52号住居より古い。53号・83号・106号住居より新しい。

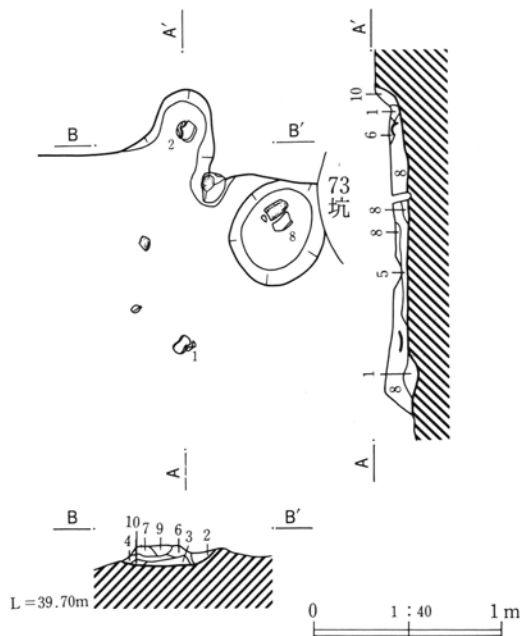
遺物と出土状況 遺物数は少ない。竈内、貯蔵穴内のほか、北東隅近くにまとまる。

その他 平安時代(10世紀中葉)

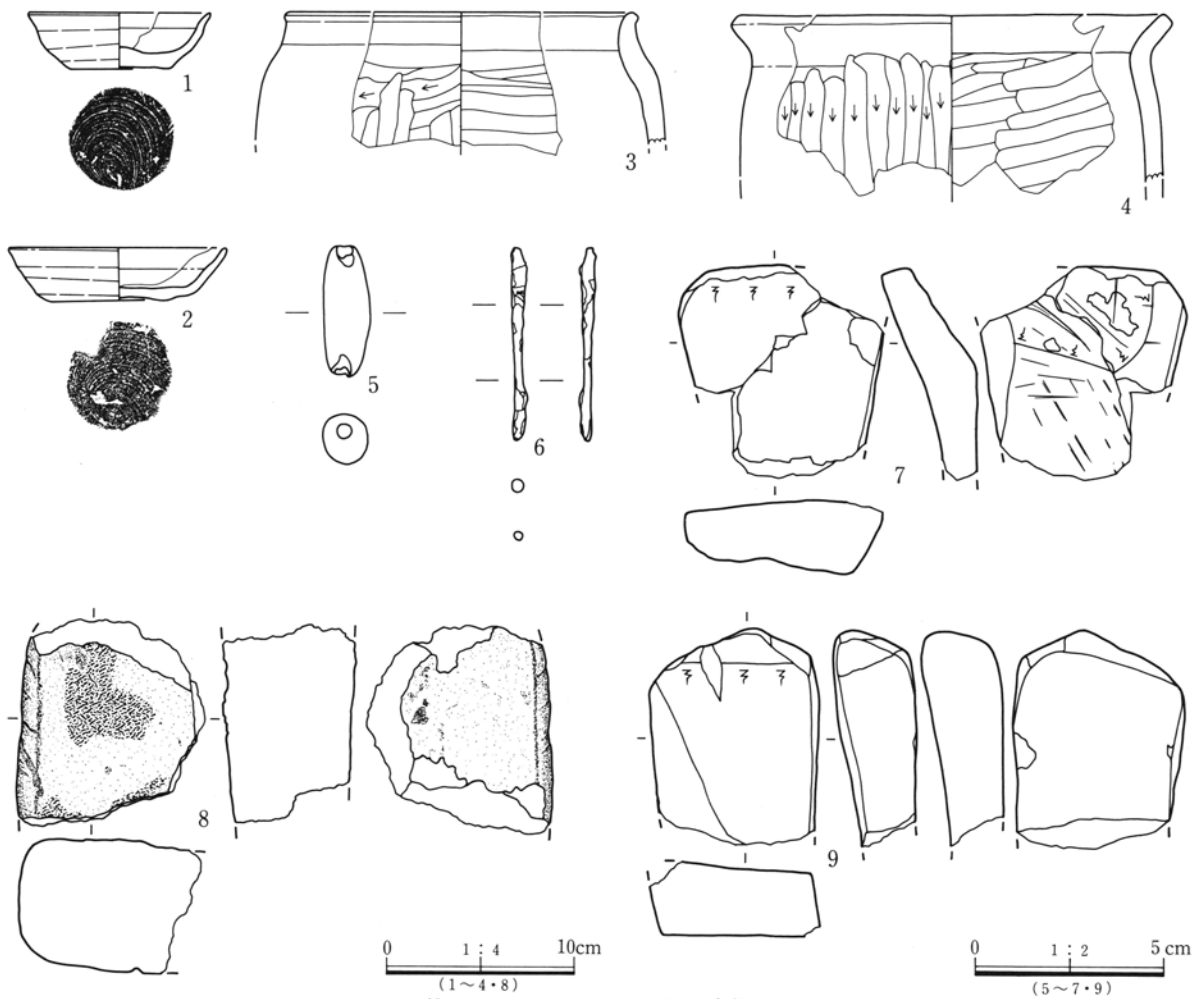


54号住居 竈 A-A' B-B'

- 1 くすんだ灰褐色土 青灰色粘土小塊、焼土粒、炭粒を含み、フカフカした層。
- 2 暗灰褐色土 焼土粒、褐色土小塊を含む。
- 3 赤褐色土 焼土粒、灰を含む。やや砂質。
- 4 赤褐色土 焼土塊主体。灰層、灰褐色土混じり。
- 5 灰褐色土 青灰色粘土小塊、焼土、炭粒を僅かに含む。張り有。
- 6 灰褐色土 焼土粒、青灰色土小塊を含む。
- 7 灰褐色土 焼土塊を多く含む。
- 8 灰褐色土 青灰色粘土小塊を含み、焼土、炭粒を僅かに含む。
- 9 茶褐色土 夾雑物少ない。鉄分沈着あり。
- 10 灰色土 褐色土小塊・焼土塊含む。



第175図 54号住居



第176図 54号住居の出土遺物

83号住居 (第177図 PL55・56 遺物観察表P.378)

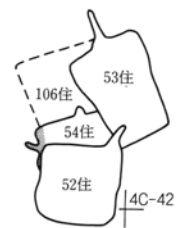
位置 A6区4B-42,43グリッド

形状 竈部のみを確認した。当初は54号住居と同一の住居と想定したが、54号住居にほぼ全体を切られた状態にある。このため、全体の形状を想定することも困難である。

方位 N-17°-E (竈)

柱穴・周溝・貯蔵穴 確認できない。

竈 住居全体の形状が把握できないため確定できないが、北壁の東寄りに相当する部分に位置するものと思われる。壁を細長いU字形に掘り込んで燃烧部を作り、煙道を延ばす。燃烧部と煙道は小さな段を持って接続し、燃烧部端から55cmの所で煙道口に立ち上がる。確認長1.45m、燃烧部幅25cm、煙道口の

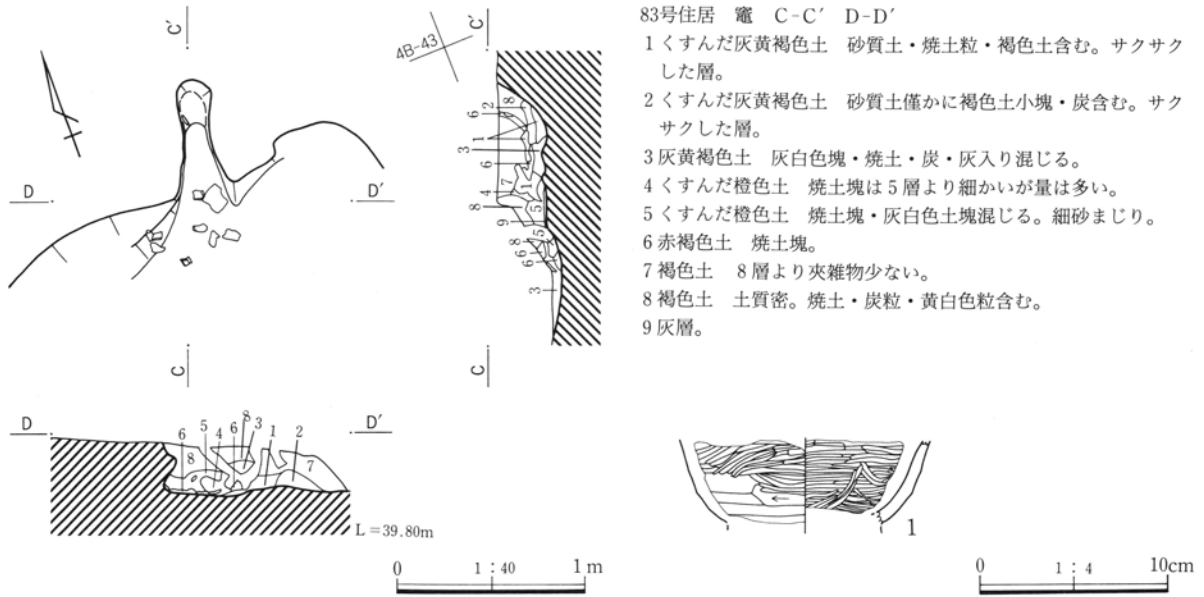


直径14cm。埋没土には構築材に用いられたと考えられる灰白色粘土塊が見られる。

重複 52号・54号住居より古い。

遺物と出土状況 遺物数は少ない。竈の燃烧部内から竈前部にかけて比較的大型の土釜胴部破片が出土している。

その他 平安時代 (10世紀代)



第177図 83号住居と出土遺物

83号住居 竈 C-C' D-D'

- 1 くすんだ灰黄褐色土 砂質土・焼土粒・褐色土含む。サクサクした層。
- 2 くすんだ灰黄褐色土 砂質土僅かに褐色土小塊・炭含む。サクサクした層。
- 3 灰黄褐色土 灰白色塊・焼土・炭・灰入り混じる。
- 4 くすんだ橙色土 焼土塊は5層より細かいが量は多い。
- 5 くすんだ橙色土 焼土塊・灰白色土塊混じる。細砂まじり。
- 6 赤褐色土 焼土塊。
- 7 褐色土 8層より夾雑物少ない。
- 8 褐色土 土質密。焼土・炭粒・黄白色粒含む。
- 9 灰層。

55号住居 (第178図 PL56・150 遺物観察表P.379)

位置 A6区4B,4C-40,41グリッド

形状 東壁がややふくらみを持つため、計測値の上では東西がやや長い。ほぼ方形の平面形を基本とするものと考えられる。南西隅部は調査区外となるため把握できないが、東壁の南北両隅は丸みをもって屈曲する。東南隅はやや開き気味で、西壁が東壁よりやや長くなるのかもしれない。北西隅は丸みが少ない。

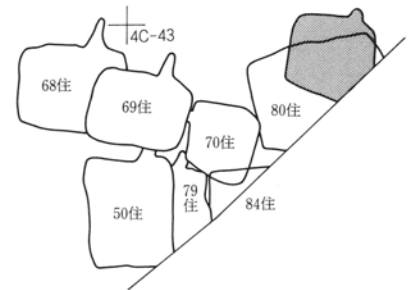
規模 長辺 3.16m 短辺 3.10m

方位 N-114°-E

柱穴・周溝・貯蔵穴 なし。

埋没土 壁際には青灰色粘土や灰白色土塊を含むシルト質のにぶい黄橙色土が堆積する。住居中央部は青灰色粘土塊を多く含み、土器片が混入する灰黄褐色土に覆われる。青灰色粘土は竈構築材に用いられているものである。

確認最大壁高及び壁の状況 13cm。北壁はなだらかに立ち上がり、明瞭な壁がとらえられない。東壁ではわずかに上方に開くが、やや丸みを持って立ち上がり、ほぼ直立する。



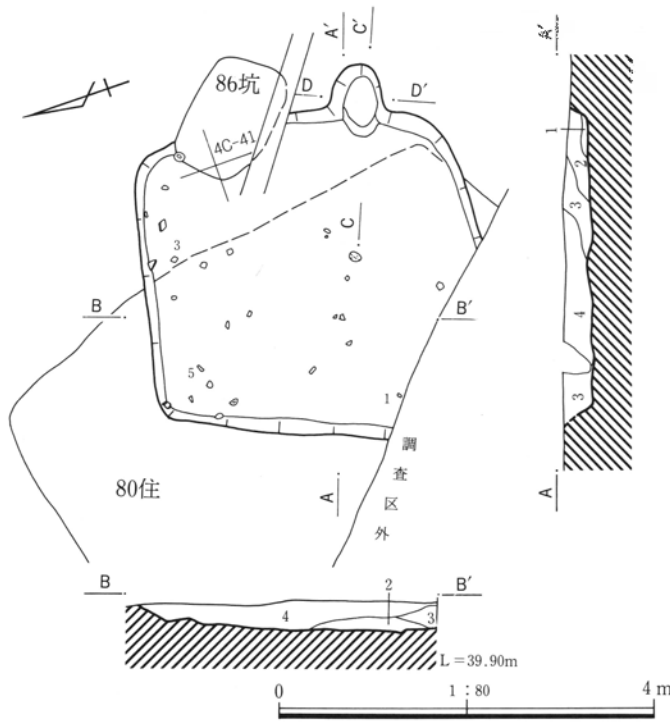
床面の状況及び床下施設等 細かい凹凸があり、全体にやや波打つ。貼り床はない。

竈 東壁の南寄りをU字形に掘り込んで燃焼部を作る。袖はない。確認長0.7m、燃焼部幅42cm。埋没土には構築材に用いられたと考えられる青灰色粘土が見られる。

重複 86号土坑より古い。80号住居より新しい。

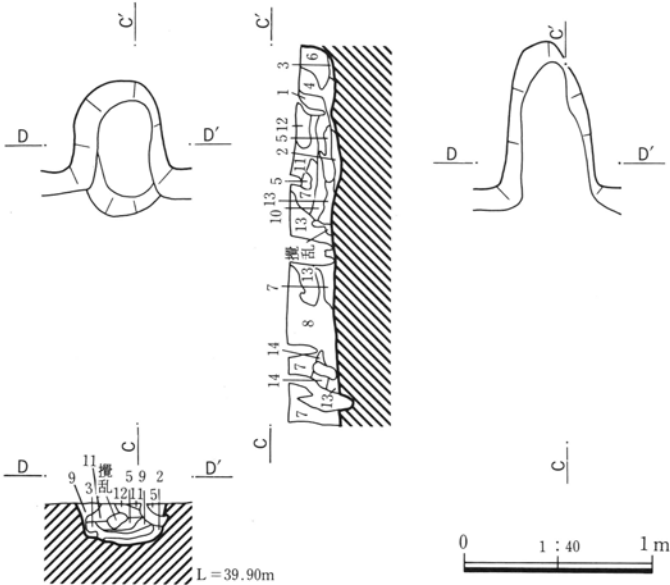
遺物と出土状況 住居内全体に土器破片が散在するが、数量は多くなく、器形をうかがうことのできる資料も少ない。竈の周辺に少なく、西寄りにやや多い傾向がある。管状土錘は北西隅部の床面近くから埋没土から出土している。

その他 平安時代 (10世紀中葉)



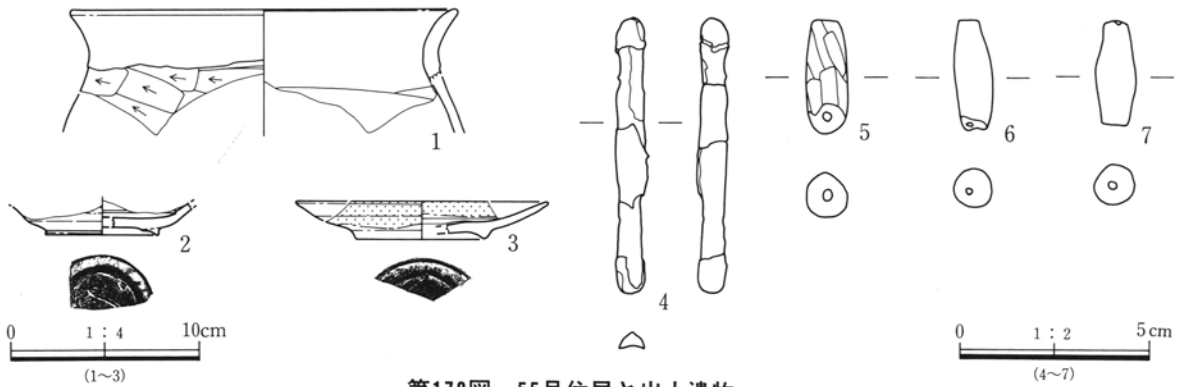
55号住居 A-A' B-B'

- 1 灰褐色土 焼土・炭粒含む。うすく灰層あり。
- 2 灰褐色土 焼土・炭粒含む。粘性強い。
- 3 灰黄褐色土 焼土粒・炭粒を僅かに含み、青灰白色土粒を含む。
- 4 灰黄褐色土 焼土粒・炭粒を含み、青灰白色土粒混じる。



55号住居 竈 C-C' D-D'

- 1 灰白色粘質土 褐色粘土小塊混じり。
- 2 炭化物層。
- 3 暗褐色土 焼土塊・灰層塊との混土。
- 4 褐色土 焼土粒僅かに含む。しまり弱い。
- 5 橙色土 土層。天井崩落土。
- 6 ぶい黄褐色土 灰白色シルト・焼土塊・茶色土塊入り混じる。
- 7 くすんだ黄褐色土 黄灰色粘土小塊・炭粒混じる。
- 8 くすんだ黄褐色土 焼土・炭粒僅かに含む。攪乱土？
- 9 褐色土 焼土小塊多量に含む。灰褐色土との混土。
- 10 褐色土 焼土小塊・炭粒含む。しまり弱い攪乱土。
- 11 褐灰色土 青灰色土に黄褐色土・褐色粘質土塊が混じる。粘性・しまりあり。
- 12 褐色土 土質均質。やや粘性・しまりあり。
- 13 褐灰色土 シルト質。やや灰色で粘性あり。土質均質。
- 14 褐灰色土 シルト質。焼土粒をわずかに含む。



第178図 55号住居と出土遺物

56号住居 (第179~181図 PL56・57・150・151 遺物観察表P.379)

位置 A6区3Y, 4A-40, 41グリッド

形状 方形。隅部はやや丸みをもって屈曲する。

規模 長辺 2.54m 短辺 54m 面積 7.33m²

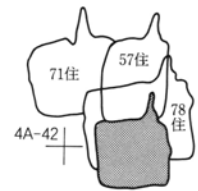
方位 N-89°-E

柱穴・周溝・貯蔵穴 なし。

埋没土 灰白色土の小塊と焼土粒、炭化物粒をわずかに含むシルト質の灰黄褐色土で埋まる。

確認最大壁高及び壁の状況 26cm。わずかに上方に開くがやや丸みを持って立ち上がり、ほぼ直立する。

床面の状況及び床下施設等 わずかに凹凸があるがほぼ平らに仕上げられる。南西隅には南北70cm、東西50cmの大きさの楕円形の平面形を呈する床下土坑がある。床面からの深さは34cmほどある。竈とこの床下土坑を弧状に繋ぐラインで南壁際がやや低くなり、この部分には灰褐色土による貼り床が見られる。また、北壁の下端から12cmの位置から、西壁の北部と平行するように南北に掘られた溝状の窪みがある。



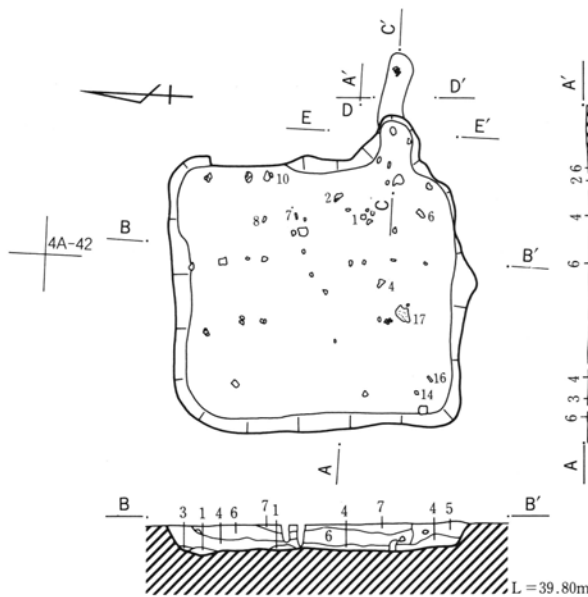
最大幅12cm、長さ1.2m、深さ5cmほどで、間仕切りのな機能を持つものかと考えられる。

竈 東壁の南端近くをU字形に掘り込んで燃焼部を作り煙道を延ばす。袖はない。確認長1.45m、燃焼部は長70cm、幅46cmの長円形で小さな段差をもって煙道へと続く。埋没土には構築材に用いられたと考えられる黄灰色粘質土や青灰色、黄白色粘土の小塊が見られる。

重複 57号住居、78号住居より新しい。

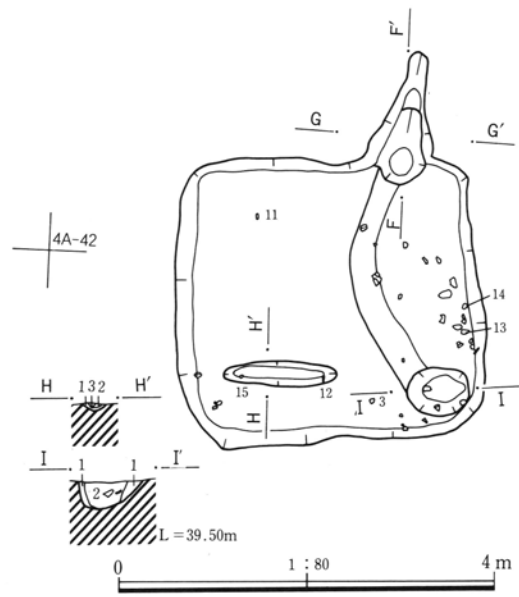
遺物と出土状況 竈とその周辺に集中するほか、住居全体に破片が散在する。鉄生産関連遺物が埋没土中から出土している。

その他 平安時代(10世紀中葉)



56号住居 A-A' B-B'

- 1 灰褐色土 粘性強い、やや黄白色土混じり。
 - 2 黒褐色 灰層、黄灰色シルトと互層に堆積。
 - 3 灰褐色土 炭粒・黄白色シルト含む。
 - 4 灰黄褐色土 灰白色土小塊混じる。焼土粒僅かに含む。
 - 5 におい黄褐色土 焼土・炭粒まじる。サラサラしている。
 - 6 灰白色土 シルト質、鉄分沈着あり。土質均質(洪水層?)
 - 7 におい黄褐色 土質。
- 4・5・6は全体にシルト質。



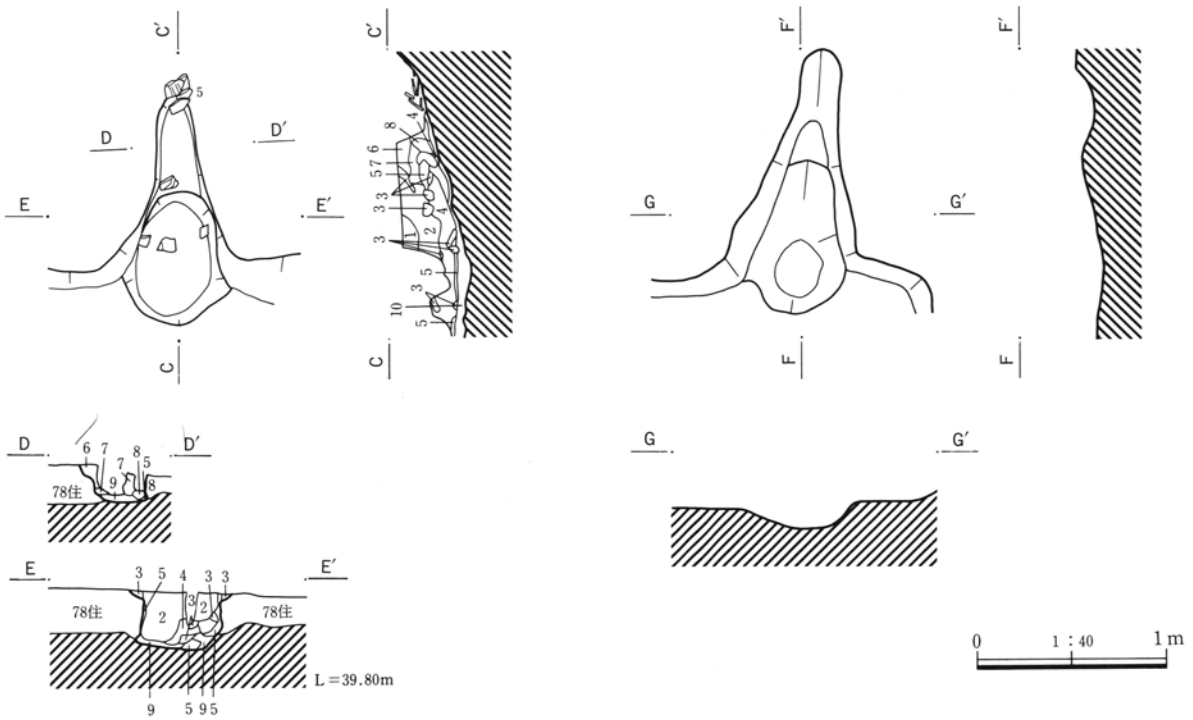
56号住居 間仕切り H-H'

- 1 黄白色シルト
- 2 暗灰褐色土 黄白色粘質土・焼土粒を含む。しまりややあり。
- 3 褐色土

56号住居 床下土坑 I-I'

- 1 暗灰褐色土 黄白色粘質土、焼土粒を含む。しまりあり。
- 2 灰褐色土 混じりはよく見ると灰褐色土や黄白色シルトの小塊が入り混じっている。ややしまり・粘性あり。

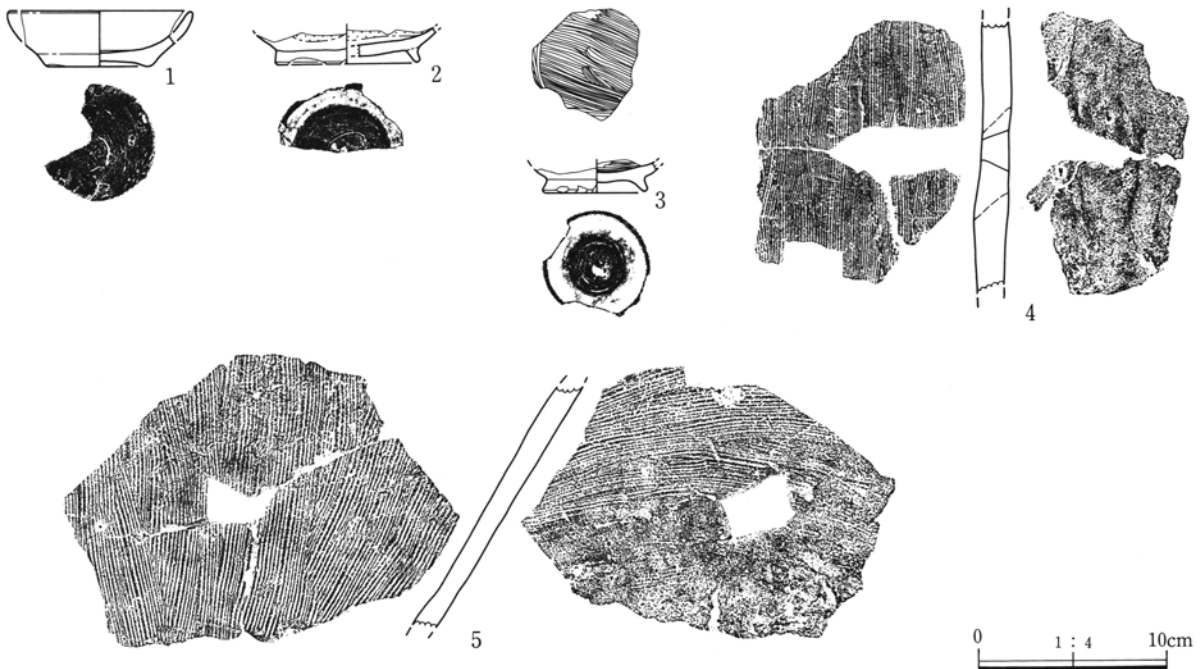
第179図 56号住居



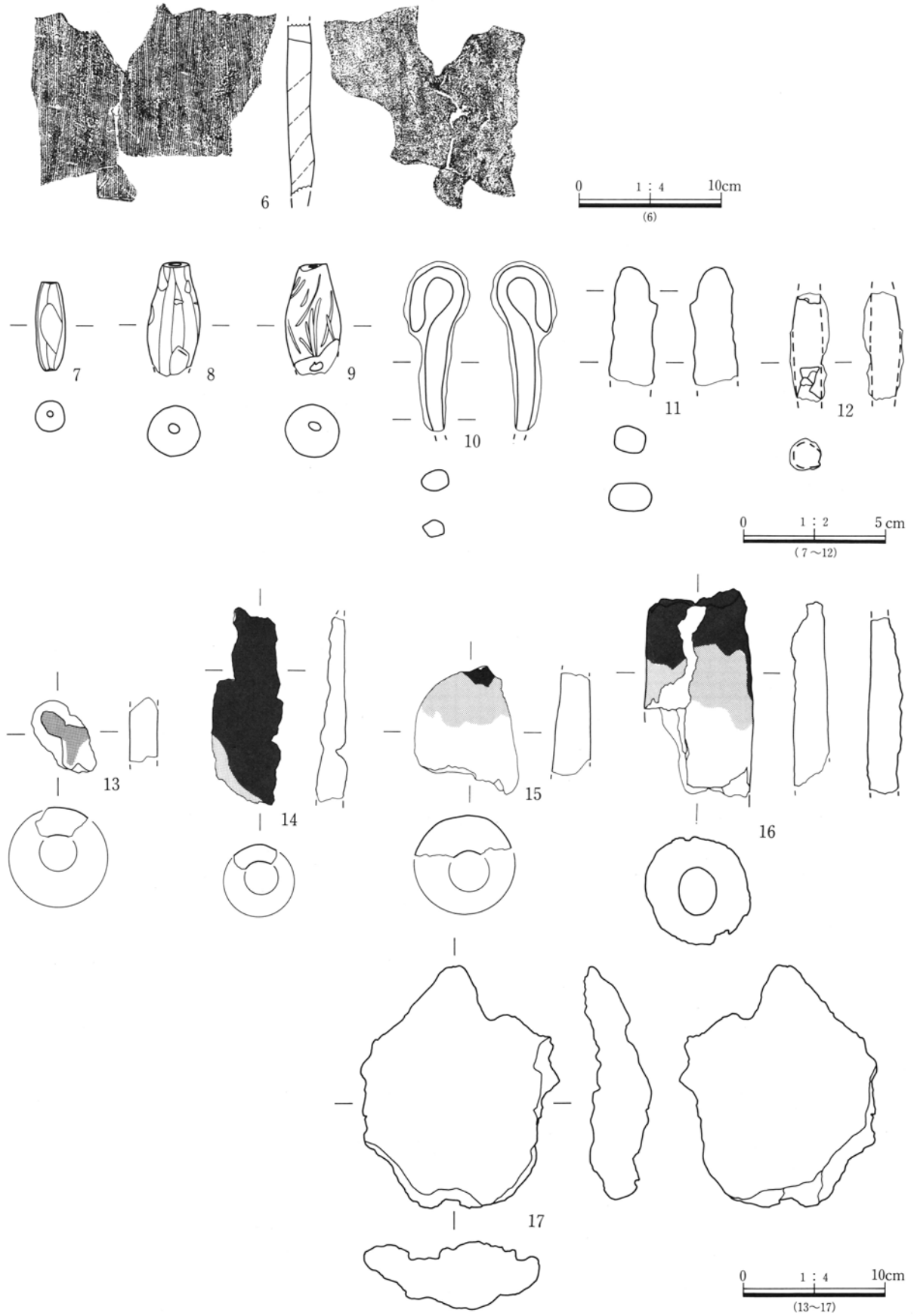
56号住居 竈 C-C' D-D' E-E'

- 1 灰褐色土 黄白色粘土小塊(竈天井構築材)を含む。焼土・炭粒僅かに含む。
- 2 灰褐色土 黄白色粘土塊・柱や焼土塊・粒がマダラに入るが、全体になじんだ土質でサクサクしている。
- 3 黄灰色土 粘質土の塊(竈構築材の崩落)。
- 4 灰褐色土 焼土・炭粒を僅かに含み、黄灰色粘土小塊を含む。

- 5 橙色 焼土主体。
- 6 褐色土 シルト質。僅かに焼土粒・灰白色土粒を含む。
- 7 灰黄褐色土 粘土の乾いたような滑らかな土。焼土粒僅かに含。
- 8 にぶい橙色 青灰色粘土小塊と焼土塊の混土。
- 9 黒灰色土 やや青みのある灰と黒色灰と焼土の混土。しまり弱。
- 10 灰層。



第180図 56号住居竈と出土遺物(1)



第181図 56号住居の出土遺物(2)

57号住居(第182・183図 PL57・151 遺物観察表P.379)

位置 A6区3X,3Y-40,41グリッド

形状 東西に長い縦長長方形の平面形を呈する。西壁は56号住居に切られているため把握できない。北壁はふくらんでいて、丸みを持って東壁へとつながる。西北隅部も丸みを持つようである。南壁は直線的に延びていて、あまり丸みを持たずに東壁へと屈曲する。

規模 長辺 3.34m 短辺 2.20m

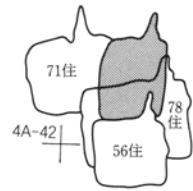
方位 N-94°-E

柱穴・周溝・貯蔵穴 なし。

埋没土 焼土や炭化物粒をわずかに含む均質な、にぶい黄橙色土で一気に埋まる。洪水起源の堆積土と思われる。

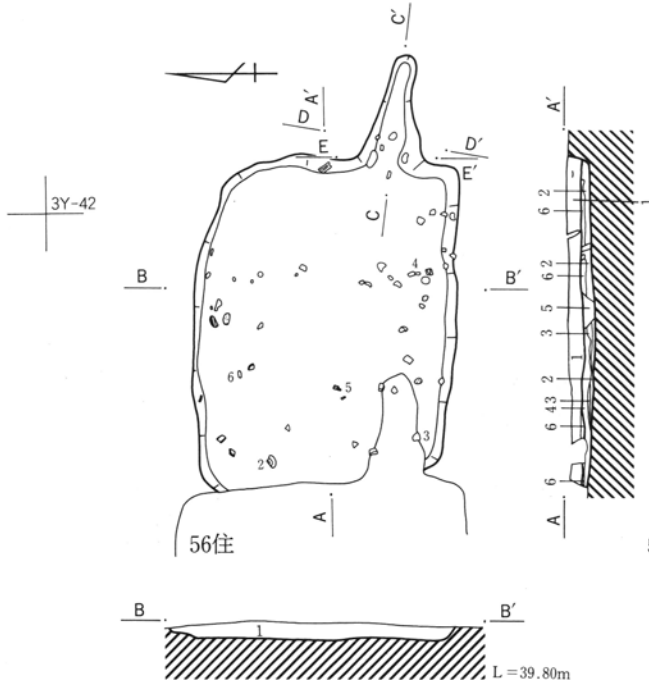
確認最大壁高及び壁の状況 14cm。わずかに上方に開くが、やや丸みを持って立ち上がり、ほぼ直立する。

床面の状況及び床下施設等 わずかに凹凸があるが



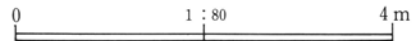
ほぼ平らに仕上げられている。竈前から住居東半の広い範囲には炭化物や焼土が広がっている。焼土、炭化物を少量含む暗褐色～灰褐色土で床面が貼られる。下底近くには褐灰色土と灰白色土の薄い互層が見られる。

竈 東壁の南寄りを壁外にU字形に掘り込んで燃烧部を作り、細長く煙道を延ばす。燃烧部は住居外にある。住居壁との接点に当たる両袖部には比較的大ぶりの円礫が立てられ、燃烧部中央やや奥寄りには支脚として用いられたとみられる円礫が立てられている。確認長1.3m、焚き口幅20cm。埋没土中には構築材に用いられたと考えられる灰褐色、灰白色の粘土が見られる。



57号住居 A-A' B-B'

- 1 にぶい黄橙色土 土質均質。焼土・炭粒僅かに含む(洪水層?)
 - 2 灰黄白色砂質シルト(地山)
 - 3 灰褐色土 灰褐色土と、灰白色土互層に堆積(床面)。
 - 4 褐灰色土(やや黄色)炭粒・焼土粒・僅かに含み、2層地山小塊混じる。
 - 5 灰褐色土 土質均質。焼土・炭粒僅かに含む。
 - 6 暗褐色土 焼土粒混じり、炭・灰が層のように見える。
- 2～6は貼り床土



第182図 57号住居

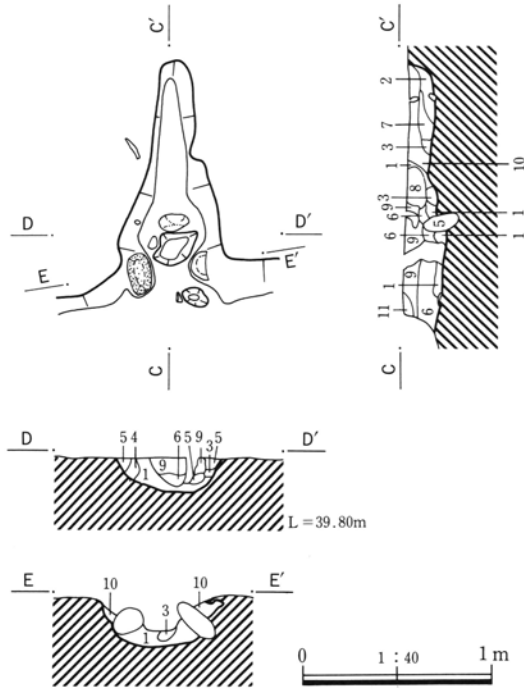
第3章 検出された遺構と遺物

重複 56号住居より古い。71号住居、78号住居より新しい。

遺物と出土状況 直接竈内から出土した遺物は土器細片1点のみであるが、竈周辺や住居全体に破片が

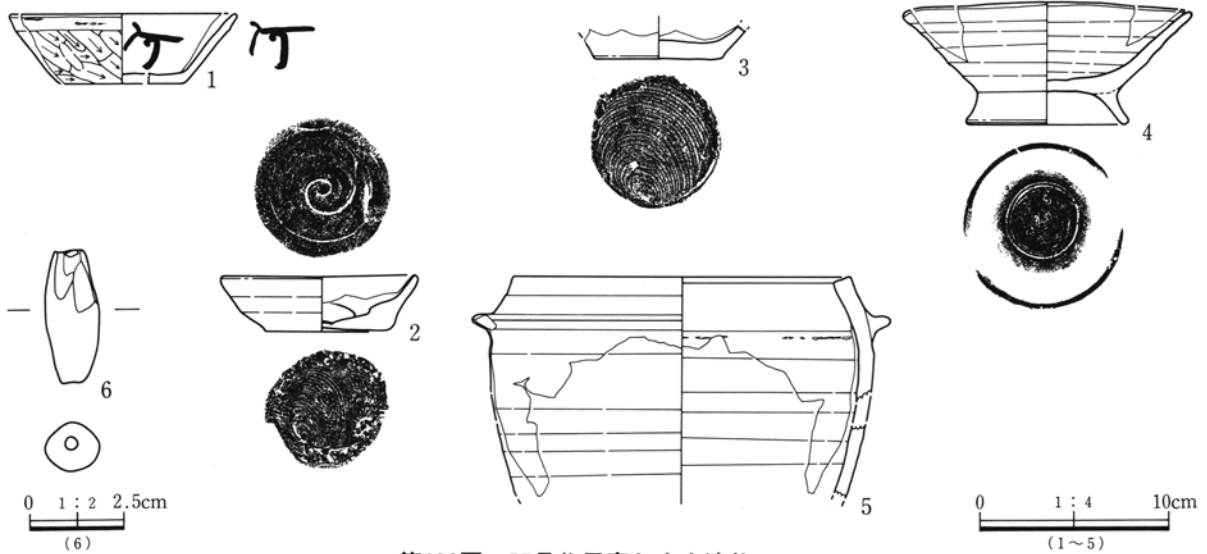
散在する。北壁際中央近くでは棒状礫がまとまって出土している。管状土錘は埋没土中からの出土である。

その他 平安時代（10世紀中葉）



57号住居 竈 C-C' D-D' E-E'

- 1 褐色土 焼土小塊・灰・炭混じり。灰層。
 - 2 灰黄色土 焼土塊・灰褐色小塊混じり。
 - 3 橙色 焼土塊主体。
 - 4 灰黄褐色土 粘土小塊主体・焼土粒僅かに含む。
 - 5 灰黄褐色土 焼土塊混じる。
 - 6 灰褐色土 黄白色シルト小塊・炭粒・焼土粒僅かに含む。
 - 7 灰黄色土 焼土小塊・灰褐色小塊僅かに見られる。
 - 8 明褐色土 灰白色塊・焼土塊・粒含む。(天井構築土)
 - 9 灰黄褐色シルト 焼土・炭粒僅かに含む。(洪水砂?)
 - 10 浅黄色土 シルト・細砂・僅かに焼土粒含む。
 - 11 暗褐色土 軽石粒・炭粒少量含む。
- 2・3・4全体に地山シルト主体、焼けの弱い焼土見られる。



第183図 57号住居竈と出土遺物

58号住居(第184・185図 PL57・58・151 遺物観察表P.379)

位置 A6区4A,4B-38,39グリッド

形状 南部が調査区外に当たるため、全体の形状を確定することができない。北壁は中央近くを部分的に2号炉に切られているが、両隅部は確認でき、規模も確定できる。東壁は南端部が調査区外となるが、竈の位置から見て、その半ば以上を確認できたものと考えられる。本遺跡の他住居の形態から見て、南北に長い横長長方形の平面形を呈するものと思われる。

規模 東壁確認長 4.00m 北壁長 3.10m

方位 N-98°-E

柱穴・周溝・貯蔵穴 なし。

埋没土 壁際に壁の崩落土と見られる、灰白色のシルトや砂粒を含む灰黄色土がわずかに堆積する他は、灰白色シルト塊と灰褐色土塊が混入する灰黄色土で埋没している。

確認最大壁高及び壁の状況 17cm。わずかに上方に

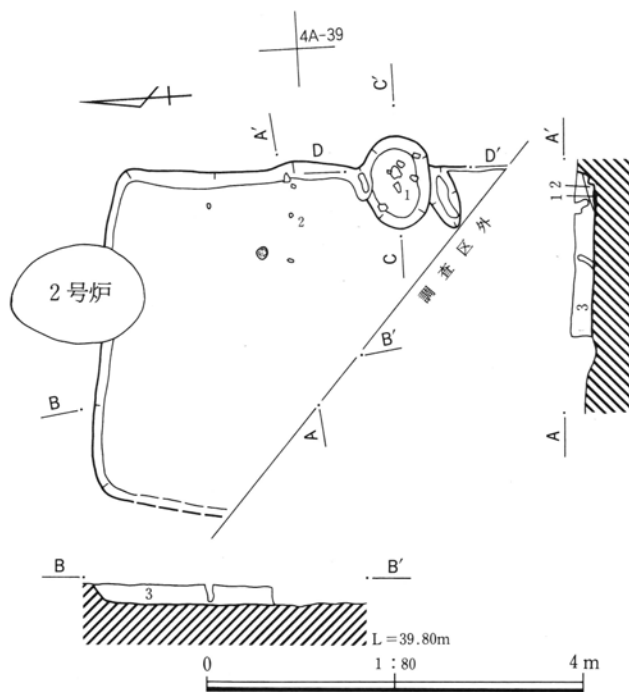
開くが、やや丸みを持って立ち上がり、ほぼ直立する。

床面の状況及び床下施設等 わずかに凹凸があるが、ほぼ平らに仕上げられている。貼り床はない。
竈 東壁の南寄りにあたると思われる部分を、壁外に半円形に掘り込んで燃焼部の一部を作っている。煙道は確認できない。両袖部は地山を短く突出させて掘り残しているが、袖石などは見られない。確認長0.84m、燃焼部は長65cm、幅58cmの楕円形の浅い掘り込みをなし、一部壁外にかかるが主体は壁内に置かれている。埋没土には構築材に用いられたと考えられる褐色の粘土が見られる。

重複 2号炉より古い。

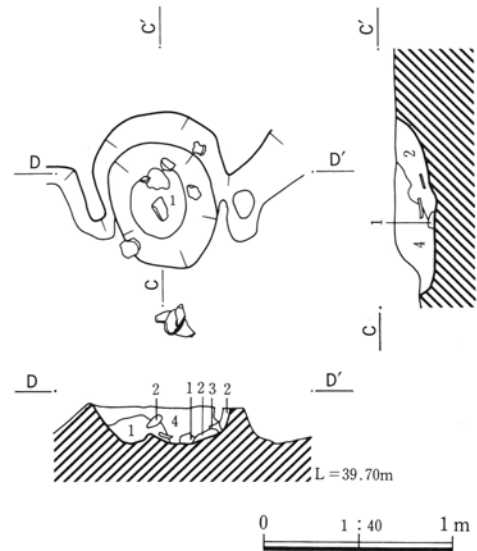
遺物と出土状況 遺物数はごく少なく、図示した甕と坏以外には土器小片や円礫などが少量、竈内及びその周辺と東壁際にに散在するにとどまる。

その他 平安時代(10世紀前葉)



58号住居 A-A' B-B'

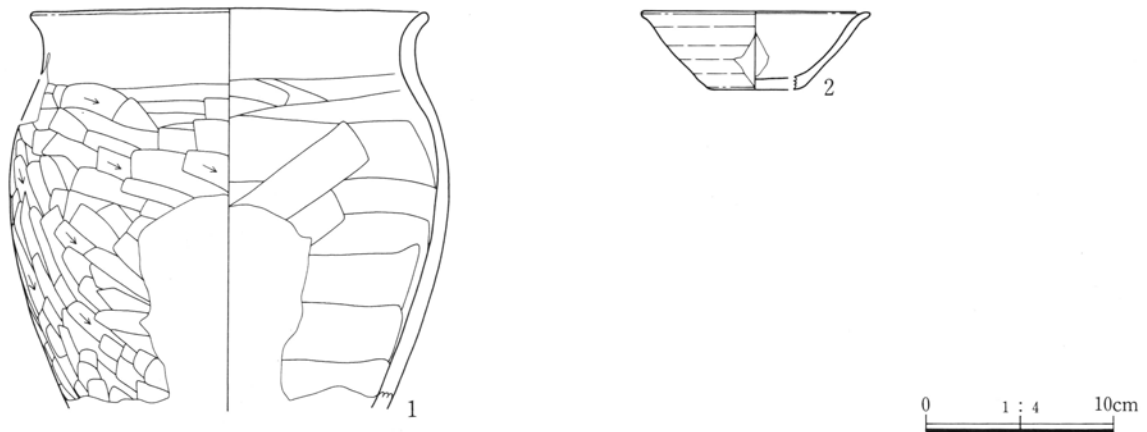
- 1 灰褐色土 粘性強くシルト質土。土質均質。
- 2 灰黄色土 灰白色シルト・細砂含む。壁崩落土。
- 3 灰黄色土 灰白色シルト小塊・灰褐色土小塊が点々と見られる。



58号住居 竈 C-C' D-D'

- 1 褐色土 粘性非常に強く、固くしまる。竈構築土。
- 2 褐色土 灰・焼土塊混じり。褐色粘土主体、天井崩落土。
- 3 灰黄褐色土 灰黄色シルト4層に2層の褐色土塊混じる。
- 4 灰黄褐色土 住居埋土と同じ。

第184図 58号住居



第185図 58号住居の出土遺物

60号住居(第186図 PL58・59・151 遺物観察表P.380)
 位置 A6区3X,3Y-37~39グリッド
 形状 四隅をそれぞれ土坑に切られ、中央部には鉄生産関連遺構が造られている。調査時点ではこれらの土坑や鉄生産関連遺構も含めて60号住居としてとらえていたが、炭化物や遺物の出土層位、接合関係等の検討から、本住居廃絶後に、埋没途中の窪地を利用して鉄生産関連遺構がつけられたものと判断し、四隅の土坑も本住居を切るものとした。

土坑に切られるため、各隅部の形状は把握できない。ほぼ方形の平面形を呈したと思われるが、南北辺が長く、西壁が東壁に比してやや短いため、北壁が傾いて、北西隅は鈍角に開く。南壁部は残存壁高がごく低く、あまり明瞭にとらえられない。

規模 長辺 4.71m 短辺 4.1m

方位 N-93°-E

柱穴・周溝 なし。

埋没土 遺構確認時点で多量の炭化物や焼土が出土している。住居中央部は焼土や炭化物を含む灰黄褐色土が堆積する。しかし、これらは鉄生産関連遺構に関連する堆積土と考えられ、これを除くと本住居本来の堆積土の状況を把握することができない。壁近くにわずかに炭化物を含むシルト質のにぶい黄橙色土が堆積しており、これがわずかに本来の堆積状況を示すものと考えられる。

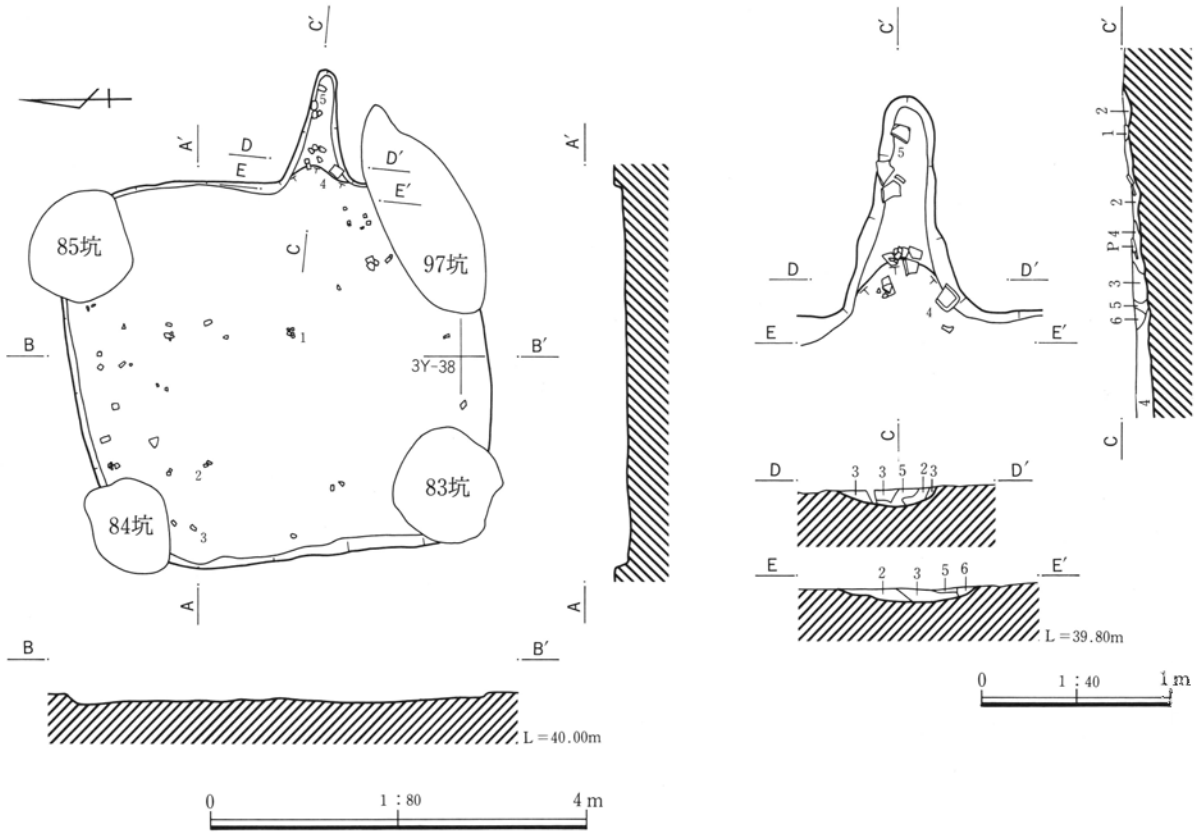
確認最大壁高及び壁の状況 5cm。上面の削平が著しく、壁面の観察はできない。部分的にはわずかに上方に開くが、やや丸みを持って立ち上がり、ほぼ直立する様相が見られる。

床面の状況及び床下施設等 焼土や炭化物が少なく、灰白色土に変化する面を本住居の床面としてとらえた。わずかに凹凸があるがほぼ平らに仕上げられている。貼り床がある。

竈 東壁の南寄りを細長く掘り込んで燃焼部の一部を造り、煙道をのぼしている。燃焼部は奥部が壁外にわずかに張り出すが、主体は住居壁内に置かれている。確認長0.57m、燃焼部幅35cm。埋没土には構築材に用いられたと考えられる灰黄白色の粘土が塊状に見られる。袖は認められないが、燃焼部内と円筒埴輪片が出土していて、本遺跡の他の例から見て、焚き口部に設置されていたものであろう。煙道部からも、比較的大きな円筒埴輪片が出土していて、構築材に用いられたものと見られる。

重複 83号・84号・85号・97号土坑より古い。60号住居上層には鉄生産関連と考えられる遺構がある。遺物と出土状況 竈内及び竈周辺と住居中央北寄りに破片が散在している。

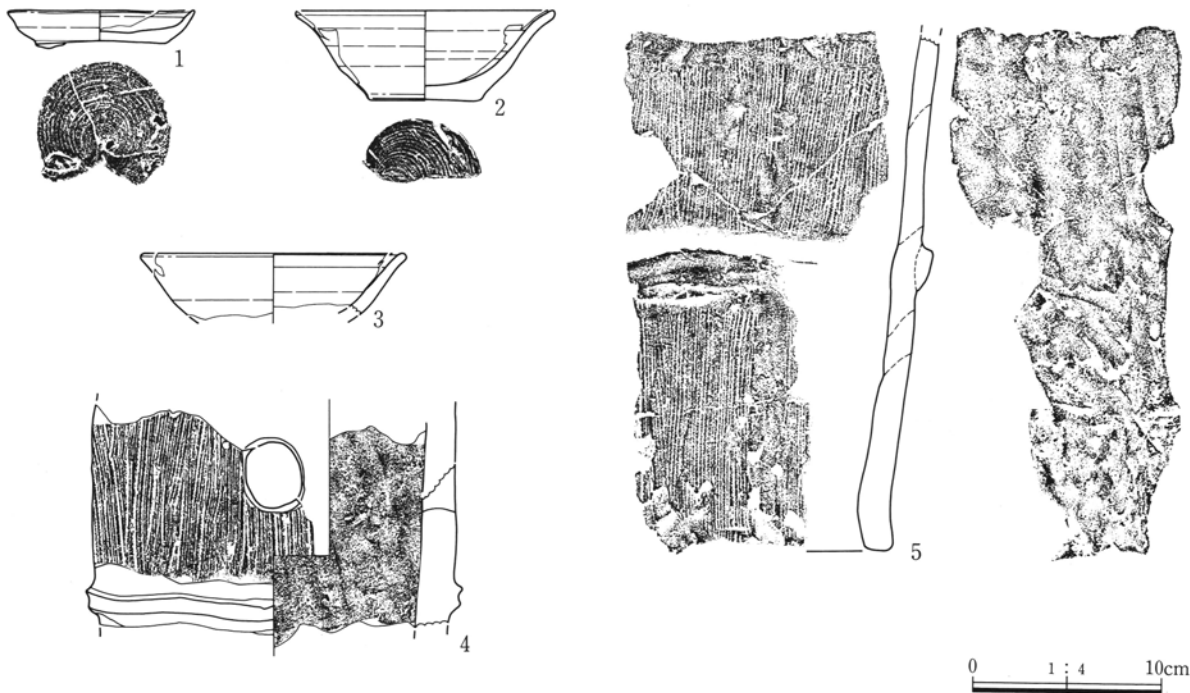
その他 平安時代(10世紀前葉)



60号住居 竈 C-C' D-D' E-E'

- 1 灰褐色粘質土塊主体 ボソボソした層。
- 2 褐灰色土 焼土・炭粒含む。シルト質。
- 3 灰黄褐色土 灰黄色シルト塊・焼土小塊混じり。(天井崩落土)

- 4 黒褐色土 灰・炭化物主体・焼土塊・灰黄白色土塊混じる。ボソボソした層。
- 5 褐色土 焼土粒・炭粒混じり。灰黄白色土塊混じる。
- 6 褐色土 焼土粒・炭粒混じり。灰黄白色土粒含む。



第186図 60号住居と出土遺物

61号住居(第187・188図 PL59・152 遺物観察表P.380)

位置 A6区3W,3X-39,40グリッド

形状 中央部を大きな攪乱に切られているため、北東隅部と南西隅のごく一部を確認したのみに留まるため、全体の形状を確定することができない。北東隅は大きく張り出すように丸みを持ち、東壁中央部が窪むような形状を示す。南西隅は強い屈曲は示さず、丸みを持っているように見える。南北にやや長い横長隅丸長方形ないし横長長方形を基本とする平面形状と考えられる。

規模 南北推定長 3.84m 東西推定長 3.7m

方位 N-84°-E

柱穴・周溝・貯蔵穴 なし。

埋没土 灰白色の粘質土混じりのシルト層状の土で埋まっている。

確認最大壁高及び壁の状況 12cm。わずかに上方に開くが、やや丸みを持って立ち上がり、ほぼ直立する。

る。

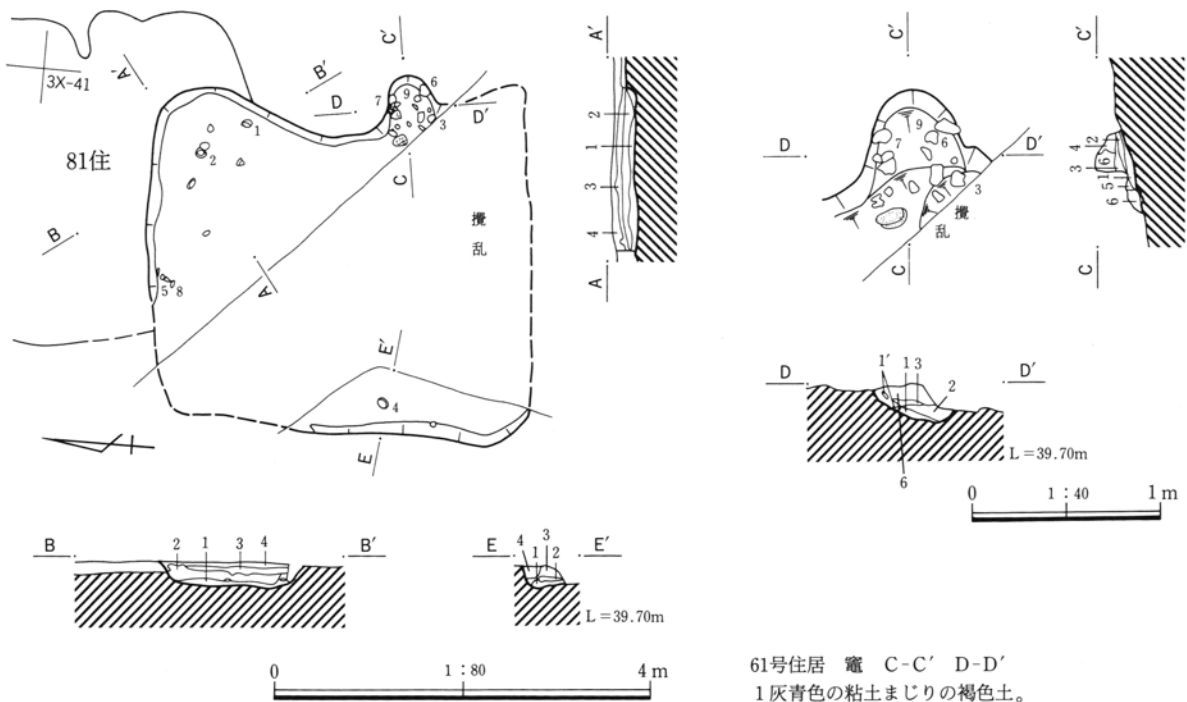
床面の状況及び床下施設等 わずかに凹凸があるがほぼ平らに仕上げられる。貼り床はない。

竈 東壁の南寄り壁外に半円形に掘り込んで、燃焼部の半ばを作っている。煙道は確認できない。左袖部は地山をわずかに突起状に削り残したかに見えるが、壁のライン自体が大きくゆがむため、明確ではない。確認長0.62m、燃焼部幅46cm。埋没土には構築材に用いられたと考えられる青灰色粘土が見られる。

重複 81号住居より新しい。

遺物と出土状況 竈内から坏、羽釜片などが出土しているほか、北壁から北東隅部にかけて土器破片等が点在している。管状土錘は北壁中央部際の床面近くから出土したものである。

その他 平安時代(10世紀後葉)



61号住居 A-A' B-B' E-E'

- 1 ボソボソとした土壌。植物根等によるもの。軟らかい。
- 2 3層と同様の層の中に白色の粘土粒が混入する。
- 3 4層と同様であるが固く引き締まっている。
- 4 灰白色と鉄分色の混入土、シルト層状の土。

61号住居 竈 C-C' D-D'

- 1 灰青色の粘土まじりの褐色土。
- 1' 粘土(青灰色)。
- 2 炭の多い土(灰土)。
- 3 焼土の混じった粘土。
- 4 焼土の混入が6層より多い。
- 5 灰褐色土。
- 6 灰色粘土粒、炭化物、焼土の混じり。

第187図 61号住居